1. 基礎科目

≪教養基礎科目≫

授業科目名	導入演習 Seminar of Introduction				担当教員	各担任
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	演習	関連資格	
	履修の方法	必修	単位数	2		

授業の概要

導入演習は大学生活をうまくスタートさせるための授業であり、学習や生活面で少しでも早く新しい環境に慣れるよう支援していきます。学生相互の交流を促し、授業の仕組み学習の仕方を説明し、仙台大生になっていくための意識化を図っていきます。

授業の一般目標

修学生活の設計を立て、コミュニケーションや学習スキルを身につけ、「高校生」から「大学生」へそして「仙台大生」としての意識を高めていくことができる。

授業の到達目標

■	認知的領域	テーマに合った内容を理解し、具体的内容を説明できる。
■	情意的領域	積極的に参加し、仲間と協力して行うことができる。
■	技能表現的領域	修学生活の計画を作成でき、テーマごとの発表等の技術を身につけ、表現できる。

授業計画(全体)

実施内容により、個別学習、小グループでの演習、クラスでのディベート、クラス合同の授業など、異なった形態で行う。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] ガイダンス [内容]導入演習のねらい、本授業の流れ、時間割の作り方について説明する。 [授業外学習]自らの大学生活について考えてみる。履修登録表を作成する。	⑨	[テーマ] 大学と大学生Ⅱ(1) [内容]「いまどきの大学・いまどきの大学生―ユニヴァーサル化」のテーマで、大学生であることの意味について考える。 [授業外学習]テキストに出てくる漢字や用語について事前に調べておくこと
②	[テーマ] 親睦 [内容] やや詳しい自己紹介、あるいはペアの相手をクラス全員に紹介するなど、新しい仲間とのコミュニケーションを図る。 [授業外学習]新しい仲間と情報交換し、履修登録表を互いに確認してみる。	⑩	[テーマ] 大学と大学生Ⅱ(2) [内容]「大学で身につけるべきこと―学士力」についてグループで話し合うなど、グループ活動を行う。 [授業外学習]テキスト等に出てくる漢字や用語について調べておくこと
③	[テーマ] 仙台大学の英語カリキュラムについて [内容] 平成29年度後期より始まる英語関連科目の新カリキュラムについて、説明を行う。これからの大学での英語の学習について考える。 [授業外学習]大学でどのように英語を学習するかについて自分で考えてみる。	⑪	[テーマ] 大学と大学生Ⅱ(3) [内容]「教員と学生が共に作る大学」について、グループで話し合う。 [授業外学習]授業の復習
④	[テーマ] 英語プレイスメントテスト [内容] 後期科目「総合英語A」のクラス分けのためのプレイスメントテストを行う.。 [授業外学習]自分の英語力について自己評価してみる	⑫	[テーマ] 体育大生とモラル(1) [内容] 体育大生とその他の学生との違い、体育大生のモラルについて考える。 [授業外学習]事前に資料を読んでおくこと
⑤	[テーマ] 修学と生活の設計(1) [内容] 学習方法、生活の仕方などについて先輩の体験談を聞き、または話し合いながら、大学生活の見通しを立てる。 [授業外学習]卒業までの計画や目標について考えてみること	⑬	[テーマ] 体育大生とモラル(2) [内容] 資料に基づきグループ内で意見を出し合いディスカッションする。 [授業外学習]発表資料の作成など、発表準備をする。
⑥	[テーマ] 修学と生活の設計(2) [内容] 卒業までの計画・目標、前期の計画・目標を設計する。 [授業外学習]これまでの生活を振り返り、目標の確認をしてみること	⑭	[テーマ] 体育大生とモラル(3) [内容] プレゼンテーションの仕方、レジュメの作り方を説明し、グループで発表用資料を作成する。 [授業外学習]発表資料の作成など、発表準備をする。
⑦	[テーマ] 大学と大学生Ⅰ [内容] 学科長の講話。仙台大学の歴史も紹介する。 [授業外学習]仙台大学の歴史について自分でも調べておくこと	⑮	[テーマ] 体育大生とモラル(4) [内容] クラス内の発表会を行い、相互に評価する。 [授業外学習]発表資料の作成など、発表準備をする。
⑧	[テーマ] 大学と大学生Ⅱ(0) [内容] 自学・自習支援システムの活用とスポーツテストの実施。 ※ スポーツテストは4週の期間のいずれかで実施 [授業外学習]大学での学習に必要な基礎的事項について確認しておくこと	⑯	[テーマ] まとめ及び後期に向けて [内容] これまでの演習内容をまとめ、必要に応じて内容を補足する。 前期を振り返り、夏休みの過ごし方について各自作成する。 [授業外学習]これまでの資料などに目を通しておくこと

成績評価方法(方針)

出席を重視する。授業の受講態度、授業内レポート、宿題・授業外レポート、作業への取り組みや発表などを参考にして、総合的に成績評価を行う。成績評価のためには3分の2以上の出席が必要である。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				実施しない
授業内レポート	○	○	○	25%
授業外レポート	○	○	○	25%
演習・実技	○	○	○	25%
授業態度	○	○	○	25%
出席	◎	◎	◎	欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない
・授業中は携帯電話をかばんの中にしまうこと
・大学設置基準において、90分の授業に対して、予習・復習を各90分行うことが義務付けられている。シラバスを参考に、積極的に予習・復習を行うこと
・自己学習(時間外学習、ボランティア活動等)の成果や授業中のテーマに関する自らの考えについても積極的に発表することを期待する
・クラスの合同発表の場合は、実施教室等は掲示により周知する
・実施上の都合により、進行順や教材を変更する場合がある

関連科目	キャリアプランニングⅠ、情報処理、学習基礎演習		
教科書	オリエンテーション時に資料を配布	参考書	オリエンテーション時に資料を配布
連絡先	各担任の研究室		

授業科目名	情報処理 Data Processing (L.)				担当教員	内野秀哲・相場徹
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	講義	関連資格	NSCA認定パーソナルトレーナー(体育学科) ストレングス&コンディショニングスペシャリスト(体育学科)
	履修の方法	必修	単位数	2		

授業の概要

コンピュータの基礎的利用方法に関する知識は、必須の素養として養成されるところであり、様々な課題や問題の解決手段としてITを活用することは、広い範囲で効果的となる。本講では、基礎知識の学習と基本操作の実習を通じて、意義と効用について解説する。

授業の一般目標

ICT関連の代表的ツールを活用し、適切に情報の受発信、保存、加工が行えるようになる、また、効率的な処理判断・手段の選択ができるようになる。

授業の到達目標

■	認知的領域	1.ICTに関する基本的な事柄が説明できる。2.状況や対象に応じて処理機能を選択できる。
□	情意的領域	
■	技能表現的領域	適切な手段で情報の獲得、保存・加工ができる。

授業計画(全体)

本講では主に「インターネット関連ツール」と、「日本語処理ツール」、「表計算ツール」、「プレゼンテーションツール」などのアプリケーションの操作実習と平行して、ICTの基礎理論についての概説を行なう。また、課題への取り組み時にはグループワークを採り入れ、対話力の向上とあわせて問題解決力の獲得を目指す。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 情報倫理について [内容] 情報倫理について説明 [授業外学習] オリエンテーション資料を事前によく読んでおくこと	⑨	[テーマ] 講義3:論理式と論理回路① [内容] データ処理の仕組みについて、音声データの処理を例(論理数学)に取り上げて解説を行う [授業外学習]
②	[テーマ] 情報処理の学習について [内容] 授業の進め方と履修方法等や、大学で情報処理と情報化を学ぶことについて概説する [授業外学習] 事前に学内情報端末利用者講習を受けておくこと	⑩	[テーマ] 実習3:表計算アプリケーション2 [内容] 教材アプリケーションにて、グラフ作成や表示の工夫などの応用操作を実習する [授業外学習] 時間内に完成できない場合は、期限内に完成させておくこと
③	[テーマ] タイピング1 [内容] 前半でホームポジションとタッチタイピングについて解説し、後半は目標設定のための擬似タイピング試験を実施する [授業外学習] 自己流にならないよう復習を継続すること	⑪	[テーマ] 講義4:論理式と論理回路② [内容] 論理回路を用いたクイズを検討課題として提示し、論理演算と論理回路について解説する [授業外学習]
④	[テーマ] 講義1:情報処理を考える [内容] 情報と情報伝達についての検討課題を提示し、「情報」について説明する [授業外学習]	⑫	[テーマ] 実習4:プレゼンテーションツール [内容] フォームを用いたコンテンツ作成によってプレゼンテーションツールの操作実習を行う [授業外学習] 時間内に完成できない場合は、期限内に完成させておくこと
⑤	[テーマ] 実習1:ワードプロセッサ [内容] フォームを用いたコンテンツ作成によって、ワードプロセッサの操作実習を行う [授業外学習] 時間内に完成できない場合は、期限内に完成させておくこと	⑬	[テーマ] タイピングのまとめ [内容] 前半で大学生と関係の深いICT関連の社会的事象を紹介(展望を試みる)し、後半で最終の擬似タイピング試験を実施する [授業外学習]
⑥	[テーマ] 講義2:情報について [内容] 情報処理」の根幹領域にある「サイバネティクス」について紹介し、「情報」についてその量と単位を中心に説明する [授業外学習]	⑭	[テーマ] 講義のまとめ [内容] 講義部門のまとめとして、筆記課題を実施する [授業外学習]
⑦	[テーマ] 実習2:表計算アプリケーション1 [内容] 教材アプリケーションにて、情報入力や計算処理などの基本操作を実習する [授業外学習] 時間内に完成できない場合は、期限内に完成させておくこと	⑮	[テーマ] 実習のまとめ [内容] 操作実習部門のまとめとして実技課題を実施する [授業外学習]
⑧	[テーマ] タイピング2 [内容] 前半でキーボード・マウスなどの入力デバイスについて解説し、後半は目標設定のための擬似タイピング試験を実施する [授業外学習] 自己流にならないよう復習を継続すること	⑯	[テーマ] テスト(課題提出) [内容] 全ての課題の期限日として提出を受け付ける [授業外学習]

成績評価方法(方針)

講義部門と実習部門の最終課題(テスト)によって成績を評価する。授業内外のレポートや出席状況などは単位認定のための必要条件とする(不足がある場合には評価対象としない)。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 \ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				対象としない
授業内レポート	◎		◎	100%
授業外レポート			○	欠格条件
演習・実技				加減点要素
授業態度				加減点要素
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・初回の情報倫理の受講は施設の利用条件となるので必須
・講義と実習はクラスごとに交互実施する(座席指定あり)
・講義、実習どちらか一方でも2回以上の欠席で欠格となるので要注意
・期限内に課題が提出できない場合は欠格となるので要注意
・欠席などの各種届出は所定の用紙で授業時間内に提出する(厳守)
・いかなる事情があっても、欠席分の不足は指定された手段で補うこと
・単位認定には、講義/実習/タイピングの全てに出席し、課題に合格する必要がある
・履修期間中のメールチェック、USBメモリの用意等を怠らないこと
・本講義は、2名の担当教員の2クラス同時開講(交互実施)である

関連科目			
教科書	使用しない(プリント教材を使用)	参考書	必要に応じて授業内で提示
連絡先	4体1F 内野研究室 オフィスアワー 火曜14:20-15:50		

授業科目名	学習基礎教養演習 Introduction to Academic Writing				担当教員	各教員
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	演習	関連資格	
	履修の方法	必修	単位数	2		

授業の概要

学習において母語の能力はもっとも重要な要素である。その能力は、大学入学以前にすでに形成されており、大学ではそれを前提として教育が行われるはずであるが、多くの学生にこの能力のさらなる醸成が求められていることは、否定できない事実である。そこで、この授業では、大学教育で日本語を使用する際、もっとも重要な枠組みであるパラグラフの考え方を学び、パラグラフを構成できるようにする。

授業の一般目標

1.語彙の増大(日本語力と語彙は強い相関がある)。2. 格の正しい文を書けるようになること。3. ひとつのパラグラフを構成できるようになること。4. パラグラフを積み重ねて、ひとつの主題あるいは主張に収れんする文章(小論文やレポートなど)を書けるようになる。5. その際同時に、文献検索、引用についても学ぶ。6. 完成したレポートをプレゼンテーションし、相互にディスカッションする。

授業の到達目標

■	認知的領域	パラグラフ構造を理解する。ある主題について分節化の重要性を理解する。
■	情意的領域	課題に熱心に取り組む。
■	技能表現的領域	適切なパラグラフが書けるようになる。

授業計画(全体)

1. 毎回、個々の学生に課題が与えられる。2. 自分以外の学生の解答を、学生同士で閲覧して気づいたこと(評価、コメント)を書く。3. 他の学生が自分の解答について記述した点を参考にしながら、当該の授業で学んだこと、あるいは気づいたことを改めて記入する。4.教員はそれを回収し、添削、評価を加えた上で、次回の授業の際に返却する。5. 語彙の訓練は随時行う。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] この授業の目的の説明、日本語能力試験および破格の文の添削 [内容] 自分の日本語能力を知るために試験を行う(40分)。後半では、破格の文章を添削し、格の正しさにたいする意識を養う。 [授業外学習] 配布されたプリントを読む	⑨	[テーマ] 800字程度の小論文を完成する(3)小論文の完成と評価 [内容] 小論文を完成させ、学生同士で評価する。 [授業外学習] 次回の目標規定文を考えてくる。
②	[テーマ] パラグラフの構造(1)。ひらがな文の漢字かな混じり文への変換 [内容] パラグラフの基本構造を理解し、パラグラフを書く。句読点、段落抜きのすべてひらがなで書かれた文を漢字かな混じり文にする。 [授業外学習] 語彙力にかんする課題をこなす	⑩	[テーマ] 2000字程度のレポートへの準備(1)目標規定文 [内容] 学生個人の関心にしたがって目標規定文を考える(教員が適切と認めるもの)。それに至るための展開を構想する(パラグラフ7つか8つ)。 [授業外学習]
③	[テーマ] パラグラフの構造(2) [内容] パラグラフにおけるtopic sentence, support sentence, concluding sentenceの再確認。paragraph outline の作成方法およびパラグラフへの展開。 [授業外学習] 語彙力にかんする課題をこなす	⑪	[テーマ] 2000字程度のレポートへの準備(2)パラグラフアウトライン [内容] 各パラグラフのトピック・センテンスを考え、パラグラフ・アウトラインを構想する。参考資料(文献検索)とその引用について、教員の助言が必要。 [授業外学習] 語彙力にかんする課題をこなす
④	[テーマ] 分類のパラグラフを書く [内容] パラグラフの代表的なタイプについて以下3回にわたって学習する。今回は、パラグラフの基本である分類について。 [授業外学習] 語彙力にかんする課題をこなす	⑫	[テーマ] 2000字程度のレポートへの準備(3)パラグラフ展開(1) [内容] アウトラインにしたがってパラグラフを書く。その際、アウトラインの変更を余儀なくされる場合もありうる。 [授業外学習] 語彙力にかんする課題をこなす
⑤	[テーマ] 比較・対照のパラグラフを書く [内容] 比較・対照のパラグラフのどちらかを書く。その際、特にトピック・センテンスを何にするかが重要となる。 [授業外学習] 語彙力にかんする課題をこなす	⑬	[テーマ] 2000字程度のレポートへの準備(4)パラグラフ展開(2) [内容] アウトラインにしたがってパラグラフを書く。 [授業外学習]
⑥	[テーマ] 原因・結果のパラグラフを書く [内容] このタイプのパラグラフは、かなり使用頻度が高いので、とくに習熟する必要がある。 [授業外学習] 語彙力にかんする課題をこなす	⑭	[テーマ] 2000字程度のレポートの完成(5)完成し文集を作る [内容] 最終的にレポートを完成し、それを文集としてまとめる。 [授業外学習] 他の学生のレポートを読んでくる。
⑦	[テーマ] 800字程度の小論文のための準備(1)目標規定文の理解とその展開 [内容] 全学生が同じ主題について目標規定文を作成し、それに到達するための3つか4つのパラグラフ展開を考え、パラグラフアウトラインを書く。 [授業外学習] 語彙力にかんする課題をこなす	⑮	[テーマ] レポートを発表し、ディスカッションの上、評価する [内容] レポートの要約を発表し、他の学生はそのレポートについてコメントを加え、それに対して著者も応答する。 [授業外学習]
⑧	[テーマ] 800字程度の小論文のための準備(2)パラグラフを書く [内容] 前回の構成にしたがって、パラグラフ完成させる。その際、書く途上で、目標規定文、アウトラインの修正はありうる。 [授業外学習] 語彙力にかんする課題をこなす	⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]

成績評価方法(方針)

毎回練習を反復する授業なので、授業態度も評価対象となる。その上で、課題にたいする取り組みの姿勢もまた重要である。言うまでもなく、課題にたいする解答、レポートの出来不出来がもっとも成績に関係する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				
授業内レポート	○	○	◎	20%
授業外レポート	○		○	30%
演習・実技				
授業態度	◎			50%
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

1. 3分の1以上休んだ場合には、単位は認定されない(欠席の場合は必ず「欠席届」を提出すること)。
2. パラグラフ・ライティングは、授業のレポート、卒論等を書くとき必要となるので、積極的にこの授業に臨んでほしい。

関連科目	特定の関連科目はないが、ここで学ぶことは、あらゆる科目の基礎となると言う意味で、すべての科目に関連していると言える。		
教科書	プリントを配布する	参考書	授業中に指示する
連絡先	各授業担当者		

授業科目名	総合英語A(含む外国語コミュニケーション) All-Round English A (including Foreign Language Communication)				担当教員	鎌田・菊地博・Parangi・(志子田)
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	演習	関連資格	教員免許
	履修の方法	必修	単位数	1		

授業の概要

英語の4技能(「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」)の総合的能力の向上を目指す。併せて英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上を目指す。プレイスメント・テストを実施する。その結果に基づき5段階の能力別少人数クラス(6クラス)を編成し、各クラスの目標に応じた内容の授業を行なう。毎回確認テストを行い、獲得ポイントは専用コンピュータに各自で入力する。期間内に獲得したポイントの合計によって成績が決まる。

授業の一般目標

英語の4技能(「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」)の総合的能力の向上。
英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上。

授業の到達目標

■	認知的領域	英語の4技能(「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」)の総合的能力の向上。英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上。
□	情意的領域	
□	技能表現的領域	

授業計画(全体)

①毎回小テストを行い，ポイントで評価を行う。授業外のEラーニング(「語学学習システム」)を加点する。②すべてのクラスに，英会話の時間を設ける(各クラス期間中2・3回程度は英会話中心の授業を実施)。③英語の歌やスポーツに関する映画ドラマなどを教材として取り入れる。④アクティブ・ラーニングの手法を取り入れる。

授業テーマとその内容

プレイスメント・テストを実施し、その結果に基づいて5段階の能力別クラス(6クラス)に編成する。各クラスは約20～25名の少人数で構成され、それぞれクラスの目標に応じた内容の授業を行う。「総合英語A」ではレベル1～レベル5の授業を行う。以下に各レベルの目標と授業の事例を挙げる。

レベル1　日常生活の基礎的英単語を修得する
　★アルファベットをA～Zまで順に全て書きましょう
　★数字の1～10、50、百、千、1万、10万、百万を書きましょう
　★1月～12月、月曜日～日曜日を書きましょう
レベル2　スポーツに用いられる英単語を修得する
　★スポーツを題材とした英語記事から英単語を修得する　〈コマ数相当のスポーツ競技数〉→ (毎回確認テスト)
　　ex　次の英単語の日本語訳は?　この単語が使われるスポーツ競技を列挙してください　全て同じ意味で使われていますか?　→ アクティブラーニング
　★スポーツを題材とした日本語記事から英単語を修得する　〈コマ数相当のスポーツ競技数〉→ (毎回確認テスト)
　　ex　次の日本の言葉の英訳は?　この英単語が使われるスポーツ競技を列挙してください　全て同じ単語が使われていますか? → アクティブラーニング
　★スポーツのルールを表す単語の物語
　　ex　「オフサイド」を英語で書きましょう　その意味は?　スポーツ以外の場面での意味は?　その語源は?
　　この言葉を使わない他のスポーツでの類似語は? → アクティブラーニング
レベル3　英検4級レベルの基礎的英文法を修得する
　★スポーツを題材とした英語記事から英検4級レベルの基礎的英文法を修得する　(毎回確認テスト)
　★スポーツを題材とした日本語記事から英検4級レベルの基礎的英文法を修得する　(毎回確認テスト)
レベル4　英検3級レベルの基礎的英文法を修得する
　★スポーツを題材とした英語記事から英検3級レベルの基礎的英文法を修得する　(毎回確認テスト)
　★スポーツを題材とした日本語記事から英検3級レベルの基礎的英文法を修得する　(毎回確認テスト)
レベル5　英検準2級レベルの英文法を修得する (TOEFL iBT 40～56)
　★スポーツを題材とした英語記事から英検準2級レベルの英文法を修得する　(毎回確認テスト)
　★スポーツを題材とした日本語記事から英検準2級レベルの英文法を修得する　(毎回確認テスト)
レベル6　英検2級レベルの英文法を修得する　(TOEFL iBT 57～86)
　★スポーツを題材とした英語記事から英検2級レベルの英文法を修得する　(毎回確認テスト)
　★スポーツを題材とした日本語記事から英検2級レベルの英文法を修得する　(毎回確認テスト)
レベル7　英検準1級レベルの英文法を修得する　(TOEFL iBT 87～109)
　★スポーツを題材とした英語記事から英検準1級レベルの英文法を修得する　(毎回確認テスト)
　★スポーツを題材とした日本語記事から英検準1級レベルの英文法を修得する　(毎回確認テスト)
レベル8　教員採用試験レベルの英文法を修得する (TOEFL iBT 110以上)
　★スポーツを題材とした英語記事から英語教員採用試験レベルの英文法を修得する　(毎回確認テスト)
　★スポーツを題材とした日本語記事から英語教員採用試験レベルの英文法を修得する　(毎回確認テスト)

なお、「総合英語B」ではレベル2～6、「総合英語C」ではレベル3～7、「総合英語D」ではレベル4～8の授業を行う予定である。

[授業外学習の指示等]「語学学習システム」は授業中以外の時間にも課題に取り組むことが出来る。

成績評価方法(方針)

毎回確認テストを行ない、その累積ポイントによって成績が決定される。300ポイント以上:「秀」、200～299ポイント:「優」、150～199ポイント:「良」、100～149ポイント:「可」、100ポイント未満:「不可」。「語学学習システム」での獲得マイルはこの科目のポイントとして加算される。なお、出席回数が2/3以下の場合は成績評価の対象外とする。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				
授業内レポート	◎			
授業外レポート	○			
演習・実技				
授業態度				
出席				

履修上の注意(受講学生に望むこと)

1. 授業には必ず英語辞書を持ってくること。
2. 授業の内容について予習・復習を必ず行うこと。
3. 「語学学習システム」を積極的に活用し、英語力の向上に努めること。
4. 獲得したポイントをコンピュータに入力をしなかった場合やミスをした場合は加算されないので、入力にはくれぐれも注意すること。

関連科目	スポーツに何故英語が必要か 総合英語B、総合英語C、総合英語D		
教科書	特に指定しない	参考書	特に指定しない
連絡先	鎌田研究室A棟512、菊地博研究室A棟515、パランギ研究室A棟511		

授業科目名	英語A(含む外国語コミュニケーション) English A (including Foreign Language Communication)				担当教員	鎌田・Parangi・(志子田)・菊地博
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	演習	関連資格	教員免許
	履修の方法	必修	単位数	2		

授業の概要

英語の4技能(「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」)の総合的能力の向上を目指す。併せて、英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上を目指す。

授業の一般目標

英語の4技能(「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」)の総合的能力の向上。
英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上。
TOEIC400点を到達目標とする。

授業の到達目標

■	認知的領域	英語の4技能(「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」)の総合的能力の向上。英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上。
□	情意的領域	
□	技能表現的領域	

授業計画(全体)

学生の主体性を重視し、自分が向上したい技能を自らその都度選択する形式で授業が進むことになる。各分野ごとに教材が用意されているので、自分の興味・能力・目的に合った教材を選び、それを解く。なお、授業時間内に複数の分野に取り組むことが可能である。取り組んだ「課題」で獲得したポイントは、その分野の入力専用コンピュータに自分で入力する。それぞれの分野で獲得したポイントの合計は毎週ランキング表として掲示される。

授業テーマとその内容

1. この科目の単位を修得するためには複数の技能にわたる教材に取り組まなければならない。
2. この科目は「Grammar (文法)」・「Intensive Reading (精読)」・「Speed Reading (速読)」・「Extensive Reading (内容把握)」・「Writing (作文)」・「Listening (聞き取り)」・「Speaking (会話)」・「Translation (翻訳)」・「Basic English(基礎英語)」の9分野で構成される。
3. それぞれの分野では習熟度に応じた教材ないしはクラス編成が行われている。学生は自分の能力に合せて教材やクラスを選択することになる。なお、「Extensive Reading」は授業中以外の時間にも課題に取り組むことが出来る。
4. 取り組んだ課題は採点され、その分野の獲得ポイントとして認められる。ただし、一回の授業で同じ分野を2度受講することや、同じ分野の同じ課題で重複してポイントを得ることはできない。
5. 授業期間内での合計ポイントが200を超え、「Grammar (文法)」・「Intensive Reading (精読)」・「Speed Reading (速読)」・「Listening (聞き取り)」の4分野でそれぞれ10ポイントを超えれば、この科目の単位を修得できる。
6. 出席回数が2/3以下の場合は成績評価の対象外となるので注意すること。

16回目　ポイント確認日

[授業外学習の指示等]「Extensive Reading」は授業中以外の時間にも課題に取り組むことが出来る。

成績評価方法(方針)

授業期間内での合計ポイントが200を超え、「Grammar」・「Intensive Reading」・「Speed Reading」・「Listening」の4分野でそれぞれ10ポイントを超えれば、単位を修得できる。ポイント数に応じて成績が決定される。600ポイント以上:「秀」、599～400ポイント:「優」、300～399ポイント:「良」、200～299ポイント:「可」、200ポイント未満:「不可」。なお、出席回数が2/3以下の場合は成績評価の対象外とする。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 \ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				
授業内レポート	◎			
授業外レポート	○			
演習・実技				
授業態度				
出席				

履修上の注意(受講学生に望むこと)

1. 教員は基本的に学生の学習を支援する役割に徹することになるので、学習に主体的に取り組むのは学生自身であることを常に認識すること。
2. 学生一人ひとりには、どのように授業を受けるかについて100%の自由が与えられている。一方、その結果については100%自分で責任を取ることが求められている。計画的に授業を受けるようにしてもらいたい。
3. 取り組んでいる「課題」でわからないことがあれば、教員に積極的に質問すること。
4. 獲得したポイントをコンピュータに入力をしなかった場合やミスをした場合は加算されないので、入力にはくれぐれも注意すること。

関連科目	英語B(含む外国語コミュニケーション)		
教科書	特に指定しない	参考書	特に指定しない
連絡先	鎌田研究室A棟512、菊地博研究室A棟515、パランギ研究室A棟511		

授業科目名	英語B（含む外国語コミュニケーション） English B (including Foreign Language Communication)				担当教員	鎌田・Parangi・（志子田）・菊地博
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	演習	関連資格	教員免許
	履修の方法	必修	単位数	2		

授業の概要

英語Aと同様に、英語の4技能（「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」）の総合的能力の向上を目指す。併せて、英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上を目指す。

授業の一般目標

英語の4技能（「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」）の総合的能力の向上。
英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上。
TOEIC450点を到達目標とする。

授業の到達目標

■	認知的領域	英語の4技能（「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」）の総合的能力の向上。英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上。
□	情意的領域	
□	技能表現的領域	

授業計画（全体）

学生の主体性を重視し、自分が向上したい技能を自らその都度選択する形式で授業が進むことになる。各分野ごとに教材が用意されているので、自分の興味・能力・目的に合った教材を選び、それを解く。なお、授業時間内に複数の分野に取り組むことが可能である。取り組んだ「課題」で獲得したポイントは、その分野の入力専用コンピュータに自分で入力する。それぞれの分野で獲得したポイントの合計は毎週ランキング表として掲示される。

授業テーマとその内容

1. この科目の単位を修得するためには複数の技能にわたる教材に取り組まなければならない。
2. この科目は「Grammar（文法）」・「Intensive Reading（精読）」・「Speed Reading（速読）」・「Extensive Reading（内容把握）」・「Writing（作文）」・「Listening（聞き取り）」・「Speaking（会話）」・「Translation（翻訳）」・「Basic English（基礎英語）」の9分野で構成される。
3. それぞれの分野では習熟度に応じた教材ないしはクラス編成が行われている。学生は自分の能力に合せて教材やクラスを選択することになる。なお、「Extensive Reading」は授業中以外の時間にも課題に取り組むことが出来る。
4. 取り組んだ課題は採点され、その分野の獲得ポイントとして認められる。ただし、一回の授業で同じ分野を2度受講することや、同じ分野の同じ課題で重複してポイントを得ることはできない。
5. 授業期間内での合計ポイントが200を超え、「Grammar（文法）」・「Intensive Reading（精読）」・「Speed Reading（速読）」・「Listening（聞き取り）」の4分野でそれぞれ10ポイントを超えれば、この科目の単位を修得できる。
6. 出席回数が2/3以下の場合は成績評価の対象外となるので注意すること。

16回目　ポイント確認日

［授業外学習の指示等］「Extensive Reading」は授業中以外の時間にも課題に取り組むことが出来る。

成績評価方法（方針）

授業期間内での合計ポイントが200を超え、「Grammar」・「Intensive Reading」・「Speed Reading」・「Listening」の4分野でそれぞれ10ポイントを超えれば、単位を修得できる。ポイント数に応じて成績が決定される。600ポイント以上：「秀」、599～400ポイント：「優」、300～399ポイント：「良」、200～299ポイント：「可」、200ポイント未満：「不可」。なお、出席回数が2/3以下の場合は成績評価の対象外とする。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				
授業内レポート	◎			
授業外レポート	○			
演習・実技				
授業態度				
出席				

履修上の注意（受講学生に望むこと）

1．教員は基本的に学生の学習を支援する役割に徹することになるので、学習に主体的に取り組むのは学生自身であることを常に認識すること。
2．学生一人ひとりには、どのように授業を受けるかについて100%の自由が与えられている。一方、その結果については100%自分で責任を取ることが求められている。計画的に授業を受けるようにしてもらいたい。
3．取り組んでいる「課題」でわからないことがあれば、教員に積極的に質問すること。
4．獲得したポイントをコンピュータに入力をしなかった場合やミスをした場合は加算されないので、入力にはくれぐれも注意すること。

関連科目	英語A（含む外国語コミュニケーション）		
教科書	特に指定しない	参考書	特に指定しない
連絡先	鎌田研究室A棟512、菊地博研究室A棟515、パランギ研究室A棟511		

≪教養展開科目≫

(人文分野)

授業科目名	哲学入門 Introduction to Philosophy				担当教員	小松恵一
開講内容	学年・学期	1・2・3・半期	授業方法	講義	関連資格	
	履修の方法	選択必修	単位数	2		

授業の概要

現代に生きる人間が考えるべきテーマが扱われる。日常的に遭遇する諸問題に対処する際に、役に立つであろう道具を提供したい。だから、現実にある具体的な問題を取り上げて、まず始めに、何が問題なのか、つまり問題の意味を理解する。さらにそれを前提として、さまざまな考え方の筋道が可能であることをみずから発見できるようにしたい。

授業の一般目標

1. 考えるということに慣れ、それが実はおもしろいものなのだということを発見する。2. 陳腐な常識に囚われず、自由な発想でものを考える。3. いろいろな考え方の可能性があることを見出す。4. そのさまざまな考え方を見比べたうえで、自らの考え方の方向を見出す。5. 以上の前提として、日本語でものを考える、概念的な思考ができるように訓練する。

授業の到達目標

■	認知的領域	さまざまな考え方を理解できる。
□	情意的領域	
■	技能表現的領域	自分の考えを表現できる。

授業計画(全体)

考える際に概念を用いるが、概念の使用に慣れるために、哲学的発想についてまず説明し、その後、とくに人間と人間の関係をめぐる問題(たとえば、社会に生きることと個人、大人であることの意味、権威主義の問題、コミュニケーションの構造)、さらに、その応用として、体罰をめぐる問題、インフォームド・コンセントという概念の重要性、日本社会とこれからの人間のあり方などを扱う。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 哲学とは何か [内容] 問題を考えるとはどういうことなのか。概念と概念の関係を問うことによって、それを確認する。 [授業外学習]シラバスをよく読む。(1h)	⑨	[テーマ] 社会の中の権威主義 [内容] 縦社会、同調(圧力)などの日本社会を特徴づけるとされる概念を説明し、それらが有意味であるかどうかを考える。 [授業外学習]授業外レポートを書く。(5h)
②	[テーマ] 問いと答えの論理---理解するということ [内容]「理解」というあり方は、どのような構造を持つのかを、「問いと答え」の論理から学ぶ。 [授業外学習] 自分で考えた問いと答えについて、その前提を抜き出す(1h)	⑩	[テーマ] インフォームド・コンセント1 [内容] パターナリズムの問題点、インフォームド・コンセントという考え方の由来。もともとは医療の概念である。 [授業外学習]この概念の市民社会における重要性を整理する(1h)
③	[テーマ]「自己」、「私」とは何者か [内容]「私」や「自己」は関係としてはじめて存在しうることを理解する。 [授業外学習]返却された授業内レポートを振り返る。(1h)	⑪	[テーマ] インフォームド・コンセント2 [内容] しかし、この概念は、市民社会においても基本的である。political correctnessと posttruthについても言及する。 [授業外学習]返却された授業外レポートを振り返る。(1h)
④	[テーマ]「言葉」、「言語」のあり方とコミュニケーション [内容] ことばの機能、ことばの意味について、ヴィットゲンシュタインの考え方を説明する。そこからコミュニケーションについて、その身体性を理解する。 [授業外学習]具体的コミュニケーションを構造化してみる。(1h)	⑫	[テーマ] 人間集団の類型 [内容] 人間が作るさまざまな規模の集団が形成される根拠により、集団を類型化する [授業外学習]具体的な集団について、どの類型に当てはまるか考える(1h)
⑤	[テーマ] コミュニケーションの前提条件 [内容] コミュニケーションが成立するための前提条件を、アーレントとハーバーマスを参考に取り出す。理想的対話状況と非対等的な人間関係。 [授業外学習]返却された授業内レポートを振り返る。(1h)	⑬	[テーマ] 国家という集団 [内容] 国家という人間集団形成の理由とその構造について。さまざまな国家の成り立ちから考える。 [授業外学習]日本の場合、それはどのような集団であるか予習する(1h)
⑥	[テーマ]「子供」と「大人」 [内容]「大人」であることの意味について、カントの考え方を紹介する。 [授業外学習]生活の場面で大人であるような行為の例を考える(1h)	⑭	[テーマ] 国家と個人の関係 [内容] この関係について、二三の学説を紹介する。とくに、問題としての日本という国家の場合、この関係はどうなっているか。 [授業外学習]自分の身の回りから発想して、国家との結びつきを見出す(1h)
⑦	[テーマ] 権威主義的人間と大衆社会 [内容] アドルノらによる権威主義的人間の研究を解説する。Fスケールを紹介する。 [授業外学習]自分のなかにある権威主義を検討してみる(1h)	⑮	[テーマ] 国家と国家の関係とナショナリズム [内容] 国家は別の国家と関係する。近年はグローバル化の動向が不可避的であるが、それと同時にナショナリズムも勃興している。 [授業外学習]試験の準備をする(5h)
⑧	[テーマ] 権威主義の権力関係 [内容] 前回と関係させて、近代社会における権力のあり方をフーコーに基づいて解説する。 [授業外学習]具体例を挙げ、その構造を取り出す(1h)	⑯	[テーマ] 筆記試験 [内容] [授業外学習]

成績評価方法(方針)

最後の筆記試験、40%。授業内レポート、30%。授業外レポート、30%とする。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 \ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎		◎	40%
授業内レポート	◎		◎	30%
授業外レポート	◎		◎	30%
演習・実技				
授業態度				
出席				

履修上の注意(受講学生に望むこと)

授業に出席すること。

関連科目			
教科書	教科書はとくにない。	参考書	参考書は授業内で指示する。
連絡先	小松恵一研究室A棟506、オフィスアワー水曜日4限		

授業科目名	現代の思想 Introduction to Modern Thoughts				担当教員	小松恵一
開講内容	学年・学期	1・2・3半期	授業方法	講義	関連資格	
	履修の方法	選択必修	単位数	2		

授業の概要

スポーツ哲学という分野で取り上げられているトピックを紹介する。そもそもスポーツとは何か、スポーツのルールの位置、ルールと身体のパフォーマンスとの関係、スポーツにおけるコミュニケーション、スポーツへの欲求などを扱う。その際、多くの仙台大学の学生は、スポーツが生活と関心の中心にある人が多いので、自分のスポーツ経験から出発して、それを概念的に一般化することができるようにしたい。

授業の一般目標

ある程度抽象的な概念を使って「考える」ということの意味を理解する。その際、各自のスポーツ体験、発想が概念的思考と無縁ではなく、かえって、それが基盤になってはじめて、各自の体験の意味が明らかとなることを理解する。より具体的には、自分に関係ある問題として、自分の言葉で問題のありかを表現し、スポーツの諸問題について自分の意見を表明できるようになることが目標である。

授業の到達目標

■	認知的領域	ある程度哲学的な言説を理解できるようになる。
□	情意的領域	
■	技能表現的領域	自分の問題として取り扱われる諸問題を自分の言葉で表現できる。

授業計画（全体）

1回目から5回目までは、スポーツの構造にかんする説明。6回目から8回目は、スポーツへの欲求の源泉を扱う。9回目から11回目までは、オリンピック問題を考え、それ以降は、ドーピング問題を現代社会の根本的動向にかかわるものとして把握する。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ]「遊び」、「ゲーム」そして「スポーツ」 [内容] 一見して類似した概念間の異同、それらの間の構造的区別、ならびに関係を問う。 [授業外学習]シラバスをよく読む。(1h)	⑨	[テーマ] 古代ギリシャにおけるオリンピック [内容] エリアスの前記著作と対比して、古代ギリシャにおけるオリンピックの特徴を考察する。 [授業外学習]現代のオリンピックとの違いを整理する(1h)
②	[テーマ] 人間の活動におけるスポーツの位置 [内容] スポーツが人間の活動全体のなかでどのような位置を占め、他の活動とどのような関係にあるかを考える。sport-related complexという概念の提示。 [授業外学習]自分の諸活動とスポーツの関係を考える(1h)	⑩	[テーマ] クーベルタンのオリンピックの理念 [内容] 近代においてオリンピックを再興させたクーベルタンの思想を概括する。その思想は、問題点を含むと同時に現代のオリンピックに問題を提起する。 [授業外学習]クーベルタンについて調べる(1h)
③	[テーマ] スポーツのルールが決めていること [内容] ルール（規則）のあり方をヴィットゲンシュタインの言語ゲームという概念を参考に説明する。 [授業外学習]ヴィットゲンシュタインについて調べる(1h)	⑪	[テーマ] 巨大化したオリンピックの問題点 [内容] ナショナリズム、商業主義、経費などオリンピックはさまざまな問題を抱えている。ここではとくに、ナショナリズムの問題を取り上げる。 [授業外学習]自らのうちにあるナショナリズムについて考える(1h)
④	[テーマ] ルールと身体動作（パフォーマンス） [内容] 前回に引き続いて、ヴィットゲンシュタインからルールの理解と身体動作の関係について説明する。 [授業外学習]自分の身体動作とルールの関係を考える(1h)	⑫	[テーマ] ドーピングと現代社会 [内容] ドーピングは、スポーツに限った問題ではない。身体の改変という大きな流れのなかでドーピング問題を位置づける [授業外学習]身体の改変の事例を考える(1h)
⑤	[テーマ] スポーツとコミュニケーション [内容] コミュニケーションとはたんに言語によるだけではない。そこには、身体が重要な要素としてかかわってくる。それをスポーツを例に説明する。 [授業外学習]スポーツと言語の関係を自分の場合を例に考える(1h)	⑬	[テーマ] ドーピング禁止の理由への批判 [内容] フェアネス、健康、社会通念というドーピング禁止の一般的理由ならびにWADAの考え方を批判的に紹介する。 [授業外学習]ドーピング禁止の一般的理由を整理する(1h)
⑥	[テーマ] 欲求の一般理論 [内容] はじめに欲求の一般理論をミメーシスという概念から説明する。その際準拠するのは、ジラールの欲求理論である。 [授業外学習]自分のスポーツへの欲求の起源を考える(1h)	⑭	[テーマ] ドーピング禁止の真の理由 [内容] ドーピングは禁止されるべきである。それは上記の理由によるというよりも、スポーツの成立条件にかかわっているからこそ禁止されるべきなのである。 [授業外学習]一般的理由と今回の理由とを対比してみる(1h)
⑦	[テーマ] アスリートの欲求 [内容] 上記の理論をアスリートに応用して考えてみる。欲求の源泉とその展開の具体化を試みる。 [授業外学習]自分のスポーツへの欲求の展開を考える(1h)	⑮	[テーマ] スポーツの将来 [内容] これまでの授業全体を振り返り、現代におけるスポーツの限界を見定める。 [授業外学習]試験の準備をする(5h)
⑧	[テーマ] 興奮の探求としてのスポーツ [内容] ノルベルト・エリアスの『文明化の過程』およびダニングとの共著『興奮の探求』を解説する。 [授業外学習]現代において興奮が求められる諸事例を挙げる(1h)	⑯	[テーマ] 筆記試験 [内容] [授業外学習]

成績評価方法（方針）

最後の筆記試験、60%。授業のなかで書いてもらう授業内レポート、40%。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎		◎	60%
授業内レポート	◎		◎	40%
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度				
出席				

履修上の注意（受講学生に望むこと）

出席する。
ノートをとる。
質問する。
私語はダメ。

関連科目			
教科書	教科書はない。	参考書	参考書はその都度指示する
連絡先	小松恵一研究室B506(オフィス・アワー、水曜日4限)		

授業科目名	心理学概論 Introduction to Psychology (L.)				担当教員	平田　忠
開講内容	学年・学期	1・2・3・半期	授業方法	講義	関連資格	社会福祉主事任用資格
	履修の方法	選択必修	単位数	2		

授業の概要

心理学は人の行動について研究する学問です。心理学では、なぜ人はある行動をするのか、どのような条件の下でどのような行動をするのかなど、人の行動の法則性について調べます。この科目では、現代心理学の主な領域をとりあげ、それぞれの領域で人間の行動にはどのような法則性や特徴があるのかについて解説をします。

授業の一般目標

授業で紹介される、いろいろな種類の人の行動について、どのような法則性があるのかについて理解を深めるとともに、それを基礎として、自分自身の行動について、また自分の周りにいる人々の行動について、さらに自分と周りの人との関係について分析的客観的に考える態度を身につけることが目標です。

授業の到達目標

■	認知的領域	さまざまな人の行動の法則性を理解する。
■	情意的領域	人の行動を客観的に考える態度を身につける。
■	技能表現的領域	自分の考えを言葉を用いて適切に表現できる。

授業計画（全体）

心理学の中の五つの領域－感覚・知覚、学習・記憶、動機づけ、人格、社会心理－をとりあげます。これまでの各領域における研究で人の行動についてどのようなことが分かっているのかについて解説します。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 初めに [内容] 授業の内容、進め方についての説明、心理学とはどのような学問か [授業外学習]心理学では何を研究するのかを考えてみる（1時間程度）	⑨	[テーマ] 動機づけ② [内容] 私たちの社会性と関わりを持つ、行動の原因について考える [授業外学習]自分の行動を振り返り、その理由を考えてみる（1時間程度）
②	[テーマ]感覚と知覚① [内容] 自分自身と周囲の世界について知る働きとその仕組みについて考える [授業外学習]各感覚をなくしたら、どの程度を想像してみる（1時間程度）	⑩	[テーマ] 動機づけ③ [内容] 葛藤（複数の動機の競合）と葛藤状態における反応について考える [授業外学習]過去の葛藤場面を考えてみる （1時間程度）
③	[テーマ] 感覚と知覚② [内容] 物理世界と知覚世界の違いを通して、私たちの知覚の特徴について考える [授業外学習]身の回りで経験する錯覚について考えてみる（1時間程度）	⑪	[テーマ] 人格① [内容] 個性とは何か、その人らしさとは何かについて考える [授業外学習]自分の性格的特徴は何かを考えてみる（1時間程度）
④	[テーマ] 感覚と知覚③ [内容] 文字や顔を例にして、いろいろな刺激をまとまりとしてとらえるという知覚の特徴ついて考える [授業外学習]「犬を見て、犬だとわかる」ことを考えてみる（1時間程度）	⑫	[テーマ] 人格② [内容] 人格はどのように形成されるのか（遺伝の要因と環境の要因）について考える [授業外学習]自分と両親兄弟の性格を比較してみる（1時間程度）
⑤	[テーマ] 学習と記憶① [内容] 学習とはどのような働きか、そしてそれが私たちの生活にどのように関わっているかを考える [授業外学習]出生後の行動の変化について考えてみる（1時間程度）	⑬	[テーマ] 人格③ [内容] 精神的な面での個人差を調べる方法（心理検査）について紹介する [授業外学習]精神的特徴の測定について考えてみる（1時間程度）
⑥	[テーマ] 学習と記憶② [内容] 代表的な学習－条件づけ、記銘学習、観察学習－について考える [授業外学習]条件づけの例を身の回りで探してみる（1時間程度）	⑭	[テーマ] 社会心理① [内容] 他の人についての印象はどのように形成されるかについて考える [授業外学習]周囲の人に対する自分の印象を整理してみる （1時間程度）
⑦	[テーマ] 学習と記憶③ [内容] 学習を支える記憶の仕組みとその働きについて考える [授業外学習]完全な記憶喪失の状態について想像してみる（1時間程度）	⑮	[テーマ] 社会心理② [内容] 私たちはどのような人を好きになり、どのような人を友だちとして選ぶのかについて考える [授業外学習]友人との出会いから現在までを考えてみる（1時間程度）
⑧	[テーマ] 動機づけ① [内容] 私たちが生命を維持するために必要な、行動の原因について考える [授業外学習]死なないために必要なことを考えてみる（1時間程度）	⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]

成績評価方法（方針）

レポートを3回課し、その評価（評価割合30％×3）と授業態度（評価割合10%）によって成績を決定します。
レポートは評価・添削をして返却すると同時に、出題の意図や評価の観点等について説明します。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				
授業内レポート				
授業外レポート	◎	◎	◎	90%
演習・実技				
授業態度		◎		10%
出席				

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・単に話を聞くだけでなく、授業でとりあげる事柄を自分に当てはめて、自分の行動、他の人の行動について考えましょう。
・授業中、授業に無関係のことをしてはいけません。（減点の対象）
・授業中、授業の妨げになることはしてはいけません。（減点の対象）

関連科目	なし		
教科書	使用しません	参考書	授業の中で指示します。
連絡先	研究室はA棟502、相談・質問のための時間帯は火曜日と水曜日の昼休みです		

授業科目名	人の心と行動 Human Mind and Behavior(L.)				担当教員	平田　忠
開講内容	学年・学期	1・2・3・半期	授業方法	講義	関連資格	
	履修の方法	選択必修	単位数	2		

授業の概要

私たちが毎日している行動にはいろいろなものがありますが、この授業では「衣」に関わる行動をとりあげます。私たちは日常いろいろなものを身につけて生活しています。いつ、どこで、どのようなものを身につけるかの選択と決定をわたしたちはどのように行っているのでしょうか。そこにはどのような意図や動機が関係しているのでしょうか。このような「衣」にかかわるさまざまなことについて考えてもらいます。

授業の一般目標

「衣」に関わる選択と決定、動機と意図について理解するするとともに、「衣」を通して自分自身の精神的な特徴と行動の傾向、同時に自分の周囲にいる他の人たちの精神的な特徴と行動傾向について意識して考える態度を身につけることが目標になります。

授業の到達目標

■	認知的領域	「衣」に関わる人の行動の法則性を理解する
■	情意的領域	人の行動を客観的分析的に考える態度を身につける
■	技能表現的領域	自分の考えを言葉を用いて適切に表現できる。

授業計画（全体）

「衣」に関わるさまざまな話題（装い、化粧、流行、身体イメージなど）について解説をします。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 初めに [内容] 授業の内容と進め方についての説明、「衣」を考える視点について [授業外学習]自分の「衣」をよく観察してみよう（1時間程度）	⑨	[テーマ] 流行② [内容] 私たちはなぜ流行を追うのかについて考える [授業外学習]流行に対する自分の態度を振り返ってみる（1時間程度）
②	[テーマ] 着衣の動機 [内容] 人はなぜ服を着るのか、また人はいつ頃から服を着るようになったかについて考える [授業外学習]服を着ることの意味について考えてみる（1時間程度）	⑩	[テーマ] 流行③ [内容] 流行における個人差、流行採用と人格との関係について考える [授業外学習]自分の性格と流行との関係について考えてみる（1時間程度）
③	[テーマ] 装い① [内容] 装いが持つ情報伝達という機能について考える [授業外学習]装いで自分が伝えたいことについて考えてみる（1時間程度）	⑪	テーマ] 化粧① [内容] 顔の働きと顔の管理について考える [授業外学習]顔に注目することについて考えてみる（1時間程度）
④	[テーマ] 装い② [内容] 装いによって私たちの対人関係と対人行動はどのように変わるかについて考える [授業外学習]なぜ私たちは着飾るのかを考えてみる（1時間程度）	⑫	テーマ] 化粧② [内容]髪型を含む化粧の機能と精神的な効果について考える [授業外学習]自分の性格と化粧・髪型との関係を考えてみる（1時間程度）
⑤	[テーマ]「衣」の購買① [内容] 数え切れない選択肢の中から、私たちはどのようにして特定の商品を選ぶのか、その過程について考える [授業外学習]自分の購入の決断過程を考えてみる（1時間程度）	⑬	[テーマ] 身体と被服① [内容] 三種類の身体（客観的な身体特徴、主観的イメージ、理想とするイメージ）の関係について考える [授業外学習]自分の身体についての好き嫌いを考えてみる（1時間程度）
⑥	[テーマ]「衣」の購買② [内容] 個人の購買に関する態度を合理性と情緒性という二つの面から考える [授業外学習]商品のどのような特性を重視するかを考えてみる（1時間程度）	⑭	[テーマ] 身体と被服② [内容]被服による身体イメージの操作について考える [授業外学習]被服によるイメージ操作の工夫を考えてみる（1時間程度）
⑦	[テーマ]「衣」の購買③ [内容] 購買に伴う危険性とブランドの影響について考える [授業外学習]買った後の後悔経験を振り返ってみる（1時間程度）	⑮	[テーマ] 被服における逸脱 意図的に、標準的なもの、社会的に望ましい形とは異なる装いを選ぶことについて考える [授業外学習]講義の内容を総合して自分の装いを考えてみる（1時間程度）
⑧	[テーマ] 流行① [内容] 流行とはどのような現象なのかについて考える [授業外学習]今年流行したこと・ものを思い出してみる（1時間程度）	⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]

成績評価方法（方針）

レポートを3回課し、その評価（評価割合30%×3）と授業態度（評価割合10%）によって成績を決定します。
レポートは評価・添削をして返却すると同時に、出題の意図や評価の観点等について説明します。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				
授業内レポート				
授業外レポート	◎	◎	◎	90%
演習・実技				
授業態度		◎		10%
出席				

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・単に話を聞くだけでなく、授業でとりあげる事柄を自分に当てはめて、自分の行動、他の人の行動について考えましょう。
・授業中、授業に無関係のことをしてはいけません。（減点の対象）
・授業中、授業の妨げになることはしてはいけません。（減点の対象）

関連科目	なし		
教科書	使用しません	参考書	授業の中で指示します。
連絡先	研究室はA棟502、相談・質問のための時間帯は火曜日と水曜日の昼休みです		

授業科目名	ことばと人間A Language and Human Being A				担当教員	青沼一民
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格	
	履修の方法	選択必修	単位数	2		

授業の概要

この授業では、「私たちにとってことばとは何か」を主題とし、ことばの成立、その理解について解説する。

授業の一般目標

ことばについて理解することにより、日常的な言語表現に気をくばり、より的確な表現ができるようになる。

授業の到達目標

■	認知的領域	表現に対する意識を高める。
□	情意的領域	
□	技能表現的領域	

授業計画(全体)

本授業は、毎回一つのトピックについて考察し、回を重ねるたびにことばについての多面的な理解ができるよう構成されている。なお、毎回授業の初めに前回の授業内容のふり返りを行う。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業全体の説明 [授業外学習] 配布資料により次週の予習を行う	⑨	[テーマ]「比喩的表現について(2)」 [内容] 比喩的表現の有効性について考える [授業外学習] 配布資料により次週の予習を行う
②	[テーマ]「ことばとは人間にとってなにか」 [内容] 我々にとってことばとは何かを考える。 [授業外学習] 配布資料のより次週の予習を行う	⑩	[テーマ]「比喩的表現について(3)」 [内容] 具体例をもとに比喩的表現の有効性について再度考える [授業外学習] これまでの授業内容を復習する
③	[テーマ]「ことばが意味をもつためには(1)」 [内容] ある表現が成立するための条件について考える [授業外学習] 配布資料により次週の予習を行う	⑪	[テーマ] 振り返り(テスト含む) [内容] 前回までの授業内容について復習する [授業外学習] 配布資料により次週の予習を行う
④	[テーマ]「ことばが意味をもつためには(2)」 [内容] ある表現が成立するための条件について考える [授業外学習] 配布資料により次週の予習を行う	⑫	[テーマ]「わかるとは(1)」 [内容]「わかる」とはどのようなことなのかについて考える [授業外学習] 配布資料により次週の予習を行う
⑤	[テーマ]「概念について(1)」 [内容] ことばと概念の関係について考える [授業外学習] これまでの授業内容を復習する	⑬	[テーマ]「わかるとは(2)」 [内容] 前回に続き「わかる」とはどのようなことなのかについて考える [授業外学習] 配布資料により次週の予習を行う
⑥	[テーマ] 振り返り(テスト含む) [内容] 前回までの授業内容について復習する [授業外学習] 配布資料により次週の予習を行う	⑭	[テーマ]「わかるとは(3)」 [内容]前回に続き「わかる」とはどのようなことなのかについて考える [授業外学習] これまでの授業内容を復習する
⑦	[テーマ]「概念について(2)」 [内容] 概念の形成について考える [授業外学習] 配布資料により次週の予習を行う	⑮	[テーマ] 振り返り(テスト含む) [内容] 前回までの授業内容について復習する [授業外学習]
⑧	[テーマ]「比喩的表現について(1)」 [内容] 比喩的表現の構造について考える [授業外学習] 配布資料により次週の予習を行う	⑯	[テーマ] 最終試験 [内容] [授業外学習]

成績評価方法(方針)

授業内レポートおよびテストの結果で評価する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎			80%
授業内レポート	◎			20%
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度				
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・学則通り全授業の2/3以上の出席が必要。
・授業環境を著しく乱す行為が再度に亘った場合は受講停止とする。

関連科目			
教科書	特に使わない	参考書	必要に応じて指示する
連絡先	A棟3階研究室(313)		

授業科目名	ことばと人間 B Language and Human Being B				担当教員	鎌田　幸雄
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	講義	関連資格	
	履修の方法	選択必修	単位数	2		

授業の概要

人間にとって「ことば」とは如何なるものであるのかについて、言語学的観点からの概説を試みる。言語学にはその研究目標により様々な立場があるが、本講義では、特に一つの立場に偏ることなく、言語学全般に関する基本的概念をわかりやすく解説する。言語が誰にとっても身近で重要なものであることを認識する機会としたい。

授業の一般目標

言語学全般に関する基本的概念を理解する。
身近な言語表現を言語学的立場から分析することができる。

授業の到達目標

■	認知的領域	言語学全般に関する基本的概念を理解する。
■	情意的領域	身近な言語表現を言語学的立場から分析することができる。
□	技能表現的領域	

授業計画（全体）

特定のテキストは使用せず、毎回テーマに沿ったプリントを配布する。講義全体の流れを説明すると、前半では「ことば」の内部構造について「音声」・「語」・「文」・「意味」の4つの側面に分けて考察する。後半では、「ことば」と「社会」との関係について様々な観点から検討する。最後にそれまでの講義内容を前提とし、日本語の歴史について概観する。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] ことばの様々な研究法 [内容] ことばを研究する際の代表的な研究方法について概説する。 [授業外学習] 講義の内容を復習する	⑨	[テーマ] ことばと社会(2) 言語の多様性 [内容] 言語接触、ピジンとクリオール、多言語社会とその類型、多言語社会とその歴史的起源、単一言語社会等 [授業外学習] 講義の内容を復習する
②	[テーマ] ことばの構造(1) 言語音の構造 [内容] ことばの音声的構造を概説する。音声器官、音素、異音、音声学と音韻論の立場の違い等。 [授業外学習] 講義の内容を復習する	⑩	[テーマ] ことばと社会(3) 公用語とは何か [内容] 書きことばと話しことば、方言と標準語、国家と標準語、言語教育、国際語等 [授業外学習] 講義の内容を復習する
③	[テーマ] ことばの構造(2) 語の構造 [内容] ことばの重要な単位である「語」について、形態論的分析法を概説する。語類、形態素、語形成、語形変化、文法範疇等。 [授業外学習] 講義の内容を復習する	⑪	[テーマ] ことばと社会(4) 英語史概観 [内容] 被征服言語／征服言語としての英語、英国の階級社会と英語、米国フェミニズム運動と英語等。 [授業外学習] 講義の内容を復習する
④	[テーマ] ことばの構造(3) 文の構造 [内容] 文の構造の分析法について概説する。階層構造、直接構成素、句構造、語順、類型論等。 [授業外学習] 講義の内容を復習する	⑫	[テーマ] ことばの不思議 [内容] 同名のドキュメンタリーを鑑賞し、その感想を提出する。 [授業外学習] ことばとは何かを考える
⑤	[テーマ] ことばの構造(4) 意味の構造 [内容] ことばの意味的側面についてその分析法を概説する。意味の意味、意味の場、意味の関係等。 [授業外学習] 講義の内容を復習する	⑬	[テーマ] 日本語の歴史(1) 日本語の起源・系統 [内容] 日本語の起源・系統についての諸説を概観する。同祖論と重層論等 [授業外学習] 講義の内容を復習する
⑥	[テーマ] ことばとその外部(1) 固有名について [内容] 言語とその外部の接点にあたる「固有名」について考える。人名：人名の多様性、英米人の人名等 [授業外学習] 講義の内容を復習する	⑭	[テーマ] 日本語の歴史(2) 上代から近世まで [内容] 上代から近世までの日本語の歴史を概観する。日本語の表記の歴史、借用語・翻訳語等 [授業外学習] 講義の内容を復習する
⑦	[テーマ] ことばとその外部(2) 固有名について [内容] 言語とその外部の接点にあたる「固有名」について考える。地名：地名の命名法、英米の地名等 [授業外学習] 講義の内容を復習する	⑮	[テーマ] 日本語の歴史(3) 明治維新以降 [内容] 明治維新以降の日本語の歴史を概観する。言文一致運動、植民地の言語政策、戦後の言語政策等 [授業外学習] 講義の内容を復習する
⑧	[テーマ] ことばと社会(1) 言語の社会的機能 [内容] 文化としての言語、言語の恣意性、サピア・ウォーフの仮説、アイディンティティーとしての言語、言語と民族等 [授業外学習] 講義の内容を復習する	⑯	[テーマ] 期　末　試　験 [内容] [授業外学習]

成績評価方法（方針）

期末試験（80%）と出席を含む積極的授業参加（20%）にもとづき、総合的に評価する。出席回数が2/3以下の場合は成績評価の対象外とする。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎	◎		80%
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度		◎		20%
出席				

履修上の注意（受講学生に望むこと）

この講義の目的は、普段何気なく無意識的に使用している「ことば」について、一歩下がった位置から客観的・意識的に考察することによって、「ことば」の重要性や奥の深さについて考える機会を与えることにあります。この講義を受講することによってある特定の言語（例えば英語や日本語）の技能が向上するものと誤解しないようにしてください。

関連科目	ことばと人間 A		
教科書	特に指定しない	参考書	講義の際にその都度紹介します
連絡先	鎌田研究室A棟512		

授業科目名	ことばと人間B Language and Human Being B				担当教員	菊地　博/ジェリー　バランギ
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格	
	履修の方法	選択必修	単位数	2		

授業の概要

In this class, students think about what is language for human being. For this purpose, this class will examine basic topics of linguistics to lead students to the deeper understanding of language. All lessons are given in English.

授業の一般目標

Students can acquire basic knowledges of linguistics and, based on them, think about familiar expressions from the linguistic point of view. In addition, students can make a brief summary of their opinions in English.

授業の到達目標

■	認知的領域	To acquire basic knowledges of linguistics.
■	情意的領域	To attend the class steadily and talk about topics voluntarily.
■	技能表現的領域	To talk and explain about topics and make a brief summary of them in English.

授業計画（全体）

One topic is treated per class. Students discuss it each other and make a summary of, and give a presentation of it. Through this learning, students are expected to deepen their understanding of language.

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] Orientation [内容] Explanation of the classes. [授業外学習]Preparation	⑨	[テーマ] Sign language [内容] Popular fallacies about sigh language; the development and use of signs by the deaf. [授業外学習]]Preparation.
②	[テーマ]The prescriptive tradition [内容]Popular notions of linguistic authority and correctness; purism and language change; the role of linguistic description. [授業外学習]Preparation.	⑩	[テーマ]Sign language structure [内容]The ways signs are used to convey grammatical contrasts; American Sign Language. [授業外学習]Preparation.
③	[テーマ] The equality of language [内容] Myths about primitive languages and language superiority. [授業外学習]Preparation.	⑪	[テーマ] Types of sign language [内容]The range of contrived sign languages; finger spelling, cued speech, and other systems [授業外学習]Preparation.
④	[テーマ] The magic of language [内容]Linguistic superstitions and verbal taboos; the mystical power of proper names. [授業外学習]Preparation.	⑫	[テーマ] The first year [内容]The development of infant vocalization; early speech perception and interaction. [授業外学習]Preparation.
⑤	[テーマ] Physical identity [内容] The relationship between language and age, sex, physical type and physical condition; voiceprints; male vs female speech. [授業外学習]Preparation.	⑬	[テーマ] How many languages? [内容] Identifying, counting, and classifying the languages of the world. [授業外学習]Preparation.
⑥	[テーマ] Ethnic and national identity [内容]Language, ethnicity, and nationalism; the problem of minority languages and dialects. [授業外学習]Preparation.	⑭	[テーマ]The origins of language [内容] Myths and experiments about the origins of language; wolf children; humans and primates; the evidence of paleontology. [授業外学習]Preparation.
⑦	[テーマ] Social identity [内容] Language and social stratification, class, status, role, solidarity, and distance; the problem of sexism; borrowings. [授業外学習]Preparation.	⑮	[テーマ] Reflection [内容] Review of the classes. Write the summary of the classes. [授業外学習]
⑧	[テーマ]Grammar [内容] Syntax and morphology; the structure of words, phrases, clauses, and sentences. [授業外学習]Preparation.	⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]

成績評価方法（方針）

participation/attitude 50%　presentation 30%　report 20%

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				
授業内レポート	◎		◎	20%
授業外レポート				
演習・実技	◎	◎	◎	40%
授業態度		◎		40%
出席		◎		

履修上の注意（受講学生に望むこと）

Students must attend more than 2/3 of all classes and must score at least 60% of their total marks(140 points). The maximum number of students is 10.

関連科目	Language and Human Being A		
教科書		参考書	English-English dictionary
連絡先	菊地研究室　A515		

（社会分野）

授業科目名	社会学概論 Introduction to Sociology (L.)				担当教員	三谷高史
開講内容	学年・学期	1・2・3半期	授業方法	講義	関連資格	介護福祉士・社会福祉士
	履修の方法	選択必修	単位数	2		

授業の概要

社会における様々な物事を読み解く「道具」としての社会学について解説する。我々が社会生活を営む上で「当たり前」と感じている社会的通念や制度は、本当に「当たり前」のものなのだろうか？その「当たり前」を疑うために、過去の偉人たちが残した概念を解説し、物事の本質を見抜く目を養う。

授業の一般目標

社会における「当たり前」を疑う能力を身につける。「当たり前」を疑う能力を身につけることで、現在生きている社会が抱えている諸問題をより鮮明に理解できるようになる。

授業の到達目標

■	認知的領域	社会学的な諸概念を理解する
■	情意的領域	社会における「当たり前」を疑う態度を身につける
□	技能表現的領域	

授業計画（全体）

毎時間1つずつ、社会で「当たり前」と思われている通念を提示し、それを疑うための社会学的概念を解説する。毎回穴埋め式のプリントを配布するので、その穴を埋め、メモ欄に重要事項を書き取る形で講義を受けてほしい。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ]オリエンテーション [内容] 授業の目標と進め方、成績評価方法、最終試験課題の概要などの説明 [授業外学習]社会問題にかんする新聞・雑誌記事を探し、読む（90分）	⑨	[テーマ] 中間試験 [内容] 選択式・記述式の試験を行なう [授業外学習]事前に中間試験に向けて講義内容を復習する（300分）
②	[テーマ] 社会学的方法論 [内容] 社会学が、社会を分析するためにどのような研究方法を採用してきたかを解説する。 [授業外学習]本日の講義について復習をする（90分）	⑩	[テーマ] ジェンダーとスポーツ文化 [内容] ジェンダーとセクシュアリティ概念について解説し、スポーツ文化とのかかわりについて解説する [授業外学習]本日の講義について復習をする（90分）
③	[テーマ] 社会的役割取得① [内容] 人間の社会的役割取得について解説する [授業外学習]本日の講義について復習をする（90分）	⑪	[テーマ] 家族と社会学 [内容] 近代家族の特徴について解説する [授業外学習]本日の講義について復習をする（90分）
④	[テーマ] 社会的役割取得② [内容] 人間が「社会」に束縛されて生活していることを検証する実験を行う [授業外学習]本日の講義について復習をする（90分）	⑫	[テーマ] 学校と社会学 [内容] 学校という空間の持つ特徴について解説する [授業外学習]本日の講義について復習をする（90分）
⑤	[テーマ] アイデンティティ① [内容] アイデンティティ概念について解説する [授業外学習]本日の講義について復習をする（90分）	⑬	[テーマ] スポーツと社会学 [内容] スポーツ社会学の知見について解説する [授業外学習]本日の講義について復習をする（90分）
⑥	[テーマ] アイデンティティ② [内容] 映像資料（映画）を用いて、アイデンティティの危機について解説する [授業外学習]本日の講義について復習をする（90分）	⑭	[テーマ] メディアと社会学 [内容] メディアとコミュニケーションについて解説する [授業外学習]本日の講義について復習をする（90分）
⑦	[テーマ] 社会への適応 [内容] 社会規範の取得について解説する [授業外学習]本日の講義について復習をする（90分）	⑮	[テーマ] 現代と社会学 [内容] 現代社会（後期近代社会）がもつ問題性や特徴について解説する [授業外学習]本日の講義について復習をする（90分）
⑧	[テーマ] 社会からの逸脱 [内容] 社会からの逸脱行為の類型、構造について解説する。 [授業外学習]本日の講義について復習をする（90分）	⑯	[テーマ] 期末レポート [内容] 授業内容への関心度を問うレポートを作成してもらう [授業外学習]講義内容を復習し、期末レポートを作成する（600分）

成績評価方法（方針）

中間試験（50%）＋期末レポート（50%）で総合的に評価する。中間試験の成績が合格ライン（50点中30点）に届いていない者については、追加レポートを課す場合がある。2/3以上出席しなかった学生は、評価対象外となる。特別な事情（部活の試合、忌引き、電車の遅延等）があった場合は、事後報告で構わないので、後日必ず報告すること。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	○	○		50%
授業内レポート				
授業外レポート	○	○	○	50%
演習・実技				
授業態度				欠格条件
出席				欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

2/3以上の講義に出席しない場合には、出席日数不足として成績は「放棄」となる。また友人に学生証を預けて代返している行為が発覚した場合には、本講義の成績は「不可」となる。
熱心に学ぼうとしている学生の邪魔をする行為（私語など）は禁止する。注意を与えても改善されない場合は、減点などの措置をとる。
「分からない」ということは恥でも何でもなく、むしろよく分からないことを「分かった」ふりをすることのほうが恥ずかしいと思うように。そのため些細な質問でも大歓迎なので、オフィスアワーに気軽に質問に来るように。

関連科目	社会構造と人間関係、社会調査法 I		
教科書	特に指定しない	参考書	倉沢進他[編著]『社会学入門』放送大学教育振興会、2001 奥村隆[編著]『社会学になにができるか』八千代出版、1997
連絡先	tk-mitani@sendai-u.ac.jp		

授業科目名	社会構造と人間関係 Social Structure and Human Relationship (L.)				担当教員	三谷高史
開講内容	学年・学期	1・2・3半期	授業方法	講義	関連資格	
	履修の方法	選択必修	単位数	2		

授業の概要

社会における様々な物事を読み解く「道具」としての社会学について解説する。我々が社会生活を営む上で「当たり前」と感じている社会的通念や制度は、本当に「当たり前」のものなのだろうか？その「当たり前」を疑うために、過去の偉人たちが残した概念を解説し、物事の本質を見抜く目を養う。後半は、ほぼ全ての人が経験する学校という社会的空間に焦点を当てる。

授業の一般目標

社会における「当たり前」を疑う能力を身につける。「当たり前」を疑う能力を身につけることで、現在生きている社会が抱えている諸問題をより鮮明に理解できるようになる。

授業の到達目標

■	認知的領域	社会学的な諸概念を理解する
■	情意的領域	社会における「当たり前」を疑う態度を身につける
□	技能表現的領域	

授業計画（全体）

毎時間1つずつ、社会で「当たり前」と思われている通念を提示し、それを疑うための社会学的概念を解説する。毎回穴埋め式のプリントを配布するので、その穴を埋め、メモ欄に重要事項を書き取る形で講義を受けてほしい。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ]オリエンテーション [内容] 授業の目標と進め方、成績評価方法、最終試験課題の概要などの説明 [授業外学習]学校にかんする新聞・雑誌記事を探し、読む(90分)	⑨	[テーマ] 中間試験 [内容] 選択式・記述式の試験を行なう [授業外学習]事前に中間試験に向けて講義内容を復習する(300分)
②	[テーマ] 社会学的方法論 [内容] 社会学が、社会を分析するためにどのような研究方法を採用してきたかを解説する。 [授業外学習]本日の講義について復習をする(90分)	⑩	[テーマ] 学校の社会学① [内容] 学校の持つ集中性について解説する [授業外学習]本日の講義について復習をする(90分)
③	[テーマ] 社会的役割取得① [内容] 人間の社会的役割取得について解説する [授業外学習]本日の講義について復習をする(90分)	⑪	[テーマ] 学校の社会学② [内容] 学校の持つ秩序性について解説する [授業外学習]本日の講義について復習をする(90分)
④	[テーマ] 社会的役割取得② [内容] 人間が「社会」に束縛されて生活していることを検証する実験を行う [授業外学習]本日の講義について復習をする(90分)	⑫	[テーマ] 学校の社会学③ [内容] 学校の持つ文化性について解説する [授業外学習]本日の講義について復習をする(90分)
⑤	[テーマ] アイデンティティ① [内容] アイデンティティ概念について解説する [授業外学習]本日の講義について復習をする(90分)	⑬	[テーマ] 学校の社会学④ [内容] 教員の部活動負担問題について解説する [授業外学習]本日の講義について復習をする(90分)
⑥	[テーマ] アイデンティティ② [内容] 映像資料(映画)を用いて、アイデンティティの危機について解説する [授業外学習]本日の講義について復習をする(90分)	⑭	[テーマ] 学校の社会学⑤ [内容] 学校におけるリスクについて解説する [授業外学習]本日の講義について復習をする(90分)
⑦	[テーマ] 社会への適応 [内容] 社会規範の取得について解説する [授業外学習]本日の講義について復習をする(90分)	⑮	[テーマ] 学校の社会学⑥ [内容] 運動部活動における「体罰」、「事故」、それへの対策について解説する [授業外学習]本日の講義について復習をする(90分)
⑧	[テーマ] 社会からの逸脱 [内容] 社会からの逸脱行為の類型、構造について解説する。 [授業外学習]本日の講義について復習をする(90分)	⑯	[テーマ] 期末レポート [内容] 授業内容への関心度を問うレポートを作成してもらう [授業外学習]講義内容を復習し、期末レポートを作成する(600分)

成績評価方法（方針）

中間試験(50%)＋期末レポート(50%)で総合的に評価する。中間試験の成績が合格ライン(50点中30点)に届いていない者については、追加レポートを課す場合がある。2/3以上出席しなかった学生は、評価対象外となる。特別な事情(部活の試合、忌引き、電車の遅延等)があった場合は、事後報告で構わないので、後日必ず報告すること。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	○	○		50%
授業内レポート				
授業外レポート	○	○	○	50%
演習・実技				
授業態度				欠格条件
出席				欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

2/3以上の講義に出席しない場合には、出席日数不足として成績は「放棄」となる。また友人に学生証を預けて代返している行為が発覚した場合には、本講義の成績は「不可」となる。
熱心に学ぼうとしている学生の邪魔をする行為(私語など)は禁止する。注意を与えても改善されない場合は、減点などの措置をとる。
「分からない」ということは恥でも何でもなく、むしろよく分からないことを「分かった」ふりをすることのほうが恥ずかしいと思うように。そのため些細な質問でも大歓迎なので、オフィスアワーに気軽に質問に来るように。

関連科目	社会学概論、社会調査法Ⅰ		
教科書	特に指定しない	参考書	倉沢進他[編著]『社会学入門』放送大学教育振興会、2001 内田良『教育という病』光文社、2015
連絡先	tk-mitani@sendai-u.ac.jp		

授業科目名	消費経済とスポーツ Economy of Consuming and Sport				担当教員	高成田享、遠藤保雄
開講内容	学年・学期	1・2・3半期	授業方法	講義	関連資格	
	履修の方法	選択必修	単位数	2		

授業の概要

消費の視点からみた経済及びスポーツを学ぶ。

授業の一般目標

消費と経済及びスポーツを学ぶことで、体育系大学で学んだ人間が社会に参画する際に役立つ知識や考え方を身に付ける。

授業の到達目標

■	認知的領域	消費あるいは消費者とは何か、それがスポーツとどうかかわるかを理解する
■	情意的領域	自分が消費する意味や楽しみをほかの人に伝える方法や工夫を学ぶ。
■	技能表現的領域	作文及び自分の意見のプレゼンテーションする能力を高める。

授業計画（全体）

消費の視点から経済の歴史やスポーツの歴史を学び、現代社会における消費の意味を理解する。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 授業の概要 [内容] 消費経済とは何かを学ぶ。 [授業外学習]自分の生活のなかで、どんな分野に消費しているか調べる	⑨	[テーマ] クレジット社会 [内容] 消費の欲望を拡大させるための道具としてのクレジットの歴史と意味。。 [授業外学習]クレジットで購入したことがあるか考える
②	[テーマ]消費の歴史 [内容] 生きるための消費から楽しむための消費が拡大する人類の歴史。 [授業外学習]自分nそれぞれの消費についてその目的を考える	⑩	[テーマ] 貯蓄と投資 [内容] 貯蓄にはどんな種類があるのか、投資はどう違うのか。個人貯蓄や投資の経済的な意味を学ぶ [授業外学習]どんな貯蓄や投資があるか調べる
③	[テーマ] 万国博からショッピングモールへ [内容] 消費の欲望をかきたてるための場の意味を、万国博、デパート、ショッピングモールなどの歴史をたどりながら考える。 [授業外学習]万国博について調べる	⑪	[テーマ] 消費税 [内容] 消費税の仕組みと財政及び国際比較。 [授業外学習]日本の財政を調べる
④	[テーマ] 大衆消費社会とは [内容] 大量生産・大量消費社会の成立とその意味 [授業外学習]自分の購入したものが大量製品されたものかどうか考える	⑫	[テーマ] 消費経済と国家経済 [内容] 消費のマクロ経済的な意味 [授業外学習]マクロ経済の意味を調べる
⑤	[テーマ] 広告の功罪 [内容] 広告は消費に役立つが、不要なものを買ってしまうこともある。広告の功罪を考える。 [授業外学習]自分の生活で広告で購入したものがあるかどうか考える	⑬	[テーマ] 消費社会を超えて [内容]消費が環境に与える影響、物質的な幸せと精神的な幸せなど、消費社会がもたらした課題を考える。 [授業外学習]
⑥	[テーマ] 記号としての消費 [内容] ステータスシンボルとしてのブランド商品の歴史と現在。 [授業外学習]ブランドとは何かを考える	⑭	[テーマ] まとめと小論文の書き方 [内容] これまでの授業のまとめと小論文の書き方。 [授業外学習]
⑦	[テーマ] 消費するスポーツ（上） [内容] スポーツが消費社会に組み込まれる歴史をたどる。 [授業外学習]自分の生活の中でスポーツに関係する消費がどれだけあるか考える	⑮	[テーマ] 小論文 [内容] これまでの授業を踏まえて小論文書く。 [授業外学習]
⑧	[テーマ]消費するスポーツ（下） [内容] スポーツが消費社会に組み込まれた現状を考察 [授業外学習]同上	⑯	[テーマ] 予備 [内容] [授業外学習]

成績評価方法（方針）

出席状況と授業の終わりに書くレポート、最後の授業で書く小論文などで判定

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				
授業内レポート	◎	◎	◎	60%
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度	○	○	○	10%
出席	○	○	○	30%

履修上の注意（受講学生に望むこと）

私語厳禁。私語で退席を命じた学生には単位を与えません。

関連科目			
教科書		参考書	
連絡先	高成田研究室（to-takanarita@sendai-u.ac.jp）		

授業科目名	世界経済・日本経済とスポーツ World & Japanese Economy and Sports				担当教員	遠藤保雄
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	講義	関連資格	
	履修の方法	選択必修	単位数	2		

授業の概要

スポーツビジネスは年々拡大している。そのビジネスは世界経済・日本経済の動向と深く結びついている。世界や日本のスポーツ経済を概観しつつスポーツビジネスや経済が世界経済・日本経済とどう結びついているかを学び、これを通じ世界経済・日本経済の見方やその経済のシステム、経済理論などを学ぶ。

授業の一般目標

スポーツビジネス、スポーツ経済という場合に、先ず、ビジネスとは、経済とは何かを学び、スポーツが世界経済や日本経済とどう結びついているかを考察し、それを通じ、スポーツを先行する本学の学生に取り、世界経済、日本経済の味方について理解を深める。

授業の到達目標

■	認知的領域	スポーツについては、これを行う上での基礎的な技術・ルールを学ぶだけでなく、競技として観客に楽しんでもらうビジネスとなっていること、そこから金銭のやり取りが行われ経済活動に発展していることの認識を深める。
■	情意的領域	スポーツは、やるもの、見るものなど多様な形で国民の生活に結びついており、これにより国民生活を豊かにするという価値を持っていることに理解を深める。
■	技能表現的領域	スポーツ経済を考える上での基本的な用語・理論について、基礎的な経済学的な基礎的面についての理解を深める。

授業計画（全体）

本授業は、毎回、指定のテーマについて考察し、講義ノートを活用し理解を深めさせる。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 国際経済・日本経済の現状とスポーツ [内容]国際経済・日本経済の現状とその中におけるスポーツの位置づけを考察する。 [授業外学習]GDPに着目し国際経済・日本経済の規模を調べる（90分）	⑨	[テーマ] 第二次大戦後の国際経済と近代スポーツの発展・成熟 [内容]第二次大戦後の国際経済の発展と、するスポーツ、見せるスポーツ、スポーツ支援産業に着目しスポーツ経済の動向を考察する [授業外学習]第二次大戦後の現代史を予習しておくこと（90分）
②	[テーマ]資本主義の成立と近代スポーツ [内容]英国における産業革命とこれに続く欧米での工業化による資本主義の成立の下での近代スポーツの確立を概観し近代スポーツとは何かを考察する。 [授業外学習]欧米で生まれた近代スポーツの種目を調べる（90分）	⑩	[テーマ] 日本での資本主義の成立・発展と近代スポーツの移入・定着・発展 [内容]我が国資本主義の成立と近代スポーツの欧米から移入以降、戦後の経済復興、高度経済成長、安定経済成長を経た日本経済とスポーツの動向を概観する。 [授業外学習]明治期から現代までの経済史を学習すること（90分）
③	[テーマ]資本主義経済の考察① [内容]資本主義経済成立前の経済と比較しつつ資本主義経済の特徴を概説し、その経済を学ぶ上でのミクロ経済学とマクロ経済学の2つについて概説する。 [授業外学習]資本主義経済とは何かをあらかじめ調べてく（90分）	⑪	[テーマ] 日本経済の発展とスポーツ [内容]90年代初めの日本経済のバブル崩壊とその後の失われた20年を経てアベノミックスの登場までの経済動向とこれに伴い変化するスポーツ経済の動向を概観する。 [授業外学習]失われた20年とは何を意味するか調べること（90分）
④	[テーマ]資本主義経済の考察② [内容]ミクロ経済学①モノ・サービスの生産・交換・消費、それに伴う需要・供給関係の形成と価格・数量の決定、企業の生産・コスト・利潤最大化の追求と生産投資行動 [授業外学習]生活の中でモノ・サービス、その取引につき観察しておくこと（90分）	⑫	[テーマ] .直面する日本経済の課題とスポーツの果たす役割① [内容]経済のソフト化とスポーツの雇用効果、情報化社会におけるスポーツ経済の効果、経済のグローバル化の下でのスポーツの発展について考察する。 [授業外学習]経済のソフト化、情報化、グローバル化を調べてる（90分）
⑤	[テーマ]資本主義経済の考察③ [内容]ミクロ経済学②市場機能と価格メカニズム、資源配分の効率性、所得分配、市場の失敗、独占と寡占 [授業外学習]需要曲線と供給曲線はどのように決まるか予習しておくこと（90分）	⑬	[テーマ] 直面する日本経済の課題とスポーツの果たす役割② [内容]少子高齢化社会におけるスポーツの役割、地方活性化に果たすスポーツの経済効果、食品経済とスポーツにつき考察する [授業外学習]高齢化、地方経済の低迷、食と健康に関し調べておくこと（90分）
⑥	[テーマ] 資本主義経済の考察④ [内容]マクロ経済学① GDPとその3面等価、経済のフローとストック、有効需要、財市場と貨幣市場の関係、マクロ経済を構成する家計・企業・政府の行動、 [授業外学習]GDPを構成する要素を調べておくこと（90分）	⑭	[テーマ] 世界経済の発展とオリンピック① [内容]近代オリンピック誕生から第二次大戦を経て、第二次大戦後の世界経済の発展・変化を概観し、合わせて平和の祭典オリンピックの各時代における経済的意義を考察する [授業外学習]近代オリンピックの歴史を予習すること（90分）
⑦	[テーマ] 資本主義経済の考察⑤ [内容]マクロ経済学②経済成長と景気変動、完全雇用と失業、インフレとデフレ、財政政策、金融政策、国際経済（貿易、比較優位、国際収支と円高・円安） [授業外学習]マクロ経済学の構成要素を予習しておくこと（90分）	⑮	[テーマ] 2020年東京オリンピック・パラリンピックの政治経済学 [内容]2020年の東京オリンピック・パラリンピック大会開催を巡る政治経済学について論じる。 [授業外学習]東京オリンピック・パラリンピックの招致の理由を調べておくこと（90分）
⑧	[テーマ] 産業革命以降の国際経済の発展とスポーツ [内容]英国での産業革命以降、第二次大戦に至る国際経済の動向と近代スポーツの発展・変化を考察する [授業外学習]英国の産業革命以降の近代史を予習しておくこと（90分）	⑯	[テーマ] 最終試験 [内容] クラスでの講義ノートをベースに出題する。 [授業外学習]

成績評価方法（方針）

試験結果に基づき評価する。暗記ではなく、思考力を重視した評価を行う。特に、①起承転結の論理構造、②実務への応用思考等を基準に評価する。暗記偏重ではなく、思考力に重点を置いた論理的記述を求める。定期試験の原本は返却しないが、フィードバックを希望する学生には研究室にて個別に答案用紙を複写・返却するなどの措置を講じる。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎	○	○	90%
授業内レポート	◎	○	○	10%
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度	◎	○	○	
出席				欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

学則通り全授業の三分の二以上の出席が必要

関連科目			
教科書		参考書	スポーツの経済学（マイケル・A ・リーズ）　スポーツ産業論（原田宗彦）
連絡先	遠藤　ys-endo@sendai-u.ac.jp		

授業科目名	法学 Jurisprudence				担当教員	加藤英俊
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	講義	関連資格	CSCS
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

テキストを用いて、特に、民法総則、親族・相続、不法行為法等を、そして、行政に関する基本的な事項を扱う。日本国憲法は別途科目が設けられているので、この科目では扱わない。

授業の一般目標

日常生活での行為がもつ法的意味を理解し、社会的事象を法学的な観点から考えることができるようになる。そして、法学の自己学習ができるようになる。

授業の到達目標

■	認知的領域	基本的な法律用語の意味と使用法を理解し、適切に応用できるようになる。
■	情意的領域	法的観点から社会問題を考え、意見を述べることができるようになる。
□	技能表現的領域	

授業計画(全体)

シラバスで挙げた項目についてテキストの内容を理解することを中心に講義を行う。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] ガイダンス [内容] 授業の進め方、成績の評価方法について説明する。 [授業外学習] 次回のテキスト箇所の指摘	⑨	[テーマ] 使用者責任と国家賠償責任 [内容] 使用者責任と国家賠償責任の異同 [授業外学習] 次回のテキスト箇所の指摘
②	[テーマ] 親族関係と法 [内容] 親等図、戸籍の今昔から見る親族関係 [授業外学習] 次回のテキスト箇所の指摘	⑩	[テーマ] 土地工作物責任、営造物責任、動物占有者責任 [内容] 各事項の概説と、特に、土地工作物責任と映像物責任の異同 [授業外学習] 次回のテキスト箇所の指摘
③	[テーマ] 婚姻と離婚(1) [内容] 婚姻の成立、無効・取消、 [授業外学習] 次回のテキスト箇所の指摘	⑪	[テーマ] 契約を結ぶことができるのは [内容] 権利能力、意思能力、行為能力の基本的な事項・ [授業外学習] 次回のテキスト箇所の指摘
④	[テーマ] 婚姻と離婚(2) [内容] 夫婦の権利義務、 離婚、財産分与等 [授業外学習] 次回のテキスト箇所の指摘	⑫	[テーマ] 制限行為能力者 [内容] 未成年者、成年後見制度 [授業外学習] 次回のテキスト箇所の指摘、または、テストの予告
⑤	[テーマ] 親子関係、私的扶養 [内容] 親子関係で現れる法的諸事項 [授業外学習] 次回のテキスト箇所の指摘	⑬	[テーマ] 予備、または、中間考査 [内容] 進捗が遅れているときは講義を行う。 [授業外学習]
⑥	[テーマ] 遺言と法定相続 [内容] 遺言と相続の基本的な事項 [授業外学習] 次回のテキスト箇所の指摘	⑭	[テーマ] お役所とお役所の仕事 [内容] 行政主体と行政庁、行政処分と行政指導の基本的事項 [授業外学習] 次回のテキスト箇所の指摘
⑦	[テーマ] 損害の賠償 [内容] 不法行為と債務不履行による損害の賠償請求の基本事項 [授業外学習] 次回のテキスト箇所の指摘	⑮	[テーマ] お役所の処分を争う [内容] 行政救済の基本的事項 [授業外学習]
⑧	[テーマ] 不法行為 [内容] 不法行為概念の概説と事例、責任能力 [授業外学習] 次回のテキスト箇所の指摘	⑯	[テーマ] 筆記試験 [内容] [授業外学習]

成績評価方法(方針)

成績の評価は、基本的に、筆記試験で行う。中間考査を行った場合には評価の際に考慮する。欠席日数については学生便覧「試験細則」による。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎			100%
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度				
出席				

履修上の注意(受講学生に望むこと)

授業には必ずテキストを携行すること。

関連科目			
教科書	谷口・松原編著、基礎からわかる法学(成文堂)	参考書	
連絡先	非常勤なので教育企画室に問い合わせをすること。		

授業科目名	歴史学入門 Introduction to History				担当教員	伊達 宗弘
開講内容	学年・学期	1・2・3前期	授業方法	講義	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

それぞれの時代に大きな役割を果たした先人の「生き様」を紹介し、困難や危機に直面した時のヒントになる講座とする。聖徳太子、中大兄皇子、菅原道真、平清盛、足利尊氏、武田信玄、織田信長、豊臣秀吉、徳川家康、伊達政宗、宮本武蔵、吉田松陰、大久保利通、板垣退助らの果たした歴史的な役割を分かりやすく解説する。

授業の一般目標

国際化や情報化が進めば進むほど次代を担う人たちにとって最も大切なのは、日本の素晴らしい歴史や文化をしっかりと認識することである。それがあって初めて堂々と生きることが出来、また世界に伍していくことが出来るのではないだろうか。日本人として知っておきたい教養としての歴史と文化を、先人の「生き様」から学び、力強く生きていく上においてのヒントになる情報を提供する。

授業の到達目標

■	認知的領域	日本の素晴らしい歴史や文化を、ごく自然に語ることが出来るようにする。
■	情意的領域	身の周りのものを優しい気持ちで見ることが出来、いつも高い志を持って生きることが実践出来るようにする。
■	技能表現的領域	言葉づかい、身のこなし方にも教養が感じられる人材になることを目指す。

授業計画（全体）

歴史や文化を立体的に組み立て交差させ、楽しみながら知識を得また興味が持てる講座とする。そのためパワーポイントやDVDを駆使して、分かりやすく工夫された講座形式とする。資料としては生涯手元において役立つようなオリジナルな資料集を作成し配布する。講座はその都度完結した物語風に構成する。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ]私の履歴書 [内容] 大学受験に失敗し父が交通事故に遭遇するなど、失敗と挫折の連続の中で自分の目標を実現するために歩んだ半生を紹介。 [授業外学習] 四字熟語の解説。	⑨	[テーマ] 豊臣秀吉の天下統一 [内容] 一介の農民から天下統一をした秀吉の人心収攬術と、人々に夢を与えた秀吉のエピソードを紹介。 [授業外学習] 四字熟語の解説
②	[テーマ]旧石器時代から飛鳥時代 [内容] 旧石器時代から縄文・弥生・古墳・飛鳥時代を紹介し、特に日本の国のかたちを整えた聖徳太子の果たした歴史的な役割を紹介。 [授業外学習] 四字熟語の解説	⑩	[テーマ]道を起こし教を布く・徳川家康 [内容] 今の日本のかたちを整えた江戸時代の礎を築いた徳川家康、隣国の強敵武田信玄を生涯私淑した覇者の哲学を紹介。 [授業外学習] 四字熟語の解説
③	[テーマ] 大化の改新と大宝律令の制定 [内容]聖徳太子の意思を継承した中大兄皇子らによって行われた大化の改新や大宝律令制定など日本の国のかたちが整っていく過程を紹介。 [授業外学習] 四字熟語の解説	⑪	[テーマ] 伊達政宗と仙台藩の国づくり [内容] 秀吉からは領地を取り上げられ、家康からは約束を反故にされても挫けず、大穀倉地帯の礎を築いた政宗の夢と国づくりを紹介。 [授業外学習] 四字熟語の解説
④	[テーマ] 奈良の都と京の都 [内容] 天平文化を花開かせた奈良時代、遣唐使が廃止されたことによって創り出された国風文化、武家の勃興してきた平安時代を紹介。 [授業外学習]四字熟語の解説	⑫	[テーマ]『五輪書』に見る宮本武蔵の生き様 [内容] 宮本武蔵の『五輪書』や『独行吟』を紹介し、社会人として生きていくうえにおいてのヒントを紹介。 [授業外学習] 四字熟語の解説
⑤	[テーマ] 平安時代の光と影 [内容] 武士が勃興し平清盛が初めて武家政権を打ち立て、貿易によって巨利を得ようとした清盛の壮大な構想と平家没落までを紹介。 [授業外学習] 四字熟語の解説	⑬	多彩な人材を育てた吉田松陰 [内容] 新しい時代を築く有為な人材を短期間のうちに多数育てた吉田松陰の生き様について紹介し，生きていく上でのヒントを提供。 [授業外学習]四字熟語の解説
⑥	[テーマ]鎌倉幕府の成立と南北朝の騒乱 [内容] 鎌倉幕府の成立から滅亡、建武の中興、武士の信望に応えて立ち上がった足利尊氏、乱世におけるリーダーの条件を紹介。 [授業外学習] 四字熟語の解説	⑭	[テーマ] 日本の近代化に殉じた大久保利通 [内容] 国づくりのため西郷隆盛と決別し、日本の近代化のため危機を顧みず奔走した大久保利通の政治家としての見識を紹介。 [授業外学習] 四字熟語の解説
⑦	[テーマ] 応仁の乱と戦国乱世 [内容]100年にわたる戦国乱世を生きた武将の名言を紹介し、その中で地を拓き水を治めるのに腐心した武田信玄の国づくりを紹介。 [授業外学習] 四字熟語の解説	⑮	[テーマ] 自由民権運動の旗手・板垣退助 国民中心の国家を創るため全国各地で自由民権運動を展開し、国会開設、政党政治実現に奔走した板垣退助の治績を紹介。 [授業外学習] 四字熟語の解説
⑧	[テーマ] 織田信長，天下統一への道 [内容] 卓抜な発想と精悍な行動力で、古い因習を打破し新しい時代を創り上げようと天下統一を目指した織田信長の生き様を紹介。 [授業外学習] 四字熟語の解説	⑯	[テーマ] テスト [内容] [授業外学習]

成績評価方法（方針）

毎回提出するレポート、出席日数、テスト等から総合的に判断する。出席日数2/3以下は対象外。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				40%
授業内レポート	○	○	○	40%
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度				
出席		○		20%

履修上の注意（受講学生に望むこと）

1 生きていくうえでの必要な常識や、危機に直面した時の対処などについて役立つ情報を提供するので可能な限り受講すること。
2 就職活動を念頭に役立つ具体の情報も提供するのでしっかりと受講し、講座の内容を簡潔に取りまとめるレポートを毎回提出してもらうので、この機会を最大限活用し文章を書く実践の場にして欲しい。

関連科目			
教科書	手作り教科書（34ページ）と四字熟語集（20ページ）を配布	参考書	必要に応じて授業で指示する。
連絡先	図書館専用電話 0224－55－2052		

授業科目名	歴史と人間 Individual Elements in History				担当教員	伊達 宗弘
開講内容	学年・学期	1・2・3後期	授業方法	講義	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

通史としての日本史と、時代を大きくかえて行くために大きな役割を果たした先人の生き様、また名言や四字熟語等を通して、これからの激動の時代、先行き不透明な時代を逞しく生きていく上でのヒントになる情報を提供する。

授業の一般目標

日本は世界に冠たる歴史や文化を築いてきた国である。次代を担う人たちにとって一番大切なのは、そのような日本の素晴らしい歴史や文化をしっかりと認識することである。これがあってはじめて堂々と生きることが出来、また世界に伍していくことができるのではないだろうか。社会に出て実際に役立つ実学としての歴史を学ぶ。

授業の到達目標

■	認知的領域	日本の歴史や文化の素晴らしさを、ごく自然に語れるようにする。
■	情意的領域	身の周りのものを優しい気持ちで見ることが出来、いつも高い目標をもって生きることを実践できる人材となることを目指す。
■	技能表現的領域	言葉の使い方、身のこなし方にも教養が感じられるような人材になることを目指す。

授業計画(全体)

歴史や文化を立体的に組み立て交差させ、楽しみながら知識を得、また興味が持てる講座とする。そのためパワーポイントやDVDを駆使して、分かりやすく工夫された講座形式とする。資料としては生涯手元に置いて役立つようなオリジナルな資料集を作成し配布する。講座はその都度完結された物語風に構成する。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 私の履歴書 [内容] 自分自身の失敗と挫折の半生を振り返り、生きて行くうえで何が大切であるかを考えるヒントを提供。 [授業外学習]四字熟語とことわざの解説	⑨	[テーマ] 豊臣秀吉、賤ヶ岳合戦の秘策 [内容] 短期間で天下統一を果たした秀吉の智謀と策略、秀吉の人心収攬術などを通して、今に通じる人心掌握術の妙に迫る。 [授業外学習]四字熟語とことわざ解説
②	[テーマ]聖徳太子, 理想国家実現の夢 [内容] 天皇を中心とした中央集権国家建設づくりに腐心した、聖徳太子の生き様を紹介。 [授業外学習]四字熟語とことわざ解説	⑩	[テーマ] 失敗を糧とした覇者の哲学 [内容] 我慢に我慢を重ね天下人となった徳川家康、覇者の哲学を通して今を生きる人にとって何が大切かを考える。 [授業外学習]四字熟語とことわざ解説
③	聖徳太子の意思を敬称, 大化の改新 [内容] 複雑な権力闘争の中、聖徳太子の意思を継承した天智天皇らが国のかたちを整えていく過程を紹介。 [授業外学習]四字熟語とことわざ解説	⑪	[テーマ] 伊達政宗の国づくり 年齢差を乗り越え、秀吉や家康と堂々と渡り合い、領地没収・約束反故の苦境の中で大穀倉地帯の礎を築いた政宗の国づくりを紹介。 [授業外学習]四字熟語とことわざ解説
④	[テーマ] 天平文化、国風文化花開く [内容] 聖武天皇によって花開いた天平文化、菅原道真の遣唐使廃止建言によって花開いた国風文化を紹介する。 [授業外学習]四字熟語とことわざ解説	⑫	[テーマ] 兵法の道は人の道 [内容] 剣一筋に生きてきた武蔵が、剣の道を通して会得した人の道の哲学書『五輪書』等を通して生きていくうえで何が大切かを学ぶ。 [授業外学習]四字熟語とことわざ解説
⑤	[テーマ] 初めての武家政権を築いた平清盛 [内容] 貴族の衰退、武士の勃興の中で貿易立国で豊かな国づくりをしようと壮大な夢の実現に腐心した平清盛と、その生きた時代を紹介。 [授業外学習]四字熟語とことわざ解説	⑬	[テーマ] 志のある者よ、立ち上がれ一吉田松陰一 [内容] 幕末から明治にかけて新しい時代を築く多彩な人材を育てた吉田松陰を紹介し、自ら考え実践する大切さを学ぶ。 [授業外学習]四字熟語とことわざ解説
⑥	[テーマ] 乱世を制するリーダーの条件 [内容] 尊敬する後醍醐天皇と決別し、武士中心の幕府を創るため腐心した足利尊氏の苦悩の決断、歴史に果たした役割を紹介。 [授業外学習]四字熟語とことわざ解説	⑭	[テーマ]日本の近代化に殉じた大久保利通 [内容] 盟友西郷隆盛と決別し郷里鹿児島の人々の怨嗟にもめげず、命がけで新しい国づくりに命を捧げた大久保利通の生き様を紹介。 [授業外学習]四字熟語とことわざ解説
⑦	[テーマ] 水を治め地を開く [内容] 戦国時代末期、人の力を信じ、金山開発、河川改修などで甲斐の国を強国に変えていった武田信玄の生き様を紹介。 [授業外学習]四字熟語とことわざ解説	⑮	[テーマ] 板垣死すとも、自由は死せず [内容] 身の危険を顧みず自由民権運動の旗手として、命がけで全国遊説し議会開設の原動力となった板垣退助の考え方を紹介。 [授業外学習]四字熟語とことわざ解説
⑧	[テーマ] 肉を切らせ骨を絶つ [内容] 卓抜な人物鑑定能力と斬新な発想で新しい時代を築くため力を注いだ織田信長の生き様を紹介。 [授業外学習]四字熟語ことわざ解説	⑯	[テーマ] テスト [内容] [授業外学習]

成績評価方法(方針)

受講生が毎回提出するレポートと出席日数、テスト結果から総合的に判断する。出席回数は2/3以下は対象外とする。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				40%
授業内レポート	○	○	○	40%
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度				
出席		○		20%

履修上の注意(受講学生に望むこと)

1 生きていく上での参考・ヒントになる情報を提供するので可能な限り講義を受講すること。
2 毎回レポートを提出させるので、講義内容を簡潔にまとめる訓練の場にして欲しい。

関連科目			
教科書	手作り教科書(34ページ)と四字熟語集(20ページ)を配布	参考書	必要に応じて授業で指示する。
連絡先	図書館専用電話0224－55－2052		

（自然分野）

授業科目名	生物科学 Biological Science (L.)				担当教員	宍戸 勇
開講内容	学年・学期	1・2・3・半期	授業方法	講義	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

医学や体育学の基礎領域のひとつとして、生物科学の知識を修得することは必須条件である。生物学から生命科学へと学問領域が展開されていく中で，体育科学や健康科学の科学的内容把握への一助となるよう細胞学や生理学などの基礎知識を学ぶ。

授業の一般目標

高等学校では選択科目として位置づけられていることから、履修してこない学生も多く、専門領域への取組みが円滑に出来るようにしたい。

授業の到達目標

■	認知的領域	細胞の構造や機能、細胞内小器官の連携形態と生理学や栄養学の基本となる呼吸、タンパク質の構造・機能について理解する。
■	情意的領域	構造や機能の連携などについてじっくり理解する。
■	技能表現的領域	暗記の学問ではなく、しっかり理解し、表現できる習慣を養う。

授業計画(全体)

選択科目ではあるが、最大80人規模のクラスとなるため、パワーポイントやビデオなどの映像も活用しながら、生物の体内で起こる自然現象をしっかりとらえ、理解できるようにする。最後は論述試験を行う。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] ガイダンス [内容] 生物学から生物科学までの成り立ちに関する歴史的展開 [授業外学習] 配布資料と内容の照合確認	⑨	[テーマ] タンパク質の分解と酵素の働き [内容] 生体内でのタンパク質分解過程とそれに関わる酵素について展開する。 [授業外学習] 総合理解
②	[テーマ] 生命の起源と歴史的研究 [内容] 地球の誕生と地球型生命の起源について展開する。 [授業外学習] ビデオ映像と配布資料からの総合理解	⑩	[テーマ] エネルギー産生機構とATPの役割 [内容] 呼吸とATPの関わりについて展開する。 [授業外学習] ビデオ映像と配布資料の照合と総合理解
③	[テーマ] 原核細胞と真核細胞 [内容] 細胞内に存在する小器官の形態・機能について展開する。 [授業外学習] パワーポイントによる映像と資料からの総合理解	⑪	[テーマ] 呼吸とエネルギー獲得 [内容] 栄養素の分解とエネルギー生産構造について理解する。 [授業外学習] 配布資料の理解
④	[テーマ] 細胞とその内部構造 [内容] 真核細胞内の小器官の構造と働きについて展開する [授業外学習] 映像内容と配布資料の確認	⑫	[テーマ] 生体における神経伝達機構 [内容] 神経細胞(ニューロン)と神経伝達機構の仕組みについて展開する [授業外学習] 映像内容の理解と配布資料の内容把握
⑤	[テーマ] 細胞内小器官の生理的機能とそれらの連携 [内容] タンパク質合成のからくり、分泌物生産の過程と小器官の連携について展開する。 [授業外学習] 配布資料の総合理解	⑬	[テーマ] ヒトの発生 [内容] ヒトの発生過程と生理機構について展開する。 [授業外学習] 映像内容の理解
⑥	[テーマ] 遺伝子とその働き [内容] 遺伝子の構造と遺伝子本体の核酸について紹介する。 [授業外学習] 配布資料と映像の照合と総合理解	⑭	[テーマ] ヒトの酵素変異と代謝異常 [内容] 酵素の構造変異とそれに伴う生体異常と代謝異常について展開する。 [授業外学習] 配布資料の理解
⑦	[テーマ] 遺伝子とタンパク質(1) [内容] DNA・RNAとタンパク質合成のからくりについて展開する。 [授業外学習] 映像内容と配布資料の照合と総合理解	⑮	[テーマ] ヒトの染色体異常 [内容] 染色体が起こす遺伝的疾患、突然変異による異状疾患について展開する。 [授業外学習] 配布資料の理解
⑧	[テーマ] 遺伝子とタンパク質(2) [内容] タンパク質合成のからくりとそれに関与する遺伝子の働きについて展開する。 [授業外学習] 総合理解	⑯	[テーマ] テスト [内容] [授業外学習]

成績評価方法(方針)

定期試験の評価を50%、出席は30%、授業内レポートを15%とし、授業態度は5%で評価したい。しっかり出席し、レポートも確実に提出すること。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎	◎	◎	50%
授業内レポート	○	○	○	15%
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度			△	5%
出席	○	○	○	30%

履修上の注意(受講学生に望むこと)

授業態度は良好であること。難解なところもあると思うので、しっかり理解を深めて欲しい。

関連科目			
教科書	特になし。配布資料提供。	参考書	生物学、生物科学、といったタイトルの教科書は参考になる。
連絡先	非常勤講師なので連絡は教育企画室を通して行うこと。		

授業科目名	エコロジー概論 Guidance of Ecology(L.)				担当教員	宍戸 勇
開講内容	学年・学期	1・2・3・半期	授業方法	講義	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

自然の中で起こる諸々の現象に対して、どのような理解力が必要となるであろうか。例えば生物個体と環境との関係や、群れを形成したときの環境との関係、生物相互の関係などを理解することにより、生態学的な考え方、研究方法を身につけていく。特に、体育系大学生は自然と触れ合う機会が多いので、最近頻出する環境破壊などの問題や、環境利用に係る分析力を醸成する。

授業の一般目標

この講義を受けることにより、生態学的思考方法が身につく。幅の広い学問であるので自然に対する分析力が養われる。

授業の到達目標

■	認知的領域	Ecologicalな研究方法とはどんなものか。個々の生物か、群れを成す生物か、それぞれに環境とのかかわりや生物相互の関係を理解する。
■	情意的領域	映像による理解を深める。
■	技能表現的領域	映像を利用しながら自然を理解し、幅広い見方、解釈方法を身につけ、分析できる能力を養う。

授業計画(全体)

選択科目であるが、アウトドアでの活動の機会が多い学生諸君に、自然界で起こる現象や生物同士の相互関係などを映像を通じて理解し、生態学的な考え方を身につけたい。特に、講義内容として扱う観察内容の違いや研究対象の違いを理解しながら、多面的に適切な分析ができるようにしたい。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ]ガイダンス [内容] エコロジーとはどんな学問か。体育大学学生にとってなぜ必要か。 [授業外学習]配布資料ににより内容の確認をする。	⑨	[テーマ] 個体群生態学という研究領域について(2) [内容] 個体群としての環境との関わりについて分析し、理解する。 [授業外学習] 映像内容と配布資料の照合と総合理解。
②	[テーマ]環境要因と生物の関係 [内容] 無機的環境と生物の関係を理解する。 [授業外学習]パワーポイントと資料の照合	⑩	[テーマ] 群集生態学という研究領域について(1) [内容] 同種個体群や異種個体群が地域で群れるときの環境との関わりについて理解する。 [授業外学習] 前回の資料に基づき、個体や個体群との比較
③	[テーマ] 有機的環境とは何か。 [内容] 生物相互の関係について理解する。 [授業外学習]パワーポイント・ビデオからテーマとの関係を把握。	⑪	[テーマ] 群集生態学という研究領域について(2) [内容] 生物群集における種間関係、特に食物連鎖関係について理解する。 [授業外学習] パワーポイントやビデオ映像と照合する。
④	[テーマ] 生物の世界における制限要因 [内容] 生物の生活に影響する環境とその反応 [授業外学習] ビデオ映像と配布資料との照合	⑫	[テーマ] 群集生態学という研究領域について(3) [内容] 生物群集における種間関係、特に共生関係について理解する。 [授業外学習] 個体や個体群における環境との関係を比較する。
⑤	[テーマ] 生理的最適域と生態的最適域 [内容] 制限要因と生物の条件選択能力について理解する [授業外学習]パワーポイントと配布資料の確認作業。	⑬	[テーマ] 群集生態学という研究領域について(4) [内容] 生態系における生物群集の働きと作用・反作用・相互作用の理解をする。 [授業外学習] 配布資料の内容理解。
⑥	[テーマ] 個生態学という研究領域について [内容] ビデオ映像から生物個体の環境に対する反応を理解する。 [授業外学習]映像と配布資料との照合と総合理解。	⑭	[テーマ] 栄養段階とエネルギーの流れ 生態系の中での生態的地位とエネルギーの流れについて理解する。 [授業外学習] 配布資料の理解
⑦	[テーマ] 適応現象とは [内容] 環境に対する個々の生物の反応と適応能力について理解する。 [授業外学習] パワーポイントと映像内容からの総合理解。	⑮	[テーマ] 生態系と人間について [内容] 生物群集の構造変化と人間との関わり、環境破壊、環境保全と人間の関わりについて理解する。 [授業外学習] ビデオ映像と配布資料との総合理解。
⑧	[テーマ] 個体群生態学という研究領域について(1) [内容] 個体の集まりと環境への対応について理解する。 [授業外学習] 個体との比較を前回配布資料等から比較する。	⑯	[テーマ] テスト [内容] [授業外学習]

成績評価方法(方針)

定期試験内容45%、出席30%、授業態度10%、授業内レポート15%として評価する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 \ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎	◎	◎	45%
授業内レポート	○	○	○	15%
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度	△		△	10%
出席	○	○	○	30%

履修上の注意(受講学生に望むこと)

出席は30%、授業態度10%、提出物15%とし、定期試験は45%合わせて100%としている。ポイントをしっかり理解し、真面目に出席していれば合格のラインに届くことになる。しっかり問題点を理解すれば合格するであろう。

関連科目			
教科書	特になし。配布資料とパワーポイントをしっかり理解すること。	参考書	高等学校時代の教科書は参考になる。
連絡先	非常勤なので教育企画室に問い合わせをすること。		

授業科目名	教養数学 Basic Mathematics				担当教員	大内悦夫
開講内容	学年・学期	1・2・半期	授業方法	講義・演習	関連資格	
	履修の方法	選択必修	単位数	2		

授業の概要

算数・中学数学の基礎・応用事項及び高校の数学の既習事項の確認・演習を行う。また卒論等に応用できる統計学の基礎を学習する。

授業の一般目標

問題の解法をとおして、数学的な考え方を学び、また解法を発表することにより自分の考えをしっかりしたものにする。小学校、中学校の学習支援をする学生の育成、また、卒論等に応用できる統計学の基礎を習得する。

授業の到達目標

■	認知的領域	特徴的な数学的な考え方を体得する。
■	情意的領域	他の人の意見を自分のものと対比しながら聞き、自分の考えをまとめる。
■	技能表現的領域	自分の考えが発表できる。

授業計画(全体)

講義及び演習形式で様々な問題の解法を研究する。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容]授業の進め方、成績評価の方法等の説明 [授業外学習]	⑨	[テーマ] 高校数学の指導内容の研究 [内容] 整式・因数分解 [授業外学習]
②	[テーマ]小学校算数の指導内容の研究 [内容] 整数の計算ができる。分数、小数の計算で、おちいりやすい間違いを研究する [授業外学習]本日の講義内容の復習	⑩	[テーマ] 高校数学の指導内容の研究 [内容] 方程式・関数 [授業外学習]本日の講義内容の復習
③	[テーマ]小学校算数の指導内容の研究 [内容] 図形・割合 [授業外学習]本日の講義内容の復習	⑪	[テーマ] 高校数学の指導内容の研究 [内容] 順列 [授業外学習]本日の講義内容の復習
④	[テーマ]小学校算数の指導内容の研究 [内容]文章題 [授業外学習]本日の講義内容の復習	⑫	[テーマ] 高校数学の指導内容の研究 [内容] 組み合わせ [授業外学習]本日の講義内容の復習
⑤	[テーマ]中学校数学の指導内容の研究 [内容] 正負の数、文字式 [授業外学習]本日の講義内容の復習	⑬	[テーマ] 統計の基礎 [内容] 正規分布・偏差値 [授業外学習]本日の講義内容の復習
⑥	[テーマ]中学校数学の指導内容の研究 [内容] 方程式 [授業外学習]本日の講義内容の復習	⑭	[テーマ] 統計の基礎 [内容] 相関係数 [授業外学習]本日の講義内容の復習
⑦	[テーマ] 中学校数学の指導内容の研究 [内容] 関数 [授業外学習]本日の講義内容の復習	⑮	[テーマ] 統計の基礎 [内容] 検定 [授業外学習]本日の講義内容の復習
⑧	[テーマ] 中学校数学の指導内容の研究 [内容] 図形 [授業外学習]本日の講義内容の復習	⑯	[テーマ] 試験 [内容] 既習内容の確認 [授業外学習]

成績評価方法(方針)

講義時数の2/3以上の出席を要する。下記の割合で評価をする。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎			60%
授業内レポート	○			10%
授業外レポート	△			5%
演習・実技	○			20%
授業態度			△	5%
出席				欠格事項

履修上の注意(受講学生に望むこと)

柔軟な思考ができるように努力する。出席については規定通りとする。

関連科目	特になし		
教科書	なし	参考書	なし
連絡先	大内研究室(A303)		

（教養演習）

授業科目名	体育系大学の基礎教養 Liberal Arts for Sport-oriented Students				担当教員	全専任教員
開講内容	学年・学期	1年・半期	授業方法	講義	関連資格	
	履修の方法	必修	単位数	2		

授業の概要

体育系大学とは何を学ぶ大学かについて、仙台大学の場合を取り上げ、仙台大学の「Admission」、「Curriculum」、「Diploma」の3つの方針を踏まえ、教育課程編成の考え方、教育内容、保健体育教員免許およびその他の取得資格と社会的実践との関係を俯瞰しながら、講義する。

授業の一般目標

体育系大学としての仙台大学の教育分野・内容、所属する学科領域の位置付け等を俯瞰することにより、その後の各専門課程における履修科目の設置目的・相互関係等が理解できるようになるため、個々の科目の学習が全体―他の科目―との関わりの中で行えるようになる。

授業の到達目標

■	認知的領域	所属する学科のみならず、他学科の専門領域に関する知識をも習得する。
■	情意的領域	所属する学科における専門領域の学習に対する意欲を高める。
■	技能表現的領域	卒業後、所属する学科・コースで学んだ専門知識をどのように社会に還元するかを学ぶ。

授業計画(全体)

全専任教員が本授業の趣旨について共通理解と認識を持ち、各学科・コースの責任者によって作成された教材を用いて、「授業の概要」に掲げた目的に沿って各回の授業を行う。各回の担当者は、その回の授業内容に適した教員が行う(そのため、回毎に担当教員が変わることになる)。

授業テーマとその内容

＊ 第1回 オリエンテーション、カリキュラムの体系:本科目設定の狙い、授業の展開、仙台大学のカリキュラムの理念・特徴等について説明する。
＊ 第2～4回 「学士力」養成と本学カリキュラムの関連について説明する。各回の内容は以下のとおり。
　第2回 学士力(1):導入演習、情報処理、スポーツ心理学、スポーツ社会学
　第3回 学士力(2):学習基礎教養演習、運動生理学、スポーツバイオメカニクス、スポーツ指導の基礎、トレーニングの基礎
　第4回 学士力(3):英語、基盤科目の活きた事例
＊ 第5回 教員養成
＊ 第6～13回 各学科・コースについて説明する。各回の内容は以下のとおり。
　第6回 コーチング・コース
　第7回 トレーナー・コース
　第8回 マネジメント・コース
　第9回 健康福祉学科
　第10回 運動栄養学科
　第11回 スポーツ情報マスメディア学科
　第12回 現代武道学科
　第13回 子ども運動教育学科
＊ 第14回 英語の必要性
＊ 第15回 レポート作成・総評

成績評価方法(方針)

授業態度(70%)、およびレポート(30%)で評価する。レポートのフィードバックを希望する学生は、各クラス担任に相談すること。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				
授業内レポート	○	○	◎	30%
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度	◎	○	○	70%
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

＊ 2/3以上の出席が必要(欠席した場合は必ず「欠席届」を出すこと)。
＊ 学部・学科・コース等の教育方針・内容を学ぶ貴重な授業であるので、積極的に授業に参加することを望む。

関連科目	導入演習、学習基礎演習、仙台大学の専門基礎演習、全学教養演習、キャリアプランニングⅡ、各種専門科目、卒業論文		
教科書	とくに指定しない	参考書	必要に応じて指示する
連絡先	クラス担任、各授業担当者		

授業科目名	仙台大学の専門教養演習 I Sports & Cultural Context I				担当教員	全教員
開講内容	学年・学期	2・通年	授業方法	演習	関連資格	
	履修の方法	必修	単位数	2		

授業の概要

所属する部活動または指定されたグループ毎に受講クラスを設定する。この受講クラスに於いて、人文・社会・自然科学各面のトピックス等を題材に取り上げ、この3科学領域の各種の教養知識を学ぶ。または各受講クラスに於いて、大学における既習事項等を応用した活動等を実施することにより、より実践的な教養知識を身につける。

授業の一般目標

体育系大学における専門教育と教養教育の融合という新しい視点で設計された新設科目である。ポートフォリオ学習等を取り入れ、仙台大学の教育理念に沿った4年間の専門領域の学習効果について、基本的な教養に裏打ちされたものとして、卒業後に実践できる力を付与する。

授業の到達目標

■	認知的領域	各受講クラスに於いて、3科学領域の関連性を知覚する、または活動等を通して新しい、そしてより実践的な教養が得られる
■	情意的領域	体育大学で学ぶことの意義について、認識を深めさせる。
■	技能表現的領域	ポートフォリオ学習方式を身につけさせる。

授業計画(全体)

全教員が担当する。それぞれの受講クラスに於いて3科学領域の各種のトピックを、教養知識という切り口から整理し、演習方式の授業で学生に提供し、ポートフォリオにより自立学習を促す。または、各受講クラスにおいて活動等を学生に提供し、ポートフォリオにより自立学習を促す。

授業テーマとその内容

第1回　　オリエンテーション
第2回から第15回　　各受講クラスの活動等によって得られた知識教養についての知覚とポートフォリオの作成

成績評価方法(方針)

出席及びポートフォリオ作成をもって認定する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				
授業内レポート	◎	◎	◎	60%
授業外レポート	○	○	○	20%
演習・実技	○	○	○	20%
授業態度				
出席				欠格事項

履修上の注意(受講学生に望むこと)

関連科目	導入演習、体育系大学の基礎教養、各専門科目、卒業論文		
教科書	特に指定しない。	参考書	特に指定しない。
連絡先	各担当者		

授業科目名	仙台大学の専門教養演習Ⅱ Sports & Cultural Context Ⅱ				担当教員	全教員
開講内容	学年・学期	3・通年	授業方法	演習	関連資格	
	履修の方法	必修	単位数	2		

授業の概要

所属する部活動または指定されたグループ毎に受講クラスを設定する。この受講クラスに於いて、Ⅰの習得領域に加えて、より広い人文・社会・自然科学各面のトピックス等を題材に取り上げ、この3科学領域の各種の教養知識を学ぶ。または各受講クラスに於いて、大学における既習事項等を応用した活動等を実施することにより、より実践的な教養知識を身につける。

授業の一般目標

体育系大学における専門教育と教養教育の融合という新しい視点で設計された新設科目である。ポートフォリオ学習等を取り入れ、仙台大学の教育理念に沿った4年間の専門領域の学習効果について、基本的な教養に裏打ちされたものとして、卒業後に実践できる力を付与する。

授業の到達目標

■	認知的領域	各受講クラスに於いて、3科学領域の関連性を知覚する、または活動等を通して新しい、そしてより実践的な教養が得られる
■	情意的領域	体育大学で学ぶことの意義について、認識を深めさせる。
■	技能表現的領域	ポートフォリオ学習方式を身につけさせる。

授業計画(全体)

全教員が担当する。それぞれの受講クラスに於いて3科学領域の各種のトピックを、教養知識という切り口から整理し、演習方式の授業で学生に提供し、ポートフォリオにより自立学習を促す。または、各受講クラスにおいて活動等を学生に提供し、ポートフォリオにより自立学習を促す。

授業テーマとその内容

第1回　オリエンテーション
第2回から第15回　各受講クラスの活動等によって得られた知識教養についての知覚とポートフォリオの作成する。

成績評価方法(方針)

出席及びポートフォリオ作成をもって認定する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				
授業内レポート	◎	◎	◎	60%
授業外レポート	○	○	○	20%
演習・実技	○	○	○	20%
授業態度				
出席				欠格事項

履修上の注意(受講学生に望むこと)

関連科目	導入演習、体育系大学の基礎教養、各専門科目、卒業論文		
教科書	特に指定しない。	参考書	特に指定しない。
連絡先	各担当者		

授業科目名	仙台大学の専門教養演習Ⅲ Sports & Cultural Context Ⅲ				担当教員	全教員
開講内容	学年・学期	4・通年	授業方法	演習	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

所属する部活動または指定されたグループ毎に受講クラスを設定する。Ⅰ、Ⅱで体得した知識、体験を基盤として、より高い実践的な教養知識を身につける。

授業の一般目標

体育系大学における専門教育と教養教育の融合という新しい視点で設計された新設科目である。ポートフォリオ学習等を取り入れ、仙台大学の教育理念に沿った4年間の専門領域の学習効果について、基本的な教養に裏打ちされたものとして、卒業後に実践できる力を付与する。

授業の到達目標

■	認知的領域	各受講クラスに於いて、3科学領域の関連性を知覚する、または活動等を通して新しい、そしてより実践的な教養が得られる。
■	情意的領域	体育大学で学ぶことの意義について、認識を深めさせる。
■	技能表現的領域	ポートフォリオ学習方式を身につけさせる。

授業計画(全体)

全教員が担当する。それぞれの受講クラスに於いて3科学領域の各種のトピックを、教養知識という切り口から整理し、演習方式の授業で学生に提供し、ポートフォリオにより自立学習を促す。または、各受講クラスにおいて活動等を学生に提供し、ポートフォリオにより自立学習を促す。

授業テーマとその内容

第1回　オリエンテーション
第2回から第15回　各受講クラスの活動等によって得られた知識教養についての知覚とポートフォリオの作成する。

成績評価方法(方針)

出席及びポートフォリオ作成をもって認定する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				
授業内レポート	◎	◎	◎	60%
授業外レポート	○			
演習・実技	○	○	○	20%
授業態度	○	○	○	20%
出席				欠格事項

履修上の注意(受講学生に望むこと)

関連科目	導入演習、体育系大学の基礎教養、各専門科目、卒業論文		
教科書	特に指定しない。	参考書	特に指定しない。
連絡先	各担当者		

授業科目名	全学教養演習 Sophomore Seminar				担当教員	全教員
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	演習	関連資格	
	履修の方法	必修	単位数	2		

授業の概要

仙台大学の全教員が前期と後期に分かれ、各教員の提案するテーマに沿った演習を行います。上限人数は原則として、12名となります。少人数で「演習」を体験することができることが、この授業の特徴となります。学生の皆さんは、各教員の提示した主題の中から自分の興味関心のあるテーマを選んでいただきます。

授業の一般目標

学生の皆さんは、教員の提示する、あるテーマに沿った課題について、ディスカッション、体験、ロールプレイング、レポート作成等を通して、ある具体的なテーマについて考えを深め、レポート作成、プレゼンテーション等の方法で自己の考えをまとめていきます。

授業の到達目標

■	認知的領域	あるテーマについての知識を深め、理解する。
■	情意的領域	課題に熱心に取り組む。
■	技能表現的領域	あるテーマについてのレポートが作成でき、発表ができる。

授業計画（全体）

1. 毎回、個々の学生に課題が与えられる。2. あるテーマに沿った体験実習やロールプレイング等を行う。3. 2の学びについて、学生同士のディスカッション、レポート作成、プレゼンテーション等を行う。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] この授業の目的の説明、授業内容オリエンテーション [内容] 授業テーマの説明、授業の進め方についてオリエンテーションを行う。 [授業外学習] 授業の目的、テーマについて復習しておくこと。	⑨	[テーマ] 演習⑥ [内容] あるテーマにそった、演習、体験実習、資料収集、レポートの作成を行う。 [授業外学習] 学習した内容をノートにまとめておくこと。
②	[テーマ] 主題の設定 [内容] 教員の提示するテーマにそって、自分の主題を設定する。 [授業外学習] 学習した内容をノートにまとめておくこと。	⑩	[テーマ] 演習⑦ [内容] あるテーマにそった、演習、体験実習、資料収集、レポートの作成を行う。 [授業外学習] 学習した内容をノートにまとめておくこと。
③	[テーマ] 授業計画の設定 [内容] 教員の提示するテーマにそって、授業計画を設定する。 [授業外学習] 学習した内容をノートにまとめておくこと。	⑪	[テーマ] 演習⑧ [内容] あるテーマにそった、演習、体験実習、資料収集、レポートの作成を行う。 [授業外学習] 学習した内容をノートにまとめておくこと。
④	[テーマ] 演習① [内容] あるテーマにそった、演習、体験実習、資料収集、レポートの作成を行う。 [授業外学習] 学習した内容をノートにまとめておくこと。	⑫	[テーマ] 演習⑨ [内容] あるテーマにそった、演習、体験実習、資料収集、レポートの作成を行う。 [授業外学習] 学習した内容をノートにまとめておくこと。
⑤	[テーマ] 演習② [内容] あるテーマにそった、演習、体験実習、資料収集、レポートの作成を行う。 [授業外学習] 学習した内容をノートにまとめておくこと。	⑬	[テーマ] 演習⑩ [内容] あるテーマにそった、演習、体験実習、資料収集、レポートの作成を行う。 [授業外学習] 学習した内容をノートにまとめておくこと。
⑥	[テーマ] 演習③ [内容] あるテーマにそった、演習、体験実習、資料収集、レポートの作成を行う。 [授業外学習] 学習した内容をノートにまとめておくこと。	⑭	[テーマ] 演習⑪ [内容] あるテーマにそった、演習、体験実習、資料収集、レポートの作成を行う。 [授業外学習] 学習した内容をノートにまとめておくこと。
⑦	[テーマ] 演習④ [内容] あるテーマにそった、演習、体験実習、資料収集、レポートの作成を行う。 [授業外学習] 学習した内容をノートにまとめておくこと。	⑮	[テーマ] レポートを発表し、ディスカッションの上、評価する [内容] レポートの要約を発表し、他の学生はそのレポートについてコメントを加え、それに対して教員がコメントする。 [授業外学習] 自分のレポート内容、プレゼン内容の振り返りを行うこと。
⑧	[テーマ] 演習⑤ [内容] あるテーマにそった、演習、体験実習、資料収集、レポートの作成を行う。 [授業外学習] 学習した内容をノートにまとめておくこと。	⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]

成績評価方法（方針）

毎回演習を行う授業なので、出席も評価対象となる。その上で、課題に対する取り組みの姿勢もまた重要である。言うまでもなく、課題に対する取り組み方やレポートの出来不出来、プレゼンテーション等がもっとも成績に関係する。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技	◎	◎	◎	100%
授業態度				
出席				欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

1. 上にも述べたように出来るだけ休まないこと。出席を重視する科目である。
2. 3分の1以上休んだ場合には、単位は認定されない。
3. この科目は卒業必修科目のため、単位修得できなければ、卒業することができない。特に4年生は、この科目の成績が「放棄」の場合は即、留年確定のため、くれぐれも注意すること。
4. この科目は各担当教員にクラス分け後、履修登録することになるので、履修登録だけでは、授業に参加することができない。クラス分けの方法について4月配布のオリエンテーション資料に書いてあるので、よく読んでおくこと。

関連科目	特定の関連科目はないが、ここで学ぶことは、あらゆる科目の基礎となると言う意味で、すべての科目に関連していると言いうる。		
教科書	プリント・資料を配布する	参考書	授業中に指示する
連絡先			

≪海外文化科目≫

授業科目名	イングリッシュ・トランスレーション English Translation				担当教員	鎌田　幸雄
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	演習	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

学術論文・レポート・発表等で要求されるアカデミック・ライティングについて、その基礎となるパラグラフ・ライティングを中心に授業を行う。

授業の一般目標

アカデミック・ライティングを習得することにより、論理的で明快な文章（英文）が書けるようになる。

授業の到達目標

■	認知的領域	論理的文章とそれ以外の文章（情緒的/文学的文章など）との違いがわかる。
□	情意的領域	
■	技能表現的領域	パラグラフ・ライティング形式で文章（英文）を書く。

授業計画（全体）

本授業は以下の3部から成る。
1）英語の基本事項（文法）の確認　2）英文読解　3）パラグラフ・ライティングの説明、およびその形式に従っての英作。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業全体の説明、およびパラグラフ・ライティングの解説 [授業外学習] 課題を行い、期日までに提出する	⑨	[テーマ] 強調構文、パラグラフ・ライティング [内容] 英語における強調構文の確認、および最終レポート（英文）のテーマ、パラグラフ構成案の作成 [授業外学習] 課題を行い、期日までに提出する
②	[テーマ] 形容詞句、パラグラフ・ライティング（I） [内容] 英語における形容詞句の確認 パラグラフ・ライティングの解説 [授業外学習] 課題を行い、期日までに提出する	⑩	[テーマ] 最終レポートの作成 [内容] 担当教員によってチェックされた個所の訂正を行う [授業外学習] 課題を行い、期日までに提出する
③	[テーマ] 形容詞句、パラグラフ・ライティング（II） [内容] 前回に続き、英語における形容詞句およびパラグラフ・ライティングの確認を行う。 [授業外学習] 課題を行い、期日までに提出する	⑪	[テーマ] 最終レポートの作成 [内容] 各自、担当教員によってチェックされた個所の訂正を行う [授業外学習] 課題を行い、期日までに提出する
④	[テーマ] 関係代名詞節、パラグラフ・ライティング（I） [内容] 関係代名詞節の確認、およびパラグラフ・ライティング形式での作文（日本語で） [授業外学習] 課題を行い、期日までに提出する	⑫	[テーマ] 最終レポートの作成 [内容] 各自、担当教員によってチェックされた個所の訂正を行う [授業外学習] 課題を行い、期日までに提出する
⑤	[テーマ] 関係代名詞節、パラグラフ・ライティング（II） [内容] 前回に続き関係代名詞節の確認、およびパラグラフ・ライティング形式での作文（日本語で） [授業外学習] 課題を行い、期日までに提出する	⑬	[テーマ] 最終レポートの作成 [内容] 各自、担当教員によってチェックされた個所の訂正を行う [授業外学習] 課題を行い、期日までに提出する
⑥	[テーマ] 関係代名詞節、パラグラフ・ライティング（III） [内容] 関係代名詞節の確認（関係代名詞を用いた文の作成）、およびパラグラフ・ライティング形式での作文（英文） [授業外学習] 課題を行い、期日までに提出する	⑭	[テーマ] 最終レポートの作成 [内容] 各自、担当教員によってチェックされた個所の訂正を行う [授業外学習] 課題を行い、期日までに提出する
⑦	[テーマ] 関係副詞節、パラグラフ・ライティング [内容] 関係副詞節の確認、およびパラグラフ・ライティング形式での作文（英文） [授業外学習] 課題を行い、期日までに提出する	⑮	[テーマ] 最終レポートの作成 [内容] 担当教員により最終チェックを受ける [授業外学習] 課題を行い、期日までに提出する
⑧	[テーマ] 形容詞句、パラグラフ・ライティング [内容] 現在分詞による名詞修飾の確認、およびパラグラフ・ライティング形式での作文（英文） [授業外学習] 課題を行い、期日までに提出する	⑯	[テーマ] 最終レポート提出

成績評価方法（方針）

出席状況、課題の提出状況および最終レポートの出来具合で評価する。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				
授業内レポート			○	40%
授業外レポート			◎	60%
演習・実技				
授業態度				
出席				欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・学則通り全授業の2/3以上の出席が単位取得には必要となるが、正当な理由なく欠席が重なるときは受講を止めてもらう場合がある。
・卒業単位を埋めるためとの理由で履修することは厳に慎んでもらいたい。

関連科目			
教科書	特に使わない	参考書	必要に応じて指示する
連絡先	A棟5階研究室（512）　オフィスアワー：火曜日10：20～11：50		

授業科目名	イングリッシュ・リーディング A English Reading A				担当教員	鎌田　幸雄
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	演習	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

今日、様々な場面で膨大な量の英語情報が流通しており、それに対応する能力が要請されている。この科目はそれらの英語情報の中から各自が関心のある事柄に関する英文を「独力」で読むことが出来るための基本的事柄を学ぶことが目標となる。50～150行程度の文章を数多く精読することにより、ディスコースレベルでの文章読解のコツをつかんでもらいたい。

授業の一般目標

英語辞書の正しい使用法を身につける。
英文読解に必要な基本的知識を習得する。
ディスコースレベルでの文章読解のコツをつかむ。

授業の到達目標

■	認知的領域	英語辞書の正しい使用法を身につける。英文読解に必要な基本的知識を習得する。ディスコースレベルでの文章読解のコツをつかむ。
□	情意的領域	
□	技能表現的領域	

授業計画（全体）

特定のテキストは使用せず、毎回プリントを配布する。教材はなるべく興味深く、楽しいものを選ぶ予定である（受講生側からの提案も歓迎します）。授業は、輪読形式で進めてゆく予定である。最初は一文ごとに順に割り当て、授業時間内に受講生全員に必ず1回は当たるようにする。次第に割当ての範囲を増やして、段落ごと、課題ごとに予め担当者を決めて、発表してもらう予定である。随時英語のポピュラー音楽やTOEIC等の問題、英字新聞等の記事も教材として使用する予定である。

授業テーマとその内容

1回目　授業の進め方についての説明
2回目～15回目　次の事柄に注意しながら実際に英文を読んでいく

① 英語辞書の使用法
② 指示表現 (reference)：指示代名詞、人称代名詞、冠詞等の指示表現
③ 代用表現 (substitution)：既出項目を簡略した他の表現
④ 省略 (ellipsis)：前の文章から容易に復元できるものの省略
⑤ 語彙的連結 (lexical cohesion)：既出の語句と何らかの関連のある表現
⑥ つなぎの表現 (logical connectives)：前後の文章の論理関係を示す表現

随時、次のような読解の練習も行う予定である
① パラグラフ・リーディング：パラグラフ（段落）単位の内容理解の練習
② スピード・リーディング：一定時間内で一定量の文章の内容を把握する練習

16回目　期末試験

［授業外学習の指示等］ 教材は前の週に配布するので、事前に予習し解らないところをはっきりさせておくこと。

成績評価方法（方針）

期末試験（70%）、出席を含む積極的な授業参加（30%）にもとづき、総合的に評価する。出席回数が2/3以下の場合は成績評価の対象外とする。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎			70%
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度	◎			30%
出席				

履修上の注意（受講学生に望むこと）

1. 基本的な文法事項を予め再確認し、復習しておくこと。
2. 英文の読解力を向上させるためには当然の事ながら、週一回の90分の授業だけでは不十分です。教材は前の週に配布するので、事前に予習し解らないところをはっきりさせておくことが求められます。
3. 辞書は必ず持参すること。
4. 定員20名以下。

なお、使用する教材は「イングリッシュ・リーディングB」とは異なります。

関連科目	イングリッシュ・リーディング B		
教科書	特に指定しない	参考書	特に指定はしないが、 簡単な英文法書を再読しておくことが望まれる
連絡先	鎌田研究室A棟512		

授業科目名	イングリッシュ・リーディング B English Reading B				担当教員	鎌田　幸雄
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	演習	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

この科目は、「イングリッシュ・リーディングA」と同様に、様々な場面で流通している英語情報の中から、各自が関心のある事柄に関する英文を「独力」で読むことが出来るための基本的事柄を学ぶことが目標となる。50～150行程度の文章を数多く精読することにより、ディスコースレベルでの文章読解のコツをつかんでもらいたい。

授業の一般目標

英語辞書の正しい使用法を身につける。
英文読解に必要な基本的知識を習得する。
ディスコースレベルでの文章読解のコツをつかむ。

授業の到達目標

■	認知的領域	英語辞書の正しい使用法を身につける。英文読解に必要な基本的知識を習得する。ディスコースレベルでの文章読解のコツをつかむ。
□	情意的領域	
□	技能表現的領域	

授業計画（全体）

特定のテキストは使用せず、毎回プリントを配布する。教材はなるべく興味深く、楽しいものを選ぶ予定である（受講生側からの提案も歓迎します）。授業は、輪読形式で進めてゆく予定である。最初は一文ごとに順に割り当て、授業時間内に受講生全員に必ず1回は当たるようにする。次第に割当ての範囲を増やして、段落ごと、課題ごとに予め担当者を決めて、発表してもらう予定である。随時英語のポピュラー音楽やTOEIC等の問題、英字新聞等の記事も教材として使用する予定である。

授業テーマとその内容

1回目　授業の進め方についての説明
2回目～15回目　次の事柄に注意しながら実際に英文を読んでいく

① 英語辞書の使用法
② 指示表現 (reference)：指示代名詞、人称代名詞、冠詞等の指示表現
③ 代用表現 (substitution)：既出項目を簡略した他の表現
④ 省略 (ellipsis)：前の文章から容易に復元できるものの省略
⑤ 語彙的連結 (lexical cohesion)：既出の語句と何らかの関連のある表現
⑥ つなぎの表現 (logical connectives)：前後の文章の論理関係を示す表現

随時、次のような読解の練習も行う予定である
① パラグラフ・リーディング：パラグラフ（段落）単位の内容理解の練習
② スピード・リーディング：一定時間内で一定量の文章の内容を把握する練習

16回目　期末試験

［授業外学習の指示等］ 教材は前の週に配布するので、事前に予習し解らないところをはっきりさせておくこと。

成績評価方法（方針）

期末試験（70%）、出席を含む積極的な授業参加（30%）にもとづき、総合的に評価する。出席回数が2/3以下の場合は成績評価の対象外とする。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎			70%
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度	◎			30%
出席				

履修上の注意（受講学生に望むこと）

1. 基本的な文法事項を予め再確認し、復習しておくこと。
2. 英文の読解力を向上させるためには当然の事ながら、週一回の90分の授業だけでは不十分です。教材は前の週に配布するので、事前に予習し解らないところをはっきりさせておくことが求められます。
3. 辞書は必ず持参すること。
4. 定員20名以下。

なお、使用する教材は「イングリッシュ・リーディングA」とは異なります。

関連科目	イングリッシュ・リーディング A		
教科書	特に指定しない	参考書	特に指定はしないが、 簡単な英文法書を再読しておくことが望まれる
連絡先	鎌田研究室A棟512		

授業科目名	スポーツに何故英語が必要か				担当教員	山口貴久　他
開講内容	学年・学期	1年後期	授業方法	講義	関連資格	英語検定　TOEIC　TOEFL
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

日本で愛好されているスポーツのほとんどは、そのルールが英語で定められている。スポーツの国際化は必然的な流れとなっており、スポーツを通じて次代の日本を支える若者にとって、英語は国際化の前提として必須の素養となる。この観点から、英語圏での就学経験等を有するスポーツに係わる教員等から、スポーツ科学を専攻する学生にとって如何に英語が必要なものかについて、それぞれの体験等を交えて伝達する。

授業の一般目標

スポーツ科学を専攻する学生にとって、如何に英語が必要なものかを知覚させることにより、大学教育として必修科目に位置付けている英語教育科目への学生の取組みを真摯化することを目的とする。

授業の到達目標

■	認知的領域	各講義担当者の英語に係る体験談の聴講を通じて、自己が目標としているスポーツ分野とのかかわりにおける英語の必要性を、具体的な適用場面の知識として理解させる
■	情意的領域	英語という国際的共通言語が、各国の固有言語の相違というものを乗り越えて、スポーツ面で国際的連携をもたらしていることを理解させる。
■	技能表現的領域	ルールとして用いられている共通の英単語が、スポーツ種目の違いによって、様々な用いられ方をしていることを知覚させることにより、自己が目標としているスポーツ分野での英語の用い方の幅を広げさせる

授業計画（全体）

本授業の全体像のオリエンテーションを経て、米国の大学・大学院を卒業・修了した教員、日本国代表として、あるいは日本のマスメディア企業の駐在員として米国勤務経験を有する教員、英語を第一言語とする外国籍教員から、順に、自らの体験談を交え、スポーツにおける英語の必要性について講義を実施し、一般目標に掲げた目的を達成する。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ]　本講義の目的と方法 [内容] 本講義の目的と方法について説明する。アクティブラーニング手法により、効果的な講義方法について討議する [授業外学習]自己のスポーツが英語とどう関わっているかについて情報を収集	⑨	[テーマ]私にとって、スポーツに何故英語が必要であったか [内容] 講義実施者は異なるが、②と同一 [授業外学習]講義者の経験領域・所在地等について、英語との関わりを予習復習
②	[テーマ]私にとって、スポーツに何故英語が必要であったか [内容] 米国大学就学経験者、米国勤務経験者、第一言語が英語の外国人が、体験談を通じた英語の必要性について講義し、ポートフォリオを作成 [授業外学習]講義者の経験領域・所在地等について、英語との関わりを予習復習	⑩	[テーマ]私にとって、スポーツに何故英語が必要であったか [内容] 講義実施者は異なるが、②と同一 [授業外学習]講義者の経験領域・所在地等について、英語との関わりを予習復習
③	[テーマ]私にとって、スポーツに何故英語が必要であったか [内容] 講義実施者は異なるが、②と同一 [授業外学習]講義者の経験領域・所在地等について、英語との関わりを予習復習	⑪	[テーマ]私にとって、スポーツに何故英語が必要であったか [内容] 講義実施者は異なるが、②と同一 [授業外学習]講義者の経験領域・所在地等について、英語との関わりを予習復習
④	[テーマ]私にとって、スポーツに何故英語が必要であったか [内容] 講義実施者は異なるが、②と同一 [授業外学習]講義者の経験領域・所在地等について、英語との関わりを予習復習	⑫	[テーマ]私にとって、スポーツに何故英語が必要であったか [内容] 講義実施者は異なるが、②と同一 [授業外学習]講義者の経験領域・所在地等について、英語との関わりを予習復習
⑤	[テーマ]私にとって、スポーツに何故英語が必要であったか [内容] 講義実施者は異なるが、②と同一 [授業外学習]講義者の経験領域・所在地等について、英語との関わりを予習復習	⑬	[テーマ]私にとって、スポーツに何故英語が必要であったか [内容] 講義実施者は異なるが、②と同一 [授業外学習]講義者の経験領域・所在地等について、英語との関わりを予習復習
⑥	[テーマ]私にとって、スポーツに何故英語が必要であったか [内容] 講義実施者は異なるが、②と同一 [授業外学習]講義者の経験領域・所在地等について、英語との関わりを予習復習	⑭	[テーマ]私にとって、スポーツに何故英語が必要であったか [内容] 講義実施者は異なるが、②と同一 [授業外学習]講義者の経験領域・所在地等について、英語との関わりを予習復習
⑦	[テーマ]私にとって、スポーツに何故英語が必要であったか [内容] 講義実施者は異なるが、②と同一 [授業外学習]講義者の経験領域・所在地等について、英語との関わりを予習復習	⑮	前6回の講義内容のまとめ レポート作成とポートフォリオの振り返り [授業外学習]レポート作成のための準備
⑧	前6回の講義内容のまとめ レポート作成とポートフォリオの振り返り [授業外学習]レポート作成のための準備	⑯	[テーマ] 大学教育としての必修英語科目とのつながり [内容] 大学教育としての必修英語科目とのつながりを講義し、各ポートフォリオから各自の必修科目に対する学習取組みを整理させる [授業外学習]必修科目との関わりについて予習復習

成績評価方法（方針）

ポートフォリオ作成内容を40%、2回のレポートを各30%で評価し、大学教育としての必修英語科目への取組み意欲の度合いを基準として成績を評価する

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				
授業内レポート	○	○	○	60%
授業外レポート	○	○	○	40%
演習・実技				
授業態度				
出席				

履修上の注意（受講学生に望むこと）

ポートフォリオ作成を授業外レポートと位置づける

関連科目	総合英語A～D　就職のための英語		
教科書	特になし	参考書	スポーツと英語に関する文献
連絡先	山口研究室		

授業科目名	英会話A English Conversation A				担当教員	ジェリー・パランギ
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	演習	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

This English Conversation class is a communicative based course that aims to prepare young adults to interact successfully with native and non-native speakers of English. Students will be expected to give regular presentations on related topics to the text and sports when applicable.

授業の一般目標

This course will review and refine students previous knowledge in English Conversation. Students will be engaged in various langauge skill building activities. Students will be challenged with individual/pair oral presentations and discussions on current issues and sports related topics.

授業の到達目標

■	認知的領域	Memorable and practical social language in conversation models with an emphasis on cultural fluency. Intensive vocabulary development and a dynamic approach to grammar with high-frequency words, collocations and expressions. Pronunciation, rhythm and intonation.
■	情意的領域	The goal of this course is to develop a greater interest in and confidence through the use of English and the cultural connection of the language, whilst developing the skills needed to become more autonomous learners of English.
■	技能表現的領域	Speaking, Reading Comprehension, Listening, Writing, Discussion, Debate

授業計画(全体)

Top Notch 1 (3rd Ed) with MyEnglishLab which is an online study requirement of this course will be the required text with a new theme for every unit focussing on "English for today's world." The course will expose students to multi-level integrated skills. Students are highly encouraged to be positive in attitude and communicative activities.

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] Introduction: Explanation of Class, Grading [内容] Description of class and outline for the semester. If there is time, students will be asked to give their self-introductions. [授業外学習] Memorize key English phrases for class	⑨	[テーマ] Unit 3 The Extended Family [内容] Report news about relationships [授業外学習] Memorize key vocabulary
②	[テーマ]Unit 1 Getting Acquainted [内容] Meeting someone for the first time [授業外学習] Conversation model presentation	⑩	[テーマ] Unit 3 The Extended Family [内容] Describe extended families [授業外学習] Introduce your family
③	[テーマ] Unit 1 Getting Acquainted [内容] Identify and describe people [授業外学習] Conversation model presentation	⑪	[テーマ] Unit 3 The Extended Family [内容] Compare people [授業外学習]MyEnglishLab online study
④	[テーマ] Unit 1 Getting Acquainted [内容] Provide personal information, and introduce someone to the group [授業外学習] Grammar / conversation model presentation	⑫	[テーマ] Unit 3 The Extended Family [内容] Discuss family cultural traditions [授業外学習]Textbook assignment + MyEnglishLab online study
⑤	[テーマ] Unit 2 Going Out [内容] Accept or decline and invitation [授業外学習] Conversation model presentation	⑬	[テーマ] Unit 4 Foods and Restaurants [内容] Ask for a restaurant recommendation [授業外学習]Memorize key vocabulary
⑥	[テーマ] Unit 2 Going Out [内容] Express locations and give directions [授業外学習] Unit review / MyEnglishLab online study	⑭	[テーマ] Unit 4 Foods and Restaurants [内容] Order from a menu + speak to a server [授業外学習] Memorize key phrases and vocabulary
⑦	[テーマ] Unit 2 Going Out [内容] Make plans to see an event + Talk about musical tastes [授業外学習]Study for unit test	⑮	[テーマ] Unit 4 Foods and Restaurants [内容] Discuss food and health [授業外学習]Unit review / study for test
⑧	[テーマ] Test [内容] Unit 1 & 2 Test [授業外学習] None	⑯	[テーマ] Test [内容] Unit 3 & 4 Test [授業外学習] Start an English diary

成績評価方法(方針)

Homework/online study 10%, Participation/ Attitude 30%, Presentations 30%, Test 30%

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 \ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				30%
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技				30%
授業態度				30%
出席				10%

履修上の注意(受講学生に望むこと)

This is best suited for students serious about improving their English level. Students selecting this course must be commited for the 1st & 2nd semester. New students will NOT be accepted in the 2nd semester. Students must attend 2/3 of all classes for 1st & 2nd semester, and must score at least 60% in their final marks to be awarded credit for this course. There will be periodic oral presentations in pairs or individually as well as online study that should be ongoing.

関連科目			
教科書	Top Notch 1 (3rd Ed) with MyEnglishLab	参考書	English-Japanese dictionary
連絡先	A棟5階 511研究室		

授業科目名	英会話B English Conversation B				担当教員	ジェリー・パランギ
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	演習	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

This English Conversation class is a communicative based course that aims to prepare young adults to interact successfully with native and non-native speakers of English. Students will be expected to give regular presentations on related topics to the text and sports when applicable.

授業の一般目標

This course will review and refine students previous knowledge in English Conversation. Students will be engaged in various langauge skill building activities. Students will be challenged with individual/pair oral presentations and discussions on current issues and sports related topics.

授業の到達目標

■	認知的領域	Memorable and practical social language in conversation models with an emphasis on cultural fluency. Intensive vocabulary development and a dynamic approach to grammar with high-frequency words, collocations and expressions. Pronunciation, rhythm and intonation.
■	情意的領域	The goal of this course is to develop a greater interest in and confidence through the use of English and the cultural connection of the language, whilst developing the skills needed to become more autonomous learners of English.
■	技能表現的領域	Speaking, Reading Comprehension, Listening, Writing, Discussion, Debate

授業計画(全体)

Top Notch 1 (3rd Edition) with MyEnglishLab which is an online study requirement of this course and a new theme for every unit focussing on "English for today's world." The course will expose students to multi-level integrated skills. Students are highly encouraged to be positive in attitude and communicative activities.

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] Introduction: Explanation of Class, Grading. [内容] Description of class and outline for the semester. If there is time, students will be asked to give their self-introductions. [授業外学習] Complete diary and prepare debate	⑨	[テーマ] Unit 9 - Taking transport [内容] Discuss schedules and buy tickets. [授業外学習] Conversation model presentation
②	[テーマ]Debate preparations [内容] Preparation for the debate. [授業外学習]Preparation for the debate	⑩	[テーマ] Unit 9 - Buying, and reserving tickets [内容] Discuss schedules and buying tickets [授業外学習] Memorize key vocabulary
③	[テーマ] Debate + constructive critism [内容]Students will debate. There will be constructive critism after. [授業外学習]None	⑪	[テーマ] Unit 9 - Understand airport annoucements. [内容] Understand airport annoucements. Describe transportatation problems. [授業外学習] Complete the review + MyEngLab
④	[テーマ] Unit 6 - Plan an activity with someone [内容] Learn about the different types of exercises there are and expressions when organizing an activity. [授業外学習] Conversation model + MyEngLab	⑫	[テーマ] Complete/ review Unit 9. Give study guide. [内容] Complete Unit 9 and review in MyEngLab [授業外学習] Study for test
⑤	[テーマ] Unit 6 - Discuss fitness and eating habbits [内容] Plan an activity with someone. Talk about habitual activities. [授業外学習]Conversation model presentation	⑬	[テーマ] Final test study guide [内容] Final Test [授業外学習] None
⑥	[テーマ]Complete Unit 6 + review for unit test [内容] Complete this unit then give a study guide [授業外学習]Study for unit test	⑭	[テーマ] Test handback +英会話 course evaluation [内容] Test handback with explanation + Evaluation of 英会話 course with future recommendations - class discussion. Start the culturally related media [授業外学習] Media comprehension questions
⑦	[テーマ] Unit 6 short test [内容]Short test on Unit 6. Introduce "media study," - sports related [授業外学習] Complete comprehension questions from the movie.	⑮	[テーマ] Media studies [内容]Continue the media study [授業外学習] Complete comprehension questions
⑧	[テーマ] Short test handback [内容] Short test to be handed back with explanations of the marking criteria. Complete the "media study." [授業外学習]Complete the comprehension questions	⑯	[テーマ] Farewell ceremony [内容] Farewell ceremony in class [授業外学習] None

成績評価方法(方針)

Homework/online study 10%, Participation/ attitude 30%, Presentations 30%, Tests 30%

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 \ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				30%
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技				30%
授業態度				30%
出席				10%

履修上の注意(受講学生に望むこと)

This is a continuation course from the first semester. New students will not be admitted into the 2nd semester. Students must attend 2/3 of all classes for 1st and 2nd semester. To achieve full credit in the course students must achieve an average of at least 60% on their test.

関連科目			
教科書	Top Notch 1 (2nd Ed) with ActiveBook and MyEnglishLab	参考書	English-Japanese dictionary
連絡先	A棟5階 511研究室		

授業科目名	スポーツ&イングリッシュ (S) Sports & English				担当教員	マーティ・キーナート / Marty Kuehnert
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	演習	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

全世界におけるスポーツビジネスで生み出される金額の三分の二以上が、北米で生産されている。そして他のどの国よりも多くのスポーツ映画がアメリカで製作されている。スポーツを学ぶのであれば、英語は不可欠なツールである。この講義ではスポーツ映画を題材にとりあげ、スポーツに関連した言葉が日常慣用句となっている多くの例を多々紹介し、より高い英語学習へのモチベーションを促す。

授業の一般目標

学生は英語の知識、読解、聴解力を高め上達することを目的とする。特に英語の各スポーツの中における用語法、そしてそれがいかに日常の慣用句にはいりこんだかを学習し会得する。又、自分の興味あるスポーツに関するより多くの情報を、インターネット、雑誌、本や映画からどのように得るかを学ぶ。

授業の到達目標

■	認知的領域	スポーツの中で使われる英語の語句がどのように日常の英語慣用句に使われているかを理解し、教材の内容を原語で理解できるようになる。
■	情意的領域	スポーツ映画から、北米のスポーツ文化と背景をより理解し、知識を深める。
□	技能表現的領域	

授業計画(全体)

"REMEMBER THE TITANS"「タイタンズを忘れない」という映画を使用。これは、2009年、44代目に初の黒人大統領のバラク・オバマを選出したアメリカで、38年前に実際に起こった話です。1971年に当時人種統合したばかりのぎくしゃくした高校のアメフトチームを無敗で州大会優勝へ導いた初の黒人ヘッドコーチの実話であり、それを基本の題材にしながら、各テーマの英語フレーズと用法、そしてスポーツとその背景についても講義する。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の内容、目的と進め方。北米のスポーツ文化の背景の紹介。 [授業外学習]映画の全体的なあらすじを原語で理解してくる事。	⑨	[テーマ] チャプター 20,21,22 [内容] 今週のフレーズと今週のセンテンスを学習 [授業外学習]今週のフレーズとセンテンスを習得
②	[テーマ] ハイライト20で映画の内容紹介と理解 [内容] 今週のフレーズと今週のセンテンスを学習　小クイズの確認あり [授業外学習]今週のフレーズとセンテンスを習得	⑩	[テーマ] チャプター 23,24 [内容] 今週のフレーズと今週のセンテンスを学習　小クイズの確認あり [授業外学習]今週のフレーズとセンテンスを習得
③	[テーマ] 映画とその教材よりチャプター 1,2,3 [内容] 今週のフレーズと今週のセンテンスを学習 [授業外学習]今週のフレーズとセンテンスを習得	⑪	[テーマ] チャプター 25,26 [内容] 今週のフレーズと今週のセンテンスを学習 [授業外学習]今週のフレーズとセンテンスを習得
④	[テーマ] チャプター 4,5,6 [内容] 今週のフレーズと今週のセンテンスを学習　小クイズの確認あり [授業外学習]今週のフレーズとセンテンスを習得	⑫	[テーマ] チャプター 27,28,29,30,31 [内容] 今週のフレーズと今週のセンテンスを学習　小クイズの確認あり [授業外学習]今週のフレーズとセンテンスを習得
⑤	[テーマ] チャプター 7,8,9,10 [内容] 今週のフレーズと今週のセンテンスを学習 [授業外学習]今週のフレーズとセンテンスを習得	⑬	[テーマ] Making Documentory 1 [内容] 今週のフレーズと今週のセンテンスを学習　小クイズの確認あり [授業外学習]今週のフレーズとセンテンスを習得
⑥	[テーマ] チャプター 11,12,13 [内容] 今週のフレーズと今週のセンテンスを学習　小クイズの確認あり [授業外学習]今週のフレーズとセンテンスを習得	⑭	[テーマ] Making Documentory 2 [内容] 今週のフレーズと今週のセンテンスを学習 [授業外学習]今週のフレーズとセンテンスを習得
⑦	[テーマ] チャプター 14,15,16 [内容] 今週のフレーズと今週のセンテンスを学習 [授業外学習]今週のフレーズとセンテンスを習得	⑮	[テーマ] 全体総括 [内容]　半期の講義内容をまとめて質疑応答。 [授業外学習]　期末テストへむけて復習
⑧	[テーマ] チャプター 17,18,19 [内容] 今週のフレーズと今週のセンテンスを学習　小クイズの確認あり [授業外学習]今週のフレーズとセンテンスを習得	⑯	[テーマ] 期末テストとまとめ [内容] 講義内で学習した内容の理解度とその到達度を確かめる期末テストおよびその説明 [授業外学習]

成績評価方法(方針)

出席率30%、講義中の参加態度、発言、課題、小クイズで30%、期末テストで40%

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎			50%
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度	○	○		10%
出席	○			40%

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・講義受講人数は80人に限定。
・この講義は、英語の教材を使用。講義中の説明は日本語で行いますが、英語とその文化への興味と学習熱意がある学生に受講して頂きたい。
・16回講義中、正当な理由なしに5回以上欠席は、単位習得不可。・ミニテストも常時有り。
・20分以上の遅刻は欠席扱い。居眠り/携帯使用厳禁 3回目注意者は退室。
・講義の進行具合によって、授業計画は多少変更します。

関連科目			
教科書	教科書なし。その都度プリント配布。	参考書	
連絡先	mpk@gol.com		

授業科目名	ドイツ語 I Introduction to German I				担当教員	小松恵一
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	演習	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

ドイツ語の初等文法を学ぶ。まずは、文法を一歩一歩急がず解説してゆく。その際、教科書として<Themen Aktuell I>を用いる。この教科書は、外国人向けのドイツ語学校あるいはドイツ語コースで一般的に用いられており、すべてドイツ語で書かれている。練習問題も豊富で、記述問題、会話訓練、聞き取りなど、さまざまな仕方でドイツ語に接近してゆくことができる。

授業の一般目標

文法がわからないと、ドイツ語は辞書も引けません。そこで、まず文法の初歩を理解できるようにすることが目標です。冠詞および名詞の格変化、人称代名詞、動詞の人称変化です。

授業の到達目標

■	認知的領域	ドイツ語の初等文法を理解する。
□	情意的領域	
■	技能表現的領域	学習したドイツ語で積極的に話してみる。

授業計画(全体)

毎回、はじめの40分は、文法の解説をする。その後、文法の暗記を20分、皆で声を合わせて朗誦して覚えるようにする。その後20分は、書き取りの練習に当てる。最期の10分は、学内レポートあるいは小テストに当てる。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] ドイツおよびドイツ語への導入 [内容] Allgemeine erklärung über deutsche Kultur, Politik und Wirtschaft und auch natürlich Aussprache [授業外学習] シラバスをよく読む。ドイツに関して興味のあることを調べる。(1S)	⑨	[テーマ] 約束する、情報を求める [内容] Wann fährst Du morgen vom Bahnhof ab? Halb elf. Dann können wir uns gegen zehn Uhr vor dem Bahnhof treffen? Mein Freund kommt mit. [授業外学習] 小テストの復習(1S)
②	[テーマ] ドイツ語による挨拶 [内容] Guten Morgen. Wie geht es Ihnen, Professor? Danke, gut. Und Ihnen? Sehr Gut, Ausgezeichnet. Bis bald. Auf Wiedersehen! [授業外学習] 小テストの復習(1S)	⑩	[テーマ] 報告する(はがきを書く) [内容] Am Morgen früh gehe ich am Strand spazeiren. Danach esse ich schönes und reichhaltiges Frühstuck. Dann lese ich den ganzen Tag einen Roman. [授業外学習] 小テストの復習(1S)
③	[テーマ] 人称の概要 [内容] Du bist so schön! Sie sind so schön! Ich bin Student. Du bist auch Student. Sie ist Studentin. Wir sind Studenten! [授業外学習] 小テストの復習	⑪	[テーマ] 一日の出来事を記録する [内容] Um sieben stehe ich auf. Gegen elf gehe ich zur Uni. In der Mensa esse ich Nudeln. Am Nachmittag besuche ich die Vorlesung von Prof. K. [授業外学習] 小テストの復習(1S)
④	[テーマ] 一般動詞の人称変化 [内容] Ich geht heute zur Uni. Du gehst nicht. Er geht auch. Wir gehen zusammen. [授業外学習] 小テストの復習(1S)	⑫	[テーマ] 予定の言い方 [内容] Ich habe vor, morgen nachmittag nach Sendai zu fahren, um meine Freundin zu sehen. Dann kann ich nicht mit Dir mitfahren. [授業外学習] 小テストの復習(1S)
⑤	[テーマ] ものを名指して記述する [内容] Das ist mein Buch. Das ist nicht dein Buch. Das Buch ist weiß. Das Buch ist dick. [授業外学習] 小テストの復習	⑬	[テーマ] 住む家を探す [内容] Man sucht nach einer schönen Wohnung. Aber es ist schwer, so eine zu finden. [授業外学習] 小テストの復習(1S)
⑥	[テーマ] 値段の言い方 [内容] Das Buch kostet 24 Euro. Ist das nicht so teuer? Für seine Dicke ist es preiswert, glaube ich. [授業外学習] 小テストの復習 (1S)	⑭	[テーマ] 映画を見る [内容] Einen Deutschen Film sehen wir in der Klasse, ohne ins Kino zu gehen. Welcher Film soll gewählt werden, weiß niemand noch jetzt. [授業外学習] 小テストの復習(1S)
⑦	[テーマ] レストランでの注文 [内容] Ich möchte Schweinebraten mit Salat essen. Ich möchte auch Bier trinken. Was möchtest Du noch etwas haben? [授業外学習] 小テストの復習(1S)	⑮	[テーマ] これまで全体の復習 [内容] Fassen wir zusammen, was wir bisher lernen, um uns für das Examen von nächster Woche vorzubereiten. [授業外学習] 試験の準備(3S)
⑧	[テーマ] レストランでの会話と勘定 [内容] Das Essen ist sehr gut. Ja, das schmeckt gut. Dann zahlen bitte! Zusammen oder getrennt? Zusammen. 38 Euro bitte. 40 Euro, stimmt so. [授業外学習] 小テストの復習(1S)	⑯	[テーマ] 筆記・口頭試験 [内容] Schriftliche und mündliche Prüfung. [授業外学習]

成績評価方法(方針)

出席及び授業態度が重要。授業内での作業が多いので、それに対する取り組みも評価の対象となる。随時、小テストを行う(50点分)。最後の試験は50点分。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 \ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎	○	◎	50%
授業内レポート	◎		◎	50%
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度				
出席				

履修上の注意(受講学生に望むこと)

積極的関与を求める。予習復習を課す。

関連科目			
教科書	教科書はない。テクストはプリントして配布する。	参考書	
連絡先	小松恵一研究室(A506)オフィス・アワー水曜日午後2時20分～3時50分		

授業科目名	ドイツ語Ⅱ Introduction to German II				担当教員	小松恵一
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	演習	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

ドイツ語Ⅰを履修していることが前提となる。前期で初等文法は終わっていないので、前半はその続き。さらに、後半では自分史(これまでの来歴とこれからの展望)を書いて、発表する。

授業の一般目標

ドイツ語の初等文法を終えることが目標である。さらに、ドイツ語で自分を語る。

授業の到達目標

■	認知的領域	ドイツ語の初等文法を理解する。
□	情意的領域	
■	技能表現的領域	学習したドイツ語を使って表現できる。

授業計画(全体)

前期に引き続き次のようにする。毎回、はじめの40分は、文法の解説をする。その後、文法の暗記を20分、皆で声を合わせて朗誦して覚えるようにする。その後20分は、書き取りの練習に当てる。最期の10分は、学内レポートあるいは小テストに当てる。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] タバコを呑むべきではない(sollen) [内容] Du sollst nicht so viel rauchen. Vielmehr möchte ich sagen, du sollst aufhören, zu rachen. Aber das ist meine Freiheit, nicht wahr? [授業外学習] シラバスをよく読む(1S)	⑨	[テーマ] 願望を言う、評価する、非難する(比較級) [内容] Lieber möchte ich einen Kaffee trinken. Am besten trinkt man einen Kaffee ohne von anderen angesprochen zu werden und stumm alleine. [授業外学習] 小テストの復習をする(1S)
②	[テーマ] 仲間を激励する [内容] Ich kann nicht mitspielen. Du mußt aber unbedingt mitspielen. Ich möchte ja gern, aber ich kann wirklich nicht. Bald geht es Dir bestimmt besser. [授業外学習] 小テストの復習をする(1S)	⑩	[テーマ] 自分史を書く(1) [内容] Zuerst schreibt man die Erreignisse im Leben, die man bisher erfahren hat, in Japanisch. [授業外学習] 自分史を推敲する
③	[テーマ] 出来事や行動を報告する(現在完了) [内容] Ich habe gestern Fußball gespielt. Dabei bin ich plötzlich gefallen und Schmerzen im Fuß gehabt. Mein Freund hat den Arzt geholt. [授業外学習]	⑪	[テーマ] 自分史を書く(2) [内容] Dann versucht man mit eigener Kraft, es ins Deutsche zu übersetzen. [授業外学習] ドイツ語に直す(1S)
④	[テーマ] 報告を読む、確認する(現在完了) [内容] Ich bin eine Woche in Berlin. Gestern habe ich zum erstenmal hier Sushi-Bar besucht, weil ich erst vom deutschen Essen müde geworden bin. [授業外学習] 小テストの復習をする (1S)	⑫	[テーマ] 自分史を書く(3) [内容] Den Versuch fortsetzen. [授業外学習] さらにドイツに直す(1S)
⑤	[テーマ] リライトした新聞記事を読む(1) [内容] Ich bin einfach froh, dass ich die Chance habe, ein weiteres Halbfinale bei einem Grand-Slam-Turnier zu spielen", sagte die Russin nach ihrem Sieg. [授業外学習]	⑬	[テーマ] 自分史を書く(4) [内容] Die Übersetzungen werden von mir korrigiert oder umgeschrieben. [授業外学習] さらにドイツ語に直す(1S)
⑥	[テーマ] リライトした新聞記事を読む(2) [内容] „Es ist ein Wunder, dass ich das Spiel noch gewonnen habe", sagte Ferrer nach dem Kraftakt über 3:44 Stunden. [授業外学習] 小テストの復習をする(1S)	⑭	[テーマ] 自分史を完成する。 [内容] Die Biographien werden so viel wie die Zahl der Studenten kopiert und je in einem Heft gebunden. [授業外学習] 発表の練習をする(3S)
⑦	[テーマ] ベルリン紹介(1) [内容] Berlin ist die größeste Stadt in Deutschland. Man sagt manchmal, sie ist keine deutsche Stadt. Mit DVD die Szenen in Berlin vorstellen. [授業外学習] 小テストの復習をする(1S)	⑮	[テーマ] ドイツ語で自分史を発表する [内容] Jede Studenten/-innen präsentieren eigene Biographie und seine zu- künftige Hoffnung auf deutsch. [授業外学習]
⑧	[テーマ] ベルリン紹介(2) [内容] Berlin kennenlernen heißt in die deutsche Geschichte hineingehen. [授業外学習] 小テストの復習をする(1S)	⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]

成績評価方法(方針)

成果として、皆の自分史と将来展望をドイツ語でまとめたものを文集にまとめる。それが50%。毎回の小テストが50%。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 \ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				
授業内レポート	◎		◎	50%
授業外レポート				
演習・実技	◎	—	◎	50%
授業態度				
出席				

履修上の注意(受講学生に望むこと)

熱心に参加すること。予習復習をすること。

関連科目			
教科書	教科書はない。テクストはプリントして配布する。	参考書	
連絡先	小松恵一研究室(A506)オフィス・アワー水曜日午後2時20分～3時50分		

授業科目名	スペイン語 I Introduction to Spanish I (S.)				担当教員	平田　忠
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	演習	関連資格	なし
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

この授業では、スペイン語による読み書きの基礎について解説します。また、比較的形が決まっている簡単な日常会話の練習もします。さらに、スペイン語を公用語とする国々の文化を紹介します。

授業の一般目標

以下のようなことを目標としてください：①スペイン語の読み書きに関する基礎的なルールを習得すること、②挨拶などの簡単な表現を覚えて使えるようになること、③スペインとラテンアメリカ諸国の文化を知ること。

授業の到達目標

■	認知的領域	読み書きの基礎的なルールを理解する。
■	情意的領域	異なる文化を理解しようとする態度を持つ。
■	技能表現的領域	スペイン語を用いて適切に伝える能力を身につける。

授業計画（全体）

スペイン語の読み書きに関する基礎的なルールについて順次解説します。それに加えて、毎回の授業で、その時間で覚えた事柄を用いての表現の練習と挨拶などのとても簡単な会話の練習をします。また、前回習った内容についてのテストを毎回行います。その他に、スペイン語文化（音楽、祭り、スポーツ、テレビなど）の紹介をします。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 初めに [内容] スペイン語の特徴(どのような国で使われているか、日本語との類似点・相違点、身の回りのスペイン語など)について知る [授業外学習]身のまわりのスペイン語の商品名を探してみよう(1時間程度)	⑨	[テーマ] 動詞の規則活用④ [内容] -erで終わる動詞（主語が複数の場合） [授業外学習]次回のテストに備えて復習をする （1時間）
②	[テーマ]発音① [内容] 母音字と子音字の読み方 [授業外学習]次回のテストに備えて復習をする(1時間)	⑩	[テーマ] 動詞の規則活用⑤ [内容] -irで終わる動詞（主語が単数の場合） [授業外学習]次回のテストに備えて復習をする （1時間）
③	[テーマ] 発音② [内容] 前回の復習、アクセントなど [授業外学習]次回のテストに備えて復習をする （1時間）	⑪	[テーマ] 動詞の規則活用⑥ [内容] -irで終わる動詞（主語が複数の場合） [授業外学習]次回のテストに備えて復習をする （1時間）
④	[テーマ] 名詞、冠詞、形容詞① [内容] 名詞の性別と複数形、冠詞の種類と形、-oで終わる形容詞の形 [授業外学習]次回のテストに備えて復習をする （1時間）	⑫	[テーマ] 動詞tener① [内容] 活用と用法 [授業外学習]次回のテストに備えて復習をする （1時間）
⑤	[テーマ] 形容詞② [内容] -o以外で終わる 形容詞の形 [授業外学習]次回のテストに備えて復習をする	⑬	[テーマ] 数詞 [内容] 数を表わす言葉 [授業外学習]次回のテストに備えて復習をする （1時間）
⑥	[テーマ] 文の形、動詞の規則活用① [内容] スペイン語の文の形、主語になる人称代名詞、-arで終わる動詞（主語が単数の場合） [授業外学習]次回のテストに備えて復習をする （1時間）	⑭	[テーマ] 動詞tener② [内容] tenerを用いた表現 [授業外学習]次回のテストに備えて復習をする （1時間）
⑦	[テーマ] 動詞の規則活用② [内容] -arで終わる動詞（主語が複数の場合） [授業外学習]次回のテストに備えて復習をする （1時間）	⑮	[テーマ] 復習 [内容] これまでの学習内容を復習する [授業外学習]最終回のテストに備えて復習をする （2時間）
⑧	[テーマ] 動詞の規則活用③ [内容] -erで終わる動詞（主語が単数の場合） [授業外学習]次回のテストに備えて復習をする （1時間）	⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]

成績評価方法（方針）

毎回の授業でテストを行ないます。その成績（90%）と授業での態度(10%)を総合して成績を決定します。
テストは次回の授業で返却すると同時に、解答について解説をします。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				
授業内レポート	小テスト◎	小テスト◎	小テスト◎	90%
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度		◎	◎	10%
出席				

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・この授業では声を出してください。質問にはっきりと答える、大きな声で読むことを心がけてください。
・欠席した回小テストは0点です。したがって、欠席が多くなると平均点が下がって、単位をとることが難しくなります。できる限り授業に出席しましょう。
・毎回のテストのために復習が必要です。
・配布するプリントを保存するために、ファイルを持参してください。

関連科目	スペイン語 II		
教科書	教科書は使用しません。 プリントを配布します。	参考書	関心と興味に応じて参考書あるいは辞書を紹介します。
連絡先	研究室はA棟502、相談・質問のための時間帯は火曜日と水曜日の昼休みです。		

授業科目名	スペイン語Ⅱ Introduction to Spanish II (S.)				担当教員	平田　忠
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	演習	関連資格	なし
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

この授業では、スペイン語Ⅰに引き続き、スペイン語による読み書きの基礎について解説します。また、簡単な日常会話の練習もします。さらに、スペイン語を公用語とする国々の文化を紹介します。

授業の一般目標

以下のようなことを目標としてください：①スペイン語の読み書きに関する基礎的なルールを習得すること、②簡単な会話を覚え、場面に応じて使えるようになること、③スペインとラテンアメリカ諸国の文化を知ること。

授業の到達目標

■	認知的領域	読み書きの基礎的なルールを理解する。
■	情意的領域	異なる文化を理解しようとする態度を持つ。
■	技能表現的領域	スペイン語を用いて適切に伝える能力を身につける。

授業計画（全体）

スペイン語Ⅰに引き続いてスペイン語の読み書きに関する基礎的なルールについて順次解説します。それに加えて、毎回の授業で、その時間で覚えた事柄を用いての表現の練習と簡単な会話の練習をします。また、前回習った内容についてのテストを毎回行います。その他に、スペイン語文化（音楽、祭り、スポーツ、テレビなど）の紹介をします。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ]動詞ser① [内容]serの活用と用法 [授業外学習]次回のテストに備えて復習をする （1時間）	⑨	[テーマ]動詞querer① [内容]quererの活用と用法 [授業外学習]次回のテストに備えて復習をする （1時間）
②	[テーマ]動詞ser② [内容]serを用いた表現 [授業外学習]次回のテストに備えて復習をする （1時間）	⑩	[テーマ]動詞querer② [内容]quererを用いた表現 [授業外学習]次回のテストに備えて復習をする （1時間）
③	[テーマ]動詞estar① [内容]estarの活用と用法 [授業外学習]次回のテストに備えて復習をする	⑪	[テーマ]動詞poder① [内容]poderの活用と用法 [授業外学習]次回のテストに備えて復習をする （1時間）
④	[テーマ]前置詞 [内容]主な前置詞の用法 [授業外学習]次回のテストに備えて復習をする （1時間）	⑫	[テーマ]動詞poder② [内容]poderを用いた表現 [授業外学習]次回のテストに備えて復習をする （1時間）
⑤	[テーマ]動詞estar② [内容]estarを用いた表現 [授業外学習]次回のテストに備えて復習をする （1時間）	⑬	[テーマ]代名詞 [内容]目的語になる代名詞 [授業外学習]次回のテストに備えて復習をする （1時間）
⑥	[テーマ]動詞ir① [内容]irの活用と用法 [授業外学習]次回のテストに備えて復習をする （1時間）	⑭	[テーマ]再帰動詞① [内容]再帰動詞の活用と用法 [授業外学習]次回のテストに備えて復習をする （1時間）
⑦	[テーマ]所有形容詞と指示形容詞 [内容]所有を表わす言葉、指し示す言葉 [授業外学習]次回のテストに備えて復習をする （1時間）	⑮	[テーマ]再帰動詞② [内容]再帰動詞を用いた表現 [授業外学習]最終回のテストに備えて復習をする （1時間）
⑧	[テーマ]動詞ir① [内容]irを用いた表現 [授業外学習]次回のテストに備えて復習をする （1時間）	⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]

成績評価方法（方針）

毎回の授業でテストを行ないます。その成績（90%）と授業での態度(10%)を総合して成績を決定します。
テストは次回の授業で返却すると同時に、解答について解説をします。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				
授業内レポート	小テスト◎	小テスト◎	小テスト◎	90%
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度		◎	◎	10%
出席				

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・この科目を受講するためには、「スペイン語Ⅰ」の単位取得が必要です。
・この授業では声を出してください。質問にはっきりと答える、大きな声で読むことを心がけてください。
・欠席した回小テストは0点です。したがって、欠席が多くなると平均点が下がって、単位をとることが難しくなります。できる限り授業に出席しましょう。
・毎回のテストのために復習が必要です。
・配布するプリントを保存するために、ファイルを持参してください。

関連科目	スペイン語Ⅰ		
教科書	教科書は使用しません。 プリントを配布します。	参考書	関心と興味に応じて参考書あるいは辞書を紹介します。
連絡先	研究室はA棟502、相談・質問のための時間帯は火曜日と水曜日の昼休みです。		

授業科目名	中国語Ⅰ Chinese Ⅰ				担当教員	馬 佳濛
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	演習	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

中国語の発音練習と基礎的文法の学習を通じて、基本的な表現能力を身につける。中国語のピンインの発音から文法の説明と共に会話の練習まで進めていく。また、授業を通して中国の文化や国情についても紹介する。

授業の一般目標

中国語の発音体系、特に声調をしっかり理解し、正確に発音できるようにする;中国語で簡単な自己紹介及び常用表現を身につける;中国の文化や社会に対する理解を深める。

授業の到達目標

■	認知的領域	中国の文化及び国情に対する理解を深める。
■	情意的領域	日本と中国の友好関係を発展させる意欲を持つようになる。
■	技能表現的領域	ピンインを正確に発音できる。中国語で簡単な挨拶やコミュニケーションができるようになる。

授業計画(全体)

基本的にはテキストに沿って進み、実際の進度は学生の学習進度によって調整する。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法、中国の文化、中国語の特徴などを紹介する [授業外学習] シラバスを熟読すること	⑨	[テーマ] 第6課 何がありますか [内容] 動詞、助数詞、会話 [授業外学習] テキストの練習問題をもとに復習する
②	[テーマ] ピンインの学習 [内容] 単母音の発音練習、声調の発音特徴、声調の発音練習 [授業外学習]声調の抑揚に富む早口を正しく発音できる	⑩	[テーマ] 第7課 ホテルにチェックイン [内容] 完了を表す語、選択疑問文、会話 [授業外学習] テキストの練習問題をもとに復習する
③	[テーマ] ピンインの学習 [内容] 子音の発音練習、簡単な挨拶文を勉強する [授業外学習] 中国語での挨拶を身につける	⑪	[テーマ] 第8課 何時に行きますか [内容] 経験を表す語、時をあらわす語、会話 [授業外学習] テキストの練習問題をもとに復習する
④	[テーマ] 第1課 自己紹介 [内容] 自己紹介の言い方、人称代名詞 [授業外学習] テキストの練習問題をもとに復習する	⑫	[テーマ] 第9課 タクシーに乗る [内容] 前置詞、時間の長さを表す語、目的語をもつ動詞、会話 [授業外学習] テキストの練習問題をもとに復習する
⑤	[テーマ] 第2課 これは何ですか [内容] 指示代名詞(1)、否定表現、疑問詞、会話 [授業外学習] テキストの練習問題をもとに復習する	⑬	[テーマ] 第10課 試着と支払い [内容] 助動詞、前置詞、動詞の重ね用法、会話 [授業外学習] テキストの練習問題をもとに復習する
⑥	[テーマ] 第3課 これはいかがですか [内容] 指示代名詞(2)、形容詞述語文、疑問詞、会話 [授業外学習] テキストの練習問題をもとに復習する	⑭	[テーマ] まとめ [内容] 単語、文法、リスニング、ヒアリング [授業外学習] テストに備えて復習する
⑦	[テーマ] 第4課 買い物 [内容]数詞、助詞、数量を表す語、会話 [授業外学習] テキストの練習問題をもとに復習する	⑮	[テーマ] 期末試験 [内容] 授業の達成度、理解度を確かめるため期末試験を行う [授業外学習] テストに備えて復習する
⑧	[テーマ] 第5課 どこにありますか [内容] 場所指示代名詞、動詞、助動詞、会話 [授業外学習] テキストの練習問題をもとに復習する	⑯	[テーマ] 期末試験 [内容] 授業の達成度、理解度を確かめるため期末試験を行う [授業外学習]

成績評価方法(方針)

講義時間内に指名し、その発音、回答の内容で評価する平常点と、最終講義日に行う筆記試験(ヒアリングを含む)の成績で評価する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 \ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	○		◎	60%
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度	○	○	◎	40%
出席	○			減点・欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・必ず教科書を準備すること。
・予習・復習をしっかりとすること。
・授業中に、積極的かつ意欲的に参加し、授業外でも学習した知識は恥ずかしがらず積極的に取組むこと。
・授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。

関連科目	中国語Ⅱ(後期)		
教科書	《最新版》1年生のコミュニケーション中国語 塚元慶一 監修 劉穎 著	参考書	しっかり初級中国語 石田友美・桑野弘美・島田亜実・鈴木ひろみ 著
連絡先	馬研究室(第五体育館2F 研究室23)		

授業科目名	中国語Ⅱ Chinese Ⅱ				担当教員	馬 佳濛
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	演習	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

中国語の発音練習と基礎的文法の学習を通じて、基本的な表現能力を身につける。文法と会話の学習を中心に授業を進めて行く。また、授業を通して中国の文化や国情についても紹介する。

授業の一般目標

中国語の発音体系、特に声調をしっかり理解し、正確に発音できるようにする;中国語で簡単な自己紹介及び常用表現を身につける;中国の文化や社会に対する理解を深める。

授業の到達目標

■	認知的領域	中国の文化及び国情に対する理解を深める。
■	情意的領域	日本と中国の友好関係を発展させる意欲を持つようになる。
■	技能表現的領域	ピンインを正確に発音できるようになる;中国語で自己紹介及び簡単な日常会話ができるようになる

授業計画(全体)

基本的にはテキストに沿って進み、実際の進度は学生の学習進度によって調整する。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標とやり方の説明、成績評価の方法 [授業外学習] 前期で学習した内容を復習する	⑨	[テーマ] 第8課 友達に電話する [内容] 方向補語、使役文、謙語、会話 [授業外学習] テキストの練習問題をもとに復習する
②	[テーマ] 第1課 北京に到着 [内容]連動文、動詞句主語、数詞、会話 [授業外学習]テキストの練習問題をもとに復習する	⑩	[テーマ] 第9課 郵便局 [内容] "如果～的话，就…"、前置詞"把"、方向補語"到"、会話 [授業外学習] テキストの練習問題をもとに復習する
③	[テーマ] 第2課 道を尋ねる [内容] 疑問詞"怎么"、動詞＋"了"、反復疑問文、会話 [授業外学習] テキストの練習問題をもとに復習する	⑪	[テーマ] 第10課 医者に行く [内容] "有一点儿"、助動詞"要"、会話 [授業外学習] テキストの練習問題をもとに復習する
④	[テーマ] 第3課 買い物 [内容]動詞＋"一点儿"、比較表現、会話 [授業外学習] テキストの練習問題をもとに復習する	⑫	[テーマ] 第11課 家庭訪問 [内容]助動詞"用"、進行形、"就是"、会話 [授業外学習] テキストの練習問題をもとに復習する
⑤	[テーマ] 第4課 バスに乗る [内容] 名詞修飾詞、副詞、結果補語、会話 [授業外学習] テキストの練習問題をもとに復習する	⑬	[テーマ] 第12課 謝恩会 [内容] "就要～了"、変化を表す語、"有了"、会話 [授業外学習] テキストの練習問題をもとに復習する
⑥	[テーマ] 第5課 新しい友達 [内容] 様態補語、2つの"了"、会話 [授業外学習] テキストの練習問題をもとに復習する	⑭	[テーマ] まとめ [内容] 単語、文法、リスニング、ヒアリング [授業外学習] テストに備えて復習する
⑦	[テーマ] 第6課 外食 [内容] 助詞"过"、主述述語文、動詞"喜欢"、"多"、会話 [授業外学習]テキストの練習問題をもとに復習する	⑮	[テーマ] 期末試験 [内容] 授業の達成度、理解度を確かめるため期末試験を行う [授業外学習] テストに備えて復習する
⑧	[テーマ] 第7課 約束 [内容] 動詞"听说"、"可～了"、助動詞"打算"、会話 [授業外学習] テキストの練習問題をもとに復習する	⑯	[テーマ] 期末試験 [内容] 授業の達成度、理解度を確かめるため期末試験を行う [授業外学習]

成績評価方法(方針)

講義時間内に指名し、その発音、回答の内容で評価する平常点と、最終講義日に行う筆記試験(ヒアリングを含む)の成績で評価する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	○		◎	60%
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度	○	○	◎	40%
出席	○			減点・欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・必ず教科書を準備すること。
・予習・復習をしっかりとこと。
・授業中に、積極的かつ意欲的に参加し、授業外でも学習した知識は恥ずかしがらずに積極的に取組むこと。
・授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。

関連科目	中国語Ⅰ(前期)		
教科書	《最新版》2年生のコミュニケーション中国語 塚元慶一 監修 劉穎 著	参考書	本気で学ぶ中国語 趙玲華 著
連絡先	馬研究室(第五体育館2F 研究室23)		

授業科目名	韓国語Ⅰ Korean Ⅰ				担当教員	金 賢植
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

韓国語に初めて接する受講生の韓国語入門である。ハングル文字のしくみから読み・書き、韓国語を学ぶとき最も苦手とする発音の練習、日常生活に必要な基礎的な表現について講義する。また、言葉と関連して、韓国のスポーツ事情・文化・歴史などについても紹介しながら授業を進めていく。

授業の一般目標

テキストをもとに、「聞く・読む」基礎的な能力を学習し、「話す・聞く」能力の習得を目指して学習することを目標とする。なお、スポーツ事情・文化・歴史に接することにより、韓国に関心を持ち、異文化の理解を深める。

授業の到達目標

■	認知的領域	韓国語の文字(ハングル)を読める。韓国語の特徴が理解できる。
■	情意的領域	韓国語の背景や韓国の文化に触れ、外国語習得や異文化交流に更なる関心を持つ。
□	技能表現的領域	

授業計画(全体)

韓国語を初めて学ぶ学生を対象し、発音、文字、ならびに簡単な日常会話をわかりやすく説明する。テキストに沿ってゆっくり進み、全部で15回の講義項目を行い、2年次の韓国語Ⅱへ進む基礎的な語学力を身につける。文字と発音の段階から、あいさつなど基礎的な会話の要素もくわえ、知識と応用のバランスに配慮した授業を行う。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の目標と進め方、シラバス説明など授業紹介、韓国紹介、韓国語の簡単な挨拶紹介 [授業外学習] 韓国・韓国語に関して興味のあることを調べる	⑨	[テーマ] 予定や持ち物の有無② [内容] ある、いる、ありません、いません の表現の練習、教科書6課の練習問題 [授業外学習] 教科書6課を読んでおく
②	[テーマ] 韓国語文字(ハングル)の仕組と発音 [内容] 基本母音字母と合成母音字母① [授業外学習] 教科書1課を読んでおく	⑩	[テーマ] 質問の仕方① [内容] それは何ですか、質問に関する表現の習得、教科書7課の単語 [授業外学習] 教科書7課を読んでおく
③	[テーマ]韓国語文字(ハングル)の仕組と発音] [内容] 基本母音字母と合成母音字母② [授業外学習] 教科書2課を読んでおく	⑪	[テーマ] 質問の仕方② [内容] 韓国語を用いて、職業、趣味などを質問できるように練習、教科書7課の練習問題 [授業外学習] 教科書7課を読んでおく
④	[テーマ] 韓国語文字(ハングル)の仕組と発音 [内容] 合成母音字母、自分の名前をハングルで書いてみよう [授業外学習] 教科書3課を読んでおく	⑫	[テーマ] 助詞と疑問詞のまとめ [内容] 韓国語の助詞について日本語と比較しながら学習 [授業外学習] 教科書7課を読んでおく
⑤	[テーマ] 韓国語文字(ハングル)の仕組と発音 [内容] 韓国の食べ物の名前、教室でよく使う言葉 [授業外学習] 教科書4課を読んでおく	⑬	[テーマ] うちとけた表現 [内容]「です・ます」体の作り方学習 [授業外学習] 教科書8課を読んでおく
⑥	[テーマ] 自己紹介、かしこまった丁寧体① [内容]「私は～です。～といいます。」の練習 [授業外学習] 教科書5課を読んでおく	⑭	[テーマ] 家族の呼び名 [内容] 家族の呼び名、家族構成を韓国語で言えるように練習、 [授業外学習] 教科書8課を読んでおく
⑦	[テーマ] 自己紹介、かしこまった丁寧体② [内容]「私は～です。～といいます。」の練習 [授業外学習] 教科書5課を読んでおく	⑮	[テーマ] 総括 [内容] 1－8課まで学習した内容の総括、会話の練習 [授業外学習] 最終回のテストに備えて復習をする
⑧	[テーマ] 予定や持ち物の有無① [内容] ある、いる、ありません、いません の表現学習、教科書6課の単語 [授業外学習] 教科書6課を読んでおく	⑯	[テーマ] 期末テスト [内容] 授業の理解度を確認するための試験を実施する [授業外学習] テストの準備をしておく

成績評価方法(方針)

試験は、期末試験(評価割合80%)、授業内課題を評価する(評価割合20%)。これらの結果を総合して評価を行う。授業中における態度は減点対象になる。16回授業で4回以上欠席する場合、単位不可(欠格条件)。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎	◎		80%
授業内レポート			○	20%
授業外レポート				無し
演習・実技				評価対象外
授業態度				減点アリ
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

私語・スマートフォン(タブレット)使用・時刻等の授業進行に妨げになり、他の受講生に迷惑となる行為を厳禁とする。積極的に授業に参加することを求める。

関連科目	韓国語Ⅱ		
教科書	『新チャレンジ韓国語』、白水社、金順玉著	参考書	『もっとチャレンジ韓国語』、白水社、金順玉著
連絡先	hs-kim@sendai-u.ac.jp		

授業科目名	韓国語Ⅱ Korean Ⅱ				担当教員	金 賢植
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

韓国語Ⅰで学んだ内容をベースにして、日常会話を学習し、単語・文法は、会話を行いながら韓国人がよく使うパタン一学習を練習する。また、基礎的な文章を応用して、あいさつ、買い物、道を尋ね、案内などの日常会話を学ぶ。韓国人とのコミュニケーションができるように、ペアを組んで発表するなど会話中心の授業を行う。

授業の一般目標

実用的な会話場面を掲示し、毎回生徒同士がペアを組んで練習することで、自然な基礎会話能力を身に付ける。学生の興味・関心があるテーマ(スポーツ、旅行)を取り上げ、比較することで韓国と日本の文化をより深く理解できる。

授業の到達目標

■	認知的領域	韓国人と日本人の会話スタイルの類似点・相違点が理解できる。
■	情意的領域	韓国の文化について触れることによって、異文化交流に関心を持ち、広い世界観を確立する。
■	技能表現的領域	韓国語で日常会話ができる。

授業計画(全体)

韓国語Ⅰで学んだ例文を応用しながら、実用的な日常会話ができるように、学生同士あるいはクループで練習を行う。会話を中心に楽しく韓国語の会話を身につけるように授業を行う。(学生の学習の進度によって、授業計画を若干変更する場合があります。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 韓国語Iの復習 [内容] 授業の目標と進め方、シラバス説明など授業紹介 [授業外学習] 韓国語Ⅰで学んだ内容の復習	⑨	[テーマ] 動作の進行や状態表現 [内容]「～しています」という表現を学び、動作の進行や状態表現の練習、教科書11課の練習 [授業外学習] 教科書11課を読んでおく
②	[テーマ] 韓国語Iの復習 [内容] 韓国語Iで学んだ基本的表現の復習、基礎的な韓国語の表現を復習 [授業外学習] 教科書9課を読んでおく	⑩	[テーマ] ～くださいの表現とお金の数え方 [内容] 買い物や誰かにお願いする際に使う表現の習得と練習、教科書11課 [授業外学習] 文末表現、動作の進行や状態表現の復習する
③	[テーマ] 動詞、形容詞 [内容] 好き、嫌いの表現、動詞の否定 練習、教科書9課の単語の学習 [授業外学習] 教科書9課を読んでおく	⑪	[テーマ] 年齢に関する表見 [内容] 年齢の数え方、これまで9課から11課まで学んだ表現を用いて会話の練習 [授業外学習] 教科書12課を読んでおく
④	[テーマ] 目的表現、変則用言 [内容] 動詞の変則用言、目的を表す表現の練習、 [授業外学習] 教科書10課を読んでおく	⑫	[テーマ] 比較表現と二つの文章をつなぐ表現 [内容]「～より、～が」のような比較表現、「～て、～です」「～けれど ～です」のような二つの内容をつなぐ表現の習得 [授業外学習] 教科書12課を読んでおく
⑤	[テーマ] 過去形の作り方 [内容] 動詞の過去型の作り方、「何をしましたか」のやり取り練習、教科書10課の単語の学習 [授業外学習] 会話練習のために、教科書9、10課を読んでおく	⑬	[テーマ] ペアで覚える形容詞 [内容] 日常生活でよく使われる形容詞を用いて会話の練習、教科書12課 [授業外学習] 教科書13課を読んでおく
⑥	[テーマ] 会話練習 [内容] 教科書9課、10課で学んだ表現と動詞を用いて会話の練習 [授業外学習] 会話練習のために、教科書9、10課を読んでおく	⑭	[テーマ] 動詞の可能表現 [内容]「～することができる」の可能表現の練習、教科書13課の単語 [授業外学習] 教科書13課を読んでおく
⑦	[テーマ] 覚えたら便利な動詞 [内容] 身近な動詞を用いて会話の練習、教科書10課 [授業外学習] 教科書11課を読んでおく	⑮	[テーマ] よく使われる副詞、総括 [内容] 副詞を用いた会話の練習、教科書13課、9課から13課までの総括 [授業外学習] 最終回のテストに備えて復習をする
⑧	[テーマ] 文末表現 [内容] 「明日何をするつもりですか。」を用いてよく使われる文末表現の学習、教科書11課の単語の学習 [授業外学習] 教科書11課を読んでおく	⑯	[テーマ] 期末テスト [内容] 授業の理解度を確認するための試験を実施する [授業外学習] テストの準備をしておく

成績評価方法(方針)

試験は、期末試験(評価割合80%)、授業内課題を評価する(評価割合20%)。これらの結果を総合して評価を行う。授業中における態度は減点対象になる。16回授業で4回以上欠席する場合、単位不可(欠格条件)。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎	◎		80%
授業内レポート			○	20%
授業外レポート				無し
演習・実技				評価対象外
授業態度				減点アリ
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

私語・スマートフォン(タブレット)使用・時刻等の授業進行に妨げになり、他の受講生に迷惑となる行為を厳禁とする。積極的に授業に参加することを求める。

関連科目	韓国語Ⅰ		
教科書	『新チャレンジ韓国語』 白水社 金順玉著	参考書	『もっとチャレンジ韓国語』、白水社 金順玉著
連絡先	hs-kim@sendai-u.ac.jp		

≪人生設計科目≫

授業科目名	キャリアプランニング Ⅰ Career Planning Ⅰ (L.)				担当教員	クラス担任教員、キャリアプランニング運営担当教員
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	講義	関連資格	
	履修の方法	必修	単位数	2		

授業の概要

この授業では、学生生活(授業、日常、部活その他)での目的意識(なぜ、今ここにいて、これをやっているのか)を吟味することを通じ、大学生活の充実を図ります。また、1年生からの人生設計(キャリアプランニング)の意識化を行います。

授業の一般目標

ライフステージの一段階として大学生活を考え、学生生活の目標を自分なりにさだめることができる。

授業の到達目標

■	認知的領域	改めて入学時の目標や夢を再確認する。今後の大学生活と進路とを結びつけて考えられる。希望の職業以外の職業にもある程度の知識を持つ。
■	情意的領域	職業や進路を話しあうことができる仲間を持つ。
■	技能表現的領域	コース選択や科目履修を主体的に計画できる。

授業計画(全体)

実施内容により、個別学習、小グループでの演習、クラスでのディベート、クラス合同の授業など、異なった形態をとります。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション(全クラス合同) [内容] キャリア・プランニングの考え方について説明し、本授業の流れについて説明します。 [授業外学習] 自らの将来の希望や見通しを考える。(90分)	⑨	[テーマ] いろいろな職業と必要な知識・技能・資格2(クラス単位) [内容] グループごとに調べた職業について、クラス内で発表します。 [授業外学習] 発表準備。(90分)
②	[テーマ] 講話①(全クラス合同) [内容] 外部講師をお招きし、大学生活で心掛ける点についての講話をして頂きます。 [授業外学習] 普段の生活態度を問い直す。(90分)	⑩	[テーマ] 他者からみた自分・自分からみた他者 (クラス単位) [内容] 仲間からどのように見られているかを互いに検討することを通じ、人間関係における自分のポジションや役割を考えます。 [授業外学習] 他者にどう接するべきかを考える。(90分)
③	[テーマ] 講話②(全クラス合同) [内容] 外部講師をお招きし、大学生活で心掛ける点についての講話をして頂きます。 [授業外学習] 普段の生活態度を問い直してみよう。	⑪	[テーマ] 社会が求める「スキル」「能力」とは (クラス単位) [内容] 行政や産業界から求められる様々な能力のうち、「社会人基礎力」をとりあげ、自己評価を行います。 [授業外学習] 自分の「強み」「弱み」の活かし方を考える。(90分)
④	[テーマ] 導入演習、夏休みの反省、後期の目標(クラス単位) [内容] 本学進学当時の目的について改めて思い返し、夏休みの反省も踏まえ、後期の大学生活の目標を考えます。 [授業外学習] 進学当時からのことを改めて振り返る。(90分)	⑫	[テーマ] 「夢」を描こう(クラス単位) [内容] 10年後の自分を想像したり、10年前の夢を思い出したりしながら、自分の夢について語りあってみよう。 [授業外学習] 改めて自分の将来の姿を考える。(90分)
⑤	[テーマ] 「はたらく」とはどういうことか (クラス単位) [内容] 「はたらく」ということを深く考えると難しい面があります。改めて自分なりに考えてみます。 [授業外学習] はたらく意味を自分なりに考える(90分)	⑬	[テーマ] 来年度の目標を書こう(クラス単位) [内容] 2年生を見据えて、来年どんなことに挑戦したいか、またそのためにどのような取り組みが必要かを検討してみよう。 [授業外学習] 改めて自分の将来の姿を考える。(90分)
⑥	[テーマ] 教師になるには? (クラス単位) [内容] 入学生の過半が希望する教師という職業について、その現状と超えるべきハードル、日程について確認します。 [授業外学習] 教師になるまでの道のりについて調べる(90分)	⑭	[テーマ] 就職内定の4年生・卒業生の話を聞こう(全クラス合同) [内容] 就職の内定を得た4年生や卒業生をお呼びし、進路決定方法、準備方法、現段階でやるべきことなどの講話をしてもらいます。 [授業外学習] 自分なりの就職に向けたスケジュールを考える。(90分)
⑦	[テーマ] 体育・スポーツ系の仕事とは?(クラス単位) [内容] 教師以外の体育・スポーツに関わる仕事、業界と関連資格などを調べ、自分の志望を再度確認します。 [授業外学習] 興味のある職業について考える。(90分)	⑮	[テーマ] 自分の人がらと適職について考えよう(全クラス合同) [内容] 職業興味検査を行い、自己採点と自己分析をしよう。 [授業外学習] 職業興味検査の結果をよく検討する。(90分)
⑧	[テーマ] いろいろな職業と必要な知識・技能・資格1(クラス単位) [内容] スポーツ系以外で世の中にはどんな職業があるのか、またそれらに関連する資格、知識、技能とは? グループごとに調べます。 [授業外学習] グループ学習。(90分)	⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]

成績評価方法(方針)

キャリアプランニング科目は「認定」・「不可」・「放棄」の3種類により評定を行います。評定の材料は出席状況および授業参加の態度です。なお、成績評価のためには3分の2以上の出席が必要です。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 \ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				
授業内レポート	◎	◎	◎	10%
授業外レポート	◎	◎	◎	20%
演習・実技	◎	◎	◎	20%
授業態度	◎	◎	◎	50%
出席				

履修上の注意(受講学生に望むこと)

作業、議論、調査などを通じ、上記のことがらに迫りますので、積極的に参加してください。諸君の自己啓発意欲に期待します。
また、クラス合同の場合の実施教室等は掲示により周知します。

関連科目	キャリアプランニングⅡ・キャリアプランニングⅢ		
教科書	「キャリアプランニング Ⅰ 演習資料」 (オリエンテーション時に配布します)	参考書	
連絡先	クラス担任教員		

授業科目名	キャリアプランニングⅡ Career Planning Ⅱ(S.)				担当教員	キャリアプラニング運営担当教員
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格	
	履修の方法	必修	単位数	2		

授業の概要

就職活動の準備段階として必要な事項について概説する。具体的には、自分は何が得意か、何に向いているかなど、自分自身を知る作業の方法や、昨今の就職をめぐる状況と就職に至るまでの道のりについて概説をする。講義を聞く代わりにインターンシップ(職業体験実習)を行うことも可能である。

授業の一般目標

「自分と職業生活・職業選択」をメインテーマに、自分自身について自覚的に考え、同時に、様々な職業と就職までの道のりについて具体的に考えられるようになることが目標となる。

授業の到達目標

■	認知的領域	職業について、より深い具体的知識を備える。また、職場の人間関係や「やりがい」について自分なりに意見を持てる。
■	情意的領域	職業選択に当たり、自分なりの動機をより強くする。
■	技能表現的領域	社会人らしい考え方、話し方をすることができる。

授業計画(全体)

下記の内容を集中講義の形で実施する。期日等については、後日掲示する。
インターンシップについては、事前のオリエンテーションから実習後のレポート提出までの日程を掲示により告知する。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 現時点の将来像を確認するとともに、本授業の流れについて説明する。 [授業外学習] 自らの将来の希望や見通しについて考える。(90分)	⑨	[テーマ] 社会を知る① [内容] 職業選択理論の考え方を学び、ゲーム形式で実践する。 [授業外学習] 職業の種類や幅について事前に調べておく。(90分)
②	[テーマ] 大学生の就職状況に関する現状分析 [内容] 大学生の就職状況について概説する。 [授業外学習] 就職状況をふまえ、自分の対策を考えること。(90分)	⑩	[テーマ] 社会を知る② [内容] 昨今の就職環境や企業・官公庁における採用動向から就職活動について考える。 [授業外学習] 就職情報サイトなどを事前に閲覧しておく。(90分)
③	[テーマ] 就職までの道すじ [内容] 就職内定までの手続き、必要なことがらを、職種ごとに概説する。 [授業外学習] 関心ある職業について必要なことがらを押さえる。(90分)	⑪	[テーマ] 社会人基礎力① [内容] 社会人基礎力の各要素とその具体的場面における重要性について、講話を行なう。 [授業外学習] 自分なりに職業の位置づけを検討すること。(90分)
④	[テーマ] 自己分析の目的と必要性 [内容] 就職活動で必要となる自己分析の意義と企業等の目的について概説する。 [授業外学習の指示等] 自分なりに自己分析の方針を考える。(90分)	⑫	[テーマ] 社会人基礎力② [内容] 社会人基礎力の各要素について自己評価を行い、エントリーシートなどの分析につなげる。 [授業外学習] 自分なりに職業の位置づけを検討すること。(90分)
⑤	[テーマ] 自己アセスメント① [内容] 自己分析の材料として、自己アセスメント(VPI予定)を行う。 [授業外学習] わからない職業は自分なりに調べておく。(90分)	⑬	[テーマ] キャリアデザイン① [内容] 目標設定理論をもとに、目標とモチベーションの関係について理解を深める。 [授業外学習] 将来の夢や希望の再確認をしておくこと。(90分)
⑥	[テーマ] 自己アセスメント②結果検討 [内容] 自己アセスメントの結果を自己採点し、結果を分析、検討する。 [授業外学習] 分析結果から見た自分像について考える。(90分)	⑭	[テーマ] キャリアデザイン② [内容] グラジュエーション・リストを作成し、目標達成のための方策の具体化を図る。 [授業外学習] 残りの学生生活でやりたいことを事前にまとめる。(90分)
⑦	[テーマ] コミュニケーション能力① [内容] 社会人として必要なコミュニケーション能力について概説する。 [授業外学習] 自分のコミュニケーション能力を検討する。(90分)	⑮	[テーマ] まとめ [内容] これまでのまとめ [授業外学習] 提出物などに漏れがないか確認する。(90分)
⑧	[テーマ] コミュニケーション能力② [内容] 社会人として必要なコミュニケーション能力について、グループワークを行なうことによってその必要性や具体的発揮法を感得する。 [授業外学習] 自身のコミュニケーション力を再検討する(90分)	⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]

成績評価方法(方針)

キャリアプランニング科目は「認定」・「不可」・「放棄」の3種類により評定を行います。評定の材料は出席状況および授業参加の態度です。なお、成績評価のためには3分の2以上の出席が必要です。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 \ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				
授業内レポート	◎	◎	◎	30%
授業外レポート				
演習・実技	◎	◎	◎	35%
授業態度	◎	◎	◎	35%
出席				

履修上の注意(受講学生に望むこと)

作業、議論、調査などを通じ、上記のことがらに迫りますので、積極的に参加してください。諸君の自己啓発意欲に期待します。

関連科目	キャリアプランニングⅠ・キャリアプランニングⅢ		
教科書		参考書	
連絡先	キャリアプラニング運営担当教員(オリエンテーション時に告知する)		

授業科目名	キャリアプランニングⅢ Career Planning Ⅲ(L.)				担当教員	学科・コースのグループ担当教員 キャリアプラニング運営担当教員
開講内容	学年・学期	3・通年	授業方法	講義	関連資格	
	履修の方法	必修	単位数	2		

授業の概要

3年次前期は、将来の進路について明確なイメージを固めゆく時期である。キャリアプランニングⅢでは、学生の進路への意識を高めるべく種々の演習を行うほか、実際の進路指導をめぐる話題を多方面から扱う。

授業の一般目標

1)これまでの自分の生きてきた道程を振り返りつつ、学生生活の二年間を総括する。 2)各人の性格、適性、学力レベルなどを将来の進路希望と関連付けて考える。 3)進路意識を高めるために、企業人事担当者などを招聘し、職業に対するありうべき態度、企業の求める人材像、現在の企業動向等について情報を取得する。 4)より具体的に就活を展開する際に必要とされる知識、技能、手続きなどを把握する。

授業の到達目標

■	認知的領域	学生生活の二年間を将来に結びつけて考える。企業の求める人材像や就職動向について知る。
■	情意的領域	就職活動上、自らの希望を熱意をもって表現する方法の必要性を知ると同時に、実践できる。
■	技能表現的領域	就職活動を展開する際に必要とされる知識、技能、手続きを挙げることができる。

授業計画(全体)

下記に示す内容を中心に、学生各自が実際の就職活動を行う際に役立つ情報を総合的に蓄積していくことが目的である。外部から講師を招聘する場合と、コースまたはクラスごとに演習を行う場合がある。回によって異なるので掲示その他の指示に従うこと。なお、外部から講師を招聘する場合にはクラス合同で授業を行う。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション(全クラス合同) [内容] 現時点の就職状況を確認するとともに、本授業の流れについて説明する。 [授業外学習] 自らの将来の希望や見通しについて考える。(90分)	⑨	[テーマ] 大学院という進路(全クラス合同) [内容] 大学卒業後に継続して学ぶことの意味と意義について考える。 [授業外学習] 大学院の情報を収集する(90分)
②	[テーマ] 自己PRとしての自己紹介 (各クラス) [内容] 就職活動において自己PRは欠かせない。この観点から自己紹介を行ってみる。 [授業外学習]より他者にアピールする自己紹介内容を考える。(90分)	⑩	[テーマ] 就職活動の全体像(全クラス合同) [内容] 就職活動に臨むにあたり、その全体的な流れを把握する。 [授業外学習] 就活支援サイトをチェックする。(90分)
③	[テーマ] 就職の道すじ(各クラス) [内容] 入学以来から卒業までのイベントを挙げながら、就職に至るまでの自らのスケジュールを考える。 [授業外学習] 就職活動のスケジュールを組み立てる。(90分)	⑪	[テーマ] 自己プロデュースの方法 (全クラス合同) [内容] 自分をプロデュースすることの重要性とその方法について述べる。 [授業外学習] 前期の学習内容を振り返る。(90分)
④	[テーマ] 敬語の使いかた・電話ーのマナー(各クラス) [内容] 具体的な事例を想定し、仕事上正しい言葉遣いについて考える。 [授業外学習] 敬語等の使い方を調べる。(90分)	⑫	[テーマ] 対人スキルを磨く(全クラス合同) [内容] 就活に即効性があり、修飾語も重要なマナーと対人スキルについて述べる。 [授業外学習] 対人スキルを日常で実践してみる。(90分)
⑤	[テーマ] 自己分析の実際(各クラス) [内容] 仙台大学生として企業等が期待することはどんなことかを検討することを通じ、自らの長所、短所を改めて考える。 [授業外学習] 自分のアピールポイントを考える。(90分)	⑬	[テーマ] 訴求点を探す(全クラス合同) [内容] 自己アピールのポイントと方法を学ぶ。 [授業外学習の指示等] 自分の長所を考える。(90分)
⑥	[テーマ] 自己PR書、自己紹介書の作成(各クラス) [内容] 自己PR書を試作してみることにより、自分という人間を理解してもらう文章作成のポイントを考える。 [授業外学習] 他己分析をしてみる。(90分)	⑭	[テーマ] 視野を拡げる(全クラス合同) [内容] 企業名や規模に惑わされずに企業を選ぶための方法を理解する。 [授業外学習] 求人票を読む。(90分)
⑦	[テーマ] 履歴書とエントリーシートの作成(各クラス) [内容] 履歴書やエントリーシートの試作を通じて、より良い文書の作成について考える。 [授業外学習] 履歴書とエントリーシートの完成版を作成する。(90分)	⑮	[テーマ] 「働く」を疑似体験する(全クラス合同) [内容] 体験型の就活ナビゲーションを通じて、新社会人になることを具体的にイメージする。 [授業外学習] 就活に必要な用具などを揃える。(90分)
⑧	[テーマ] 夏休みの過ごし方(全クラス合同) [内容] 後期から本格化する就職活動を見据えて夏休みにやるべきことを考える。 [授業外学習] 夏休みの行動指針を立てる。(90分)	⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]

成績評価方法(方針)

キャリアプランニング科目は「認定」・「不可」・「放棄」の3種類により評定を行います。これらのために、出席状況および作業への取組状況を主材料とします。成績評価のためには3分の2以上の出席が必要です。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				
授業内レポート	◎	◎	◎	70%
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度	◎	◎	◎	30%
出席				

履修上の注意(受講学生に望むこと)

就職活動のスタートが遅れることによる不利を背負わないよう、この授業を始めとして積極的な情報収集を心がけてください。

関連科目	キャリアプランニングⅠ・キャリアプランニングⅡ		
教科書	「キャリアプランニングⅢ演習資料」 (オリエンテーション時に配布します)	参考書	
連絡先	学科・コースのグループ担当教員(オリエンテーション時に告知します)		

2. 専門基礎科目

≪講義≫

授業科目名	運動栄養学概論 Introduction to Exercise Nutrition				担当教員	藤井(久)、長橋、岩田、早川、真野、平良
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	講義・演習	関連資格	運動栄養サポーター初級
	履修の方法	必修	単位数	2		

授業の概要

講義、演習を通して運動栄養学の基礎知識や技術について説明する。また、実際のスポーツ現場においてそれらの活用方法を紹介する。

授業の一般目標

運動栄養学の入門的な知識や技術をスポーツ現場での栄養サポート活動を通じて理解する。

授業の到達目標

■	認知的領域	スポーツ現場での栄養サポート活動に必要な運動栄養学の基礎知識を理解する。
■	情意的領域	運動栄養学を活用したスポーツ現場での栄養サポート活動を体験する。
□	技能表現的領域	

授業計画(全体)

1～11回までは教室内で講義または演習形式で授業を進める。12～14回の体験実習(3回分)については5～6月の授業時間外で実施する。体験実習は全体で集まることはせず、期間内に個別で予約をとり実施してもらう。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の進め方と成績評価方法を説明する。また、運動栄養サポート研究会の組織および運動栄養サポーターの制度を説明する。 [授業外学習] ガイドブックをよく読んでおくこと	⑨	[テーマ] データ処理の基礎 [内容] エクセルを用いたデータ集計方法や基本的なグラフの作成方法を理解する。 [授業外学習] レポートを1週間以内に提出すること
②	[テーマ] 栄養サポート活動の方法 [内容] 栄養サポート活動の進め方について事例を挙げて紹介する。栄養サポート対象サークルの練習見学を行う際の留意点を説明する。 [授業外学習] レポートを1週間以内に提出すること	⑩	[テーマ] 食行動科学に基づいた栄養サポート [内容] 栄養サポートに必要な食行動科学の理論と実践例について説明する。 [授業外学習] レポートを1週間以内に提出すること
③	[テーマ] 栄養サポートの基礎知識と情報収集 [内容] 栄養サポートに必要な知識や技術とは何か。勉強方法、情報収集方法について説明する。 [授業外学習] レポートを1週間以内に提出すること	⑪	[テーマ] 献立作成の基礎 [内容] 年齢, 性別, 競技種目, 期分けなどを設定し、対象者に合わせた献立作成の意図を理解させる。 [授業外学習] レポートを1週間以内に提出すること
④	[テーマ] 運動栄養学の基礎(栄養素) [内容] 運動時の栄養素の働きやそれらを多く含む食品を説明する。 [授業外学習] レポートを1週間以内に提出すること	⑫	[テーマ] 栄養サポート活動の体験① [内容] 運動栄養サポート研究会活動の現場に行き、実際の栄養サポート活動を体験する。 [授業外学習] レポートを1週間以内に提出すること
⑤	[テーマ] 競技特性の理解 [内容] スポーツの分析方法について説明する。グループに分かれて、各スポーツ種目のパフォーマンスの特異性を分析する。 [授業外学習] レポートを1週間以内に提出すること	⑬	[テーマ] 栄養サポート活動の体験② [内容] 運動栄養サポート研究会活動の現場に行き、実際の栄養サポート活動を体験する。 [授業外学習] レポートを1週間以内に提出すること
⑥	[テーマ] 体組成の測定と評価 [内容] 実際にさまざまな体組成測定方法を実践しながら、その方法について解説する。体組成の評価の仕方を解説する。 [授業外学習] レポートを1週間以内に提出すること	⑭	[テーマ] 栄養サポート活動の体験③ [内容] 運動栄養サポート研究会活動の現場に行き、実際の栄養サポート活動を体験する。 [授業外学習] レポートを1週間以内に提出すること
⑦	[テーマ] エネルギー補給 [内容] エネルギー必要量の考え方を理解する [授業外学習] レポートを1週間以内に提出すること	⑮	[テーマ] まとめ [内容] 夏休み以降の運動栄養サポート研究会での栄養サポート活動の進め方および運動栄養サポーターの取得方法を説明する。 [授業外学習] ガイドブックをよく読んでおくこと
⑧	[テーマ] 栄養・食事調査の評価 [内容] 食事調査法の種類および特徴を理解する。栄養調査ソフトを用いた栄養価計算方法を理解する。 [授業外学習] レポートを1週間以内に提出すること	⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]

成績評価方法(方針)

全ての回において課されるレポート(70%)と体験実習の取り組み(30%)で評価する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				評価対象外
授業内レポート				評価対象外
授業外レポート	◎			70%
演習・実技		○		30%
授業態度				評価対象外
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

2/3以上の出席がない学生は単位を修得することが出来ない。
体験実習を3回以上実施しなければならない。
体験実習は期間内に3回以上できるよう各自で計画的に実施すること。

関連科目	栄養学、スポーツ栄養学		
教科書	初回授業時にガイドブックを配布する。その他、担当教員によっては別途配布資料がある	参考書	
連絡先	各教員研究室(学生便覧参照)およびD棟2階助手研究室		

授業科目名	生化学 Biochemistry				担当教員	柴原茂樹・林 典夫
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	講義	関連資格	栄養士
	履修の方法	必修	単位数	2		

授業の概要

生化学は生命現象を主として化学的知識や手法を用いて解析し、その本質を分子のレベルで理解しようとするものである。本授業では、1)生体や食物はどのような物質から成り立っているのか、2)それらの物質が生体内でどのような化学変化を遂げて、生体の構成成分やエネルギーの源となるのか、3)これらの過程で細胞・器官、酵素タンパク質、遺伝子などがどのように働いているのかについて学ぶ。

授業の一般目標

栄養学全般を理解する上で必要な生化学の基礎的知識と考え方を学び、それに基づいて栄養に関する諸事項を説明し、或いは批判する能力を身につける。

授業の到達目標

■	認知的領域	人体や食品を構成する物質の種類やそれぞれの構造と機能についての基礎的知識を身に付け、さらに物質とエネルギーの代謝を中心とする生化学的諸概念を理解する。
■	情意的領域	栄養に関する常識を批判的に考える態度を養う。
□	技能表現的領域	

授業計画(全体)

各回のテーマについて生化学的な基本事項を解説する。必要に応じ補足資料や復習問題のプリントを配布する。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 序論 [内容] 生化学とは。生体成分。有機化合物。細胞の基本構造と機能。生体膜。物質の輸送。 [授業外学習] 本日の講義の復習	⑨	[テーマ] 酵素 [内容] 酵素とは。酵素反応の特徴。酵素の構造と活性中心。ビタミンと補酵素。酵素の反応速度と阻害。酵素活性の調節。酵素の細胞内分布とイソ酵素。酵素前駆体。 [授業外学習] 本日の講義の復習
②	[テーマ]糖質の化学Ⅰ [内容] 糖質の種類、構造、性質: 単糖類、オリゴ糖類。 [授業外学習] 本日の講義の復習	⑩	[テーマ] 代謝総論 [内容] 生体内の物質代謝とエネルギー代謝の全体像の概要。生体内の酸化還元反応。ATP合成。 [授業外学習] 本日の講義の復習
③	[テーマ] 糖質の化学Ⅱ [内容] 糖質の種類、構造、性質: 多糖類(澱粉、グリコーゲン、複合糖質とグリコサミノグリカン) [授業外学習] 本日の講義の復習	⑪	[テーマ] 糖質の代謝Ⅰ [内容] グルコースの分解(解糖)。グリコーゲンの合成と分解。 [授業外学習] 本日の講義の復習
④	[テーマ] アミノ酸・タンパク質の化学Ⅰ [内容] アミノ酸の種類、構造、性質。タンパク質構成基本アミノ酸。 [授業外学習] 本日の講義の復習	⑫	[テーマ] 糖質の代謝Ⅱ [内容] クエン酸回路。糖新生。ペントースリン酸回路。その他の糖質代謝。 [授業外学習] 本日の講義の復習
⑤	[テーマ] アミノ酸・タンパク質の化学Ⅱ [内容] ペプチドとペプチド結合。タンパク質の高次構造、性質、機能。 [授業外学習] 本日の講義の復習	⑬	[テーマ] アミノ酸・タンパク質の代謝 [内容] 基本アミノ酸の合成と分解。尿素回路。ヌクレオチドの合成と分解。 [授業外学習] 本日の講義の復習
⑥	[テーマ] 脂質の化学Ⅰ [内容] 脂質の種類、構造、性質: 脂肪酸、単純脂質。 [授業外学習] 本日の講義の復習	⑭	[テーマ] 脂質の代謝 [内容] 脂肪酸の分解。脂肪酸の生合成。ケトン体。アラキドン酸の代謝。コレステロールの代謝。 [授業外学習] 本日の講義の復習
⑦	[テーマ] 脂質の化学Ⅱ [内容] 脂質の種類、構造、性質: 複合脂質、ステロイド、テルペノイド。リポタンパク質。 [授業外学習] 本日の講義の復習	⑮	[テーマ] 核酸代謝および本講義の総括 [内容] プリンおよびピリミジンヌクレオチドの合成と分解。本講義の纏め。 [授業外学習] 本講義全体についての復習
⑧	[テーマ] 核酸と遺伝子 [内容] 核酸の基本構造。核酸塩基、ヌクレオシド、ヌクレオチド、DNA、RNA。クロマチンと核タンパク質。 [授業外学習] 本日の講義の復習	⑯	[授業外学習]

成績評価方法(方針)

期末試験の成績を基本とし、出席状況等を加味して評価する。特別な事情で期末試験を受験できない場合は必ず届け出ること。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 \ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎			70%
授業内レポート	○			10%
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度	○			10%
出席	○			10%

履修上の注意(受講学生に望むこと)

出席日数不足や期末試験の無断欠席は履修「放棄」判定の対象となります。私語などの熱心に学ぼうとしている学生の邪魔となる行為は禁止します。
分からないことはどんな些細な質問でも大歓迎します。

関連科目	栄養学		
教科書		参考書	「生化学」(同文書院)2003;「シンプル生化学」(南江堂)2016
連絡先	欠席届などは授業時間の前後に直接、あるいは教育企画室へ提出して下さい。		

授業科目名	解剖・生理学Ⅰ Anatomy and Physiology Ⅰ				担当教員	柴原茂樹/小澤輝高
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	講義	関連資格	保体教諭、栄養士
	履修の方法	必修	単位数	2		

授業の概要

人体のみならず、地球上の生物体の分子構築ならびに顕微鏡レベルから肉眼レベルまでの基本構造とその機能を学び、それに基づいて人体の仕組みとその働きを理解する。

授業の一般目標

本学科の一つの主題である栄養代謝ならびに運動機能、および両者の結びつきを理解し、健康の維持、増進、運動機能向上あるいは失われた機能改善のために指導的な役割を果たせるような知識を身につける。

授業の到達目標

■	認知的領域	栄養士として、また健康管理に従事する人材として指導的な役割を果たすために必要な知識を修得する。
■	情意的領域	上述の人材として、常に指導的な役割を果たせるようたえず学習を持続する。
□	技能表現的領域	

授業計画(全体)

下記の授業計画に沿って教科書および教官が用意した関連資料を用いて講義を行う。その間に定期的に課題を与えてレポートを提出させ、知識の整理を行うとともに修得状況を確認する。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 序論－細胞から個体へ [内容] 人体を構成する物質、細胞構造、組織ならびに個体の仕組み、細胞膜と物質移動、細胞の情報伝達 [授業外学習]	⑨	[テーマ] 消化器系の基本構成と機能の概要 [内容] 栄養素の消化、吸収、消化管運動 [授業外学習]
②	[テーマ]骨格と骨格筋 [内容] 骨と骨髄および筋の形状と機能、筋の収縮と電気生理、骨と筋の構造と生理機能 [授業外学習]	⑩	[テーマ] 消化器系(1) [内容] 食道、胃の構造と機能、機械的消化と化学的消化 [授業外学習]
③	[テーマ] 血液と体液 [内容] 血液の一般性状、血球の状態と機能、体液の区分と構成 [授業外学習]	⑪	[テーマ] 消化器系(2) [内容] 腸管の構造、消化、吸収、排泄機能 [授業外学習]
④	[テーマ] 血液細胞と免疫機能 [内容] 血清成分と血球の免疫、生体防御機能 [授業外学習]	⑫	[テーマ] 消化器系(3) [内容] 肝臓と膵臓の構造と機能－物質栄養代謝構造 [授業外学習]
⑤	[テーマ] 心臓の構造と機能、ポンプ作用 [内容] 心筋の興奮伝達と収縮、心臓の機造と血液循環、神経による調節 [授業外学習]	⑬	[テーマ] 内分泌と体温調節 [内容] 内分泌の構造と機能、ホルモンとその作用、エネルギー・代謝調節、体温調節 [授業外学習]
⑥	[テーマ] 脈管系と血液循環 [内容] 血管の構造、血圧、臓器循環 [授業外学習]	⑭	[テーマ] 神経系 [内容] 神経・感覚系の構成、中枢神経系、脳神経系、自律神経 [授業外学習]
⑦	[テーマ] 呼吸器系とガス交換 [内容] 呼吸器の構造と生理機能、肺循環、ガス運搬、呼吸運動、呼吸の調節 [授業外学習]	⑮	[テーマ] 感覚系 [内容] 一般性状、視覚、聴覚と平衡感覚、体性感覚 [授業外学習]
⑧	[テーマ] 腎機能と構造、酸・塩基平衡 [内容]腎臓の構造と血液循環、尿の生成、体液の調節、腎臓の代謝、内分泌機能 [授業外学習]	⑯	[テーマ] 試験と総合評価 [内容] [授業外学習]

成績評価方法(方針)

期末試験を1回施行するとともに、授業の途中で関連課題についてレポートを課す。それを統合して総合評価する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	○			60%
授業内レポート	○	○		40%
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度				減点あり
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

関連科目	解剖・生理学Ⅱ、臨床栄養学概論		
教科書	エッセンシャル解剖・生理学、堀川宗之著、 学研メディカル秀潤社	参考書	
連絡先	柴原研究室:LC棟2階		

授業科目名	解剖・生理学Ⅱ Anatomy & Physiology Ⅱ				担当教員	柴原茂樹・林 典夫
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格	栄養士
	履修の方法	必修	単位数	2		

授業の概要

解剖・生理学Ⅰで学習した基本的事項の上に立って、生化学、栄養学、運動栄養学、臨床栄養学などとの関連性に注目しながら、人体の構造と機能についての理解を深めることを目標に学習する。講義には生化学・分子生物学、細胞生物学の発展による新しい内容をも盛り込み、細胞と組織・器官に関する基本を十分に理解し、栄養関連科目における正しい理解力、応用力を身に付けさせることを目指す。

授業の一般目標

栄養学全般を理解する上で必要な解剖生理学的知識と考え方をより深く学び、それに基づいて栄養に関する諸事項を説明し、或いは批判する能力を身につける。

授業の到達目標

■	認知的領域	栄養学関連領域の生化学・分子生物学、細胞生物学的諸概念をより深く理解する。
■	情意的領域	栄養に関する問題点を批判的に考える態度を養う。
□	技能表現的領域	

授業計画(全体)

各回のテーマについて、基本事項を解説する。必要に応じ資料や復習問題のプリントを配布する。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 序論および代謝とエネルギーⅠ [内容] エネルギー代謝の基礎;消化吸収と異化によるエネルギー産生の機構とその調節;糖質、脂質、タンパク質代謝の相互関係 [授業外学習] 本日の講義の復習	⑨	[テーマ] 炎症 [内容] 炎症とは;生体防御機構 [授業外学習] 本日の講義の復習
②	[テーマ] 代謝とエネルギーⅡ [内容] 活性酸素;飢餓代謝とケトン体;肥満、糖尿病、高脂血症と代謝 [授業外学習] 本日の講義の復習	⑩	[テーマ] 癌 [内容] 癌とは;細胞増殖の調節と発癌;癌遺伝子;癌細胞の代謝 [授業外学習] 本日の講義の復習
③	[テーマ] 遺伝と遺伝子Ⅰ [内容] 遺伝と遺伝子の基本事項;複製、転写、翻訳、修復;遺伝情報の発現調節 [授業外学習] 本日の講義の復習	⑪	[テーマ] 老化と細胞死 [内容] 老化の本体;個体と細胞の死と寿命;運動や栄養と寿命 [授業外学習] 本日の講義の復習
④	[テーマ] 遺伝と遺伝子Ⅱ [内容] ジェネティックスとエピジェネティックス;遺伝子と栄養や病気との関連性;性の決定; [授業外学習] 本日の講義の復習	⑫	[テーマ] 内分泌と情報伝達 [内容]内分泌と情報伝達の基礎;ホルモン受容体;細胞内情報 伝達 [授業外学習] 本日の講義の復習
⑤	[テーマ] 血液Ⅰ [内容] 赤血球とヘモグロビンの機能;酸素と二酸化炭素の運搬;活性酸素種 [授業外学習] 本日の講義の復習	⑬	[テーマ] 骨と筋肉 [内容] 骨と筋肉の構造・代謝の基本事項および運動との関係;骨粗鬆症 [授業外学習] 本日の講義の復習
⑥	[テーマ] 血液Ⅱ [内容] 鉄代謝と鉄欠乏性貧血;電解質代謝の基礎 [授業外学習] 本日の講義の復習	⑭	[テーマ] 疲労 [内容] 疲労に関する基本事項;運動と疲労;疲労と神経系 [授業外学習] 本日の講義の復習
⑦	[テーマ] 免疫Ⅰ [内容] 免疫に関する基本事項:免疫に関与する細胞;胸腺;抗体;自己と 非自己;免疫応答 [授業外学習] 本日の講義の復習	⑮	[テーマ] 全体の総括 [内容] 本講義の纏めと補足 [授業外学習] 本講義全体についての復習
⑧	[テーマ] 免疫Ⅱ [内容] 免疫不全と感染;免疫応答の異常;アレルギー;粘膜免疫 [授業外学習] 本日の講義の復習	⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]

成績評価方法(方針)

期末試験の成績を基本とし、出席状況等を加味して評価する。特別な事情で期末試験を受験できない場合は必ず届け出ること。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 \ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎			70%
授業内レポート	○			10%
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度	○			10%
出席	○			10%

履修上の注意(受講学生に望むこと)

出席日数不足や期末試験の無断欠席は履修「放棄」判定の対象となります。私語などの熱心に学ぼうとしている学生の邪魔となる行為は禁止します。
分からないことはどんな些細な質問でも大歓迎します。

関連科目	栄養学		
教科書		参考書	「生化学」(同文書院)2003;「シンプル生化学」(南江堂)2016
連絡先	欠席届などは授業時間の前後に直接、あるいは教育企画室へ提出して下さい。		

授業科目名	栄養学 Nutrition （L）				担当教員	藤井 久雄
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	講義	関連資格	栄養士免許、ﾚｸﾘｴｰｼｮﾝ・ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ、健康運動実践指導者、健康運動指導士、社会福祉主事任用
	履修の方法	必修	単位数	2		

授業の概要

各栄養素等の定義、分類、物質、消化、吸収、代謝、働き、健康増進のための栄養摂取について説明する。

授業の一般目標

各栄養素等の定義、分類、物質、消化、吸収、代謝、働き、健康増進のための栄養摂取について理解する。

授業の到達目標

■	認知的領域	各栄養素等の定義、分類、物質、消化、吸収、代謝、働き、健康増進のための栄養摂取について基本的なことを理解する。
□	情意的領域	
□	技能表現的領域	

授業計画（全体）

各授業テーマごとに、教科書、配布資料、視聴覚教材等を用いて授業を進める。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ]] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法 [授業外学習]授業内容を復習しておくこと	⑨	[テーマ] 無機質① [内容] 無機質の定義、分類、物質、消化、吸収、働きについて説明する [授業外学習]授業内容を復習しておくこと
②	[テーマ] 食習慣と健康 [内容] 食習慣と健康の関連について説明する [授業外学習]授業内容を復習しておくこと	⑩	[テーマ] 無機質② [内容] 疾病予防や健康増進のための無機質の摂取や含有食品の特徴について説明する [授業外学習]授業内容を復習しておくこと
③	[テーマ] タンパク質① [内容] タンパク質の定義、分類、物質、消化、吸収、働きについて説明する [授業外学習]授業内容を復習しておくこと	⑪	[テーマ] ビタミン① [内容] ビタミンの定義、分類、物質、消化、吸収、働きについて説明する [授業外学習]授業内容を復習しておくこと
④	[テーマ] タンパク質② [内容] 疾病予防や健康増進のためのタンパク質の摂取や含有食品の特徴について説明する [授業外学習]授業内容を復習しておくこと	⑫	[テーマ] ビタミン② [内容] 疾病予防や健康増進のためのビタミンの摂取や含有食品の特徴について説明する [授業外学習]授業内容を復習しておくこと
⑤	[テーマ] 脂質① [内容] 脂質の定義、分類、物質、消化、吸収、働きについて説明する [授業外学習]授業内容を復習しておくこと	⑬	[テーマ] その他の栄養成分 [内容] その他の栄養成分の特性について説明する [授業外学習]授業内容を復習しておくこと
⑥	[テーマ] 脂質② [内容] 疾病予防や健康増進のための脂質の摂取や含有食品の特徴について説明する [授業外学習]授業内容を復習しておくこと	⑭	[テーマ] 栄養と食事 [内容] 栄養素と食事の関連について説明する [授業外学習]授業内容を復習しておくこと
⑦	[テーマ] 炭水化物① [内容] 炭水化物の定義、分類、物質、消化、吸収、働きについて説明する [授業外学習]授業内容を復習しておくこと	⑮	[テーマ] 栄養摂取と人体 [内容] 栄養の必要性を総合的に捉え、栄養摂取の重要性を理解する。 [授業外学習]授業内容を復習しておくこと
⑧	[テーマ] 炭水化物② [内容] 疾病予防や健康増進のための炭水化物の摂取や含有食品の特徴について説明する [授業外学習]授業内容を復習しておくこと	⑯	[テーマ] 試験 [内容] 授業の理解度・到達度を確かめるために期末テストを行う [授業外学習]授業内容を復習しておくこと

成績評価方法（方針）

試験は、期末試験を実施する（評価割合100%）。2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない（欠格条件）。授業態度が悪い学生に対しては、成績評価から減点する。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	○			100%
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度				減点アリ
出席				欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

□2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない（欠格条件）。 □授業態度が悪い学生に対しては、成績評価から減点する。 □全員の名前を読み終えた時点で不在の学生は遅刻とする。 □20分以上の遅刻は欠席とみなす。 □遅刻2回を欠席1回と換算する。 □欠席届は事前に研究室前の欠席届用の箱内へ提出すること。 □授業中は携帯電話をかばんの中にしまうこと。 □授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。

関連科目			
教科書	基礎栄養学 改訂4版 奥 恒行・柴田克己編集	参考書	適宜、指定する
連絡先	藤井（久）研究室D棟1階		

授業科目名	食品学 Food Science				担当教員	早川公康
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格	栄養士免許
	履修の方法	必修	単位数	2		

授業の概要

食の意味、食品加工の歴史および食品の構成成分の概要を講義した後、五大食品成分の解説を行なう。水と食品成分等の成分間の関係も講義する。ここではヒトとの関係を重視し、化学的な説明も含める。調理、加工および保蔵中の食品成分の変化と健康、特定の食品素材による食品加工の原理の講義も行なう。

授業の一般目標

栄養、嗜好性、生体調節機能などの基本となる食品素材および原料と共に、食品に含まれる化学成分や栄養素について理解する。さらに食品の調理、加工および保蔵の基本を理解する。一方、健康および運動との関わりを重視した食品成分の種類、所在、物理化学的性質および変化の基本を理解し、正しい応用力を身につけさせることを目指す。

授業の到達目標

■	認知的領域	食品に関する科学理論について的確に理解することを目指す。
■	情意的領域	食科学の理解を深めることで食についての関心を高める。
□	技能表現的領域	

授業計画（全体）

食品素材に関する総合的な講義の後、水を含めた五大食品成分の解説を化学的な手法も用いて行なう。ここでは、健康、栄養および食成分の機能も含める。講義内容は食品学実習や食品学実験の内容と有機的に結びつけることを行なう。食品の成分間相互作用や酵素反応など、物理・化学・生物学的な変化についても含める。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 教員の紹介、授業予定・概要説明 [授業外学習]	⑨	[テーマ] 中間のまとめ [内容] 前半の内容を振り返り、要点を確認する。 [授業外学習]
②	[テーマ] 食品とは [内容] 食品の定義、食品成分表について [授業外学習]	⑩	[テーマ] 水産食品 [内容] 魚介類について [授業外学習]
③	[テーマ] 食品の一般成分 [内容] 五大栄養素（炭水化物、脂質、たんぱく質、無機質、ビタミン）について [授業外学習]	⑪	[テーマ] 畜産食品等 [内容] 肉類、卵類、乳類、油脂類、菓子類について [授業外学習]
④	[テーマ] 食品の特殊成分と物性 [内容] 色素成分、呈味成分、香り成分、食品の特性、食品劣化の影響因子、食品成分間反応、酵素的劣化、微生物による劣化について [授業外学習]	⑫	[テーマ] 嗜好飲料類、調味料及び香辛料類 [内容] アルコール飲料、コーヒー、清涼飲料や調味料、香辛料について [授業外学習]
⑤	[テーマ] 食品の保蔵 [内容] 乾燥・脱水、塩蔵、糖蔵、酢漬け、冷蔵・冷凍、滅菌・殺菌、くん煙、ガス貯蔵等について [授業外学習]	⑬	[テーマ] 調理加工食品類、食品の規格・表示 [内容] 様々な加工食品や食品の規格・表示について [授業外学習]
⑥	[テーマ] 農産食品① [内容] 穀類、いも及びでんぷん類、砂糖および甘味料等について [授業外学習]	⑭	[テーマ] 食品と環境 [内容] 有機農産物、遺伝子組み換え作物、食料自給率、食品ロス等について [授業外学習]
⑦	[テーマ] 農産食品② [内容] 豆類、種実類、野菜類について [授業外学習]	⑮	[テーマ] 総まとめ [内容] 全授業内容を振り返り、要点を確認する。 [授業外学習]
⑧	[テーマ] 農産食品③、林・水産食品 [内容] 果実類、きのこ類・藻類について [授業外学習]	⑯	[テーマ] 定期試験 [内容] 筆記試験を行なう。 [授業外学習]

成績評価方法（方針）

定期試験、授業出席日数、受講態度

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎			90%
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度		◎		10%
出席		◎		欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することができない（欠格条件）。
・授業態度が悪い学生に対しては、成績評価から減点する。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。
・遅刻2回は欠席1回とみなす。
・授業計画は、授業の進み方により、多少変更することがある。

関連科目	食品衛生学　食品学実験　食品学実習　食品学演習		
教科書	スタンダード食品学	参考書	
連絡先	早川研究室F206		

授業科目名	栄養指導論 Nutrition Education （L）				担当教員	長橋　雅人
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格	栄養士免許
	履修の方法	必修	単位数	2		

授業の概要

栄養指導の歴史、栄養指導の必要性、栄養アセスメント、栄養指導方法・内容、個人指導、集団指導等の栄養指導に関する基礎的事項について説明する。

授業の一般目標

栄養指導の歴史、栄養指導の必要性、栄養アセスメント、栄養指導方法・内容、個人指導、集団指導等の栄養指導に関する基礎的事項について理解する。

授業の到達目標

■	認知的領域	栄養指導の歴史、栄養指導の必要性、栄養アセスメント、栄養指導方法・内容、個人指導、集団指導等の栄養指導に関する基礎的事項について理解する。
□	情意的領域	
□	技能表現的領域	

授業計画（全体）

各授業テーマごとに資料や視聴覚教材等を用いて授業を進める。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法等について説明する。 [授業外学習]授業内容を復習しておくこと	⑨	[テーマ] 集団指導① [内容] 集団に対する栄養指導や、学校における栄養指導等について説明する。 [授業外学習]授業内容を復習しておくこと
②	[テーマ] 栄養指導の必要性 [内容] 歴史的背景を踏まえて栄養指導の必要性について説明する [授業外学習]授業内容を復習しておくこと	⑩	[テーマ] 集団指導② [内容] 教室における栄養指導について具体例を交えて説明する。 [授業外学習]授業内容を復習しておくこと
③	[テーマ] 栄養士・管理栄養士について [内容] 栄養士・管理栄養士の仕事内容等について説明する [授業外学習]授業内容を復習しておくこと	⑪	[テーマ] 学童及び児童期の栄養指導① [内容] 学童及び児童期の学校における教育内容について説明する。 [授業外学習]授業内容を復習しておくこと
④	[テーマ] 栄養アセスメント、食事調査① [内容] 栄養指導サイクル、栄養アセスメント、食事調査方法等について説明する。 [授業外学習]授業内容を復習しておくこと	⑫	[テーマ]学童及び児童期の栄養指導② [内容] 学童及び児童期の食に纏わる実態について説明する [授業外学習]授業内容を復習しておくこと
⑤	[テーマ] : 食事調査② [内容] 食事調査方法を具体的に理解する。 [授業外学習]授業内容を復習しておくこと	⑬	[テーマ] 指導案 [内容] 指導案の必要性、作り方、留意点等について説明する。 [授業外学習]授業内容を復習しておくこと
⑥	[テーマ] 栄養指導方法・内容 [内容] 栄養指導方法や内容等ついて説明する [授業外学習]授業内容を復習しておくこと	⑭	[テーマ] 指導案の作成と改善 [内容]指導案を作成する。また指導案の改善方法について説明する。 [授業外学習]授業内容を復習しておくこと
⑦	[テーマ] 栄養指導技術、ライフステージ別の栄養指導 [内容] 栄養指導時の技術等について説明する。ライフステージ別の栄養指導について説明する [授業外学習]授業内容を復習しておくこと	⑮	[テーマ] 食と情報 [内容] 食と情報の関連性について説明する。 [授業外学習]授業内容を復習しておくこと
⑧	[テーマ] 行動科学と栄養指導 [内容] 行動科学理論と栄養指導の関連性と具体例について説明する。 [授業外学習]授業内容を復習しておくこと	⑯	[テーマ] 試験 [内容] 授業の理解度・到達度を確かめるために期末テストを行う [授業外学習]テストに備えて復習をすること

成績評価方法（方針）

期末試験を実施する（評価割合100%）。2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない（欠格条件）。授業態度が悪い学生に対しては、成績評価から減点する。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	○			100%
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度				減点有り
出席				欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

□2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない（欠格条件）。
□授業態度が悪い学生に対しては、成績評価から減点する。
□全員の名前を読み終えた時点で不在の学生は遅刻とする。
□20分以上の遅刻は欠席とみなす。 □遅刻2回を欠席1回と換算する。
□欠席届は事前に研究室前の欠席届用の箱内へ提出すること。
□授業中は携帯電話をかばんの中にしまうこと。
□授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。

関連科目			
教科書	適宜指示する。	参考書	適宜指示する。
連絡先	研究室：D棟2階		

授業科目名	スポーツ栄養学 Sport Nutrition(L.)				担当教員	藤井久雄/岩田　純
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格	栄養士免許、ﾚｸﾘｴｰｼｮﾝ・ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ、健康運動実践指導者、健康運動指導士、社会福祉主事任用
	履修の方法	必修	単位数	2		

授業の概要

運動と栄養について基礎的な理論の解説、および競技力向上や健康の保持増進のためのトレーニング（運動）・栄養（食事）・休養の組み合わせ方と食べ方について講義する。

授業の一般目標

競技力向上や健康の保持増進のためのトレーニング（運動）・栄養（食事）・休養の組み合わせ方やその食べ方について理解できる。

授業の到達目標

■	認知的領域	スポーツ・運動と栄養についての係りに関する知識を習得することができる。
■	情意的領域	「運動・栄養・休養」を基本とした競技力向上や健康増進のプログラムの運営に役立つこと意識して取り組むことができる。
□	技能表現的領域	

授業計画（全体）

教科書およびPower Pointを使い授業を進め、必要に応じて資料を配布する。毎回の授業は，原則として授業課題についての基礎知識、応用知識、実践(演習)の形式で進める。また、導入時に授業課題にとらわれず、将来の栄養等の指導に役立つように、スポーツ、健康、食事・栄養に関係する最近の話題をニュース等からピックアップして紹介することがある。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	［テーマ］ オリエンテーション、スポーツと栄養について ［内容］ 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の説明、スポーツ・運動時の栄養学とは何かを理解する。 ［授業外学習］ シラバスを熟読しておくこと	⑨	［テーマ］ 基礎体力を高める食事② ［内容］ 基礎体力を高めるために必要な栄養バランスについて理解する ［授業外学習］ 予習としてテキストを読んでおくこと
②	［テーマ］ ①スポーツ栄養マネジメント① ［内容］ スポーツ選手の栄養管理の考え方について理解する ［授業外学習］ 予習としてテキストを読んでおくこと	⑩	［テーマ］ 基礎体力を高める食事③ ［内容］ 基礎体力を高めるために重要な食事摂取タイミングについて理解する ［授業外学習］ 予習としてテキストを読んでおくこと
③	［テーマ］ ①スポーツ栄養マネジメント② ［内容］ スポーツ選手の栄養管理の考え方について理解する ［授業外学習］ 予習としてテキストを読んでおくこと	⑪	［テーマ］ スポーツ選手の栄養管理の実践① ［内容］ スポーツ選手の消費エネルギーについて理解する ［授業外学習］ 予習としてテキストを読んでおくこと
④	［テーマ］ トレーニングにおける栄養素の役割①(トレーニングと糖質) ［内容］ スポーツ・運動時の糖代謝について理解する ［授業外学習］ 予習としてテキストを読んでおくこと	⑫	［テーマ］ スポーツ選手の栄養管理の実践② ［内容］ スタミナ作りと食事について理解する ［授業外学習］ 予習としてテキストを読んでおくこと
⑤	［テーマ］ トレーニングにおける栄養素の役割②(トレーニングと脂質) ［内容］ スポーツ・運動時の脂質代謝について理解する ［授業外学習］ 予習としてテキストを読んでおくこと	⑬	［テーマ］ スポーツ選手の栄養管理の実践③ ［内容］ 体重調節(減量と増量)と食事について理解する ［授業外学習］ 予習としてテキストを読んでおくこと
⑥	［テーマ］ トレーニングにおける栄養素の役割③(トレーニングとタンパク質) ［内容］ スポーツ・運動時のタンパク質代謝について理解する ［授業外学習］ 予習としてテキストを読んでおくこと	⑭	［テーマ］ スポーツ選手の栄養管理の実践④ ［内容］ 貧血と食事について理解する ［授業外学習］ 予習としてテキストを読んでおくこと
⑦	［テーマ］ トレーニングにおける栄養素の役割④(トレーニングとビタミン・ミネラ ［内容］ スポーツ・運動時のビタミン・ミネラル代謝について理解する ［授業外学習］ 予習としてテキストを読んでおくこと	⑮	［テーマ］ まとめ(スポーツと栄養について) ［内容］ スポーツと栄養の関係についてまとめる ［授業外学習］ 予習としてテキストを読んでおくこと
⑧	［テーマ］ 基礎体力を高める食事① ［内容］ 基礎体力を高めるために必要な食事量を理解する ［授業外学習］ 予習としてテキストを読んでおくこと	⑯	［テーマ］ テスト ［内容］ 授業の理解度・到達度を確かめるために期末テストを行う ［授業外学習］ テストに備えて復習をすること

成績評価方法（方針）

出席、筆記試験ならびに指定課題による総合評価

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎			100%
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度		○		減点対象
出席		○		欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・学則に示された出席数に満たない学生は，評価対象外とする（欠格条件）。
・授業態度が悪い学生は、成績評価から減点する。
・授業進行の妨げとなるので、遅刻は厳禁とする。
・原則として運動生理学、運動生化学は履修済みのこと。

関連科目	スポーツ栄養学演習		
教科書	「スポーツ栄養学」-トレーニング効果を高める食事 編著者：藤井久雄　(株)アイ・ケイコーポレーション	参考書	特になし
連絡先	藤井（久）研究室D棟1階、岩田研究室D棟2階		

授業科目名	スポーツ社会学 Sociology of Sport (L)				担当教員	荒牧　亜衣
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	講義	関連資格	教員免許状(中高保体), レクリエーションコーディネーター, アシスタントマネージャー, ジュニアスポーツ指導員, 社会教育主事任用
	履修の方法	必修	単位数	2		

授業の概要

スポーツと社会との関係から、近代スポーツの特徴および現代スポーツの特徴やその意義、役割を概説する。また望ましいスポーツ振興のあり方や方法について具体的に解説する。

授業の一般目標

スポーツを社会現象として捉え、社会との関係からスポーツの特徴やあり方が理解できるようになる。さらにわが国のスポーツ文化の特徴や今後の望ましいあり方について思考できる能力を身につける。

授業の到達目標

■	認知的領域	わが国のスポーツの現状や望ましいスポーツのあり方について説明できる。
■	情意的領域	スポーツ指導やスポーツ集団の運営に関心をもち、意欲的に取組むことができる。
□	技能表現的領域	

授業計画(全体)

テキストに沿って、その内容および関連事項について解説する。また各章が終わった時点で、内容の理解のための小テストを行う。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ]　スポーツ社会学とは何か [内容]　オリエンテーションを兼ね、スポーツ社会学とは何かを解説する。 [授業外学習]　シラバスを熟読しておくこと	⑨	[テーマ]　スポーツ参与とスポーツ的社会化(2) [内容]　スポーツへの社会化とスポーツ・ドロップアウト, バーンアウトについて解説する。 [授業外学習]スポーツドロップアウトやバーンアウトの原因について考えておくこと
②	[テーマ]　現代スポーツの特徴と「スポーツの危機」 [内容] 現代スポーツの特徴を解説するとともに、「スポーツの危機」と言われるスポーツをめぐる諸問題について説明する。 [授業外学習]　スポーツにおける諸問題について発表できるようにしておくこと	⑩	[テーマ]　スポーツ参与とスポーツ的社会化(3) [内容]　日本人のスポーツ参与の実態と生涯スポーツの課題について解説する。 [授業外学習]　日本人のスポーツ参加のデータを調べておくこと
③	[テーマ]　スポーツと社会(1) [内容]　近代スポーツの誕生とその社会的背景について解説する。 [授業外学習]　イギリス近代社会の特徴について理解しておくこと	⑪	[テーマ]　スポーツ集団(1) [内容]　わが国のスポーツ集団の特徴とその背景について解説する。 [授業外学習]　大学運動部の歴史について簡単に調べておくこと
④	[テーマ]　スポーツと社会(2) [内容]　現代社会におけるスポーツの意義や役割について解説する。 [授業外学習]　現代社会とはどのような特徴を持つのかを理解しておくこと	⑫	[テーマ]　スポーツ集団(2) [内容]　望ましいスポーツクラブづくりについて解説する。 [授業外学習]　テキスト48頁から52ページを熟読しておくこと
⑤	[テーマ]　スポーツと文化(1) [内容]　スポーツの文化的性格について解説する。 [授業外学習]　文化とは何かを調べておくこと	⑬	[テーマ]　スポーツと政治・経済(1) [内容]　スポーツと政治との関係について解説する。 [授業外学習]ベルリン(1936)や東京(1964)のオリンピックについて調べておくこと
⑥	[テーマ]　スポーツと文化(2) [内容]　文化論的プレイ論(ホイジンガ, カイヨワのプレイ論)について解説する。 [授業外学習]　ホイジンガやカイヨワという学者について簡単に調べておくこと	⑭	[テーマ]　スポーツと政治・経済(2) [内容]　スポーツと経済との関係について解説する。 [授業外学習]　テキスト154・155頁を熟読しておくこと
⑦	[テーマ]　スポーツと文化(3) [内容]　スポーツ文化の構成要素とスポーツ観について解説する。 [授業外学習]　自らのスポーツ観について発表できるようにしておくこと	⑮	[テーマ]　地域スポーツの課題と総合型地域スポーツクラブ [内容]　総合型地域スポーツクラブについて、その理念や課題等について解説する。 [授業外学習]　身近な地域スポーツやそのクラブの特徴について調べておくこと
⑧	[テーマ]　スポーツ参与とスポーツ的社会化(1) [内容]　スポーツ参与およびスポーツ的社会化の概念について解説する。 [授業外学習]　野生児(アヴェロンの野生児, 狼少女)について調べておくこと	⑯	[テーマ]　試験 [内容]　授業の理解度・到達度を確認するための期末試験を行う。 [授業外学習]　テキストを熟読し、復習しておくこと

成績評価方法(方針)

期末試験の成績(評価割合80%)を基本とするが、小テストの成績(評価割合20%)、および積極的な授業態度も加点する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎			80%
授業内レポート	◎			20%
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度		○		加点あり
出席				

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・テキストに沿って授業を行うので、必ず下記テキストを準備し、予習をしておくこと。
・受講は静粛を旨とし、質問に対しては積極的に発言すること。

関連科目	スポーツ経営学(1年), 地域スポーツ論(2年)		
教科書	丸山富雄編著『現代スポーツ論』中央法規出版	参考書	
連絡先	荒牧研究室		

授業科目名	スポーツ心理学 Sport Psychology (L.)				担当教員	栗木一博／菊地直子
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	講義	関連資格	中高保健体育、ジュニアスポーツ指導員、スポーツプログラマー、アスレティックトレーナー、健康運動実践指導者ほか
	履修の方法	必修	単位数	2		

授業の概要

メンタルトレーニングの実践などスポーツに取り組む多くの人の間で心理学の重要性に対する認識が高まってきている。本講義ではスポーツの場面に存在する様々な問題を心理学的に解説する。さらに、それを競技力の向上やスポーツの指導のために応用する方法について解説する。

授業の一般目標

スポーツ心理学の基礎的な事項を学習し、競技力の向上やスポーツ指導の場面に存在する様々な問題を心理学的に把握できる。さらに、自分自身の競技生活やスポーツの指導場面にこれらの知識を当てはめて考えることができる。

授業の到達目標

■	認知的領域	スポーツ心理学の基礎的事項についての説明ができる。スポーツ場面に存在する問題を心理学的に捉えることができる。
■	情意的領域	スポーツ場面の問題点に対して主体的に興味を持ち、心理学的に焦点を当てて考えることができる。
□	技能表現的領域	

授業計画（全体）

スポーツ心理学の基礎的な知識に関する解説を行なう。それらが実際のスポーツ場面で応用できるように自分自身のスポーツ経験に照らし合わせて考える時間や具体的な事例の提示を行なう。学習内容の振り返りのために小レポートを実施し、理解度到達度を確認する。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の目的および概要の解説、シラバスの解説、評価方法と授業の進め方について解説する。 [授業外学習]シラバスを熟読すること。	⑨	[テーマ] スポーツとこころの健康 [内容] メンタルヘルスに関する問題やその重要性について解説する。それとともに、スポーツと発達についても触れる。 [授業外学習]コミュニケーションということばの意味について調べる。
②	[テーマ] スポーツにおける心理アセスメント [内容] 心理テストを利用して心理的なアセスメントを行なうとともに、その利用方法について解説する。 [授業外学習]どのような心理テストがあるのかを調べておく。	⑩	[テーマ] スポーツ選手のアイデンティティ [内容] スポーツの低年齢化や高度化に伴い、スポーツ選手のアイデンティティがどのように形成されていくのか解説する。 [授業外学習]「自我同一性」ということばについて調べておく。
③	[テーマ] スポーツにおける動機づけ理論① [内容] 認知、情動、欲求の各側面から今日までの動機づけ理論について解説する。 [授業外学習]「やる気」とはどのようなものか発表できるように準備する。	⑪	[テーマ] ストレスの概念と生体の反応及びアセスメント ストレスの概念・定義及び各因子について解説するとともに、その評価方法についても解説する。 [授業外学習]自分のストレスについてまとめておく。
④	[テーマ] スポーツにおける動機づけ理論② [内容] 原因帰属理論、内発的動機づけ理論などについて解説する。スポーツ場面における動機づけ理論の応用について解説する。 [授業外学習]前回学習した動機づけ理論の基礎について確認をする。	⑫	[テーマ]スポーツ選手の性格 [内容]スポーツ選手の生きている現実的・心理的世界を探求し、理解させる。 [授業外学習]自分のストレスを評価してみる。
⑤	[テーマ] スポーツにおける目標設定 [内容] 動機づけを高める手法としての目標設定について解説する。 [授業外学習]自分の目標をワークシートに表現できるように整理する。	⑬	[テーマ]スポーツカウンセリング① [内容] スポーツに関与するうちに起こるスポーツ障害、およびストレスについて解説する。 [授業外学習]スポーツ選手の育つ環境的側面について復習しておく。
⑥	[テーマ] スポーツにおける集中力① [内容] 「注意」の性質について解説する。スポーツにおける「集中力」の性質について解説する。 [授業外学習]「集中力」ということばの意味について調べておく。	⑭	[テーマ] スポーツカウンセリング② [内容]熱中度の高いスポーツアスリートのスポーツにおける滞りとその背景、症状について解説する。 [授業外学習]スポーツ障害とアスリートの背景について復習する。
⑦	[テーマ] スポーツにおける集中力② [内容] 情報処理モデルを用いて注意集中について解説する。集中力のコントロールのための方法について解説する。 [授業外学習]前回学習した「集中力」について確認する。	⑮	[テーマ]スポーツカウンセリング③ [内容] スポーツ選手のこころの健康と競技について、示唆し、考えさせる。 [授業外学習]スランプやプラトーについて調べる。
⑧	[テーマ] スポーツとリーダーシップ [内容] 特性論、類型論、機能論、状況適合論からリーダーシップ理論について解説する。また、グループダイナミクスについて解説する。 [授業外学習]望ましいリーダー像について説明できるようにしておく。	⑯	[テーマ] テスト [内容] 授業の理解度を測定するための試験を実施する。 [授業外学習]テストの準備をしておく。

成績評価方法（方針）

試験は、期末試験を一回実施する（評価割合60%）。また、授業内レポート（評価割合40%）を課す。そしてこれらの結果を総合して成績評価を行なう。出席は評価割合に加えず、欠格条件となる。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎			60%
授業内レポート	○	◎		40%
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度				
出席				

履修上の注意（受講学生に望むこと）

関連科目			
教科書		参考書	
連絡先	栗木研究室（E棟2階：内線336）、菊地研究室（第4体育館1階：内線429）		

授業科目名	運動生理学 Exercise Physiology (L)				担当教員	内丸 仁
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格	中学校・高等学校教諭一種普通免許状(保健体育)、栄養士免許、スポーツプログラマー、アスレティックトレーナー、健康運動指導士、健康運動実践指導者、レクリエーション・コーディネーター
	履修の方法	必修	単位数	2		

授業の概要

運動生理学では生理学や解剖学を基礎として、活動(運動時)状態における人体の働きについて、生理学的な機能あるいは構造学的変化について体系的に講義を行う。

授業の一般目標

運動時の筋・神経・呼吸・循環系の生理学的な機能および働きあるいは構造学的変化について学ぶ。また、競技力向上のためのトレーニング、ウオームアップおよびクールダウンの重要性、疲労、健康に及ぼす運動の効果についても理解する。

授業の到達目標

■	認知的領域	活動(運動時)の人体の生理学的な応答・適応について理解する。
■	情意的領域	実際の活動(運動およびトレーニング)において、生理学的な機能や効果さらには意義を理解して取り組むことが出来るようになる。
□	技能表現的領域	

授業計画(全体)

各回の授業テーマについて、PowerPointを用いた講義が中心となる。また、 各授業毎に小テストを実施・提出させることで、理解度・到達度を確認する。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 運動生理学とは？ [内容] 運動生理学の授業の進め方と生理学、運動生理学およびスポーツ生理学についての説明 [授業外学習] シラバス参照	⑨	[テーマ] 運動とエネルギー代謝 [内容] 生命活動に必須のエネルギー代謝、および運動代謝について、栄養素と関連づけながら説明する [授業外学習] 参考書および資料をもとに復習すること
②	[テーマ] 運動と骨格筋Ⅰ [内容] 筋の分類と運動を起こす骨格筋の微細構造、筋収縮のメカニズムについて説明する [授業外学習] 参考書および資料をもとに復習すること	⑩	[テーマ] 運動と内分泌系とストレス [内容] 運動時に生体内で分泌されるホルモンの名称と働き、運動によるストレスの変化やトレーニングによるストレスへの適応について説明する [授業外学習] 参考書および資料をもとに復習すること
③	[テーマ] 運動と骨格筋Ⅱ [内容] 筋収縮におけるATPの役割と無酸素的および有酸素的エネルギー供給機構について説明する [授業外学習] 参考書および資料をもとに復習すること	⑪	[テーマ] 運動と免疫 [内容] 運動における免疫系の変化やトレーニングによる免疫機能の適応について説明する [授業外学習] 参考書および資料をもとに復習すること
④	[テーマ] 運動と骨格筋Ⅲ [内容] 筋線維のタイプと筋力・筋パワー・筋持久力特性について説明する [授業外学習] 参考書および資料をもとに復習すること	⑫	[テーマ] 運動と内部環境(体温調節・水分補給) [内容] 高温や低温環境における運動による体温の変化や調節機能、運動における体内の水分バランスや水分補給について説明する [授業外学習] 参考書および資料をもとに復習すること
⑤	[テーマ] 運動と神経 [内容] 神経の名称と働き、および運動に関連する神経機構、運動単位および反応と反射について説明する [授業外学習] 参考書および資料をもとに復習すること	⑬	[テーマ] 運動と外部(高温、高地、水中他)環境 [内容] 高地、水中といった異なる環境下での運動時の生理学的な応答について説明する [授業外学習] 参考書および資料をもとに復習すること
⑥	[テーマ] 運動と呼吸循環Ⅰ [内容] 運動時の呼吸の調整と肺換気のメカニクスおよび呼吸筋のトレーニングの重要性および無酸素性作業閾値について説明する [授業外学習] 参考書および資料をもとに復習すること	⑭	[テーマ] 体力と体力特性とトレーニング [内容] 体力の定義とスポーツ選手を中心としたの体力特性について、体力維持・増進のためのトレーニングについて説明する [授業外学習] 参考書および資料をもとに復習すること
⑦	[テーマ] 運動と呼吸循環Ⅱ [内容] 肺・心臓・血液などの呼吸循環系による酸素の運搬と組織における酸素利用、および運動における酸素の役割、関連する酸素摂取量について説明する [授業外学習] 参考書および資料をもとに復習すること	⑮	[テーマ] 運動と健康および加齢 [内容] 健康に及ぼす運動の効果、加齢に伴う健康の問題点やその予防方法としての運動について説明する [授業外学習] 参考書および資料をもとに復習すること
⑧	[テーマ] 運動と呼吸循環Ⅲ [内容] 運動における酸素借および酸素負債、血液のポンプ作用としての心臓の働きと心拍数および血圧について説明する [授業外学習] 参考書および資料をもとに復習すること	⑯	[テーマ] テスト [内容] 授業の理解度・到達度を確認するためにテストを実施する。 [授業外学習] これまでの復習をすること

成績評価方法(方針)

筆記テスト(持込不可)を1回実施する(評価割合60%)。また、授業内に実施するクイズ(評価割合10%)および出席状況(評価割合30%)を含めた成績評価を行う。なお、授業態度が授業進行上において悪いと判断した場合には減点の対象とする。出席が2/3(10回)未満の学生は失格条件となる。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎			60%
授業内レポート	◎	○		10%
授業外レポート				評価対象外
演習・実技				評価対象外
授業態度				減点あり
出席		◎		30%

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・2/3以上の出席がない学生は、評価対象外とする(欠格条件)。
・参考書やノートを持参すること。
・講義中に私語などで他の学生の迷惑になる、あるいは授業に支障をきたすと判断した場合には退出してもらう。授業中の私語や携帯電話等の使用は厳禁とする(減点あり)。
・予習・復習を行うこと。
・授業計画は授業の進行状況により多少前後することがある。

関連科目	スポーツ医学A、スポーツ医学B、解剖・生理学Ⅰ、解剖・生理学Ⅱ、体力相談と運動処方、スポーツトレーナーコース関連科目		
教科書	スポーツ指導者に必要な生理学と運動生理学の知識 村岡功編著 市村出版	参考書	運動生理学 石河利寛、杉浦正輝共著 建帛社 はじめて学ぶ健康・スポーツ科学シリーズ3 スポーツ生理学 冨樫健二編 化学同人
連絡先	研究室:C棟2F		

授業科目名	スポーツバイオメカニクス Sport Biomechanics (L.)				担当教員	宮西智久
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義(L)	関連資格	教員免許状、健康運動指導士、健康運動実践指導者、ｱｽﾚﾁｯｸﾄﾚｰﾅｰ、ﾚｸﾘｴｰｼｮﾝ・ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ、NSCA-CPT、CSCS
	履修の方法	必修	単位数	2		

授業の概要

スポーツバイオメカニクスは、「スポーツ運動において、力学的な力(外力と内力)が身体とその運動に及ぼす影響を研究する科学」である。本講義では、スポーツの運動を題材にしてスポーツバイオメカニクスの基盤となる力学(ニュートン力学)の基礎的事項を中心に学習する。具体的には、運動を記述するキネマティクス(運動学)、運動の原因に迫るキネティクス(運動力学)を中心に、さらに流体力学、筋収縮の力学について学ぶ。

授業の一般目標

スポーツバイオメカニクスとは何かを理解し、体育・スポーツの技術指導やトレーニング現場で直面する問題を解決するにあたって、スポーツバイオメカニクスの知識や知見を活用・応用することができる。すなわち、身近なスポーツの運動について、パフォーマンスの向上と傷害予防の観点から合理的な運動や安全な運動とは何かを科学的に理解し説明することができるようになる。

授業の到達目標

■	認知的領域	スポーツバイオメカニクスで用いるキー概念や専門語の意味について理解し、スポーツの運動現象について論理的に説明することができる。
■	情意的領域	スポーツの運動における実践的主観を客観化することによって興味や関心を深める。
□	技能表現的領域	

授業計画(全体)

本講義は大きく6つのパートから構成されている。パートⅠ:スポーツバイオメカニクス序説(1回)、パートⅡ:キネマティクス(並進運動のキネマティクス2回、回転運動のキネマティクス2回)、パートⅢ:キネティクス(並進運動のキネティクス3回、回転運動のキネティクス3回)、パートⅣ:仕事・エネルギー・パワー(1回)、パートⅤ:流体力学(1回)、パートⅥ:筋収縮の力学(2回)。本講義は、これらのパートについて順に系統だって進められる。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] スポーツバイオメカニクス序説 [内容] シラバスに基づき、本講義のオリエンテーション(授業概要、目標、評価他)を行った後、スポーツバイオメカニクスの歴史をひも解き、定義、目的、現代的意義を述べる。 [授業外学習] 教科書(1章)	⑨	[テーマ] 回転運動のキネティクスⅠ [内容] 力のモーメント(トルク)、回転運動の発生、力のモーメント計算 [授業外学習] 教科書(6章)
②	[テーマ] 力学と数学の基礎 / 並進運動のキネマティクスⅠ [内容] 力学モデル、運動の形態(並進/回転/一般)と種類(等速/等加速度/加速度)、スカラー量とベクトル量、ベクトルの加算・減算、三角関数、行列、微分・積分、SI単位 [授業外学習] 教科書(2, 3章)	⑩	[テーマ] 回転運動のキネティクスⅡ [内容] つり合い、てこの原理、重心とその測定法、重心の性質、姿勢の安定、慣性モーメント、平行軸の定理 [授業外学習] 教科書(6章)
③	[テーマ] 並進運動のキネマティクスⅡ [内容] 位置、速度、加速度、加速度の正負、加速度と力の関係、等速度運動と等加速度運動、放物運動 [授業外学習] 教科書(3章)	⑪	[テーマ] 回転運動のキネティクスⅢ [内容] ニュートンの運動の三法則の回転版、回転の運動方程式、角運動量と角力積、角運動量保存の法則 [授業外学習] 教科書(6章)
④	[テーマ] 回転運動のキネマティクスⅠ [内容] 角度、角速度、角加速度、角加速度の正負、角加速度と力のモーメントの関係 [授業外学習] 教科書(4章)	⑫	[テーマ] 仕事・エネルギー・パワー [内容] 仕事と力、仕事と力学的エネルギー、衝突と力学的エネルギーの保存、仕事とパワー、パワーと力学的エネルギー、エネルギーの変換、力学的効率 [授業外学習] 教科書(7章)
⑤	[テーマ] 回転運動のキネマティクスⅡ [内容] 回転運動変量の方向、角速度と速度の関係、等速円運動と等角加速度運動 [授業外学習] 教科書(4章)	⑬	[テーマ] 流体力学:空気や水による力 [内容] 物質の三態、アルキメデスの原理、浮力と浮心、層流と乱流、流体力(抗力・揚力)、ベルヌーイの定理、マグヌス効果 [授業外学習] 教科書(8章)
⑥	[テーマ] 並進運動のキネティクスⅠ [内容] 力、力の三要素、ニュートンの運動の三法則の並進版、ダランベールの原理 [授業外学習] 教科書(5章)	⑭	[テーマ] 筋収縮の力学Ⅰ [内容] 筋の種類と構造・機能、骨格筋の力発揮特性(力ー長さ関係、力ー速度関係、力ーパワー関係)、筋収縮モデル [授業外学習] 教科書(9章)
⑦	[テーマ] 並進運動のキネティクスⅡ [内容] いろいろな力(万有引力と重力、垂直抗力と摩擦力、外力と内力)、運動量と力積、運動量保存の法則 [授業外学習] 教科書(5章)	⑮	[テーマ] 筋収縮の力学Ⅱ [内容] 身体外部の物体へ発揮する力、関節モーメントの発生、筋張力計算、筋張力発揮増大に関わる要因 [授業外学習] 教科書(9章)
⑧	[テーマ] 並進運動のキネティクスⅢ [内容] フリーボディダイアグラム、並進の運動方程式、加速度と力・速度・変位の関係 [授業外学習] 教科書(5章)	⑯	[テーマ] 試験 [内容] 選択問題(マークシート方式) [授業外学習] 教科書・参考書、ノート等を十分復習し試験に万全を期すこと。

成績評価方法(方針)

定期試験(教科書・参考書、ノート類の持ち込み不可)、授業内レポート、出席率等に基づき評価する。受講態度が悪い学生は減点対象とする。詳細は第1回目の講義において伝える。

成績評価方法 \ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	○			60%
授業内レポート	○			20%
授業外レポート				-
演習・実技				-
授業態度		○		減点対象
出席		○		20%

履修上の注意(受講学生に望むこと)

受講条件:
1. 教科書を購入し必ず持参すること。教科書を持参しない者は欠席とします。
2. 学生証を忘れた者は欠席とします。
3. 学期末定期試験の受験資格者は総授業時数の2/3以上の出席率(学則参照)を満たした者です。授業の公欠はありません。受験資格者は最終講義後に掲示板にて発表します。試験は学則に基づき実施します。
4. 指定座席に座ること。
5. 携帯電話の電源を切り、手に持たないこと。
6. 講義に集中し静聴すること。静聴できない学生は周囲に多大な迷惑を掛けるだけでなく、講義の進行に大変支障を来しますので受講しないで下さい。なお、受講態度が悪い学生は減点するだけでなく、退室させる場合があります。
7. 高校までの物理学(力学)や数学で学習した知識で理解できる内容です。教科書の予習に加え、中学・高校時の物理学・数学の教科書を復習し講義に臨んで下さい。なお、計算問題がありますので電卓(関数電卓推奨)を持参下さい。
8. その他重要事項は第1回目の講義において伝えますので、必ず出席すること。

関連科目	スポーツ技術観察論(2年)、スポーツコーチング実習(3年)、ストレングス&コンディショニング実習(3年)、卒業論文(4年)		
教科書	スポーツバイオメカニクス(宮西編, 化学同人)	参考書	スポーツ技術のバイオメカニクス(J.Hay著, BookHouse HD) スポーツバイオメカニクス20講(阿江・藤井著, 朝倉書店)
連絡先	管理研究棟4F404号室 【オフィスアワー:木曜日16:00～17:30】		

授業科目名	スポーツ指導の基礎(含実習) Fundamentals of Sports Coaching				担当教員	阿部　肇・武石健哉
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格	社会教育主事任用資格，ﾚｸﾘｰｼｮﾝｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ，ｼﾞｭﾆｱｽﾎﾟｰﾂ指導員，ｽﾎﾟｰﾂﾌﾟﾛｸﾞﾗﾏｰ，障害ｽﾎﾟｰﾂ指導員
	履修の方法	必修	単位数	2		

授業の概要

スポーツ指導者の実際的な機能と役割は多岐に渡り，選手の競技力向上を目的とした助言や介助的行為のみならず，スポーツ組織におけるマネジメント的側面での責務も大きい．本講義では，指導者の機能と役割とは何かに始まり，トレーニング構成の諸原則，ならびに種々のマネジメント的側面からみた組織論について学習する．

授業の一般目標

スポーツ指導におけるコーチ(指導者)の実際的な職務を知り，求められる能力を理解できるようなる．そして，実践の場における指導上の様々な具体的な方法論を身に付ける．そこには，組織運営上のマネジメント側面やトレーニング計画を立案，実行する選手育成の内容も含まれる．

授業の到達目標

■	認知的領域	コーチの役割と，その実務における具体的な方法論を説明できる．
■	情意的領域	指導に関する理論的な思考を持つことができる．
□	技能表現的領域	

授業計画(全体)

本講義では，先ず指導者の実際的な機能と役割とは何かについて，トレーニングや試合場面での選手への助言や介助的な行為といった狭義なものから，スポーツ組織におけるマネジメントといったより広義な側面まで概説する．その後に，指導者として選手に提供するトレーニング内容をいかに構成(デザイン)していくべきかについて，より詳細に講義を進める．

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 講義ガイダンス [内容] 担当教員の紹介，授業の進め方，シラバス説明，成績評価の方法 [授業外学習]シラバスを熟読すること	⑨	[テーマ]トレーニング課題と手段，方法の関係 [内容]トレーニングにおける「手段-方法-課題」の対応関係を説明する [授業外学習]資料を基に復習しておくこと
②	[テーマ] スポーツ(競技)集団の構造と指導者 [内容] 競技集団にはどのような構造があり，そこでの指導者の関わりを説明する [授業外学習]資料を基に予習しておくこと	⑩	[テーマ]トレーニング構成の一般原理 [[内容]トレーニング計画を立案する際の一般原理を説明する [授業外学習]資料を基に復習しておくこと
③	[テーマ] 発達過程におけるコーチ・選手関係の変化 [内容] 選手の発達に伴うコーチと選手の関係のあり方を説明する [授業外学習]資料を基に復習しておくこと	⑪	[テーマ]　トレーニング構成の基本単位 [内容]トレーニングを構成する，課業，ミクロ，メゾ，マクロの基本単位を説明する [授業外学習]資料を基に復習しておくこと
④	[テーマ] 指導者の機能と役割 [内容] 指導者にはどのような機能があり役割を果たしているか説明する [授業外学習]資料を基に復習しておくこと	⑫	[テーマ]トレーニング構成の計画立案 [内容]トレーニング構成の具体的な計画の立案について説明する [授業外学習]資料を基に復習しておくこと
⑤	[テーマ] 組織における6つの基本構造ブロック [内容] 競技組織(集団)における基本的な構造について説明する [授業外学習]資料を基に復習しておくこと	⑬	[テーマ]トレーニング構成の実際①(ミクロ周期) [内容] ミクロ周期におけるトレーニング構成の実例を紹介する [授業外学習]資料を基に復習しておくこと
⑥	テーマ] 組織の内部影響力としての基本的引力 [内容] 組織の構造変化を伴う目標や理念による諸引力の存在を説明する [授業外学習]資料を基に復習しておくこと	⑭	[テーマ]トレーニング構成の実際②(メゾ周期) [内容] メゾ周期におけるトレーニング構成の実例を紹介する [授業外学習]資料を基に復習しておくこと
⑦	[テーマ] 組織の基本類型 [内容] 様々なタイプの組織の基本的な構造を説明する [授業外学習]資料を基に復習しておくこと	⑮	[テーマ]トレーニング構成の実際③(マクロ周期) [内容] マクロ周期におけるトレーニング構成の実例を紹介する [授業外学習]資料を基に復習しておくこと
⑧	[テーマ] 組織のライフサイクル・モデル [内容] 組織構造が諸引力(目標，理念)に導かれ変化する様を説明する [授業外学習]資料を基に復習しておくこと	⑯	[テーマ] テスト [内容] 授業の理解度，到達度を確かめるテストを行う [授業外学習]テストに備えて復習しておくこと

成績評価方法(方針)

試験は，期末試験を1回実施する(評価割合80%)．また，授業内レポートを課す(評価割合20%)．これらの結果を総合して評価を行う．授業中における態度は減点対象となる．出席は欠格条件とする．

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎			80%
授業内レポート		◎		20%
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度				減点あり
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

私語，遅刻等の授業進行の妨げになり，他の受講生に迷惑となる行為を厳禁とする．20分以上の遅刻は欠席とみなす．2/3以上の出席が無い学生は，試験を受けることが出来ない(欠格条件)．授業計画は授業の進み方により前後する場合がある．

関連科目	無し		
教科書	無し(プリント資料を配布する)	参考書	
連絡先	研究室:阿部　肇　A棟4階406　/　武石健哉　4体1階425		

授業科目名	身体運動と発育・発達 Physical Activities and Development (L.)				担当教員	竹村　英和
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格	ジュニアスポーツ指導員、健康運動指導士
	履修の方法	必修	単位数	2		

授業の概要

身体運動は健康・体力に大きな影響を及ぼすが、その指導にあたっては個人の発育・発達特性を考慮する必要がある。本講義では、乳幼児期から壮年中高年期におけるからだの発育・発達と老化に関する特性について、身体運動との関連性を考慮しながら解説する。

授業の一般目標

乳幼児期から壮年中高年期に至るヒトの発育・発達と老化に関する生理学的特性や体力・運動能力に関する知識を身につける。また、これらの特性と身体運動との関連を考慮したライフスタイルのあり方について思考する能力を身につける。

授業の到達目標

■	認知的領域	ヒトの一生における発育・発達と老化に関する特性および身体運動との関連性について説明できる。
■	情意的領域	発育・発達と老化に関する特性を考慮した運動指導の重要性について認識できるようになる。
□	技能表現的領域	

授業計画（全体）

授業はパワーポイントを用いた講義となり、使用するスライドは資料として配布する。授業前半は主に発育・発達に関する内容を、後半では老化に関する内容をとりあげる。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の説明 [授業外学習] シラバスを熟読しておくこと	⑨	[テーマ] 現代社会における青少年期の体力特性と身体運動 [内容] 現代社会における青少年期の体力について、特に子どもの体力の現状と問題点を中心に説明する [授業外学習] 授業資料を基に復習すること
②	[テーマ] 発育・発達の概観 [内容] ライフステージや発育・発達の一般的原則、器官別の発育について説明する [授業外学習] 授業資料を基に復習すること	⑩	[テーマ] 加齢に伴う形態および生理的機能の変化 [内容] 青年期以降の加齢に伴う形態・生理的機能の変化について説明する [授業外学習] 授業資料を基に復習すること
③	[テーマ] 形態・体格指数と生物学的年齢 [内容] 発育を評価するための形態指数、体格指数、生物学的年齢について説明する [授業外学習] 授業資料を基に復習すること	⑪	[テーマ] 加齢に伴う体力・運動能力の変化 [内容] 加齢に伴う身体活動量の減少と体力・運動能力の低下について説明する [授業外学習] 授業資料を基に復習すること
④	[テーマ] 乳幼児期の発育・発達特性 [内容] 乳幼児期の形態や生理的機能の変化について説明する [授業外学習] 授業資料を基に復習すること	⑫	[テーマ] 壮年期・中年期における機能変化と身体運動 [内容] 壮年期・中年期における身体機能の変化と身体運動との関わりについて説明する [授業外学習] 授業資料を基に復習すること
⑤	[テーマ] 乳幼児期の発育・発達特性と身体運動 [内容] 乳幼児期の形態や生理的機能の変化と身体運動との関わりについて説明する [授業外学習] 授業資料を基に復習すること	⑬	[テーマ] 高齢期における機能変化と身体運動 [内容] 高齢期における身体機能の変化と身体運動との関わりについて説明する [授業外学習] 授業資料を基に復習すること
⑥	[テーマ] 青少年期の発育・発達特性 [内容] 青少年期の形態や生理的機能の変化について説明する [授業外学習] 授業資料を基に復習すること	⑭	[テーマ] 形態および生理的機能と体力・運動能力の性差 [内容] 形態や生理的機能、体力・運動能力に関する男女の違いについて、発育・発達の観点から説明する [授業外学習] 授業資料を基に復習すること
⑦	[テーマ] 青少年期の発育・発達特性と身体運動 [内容] 青少年期の形態や生理的機能の変化と身体運動との関わりについて説明する [授業外学習] 授業資料を基に復習すること	⑮	[テーマ] ライフステージに応じた身体運動 [内容] 発育・発達と老化に関する身体諸機能の変化に応じた運動のあり方について説明する [授業外学習] 授業資料を基に復習すること
⑧	[テーマ] 発育・発達とトレーニング [内容] 筋系・神経系・呼吸循環系などの発育・発達を考慮したトレーニングのあり方について説明する [授業外学習] 授業資料を基に復習すること	⑯	[テーマ] テスト [内容] 授業の理解度・到達度を確認するために筆記試験を実施する [授業外学習] 全15回の授業内容を復習すること

成績評価方法（方針）

評価は、筆記試験により行う（期末に実施、持ち込み不可）。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎	○		100%
授業内レポート				評価対象外
授業外レポート				評価対象外
演習・実技				評価対象外
授業態度				減点あり
出席		○		欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・2/3以上の出席がない学生は、評価対象外とする（欠格条件）。
・授業中の私語や携帯電話の使用は厳禁とする。
・授業態度が悪い学生は、成績評価から減点する。
・20分以上の遅刻は、欠席とみなす。
・授業計画は、授業の進行状況により、多少前後することがある。
・授業で配布する資料は書き込み式にしてあるが、指示された内容のみを書くのではなく、必要に応じてメモをとること。

関連科目	運動生理学（2年）		
教科書	特に指定しない	参考書	特に指定しない
連絡先	竹村研究室（C棟3階）		

≪実技≫

授業科目名	トレーニングの基礎 Basic Theory and Practice for Sports Training				担当教員	門野・阿部・河野・桑原・黒澤・佐藤(周)・柴山・鈴木(良)・武石・坪井・仲田・溝口・宮崎・山梨・吉井・渡邉
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実技	関連資格	健康運動指導士、健康運動実践指導者、スポーツプログラマー、レクリエーション・コーディネーター
	履修の方法	必修	単位数	1		

授業の概要

形態および体力を測定、評価し、それらを向上させるためのトレーニング理論および方法について実習を行なう。

授業の一般目標

①形態および体力の測定方法と評価方法を理解する。
②体力を高めるためのトレーニングに関する基礎理論と方法を理解する。

授業の到達目標

■	認知的領域	形態および体力の測定・評価方法が説明できる。 体力を高めるためのトレーニングに関する基礎理論と方法が説明できる。
□	情意的領域	
■	技能表現的領域	形態および体力の測定・評価ができる。 体力を高めるためのトレーニングが実践できる。

授業計画(全体)

形態および6つの体力要素(筋力、スピード・敏捷性、パワー、持久力、柔軟性、調整力)について、実際にこれらを測定し、評価を行なう。
また、6つの体力要素を向上させるためのトレーニングの理論と方法について、実技と講義を交えて授業を行なう。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] ガイダンス [内容] 授業計画について説明する。	⑨	[テーマ] パワーを高めるためのトレーニング理論と方法 [内容] ハイパワーを高めるためのトレーニング理論と方法について学ぶ。
②	[テーマ] 形態計測とその評価 [内容] 身長、体重、体組成を測定し、評価する。 測定方法と評価方法について学ぶ。	⑩	[テーマ] 持久力の測定と評価 [内容] 持久力を測定し、評価する。 持久力の測定方法と評価方法について学ぶ。
③	[テーマ] 新体力テストの実施とその評価 [内容] 新体力テストを実施し、自分の体力を評価するとともにその評価方法について学ぶ。	⑪	[テーマ] 持久力を高めるためのトレーニング理論と方法 [内容] 持久力を高めるためのトレーニング理論と方法について学ぶ。
④	[テーマ] 筋力の測定と評価 [内容] 筋力を測定し、評価する。 筋力の測定方法と評価方法について学ぶ。	⑫	[テーマ] 柔軟性の測定と評価 [内容] 柔軟性を測定し、評価する。 柔軟性の測定方法と評価方法について学ぶ。
⑤	[テーマ] 筋力を高めるためのトレーニング理論と方法 [内容] 筋力を高めるためのトレーニング理論と方法について学ぶ。	⑬	[テーマ] 柔軟性を高めるためのトレーニング理論と方法 [内容] 柔軟性を高めるためのトレーニング理論と方法について学ぶ。
⑥	[テーマ] スピード、敏捷性の測定と評価 [内容] スピードと敏捷性を測定し、評価する。 スピードと敏捷性の測定方法と評価方法について学ぶ。	⑭	[テーマ] 調整力の測定と評価 [内容] 調整力を測定し、評価する。 調整力の測定方法と評価方法について学ぶ。
⑦	[テーマ] スピードを高めるためのトレーニング理論と方法 [内容] スピードと敏捷性を高めるためのトレーニング理論と方法について学ぶ。	⑮	[テーマ] 調整力を高めるためのトレーニング理論と方法 [内容] 調整力を高めるためのトレーニング理論と方法について学ぶ。
⑧	[テーマ] パワーの測定と評価 [内容] ハイパワーを測定し、評価する。 ハイパワーの測定方法と評価方法について学ぶ。	⑯	[テーマ] まとめ [内容] 授業のまとめを行なう。

成績評価方法(方針)

・①出席、②演習・実技、③授業外レポートによって評価を行なう。
・テーマによっては授業内レポートを課す場合もある。
・授業態度も評価に含む。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 \ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				
授業内レポート				
授業外レポート	◎			25%
演習・実技			◎	25%
授業態度		◎		減点対象
出席		◎		50%

履修上の注意(受講学生に望むこと)

関連科目			
教科書	ガイダンスにて配布するテキストを使用する。	参考書	
連絡先	門野洋介(A408、hr-kadono@sendai-u.ac.jp)		

授業科目名	体操(含体つくり運動) Gymnastic(P.A.)				担当教員	溝口　絵里加
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実技	関連資格	教員免許状(中高保体)・ジュニアスポーツ指導員・スポーツプログラマー・健康運動実践指導者・健康運動実践指導士
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

運動を通して、自分や仲間の身体や心の状態に気づき、体の調子を整えたり、友達と触れ合い楽しく体を動かす実技を行う。体ほぐし運動、運動あそび、柔軟性を高める為の運動、ストレッチング、リズム体操などを紹介する。

授業の一般目標

実技を通して、様々な運動を身につけるとともに、運動の基本的な実技指導が出来るようになる。

授業の到達目標

■	認知的領域	様々な基本動作の内容が説明できる。
■	情意的領域	体を動かすことによって、仲間と協力し表現することができる。
■	技能表現的領域	対象者に応じた体操を創ることができる。

授業計画(全体)

試験は、個人技能の出来栄えとグループにおける課題達成度(評価割合70%)また個人学習ノートの記入(評価割合30%)そして、これらの結果を総合して成績評価を行う。出席は評価割合に加え、さらに欠格条件とする。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法	⑨	[テーマ] 組み合わせ課題 [内容] サーキットトレーニング。自重トレーニング。
②	[テーマ] ストレッチングと柔軟体操 [内容] 正しい行い方でストレッチを行う。体ほぐしを行いながら仲間と交流を深める。柔軟体操。	⑩	[テーマ] 対象者に合わせた運動プログラムつくり 導入 [内容] 対象者を設定する。動きの種類を出し合う。運動強度の設定をし運動内容を調整する。
③	[テーマ] ストレッチングと柔軟体操の応用 [内容] スタティックストレッチングとバリスティックストレッチングについて。様々なストレッチを実施する。	⑪	[テーマ] 対象者に合わせた運動プログラムつくり 運動強度 [内容] 運動強度の設定をし運動内容を調整する。
④	[テーマ] リズム体操(基礎) [内容] 徒手でのリズム体操。基礎的な動きを修得する。	⑫	[テーマ] 対象者に合わせた運動プログラムつくり 師範について [内容] 運動を指導者らしく見えるよう工夫する。師範について
⑤	[テーマ] リズム体操(応用) [内容] 徒手でのリズム体操。基礎的な動きを修得する。	⑬	[テーマ] 対象者に合わせた運動プログラムつくり まとめ [内容] 運動プログラムを仕上げ、出来栄えが良くなるように工夫する。フォーメーションの変化も取り入れる。
⑥	[テーマ] 用具体操 [内容]用具を使った運動あそび。指導方法について	⑭	[テーマ] 対象者に合わせた運動プログラム評価テスト [内容] 各グループで創作した運動プログラムを相互に発表。評価する。
⑦	[テーマ] 用具体操 [内容]用具を使った運動あそび。指導方法について	⑮	[テーマ] 授業全体を振り返る [内容] 授業の理解度、技能の習得度のまとめをする。
⑧	[テーマ] リズム体操個人テストと前回までの振り返り [内容] 動きの質を高める。他者の評価方法について	⑯	[テーマ] 授業全体を振り返る [内容] 授業の理解度、技能の習得度のまとめをする。

成績評価方法(方針)

個人技能の出来栄えとグループ活動における課題達成度(評価割合70%)また個人学習ノートの記入(評価割合30%)そして、これらを基に総合して成績評価を行う。出席については、評価割合に加え減点対象とし、欠格条件とする。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				
授業内レポート	○	○		30%
授業外レポート				
演習・実技			◎	70%
授業態度				減点対象
出席				減点・欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない(欠格条件)。
・授業態度が悪い学生に対しては、成績評価から減点する。
・10分以上の遅刻は欠席とみなす。
・服装や身だしなみを整えて受講すること。
・授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。

関連科目			
教科書	特になし	参考書	体つくり運動ー授業の考え方と進め方ー文部科学省
連絡先	溝口研究室(第3体育館3階)		

3. 発展科目

授業科目名	運動栄養学演習 Seminar in Exercise Nutrition				担当教員	藤井久雄・長橋雅人・岩田純・早川公康・真野芳彦・ 渡部由佳・平良拓也
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	演習	関連資格	
	履修の方法	必修	単位数	2		

授業の概要

これまで運動栄養学科で学んできたことを生かして卒業論文に取り組むために必要な知識や技術を身につけることを目的とする。この授業において卒業論文の指導教員を決定し、後期より卒業論文をスムーズにスタートできるように準備を行う。

授業の一般目標

論文の形式を理解するとともに、論文検索や研究計画書の作成方法を修得する。

授業の到達目標

■	認知的領域	論文の形式について説明できる。
■	情意的領域	卒業論文に自主的に取り組む姿勢を持つことができる。
■	技能表現的領域	1.パソコンを使って論文検索をすることができる。 2.研究計画書を作成することができる。

授業計画(全体)

第1～6回では、研究計画書を作成するにあたって必要な基本的事項について説明する。第6回終了後に研究計画書を提出する。第7～11回では、卒業論文を進めるにあたって必要な基礎知識について説明する。第11回の授業で各学生の指導教員を発表する。第12～15回では、各ゼミにて指導教員より研究計画を進めていく。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、シラバスの説明、成績評価の方法確認 [授業外学習] シラバスを読んでおくこと	⑨	[テーマ] 調査研究について [内容] 調査研究とは何かを説明する。またアンケートの作り方のポイントについて学ぶ。 [授業外学習] 提出した研究計画を見直しておくこと
②	[テーマ] 卒論とは [内容] 卒業論文の進め方、考え方について説明する [授業外学習] 興味のあるテーマについて考えておくこと	⑩	[テーマ] 図表の作り方 [内容] エクセルを用いた図表の作り方について学ぶ [授業外学習] 各自でパソコンを用いて復習しておくこと
③	[テーマ] 研究論文の書き方 [内容] 論文の構成や内容について説明する [授業外学習] 興味のあるキーワードについて考えておくこと	⑪	[テーマ] データ集計の方法 [内容] エクセルを用いたデータ集計の方法について学ぶ [授業外学習] 各自でパソコンを用いて復習しておくこと
④	[テーマ] 論文検索の方法 [内容] コンピューター実習室にて論文の検索方法について学ぶ [授業外学習] 興味のある論文を探して読んでおくこと	⑫	[テーマ] 卒論ゼミの進め方(各ゼミ) [内容] 指導教員の方針について説明する [授業外学習] 指導教員の指示に従うこと
⑤	[テーマ] 論文の読み方 [内容] 実際の論文を用いて、目的や方法がどのように書かれているかを説明する [授業外学習] 検索した論文をもう一度読み直しておくこと	⑬	[テーマ] 研究計画書の確認(各ゼミ) [内容] 研究計画書の内容について確認する [授業外学習] 指導教員の指示に従うこと
⑥	[テーマ] 研究計画書の書き方 [内容] 研究計画書の書式や体裁について説明する [授業外学習] 研究計画書を作成し、指定された期日までに提出すること	⑭	[テーマ] 研究計画の検討(各ゼミ) [内容] 研究計画の内容について検討し、必要に応じて修正を行う [授業外学習] 指導教員の指示に従うこと
⑦	[テーマ] 研究テーマの設定・仮説の立て方 [内容] 研究テーマの設定方法や仮説の立て方について説明する [授業外学習] 提出した研究計画を見直しておくこと	⑮	[テーマ] 卒論ゼミのまとめ(各ゼミ) [内容] 研究計画を発表する。夏休み以降の卒論ゼミの進め方について確認する。 [授業外学習] 指導教員の指示に従うこと
⑧	[テーマ] 実験研究について [内容] 実験研究とは何かを説明する。また、実験の手順や条件の設定方法などについて説明する。 [授業外学習] 提出した研究計画を見直しておくこと	⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]

成績評価方法(方針)

授業内で行う演習(50%)および授業態度(50%)より総合的に評価する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技	○		○	50%
授業態度		○		50%
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ません。また、卒業論文につながる重要な科目ですので欠席しないようにすること。

関連科目	卒業論文		
教科書	特に指定しない	参考書	特に指定しない
連絡先	研究室:各担当教員研究室(学生便覧参照)		

授業科目名	スポーツ栄養学演習 Seminar in Sports Nutrition				担当教員	岩田純　長橋雅人　平良拓也
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	演習	関連資格	栄養士免許、健康運動指導士
	履修の方法	必修	単位数	2		

授業の概要

競技力向上や健康増進を目的とした現場において栄養管理を行うためには、スポーツ栄養学などの知識に加えて現場において役立つ実践力が必要である。この授業ではこれまで学んだ運動と栄養に関する知識を使ったいくつかの実践的な演習を実施する。

授業の一般目標

スポーツ現場において適正な栄養管理を行うための実践力を身につける。

授業の到達目標

■	認知的領域	スポーツ選手のトレーニング期分けの考え方やアセスメント・栄養教育の方法を説明できる。また、個別の事例への対応策を想定することができる。
■	情意的領域	スポーツ現場における栄養管理や栄養スタッフのあり方について積極的に討議できる。
■	技能表現的領域	1. トレーニング期分けに応じた栄養ケアプランを立案できる。 2. 対象者に必要な栄養素を弁当献立に反映させることができる。 3. 個別対応型の栄養相談および栄養指導を進めることができる

授業計画（全体）

1回の授業は2時間連続である。この授業は4人の教員で担当し、それぞれ下記のテーマで授業を実施していきます。授業内外のレポートや欠席届の提出についてはオリエンテーションで担当教員を確認の上、各教員の指示に従うこと。

授業テーマとその内容

1. オリエンテーション
この授業の概要、実施方法、評価方法などについて説明する

2. トレーニング期分けに応じた栄養ケアプラン①
対象となる競技種目のトレーニングプログラムを作成する

3. トレーニング期分けに応じた栄養ケアプラン②
各競技種目のトレーニングプログラムに応じた栄養ケアプランを考えて発表する

4. 献立作成
設定したスポーツ選手に必要なエネルギーおよび栄養摂取量を満たす弁当献立を作成する

5. 秤量法による食事調査
秤量法による食事調査を行い、摂取したエネルギーおよび栄養素について栄養価計算ソフトを用いて算出し、評価する。

6. 栄養指導方法の検討
選手に対する集団栄養指導の方法を検討する。

7. 栄養指導の実践
選手に対する集団栄養指導を実践する。

8. 事例検討
競技者が抱えている食生活の問題点のアプローチ法を考える

成績評価方法（方針）

授業内で行う演習および取り組み姿勢（50%）と授業内外の課題（50%）により評価する。3回以上欠席した者には単位を与えない。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				実施しない
授業内レポート	○		○	10%
授業外レポート	○		○	40%
演習・実技			○	50%
授業態度		○		減点あり
出席				欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

欠席する場合にはあらかじめ所定の欠席届を提出すること
欠席届を提出した場合にも欠席扱いとなるが、正当な理由で事前に届け出た場合には希望すれば補講が認められる

関連科目	スポーツ栄養学		
教科書	スポーツの栄養学（アイ・ケイ・コーポレーション）	参考書	
連絡先	岩田研究室D棟2階		

授業科目名	運動指導演習 Seminar in Exercise Education to Health(S.)				担当教員	藤井久/早川/真野/高橋弘/内丸/山口/橋本
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	演習	関連資格	健康運動指導士、健康運動実践指導者
	履修の方法	必修	単位数	2		

授業の概要

栄養指導を行う際、運動についての指導ができることは望ましいことである。本授業では、健康運動指導士の資格習得に向けて運動指導に必要な基礎的能力を身につけることを目指す。

授業の一般目標

「運動・栄養・休養」を基本とした運動プログラムの立案、分析、評価するための基礎を身につける。

授業の到達目標

■	認知的領域	運動プログラムの立案、分析、評価するための基礎知識を身につけることができる
■	情意的領域	将来、栄養指導に役立つことを意識して運動指導に関する演習に取り組むことができる
■	技能表現的領域	運動プログラムの立案、分析、評価するための基礎技能を身につけることができる

授業計画(全体)

授業テーマに応じた演習を行う。、授業は、担当教員の専門領域に応じて、全体形式もしくはグループ形式で行う。

授業テーマとその内容

第1回
[テーマ] オリエンテーション
[内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の説明
[授業外学習の指示等] シラバスを熟読しておくこと
第2回
[テーマ] 体力測定Ⅰ(成人)
[内容] 体力測定Ⅰ(成人)についての講義と演習・実習
[授業外学習の指示等] 「健康運動指導士講習会テキスト」の本項を読んでおくこと
第3回
[テーマ] 身体組成の測定
[内容] 身体組成測定についての講義と演習・実習
[授業外学習の指示等] 「健康運動指導士講習会テキスト」の本項を読んでおくこと
第4回
[テーマ] 体力測定Ⅱ(高齢者)
[内容] 体力測定Ⅱ(高齢者)について講義と演習・実習
[授業外学習の指示等] 「健康運動指導士講習会テキスト」の本項を読んでおくこと
第5回
[テーマ] 運動負荷試験
[内容] 運動負荷試験についての講義と演習・実習
[授業外学習の指示等] 「健康運動指導士講習会テキスト」の本項を読んでおくこと
第6回
[テーマ] ROM・ストレッチング
[内容] ROM・ストレッチングについての講義と演習・実習
[授業外学習の指示等] 「健康運動指導士講習会テキスト」の本項を読んでおくこと
第7回
[テーマ] コンディショニング・リラクゼーション
[内容] コンディショニング・リラクゼーションについての講義と演習・実習
[授業外学習の指示等] 「健康運動指導士講習会テキスト」の本項を読んでおくこと
第8回
[テーマ] まとめ
[内容]
[授業外学習の指示等]

成績評価方法(方針)

出席、受講態度およびレポートによる総合評価

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 \ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				
授業内レポート				
授業外レポート	◎		◎	60%
演習・実技				
授業態度	○		○	40%
出席		◎		欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・2/3以上の出席がない学生は、評価対象外とする(欠格条件)。
・授業態度が悪い学生は、成績評価から減点する。
・授業進行の妨げとなるので、遅刻は厳禁とする。
・テーマに応じてグループ形式で演習を行う。
・準備物等は、テーマによって異なるので、オリエンテーション時に連絡する。

関連科目			
教科書	特に指定しない。	参考書	特に指定しない。
連絡先	藤井久(D棟1階)・早川(F203)・真野(F203)		

授業科目名	栄養学実習 Practice in Nutrition				担当教員	早川　公康
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	実習	関連資格	栄養士免許
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

人間の出生から終生までのライフステージ（乳幼児期・成人期・高齢期など）やそれぞれのライフスタイル（生活活動の差、運動習慣の有無、スポーツ選手など）に応じた健康的な食生活の実践方法を学ぶ実習を行う。

授業の一般目標

乳幼児期・成人期・高齢期など各年代の特徴を理解し、それぞれのライフスタイル（生活活動の差、運動習慣の有無、スポーツ選手など）にあった食事・栄養の管理や指導方法を身につけることができる。

授業の到達目標

■	認知的領域	乳幼児期・成人期・高齢期など各年代の特徴を説明できる
■	情意的領域	各年代に特有の食生活の問題点に関心を持つ
■	技能表現的領域	ライフスタイルに応じた食事管理をすることができる

授業計画（全体）

最初に実習の方法や意義についての解説を行い、その後班ごとに分かれて実施する。主に調理加工実習室にて実習を行う。

授業テーマとその内容

①オリエンテーション・調乳と細菌検査
調製粉乳を用いて調乳を実際に行う。また、調乳の際に衛生的な処理が出来ているかどうか確認するために細菌検査を行う。

②乳児期食
離乳の進め方について説明した後、実際に離乳食の調理実習を行う。

③妊娠期・授乳期食
妊娠期・授乳期の栄養管理について説明した後、実際に妊娠期・授乳期食の調理実習を行う

④高齢期食
高齢期食の調理上の注意について説明した後、実際に嚥下食、軟菜食、流動食の調理実習を行う

⑤推定エネルギー必要量
生活時間調査による推定エネルギー必要量の算出方法を学ぶ。

⑥運動とエネルギー代謝
携帯型呼気ガス分析器や加速度計などを用いて、安静時や運動時のエネルギー消費量を測定する。

⑦サプリメント栄養実習
実際に各種サプリメントの試飲・試食を行いながら、一般人やスポーツ選手へのサプリメント指導方法について学ぶ。

⑧大量調理実習
集団に対して、ライフスタイルに応じた食事管理をする場合の実践方法を学ぶ。

成績評価方法（方針）

実習への取り組み姿勢（評価割合50%）および毎回のレポート提出（評価割合50%）により総合的に評価する。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				評価対象外
授業内レポート				評価対象外
授業外レポート	◎	◎	◎	50%
演習・実技		○		50%
授業態度		◎		減点あり
出席		◎		欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない。
・遅刻は減点とする。
・この科目は給食運営実習Ⅱ（校外実習）の履修許可基準の一つである。
・3年次にこの科目が修得できなかった場合は、翌年に給食運営実習Ⅱ（栄養士校外実習）を履修することができない。
・1回目より白衣、靴、包丁が必須である。

関連科目	食品学・食品衛生学・食品学実験・食品学実習・食品学演習・給食運営実習Ⅰ・給食運営実習Ⅱ		
教科書	応用栄養学実習（学建書院）	参考書	
連絡先	早川研究室F206		

授業科目名	食品衛生学 Food Hygiene				担当教員	早川公康・遠藤保雄
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格	栄養士免許
	履修の方法	必修	単位数	2		

授業の概要

具体的な食中毒事件を例として挙げながら、食の安全の大切さを認識させることから講義し、さらに食の安全を図るための食品衛生に基づく様々な関連法規、行政システムを学ぶように設定する。食品と微生物の関わり、自然毒、マイコトキシン、化学物質による食中毒の本質とその防止法を講義する。

授業の一般目標

ヒトは食事によって栄養成分を摂取し、生命を維持している。したがって、食事は常に安全であることが必須である。この講義では、生命維持機構を念頭におきながら、食品に起因して健康を害する様々な要因と、その発生を予防し、さらに防止する手段を学習する。また、食品衛生法、食品製造管理、食品行政についても学び、健康で安全な食に関する問題に対応できる能力を高めることを目指す。

授業の到達目標

■	認知的領域	食品衛生に関して学識を深め、実践に役立つ理論を修得する。
■	情意的領域	食の安全性への意識を高め、食品を扱う上での様々な留意点を強く意識できるようになる。
■	技能表現的領域	食品衛生に必要な技術を科学的に理解する。

授業計画（全体）

授業では次のような項目を設定して実施する。1.ヒトの生命維持活動と食事、食生活のリスク、安全性に関する行政システム、関連法規。2.食品と微生物の関わり、微生物と食中毒さらに寄生虫について。3.マイコトキシン、化学物質、自然毒による食中毒の本質とその防止法。4.食品添加物の概要、安全評価。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 1. 教員の紹介、授業予定・概要説明、2. 食品衛生学で何を学ぶのか、3. 食品衛生の定義と食品のサプライチェーンにおける食品衛生の重要性 [授業外学習]	⑨	[テーマ] 食中毒 [内容] 食中毒の定義、食中毒の発生状況、マスターテーブル法、微生物性食中毒、ウイルス性食中毒、自然毒食中毒、化学性食中毒について [授業外学習]
②	[テーマ] 食品衛生を脅かすものと食品の安全確保 [内容] 食品衛生上の6つの危険因子についての概説と 食品安全基本法に基づく食品安全への取組み、リスク評価と食品安全基準の設定、リスク管理、リスクコミュニケーション [授業外学習]	⑩	[テーマ] 食品による感染症・寄生虫症 [内容] 主な消化器系感染症、人畜共通感染症、食品から感染する寄生虫症について [授業外学習]
③	[テーマ] 食品のリスク管理を担う食品衛生法① 憲法と食品衛生、食品衛生法の主要規定とそれに基づく食品衛生の確保措置の体系：対策と範囲、安全の考え方、食品衛生関連法規 [授業外学習]	⑪	[テーマ] 食品中の汚染物質 [内容] カビ毒、化学物質、食品成分の変化により生ずる有害物質、混入異物について [授業外学習]
④	[テーマ]食品のリスク管理を担う食品衛生法② [内容] 食品衛生の具体的な確保措置：食中毒、食品の腐敗・変質、食品による感染症・寄生虫症等への対応、食品添加物の安全性評価等 [授業外学習]	⑫	[テーマ] 食品の変質 [内容] 腐敗、油脂の変質、食品の変質の防止法について [授業外学習]
⑤	[テーマ] 食品のリスク管理を担う食品衛生法③ [内容]食品衛生の具体的な確保措置：食品器具・容器包装の役割、HACCP、食品工場および家庭における衛生管理、輸入監視制度、食品衛生監視員と食品衛生管理 [授業外学習]	⑬	[テーマ] 食品添加物と食品器具・容器包装 [内容] 食品添加物のメリット・デメリット、種類と用途、1日摂取許容量、食品器具・容器包装の役割について [授業外学習]
⑥	[テーマ] 食品のリスク管理手段としての各種法制度・措置 [内容] 農業生産段階の措置：農薬取締法、飼料安全法等、サプライチェーンに即した措置：トレーサビリティ等 [授業外学習]	⑭	[テーマ]各種食品衛生管理 [内容] 遺伝子組み換え食品、有機栽培農作物、放射線照射食品等について [授業外学習]
⑦	[テーマ] 食品のリスクコミュニケーション [内容] 食品の規格・基準の設定とその遵守、品質・栄養・消費期限・賞味期限・アレルギー等に関する食品表示、国際規格（CODEX） [授業外学習]	⑮	[テーマ] 総まとめ [内容] 全授業内容を振り返り、要点を確認する。 [授業外学習]
⑧	[テーマ] 中間のまとめ [内容] 前半の内容を振り返り、要点を確認する。 [授業外学習]	⑯	[テーマ] 定期試験 [内容] 筆記試験を行なう。 [授業外学習]

成績評価方法（方針）

定期試験、授業出席日数、受講態度

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎			90%
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度		◎		10%
出席		◎		欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することができない（欠格条件）。
・授業態度が悪い学生に対しては、成績評価から減点する。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。
・遅刻2回は欠席1回とみなす。
・授業計画は、授業の進み方により、多少変更することがある。

関連科目	食品学　食品学実験　食品学実習　食品学演習		
教科書	「新版　食品衛生学」伊藤武 編　（建帛社）	参考書	
連絡先	早川研究室F206		

授業科目名	公衆栄養学概論 Public Health Nutrition(L)				担当教員	長橋雅人
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義(L)	関連資格	栄養士免許
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

国民の栄養状態・食生活・生活習慣・疾病構造の状況や、特定健康診査・特定保健指導等の公衆栄養に関することについて説明する。

授業の一般目標

国民の栄養状態・食生活・生活習慣・疾病構造の状況や特定健康診査・特定保健指導等の公衆栄養に関連する基礎的事項について理解する。

授業の到達目標

■	認知的領域	国民の栄養状態・食生活・生活習慣・疾病構造の状況や特定健康診査・特定保健指導等の公衆栄養に関連する基礎的事項について理解する。
□	情意的領域	
□	技能表現的領域	

授業計画(全体)

各授業テーマごとに、教科書、配布資料、視聴覚教材等を用いて授業を進める。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法 [授業外学習]授業内容を復習しておくこと	⑨	[テーマ] 特定健康診査・特定保健指導③ [内容] 地域における実施事例を紹介する [授業外学習]授業内容を復習しておくこと
②	[テーマ] 公衆栄養学について [内容] 公衆栄養学の概念、意義、目的等について説明する [授業外学習]授業内容を復習しておくこと	⑩	[テーマ] 特定健康診査・特定保健指導④ [内容] 個人における実施事例を紹介する [授業外学習]授業内容を復習しておくこと
③	[テーマ] 日本の状況 [内容] 人口動態と疾病構造について説明する [授業外学習]	⑪	[テーマ] 特定健康診査・特定保健指導⑤ [内容] 特定健康診査・特定保健指導と産業について紹介する [授業外学習]授業内容を復習しておくこと
④	[テーマ] 国民の栄養状態の状況 [内容] 栄養・食品摂取状況、食生活状況、食環境について説明する [授業外学習]授業内容を復習しておくこと	⑫	[テーマ] 食事摂取基準 [内容] 食事摂取基準について概説する [授業外学習]授業内容を復習しておくこと
⑤	[テーマ] 日本の公衆栄養活動① [内容] 健康日本21等について説明する。 [授業外学習]授業内容を復習しておくこと	⑬	[テーマ] 食品表示 [内容] 食品表示について説明する [授業外学習]授業内容を復習しておくこと
⑥	[テーマ] 日本の公衆栄養活動② [内容] 国民健康・栄養調査について説明する [授業外学習]授業内容を復習しておくこと	⑭	[テーマ] 栄養疫学 [内容] 事例を交えながら栄養疫学の概要を説明する [授業外学習]授業内容を復習しておくこと
⑦	[テーマ] 特定健康診査・特定保健指導① [内容] メタボリックシンドロームの概念と特定健康診査・特定保健指導の関連について説明する [授業外学習]授業内容を復習しておくこと	⑮	[テーマ] 関連法規 [内容] 公衆栄養活動に関連する関係法規について概説する [授業外学習]授業内容を復習しておくこと
⑧	[テーマ] 特定健康診査・特定保健指導② [内容] 標準的な特定保健指導の方法について説明する [授業外学習]授業内容を復習しておくこと	⑯	[テーマ] テスト [内容] 授業の理解度・到達度を確かめるために期末テストを行う [授業外学習] テストに備えて復習をすること

成績評価方法(方針)

試験は、期末試験を実施する(評価割合100%)。2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない(欠格条件)。授業態度が悪い学生に対しては、成績評価から減点する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	○			100%
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度				減点あり
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

□2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない(欠格条件)。
□授業態度が悪い学生に対しては、成績評価から減点する。
□全員の名前を読み終えた時点で不在の学生は遅刻とする。
□20分以上の遅刻は欠席とみなす。
□遅刻2回を欠席1回と換算する。
□欠席届は事前に研究室前の欠席届用の箱内へ提出すること。
□授業中は携帯電話をかばんの中にしまうこと。
□授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。

関連科目			
教科書	適宜指定する	参考書	適宜指定する
連絡先	研究室:D棟2階		

授業科目名	給食計画論 Management of Food Service				担当教員	岩田　純／藤井久雄
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義	関連資格	栄養士免許
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

給食の定義や関連する法律について紹介する。給食サービスにおける調理作業計画、栄養管理、衛生安全管理などについて講義を行う。

授業の一般目標

給食業務を行うために必要な食事の計画や調理を含めた給食サービス提供に関する基礎的な知識を習得する。

授業の到達目標

■	認知的領域	給食サービスにおける基礎的事項について説明できる
□	情意的領域	
■	技能表現的領域	1. 栄養管理を行うための献立をたてることができる　2. 調理作業工程を組み立てることができる　3. 発注書を作成することができる

授業計画（全体）

給食の概要について講義が終了した後、実際の給食の流れがイメージしやすいように学内の給食実習室の見学を行う。また、講義での知識をより確実なものとするために、何回かの小テストを行い、理解度を確認しながら授業を進めていく。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション、給食の定義と目的 [内容] 授業の進め方、成績評価の方法、給食の定義と目的について説明する [授業外学習] 指定の教科書を必ず購入しておくこと	⑨	[テーマ] 食材料管理 [内容] 食材料管理および発注書の作成方法について説明する [授業外学習] 作成した献立の発注書を作成して提出すること
②	[テーマ] 特定給食施設および関係法規 [内容] 特定給食施設の定義と関係法規について説明する [授業外学習] 調理機器とその使い方をまとめておくこと	⑩	[テーマ] 作業管理① [内容] 作業管理の方法や大量調理の標準化について説明する [授業外学習] 教科書の該当ページを復習しておくこと
③	[テーマ] 集団給食実習室の見学 [内容] 集団給食実習室での給食の流れや調理機器などを紹介する [授業外学習] 調理機器とその使い方をまとめておくこと	⑪	[テーマ] 作業管理② [内容] 新調理システムおよび調理作業工程表の作成方法について説明する [授業外学習] 作成した献立の作業工程表を作成して提出すること
④	[テーマ] 給食施設における食材の流れ [内容] 給食施設における食材の検収から食事の配膳までの調理作業の流れを説明する [授業外学習] 教科書の該当ページを復習しておくこと	⑫	[テーマ] 給食業務における経営管理 [内容] 給食の原価管理および経営分析法について説明する [授業外学習] 教科書の該当ページを復習しておくこと
⑤	[テーマ] 衛生安全管理① [内容] 食中毒や事故防止、調理従事者の衛生管理について説明する [授業外学習] 教科書の該当ページを復習しておくこと	⑬	[テーマ] 給食施設の種類と特徴① [内容] 病院、福祉施設の給食施設の特徴について紹介する [授業外学習] 教科書の該当ページを復習しておくこと
⑥	[テーマ] 衛生安全管理② [内容] 食材料、施設・設備の衛生安全管理について説明する [授業外学習] 教科書の該当ページを復習しておくこと	⑭	[テーマ] 給食施設の種類と特徴② [内容] 学校、事業所等の給食施設の特徴について紹介する [授業外学習] 教科書の該当ページを復習しておくこと
⑦	[テーマ] 栄養管理① [内容] 給与栄養基準量の設定方法について解説する [授業外学習] 教科書の該当ページを復習しておくこと	⑮	[テーマ] 筆記試験 [内容] 試験中に机の上に置けるものは筆記用具と電卓のみである [授業外学習] 筆記試験に備えて復習をすること　小テストを見直すこと
⑧	[テーマ] 栄養管理② [内容] 食品構成表や献立表の作成方法について説明する [授業外学習] 昼食の献立を作成して提出すること	⑯	[テーマ] 試験問題の解説 [内容] 試験問題の解説を行う [授業外学習] 不正解であった問題については教科書等をみて確認すること

成績評価方法（方針）

筆記試験（評価割合80%）、授業内で実施する小テスト（評価割合10%）、課題提出（評価割合10%）により総合的に成績評価を行う。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎			80%
授業内レポート	○			10%
授業外レポート	○		○	10%
演習・実技				評価対象外
授業態度				減点あり
出席				欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない。
・遅刻は2回で1回分の欠席とする。
・課題を一つでも提出しない者は筆記試験を受けることができない。（欠席した者は、その次の授業前までに課題を研究室までとりにくること）
・授業で配布されたプリントはファイル等を使ってきちんと保管しておくこと
・この科目は給食運営実習Ⅱ（栄養士校外実習）の履修許可基準の一つであるため、3年次にこの科目が修得できなかった場合は、翌年に給食運営実習Ⅱ（栄養士校外実習）を履修することができない。

関連科目	給食運営実習Ⅰ、給食運営実習Ⅱ（栄養士校外実習）		
教科書	給食経営管理実務ガイドブック新訂・第三版（同文書院） 五訂大量調理施設衛生管理のポイント（中央法規出版）	参考書	食品成分表
連絡先	岩田研究室：D棟2階		

授業科目名	食品学実験 Laboratory Experiments on Food Science				担当教員	早川公康
開講内容	学年・学期	3年 半期	授業方法	実験	関連資格	栄養士免許
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

食品学実験に使用する器具の種類と使用法、洗滌法、試薬の取り扱いなどの基本を修得し、さらに食品成分の特性を化学・物理・生物学的に学ぶ。食品衛生に関する実験や、食味について五原味などの感覚を閾値から解明する実験等も行なう。

授業の一般目標

食品に関する実験内容は化学、物理、微生物、感覚器官応答など多岐にわたる。できるだけ多くの項目の学習を目指しながらも限られた時間内であることもふまえ、食品学実習、食品学および食品衛生学等の講義と関連させつつ、専門知識を増やし理解を深める。

授業の到達目標

■	認知的領域	食品に関する実験の有効性について理解する方法を学ぶ
■	情意的領域	実験を通して、食品に対する科学的興味・関心を高める
■	技能表現的領域	食品に関する実験技術を修得する

授業計画(全体)

実験が中心の内容であるが、できるだけ身近に存在する食に関する事項を内容に盛り込みながら授業を展開する。

授業テーマとその内容

1. オリエンテーション
2. レンネット力価測定実験(チーズ製造)
3. 食品衛生実験①(食中毒)
4. 食品衛生実験②(手指衛生)
5. 食品衛生実験③(細菌増殖)
6. 食品衛生実験④(安全な食環境)
7. 味覚閾値に関する実験①
8. 味覚閾値に関する実験② まとめ

成績評価方法(方針)

毎回提出が必須となるレポートを重視するとともに、出席状況や授業態度等も考慮する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 \ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				
授業内レポート	◎	◎	◎	
授業外レポート	◎	◎	◎	50%
演習・実技				
授業態度		◎		減点あり
出席		◎		50%

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することができない(欠格条件)。
・授業態度が悪い学生に対しては、成績評価から減点する。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。
・遅刻2回は欠席1回とみなす。
・授業計画は、授業の進み方により、多少変更することがある。

関連科目	食品学、食品衛生学、食品学実習		
教科書	特に指定しないが、実験指針のプリントを配布する。	参考書	
連絡先	早川研究室F206		

授業科目名	食品学演習 Seminar of Food Science				担当教員	早川公康
開講内容	学年・学期	4・半期	授業方法	演習	関連資格	栄養士免許
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

食品に関するあらゆる分野において受講生自身が疑問および興味を持つ内容を引き出し、そのテーマについて全員が発表し、討論を行なう場とする。栄養英語のテキストを用いた学修も行なう。

授業の一般目標

演習はゼミナールであることを理解させ、最高学年である受講生が中心になってテーマを提案し、それについて自主的に調べた内容を発表し討論する場とする。相互に発表し討論することによって、新しいジャンルの内容を発掘し、また社会との接点を見出せるような授業とすることを目標とする。栄養英語の修得も目指す。

授業の到達目標

■	認知的領域	食品に関する情報について的確に理解する方法を学ぶ
■	情意的領域	自身が準備した食に関するテーマの発表において聴講者に要点を伝えようという意識づくりができる
■	技能表現的領域	プレゼンテーション技術を工夫した食品情報を提供できる

授業計画（全体）

受講者が疑問あるいは興味を持つ食品に関する事柄を提案させ、それについて自主的に調べて発表させることを行なう。学生全員との討論に応じる訓練も経験する。栄養英語についても学修する。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法 [授業外学習] シラバスを熟読すること	⑨	[テーマ]「食品」に関するプレゼンテーション③ [内容]「食品」に関する疑問を解決させるための説明を行なう。 [授業外学習]
②	[テーマ]「食品」とは [内容] そもそも「食品」とは何なのか、食品認知を考察する。ディスカッション、レポート。 [授業外学習]	⑩	[テーマ]「食品」に関するプレゼンテーション④ [内容]「食品」に関する疑問を解決させるための説明を行なう。 [授業外学習]
③	[テーマ]「食品」を「学ぶ」とは（「食品学」とは） [内容]「食品学」の価値、有用性について検討する。ディスカッション、レポート。 [授業外学習]	⑪	[テーマ]「食品」に関するプレゼンテーション⑤ [内容]「食品」に関する疑問を解決させるための説明を行なう。 [授業外学習]
④	[テーマ]「食品」についての疑問 [内容]「食品」に関する疑問を出し合い、議論する。 [授業外学習]	⑫	[テーマ]「食品」に関するプレゼンテーション⑥ [内容]「食品」に関する疑問を解決させるための説明を行なう。 [授業外学習]
⑤	[テーマ]「食品」についての疑問を解決① [内容]「食品」についての疑問を解決するための検索、調べ学習をする。 [授業外学習]	⑬	[テーマ]「食品」に関するプレゼンテーション⑦ [内容]「食品」に関する疑問を解決させるための説明を行なう。 [授業外学習]
⑥	[テーマ]「食品」についての疑問を解決② [内容] プレゼンテーションの準備 [授業外学習]	⑭	[テーマ] 現代の食品学を洞察する [内容]「現代の食品学」を総括したビデオをみて、これからの「食品学」のあり方を模索する。 [授業外学習]
⑦	[テーマ]「食品」に関するプレゼンテーション① [内容]「食品」に関する疑問を解決させるための説明を行なう。 [授業外学習]	⑮	[テーマ]「食品学」の使命 [内容] 食品学が私たち人類に果たす役割を深く考察する。 [授業外学習]
⑧	[テーマ]「食品」に関するプレゼンテーション② [内容]「食品」に関する疑問を解決させるための説明を行なう。 [授業外学習]	⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]

成績評価方法（方針）

毎回の出席状況・レポート・発表の内容により総合的に評価する。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				
授業内レポート	◎			50%
授業外レポート				
演習・実技			◎	50%
授業態度		◎		減点あり
出席		◎		欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することができない（欠格条件）。
・授業態度が悪い学生に対しては、成績評価から減点する。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。
・遅刻2回は欠席1回とみなす。
・授業計画は、授業の進み方により、多少変更することがある。

関連科目	食品学　食品衛生学		
教科書	『はじめての栄養英語』（講談社サイエンティフィク）	参考書	
連絡先	F206　早川研究室		

授業科目名	食品学実習 Practice of Food Science				担当教員	早川公康
開講内容	学年・学期	3年 半期	授業方法	実習	関連資格	栄養士免許
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

一次原料である農産物を用いた食材・食品の加工や調理の二次原料の加工についてその手法の講義と実習を行なう。実習で得た知識が食品加工工場で実施されていることを工場見学によって確認する。

授業の一般目標

食品成分の特性と加工特性について主に食品加工に関する学習を通して専門知識を増やし理解を深めることを目標とする。

授業の到達目標

■	認知的領域	食品に関する実習の有効性について理解する方法を学ぶ
■	情意的領域	実習を通して、食品加工に対する実践的興味・関心を高める
■	技能表現的領域	食品加工に関する技術を修得する

授業計画(全体)

小麦粉を用いたうどん、グルテン、小麦粉でんぷんの製造と加工、カッテージチーズの製造、ホエータンパク質の分離、アミラーゼを利用した麦芽糖の製造と水あめおよび酵母による発酵を実習し、食品工場を見学する。

授業テーマとその内容

1. オリエンテーション
2. 穀物の加工
3. デンプンと麦芽糖の製造①
4. デンプンと麦芽糖の製造②
5. カッテージチーズの製造①
6. カッテージチーズの製造②
7. 工場見学(ビール工場)
8. 工場見学(牛乳工場) まとめ

成績評価方法(方針)

毎回提出が必須となるレポートを重視するとともに、出席状況や授業態度等も考慮する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 \ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				
授業内レポート				
授業外レポート	◎	◎	◎	50%
演習・実技				
授業態度		◎		減点あり
出席		◎		50%

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することができない(欠格条件)。
・授業態度が悪い学生に対しては、成績評価から減点する。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。
・遅刻2回は欠席1回とみなす。
・授業計画は、授業の進み方により、多少変更することがある。

関連科目	食品学、食品衛生学、食品学実験		
教科書	特に指定しないが、実習指針のプリントを配布する。	参考書	
連絡先	早川研究室F206		

授業科目名	臨床栄養学概論 Introduction Clinical Nutriton(L.)				担当教員	真野芳彦
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

本授業は、これまで学習してきた栄養学ならびに解剖・生理学を基礎に、栄養摂取および栄養代謝と、生体の生理機能ならびに疾病との関経連を学習する。特に生活習慣に関連した患者の病因・病態における栄養の役割について重点的に取りあげる。

授業の一般目標

将来栄養士あるいは人々の健康管理に従事する人材に必要な素養を身につけるとともに、各種患者の病因・病態の基礎的な医学知識を習得する。

授業の到達目標

■	認知的領域	栄養士として、また健康管理に従事する人材として指導的な役割を果たせる知識を習得する。
■	情意的領域	上述の人材として、常に積極的な指導的な役割を果たせるようたえず学習を持続する。
□	技能表現的領域	

授業計画(全体)

下記の授業計画に沿って、教科書ならびに教官の方で用意した関連資料を用いて、講義を行う。その間に定期的に課題を与えて知識の整理を行うとともに、その習得状況を確認する。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 臨床栄養学総論 [内容] 臨床栄養学の概念、将来の展望 [授業外学習]シラバスを読んでおくこと	⑨	[テーマ] 代謝疾患(1)－糖代謝と脂質代謝とその異常 [内容] 糖尿病、高脂血症、動脈硬化症 [授業外学習]配布資料を予習復習すること。
②	[テーマ] 食欲中枢－食欲と摂食障害 [内容] 食欲の調節、食欲不振 [授業外学習]	⑩	[テーマ] 代謝疾患(2)－タンパク代謝とその異常、先天性代謝異常 [内容] 高尿酸血症、痛風、肥満とその対策、メタボリックシンドローム [授業外学習]授業内容を復習しておくこと。
③	[テーマ] 病態栄養の基礎 [内容] 消化吸収機能とその異常 [授業外学習]授業で気づいたことをまとめておくこと。	⑪	[テーマ] 循環器疾患 [内容] 動脈硬化症、高血圧、心疾患、脳卒中 [授業外学習]授業内容を復習しておくこと。
④	[テーマ] 消化管疾患(1) [内容] 口腔、歯と食道疾患、胃食堂逆流症、扁桃腺炎 [授業外学習]配布資料を予習復習すること。	⑫	[テーマ] 腎臓、尿道疾患 [内容] 腎臓の生理と病態栄養、腎疾患の症状、糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、腎不全 [授業外学習]授業内容を復習しておくこと。
⑤	[テーマ] 消化管疾患(2) [内容] 胃の疾患、胃液の働き、炎症性疾患、腫瘍性疾患、胃切除症候群 [授業外学習]授業内容を復習しておくこと。	⑬	[テーマ] 呼吸器疾患 [内容] かぜ症候群、閉塞性肺疾患、肺炎、気管支喘息、肺結核、肺癌 [授業外学習]授業内容を復習しておくこと。
⑥	[テーマ] 消化管疾患(3) [内容] 小腸と大腸の疾患、炎症性疾患、腫瘍性疾患、機能性疾患 [授業外学習]書き写したノートを復習しておくこと。	⑭	[テーマ] 内分泌疾患 [内容] 甲状腺機能亢進・低下症、クッシング症候群、アルドステロン症、更年期障害 [授業外学習]授業内容を復習しておくこと。
⑦	[テーマ] 肝疾患 [内容] 肝臓生涯、肝炎、肝硬変、腫瘍、栄養代謝異常 [授業外学習]授業内容を復習しておくこと。	⑮	[テーマ] 血液疾患、免疫異常とアレルギー疾患 [内容]血液の機能とその対策、 血液凝固異常、貧血、白血病、出血、免疫不全、アレルギー [授業外学習]授業内容を復習しておくこと。
⑧	[テーマ] 胆道系、膵疾患 [内容] 胆石症、胆管炎、胆管癌、膵癌、自己消化 [授業外学習]書き写したノートを復習しておくこと。	⑯	[テーマ] 期末試験と総合評価 [内容] [授業外学習]

成績評価方法(方針)

期末試験と授業態度を総合して成績評価を行う。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	○			100%
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度				減点あり
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・本科目は生理学・解剖生理学との関連が強いため、関連科目の知識を深めることが要求される。2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない(欠格条件)。

関連科目	解剖生理学Ⅰ・Ⅱ		
教科書	Visual 栄養学テキスト 臨床栄養学Ⅱ各論(中山書店)	参考書	病気がみえるシリーズ(MEDIC MEDIA)
連絡先	真野研究室:F棟2階、		

授業科目名	臨床栄養学実習 Practice of Clinical Nutrition				担当教員	真野 芳彦 、 岩田 純
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	実習	関連資格	栄養士免許
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

不適な栄養摂取をはじめとする生活習慣や加齢に起因した疾病を、具体的な症例呈示と顕微鏡標本を通じて体験できる実習を行う。
さらに傷病者の病態に応じた具体的な献立作成や調理を行う。

授業の一般目標

各種疾患について理解を深め、それらの予防・治療・回復の効果が期待される食事療法を実施する方法を学ぶ。

授業の到達目標

■	認知的領域	傷病者の病態や栄養状態の特徴に合った食事療法を説明できる
■	情意的領域	各種疾患に関心を持って実習に取り組むことができる
■	技能表現的領域	各種疾患の特徴を図示し、それらの疾患に応じた具体的な食事療法を実践できる

授業計画(全体)

授業の初めに関連疾患の説明と実習内容を解説し、その後実習を行う。

授業テーマとその内容

①オリエンテーション
実習を受けるにあたっての注意事項、授業の進め方、成績評価の方法について説明する。

②酸化ストレスの測定および治療用食品と簡易トロミ測定板の活用
酸化ストレス度と抗酸化能を測定して、疾患と酸化ストレスの影響を学ぶ。治療用食品の活用法を学習する。各飲料にトロミをつけて、粘度を評価する。

③嚥下調整食と咀嚼困難食
嚥下機能の障害を伴う対象者の咀嚼機能と食事形態を学習する。

④腎臓病食
普通食と腎臓食を作り、塩分制限およびたんぱく制限が伴う食事の理解を深める。

⑤糖尿病患者のための食品交換表
糖尿病の食事療法について復習を行ったあと、糖尿病食事療法のための食品交換表の使い方について説明する。

⑥糖尿病患者食の献立作成(1)
糖尿病食事療法のための食品交換表を用いて1400kcal食の献立を作成する 。

⑦栄養アセスメントの方法
栄養状態の評価方法を実践的に学習する。

⑧大量調理実習
臨床現場で、集団に対して食事提供をする場合の実践方法を学ぶ。

成績評価方法(方針)

実習の取り組み姿勢(評価割合50%)および毎回のレポート提出(評価割合50%)により総合的に評価する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				評価対象外
授業内レポート				評価対象外
授業外レポート	○		○	50%
演習・実技		○		50%
授業態度				減点あり
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・この科目は給食運営実習Ⅱ(校外実習)の履修許可基準の一つである。
・3年次にこの科目が修得できなかった場合は、翌年に給食運営実習Ⅱ(栄養士校外実習)を履修することができない。

関連科目	臨床栄養学概論、給食運営実習Ⅱ(栄養士校外実習)		
教科書	糖尿病食事療法のための食品交換表第6版 (日本糖尿病協会・文光堂)	参考書	食品成分表
連絡先	真野研究室:F棟2階		

授業科目名	栄養指導論演習 Seminar in Nutrition Education(S.)				担当教員	長橋　雅人
開講内容	学年・学期	4・半期	授業方法	演習	関連資格	栄養士免許
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

栄養調査結果を用いてデータ分析やグラフ作成ができるようになり、また栄養調査報告書を作成することができるようになるよう、授業を進める。

授業の一般目標

栄養調査結果を用いてデータ分析やグラフ作成ができるようになる。また栄養調査報告書を作成することができるようになる。

授業の到達目標

□	認知的領域	
□	情意的領域	
■	技能表現的領域	栄養調査結果を用いてデータ分析やグラフ作成ができる。また栄養調査報告書を作成することができる。

授業計画（全体）

学生はパソコンを用いて演習に取り組む。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の進め方や目的について説明し、これからの授業の取り組み方について確認する [授業外学習]授業内容を復習しておくこと	⑨	[テーマ] 栄養調査結果のデータ分析⑤ [内容] Excelを用いた平均割合の算出とグラフ作成について理解し、課題に取り組む。 [授業外学習] 授業内容を復習しておくこと
②	[テーマ] 栄養情報と文章作成 [内容] Wordを用いた文章作成の基本を理解し、課題に取り組む。 [授業外学習]授業内容を復習しておくこと	⑩	[テーマ] 栄養調査結果のデータ分析⑥ [内容] Excelを用いた平均割合の算出とグラフ作成に関する応用課題に取り組む。 [授業外学習] 授業内容を復習しておくこと
③	[テーマ] 栄養情報とデータ処理① [内容] Excelを用いたデータ処理方法の基本を理解し、課題に取り組む。 [授業外学習] 授業内容を復習しておくこと	⑪	[テーマ] 栄養調査報告書の作成① [内容] データ分析の結果からWordを用いて報告書を作成する際の基本を理解する。 [授業外学習]授業内容を復習しておくこと
④	[テーマ] 栄養情報とデータ処理② [内容] Excelを用いたデータ処理方法の応用課題に取り組む。 [授業外学習] 授業内容を復習しておくこと	⑫	[テーマ] 栄養調査報告書の作成② [内容] データ分析の結果からWordを用いて報告書を作成する。 [授業外学習] 授業内容を復習しておくこと
⑤	[テーマ] 栄養調査結果のデータ分析① [内容] Excelを用いた基礎統計量の算出方法を理解し、課題に取り組む。 [授業外学習] 授業内容を復習しておくこと	⑬	[テーマ] 栄養調査結果のデータ分析および報告書の作成① [内容]栄養調査結果を用いた発展課題に取り組む。栄養調査報告書を作成する。 [授業外学習] 授業内容を復習しておくこと
⑥	[テーマ] 栄養調査結果のデータ分析② [内容] Excelを用いた基礎統計量の算出方法に関する応用課題に取り組む。 [授業外学習] 授業内容を復習しておくこと	⑭	[テーマ] 栄養調査結果のデータ分析および報告書の作成② [内容]栄養調査結果を用いた発展課題に取り組む。栄養調査報告書を作成する。 [授業外学習]授業内容を復習しておくこと
⑦	[テーマ] 栄養調査結果のデータ分析③ [内容] Excelを用いた平均値の算出とグラフ作成について理解し、課題に取り組む。 [授業外学習] 授業内容を復習しておくこと	⑮	[テーマ] 栄養調査結果のデータ分析および報告書の作成③ [内容]栄養調査結果を用いた発展課題に取り組む。栄養調査報告書を作成する。 [授業外学習] 授業内容を復習しておくこと
⑧	[テーマ] 栄養調査結果のデータ分析④ [内容] Excelを用いた平均値の算出とグラフ作成に関する応用課題に取り組む。 [授業外学習] 授業内容を復習しておくこと	⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]

成績評価方法（方針）

出席状況、授業態度、課題の提出状況及びその内容によって総合的に評価する。ただし、出席回数または課題提出が2/3以下の場合は成績評価対象外とする。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				
授業内レポート			○	50%
授業外レポート			○	50%
演習・実技				
授業態度			○	減点あり
出席			○	欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・2/3以上の出席がない学生は単位を修得することが出来ない（欠格条件）。
・課題を行うにあたって、授業時間外での取り組みが必要となる。したがって、自主的かつ積極的な態度で授業に臨むことが求められる
・課題未提出者は単位放棄とみなす
・レポート課題は指定日時までに必ず提出すること。
・パソコンを使用した授業のため、パソコン利用のための手続きや、データ保存媒体等、各自事前に準備すること
・授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある

関連科目			
教科書	適宜指示する	参考書	適宜指示する
連絡先	研究室：D棟2階		

授業科目名	栄養指導論実習Ⅰ Practice in Nutrition Education Ⅰ (F.E.)				担当教員	長橋雅人
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	実習	関連資格	栄養士免許
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

対象者の栄養や食に関する問題点や改善点を明確にし、これらに基づいた指導案を作成し、実際に集団栄養指導を試みる。また指導に対する自己評価と他者評価を実施し、己の指導上の問題点や改善点を明らかにする。このプロセスを通して、栄養指導の基本を習得する。

授業の一般目標

対象者の栄養や食に関する問題点や改善点を明確にし、これらに基づいた指導案を作成することが出来るようになる。また、実際に集団に対する栄養指導を実施し、評価を受けることで己の指導上の問題点や改善点を明らかにする。このプロセスを通して、栄養指導の基本を習得する。

授業の到達目標

□	認知的領域	
■	情意的領域	指導の難しさに気付くと同時に必要性を実感し、栄養指導へ興味を持つ
■	技能表現的領域	指導案の作り方を理解する。また、指導案に基づいた指導ができるようになる。

授業計画(全体)

1人で栄養指導を実践する。自身でテーマを決め、指導案を作成し、指導内容や方法を考案し、教材・媒体等を作成し、集団に対して栄養指導を行い評価をうける。また実施した指導に対する評価結果を検討し、その結果より改善点や今後の課題について考察する。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法 [授業外学習]授業内容を復習しておくこと	⑨	[テーマ] [内容] [授業外学習]
②	[テーマ] 指導テーマの決定 [内容] 集団指導を想定し、指導テーマを検討し決定する [授業外学習]指導日に間に合うように計画的に作業を進めること	⑩	[テーマ] [内容] [授業外学習]
③	[テーマ] 指導案の作成 [内容] テーマに基づき指導案を作成する [授業外学習]指導日に間に合うように計画的に作業を進めること	⑪	[テーマ] [内容] [授業外学習]
④	[テーマ] 指導内容の詳細決定 [内容] 指導案の修正と併せて、指導内容の詳細を決定する。 [授業外学習]指導日に間に合うように計画的に作業を進めること	⑫	[テーマ] [内容] [授業外学習]
⑤	[テーマ] 教材・媒体の作成 [内容] 指導に必要な媒体を作成する。また随時指導内容や指導案の確認修正を行う。 [授業外学習]指導日に間に合うように計画的に作業を進めること	⑬	[テーマ] [内容] [授業外学習]
⑥	[テーマ] 指導案の改善 [内容] ロールプレイング技法を用いて指導案の最終確認を行う [授業外学習]指導日に間に合うように計画的に作業を進めること	⑭	[テーマ] [内容] [授業外学習]
⑦	[テーマ] 指導の実施・評価 [内容] 実際に集団に対して指導を行い評価を受ける [授業外学習]己の指導に対する自己評価を行い反省点や改善点を抽出するこ	⑮	[テーマ] [内容] [授業外学習]
⑧	[テーマ] 指導評価の集計、考察、まとめ [内容]実施した指導に対する評価を集計し、その結果より改善点や今後の課題について考察する [授業外学習]授業内容を復習しておくこと	⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]

成績評価方法(方針)

取り組む姿勢(評価割合40%)、栄養指導内容(評価割合30%)、レポート(評価割合30%)の結果を総合して成績評価を行う。2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない(欠格条件)。授業態度が悪い学生に対しては、成績評価から減点する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				
授業内レポート		○	○	30%
授業外レポート				
演習・実技		○	○	30%
授業態度		◎	◎	40%
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

□2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない(欠格条件)。
□授業態度が悪い者を成績評価から減点する。
□出欠確認終了時点で不在の学生を遅刻とする。
□20分以上の遅刻を欠席とする。
□遅刻2回を欠席1回と換算する。
□欠席届は事前に研究室前の欠席届用の箱内へ提出。
□授業中は携帯電話をかばんの中にしまうこと。
□授業計画は多少前後することがある。
□レポート提出は指定日時厳守のこと。課題未提出者は単位放棄とみなす。
□将来栄養士としての資質を備えられるよう、礼儀や言葉遣い、周囲への配慮等を心がけること。

関連科目			
教科書	適宜資料を配布する	参考書	適宜、指定する
連絡先	研究室:D棟2階		

授業科目名	栄養指導論実習Ⅱ Practice in Nutrition Education Ⅱ(F.E.)				担当教員	長橋 雅人
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	実習	関連資格	栄養士免許
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

栄養指導時に必要な食事摂取基準値、栄養素等の働き、食品中の栄養成分の含有量等の関連性について理解を深める。そしてこれらのことも踏まえリーフレットを用いた栄養指導を実践する。

授業の一般目標

栄養指導時に必要な食事摂取基準値、栄養素等の働き、食品中の栄養成分の含有量等の関連性について理解を深める。そしてこれらのことも踏まえリーフレットを用いた栄養指導を実践できるようになる。

授業の到達目標

■	認知的領域	栄養指導時に必要な食事摂取基準値、栄養素等の働き、食品中の栄養成分の含有量等の関連性について理解を深める。
□	情意的領域	
■	技能表現的領域	リーフレットを用いた栄養指導を実践できるようになる。

授業計画(全体)

適宜資料を配布する。また前半は班活動を行う。後半は必ず一人で栄養指導を実践し評価を受ける。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法 [授業外学習]授業内容を復習しておくこと	⑨	[テーマ] [内容] [授業外学習]
②	[テーマ] 食事摂取基準に基づく栄養指導① [内容] 食事摂取基準値、熱量素等の働き、食品中の栄養成分の含有量等の関連性を踏まえた栄養指導 [授業外学習]授業内容を復習しておくこと	⑩	[テーマ] [内容] [授業外学習]
③	[テーマ] 食事摂取基準に基づく栄養指導② [内容] 食事摂取基準値、無機質等の働き、食品中の栄養成分の含有量等の関連性を踏まえた栄養指導 [授業外学習]授業内容を復習しておくこと	⑪	[テーマ] [内容] [授業外学習]
④	[テーマ] 食事摂取基準に基づく栄養指導③ [内容] 食事摂取基準値、ミネラル等の働き、食品中の栄養成分の含有量等の関連性を踏まえた栄養指導 [授業外学習]授業内容を復習しておくこと	⑫	[テーマ] [内容] [授業外学習]
⑤	[テーマ] 食事摂取基準に基づく栄養指導④ [内容] 食事摂取基準値、その他栄養素等の働き、食品中の栄養成分の含有量等の関連性を踏まえた栄養指導 [授業外学習]授業内容を復習しておくこと	⑬	[テーマ] [内容] [授業外学習]
⑥	[テーマ]リーフレットを用いた栄養指導① [内容] 作成したリーフレットを用いた栄養指導実習と評価 [授業外学習]授業内容を復習しておくこと	⑭	[テーマ] [内容] [授業外学習]
⑦	[テーマ]リーフレットを用いた栄養指導② [内容] 作成したリーフレットを用いた栄養指導実習と評価 [授業外学習]授業内容を復習しておくこと	⑮	[テーマ] [内容] [授業外学習]
⑧	[テーマ]リーフレットを用いた栄養指導の評価 [内容]受けた評価を詳細に検討し、指導について総括する。 [授業外学習]授業内容を復習しておくこと	⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]

成績評価方法(方針)

取り組む姿勢(評価割合40%)、レポート(評価割合60%)の結果を総合して成績評価を行う。2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない(欠格条件)。授業態度が悪い学生に対しては、成績評価から減点する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 \ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				
授業内レポート	○		○	60%
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度	◎		◎	40%
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

□2/3以上の出席がない学生は単位を修得することが出来ない(欠格条件)。
□授業態度が悪い者は成績評価から減点する。
□出欠確認終了時に不在の者を遅刻とする。
□20分以上の遅刻を欠席とする。
□遅刻2回を欠席1回と換算する。
□欠席届は事前に研究室前の欠席届用の箱内へ提出すること。
□授業中は携帯電話をかばんの中にしまうこと。
□授業計画は多少前後等変更することがある。
□レポートは指定日時までに提出すること。
□将来栄養士としての資質を備えられるよう礼儀や言葉遣い、周囲への配慮を心がけること。

関連科目			
教科書	適宜資料を配布する	参考書	適宜、指定する
連絡先	研究室:D棟2階		

授業科目名	生化学実験 Experiments in Biochemistry (Lab)				担当教員	柴原茂樹/小澤輝高/藤井久雄
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義・実験	関連資格	栄養士、管理栄養士
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

実験で生体を構成している物質を取り扱うことを通して、生化学の基礎的技術に触れ、生体の構造、機能を理解させる。具体的には、生体のpH緩衝能や、糖質、脂質、蛋白質の特性を調べる。

授業の一般目標

生化学の基礎的技術に触れながら、生体の構造や機能を理解し、講義で学んだ生化学的知識について、理解を深める。

授業の到達目標

■	認知的領域	実験を通して、生体を構成している物質の構造や特性を理解させる。
■	情意的領域	生体の構成成分に関する実験に意欲的に取り組めるようにする。
■	技能表現的領域	実験器具の取り扱いや溶液の調製などの基本的な技術を身につけさせる。

授業計画(全体)

ガラス器具、電子天秤、pHメーターなどの取り扱いに慣れさせる。pHの概念や、緩衝作用を理解させる。糖質、脂質、蛋白質などの特性を調べる実験を行う。

授業テーマとその内容

以下のテーマで実習を行う。
1. オリエンテーション
2. ガラス器具の取り扱いと溶液の調製法
3. pHと緩衝液
4. 糖質の定性試験(モーリッシュ反応、フェーリング反応)
5. 脂質の定性試験(レシチンのアルカリ分解、リーベルマン・ブルヒアルト反応)
6. 蛋白質とアミノ酸の定性試験(ニンヒドリン反応、キサントプロテイン反応、ビウレット反応)
7. 蛋白質の定量実験(ローリー法によるタンパク質の比色定量)
8. クロマトグラフィーによるアミノ酸の分離(薄層プレートによるアミノ酸の分離)

成績評価方法(方針)

各項目毎に、レポートを作成、提出させ、その内容で評価する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 \ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				
授業内レポート				
授業外レポート	○	○	○	70%
演習・実技				
授業態度		○		10%
出席		○		20%

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・3回以上欠席した学生には、補講を行う。
・酸、アルカリや有機溶媒並びに、ガスバーナーの取り扱いには、最大限の注意を払うこと。

関連科目	生化学、食品学、食品学実験		
教科書	特に指定しない。プリントを使用する。	参考書	特に指定しない。
連絡先	柴原研究室:LC棟2階		

授業科目名	解剖・生理学実験 Experiments in Anatomy & Physiology(Lab.)				担当教員	藤井久雄/柴原茂樹/小松正子
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	実験	関連資格	栄養士免許
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

解剖・生理学の講義で学習した生体の構造や機能について実験を通じて理解を深める。

授業の一般目標

生体の構造や機能についての実験を通じて、観察や計測の仕方、装置の扱い方など、運動栄養学に必要な基礎的な知識や技能を身につけることができる。

授業の到達目標

■	認知的領域	生体の構造や機能についての実験を通じて運動栄養学的な基礎的知識を身につけることができる。
■	情意的領域	栄養指導に役立つことを意識して生体の構造や機能についての実験に取り組むことができる。
■	技能表現的領域	生体の構造や機能についての実験に関する基本的技能を身につけることができる。

授業計画(全体)

本授業では、下記に定めるテーマについてグループごとに実験・実習を行う。また、各テーマついては2時限連続して実施する。

授業テーマとその内容

第1回
[テーマ] オリエンテーション
[内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の説明
[授業外学習の指示等] シラバスを熟読しておくこと
第2回
[テーマ] 顕微鏡の扱い方と人体組織の観察
[内容] 顕微鏡の扱い方についての説明
[授業外学習の指示等] 実験・実習の結果をまとめ、レポートを仕上げること
第3回
[テーマ] ラットの解剖
[内容] ラットの解剖し、内臓等を観察する
[授業外学習の指示等] 実験・実習の結果をまとめ、レポートを仕上げること
第4回
[テーマ] 人の形態および身体組成の測定
[内容] 検者および被検者となり、お互いに形態測定を行う
[授業外学習の指示等] 実験・実習の結果をまとめ、レポートを仕上げること
第5回
[テーマ] 心機能に関する実験
[内容] 安静時や運動時の血圧や心拍数(脈拍)を測定する
[授業外学習の指示等] 実験・実習の結果をまとめ、レポートを仕上げること
第6回
[テーマ] 血中乳酸の測定
[内容] 運動前、運動中および運動後の血中乳酸を測定する
[授業外学習の指示等] 実験・実習の結果をまとめ、レポートを仕上げること
第7回
[テーマ] 血中グルコースの測定
[内容] 食事前および食事後の血中グルコースを測定する
[授業外学習の指示等] 実験・実習の結果をまとめ、レポートを仕上げること
第8回
[テーマ] 骨密度測定および肺機能の評価
[内容] 骨密度測定および肺機能の評価についての説明
[授業外学習の指示等] 実験・実習の結果をまとめ、レポートを仕上げること

成績評価方法(方針)

出席、受講態度およびレポートによる総合評価

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 \ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				
授業内レポート				
授業外レポート	◎		◎	50%
演習・実技				
授業態度	◎		◎	25%
出席		◎		25%

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・2/3以上の出席がない学生は、評価対象外とする(欠格条件)。
・授業態度が悪い学生は、成績評価から減点する。
・授業進行の妨げとなるので、遅刻は厳禁とする。
・テーマに応じてグループ形式で実験を行う。
・準備物等は、テーマによって異なるので、オリエンテーション時に連絡する。

関連科目	解剖・生理学Ⅰ 解剖・生理学Ⅱ		
教科書	特に指定しない	参考書	特に指定しない
連絡先	藤井(久)研究室D棟1階、小松(正)研究室F棟2階、名倉(非常勤講師室)		

授業科目名	調理学 Introduction to Culinary Arts				担当教員	真野芳彦
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	講義	関連資格	栄養士免許
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

調理とは、献立作成から始まって食材料の素材選び、衛生的で安全な調理操作を行い、栄養バランスのとれた美味しい食事を食器に盛り付け、供食、配膳が終了するまでの工程である。これらの調理に関する事柄を科学的に究明し、法則性を見いだし、調理技術の向上や食生活の実践に役立つ理論を提供する。

授業の一般目標

物と心の接点である「食べ物」を対象として、人々の健康や幸せについて考慮しながら、調理に関する事柄を科学的に究明し、法則性を見いだし、調理の技術向上や食生活の実践に役立つ理論について理解する。

授業の到達目標

■	認知的領域	調理中に存在する諸現象や反応の原理について科学的に理解し、献立作成から配膳までの調理行程についての知識を習得すること
■	情意的領域	物と心の接点である「食べ物」を通して、調理学についての興味・関心を抱くこと
□	技能表現的領域	

授業計画（全体）

調理学の対象である、食事計画、すなわち、献立作成から始まり、調理の素材を選び、調理操作を行い、衛生的に安全で、栄養バランスがととのった、おいしい料理を作り上げて、食器に盛り、供食が終わるまでの一連のプロセスについて理解し、調理学実習へと繋げていく。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業内容、注意事項について [授業外学習]シラバスを読んでおくこと	⑨	[テーマ] 調理操作(2) [内容] 加熱調理操作、調理機器 [授業外学習]予習としてテキストを読んでおくこと
②	[テーマ]調理の意義 [内容] 調理の目的、食物摂取の意義 [授業外学習]予習としてテキストを読んでおくこと	⑩	[テーマ] 食品の調理生と生体利用性(1) [内容] 植物性・動物性食品 [授業外学習]予習としてテキストを読んでおくこと
③	[テーマ] 食物の嗜好性と生体における役割(1) [内容] 味、おいしさについて [授業外学習]予習としてテキストを読んでおくこと	⑪	[テーマ] 食品の調理生と生体利用性(2) [内容] その他の食品 [授業外学習]予習としてテキストを読んでおくこと
④	[テーマ] 食物の嗜好性と生体における役割(2) [内容] 味の相互作用、おいしさに影響するその他の要因 [授業外学習]予習としてテキストを読んでおくこと	⑫	[テーマ] 調理と栄養(1) [内容] 植物性食品 [授業外学習]予習としてテキストを読んでおくこと
⑤	[テーマ] 食事設計と栄養(1) [内容] 献立作成 [授業外学習]予習としてテキストを読んでおくこと	⑬	[テーマ] 調理と栄養(2) [内容] 動物性食品 [授業外学習]予習としてテキストを読んでおくこと
⑥	[テーマ] 食事設計と栄養(2) [内容] 五訂増補食品成分表の使い方 [授業外学習]予習としてテキストを読んでおくこと	⑭	[テーマ] 調理と安全 [内容] 安全性と衛生 [授業外学習]予習としてテキストを読んでおくこと
⑦	[テーマ] 食事設計と栄養(3) [内容] 栄養価計算 [授業外学習]予習としてテキストを読んでおくこと	⑮	[テーマ] 調理と環境 [内容] 環境問題 [授業外学習]予習としてテキストを読んでおくこと
⑧	[テーマ] 調理操作(1) [内容] 非加熱調理操作 [授業外学習]予習としてテキストを読んでおくこと	⑯	[テーマ] 総合理解 [内容] 筆記試験 [授業外学習]

成績評価方法（方針）

試験は、期末試験を1回実施する（評価割合60%）。また、小テスト（評価割合40%）を課す。これらの結果を総合して成績評価を行う。出席は、評価割合に加えず、欠格条件となる。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎			70%
授業内レポート	◎			30%
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度		◎		減点
出席		◎		欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない（欠格条件）。
・欠席する場合は原則として事前に欠席届を提出すること。
・授業態度が悪い学生に対しては、成績評価から減点する。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。
・授業中は携帯電話をかばんの中にしまうこと。
・授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。

関連科目	調理学実習Ⅰ・調理学実習Ⅱ・調理学実験		
教科書	渋川祥子「ネオエスカ調理学」（同文書院），香川芳子「五訂増補食品成分表」（女子栄養大）	参考書	特になし
連絡先	真野研究室（F棟2階）、渡部研究室（D棟2階）		

授業科目名	調理学実験 Laboratory in Food Preparation(Lab.)				担当教員	真野芳彦、平良拓也
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	実験	関連資格	栄養士免許
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

調理工程の意味を理解し、調理に必要な知識を向上させるために、食品を使用した実験を行う。また、調理を行う際に必要となる衛生面や安全性を遵守することも栄養士に大切な技術であるので、毎回の実習を通じて確認する。

授業の一般目標

食品中の化学成分が、調理操作によって変化し、物理変化を起こして食味などに与える影響を観察し、食材や調理法を選択する基礎知識を修得することが授業の目標である。

授業の到達目標

■	認知的領域	調理工程により食材の特性について理解する。
□	情意的領域	
■	技能表現的領域	調理方法や対象者に適した食事づくりについて理解する。

授業計画(全体)

授業テーマの実験内容に関する調理の特性について講義の後、実験、調理基礎のミニテストを行う。実験後は調理特性に関する課題と、実験内容についてレポートを作成し、次回提出する。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション① [内容] 授業の目的と進め方、成績評価の方法、グループ分け等 [授業外学習] シラバスを熟読しておくこと	⑨	[テーマ] 実験④－1 ゲル [内容] 寒天、ゼラチンゼリーの溶解性とゲル特性について学習する [授業外学習] 寒天とゼラチンの特性についてレポートにまとめる
②	[テーマ] オリエンテーション② [内容] 調理室の使い方、食器および調理器具の確認等 [授業外学習] 調理器具について十分に把握すること	⑩	[テーマ] 実験④－2 ゲル [内容] 寒天およびゼラチンを用いた実験 [授業外学習] 寒天とゼラチンの特性についてレポートにまとめる
③	[テーマ] 実験①－1 砂糖 [内容] 砂糖の加熱変化について学習する [授業外学習] 砂糖の特性と用途についてレポートにまとめる	⑪	[テーマ] 実験⑤－1 競技者の食事②献立作成 [内容] 大学生競技者を対象とした夕食の献立について学ぶ [授業外学習] 対象の夕食献立を完成させる
④	[テーマ] 実験①－2 砂糖 [内容] 糖衣(豆)、フォンダン(クッキー)、べっこうあめ等砂糖の加熱変化をみる実験 [授業外学習] 砂糖の特性と用途についてレポートにまとめる	⑫	[テーマ] 実験⑤－2 競技者の食事②献立作成 [内容] 大学生競技者を対象とした夕食の献立を作成する [授業外学習] 対象の夕食献立を完成させる
⑤	[テーマ] 実験②－1 発酵 [内容] 発酵、仙台味噌について学習する [授業外学習] 発酵食品についてレポートにまとめる	⑬	[テーマ] 実験⑥－1 粉・泡 [内容] 粉と膨化剤、クリームの種類と性質について学習する [授業外学習] 粉、膨化剤、クリームの特性と用途についてレポートにまとめる
⑥	[テーマ] 実験②－2 発酵 [内容] 仙台味噌を作る [授業外学習] 発酵食品についてレポートにまとめる	⑭	[テーマ] 実験⑤－2 粉・泡 [内容] 饅頭、団子(粉の種類・発泡剤の違い)、膨化剤の発砲実験 [授業外学習] 粉、膨化剤、クリームの特性と用途についてレポートにまとめる
⑦	[テーマ] 実験②－1 ジャム [内容] ジャムの原理、宮城県の農産物(野菜・果物)について学習する [授業外学習] ペクチンについてレポートにまとめる	⑮	[テーマ] 実験⑦－1 競技者の食事②自主献立の作成 [内容] 大学生競技者を対象とした夕食の自主献立を作成する [授業外学習] 競技者の献立についてレポートにまとめる
⑧	[テーマ] 実験②－2 ジャム [内容] ジャムの製造 [授業外学習] 果物の特徴、砂糖の添加量の比較についてレポートにまとめる	⑯	[テーマ] 実験⑦－2 競技者の食事②献立作成 [内容] 大学生競技者を対象とした夕食の自主献立を作成する [授業外学習] 競技者の献立についてレポートにまとめる

成績評価方法(方針)

出席状況を含め、実習前衛生点検の評価、授業態度、ミニテスト、レポートの提出状況および内容によって総合的に評価する。ただし、出席回数またはレポート提出が2／3以下の場合は成績評価対象外とする。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	○			20%
授業内レポート				
授業外レポート	◎		◎	40%
演習・実技	◎		◎	40%
授業態度			◎	減点あり
出席			◎	欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・2/3以上の出席がない学生は単位を修得することが出来ない(欠格条件)。
・遅刻は欠席とみなす
・安全・衛生管理に留意し実験実習に取り組むこと。著しい違反者は栄養士としての資質を備えていない者とみなし、単位を認めないことがある。
・栄養士の資質を備えられるよう、礼儀や言葉遣い、周囲への配慮を心がけること。
・レポート未提出者は試食を禁じる他、単位放棄とみなす。
・授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。

関連科目	調理学(1年)、調理学実習Ⅰ(1年)、調理学実習Ⅱ(2年)、栄養学実習(3年)、給食計画論(3年)、給食運営実習Ⅰ(3年)、給食運営実習Ⅱ(4年)		
教科書	授業の都度必要な資料を配布する	参考書	栄養と料理編「調理のためのベーシックデータ」、香川芳子監修「五訂食品成分表」(女子栄養大学出版部)
連絡先	真野研究室F棟2階/平良研究室D棟2階		

授業科目名	調理学実習Ⅰ Practice in Food Preparation Ⅰ				担当教員	真野芳彦・平良拓也
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実習	関連資格	栄養士免許
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

食品の基本的な調理操作と調理技術を習得することを目的とする。また献立における料理の位置付けを学び、献立作成能力を養う。また、調理に必要な衛生的な概念についても実習を通して学んでいく。

授業の一般目標

調理操作、調理技術の習得だけでなく、栄養士にとって必要な献立作成能力の養成、調理上の安全面、衛生面についても理解を深める。

授業の到達目標

■	認知的領域	安全面・衛生面を考慮した調理に関する知識・技術に加え、献立作成の方法についての理解を深めること
■	情意的領域	喫食者のための食事づくりを心がけることが出来るよう、調理に興味・関心を持つこと
■	技能表現的領域	適切な調理操作、調理技術を身に付けること

授業計画(全体)

実習班を1班5名程度に分けて、調理実習を行い、調理技術、衛生的な概念について学んでいく。衛生上、調理に関する準備・後片付けや調理台・調理加工実習室の清掃なども行う。オリエンテーションにおいて、実習内容の詳細や注意事項について説明を行う。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 実習内容の詳細と注意事項の説明 [授業外学習] シラバスを読んでおくこと	⑨	[テーマ] 乾熱加熱調理法(1) [内容] 焼くの操作 [授業外学習] 実習内容をレポートにまとめる
②	[テーマ] 基本的調理操作(1) [内容] 包丁の扱い方、切り方について [授業外学習] 実習内容をレポートにまとめる	⑩	[テーマ] 乾熱加熱調理法(2) [内容] 炒めるの操作 [授業外学習] 実習内容をレポートにまとめる
③	[テーマ] 基本的調理操作(2) [内容] 魚類の基本的な調理操作 [授業外学習] 実習内容をレポートにまとめる	⑪	[テーマ] 乾熱加熱調理法(3) [内容] 揚げるの操作 [授業外学習] 実習内容をレポートにまとめる
④	[テーマ] 基本的な調理操作(3) [内容] 肉類の基本的調理操作 [授業外学習] 実習内容をレポートにまとめる	⑫	[テーマ] 応用調理(1) [内容] 習得した調理技術にて総合的に実習 [授業外学習] 実習内容をレポートにまとめる
⑤	[テーマ] 基本的調理操作(4) [内容] 出汁のとり方 [授業外学習] 実習内容をレポートにまとめる	⑬	[テーマ] 応用調理(2) [内容] 自主献立の作成 [授業外学習] 実習内容をレポートにまとめる
⑥	[テーマ] 湿熱加熱調理法(1) [内容] 炊き方の操作 [授業外学習] 実習内容をレポートにまとめる	⑭	[テーマ] 応用調理(3) [内容] 自主献立の調理 [授業外学習] 実習内容をレポートにまとめる
⑦	[テーマ] 湿熱加熱調理法(2) [内容] 茹でる、煮るの操作 [授業外学習] 実習内容をレポートにまとめる	⑮	[テーマ] 応用調理(4) [内容] 調理学実習Ⅱに向けての調理 [授業外学習] 実習内容をレポートにまとめる
⑧	[テーマ] 湿熱加熱調理法(3) [内容] 蒸すの操作 [授業外学習] 実習内容をレポートにまとめる	⑯	[テーマ] 総合理解 [内容] 期末試験 [授業外学習]

成績評価方法(方針)

レポート・課題の提出状況と内容、実習態度、衛生点検(身だしなみや持ち物など)、実技試験を実施する。これらの結果を総合して成績評価を行う。出席は、評価割合に加えず、欠格条件となる。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				
授業内レポート				
授業外レポート	◎			40%
演習・実技		◎	◎	30%
授業態度		◎	◎	30%
出席		◎		欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない(欠格条件)。
・欠席する場合は原則として事前に欠席届を提出すること。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。
・授業中は携帯電話をかばんの中にしまうこと。
・実習は、ガス、火、刃物を使用するので、危険が伴う。また、衛生面が不徹底であると食中毒の事故を発生することがある。そのため、実習時においては安全面、衛生面についての注意事項について遵守する。

関連科目	調理学・調理学実習Ⅱ・調理学実験		
教科書	お料理一年生・お料理二年生(ベターホーム)、調理ベーシックデータ(女子栄養大)、五訂増補食品成分表(女子栄養大)	参考書	特になし
連絡先	真野研究室(F棟2階)/平良研究室(D棟2階)		

授業科目名	調理学実習Ⅱ Practice in Food Preparation Ⅱ				担当教員	真野芳彦
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	実習	関連資格	栄養士免許
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

栄養士として必要な調理技術と知識の向上のために、調理学実習Ⅰの基礎調理に引き続き、西洋料理を中心とした応用調理の基礎技術について実習する。また、調理を行う際に必要となる衛生面や安全性を遵守することも栄養士に大切な技術であるので、毎回の実習を通じて確認する。

授業の一般目標

調理をする上で様々な料理や食材を知っていることは、毎日の献立を計画する際に大変重要である。西洋料理の調理法や歴史、食材を知り、季節や対象にあった多彩な献立を考えることができるようになることと、決められた時間内にグループで協力し合って調理作業を進めることができるよう、調理技術を身につけることが授業の目標である。

授業の到達目標

■	認知的領域	調理工程や食材、料理の意味を理解する。
■	情意的領域	適切な味わいのおいしい調理ができるようになる。
■	技能表現的領域	調理の基礎技術を身につけ、短時間で作業ができるようになる。

授業計画(全体)

毎回、テーマに沿った献立(3～5品)を調理・試食し、指定された課題に従ったレポートを作成する。資料はその都度配布し、レポート課題もその都度提示する。レポート内容にて、実習の理解度を判断する。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 中国料理①－1 中国料理の食材 [内容] 麻婆豆腐、涼拌粉絲、玉米湯、豆沙麻球、烏龍茶 [授業外学習] 春雨とラードについて調べ、レポートにまとめる	⑨	[テーマ] 西洋料理③－1 野菜の切り方 [内容] ハンバーグステーキ、ビシソワーズ、カスタードプディング [授業外学習] シャトー切りについて調べ、レポートにまとめる
②	[テーマ] 中国料理①－2 中国料理の食材 [内容] 麻婆豆腐、涼拌粉絲、玉米湯、豆沙麻球、烏龍茶 [授業外学習] 春雨とラードについて調べ、レポートにまとめる	⑩	[テーマ] 西洋料理③－2 野菜の切り方 [内容] ハンバーグステーキ、ビシソワーズ、カスタードプディング [授業外学習] シャトー切りについて調べ、レポートにまとめる
③	[テーマ] 中国料理②－1 揚げ物について [内容] 炸春捲、皮蛋豆腐、杏仁豆腐、粥、烏龍茶 [授業外学習] 揚げ物の種類による吸油率の目安についてレポートにまとめる	⑪	[テーマ] 自主献立作成① [内容] 大学生スポーツ選手に適した食事 [授業外学習] 班で作成した献立にしたがって各自試作を行い、授業に備える
④	[テーマ] 中国料理②－2 揚げ物について [内容] 炸春捲、皮蛋豆腐、杏仁豆腐、粥、烏龍茶 [授業外学習] 揚げ物の種類による吸油率の目安についてレポートにまとめる	⑫	[テーマ] 自主献立作成② [内容] 大学生スポーツ選手に適した食事 [授業外学習] 班で作成した献立にしたがって各自試作を行い、授業に備える
⑤	[テーマ] 西洋料理①－1 西洋料理の特徴 [内容] きのこのリゾット、オムレツ、グリーンサラダ、マドレーヌ、紅茶 [授業外学習] ローリエについて調べ、レポートにまとめる	⑬	[テーマ] マナー教室① [内容] 西洋料理のフルコース [授業外学習] 実習で学んだ西洋料理のマナーについてまとめる
⑥	[テーマ] 西洋料理①－2 西洋料理の特徴 [内容] きのこのリゾット、オムレツ、グリーンサラダ、マドレーヌ、紅茶 [授業外学習] ローリエについて調べ、レポートにまとめる	⑭	[テーマ] マナー教室② [内容] 西洋料理のフルコース [授業外学習] 実習で学んだ西洋料理のマナーについてまとめる
⑦	[テーマ] 西洋料理②－1 ルーについて [内容] マカロニグラタン、トマトとアスパラガスのサラダ、パンナコッタ [授業外学習] ルーについて、レポートにまとめる	⑮	[テーマ] 実技試験 [内容] 包丁の扱い方、調理手順、作り方 [授業外学習] これまでの調理実習で学んだ様々な技術について復習する
⑧	[テーマ] 西洋料理②－2 ルーについて [内容] マカロニグラタン、トマトとアスパラガスのサラダ、パンナコッタ [授業外学習] ルーについて、レポートにまとめる	⑯	[テーマ] まとめ [内容] 西洋料理の特徴について [授業外学習] これまで調理実習で学んだ様々な技術についてまとめる

成績評価方法(方針)

出席状況を含め、実習前衛生点検の評価、授業態度、実技試験、レポートの提出状況および内容によって総合的に評価する。ただし、出席回数またはレポート提出が2／3以下の場合は成績評価対象外とする。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎			20%
授業内レポート				
授業外レポート	◎		◎	40%
演習・実技	○	◎	◎	40%
授業態度		○	○	減点あり
出席		○	○	欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・2/3以上の出席がない学生は単位を修得することが出来ない(欠格条件)。
・遅刻は欠席とみなす
・安全・衛生管理に留意し実験実習に取り組むこと。著しい違反者は栄養士としての資質を備えていない者とみなし、単位を認めないことがある。
・栄養士の資質を備えられるよう、礼儀や言葉遣い、周囲への配慮を心がけること。
・レポート未提出者は試食を禁じる他、単位放棄とみなす。
・授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。

関連科目	調理学(1年)、調理学実習Ⅰ(1年)、調理学実験(2年)、栄養学実習(3年)、給食計画論(3年)、給食運営実習Ⅰ(3年)、給食運営実習Ⅱ(4年)		
教科書	「お料理1年生」「お料理2年生」(ベターホーム出版局)	参考書	栄養と料理編「調理のためのベーシックデータ」、香川芳子監修「五訂食品成分表」(女子栄養大学出版部)
連絡先	真野研究室(F棟2階)／平良研究室(D棟2階)		

授業科目名	給食運営実習Ⅰ Practice of Food Service Ⅰ				担当教員	岩田 純 、 藤井 久雄
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	実習	関連資格	栄養士免許
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

給食計画論を始めとする栄養士の専門科目で学習した理論、実験・実習で得た基礎知識や技術を活用して、計画から実施・評価まで学生が主体となった給食サービス(対象者にあった食事の提供や栄養教育など)を実践できる実習を行う。

授業の一般目標

給食業務を行うために必要な食事の計画や調理を含めた給食運営能力を習得する。

授業の到達目標

■	認知的領域	対象者や施設にあった給食を計画することができる
■	情意的領域	給食実習にふさわしい態度(身だしなみ、集合時間厳守など)で取り組むことができる
■	技能表現的領域	大量調理施設で給食を運営し(調理従事者に指示を出して給食を提供し)、マネジメントの評価をすることができる

授業計画(全体)

給食の計画→試作→食材の発注→給食の実施→評価という流れに従って実習を進めていく。全体を実習班と事務作業班の2つに分けて、毎週交代で計4回の実習を行う。実習班は更に栄養士と調理員に役割分担する。全グループの実習終了後に報告会を行う。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の進め方、成績評価の方法、班分け [授業外学習] 献立作成の課題を次週までに提出すること	⑨	[テーマ] 自主献立による給食実習(調理補助担当) [内容] 調理員の指示のもと、調理作業の補助を行う。 [授業外学習] 自分が担当した作業を振り返り、作業報告書にまとめること
②	[テーマ] 献立計画 [内容] 班ごとに分かれ、献立を決定する。試作の発注書を作成する [授業外学習] 授業内に終えられなかった発注書は速やかに完成させること	⑩	[テーマ] 自主献立による給食実習のまとめ③ [内容] 栄養士班として実施した給食の各種評価をより給食運営の評価を行う。 [授業外学習] まとめの作業で理解できなかった点がないか確認すること
③	[テーマ] 試作 [内容] 自ら作成した献立で試作を行う [授業外学習] 再度試作が必要な場合には発注書を作成して提出すること	⑪	[テーマ] 自主献立による給食実習(調理補助担当2) [内容] 調理員の指示のもと、調理作業の補助を行う。 [授業外学習] 自分が担当した作業を振り返り、作業報告書にまとめること
④	[テーマ] 献立修正・発注 [内容] 自ら作成した献立を修正し、発注を行う [授業外学習] 授業内に終えられなかった発注書は速やかに完成させること	⑫	[テーマ] 自主献立による給食実習(衛生管理点検担当) [内容] 衛生管理点検担当者として給食室に入り、調理従事者の衛生管理が適切に行われているか点検し、必要に応じて指導する。 [授業外学習] 事前に作業マニュアルの該当ページをよく読んでおくこと
⑤	[テーマ] 自主献立による給食実習(栄養士担当) [内容] 自ら作成した献立による給食を提供する。栄養士班として調理員や調理補助に指示を出し、時間内に提供できるよう作業管理を行う。 [授業外学習] 献立や作業工程表などの内容を事前に把握しておくこと	⑬	[テーマ] 報告会準備 [内容] 報告会に向けて発表の準備を行う [授業外学習] 班ごとに事務書類と報告会用パワーポイントを完成させること
⑥	[テーマ] 自主献立による給食実習のまとめ① [内容] 栄養士班として実施した給食の評価を行うための各種データを整理する。 [授業外学習] まとめの作業で理解できなかった点がないか確認すること	⑭	[テーマ] テスト [内容] 筆記試験 [授業外学習] 衛生管理、発注量の算出法などを復習しておくこと
⑦	[テーマ] 自主献立による給食実習(調理員担当) [内容] 栄養士班の指示のもと、調理作業を主担当者として行う。調理補助に指示を出しながら協力して行う。 [授業外学習] 前週までに栄養士班と打合せを行い役割を把握しておくこと	⑮	[テーマ] 報告会 [内容] 自主献立について評価した内容を班ごとに発表する [授業外学習] 班ごとに発表の練習をしておくこと
⑧	[テーマ] 自主献立による給食実習のまとめ② [内容] 栄養士班として実施した給食の各種データを使って献立や作業管理、衛生管理などの評価をする。 [授業外学習] まとめの作業で理解できなかった点がないか確認すること	⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]

成績評価方法(方針)

実習後に毎回提出する作業報告書(評価割合50%)、各自提出する献立(評価割合10%)、実習時間内で作成する献立表・作業工程表などの各種書類作成(評価割合10%)、報告会での発表内容(評価割合5%)、筆記試験(25%)により総合的に成績評価を行う。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	○			25%
授業内レポート	○		○	10%
授業外レポート	○	○		60%
演習・実技			○	5%
授業態度				減点あり
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・欠席回数が4回以上の学生は、単位を修得することが出来ない。
・遅刻は減点とする。
・実習室に携帯電話を持ち込まないこと。(持ち込みや使用は減点とする)
・事務作業時には電卓を持参すること。
・この科目は給食運営実習Ⅱの履修許可基準の一つであるため、3年次にこの科目が修得できなかった場合は、翌年に給食運営実習Ⅱ(栄養士校外実習)を履修することができない。

関連科目	給食計画論、給食運営実習Ⅱ(栄養士校外実習)		
教科書	管理栄養士・栄養士になるための国語表現(萌文書林)	参考書	給食経営管理実務ガイドブック(同文書院) 大量調理施設衛生管理のポイント(中央法規出版)
連絡先	岩田研究室:D棟2階		

授業科目名	給食運営実習Ⅱ（校外実習） Practice of Food Service Ⅱ				担当教員	岩田純 、真野芳彦、平良拓也
開講内容	学年・学期	4・通年	授業方法	演習	関連資格	栄養士免許
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

学校、病院、自衛隊、保育所などの給食施設において校外実習を実施する。給食の運営に必要な献立作成、調理作業、配膳などの基本的業務を実際の現場で体験することにより、給食業務について学ぶ実習を行う。

授業の一般目標

給食業務を行うために必要な給食サービス提供に関して、栄養士として備えるべき知識および技能を修得する。

授業の到達目標

■	認知的領域	給食の運営に必要な基本的業務を説明できる。
■	情意的領域	給食現場において栄養士や調理員と連携をとりながら、積極的な姿勢で業務に取り組むことができる。
■	技能表現的領域	献立作成、調理、配膳、帳票類の作成、栄養指導などの栄養士業務を現場栄養士の指導のもと実施することができる。

授業計画（全体）

実習前にオリエンテーション（事前指導）を実施し、校外実習に取り組むにあたっての心構えや実習の流れ、必要書類の説明を行う。実習は6月～11月の5日間に学外の実習施設において実施する。実習終了後は、実習ノートや報告書など必要書類を提出する。

授業テーマとその内容

○事前指導（1回目）
校外実習の概要説明、必要書類への記入（健康診断書、個人調書、誓約書等）

○事前指導（2回目）
実習ノート・実習報告書・校外実習票などの配布・説明、検便について、白衣・靴・包丁の点検

○学校栄養士・病院栄養士の講話
学校や病院現場で働く栄養士の方より、実習にあたっての注意事項やあらかじめ知っておくべき現場の情報についての講話を聴く

○腸内細菌検査
実習開始前に検便を提出する

○事前打合せ
実習前に施設を訪問し、実習内容についてあらかじめ打ち合わせをおこなう。

○校外実習（5日間）
主な実習内容・・・衛生管理、献立作成、検収、調理・配膳作業、検食、嗜好調査、アンケート調査、残菜調査、栄養指導媒体の作成、栄養指導など

○必要書類の提出
実習ノート、実習報告書など必要書類を提出する

○事後指導
各施設における実習の報告会

○総括
実習の反省・まとめ、提出書類の返却、栄養士免許申請方法の説明

成績評価方法（方針）

実習施設の担当栄養士の評価、実習期間中に記録する実習ノート、実習後に提出する報告書、事前指導から実習期間中および事後指導を含めた実習に対する態度などから総合的に評価する。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				評価対象外
授業内レポート		○		減点あり
授業外レポート	○	○		50%
演習・実技			○	50%
授業態度		○		減点あり
出席				欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・調理学実習Ⅰ、給食計画論、栄養学実習、臨床栄養学実習、給食運営実習Ⅰの単位を全て修得していない者は履修をみとめない
・実習施設へは公共の交通機関を利用すること（自家用車の使用は禁止する）
・実習期間中のアルバイトは禁止する
・事前に必要な提出書類等の期限を守れない者、事前指導に遅刻や無断欠席をする者は校外実習を認めないことがある。また、校外実習を終えた場合でも、事後指導に無断欠席する者や事後に必要な書類等を提出しない場合には単位の修得を認めない。

関連科目	給食運営実習Ⅰ		
教科書	管理栄養士・栄養士になるための国語表現（萌文書林） その他：1回目の事前指導にて「事前指導書」を配布する	参考書	給食経営管理実務ガイドブック（同文書院）、食品成分表 大量調理施設衛生管理のポイント（中央法規出版）
連絡先	岩田研究室：D棟2階		

授業科目名	衛生・公衆衛生学 Public Health(L.)				担当教員	小松正子・高橋弘彦
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	講義	関連資格	保体科教諭、栄養士、健康運動指導士・者、社会福祉主事任用資格
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

人々の健康を守るために疾病予防、環境衛生、保健統計等について、現代のトピック、理論と実際等を講義する。

授業の一般目標

衛生・公衆衛生学の目的である人々の健康を守ることに必要な知識の習得をめざす。

授業の到達目標

■	認知的領域	衛生・公衆衛生学の基礎的事項・重要事項について説明できる。
■	情意的領域	知識を身近な事柄で振り返り応用する態度を身につける。
□	技能表現的領域	

授業計画(全体)

知識を身近な事柄で振り返り応用する態度を身につける。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 衛生・公衆衛生学とは [内容] 衛生・公衆衛生学の定義とその内容について説明する [授業外学習]社会における役割について復習しておくこと	⑨	[テーマ] 環境の把握とその評価(1) [内容] 地球環境問題について説明する(温暖化、砂漠化、食物連鎖等) [授業外学習]地球環境問題とその影響についてについて復習しておくこと
②	[テーマ]健康の概念、医事法規 [内容]健康と健康増進(WHO憲章、オタワ憲章等)、病気の経過およびその各段階における予防手段を知り、医事法規についても学ぶ。 [授業外学習]他者に説明できるよう復習する	⑩	[テーマ] 環境の把握とその評価(2) [内容] 生活環境問題について説明する(アルコール、騒音、廃棄物等) [授業外学習]生活環境問題とその人体影響についてについて復習しておくこと
③	[テーマ] 生活習慣病概論 [内容] 生活習慣病の定義、各生活習慣と疾患の関連を知り、生活習慣変容の重要性を理解する。 [授業外学習]	⑪	[テーマ] 環境の把握とその評価(3) [内容] 化学的環境問題について説明する(環境汚染物質、喫煙等) [授業外学習]化学的環境問題とその人体影響についてについて復習しておくこと
④	[テーマ]健康づくり施策 [内容] 第1次健康づくり対策から健康日本21まで健康づくり対策の変遷 [授業外学習]他者にも説明できるように復習する。	⑫	[テーマ] 環境の把握とその評価(4) [内容] 生物的環境問題について(ウィルス感染症、HIV、AIDS他) [授業外学習]生物的環境問題とその人体影響についてについて復習しておくこと
⑤	[テーマ] 生活習慣病と運動疫学 [内容] 運動と生活習慣病予防の関連について疫学等を通じて理解する。 [授業外学習]他者にも説明できるように復習する。	⑬	[テーマ] 物理的環境要因(1) [内容]気温、気湿(湿度)、熱輻射、気流(風速)の人体影響について説明する [授業外学習]生活を取り巻く物理的環境の影響について復習しておくこと
⑥	[テーマ] 運動基準・運動指針 [内容]運動基準・運動指針(エクササイズガイド)2006について理解する。 [授業外学習]	⑭	[テーマ] 物理的環境要因(2) [内容] 熱中症の現状とその予防法について説明する [授業外学習]学校現場における熱中症の発生状況とその予防法について復習しておくこと
⑦	[テーマ]介護予防概論 [内容]細菌性・ウイルス性、感染型・毒素型等の食中毒の分類・特徴について理解する。有機溶剤、一酸化炭素中毒などについて学ぶ。 [授業外学習]他者にも説明できるように復習する。	⑮	[テーマ] まとめ [内容]全体を振り返る [授業外学習]各自、理解不足のところを補習すること
⑧	[テーマ] 食中毒、有機溶剤等中毒について [内容] 細菌性・ウイルス性、感染型・毒素型等の食中毒の分類・特徴について理解する。有機溶剤、一酸化炭素中毒などについて学ぶ。 [授業外学習]身近な食物・曝露(喫煙等)と関連づけて考えられるように復習する。	⑯	[テーマ] 期末試験 [内容] 全15回の内容について知識の確認をする [授業外学習]

成績評価方法(方針)

期末試験をもって評価する。6割以上の得点を合格とする。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 \ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎			100%
授業内レポート		○		
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度				適宜
出席				

履修上の注意(受講学生に望むこと)

試験を欠席した場合(所定時間を経過し遅刻した場合も含む)、放棄となる。授業・掲示等をよく確認のこと。受講態度に著しい問題が認められた学生に対しては成績評価から減点する。

関連科目	学校保健学		
教科書	衛生・公衆衛生学(アイ・ケーコーポレーション)	参考書	特になし
連絡先	研究室:小松正子(F棟2階)、高橋弘彦(C棟3階)		

授業科目名	社会福祉概論Ⅰ The General Theory of Social Welfare Ⅰ				担当教員	高橋 亮
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	講義	関連資格	社会福祉士 、介護福祉士 、栄養士、 社会福祉主事任用資格、高等学校教諭一種免許状（福祉）
	履修の方法	必修	単位数	2		

授業の概要

相談援助と介護実践の基礎となる「社会福祉」の知識と考え方について体系的に講義する。先ず、社会福祉の基礎を学ばせ、その思想や理論そして「社会福祉法」等を土台に据えた法制度の全体像を理解させる。次に、法制度の中でも実務上において特に重要な介護保険制度とその背景及び目的および昨今の動向について解説する。

授業の一般目標

・相談援助業務と介護サービスの現場において必要な知識、判断力そして豊かな人間性を養う。（必要な知識とは社会福祉法制度に関する情報であり、判断力とは専門職として相談援助の原則を知りその原則に基づき判断することである。）
・社会福祉士、介護福祉士の社会的使命を学ぶ。・社会福祉への充分な理解を踏まえた上で介護保険制度の基礎的理解へ到達する。

授業の到達目標

■	認知的領域	社会福祉の基礎的な概念、制度、方法について説明できる。
■	情意的領域	ボランティア活動など社会福祉の活動に対し、主体的な取り組みを行えるようになる。
□	技能表現的領域	

授業計画（全体）

・用意した資料を用いて講義を行う。このためテキストは自習用とし講義では使用しない。（国家試験の受験者はテキストを必ず購入し、受験しない学生の購入については各人の判断に委ねる。）
・授業は最初から終わりまで視聴覚教材を用いて行い、「用意した資料（配布資料）＝視聴覚教材（プロジェクター）」というかたちで講義を進め、授業効率を高める。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 社会福祉学への招待 [内容] 導入と動機付け [授業外学習]初回のため、特になし	⑨	[テーマ] 介護保険制度の動向 [内容] 介護保険法の成立から今日に至る経緯を説明し、その問題点と課題を論じる。 [授業外学習]介護や介護保険について見聞きしたことを自分なりにまとめる。
②	[テーマ] 社会福祉とは何か [内容] 具体的な事例による社会福祉とその仕事に関する理解 高校までに見聞きした「社会福祉」について、自分なりのイメージをまとめておく。	⑩	[テーマ] 介護保険制度のしくみに関する基礎的な理解（1） [内容]「介護保険法」の詳細について解説する。 [授業外学習]身近で見聞きした介護保険制度の問題点を整理し考えてみる。
③	[テーマ] 社会福祉の基礎概念とフレームワーク [内容] 社会福祉を学ぶための基本フレームと学問研究のプロセス、及び関連分野への応用について学ぶ [授業外学習]前回講義の復習を行い、社会福祉について「自分なりの定義」を行	⑪	[テーマ] 介護保険制度のしくみに関する基礎的な理解（2） [内容]前回の講義に引き続いて、「介護保険法」の詳細について解説する。 [授業外学習]実習等を通じて、身近で見聞きした介護保険制度の問題点を整理する。
④	[テーマ] 社会福祉制度論：総論（1） [内容] 社会福祉法と「地域福祉の時代」について説明する。 [授業外学習]前回講義で示した「社会福祉の全体像について描いた図」を、描け	⑫	[テーマ] 介護保険制度における組織、団体の役割 [内容] 国、都道府県、市町村および民間の社会福祉事業、NPOなどの機能について説明する。 [授業外学習]前回講義の内容を、自分の言葉で説明できるようにしておく。
⑤	[テーマ]社会福祉方法論：総論（1） [内容] 社会福祉法制度の概要と全体像について説明する。 [授業外学習]地域福祉の概念について整理しておくこと。	⑬	[テーマ] 介護保険制度における専門職の役割 [内容] 介護支援専門員、介護福祉士と他の関連職種との連携などについて説明する。 [授業外学習]自分がボランティアや実習で行った組織、団体の役割についてまとめる。
⑥	[テーマ] 社会福祉方法論：総論（1） [内容] ソーシャルワークの生成と発展について論じる。 [授業外学習]福祉三法、福祉六法の名称と簡単な説明を言えるようにする。	⑭	[テーマ] 介護保険制度と障害者自立支援制度 [内容] 支援費制度から障害者自立支援制度への移行過程を説明し、介護保険制度と障害者自立支援制度との類似点と相違点を明らかにし、制度の詳細を説明する。 [授業外学習] ケアマネと呼ばれている専門職の実態を調べておくこと。
⑦	[テーマ]社会福祉方法論：総論（2） [内容] ソーシャルワークの理論と展開について論じる [授業外学習]M.リッチモンドについて図書館等で調べておくこと。	⑮	[テーマ] 社会福祉、老人福祉における介護保険制度とその歴史的な位置づけ／結びに代えて [内容] 介護保険制度が今日の社会福祉や老人福祉の中へどのように位置づけられるかについて論じるとともに、半期間の総括を行う。 [授業外学習]障害者自立支援制度の問題点についてまとめる。
⑧	[テーマ] 介護保険制度の背景および目的 [内容]「社会的介護」の歴史的変遷と介護保険の成立過程について説明する。 [授業外学習]F.バイステックについて図書館等で調べておくこと。	⑯	[テーマ] テスト [内容]講義の理解度を確かめ単位認定を行う目的で、期末試験を行う。 [授業外学習]半期間の講義について復習し期末試験のための準備を行う。

成績評価方法（方針）

・期末に行う筆記試験と出席日数、及び発言や質問の回数に基づき評価する。（60点以上の者に単位を認定する。）
・各々の評価割合は、次の通り。：筆記試験の成績（55%）、出席日数（40%）、発言や質問の回数（5%）

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎			55%
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技		◎		
授業態度				
出席	◎			45%

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・大学設置基準において90分の授業に対し、予習・復習を90分行うことが義務付けられている。この大学評価基準に沿って予習・復習を行うこと。
・常に、日常の生活や身近な話題あるいは時事問題と関連づけながら学ぶこと。学問は、観念的な知識や現実離れした理想ではなく、絶えず現実の中に、そして現実と共にある。このような「学問的実践」によって、卒業後の人生や職業の中で、大学において学んだことを生かせるようになる。
・20分以上の遅刻は、欠席とする。
・2／3以上の出席がない学生は、単位を修得することができない。
・「授業計画」における毎回のテーマや内容は講義の進展に応じ多少前後。

関連科目	社会福祉概論Ⅱ、社会保障論、公的扶助論、老人福祉論、社会福祉援助技術論Ⅰ、社会福祉援助技術論Ⅱ、障害者福祉論、児童福祉論、福祉行財政と福祉計画、更生保護制度論、就労支援論、保健医療論、社会福祉施設経営論		
教科書	使用しない。	参考書	『新・社会福祉士養成講座 4 』中央法規出版
連絡先	高橋研究室：E棟2階		

授業科目名	スポーツ史 Sport History(L.)				担当教員	藪　耕太郎
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義	関連資格	教員免許状（中高保体）
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

広義のスポーツについて、歴史学的観点から講述する。とりわけ本講義では、①現代に繋がる“modern”としての近代、②スポーツのイデオロギー的性格、に主眼を置くことで、単なる知識としてのスポーツの歴史ではなく、歴史を通じてスポーツの今日的な課題をクリティカルに問う力を養うことを目的とする。

授業の一般目標

①スポーツの歴史的な変遷について、人類の歴史的展開過程と関連づけて理解することができる。
②近代スポーツが誕生した理由および歴史的意味について説明することができる。
③スポーツの歴史的意味や役割を批判的に検討することができる。

授業の到達目標

■	認知的領域	各時代の体育・スポーツの特徴や、基本知識について説明することができる。
■	情意的領域	歴史について関心をもつ。
□	技能表現的領域	

授業計画（全体）

本講義は、身体運動文化の歴史的変遷過程を時系列的に辿りながら、その文化の基底を成す歴史と社会のあり方を問う。つまり、各時代の特徴的な身体運動文化を基点に、その文化を定位する特定の様式、および文化を取り巻く諸要素から、各時代・社会のありようを探りたい。なお授業では映像や画像資料も多用するが、基本はレジュメに従うので、持参するのを忘れないようにすること。また授業時間確保の観点から、レジュメは②・⑤・⑨・⑫回のみ配布する。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ]　スポーツの歴史を学ぶ意味 [内容]　なぜ現代社会に生きる私たちがスポーツの歴史を知る必要があるのかを考える。 [授業外学習]　図書館でスポーツ史関連の書籍を探して読む（90分）	⑨	[テーマ]　国民と体育 [内容]　国民国家の誕生と公教育としての体育 [授業外学習]　フリードリヒ・ヤーンという人物を調べる（90分）
②	[テーマ]　古代ギリシャのスポーツ [内容]　古代オリンピックの成立と展開 [授業外学習]　古代オリンピックについて調べてみる（90分）	⑩	[テーマ]　スポーツと市民 [内容]　労働者階級とスポーツクラブ [授業外学習]　プロスポーツ選手の誕生について調べてみる（90分）
③	[テーマ]　古代ギリシャの体育 [内容]　プラトンの体育思想 [授業外学習]　体育の歴史を調べてみる（90分）	⑪	[テーマ]　帝国主義とスポーツ [内容]　クーベルタンと近代オリンピック [授業外学習]　ピエール・ド・クーベルタンという人物を調べてみる（90分）
④	[テーマ]　古代ローマの余暇と政治 [内容]　パンとサーカス [授業外学習]　映画「ベン・ハー」を鑑賞する（90分）	⑫	[テーマ]　近代日本におけるスポーツ受容① [内容]　学生・新中間層とスポーツ [授業外学習]　明治・大正時代について簡単な予習をしておく（90分）
⑤	[テーマ]　中近世の民衆娯楽① [内容]　マス・フットボールとは何か？ [授業外学習]　マス・フットボールについて調べてみる（90分）	⑬	[テーマ]　近代日本におけるスポーツ受容② [内容]　スポーツと思想善導 [授業外学習]　戦争とスポーツの関係について調べてみる（90分）
⑥	[テーマ]　中近世の民衆娯楽② [内容]　マス・フットボールの衰退要因と近代化 [授業外学習]　近代化ということばについて調べてみる（90分）	⑭	[テーマ]　近代日本と武道 [内容]　「創られた伝統」としての武道 [授業外学習]　武道と武術の違いを調べてみる（90分）
⑦	[テーマ]　福音主義と合理的娯楽 [内容]　パブリックハウスとブラッディスポーツ [授業外学習]　動物愛護の歴史について調べてみる（90分）	⑮	[テーマ]　テスト① [内容]　所期の到達目標を達成したかどうかを試験する [授業外学習]
⑧	[テーマ]　スポーツと教育 [内容]　パブリックスクールにおけるスポーツ [授業外学習]　「ラグビー校」について調べてみる（90分）	⑯	[テーマ]　テスト② [内容]　所期の到達目標を達成したかどうかを試験する [授業外学習]

定期試験を重視する（90点満点）。その他、自学自習も評価する（10点）。自学自習は自発的な学習意欲に基づくレポートであり、テーマはスポーツと歴史・社会に関するものなら何でも良い。従って提出は任意であり、書式その他も全て自由とする。但し、活用した情報源の提示は必須とし、また盗用は一切認めない。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎			90%
授業内レポート				評価対象外
授業外レポート	○			10%
演習・実技				評価対象外
授業態度	△			減点対象
出席	△			減点対象

履修上の注意（受講学生に望むこと）

授業の進行を妨げる行為、特に私語は厳禁とし、場合によってはペナルティを課す。また高等教育である以上、講義内容は相当に高度であり、真剣な態度での受講と、積極的なノートテイクは必須である。ただし、質問などには必ず「理解できるまで」対応する。教員からの教えを待つのではなく、教員と学生とが相互に高めあう関係を期待したい。なお、プリント配布時（講義時間）に取り損ねた場合は、アップローダー（http://ux.getuploader.com/yabu_sendai_u/）から各自でダウンロード＆プリントアウトすること（教員を頼らない）。パスワードはsportshistory。

関連科目	人文社会系科目全般		
教科書	使用しない	参考書	使用しない（授業時間内に適宜紹介する）
連絡先	kt-yabu@sendai-u.ac.jp		

授業科目名	体育原理 Philosophy of Physical Education				担当教員	高橋　徹
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	講義	関連資格	教員免許状（中・高　保健体育）
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

本授業では、体育哲学・スポーツ哲学をベースにした講義を行います。特に、体育とスポーツの本質やありかたについて体系的に解説しながら、体育教師として理解しておくべき体育やスポーツに対する基本的な考え方を紹介します。

授業の一般目標

体育教師の専門である体育ないしは教科体育の本質や基盤、そして教育としての可能性等、あるいはそれに関連する諸知識について知り、学校という教育機関において教科体育を担当する教育専門職者としての基本的な考え方を理解する。

授業の到達目標

■	認知的領域	体育の理想的なありかたを、自分の力で考えることができる。
■	情意的領域	よい体育を追求しようとする意識をもつことができる。
■	技能表現的領域	体育を人文主義の方向で考えることができるようになる。

授業計画（全体）

一貫して「よい体育の追求」という問題意識に寄り添いながら講義を進めていきます。この講義は、大きく次の4点から構成されます。①体育の本質、②体育と体育教師、③体育とスポーツの可能性、④体育のありかたーめざすべき道ー

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	［テーマ］ 講義「体育原理」についてのオリエンテーション ［内容］ 講義「体育原理」の輪郭について解説し、受講学生との合意形成を図る。 ［授業外学習］ 教科書「はじめに」と「序章」を読んできてください。	⑨	［テーマ］ スポーツの定義的特徴① ［内容］ スポーツの特徴である遊戯性について解説する。 ［授業外学習］ 教科書「第13章」を読んできてください。
②	［テーマ］ 体育への問い ［内容］体育を”教わる立場”から体育を”教える立場”への転換について解説する。 ［授業外学習］ 教科書「第1章」を読んできてください。	⑩	［テーマ］ スポーツの定義的特徴② ［内容］ スポーツの特徴である競争性について解説する。 ［授業外学習］ 教科書「第14章」を読んできてください。
③	［テーマ］ 体育とは何か① ［内容］ 前提としての歴史認識について解説する。 ［授業外学習］ 教科書「第2章」を読んできてください。	⑪	［テーマ］スポーツの概念と文化運動 ［内容］ スポーツの概念構成と現代スポーツへの視界について解説する。 ［授業外学習］ 教科書「第16章」を読んできてください。
④	［テーマ］ 体育とは何か② ［内容］ 体育の概念とその構成について解説する。 ［授業外学習］ 教科書「第3章」を読んできてください。	⑫	［テーマ］スポーツと現代社会 ［内容］ 生涯スポーツと生涯教育との関係性について解説する。 ［授業外学習］ 教科書「第17章」を読んできてください。
⑤	［テーマ］ 体育と体育教師 ［内容］ 体育教師の負の遺産とそこから脱却するための方途について解説する。 ［授業外学習］ 教科書「第4章」を読んできてください。	⑬	［テーマ］ 体育を規定する目的論 ［内容］ 体育論の類型とその可能性について解説する。 ［授業外学習］教科書「第19章」を読んできてください。
⑥	［テーマ］ 専門職としての体育教師 ［内容］ 体育教師の代替不能な職能について解説する。 ［授業外学習］教科書「第5章」を読んできてください。	⑭	［テーマ］ 体育の存在意義と学校体育 ［内容］ 体育における最大の配慮の対象とは何かを解説する。 ［授業外学習］ 教科書「第21章」を読んできてください。
⑦	［テーマ］ 体育の対象としての人間 ［内容］ 体育哲学とその人間学的基点について解説する。 ［授業外学習］ 教科書「第11章」を読んできてください。	⑮	［テーマ］ 体育と人文主義 ［内容］ 体育における人間形成について解説する。 ［授業外学習］ 教科書「第22章」を読んできてください。
⑧	［テーマ］ 体育における教材構成の基点 ［内容］ 身体運動文化とスポーツとの関係性について解説する。 ［授業外学習］教科書「第12章」を読んできてください。	⑯	［試験］　論述形式での試験を実施 ［内容］ 講義内容を踏まえつつも、できるだけ自分の「言葉」で論述してください。 ［授業外学習］　試験勉強

成績評価方法（方針）

基本的には、試験（70%）、課題（30%）とします。試験は学期末に実施し、課題は全て授業内レポートとして行います。レポートの評価については内容ももちろんのこと、適切な表現が用いられているかどうかも評価の対象とします。なお、授業中の発問等に対する解答提示、あるいは積極的な授業協力等には、成績評価において加点します。他人に惑わされることなく、よい成績がとれるように頑張りましょう。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎	○	○	70%
授業内レポート	◎	○		30%
授業外レポート				評価対象外
演習・実技				評価対象外
授業態度	○	◎		加点対象
出席				欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

1. 受講は、指定教科書の持参を条件とします。教科書を持たない学生は受講できません。なお、教科書は「修正第3版発行」とします。
2. 講義中は静寂を保つこと。静寂を維持できない方は受講をやめてください。
3. 本講義においては、諸知識の記憶も大切ですが、それを用いて考えることが重要です。受け身の姿勢ではない積極的な受講態度を求めます。
4. 詳細については第一回目の講義で説明します。

関連科目	教員免許状（保健体育）取得関連諸科目		
教科書	大橋道雄編 (2011) 体育哲学原論, 不昧堂※「修正第3版」	参考書	佐藤臣彦(1993)身体教育を哲学する, 北樹出版
連絡先	G棟2階208研究室（高橋徹研究室）		

授業科目名	スポーツ経営学 Sport Management (L)				担当教員	永田秀隆
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	講義	関連資格	レクリエーション・コーディネーター
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

スポーツが幅広い層に普及している今日、スポーツを指導・振興する上で、経営的なものの見方や考え方が重要となっている。そこで、学校、地域、公共・商業スポーツ施設やプロスポーツといった様々な領域で展開されるスポーツ現象について、経営学的なアプローチを試みる。

授業の一般目標

スポーツ経営の基本的な構造(仕組みやシステム)について理解する。様々な領域で展開されるスポーツ現象について、経営学的な視点で捉え、またそのことについて考察する。

授業の到達目標

■	認知的領域	スポーツ経営の基本構造が説明できる。経営学的な視点でスポーツ現象を捉えられ、そのことについて考察できる。
□	情意的領域	
□	技能表現的領域	

授業計画(全体)

本授業は、スポーツ経営学の入門編と位置づけていることから、多様な視点でのスポーツ経営現象を紹介することになる。
毎回、授業テーマに沿った資料を原則配布し、また受講者の理解を深めることに配慮するためパワーポイントやビデオ等も活用する。数回、授業内容に沿ったレポートを課すことになるので、授業内容を各自がそれなりに理解しておくことが重要である。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション／スポーツ経営学とは [内容] 教員紹介、授業概要(目標、進め方、シラバス、成績評価方法等)の説明／スポーツ経営の構造(仕組み)について概説する [授業外学習]シラバスを熟読すること	⑨	[テーマ] 商品やスポーツマーケティングの現実 [内容] ビデオ「地球市場　富の攻防 ～最強商品:スーパースター～」を視聴し、概要と感想をまとめる(小レポート該当) [授業外学習]
②	[テーマ] スポーツ組織と取り巻く環境(ステークホルダー) [内容] スポーツ組織の特徴を説明するとともに、スポーツ組織を取り巻く環境(ステークホルダー)を理解し、事例についても考える [授業外学習]プロスポーツを取り巻くステークホルダーを考える	⑩	[テーマ] スポーツ組織の設計とスタッフ [内容] スポーツプロダクト(製品)を生み出すスポーツ組織の捉え方、設計の仕方、スタッフ等について理解する [授業外学習]スポーツ組織について調べておく
③	[テーマ] 市場における競争地位の類型化および経営資源の分類 [内容] 競争地位の類型化について説明するとともに事例検討も実施し、また類型化の前提となる経営資源の分類について理解する [授業外学習]競争地位の類型化に関するレポート作成要領を提示	⑪	[テーマ] スポーツ経営における経営評価 [内容] スポーツ経営現象をよりよいものにしていくための手段としての経営評価に着目し、その考え方を理解するとともに応用できるようにするため身につける [授業外学習]経営評価について調べておく
④	[テーマ] ブランド資産の創造とブランド価値評価 [内容] ブランドの概念、意義、資産とその維持に関して概説し、またブランド価値評価に関するデータも示す [授業外学習]各自の所属する学科のロゴマークを考えておく	⑫	[テーマ] プロスポーツの経営 [内容] 日本のプロスポーツ(Jリーグ等)を取上げ、そこでの組織の取組(経営)と消費者としての観戦者の特性に着眼し、現場での経営についての理解を深める [授業外学習]各自の関心のあるプロスポーツの現状を把握しておく
⑤	[テーマ] 商品の構造や開発、市場での経営戦略 [内容] ビデオ「NO.1を死守せよ ～カローラ40年目の苦闘～」を視聴し、キーワードを抽出する(小レポート該当) [授業外学習]	⑬	[テーマ] プロスポーツ経営の実際 [内容] プロスポーツの現場における経営の実際について、現場経験者の取り組みを視聴し、考察を深める [授業外学習]
⑥	[テーマ]プロダクト(製品)とスポーツプロダクト [内容] プロダクトの概念、製品の開発やライフサイクル、スポーツプロダクトの構造を理解し具体例についても考察する [授業外学習]製品ライフサイクルについて調べておく	⑭	[テーマ] 商業スポーツ施設の経営 [内容] 激しい競争環境の中にある商業スポーツ施設の経営の現状や課題等について理解を深め、今後の方向性について考える [授業外学習]特定の商業スポーツ施設について、その概要を調べておく
⑦	[テーマ] スポーツイベントの特徴及びメディアとの関係 [内容] イベント及びスポーツイベントの概要や波及効果を認識し、またスポーツイベントとメディア(テレビ)との関係について理解し検討する [授業外学習]スポーツイベントについてイメージを膨らませておく	⑮	[テーマ] 地域スポーツの経営 [内容] 地域に存在する各種スポーツ団体、総合型地域スポーツクラブ、あるいは地域と関わりの深い学校体育経営の現状や課題について概説する [授業外学習]地元に総合型地域スポーツクラブがどれだけあるか調べる
⑧	[テーマ] スポーツマーケティングの概要・計画・戦略 [内容] スポーツマーケティングの枠組み、計画づくり、そしてマーケティング戦略について、実践例を交え説明する [授業外学習]マーケティングとは何か調べておく	⑯	[テーマ] レポート [内容] レポートの振り返り [授業外学習]

成績評価方法(方針)

授業外レポート(25%)、授業内レポートとリアクションペーパー(75%)の結果に基づき、総合的に評価する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				評価対象外
授業内レポート	◎			75%
授業外レポート	◎			25%
演習・実技				評価対象外
授業態度				減点アリ
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・本授業は、健康福祉学科と運動栄養学科では必修ではないが、保健体育教諭免許を取得希望する者にとっては必要な科目である。
・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない(欠格条件)。
・授業態度が悪い学生に対しては、成績評価から減点する。
・15分以上の遅刻は欠席とみなす。
・授業計画は、授業の進み方により変更することがある。

関連科目	スポーツマネジメント概論(2年)、スポーツマーケティング論(2年)、地域スポーツ戦略論(2年)、スポーツ産業論(3年)、スポーツクラブマネジメント論(3年)、スポーツ政策論(4年)		
教科書		参考書	山下秋二他『スポーツ経営学』大修館書店、 八代勉他『体育・スポーツ経営学講義』大修館書店　他
連絡先	A棟3階312:永田研究室(hd-nagata@sendai-u.ac.jp)　オフィスアワー:火曜日　10:20　～　11:50		

授業科目名	スポーツ計量学 Metrics on Sports(L)				担当教員	菊地 直子・林 直樹
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格	スポーツプログラマー、健康運動実践指導者
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

体育・スポーツ場面において、様々なデータを採取し取り扱う必要性が高まってきている。本講義では②から⑧においては統計的な「データの取り扱いの基礎」について、⑨から⑮においては計量の概論と「スポーツにおける計量の実際」について、それぞれ解説する。

授業の一般目標

さまざまなデータの採取と取り扱いについて学び、各授業で学んだ内容について具体的に実践・算出することができる。

授業の到達目標

■	認知的領域	データの意味を知り、2次データまで整理することができる。
■	情意的領域	データについて、正しく取り扱う慎重な態度が形成される。
□	技能表現的領域	

授業計画(全体)

さまざまなデータの採取と取り扱いについて学び、各授業で学んだ内容について具体的に実践・算出することができる。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバスの説明、成績評価の方法、クラス分け [授業外学習]シラバスを熟読すること	⑨	[テーマ] 「スポーツ計量学」の意味と意義について考える [内容] 日常において行われる計量とスポーツにおける計量を比較してスポーツ計量の範囲を共に考え、スポーツ計量学の本質を解説する。 [授業外学習] 「スポーツ」「計量」「学」という言葉の定義を復習する。
②	[テーマ]事象を計量する・調査研究の基本的な流れ [内容] 。スポーツ場面において、計量することについて、若干のイメージを持たせる。 [授業外学習]配布資料を熟読しておく。	⑩	[テーマ] 体力の測定・計量 [内容]文部科学省の体力テストを含めた体力・運動能力テストの現状や内容を解説する。形態や姿勢を含めた体力の計量について議論する。 [授業外学習] 体力の概念をキーワードを用いて説明できるように復習する。
③	[テーマ]データの種類,データの整理 [内容] データの種類、尺度について解説する。度数分布表を使って名義、比尺度データの整理を説明した後、演習を通して理解させる。 [授業外学習]研究法と調査の流れについて復習しておく。	⑪	[テーマ] 様々な体力の計量とその可能性 [内容] パフォーマンスに影響を及ぼす「体力」の計量について、特に視力、聴力などを計量することの意味とその可能性を解説する。 [授業外学習]視覚情報獲得の「輻輳(ふくそう)」の構造を理解する。
④	[テーマ] 代表値、散らばりの尺度 [内容] 代表値、域値、四分位範囲、箱ひげ図の考え方と特徴について説明した後、演習を通して理解させる。 [授業外学習]配布資料等を熟読する。	⑫	[テーマ] 血圧・血中乳酸を測定する(一次データの利用) [内容] 心臓から全身を巡る血液に関する基本的な計量を実際に紹介し、その意味や計量意義に関して解説する。血中乳酸の測定を紹介する。 [授業外学習] 乳酸の働きに関して復習し、競技場面での利用方法を考える。
⑤	[テーマ] 標準偏差と標準化 [内容] 標準偏差、標準化および偏差値について説明した後、演習を通して理解させる。 [授業外学習]配布資料を熟読し、 不明な点を抽出しておく。	⑬	[テーマ] 位置情報から速度や角度を算出する(二次データの利用) [内容] 連続写真の中の位置の変化から距離や角度を算出し、時間微分することにより速度や角速度を算出する方法を解説する。 [授業外学習] 二次データの利用として速度の算出を完璧にマスターする。
⑥	[テーマ] 2変数の相関 [内容]ピアソンの積率相関係数の概要とその算出の仕方について説明した後、演習を通して理解させる。 [授業外学習]配布資料等を熟読する。	⑭	[テーマ]加速度、力、運動量を算出する(二次データの利用) [内容] 算出した速度を更に時間微分し、加速度を算出する方法を解説する。そして加速度から力や運動量などを算出する方法を解説する。 [授業外学習] 提示した量的パラメータの意味について復習して理解する。
⑦	[テーマ] カイ二乗検定 [内容]クロス集計表の作成および、カイ二乗検定について説明した後、演習を通して理解させる。 [授業外学習]演習を見直し、課題を提出する。	⑮	[テーマ]様々な測定・計量とその評価 [内容] 量的・質的な計量手法を紹介し、それぞれの評価をフィードバックする適切な手法について解説する。 [授業外学習]図表やICT機器でのフォードバック方法を復習する。
⑧	[テーマ] 多変量解析・確認テスト [内容] 前半を多変量解析の手法の概要を説明する。これまでの確認テストを行う。 [授業外学習]ここまでの復習、テストの準備をしておく。	⑯	[テーマ] テスト [内容] テスト [授業外学習]ここまでの復習、テスト準備をしておく

成績評価方法(方針)

主に、定期試験の結果(前後半それぞれのテストの合計点)に重点をおいて評価する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 \ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎	◎		
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度	○	◎		
出席				

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・授業に積極的に参加している学生には成績評価に加点する。
・授業態度が悪い学生に対しては、成績評価から減点する。
・授業中は携帯電話をかばんの中にしまうこと。
・このシラバスを参考に、しっかりと予習・復習を行うこと。
・簡易なもので構わないので、電卓を用意すること。
・授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。

関連科目			
教科書	特に指定しない	参考書	特に指定しない
連絡先	菊地研究室 第4体育館1階 9号室		

授業科目名	運動学(含運動方法学) Movement Theory of Sports				担当教員	川口鉄二
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格	保健体育教師教員免許
	履修の方法	必修	単位数	2		

授業の概要

体育教師やスポーツ指導者の中核になる科目です。巧みな動きがはじめて「できるようになり」、練習によって自在に動けるようになるまでには様々な身体知がかかわります。教える側と教わる側を不可分の関係としてその志向内容を明らかにしていきます。実際の運動学習の際に直面する様々な問題を主体側の地平で捉え、具体例を示しながら解説していきます。

授業の一般目標

保健体育科教員、スポーツ指導者として、動き方を伝えるために不可欠となる運動観察能力が理解できるようにする。

授業の到達目標

■	認知的領域	スポーツ運動の諸概念と正しい運動認識を理解できる。
■	情意的領域	学習者の動く感覚を読み取ることができる。
■	技能表現的領域	指導に結びつく運動の観察ができる。

授業計画(全体)

最新の理論を具体的な運動例を取り入れながら平易に解説していく。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] シラバスに基づき、本講義のオリエンテーション(授業概要、目標、評価方法他の説明)を行う。 [授業外学習]	⑨	[テーマ] 「できる」と「教えられる」の関係 [内容] 運動の「説明」「支援」「サポート」と「発生」指導の区別。「発生指導」ないし「自得」により獲得された技能の持つ意味と価値について。 [授業外学習]
②	[テーマ]体育・スポーツ指導者にまつわる今日の諸問題 [内容] 運動指導を目的とする実践現場において隠れ蓑を持つ体育教師やコーチの諸問題を専門性という立場で再考し、以降の講義の狙いを明らかにする。	⑩	[テーマ] 学習目標としての「体力」とは [内容] 学校体育における「体力つくり」の問題点。「体力」という用語の認識実態及び「運動技能」との関係について。 [授業外学習]
③	[テーマ] スポーツ科学とはどのような科学か [内容] スポーツ科学とは何か。体育・スポーツの理論体系及び統合のための理論のパラダイムについて。理論と実践の恒常的断層問題について。 [授業外学習]	⑪	[テーマ] 指導対象としての「コツ」と「カン」1 [内容] 「できた」ことと「コツ」「技術」との関係。「カン」が働くための前提、「コツ」との関係について。 [授業外学習]
④	[テーマ] 人間への眼差しと精密科学の発展 [内容]技を伝えるための人間の運動はどのように把握されるのか。諸外国における運動理論の台頭(マイネル)と日本のモルフォロギー運動学(金子)の発展を概観する。	⑫	[テーマ] 指導対象としての「コツ」と「カン」2 [内容]「カン」と「コツ」の公共性、時代性とは 学習目標としての技術力と戦術力について。 [授業外学習]
⑤	[テーマ]指導法に潜む運動認識とは [内容] 体育指導で常に問題にされる鋳型化、モザイク化、構築化あるいは暴力問題などにおいて運動認識がどのようにかかわってくるのか、身近な例を用いて解説する。 [授業外学習]	⑬	[テーマ] 指導者の運動観察能力 [内容] 技能獲得と指導力獲得の基本的認識 「できる」につながる指導者の観察、交信、代行能力と管理・支援指導の区別について。 [授業外学習]
⑥	[テーマ] 運動現象は何故因果的思考と矛盾するのか [内容] 主観と客観、因果思考、データー化と統計的思考の問題、実践的感覚と判断の根拠などについて。 [授業外学習]	⑭	[テーマ] 「できる気がする」までの学習段階 [内容]運動アナロゴン、運動の形成位相、めあて、道しるべについての基本的理解。 [授業外学習]
⑦	[テーマ] 未熟な専門用語がもたらす実践問題 [内容] 専門用語の曖昧さがもたらす混乱。意味内容が理解されていないまま進められる学習やトレーニング活動などの問題について。 [授業外学習]	⑮	[テーマ] まとめ [内容] これまでの内容をスポーツ運動学の体系から概観し、理論的探求への手がかりとする 試験問題の解説。 [授業外学習]
⑧	[テーマ] 「できさせる」ための発生理論 [内容] 教員免許法、学習指導要領における運動発生理論の位置づけ。 教える―覚える関係性に必要とされる観察能力について。 [授業外学習]	⑯	[テーマ] 試験 [内容] 実践例とのかかわりを重視した記述問題が中心 [授業外学習]参考書、配布プリント、各自ノートを十分復習し試験に万全を期す。

成績評価方法(方針)

テスト前の暗記勉強では対応できません。各回の授業内容がどの程度理解できたかを確かめます。自己の運動経験を踏まえて分析内容を記述できているかを評価します。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 \ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎			90%
授業内レポート				10%
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度			○	減点対象
出席	○			減点・欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・運動学に興味をもっていること
・豊富な運動経験が必要です(レベルは問わない)
・授業内容は毎年進化します
・教員志望者は必須です

関連科目	スポーツ技術観察論、スポーツコーチング指導法実習、ジュニアスポーツ指導論		
教科書	スポーツ運動学(明和出版)	参考書	1. 運動学講義(大修館)
連絡先	A棟403(川口)		

授業科目名	運動障害救急法(含実習) Emergency Care for Sports Injury （Ｌ.）				担当教員	橋本 実
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義(含実習)	関連資格	教員免許状(全免許)、介護福祉士、健康運動指導士、健康運動実践指導者、ﾚｸﾘｴｰｼｮﾝ・ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ、福祉ﾚｸﾘｴｰｼｮﾝ・ﾜｰｶｰ、ｱｽﾚﾃｨｯｸﾄﾚｰﾅｰ、、障害者ｽﾎﾟｰﾂ指導員、ｽﾎﾟｰﾂﾌﾟﾛｸﾞﾗﾏｰ、NSCA-CPT、CSCS
	履修の方法	必修	単位数	2		

授業の概要

スポーツ現場で関わりうる、外傷、障害の知識と対処方法について解説する。
スポーツドクターの立場から固定法、止血法、心肺蘇生法、AEDの使用方法を解説し、実習もおこなう。

授業の一般目標

スポーツ現場でおこる、外傷、障害にたいし正しい対処ができるようになる。
固定法、止血法、心肺蘇生法、AEDを適切におこなえるようになる。

授業の到達目標

■	認知的領域	スポーツ現場で関わりうる、外傷、障害などの知識と対処方法を理解する。
■	情意的領域	スポーツ現場でおきた外傷、障害などに、きちんと対処しようと努力する。
□	技能表現的領域	

授業計画(全体)

授業は毎回パワーポイントでおこない、画像を見ながら理解を深める。また、講義ノート(教科書)に書き込みながら理解を深める。
授業の終わりに、毎回小テストをおこない、知識を整理する。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の進め方などについて説明する [授業外学習]ﾌﾟﾘﾝﾄを配布するので参考にすること	⑨	[テーマ] 前半の振り返りと試験 [内容] 講義前半の内容を、正しく理解できたかを確認し、試験をおこなう [授業外学習]講義ノートを中心に、講義内容を整理すること
②	[テーマ] 外傷 [内容] 外傷の分類、重症度などについて説明する [授業外学習]授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること	⑩	[テーマ] 熱中症 [内容] 熱中症の分類、重症度などについて説明する [授業外学習]授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること
③	[テーマ] 外傷の新しい治療 [内容] 外傷の新しい治療について説明する [授業外学習]授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること	⑪	[テーマ] 熱中症 [内容] 熱中症の対処方法、予防法などについて説明する [授業外学習]授業後、図書館で救急処置関連の本で復習すること
④	[テーマ] 固定法 [内容]様々な方法による上肢の固定法について説明する [授業外学習]授業後、図書館で救急処置関連の本で復習すること	⑫	[テーマ] 心肺蘇生法 [内容] 心肺蘇生法について説明する [授業外学習]授業後、図書館で救急処置関連の本で復習すること
⑤	[テーマ] 止血法 [内容] 様々な方法による止血法について説明する [授業外学習]授業後、図書館で救急処置関連の本で復習すること	⑬	[テーマ] AEDを使った心肺蘇生法 [内容] AEDを使った心肺蘇生法について説明する [授業外学習]授業後、図書館で救急処置関連の本で復習すること
⑥	[テーマ] 脳震盪 [内容] 脳震盪の分類、重症度などについて説明する [授業外学習]授業後、図書館で救急処置関連の本で復習すること	⑭	[テーマ] 救急処置(実習) [内容] AED、AED実習器具を使って実習する [授業外学習]1回の実習では身につかないので、繰り返し練習することが望まれる
⑦	[テーマ] 頭部外傷 [内容]頭部外傷の分類、重症度などについて説明する [授業外学習]授業後、図書館で救急処置関連の本で復習すること	⑮	[テーマ] 後半の振り返りと試験 [内容] 講義後半の内容を、正しく理解できたかを確認し、試験をおこなう [授業外学習]講義ノートを中心に、講義内容を整理すること
⑧	[テーマ] 救急処置(実習) [内容] 包帯、三角巾の使用方法、RICE、傷の治療を実習する [授業外学習]1回の実習では身につかないので、繰り返し練習することが望まれる	⑯	[テーマ] 試験 [内容] 講義内容を正しく理解できたかを試験にて判定する [授業外学習]講義ノートを中心に、講義内容を整理すること

成績評価方法(方針)

基本的には公欠を認めないので、公欠を含め2/3以上出席(5回までの欠席に)するように、自己管理すること。正当な理由の欠席で6回以上になる場合は、ケースごとに対応する。講義ノートで出欠や受講状況を確認し、場合によっては成績にも影響するので必ず購入し講義内容を記入すること。
出欠は受験資格のみとし評価に加わえないが、相対評価と絶対評価で成績を総合的に判定する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎			100%
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度				
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

授業中は下記の項目を厳守すること。
1. スマホ、携帯電話の電源を切る。
2. スマホでの撮影は留学生以外は禁止。
3. 無断で教室を離れない。
4. 挨拶をする。
5. 帽子はかぶらない。
6.私語は厳禁。
講義内容は基本的な知識なので、講義後図書館で各項目について自習し、更に知識を深めることが望ましい。

関連科目			
教科書	運動障害救急法 講義ノート	参考書	特になし
連絡先	研究室:F棟2階　　オフィスアワー:月曜日　14:20～15:50		

授業科目名	トレーニング方法論 Basic Theory of Sports Training				担当教員	門野洋介・柴山一仁・森本吉謙
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格	アスレチック・トレーナー
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

本講義では，トレーニングの一般原則ならびに，競技力向上を狙いとした各種トレーニングの方法論を概説する．また，実際にトレーニング計画を立案する際に問題となる，個々のトレーニングをいかにして組み合わせ，配置するかについて，トレーニング構成の諸原則に基づき説明する．

授業の一般目標

主に競技力向上を目指した各種トレーニングの一般的理論およびそれらの具体的な方法論を理解する．また，短期，中期，長期的それぞれの観点に立ったトレーニング構成を理論的に考え，実際の計画立案が出来るようになる．

授業の到達目標

■	認知的領域	スポーツ・トレーニング理論に基づく各種方法論を説明できる．トレーニング計画の理論的な立案が出来るようになる．
■	情意的領域	スポーツ・トレーニング理論に関して積極的な興味，関心を持てるようになる．
□	技能表現的領域	

授業計画（全体）

本講義では，競技力向上を目的とした運動（手段）すべてを「スポーツ・トレーニング」と捉え，先ずは，筋力，スピード，持久力および巧緻性（巧みさ）を養成する各種トレーニングの方法論について講義を行う．その後に，個々のトレーニングをいかに構成するかについて，大きく週間，月間，年間でのトレーニング周期に分けて，各々における諸原則を示す．

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] ガイダンス [内容] 担当教員の紹介および授業の内容，成績評価方法等について説明する [授業外学習]シラバスを熟読すること	⑨	[テーマ] 巧緻性の養成法 [内容] 巧緻性とは何か，そしてその具体的な養成法を説明する [授業外学習]
②	[テーマ] トレーニングとは [内容] スポーツ・トレーニングの定義を説明する [授業外学習]	⑩	[テーマ] 技術・戦術トレーニング [内容] 技術・戦術を向上させるためのトレーニングの理論・方法論を説明する [授業外学習]
③	[テーマ] トレーニング手段の分類と意義 [内容] トレーニング手段を適切に分類する必要性を説明する [授業外学習]	⑪	[テーマ] トレーニング構成の一般原理 [内容] トレーニング構成の一般的な諸原理を説明する [授業外学習]
④	[テーマ] トレーニングの一般原則 [内容] トレーニングを遂行する上での一般的な原則を説明する [授業外学習]	⑫	[テーマ] 競技的状態（スポーツ・フォーム） [内容] 競技的状態とは何か，その周期的発達特性を含めて説明する [授業外学習]
⑤	[テーマ] トレーニング負荷 [内容] トレーニング負荷について量と強度の関係を含め説明する [授業外学習]	⑬	[テーマ] トレーニングの期分け [内容] トレーニングの期分けについて説明する [授業外学習]
⑥	[テーマ] 筋力の養成法 [内容] 筋力の種類とそれらの具体的な養成法を説明する [授業外学習]	⑭	[テーマ] 週間、月間、年間のトレーニング構成 [内容] 1週間、1ヶ月、1年間を基本単位としたトレーニング構成の実例を紹介する [授業外学習]
⑦	[テーマ] スピードの養成法 [内容] スピードの種類とそれらの具体的な養成法を説明する [授業外学習]	⑮	[テーマ] トレーニング分析と管理 [内容] トレーニングの分析と管理の具体的な方法論を説明する [授業外学習]
⑧	[テーマ] 持久力の養成法 [内容] 持久力の種類とそれらの具体的な養成法を説明する [授業外学習]	⑯	[テーマ] テスト [内容] 授業の理解度，到達度を確かめるテストを行う [授業外学習]

成績評価方法（方針）

試験は，期末試験を1回実施する（評価割合80%）．また，授業内レポートを課す場合がある（評価割合20%）．これらの結果を総合して評価を行う．授業中における態度は減点対象となる．出席は欠格条件とする．

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎			80%
授業内レポート	◎			20%
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度				減点あり
出席				欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

私語，遅刻等の授業進行の妨げになり，他の受講生に迷惑となる行為は厳禁とする．20分以上の遅刻は欠席とみなす．2/3以上の出席が無い学生は，試験を受けることが出来ない（欠格条件）．授業計画は授業の進み具合いにより変更する場合がある．

関連科目			
教科書		参考書	スポーツ・トレーニング理論（村木征人）
連絡先	門野洋介（A408、hr-kadono@sendai-u.ac.jp）		

授業科目名	コンディショニング論 Introduction to Conditioning (L.)				担当教員	高橋陽介/小田桂吾
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義	関連資格	日本体育協会公認アスレティックトレーナー
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

コンディショニングは競技スポーツにおいて勝つための全ての準備といえる。コンディショニングにおいてアスレティックトレーナーが関わる領域を挙げ、それらの主要な内容を具体的な事例を交え解説する。

授業の一般目標

コーチ、医科学スタッフらとも連携し、競技者に対し最適なコンディショニングプランを提供できるように、その調整方法を幅広い領域から学習し、習得する。

授業の到達目標

■	認知的領域	コンディショニングの基礎的事項を説明できる。
□	情意的領域	
■	技能表現的領域	アスレティックトレーナーとして選手、対象者にコンディショニングに関する指導ができる。

授業計画(全体)

授業テーマに合わせたパワーポイントの資料を中心に講義を行う。必要に応じ、資料を配布する。テーマにより実技を行い理解を深める。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員紹介、授業概要の説明、授業目標の説明、授業計画の説明、成績評価方法の説明、履修上の注意の説明 [授業外学習]シラバスの熟読	⑨	[テーマ] トレーニング計画② [内容] トレーニング計画の立案、設計について説明 [授業外学習]授業内容を基に復習する
②	[テーマ]コンディショニングとは [内容] コンディショニングの概念、目的について説明 [授業外学習]授業内容を基に復習する	⑩	[テーマ] ストレッチング [内容] ストレッチングの方法、目的、基礎知識について説明 [授業外学習]授業内容を基に復習する
③	[テーマ] コンディショニングの要素① [内容] コンディショニングに関わる身体的因子について説明 [授業外学習]授業内容を基に復習する	⑪	[テーマ] ウォーミングアップとクーリングダウン [内容] ウォーミングアップ、クーリングダウンの方法、実施時の注意点について説明 [授業外学習]授業内容を基に復習する
④	[テーマ] コンディショニングの要素② [内容] コンディショニングに関わる環境的因子、心理的因子について説明 [授業外学習]授業内容を基に復習する	⑫	[テーマ] レジスタンス・パワートレーニング① [内容] レジスタンス・パワートレーニングの方法、実施時の注意点について説明 [授業外学習]授業内容を基に復習する
⑤	[テーマ] コンディション評価① [内容] コンディション評価の目的、方法について説明 [授業外学習]授業内容を基に復習する	⑬	[テーマ] レジスタンス・パワートレーニング② [内容] レジスタンス・パワートレーニングの方法、実施時の注意点について説明 [授業外学習]授業内容を基に復習する
⑥	[テーマ] コンディション評価② [内容] コンディション評価の目的、方法について説明 [授業外学習]授業内容を基に復習する	⑭	[テーマ] アジリティー・スタビライゼーショントレーニング [内容] アジリティー・スタビライゼーショントレーニングの方法、実施時の注意点について説明 [授業外学習]授業内容を基に復習する
⑦	[テーマ]トレーニングの基礎 [内容]トレーニング計画を作成する際の基礎知識について説明 [授業外学習]授業内容を基に復習する	⑮	[テーマ] 総括・復習 [内容] これまでの講義内容を復習し、テストに備える [授業外学習]テストに備え全範囲を復習する
⑧	[テーマ]トレーニング計画 [内容]トレーニング計画を作成する際の基礎知識について説明 [授業外学習]授業内容を基に復習する	⑯	[テーマ] テスト [内容] 授業理解度の確認のため、筆記試験をおこなう [授業外学習]

成績評価方法(方針)

評価は筆記試験(評価割合100%)のみとし、原則として再試・追試は行わないものとする。出席は評価割合に加えず欠格条件とする。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 \ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎			100%
授業内レポート				評価対象外
授業外レポート				評価対象外
演習・実技				評価対象外
授業態度				評価対象外
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・日本体育協会公認アスレティックトレーナー受験希望者が望ましい
・2/3以上の出席が無い学生は評価対象外とする(欠格条件)
・20分以上の遅刻は欠席とみなす
・授業計画は、授業の進み方により多少前後することがある

関連科目	コンディショニング実習		
教科書	日本体育協会公認AT専門科目テキスト⑥	参考書	
連絡先	高橋研究室　第4体育館1階研究室3　Email: ys-takahashi@sendai-u.ac.jp		

授業科目名	体力相談と運動処方 Exercise Prescription and Physical Fitness (L.)				担当教員	鈴木省三／竹村英和／馬　佳濛
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義	関連資格	スポーツプログラマー、健康運動実践指導者、健康運動指導士、中学・高校教員免許(保健体育)
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

生活習慣の一つである「運動・スポーツ」が、健康の維持増進や体力向上に効果があることは多くの研究で明らかにされている。本講義では、健康づくりのために運動習慣を持つことの大切さと、体力増強を狙いとした運動プログラムの作成方法について、最近の研究結果や具体例を基に解説する。

授業の一般目標

運動不足が体力に及ぼす影響について理解し、クライアントの目的に応じた適切な運動プログラムを作成するための能力を身につける。また、応用として、5段階評価表、メッツを用いた運動プログラム、体脂肪を減少させるための有酸素プログラム、高齢者の筋肉量を増加させるための筋力トレーニングプログラム等の作成と評価方法を身につける。

授業の到達目標

■	認知的領域	体力相談や運動処方を実施するための基礎的事項について説明できる。
■	情意的領域	科学的手法を用いた運動プログラムの構築に取り組むことができるようになる。
■	技能表現的領域	基本的な運動プログラムを子どもから高齢者のニーズに応じて構築することができる。

授業計画(全体)

授業テーマに沿った資料を用いての講義が中心となる。授業では主に基本的な理論と実践を取りあげ、子どもから高齢者、スポーツ選手、メタボリックシンドローム予備軍らの運動プログラムの作成を行う。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の説明 [授業外学習] シラバスを熟読しておくこと	⑨	[テーマ] 5段階評価表を用いたスポーツ選手の運動処方の実践(作業2) [内容] クライエントのデータから5段階評価表を作り、目的を達成させるための運動プログラムを作成する [授業外学習] 授業資料を基に復習すること
②	[テーマ] 体力相談と運動処方の意義 [内容] 現代の健康阻害要因と中高年のメタボリック症候群、介護が必要な高齢者との関係から体力相談と運動処方の意義について説明する [授業外学習] 授業資料を基に復習すること	⑩	[テーマ] ITを用いた運動処方の実際 [内容] 前回のプログラムについてITを用いた運動処方の実際について説明する [授業外学習] METsについて予習をしてくること
③	[テーマ] メタボリックシンドローム [内容] メタボリックシンドロームに関する基礎的事項や改善方法の概略を説明する [授業外学習] 授業資料を基に復習すること	⑪	[テーマ] METsを用いた運動処方 [内容] METsの計算方法を説明し、数多くの計算問題を実施する [授業外学習] 授業資料を基に復習すること
④	[テーマ] 運動不足の影響とトレーニング効果 [内容] 運動不足やトレーニングが健康や体力に及ぼす影響について説明する [授業外学習] 授業資料を基に復習すること	⑫	[テーマ] 糖尿病予備軍の運動処方 [内容] 糖尿病とインスリンの関係から運動処方のポイントについて説明する [授業外学習] 授業資料を基に復習しておくこと
⑤	[テーマ] 運動処方のプロセス [内容] クライエントの目的を達成するための運動処方のプロセスについて説明する [授業外学習] 授業資料を基に復習すること	⑬	[テーマ] 高齢者の運動処方 [内容] 高齢者の生理的特性を踏まえた運動処方のポイントについて説明する [授業外学習] 授業資料を基に復習しておくこと
⑥	[テーマ] 運動処方の実践(作業1) [内容] 体力増強を目的としたクライエントのプログラム作成(作業) [授業外学習] 授業資料を基に復習すること	⑭	[テーマ] 子どもの運動処方 [内容] 子どもの生理的特性を踏まえた運動処方のポイントについて説明する [授業外学習] 授業資料を基に復習しておくこと
⑦	[テーマ] 運動プログラムの組み立て手順 [内容] 前回のプログラム作成のポイントについて解説をする [授業外学習] 授業資料を基に復習すること(授業後)	⑮	[テーマ] 生活習慣病予備軍の運動処方 [内容] ケーススタディ研究から生活習慣病についての運動処方のポイントについて説明する [授業外学習] 授業資料を基に復習しておくこと
⑧	[テーマ] 5段階評価表の作成法 [内容] 5段階評価表の作成法と分析手順について説明する [授業外学習] 授業資料を基に復習すること	⑯	[テーマ] テスト [内容] 授業の理解度・到達度を確認するために筆記試験を実施する [授業外学習] 全15回の授業内容を復習すること

成績評価方法(方針)

評価は、出席状況、筆記試験、レポートにより行う。各項目の評価割合は、出席状況が15%、筆記試験が65%、レポートが20%とする。試験は、期末に1回実施する(筆記試験、持ち込み不可)。また、レポートは授業内に課す。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎		◎	65%
授業内レポート			◎	20%
授業外レポート				評価対象外
演習・実技				評価対象外
授業態度				評価対象外
出席		◎		15%

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・2/3以上の出席がない学生は、評価対象外とする(欠格条件)。
・授業態度が悪い学生は、成績評価から減点する。
・20分以上の遅刻は、欠席とみなす。
・授業計画は、授業の進行状況により、多少前後することがある。
・専門的な内容が含まれるので、関連科目の予習および授業後の復習を行うこと。

関連科目	運動生理学、身体運動と発育・発達		
教科書	特に指定しない	参考書	特に指定しない
連絡先	鈴木研究室(A棟4階402)		

授業科目名	スポーツ医学概論 Introduction to Sports Medicine（Ｌ.）				担当教員	橋本　実
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格	教員免許状（中高保体、養護）、健康運動指導士、健康運動実践指導者、アスレティックトレーナー、レクリエーション・コーディネーター、福祉レクリエーション・ワーカー、障害者スポーツ指導員
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

スポーツマンとして理解しておきたい運動生理学およびスポーツ医学に関する基礎知識を解説する。

授業の一般目標

スポーツマンとして理解しておきたい運動生理学およびスポーツ医学に関する基礎知識を解説する。

授業の到達目標

■	認知的領域	スポーツマンとして理解しておきたい運動生理学およびスポーツ医学に関する基礎知識を理解する。
■	情意的領域	スポーツマンとして理解しておきたい運動生理学およびスポーツ医学に関する基礎知識を、活用するように努力する。
□	技能表現的領域	

授業計画（全体）

授業は毎回パワーポイントでおこない、画像を見ながら理解を深める。また、講義ノート（教科書）に書き込みながら理解を深める。
授業の終わりに、毎回小テストをおこない、知識を整理する。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ]　オリエンテーション [内容] 授業の進め方などについて説明 [授業外学習]当日配布するプリントを参照すること	⑨	[テーマ] 体液 [内容] スポーツに関連する体液の知識について説明する [授業外学習]授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること
②	[テーマ] スポーツ医学の基礎 [内容] スポーツ医学の基本的なことについて説明する [授業外学習]授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること	⑩	[テーマ] 細胞 [内容] スポーツに関連する細胞の知識について説明する [授業外学習]授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること
③	[テーマ]ドーピング① [内容]ドーピングに関連する知識について説明する [授業外学習]授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること	⑪	[テーマ] 免疫 [内容] スポーツに関連する免疫の知識について説明する [授業外学習]授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること
④	[テーマ]ドーピング② [内容]ドーピングに関連する防止策や実態について説明する [授業外学習]授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること	⑫	[テーマ] 赤血球 [内容] スポーツに関連する赤血球の知識について説明する [授業外学習]授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること
⑤	[テーマ] 呼吸器 [内容] スポーツに関連する呼吸器の知識について説明する [授業外学習]授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること	⑬	[テーマ] 高地トレーニングと貧血 [内容] 高地トレーニングと貧血に関連する知識について説明する [授業外学習]授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること
⑥	[テーマ] 循環器 [内容] スポーツに関連する循環器の知識について説明する [授業外学習]授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること	⑭	[テーマ] 骨格筋 [内容] スポーツに関連する骨格筋の知識について説明する [授業外学習]授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること
⑦	[テーマ] 遺伝 [内容] スポーツに関連する遺伝の知識について説明する [授業外学習]授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること	⑮	[テーマ] 後半の振り返りと試験 [内容] 講義後半の内容を、正しく理解できたかを確認し、試験をおこなう [授業外学習]講義ノートを中心に、講義内容を整理すること
⑧	[テーマ] 前半の振り返りと試験 [内容] 講義前半の内容を、正しく理解できたかを確認し、試験をおこなう [授業外学習]講義ノートを中心に、講義内容を整理すること	⑯	[テーマ] 試験 [内容] 講義内容を正しく理解できたかを試験にて判定する [授業外学習]講義ノートを中心に、講義内容を整理すること

成績評価方法（方針）

基本的には公欠を認めないので、公欠を含め2/3以上出席（5回までの欠席に）するように、自己管理すること。正当な理由の欠席で6回以上になる場合は、ケースごとに対応する。講義ノートで出欠や受講状況を確認し、場合によっては成績にも影響するので必ず購入し講義内容を記入すること。
出欠は受験資格のみとし評価に加わえないが、相対評価と絶対評価で成績を総合的に判定する。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎			100%
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度				
出席				欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

授業中は下記の項目を厳守すること。
1. スマホ、携帯電話の電源を切る。
2. スマホでの撮影は留学生以外は禁止。
3. 無断で教室を離れない。
4. 挨拶をする。
5. 帽子はかぶらない。
6.私語は厳禁。
講義内容は基本的な知識なので、講義後図書館で各項目について自習し、更に知識を深めることが望ましい。

関連科目			
教科書	スポーツ医学概論 講義ノート	参考書	特になし
連絡先	研究室：F棟2階　　オフィスアワー：月曜日　14:20～15:50		

授業科目名	スポーツ医学A Sports Medicine A （Ｌ.）				担当教員	橋本　実
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義(L)	関連資格	アスレティックトレーナー、健康運動指導士
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

スポーツマンに多い整形外科的疾患、基礎的なスポーツ外傷の知識と予防、整形外科的なメディカルチェック、治療と運動療法を含めたリハビリテーションについて、スポーツドクターの立場から解説する。

授業の一般目標

スポーツマンに多い整形外科的疾患、基礎的なスポーツ外傷の知識について学び、スポーツの現場でと予防方法などが活用できるようになる。

授業の到達目標

■	認知的領域	スポーツマンに多い整形外科的疾患、基礎的なスポーツ外傷の知識と予防について理解する。
■	情意的領域	スポーツマンに多い整形外科的疾患、基礎的なスポーツ外傷の知識と予防方法を、活用するように努力する。
□	技能表現的領域	

授業計画(全体)

授業は毎回パワーポイントでおこない、画像を見ながら理解を深める。また、講義ノート(教科書)に書き込みながら理解を深める。
授業の終わりに、毎回小テストをおこない、知識を整理する。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の進め方などについて説明 [授業外学習]当日配布するプリントとを参照すること	⑨	[テーマ] 前腕、手指の外傷・障害 [内容] 前腕、手指外傷・障害の基本的なことについて説明する [授業外学習]授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること
②	[テーマ] 整形外科学の基礎 [内容] 整形外科学の基本的なことについて説明する [授業外学習]授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること	⑩	[テーマ] 下肢帯の外傷・障害 [内容] 上肢外傷・障害の基本的なことについて説明する [授業外学習]授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること
③	[テーマ] 顔面頚部外傷 [内容] 顔面頚部外傷の基本的なことについて説明する [授業外学習]授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること	⑪	[テーマ] 大腿の外傷・障害 [内容] 上肢外傷・障害の基本的なことについて説明する [授業外学習]授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること
④	[テーマ]　腰部外傷・障害 [内容] 腰部外傷・障害の基本的なことについて説明する [授業外学習]授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること	⑫	[テーマ] 膝の外傷・障害 [内容] 下肢外傷・障害の基本的なことについて説明する [授業外学習]授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること
⑤	[テーマ] 胸部外傷・障害 [内容] 胸部外傷・障害の基本的なことについて説明する [授業外学習]授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること	⑬	[テーマ] 下腿、足趾の外傷・障害 [内容] 下腿、足趾の外傷・障害の基本的なことについて説明する [授業外学習]授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること
⑥	[テーマ] 上肢帯の外傷・障害 [内容] 上肢帯外傷・障害の基本的なことについて説明する [授業外学習]授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること	⑭	[テーマ] 小児のスポーツ外傷・障害 [内容] 小児のスポーツ外傷・障害の基本的なことについて説明する [授業外学習]授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること
⑦	[テーマ] 上腕、肘の外傷・障害 [内容] 上腕、肘外傷・障害の基本的なことについて説明する [授業外学習]授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること	⑮	[テーマ] 後半の振り返りと試験 [内容]　講義後半の内容を、正しく理解できたかを確認し、試験をおこなう [授業外学習]講義ノートを中心に、講義内容を整理すること
⑧	[テーマ] 前半の振り返りと試験 [内容] 講義前半の内容を、正しく理解できたかを確認し、試験をおこなう [授業外学習]講義ノートを中心に、講義内容を整理すること	⑯	[テーマ] 試験 [内容] 講義内容を正しく理解できたかを試験にて判定する [授業外学習]]講義ノートを中心に、講義内容を整理すること

成績評価方法(方針)

基本的には公欠を認めないので、公欠を含め2/3以上出席(5回までの欠席に)するように、自己管理すること。正当な理由の欠席で6回以上になる場合は、ケースごとに対応する。講義ノートで出欠や受講状況を確認し、場合によっては成績にも影響するので必ず購入し講義内容を記入すること。
出欠は受験資格のみとし評価に加わえないが、相対評価と絶対評価で成績を総合的に判定する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎			100%
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度				
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

授業中は下記の項目を厳守すること。
1. スマホ、携帯電話の電源を切る。
2. スマホでの撮影は留学生以外は禁止。
3. 無断で教室を離れない。
4. 挨拶をする。
5. 帽子はかぶらない。
6.私語は厳禁。
講義内容は基本的な知識なので、講義後図書館で各項目について自習し、更に知識を深めることが望ましい。

関連科目			
教科書	スポーツ医学A 講義ノート	参考書	特になし
連絡先	研究室:F棟2階　　オフィスアワー:月曜日　14:20～15:50		

授業科目名	スポーツ医学B Sports Medicine B				担当教員	小澤輝高／柴原茂樹／橋本 実
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義	関連資格	健康運動指導士、日本体育協会公認AT
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

スポーツによって引き起こされる内科的疾患と、生活習慣病の運動療法について取り上げる。

授業の一般目標

スポーツによって引き起こされる内科的疾患とスポーツを安全に行うためのメディカルチェックを理解させる。生活習慣病の運動療法についても知識を深める。

授業の到達目標

■	認知的領域	スポーツによって引き起こされる内科的疾患と生活習慣病の運動療法について理解する。
■	情意的領域	スポーツを安全に行えるようにする。生活習慣病の患者に対して、運動療法を指導できるようにする。
□	技能表現的領域	

授業計画（全体）

毎回プリントに沿った内容で講義を進める。講義の後半には、小テストを行って、講義内容が理解できているか確認する。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 講義内容、担当者、講義の進め方について説明する。 [授業外学習]	⑨	[テーマ] 生活習慣病(2) 肥満症 [内容] 肥満症について解説した後、その運動療法についても解説する。 [授業外学習] 配布されたプリントでよく復習しておくこと。
②	[テーマ] スポーツにおける適応と疲労 [内容] スポーツを長期間行うと体が運動負荷に見合うだけ適応していくこと、スポーツを過剰に行うことで起こるオーバートレーニング症候群について解説する。 [授業外学習] 配布されたプリントでよく復習しておくこと。	⑩	[テーマ] 生活習慣病(3) 高血圧症 [内容] 高血圧症について解説した後、その運動療法についても解説する。 [授業外学習] 配布されたプリントでよく復習しておくこと。
③	[テーマ] 内科的メディカルチェックと循環器疾患 [内容] 突然死を予防するための内科的メディカルチェックとはどのようなものか、運動によって引き起こされる心臓疾患について解説する。 [授業外学習] 配布されたプリントでよく復習しておくこと。	⑪	[テーマ] 生活習慣病(4) 高脂血症 [内容] 高脂血症について解説した後、その運動療法についても解説する。 [授業外学習] 配布されたプリントでよく復習しておくこと。
④	[テーマ] スポーツによって引き起こされる、呼吸器疾患と血液疾患 [内容] 運動によって誘発される気管支喘息、過換気症候群や貧血について解説する。 [授業外学習] 配布されたプリントでよく復習しておくこと。	⑫	[テーマ] 生活習慣病(5) 糖尿病 [内容] 糖尿病について解説した後、その運動療法についても解説する。 [授業外学習] 配布されたプリントでよく復習しておくこと。
⑤	[テーマ] 運動療法(1) [内容] 運動療法とはどのようなものかを解説する。 [授業外学習] 配布されたプリントでよく復習しておくこと。	⑬	[テーマ] 生活習慣病(6) 虚血性心疾患 [内容] 虚血性心疾患(狭心症、心筋梗塞)について解説した後、その運動療法についても解説する。 [授業外学習] 配布されたプリントでよく復習しておくこと。
⑥	[テーマ] 運動療法(2) [内容] どのような疾患が運動療法の適応になるのかを解説する。 [授業外学習] 配布されたプリントでよく復習しておくこと。	⑭	[テーマ] 生活習慣病(7) 骨粗鬆症 [内容] 骨粗鬆症について解説した後、その運動療法につても解説する。 [授業外学習] 配布されたプリントでよく復習しておくこと。
⑦	[テーマ] 運動療法(3) [内容] 運動療法の実例について解説する。 [授業外学習] 配布されたプリントでよく復習しておくこと。	⑮	[テーマ] 生活習慣病(8) 関節リウマチと変形性関節症 [内容] 関節リウマチと変形性関節症について解説した後、その運動療法についても解説する。 [授業外学習] 配布されたプリントでよく復習しておくこと。
⑧	[テーマ] 生活習慣病(1) メタボリックシンドローム [内容] メタボリックシンドロームについて解説した後、その運動療法についても解説する。 [授業外学習] 配布されたプリントでよく復習しておくこと。	⑯	[テーマ] 試験 [内容] 授業の理解度・到達度を確認するために、筆記試験を行う。 [授業外学習]

成績評価方法（方針）

授業に2/3以上出席し、試験で60点以上を合格とする。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎			
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度				
出席				

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・2/3以上の出席がない学生は、評価対象外とする（欠格条件）。
・授業中の私語は周囲への迷惑となるので慎むこと。
・授業計画は、授業の進行状況により、多少前後することがある。

関連科目	スポーツ医学概論、スポーツ医学A		
教科書	特に指定しない。プリントを使用する。	参考書	健康運動指導士養成講習会テキスト
連絡先	小澤研究室:F棟2階		

4. 応用科目

授業科目名	社会福祉概論Ⅱ The General Theory of Social Welfare Ⅱ				担当教員	高橋　亮
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	講義	関連資格	社会福祉士　、高等学校教諭一種普通免許状（福祉）
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

・相談援助と介護実践の基礎となる「社会福祉」の知識と考え方について体系的に修得させる。
・社会福祉の本質を把握させ、その基本的な知識を修得させる。
・現代史の視点から社会福祉を理解し、社会福祉の理解を通じて現代史を理解する。

授業の一般目標

・将来において社会福祉を含む多様な職業に就いた場合を想定し、汎用性の高い思考方法と情報を修得する。
・社会福祉概論Ⅰが総論であるのに対し「各論」に重点を置く。　・国家試験に関する理解と、受験への意欲を高める。
・相談援助と介護実践の基礎となる「社会福祉」の知識と考え方について体系的に理解する。

授業の到達目標

■	認知的領域	社会福祉士など社会福祉の専門職に必要な[社会福祉の基礎的な概念や制度、方法]について説明できる。
■	情意的領域	主体的に社会福祉専門職を目指すようになる。
□	技能表現的領域	

授業計画（全体）

・用意した資料を用いて講義を行う。このためテキストは自習用とし講義では使用しない。（国家試験の受験者はテキストを必ず購入し、受験しない学生の購入については各人の判断に委ねる。）・授業は最初から終わりまで視聴覚教材を用いて行い、用意した資料（配布資料）＝視聴覚教材（プロジェクター）というかたちで講義を進め、授業の効率を高める。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 前期科目との関連付けと、通年での全体像（Ⅰ＋Ⅱ） [内容] 社会福祉概論（Ⅰ）との関連性を説明し、社会福祉概論の（Ⅰ）と（Ⅱ）を合わせた通年の講義計画を説明する。 [授業外学習] 前期の社会福祉概論（Ⅰ）について概括的に復習しておく。	⑨	[テーマ]社会福祉制度論（4）：民生委員・児童委員、およびボランティア [内容] 民生委員・児童委員、およびボランティアについて説明し、論じる。 [授業外学習]自らのボランティア体験や民生委員について知っていることをまとめる。
②	[テーマ] 社会福祉思想（詳論）と事例研究 [内容] 具体的な事例の検討を踏まえつつ社会福祉思想を論じる。 [授業外学習]前期の社会福祉概論Ⅰで論じた社会福祉思想について復習する。	⑩	[テーマ]　社会福祉制度論（5）：「制度－方法」論争、及び福祉専門職 [内容]「制度－方法」論争と、及び福祉専門職（社会福祉士、社会福祉主事以外の）について解説する。 [授業外学習]福祉専門職にはどのようなものがあるか、事前に調べてくること。
③	[テーマ]　自己覚知と偏見 [内容] ジョハリの窓と映像資料を使って自己覚知について説明し、偏見と先入観、思い込み等の意味について考えさせる。 [授業外学習]自分がもっている偏見や思い込みについて考えてみる。	⑪	[テーマ] 社会福祉方法論（2）：事例研究② [内容] 事例を検討し事例を通じて経験する。 [授業外学習]前期の社会福祉概論Ⅰで学んだソーシャルワークについて復習。
④	[テーマ]　社会福祉制度論（1）：社会福祉法の全体像 [内容] 主体と客体の話を軸に法制度を福祉主体とその活動、および福祉の客体（利用者）とに区分して論じる。 国、自治体及び社会福祉協議会について説明する。 [授業外学習]前期の社会福祉概論Ⅰの制度論について復習する。	⑫	[テーマ] 社会福祉制度論（6）：児童相談所と児童福祉法・児童虐待防止法 [内容] 児童に関連する法制度を論じる。 [授業外学習]前期の社会福祉概論Ⅰにおける児童福祉法の概説を復習してくること。
⑤	[テーマ] 社会福祉制度論（2）：社会福祉協議会と社会福祉主事 [内容] 社会福祉協議会と社会福祉主事について説明する。 [授業外学習]前期の社会福祉概論Ⅰの制度論について復習する。	⑬	[テーマ]　社会福祉方法論（3）：ソーシャルワークの理論とその史的展開 [内容] リッチモンド、トール以後のソーシャルワーク理論史について解説する。 [授業外学習]前期の社会福祉概論Ⅰにおけるリッチモンド、トール、バイステックについて復習する。
⑥	[テーマ]　社会福祉の戦後史 [内容] GHQの功罪とSCAPIN775について論じ、共同募金について説明する。 [授業外学習]日本の戦後史について調べておく。	⑭	[テーマ] 社会福祉方法論（4）：ニーズ論、および社会保障の概観 [内容] ニーズ論について論じ、併せて社会保障の全体像を説明する。 [授業外学習]3回目の講義で用いたジョハリの窓について復習してくること。
⑦	[テーマ] 社会福祉制度論（3）：社会福祉事業と社会福祉計画 [内容] 社会福祉法に規定された社会福祉事業と社会福祉計画について説明。 [授業外学習]前期の社会福祉概論Ⅰで学んだ「社会福祉法」について	⑮	[テーマ]　1年間の総括と、来年度へと続く国家試験対策 [内容] 社会福祉概論Ⅰと社会福祉概論Ⅱを併せて総括し、2年生以後の国家試験対策について説明する。 [授業外学習]第4回の講義で論じた社会福祉士について、復習しておくこと。
⑧	[テーマ] 社会福祉方法論（1）：事例研究① [内容] 事例を検討し事例を通じて経験する。 [授業外学習]前期の社会福祉概論Ⅰで学んだソーシャルワークについて復習する。	⑯	[テーマ] テスト [内容] 講義の理解度を確かめ単位認定を行う目的で、期末試験を行う。 [授業外学習]半期間の講義について復習し期末試験のための準備を行う。

成績評価方法（方針）

・期末に行う筆記試験と出席日数、及び発言や質問の回数に基づき評価する。（60点以上の者に単位を認定する。）
・各々の評価割合は、次の通り。：筆記試験の成績（55%）、出席日数（40%）、発言や質問の回数（5%）

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	○			55%
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技		◎		5%
授業態度				
出席	◎			40%

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・大学設置基準において90分の授業に対し、予習・復習を90分行うことが義務付けられている。この大学評価基準に沿って予習・復習を行うこと。
・常に、日常の生活や身近な話題あるいは時事問題と関連づけながら学ぶこと。学問は、観念的な知識や現実離れした理想ではなく、絶えず現実の中に、そして現実と共にある。このような「学問的実践」によって、卒業後の人生や職業の中で、大学において学んだことを生かせるようになる。
・20分以上の遅刻は、欠席とする。
・2／3以上の出席がない学生は、単位を修得することができない。
・「授業計画」における毎回のテーマや内容は講義の進展に応じ多少前後。

関連科目	社会福祉概論Ⅰ、社会保障論、公的扶助論、地域福祉論、老人福祉論、社会福祉援助技術論Ⅰ、社会福祉援助技術論Ⅱ、障害者福祉論、児童福祉論、福祉行財政と福祉計画、更生保護制度論、就労支援論、保健医療論、社会福祉施設経営論		
教科書	使用しない。	参考書	『新・社会福祉士養成講座４』中央法規出版
連絡先	高橋研究室：E棟2階		

授業科目名	精神保健学 Mental Health				担当教員	山崎英樹・堅山貴志・吾妻淳一
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義	関連資格	養護教諭免許
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

心の健康と病理について学ぶ。はじめに精神分析理論やライフサイクルについて、ついで代表的な精神疾患について、そして高齢社会の大きな課題である認知症について学習する。

授業の一般目標

授業で学んだことを、自らのメンタルヘルスに活かしていくことを目標とする。家庭や職場において活用できる、いわば心の知恵を身につける。

授業の到達目標

■	認知的領域	ライフサイクルにおける心の危機と、代表的な精神疾患について理解している。
■	情意的領域	自分自身も含めた心のケアについて考察できる。
□	技能表現的領域	

授業計画(全体)

下記のテーマにそってパワーポイントやDVDなどを使用しながら講義する。適宜、スライド資料や参考文献を配布する。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 心の中の世界① [内容] フロイトの古典的精神分析理論による神経症理論や精神性的発達論等。無意識という人間活動の基盤を成している心の構造を学ぶ。 [授業外学習]	⑨	[テーマ] 自閉症の理解 [内容]疫学 診断 症状 家庭、教育機関、就労現場での対応とサポートについて解説する [授業外学習]
②	[テーマ] 心の中の世界② [内容] 精神分析理論の発展としてのクラインやビオンの対象関係論。投影同一化という心の働きを鍵概念として心の世界の理解を進める。 [授業外学習]	⑩	[テーマ] 認知症のBPSDについて [内容] BPSDの成り立ち、物とられ妄想、BPSDに対するケアおよび薬物療法とその注意点について解説する [授業外学習]
③	[テーマ] ライフサイクル [内容] エリクソンのライフサイクル論の紹介。乳幼児発達論、青年期等の発達課題、中年期危機、女性特有の危機、老年期の理解等を学ぶ。 [授業外学習]	⑪	[テーマ] 認知症の医学的理解 [内容] 脳の損傷によって現れる高次脳機能障害を、本人の体験世界とともに解説する。 [授業外学習]
④	[テーマ] ストレスとは何か [内容] セリエなどによるストレス理論の紹介。強いストレスや虐待などによる引き起こされる外傷後ストレス障害と関連の心的障害の紹介。 [授業外学習]	⑫	[テーマ] 認知症の心理的理解 [内容] 老いて脳を患うことの心理状況を、「孤立」と「支配」をキーワードに解説する。 [授業外学習]
⑤	[テーマ] 対象喪失について [内容] 人生のなかで遭遇する大切なものの喪失体験、その受容と心の成熟という心理過程について解説する。 [授業外学習]	⑬	[テーマ] 認知症のスピリチュアルケア [内容] 認知症高齢者の介護や看取りを通して学ぶナラティブな関わりについて解説する。 [授業外学習]
⑥	[テーマ]統合失調症の理解 [内容] 疫学 成因 症状 経過 治療 保健福祉サポートについて解説する [授業外学習]	⑭	[テーマ] スピリチュアリティと良心 [内容] フランクルやナイチンゲールのことばを通して「人間の無垢な良心」について考察する。 [授業外学習]
⑦	[テーマ] うつ病の理解 [内容]疫学 成因 症状 経過 治療 各病期における周囲の接し方について解説する [授業外学習]	⑮	[テーマ] 震災とスピリチュアリティ [内容]3・11を振り返りながら、ケアの現場で試されたスピリチュアリティについて考察する。 [授業外学習]
⑧	[テーマ] 躁うつ病の理解 [内容] 疫学 成因 症状 経過 治療 について解説する [授業外学習]	⑯	[テーマ] 専門家支配について [内容] 映画「カッコーの巣の上で」を鑑賞し、医療に潜む専門家支配という現象を具体的に理解する。 [授業外学習]

成績評価方法(方針)

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				
授業内レポート	◎	◎		30%
授業外レポート	◎	◎		70%
演習・実技				
授業態度	◎	◎		減点あり
出席	◎	◎		欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・原則として聴講とレポート提出を単位取得の要件とする。
・授業態度が悪い者は、成績評価から減点する。

関連科目			
教科書		参考書	
連絡先	教育企画室		

授業科目名	健康相談 Health Consultation(L.)				担当教員	小松正、真野、江口
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

学校現場での健康相談活動等に必要な理論と実際について、授業を通じて主体的に学ばせる。

授業の一般目標

養護教諭や栄養教諭などが学校現場で健康相談活動等を行う際の、基礎知識習得、スキルアップをめざす。

授業の到達目標

■	認知的領域	健康相談に関する基礎知識・スキルを理解し習得する。
■	情意的領域	理論を実際に活かすことができるような姿勢を演習を通じて培う。
□	技能表現的領域	

授業計画(全体)

資料、パワーポイント等を使用した講義、簡単な演習を行う。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ]オリエンテーション [内容] 科目「健康相談」のねらいと授業運営について [授業外学習]図書館などで関連書籍を手にとってみよう	⑨	[テーマ]こどもの精神発達理論 [内容]様々な精神発達理論を振り返り学習させ、健康相談における対象理解の基礎知識として役立てさせる。 [授業外学習]それぞれの発達段階の課題を考えよう
②	[テーマ]保健室と養護教諭 1 [内容]思春期問題とは [授業外学習]レポート課題について準備しよう	⑩	[テーマ]こどもの成長と成長曲線および成長障害 [内容]こどもの成長に関する基礎知識として成長曲線・骨年齢・スキャモン発育曲線について学び、成長障害を理解させる。 [授業外学習]関連する教採の過去問を解きながら既習科目を復習
③	[テーマ]保健室と養護教諭 2 [内容] 保健室実践とは [授業外学習]復習して知識を自分のものにしよう	⑪	[テーマ] 精神と言語の発達とその障害 [内容] 知能検査と精神遅滞について学習させる。 [授業外学習]関連する教採の過去問を解きながら既習科目を復習
④	[テーマ] 性・母体保護に関する統計・知識① [内容] 性に関していろいろな考え方があることを知ろう [授業外学習]自分の意見を整理して、意識・関心をたかめよう	⑫	[テーマ]健康相談活動の実際1(こどもの心身症) [内容] 子どもに多い心身症を理解させるとともにその支援について考えさせる。 [授業外学習]関連する教採の過去問を解きながら既習科目を復習
⑤	[テーマ]性・母体保護に関する統計・知識② [内容]妊娠・出産にかかわる用語・法律を学ぼう [授業外学習]レポート課題について復習しよう	⑬	[テーマ] 健康相談活動の実際2(摂食障害) [内容] 摂食障害の概要を理解させ、事例を基にその対応と支援について考えさせる。 [授業外学習]関連する教採の過去問を解きながら既習科目を復習
⑥	[テーマ] 食事の基本的な考え方 [内容]食生活指針を学習する。国民健康栄養調査結果等より、食生活の問題点を把握し改善案をまとめる。 [授業外学習]小テストを復習すること。	⑭	[テーマ] 健康相談活動の実際3(児童虐待・不登校) [内容]児童虐待と不登校についての理解を深めさせるとともに、現在の課題を説明しその対応を考えさせる。 [授業外学習]関連する教採の過去問を解きながら既習科目を復習
⑦	[テーマ]ライフステージ別「食事の基本」と肥満 [内容] 特に学童期・思春期の食事の基本を学習する。肥満の定義を知り、体脂肪率の測定方法およびBMIの概念について理解する。 [授業外学習]小テストを復習すること。	⑮	[テーマ]健康相談活動の実際4(児童生徒の自殺) [内容] 自殺についての世界の中の日本の現状を理解に、こどもの自殺についての近年の傾向を知る。 [授業外学習]関連する教採の過去問を解きながら既習科目を復習
⑧	[テーマ] 健康相談と保健室の役割 [内容] 健康相談の法的変遷について復習させる。養護教諭(保健室)の役割を復習させる。 [授業外学習]健康相談における教員の役割を事例とともに考えよう。	⑯	[テーマ] まとめ [内容] 試験 [授業外学習]

成績評価方法(方針)

試験、レポート等による各教員の成績を総合して評価する。授業で考え方を鍛錬することが重要なので出席・受講態度も評価で考慮する場合がある。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎			約30%
授業内レポート	◎	◎		約70%
授業外レポート				
演習・実技			○	
授業態度				
出席				

履修上の注意(受講学生に望むこと)

授業態度が悪い学生については、成績評価で減点する。

関連科目	学校保健学(健康福祉・運動栄養)、養護概論(健康福祉)など		
教科書	特になし	参考書	
連絡先	小松正子、真野、江口(F棟2階)		

授業科目名	メンタルトレーニング Mental Training(L)				担当教員	菊地 直子
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

本講義は、スポーツ心理学という学問的背景から、さまざまなメンタルトレーニング技法を紹介する。ここでは、はじめにメンタルトレーニングにおける心理的諸側面を分類し、代表的なメンタルトレーニング技法を体験することにより学びを促進する。

授業の一般目標

最終的には、メンタルトレーニングの各スキルを体験し、メンタルトレーニングの効果や効果を挙げるための学問的知識ならびに、人間理解の方法について理解している。

授業の到達目標

■	認知的領域	各メンタルトレーニング技法について理解している。
■	情意的領域	対人援助場面で、対象者の心理的世界を適切に理解できるようになる。
□	技能表現的領域	

授業計画(全体)

本講義は、メンタルトレーニング理論と実際を中心に講義する。また、学びを深めるために「体験」を通した学習を多く取り入れる。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバスの説明、成績評価の方法 [授業外学習]シラバスを熟読すること	⑨	[テーマ] 技法の実際① [内容]目標設定技法について理論と実際について体験を通して理解させる。 [授業外学習]本講義で得た知識と自身の体験で得た学びを文章にする。
②	[テーマ] メンタルトレーニングとは [内容] メンタルトレーニングの定義と近年の動向について概説する。 [授業外学習]これまでに、遭遇したメンタル的な問題について発表できる。	⑩	[テーマ]技法の実際② [内容] リラクゼーション技法 [授業外学習]本講義で得た知識と自身の体験で得た学びを文章にする。
③	[テーマ] 自己分析 [内容] メンタルトレーニングの効果測定で多用される心理的競技能力テストを体験し、自己理解を深めるとともに査定法についても解説する。 [授業外学習]本講義で得た知識と自身の体験で得た学びを文章にする。	⑪	[テーマ] 技法の実際③ [内容] イメージ技法 [授業外学習]本講義で得た知識と自身の体験で得た学びを文章にする。
④	[テーマ] 一般的なメンタルトレーニングプログラム [内容] 上記についての一般的な流れを解説し、対象の理解についての注意事項についても解説する [授業外学習] 配布資料等を熟読する。	⑫	[テーマ] 技法の実際④ [内容] 情動のコントロール [授業外学習]本講義で得た知識と自身の体験で得た学びを文章にする。
⑤	[テーマ] アセスメント [内容] 心理療法の介入を行うにあたってのアセスメントと見立ての重要性とについて解説する。 [授業外学習]深層心理学的心理療法の特徴についてまとめておく。	⑬	[テーマ] 技法の実際⑤ [内容] ピークパフォーマンスの想起 [授業外学習]本講義で得た知識と自身の体験で得た学びを文章にする。
⑥	[テーマ] 対象理解の方法①・・心理査定 [内容] 質問紙調査法による理解とその評価についての体験と解説をする。 [授業外学習]配布資料等を熟読する。	⑭	[テーマ] スポーツカウンセリング [内容] 人格の変容とぱフォーマンスの関係、また援助技術について概説する。 [授業外学習]各自の課題を設定し、その援助についてレポートを作成し、提出す
⑦	[テーマ] 対象理解の方法② [内容] 言語によるコミュニケーションによる理解についての体験と解説をする。 [授業外学習]本講義で得た知識と自身の体験で得た学びを文章にする。	⑮	[テーマ] まとめ [内容] これまで学んだことについて、学生の質問や疑問を検討する。 [授業外学習]これまで学びについて、質問や疑問をまとめておく。
⑧	[テーマ] 対象理解の方法③ [内容] ノンバーバルなコミュニケーションによる理解についての体験と解説をする。 [授業外学習]本講義で得た知識と自身の体験で得た学びを文章にする。	⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]

成績評価方法(方針)

定期試験は実施しないが、二つの課題についてレポートを課し、評価する(評価割合70%)。また、授業内レポート(評価割合20%)、演習や実習についても評価対象とする(評価割合10%)。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 \ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				
授業内レポート	◎			20%
授業外レポート	◎	◎		70%
演習・実技		◎		10%
授業態度				
出席				

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・20分以上の遅刻は欠席とみなす。
・授業中は携帯電話をかばんの中にしまうこと。
・このシラバスを参考に、しっかりと予習・復習を行うこと。
・授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。

関連科目			
教科書	特に指定しない	参考書	特に指定しない
連絡先	菊地研究室 第4体育館1階 9号室		

授業科目名	教育の基礎理論 Fundamental Theory of Education (L.)				担当教員	山谷　幸司
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格	教員免許状（全免許）
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

教育とは人間にとってどのような営みであるのか。本講義では、⑴教育という言葉、⑵教育の必要性、⑶能力・特性の形成と教育、⑷教育のスタイルの歴史展開、⑸教育観の諸類型の5テーマのもとに、教育の意義や役割、そのスタイルの歴史的展開等について概説する。

授業の一般目標

「教育とは何か」について、⑴教育という言葉、⑵教育の必要性、⑶能力・特性の形成と教育、⑷教育のスタイルの歴史展開、⑸教育観の諸類型の五つの観点から理解する。また、以上の理解を土台として、教育に関して客観的な根拠にもとづき、できるだけ本質的に考えることができる。

授業の到達目標

■	認知的領域	「教育とは何か」について、本授業で取り上げたテーマにそくして理解できる。また、教育に関して自分の意見を論理的に述べることができる。
■	情意的領域	「教育とは何か」という問題について関心をもち、主体的に探究することができる。
■	技能表現的領域	「教育とは何か」という問題について、他者に説明することができる。

授業計画（全体）

⑴教育という言葉、⑵教育の必要性、⑶能力・特性の形成と教育、⑷教育のスタイルの歴史展開、⑸教育観の諸類型の5テーマから、「教育とは何か」という問題について概説する。講義は、授業時に配布するプリントにもとづいて進めるが、プリントには空欄を多く設けているので各自が講義を聞き、板書を見ながら完成させるよう努めてほしい。なお、授業終了時に「感想カード」を書いてもらう。授業内容に対する意見や疑問点、あるいは教師への要望を自由に書いてもらいたい。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ]「教育の基礎理論」で何を学ぶか [内容] 担当教員の紹介、教育の基礎理論で学ぶ内容、授業の進め方、成績評価の方法 [授業外学習]シラバスを読んでおくこと	⑨	[テーマ] 能力・特性の個人差は教育によって生ずるのか⑵ [内容] 能力・特性の形成と環境 [授業外学習]授業の復習
②	[テーマ]教育という言葉⑴ [内容]「教」と「育」の字源 [授業外学習]	⑩	[テーマ] 能力・特性の個人差は教育によって生ずるのか⑶ [内容] 遺伝と環境の相互作用 [授業外学習]テーマ3全体の復習
③	[テーマ] 教育という言葉⑵ [内容]「教育」という言葉の日用化の謎 [授業外学習]テーマⅠ全体の復習	⑪	[テーマ] 教育のスタイルとその歴史的展開⑴ [内容] 人間形成の多様性と無意図的教育 [授業外学習]授業の復習
④	[テーマ] 教育は人間に必要なのか⑴ [内容] 動物としての人間の特殊性と教育①－哺乳類のなかの人間－ [授業外学習]授業の復習	⑫	[テーマ] 教育のスタイルとその歴史的展開⑵ [内容] 意図的教育と学校教育の特質 [授業外学習]テーマ4全体の復習
⑤	[テーマ] 教育は人間に必要なのか⑵ [内容] 動物としての人間の特殊性と教育②－学ぶ動物としての人間－ [授業外学習]授業の復習	⑬	[テーマ] 教育観(思想)の諸類型⑴ [内容] 大工型モデルの教育観 [授業外学習]授業の復習
⑥	[テーマ] 教育は人間に必要なのか⑶ [内容] 社会的隔離児の記録が示すこと①－野生児の事例－ [授業外学習]授業の復習	⑭	[テーマ] 教育観(思想)の諸類型⑵ [内容] 農民型モデルの教育観 [授業外学習]授業の復習
⑦	[テーマ] 教育は人間に必要なのか⑷ [内容] 社会的隔離児の記録が示すこと②－環境剥奪児の事例－ [授業外学習]テーマ2全体の復習	⑮	[テーマ] 教育観(思想)の諸類型⑶ [内容] 経験主義の教育観 [授業外学習]テーマ5全体の復習
⑧	[テーマ] 能力・特性の個人差は教育によって生ずるのか⑴ [内容] 能力・特性の形成と遺伝 [授業外学習]授業の復習	⑯	[テーマ] 期末試験 [内容] 授業全体を振り返り、理解を深める [授業外学習]試験内容を振り返り、理解が不十分な箇所を復習する

成績評価方法（方針）

期末試験の結果に、授業内の課題提出および受講態度を加味して評価する。なお、教師の発問に積極的に答えるなど意欲的に受講した場合は、期末試験に加点する。欠席は、評価の欠格条件として扱う。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎		○	90%
授業内レポート	△	△	△	5%
授業外レポート				実施せず
演習・実技				実施せず
授業態度		△		5%
出席				欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

教師になるということは、学ぶ立場から、それをサポートする立場に変わることを意味する。しかし、学ぶことができない者が、学びをサポートすることなど到底できない。つまり、謙虚にかつ意欲的に学ぶことができるということが、教師になるための最低条件となる。このことを十分に自覚して、授業にのぞんでほしい。

関連科目	教職論A(1年)、教職論B(1年)、教育の制度(2年)		
教科書	授業時に配布するプリントを使用する。	参考書	授業時に紹介する。
連絡先	研究室 A棟3階308		

授業科目名	教育の心理 Educational Psychology				担当教員	荒井龍弥
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格	中学・高校教諭（保健体育・福祉）・栄養教諭・養護教諭・社会教育主事任用資格
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

学習援助をより効果的にするためには、教育の場にあるさまざまなものごと（学ぶ者、援助する者、教える行為など）を要因群として捉える分析的な観点が重要である。これらのうち、学ぶ側の要因として学習、発達、人格、知能等の諸概念について概説するとともに、いわゆる障害を抱えた人に対する援助例や考え方を紹介する。また、学習結果を捉える枠組みとしての教育評価についてもとりあげる。

授業の一般目標

学習・発達・人格・知能・評価等、教育心理学で取りあげられる諸概念に関し、一般に信じられている常識的言説を再認できるようになるとともに、それらの言説に対して一定の根拠をもって自分なりの見解を述べられるようになる。

授業の到達目標

■	認知的領域	学習・発達・人格・知能・評価などをめぐる一般の言説を再認できるとともに、それに対する自分なりの見解を述べることができる。
■	情意的領域	学習を援助する立場からの考え方や論理を理解するとともに、自らもその視座から諸事象を検討したり考えたりすることができる。
□	技能表現的領域	

授業計画（全体）

教育心理学の学問領域を学習、発達、人格、評価の4領域に大きく分け、各領域の知見に関する講義を行うとともに、それに対する考え方を築くための時間も設ける。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 教育心理学とはどんな学問かを説明し、その意義や必要性を考える。 [授業外学習]教育心理学の必要性について自分なりに考えてみること。	⑨	[テーマ] 学習援助における個人差の問題Ⅱ・人格Ⅰ [内容] 人格検査の例としてY－G性格検査をとりあげることを通じ、質問紙法検査の特徴について考える。 [授業外学習] 自らの人格観を捉えなおすこと。
②	[テーマ]学習過程の考え方Ⅰ 学習の定義 [内容] 教育心理学における学習の定義を紹介するとともに、自身の例に照らしてその妥当性を検討する。 [授業外学習]「学習」の定義と一般的な「学習」観との違いを検討すること。	⑩	[テーマ] 学習援助における個人差の問題Ⅲ・人格Ⅱ [内容] 投影法に属する諸検査を紹介する。なかでもP-Fスタディの概要を試行してみる。 [授業外学習] 他の投影法や作業検査法について調べてまとめること
③	[テーマ] 学習過程の考え方Ⅱ 学習のしくみとその理論 [内容] 自分自身が採用してきた学習方法を捉えなおし、古典的な2種の学習理論に照らしてその得失を検討する。 [授業外学習]任意の題材で2説双方から学習援助の方法を検討すること。	⑪	[テーマ] 学習援助における個人差の問題Ⅳ・動機や欲求 [内容] 自らが持ったり経験したりする動機や欲求について、各種理論を基に把握する。 [授業外学習] 自らの学習に対する動機づけの内容を反省すること
④	[テーマ] 学習過程の考え方Ⅲ 現代に至る諸理論と学習 [内容] 自身の学習方法を現代の諸理論に照らし、得失を検討する。 [授業外学習]任意の題材で生産的な学習と再生的な学習を検討すること。	⑫	[テーマ] 発達観の吟味Ⅰ 発達研究の変遷 [内容] 各種発達段階説を紹介しながら、自らの発達観を改めて振り返る。 [授業外学習]発達ならびに発達段階について自分の考えをまとめること。
⑤	[テーマ] 学習支援の方法Ⅰ [内容] プログラム学習と発見学習を紹介するとともに、自ら選択した題材で両者による支援計画を試作してみる。 [授業外学習]作成した計画の一部や全部について効果の見通しを持つこと。	⑬	[テーマ] 発達観の吟味Ⅱ ピアジェとヴィゴツキーの理論 [内容] 論理的思考ならびに言語発達に関する研究成果について概説し、学習と発達の関係を論じる。 [授業外学習]学習と発達の関係について自分なりに考えをまとめること。
⑥	[テーマ] 学習支援の方法Ⅱ [内容] 教科書の使用方法やその限界を考えることにより、有効な学習支援の方法について検討する。 [授業外学習] 教科書の他単元も同様に検討してみること。	⑭	[テーマ] 発達観の吟味Ⅲ 障害のある子どもの発達 [内容] 障害を抱えた子どもの発達について事例をもとに考え、自らの発達観、障害観を改めて振り返ってみる。 [授業外学習]障害の種類や発達上の特徴についてまとめておくこと。
⑦	[テーマ] 記憶のしくみとその効率 [内容] 記憶に関する無意味綴りを用いた実験を経験するとともに、結果から得られた理論の限界と日常的知識の記憶向上策を考える。 [授業外学習] 任意の題材で記憶向上策を検討すること	⑮	[テーマ] 教育評価 [内容] 教育評価の流れについて説明するとともに、本来の教育評価の目的と意義について再考する。 [授業外学習]任意の題材で教育評価のスケジュールを考えてみること。
⑧	[テーマ] 学習援助における個人差の問題Ⅰ 知能Ⅰ [内容] 知能の定義ならびに知能検査の実際について紹介するとともに、自らの知能観を検討するため、その成立経緯や社会への影響を考える。 [授業外学習]知能検査の特徴について自分なりにまとめてみること。	⑯	[テーマ] テスト [内容] これまでの学習内容について互いの評価を目的としたテストを行う。 [授業外学習]

成績評価方法（方針）

相互の評価のために、小テスト・授業内レポートを毎回課す。これらの結果と、出席状況、テストの結果を材料として成績評定を行う。なお、出席状況は単位認定のための必要条件とする(欠席が多い場合には評価対象としない)。なお、得点状況によってはテスト後にレポートを追加して課す場合がある。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎			40%
授業内レポート	◎	○		50%
授業外レポート	○	◎		10%
演習・実技				対象としない
授業態度				加減点要素
出席				欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

マークシート等も利用するので、シャープペンシルないし鉛筆を用意のこと。他の講義同様、本講で扱う知見も、さまざまな対象・場面に適用可能なものである。自分なりの例を探して当てはめることでその妥当性を判断する作業をしてほしい。こういった作業が内容理解の定着につながり、ひいては教員採用試験などの対策にもつながる。

関連科目			
教科書		参考書	本郷・八木編 シードブック教育心理学 建帛社 宇野編 授業に学び授業を作る教育心理学第二版 中央法規
連絡先	tt-arai@sendai-u.ac.jp		

授業科目名	教育の制度 System of Education (L.)				担当教員	金井里弥
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格	教員免許状(全)
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

近年の教育問題と教育制度の歴史的変遷を踏まえながら、教育制度や行政のあり方について考える。

授業の一般目標

①学校教育制度の成り立ちと、現状を理解する。
②実際の教育問題との関連において、教育制度の観点から望ましい教育のあり方を考える。

授業の到達目標

■	認知的領域	日本における学校教育制度の成り立ちと現状を説明できる。
■	情意的領域	現在の教育問題について、教育制度の観点から自分の意見を述べることができる。
□	技能表現的領域	

授業計画(全体)

教育問題を捉える上で求められる教育制度の知識を自覚したうえで、教育制度の内容に入る。後半では、海外の教育制度との比較から、日本の教育制度のあり方を捉え直す。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 講義の目標と進め方、シラバスの内容、成績評価の方法を知る。 [授業外学習] シラバスを読んでおくこと。	⑨	[テーマ] 日本の教育制度史 [内容] 現在の教育制度がいかにして成立してきたのか、近代以降を中心に理解する。 [授業外学習]講義内容を復習。
②	[テーマ] 教育法規の基礎知識と憲法 [内容] 教育制度の基盤となる法規の種類と体系を踏まえた上で、憲法上の教育に関する条文について理解する。 [授業外学習]教育法規について復習する。	⑩	[テーマ] 教員制度 [内容] 教員の身分や服務、処分等の教員に関する制度を理解する。 [授業外学習]関連法規を確認する。
③	[テーマ] 教育基本法 [内容] 教育基本法の史的展開を踏まえた上で、その内容と現在の学校教育との関連性を理解する。 [授業外学習]教育基本法について復習する。	⑪	[テーマ] 日本における教員養成制度と教師教育制度 [内容] 日本における教員養成制度の展開を知るとともに、教師教育の仕組みを理解する。 [授業外学習]講義内容を復習。
④	[テーマ] 学校の種類と義務教育 [内容] 学校の種類とそれらの種類に応じた制度的特徴、義務教育のあり方について理解する。 [授業外学習]教育委員会について調べる。	⑫	[テーマ] 諸外国における教員養成制度と教師教育制度 [内容] 諸外国における教員養成制度および教師教育制度を知り、日本における学力政策を相対的な視点で捉えなおす。 [授業外学習]講義内容を復習する。
⑤	[テーマ] 教育行政の理解 [内容] 中央および地方における教育行政の仕組みと、その制度的展開を理解する。 [授業外学習]教育委員会について調べる。	⑬	[テーマ] 学力問題と学力政策 [内容] ゆとり教育以来叫ばれている学力低下論争と国際学力競争の問題を紐解きながら、日本の学力政策の展開と学力の在り方を考える。 [授業外学習]ゆとり教育政策や近年の学力政策について調べる。
⑥	[テーマ] 学校の設置と管理 [内容] 学校の設置主体、学校法人、学校の設置義務および基準、管理に関する法令を理解する。 [授業外学習]関連法規を確認する。	⑭	[テーマ] いじめ問題といじめ防止対策推進法 [内容] いじめ問題の動向と課題を踏まえながら、いじめ防止対策推進法をはじめとする、いじめ問題への制度的対応を理解する [授業外学習]いじめ問題について調べる。
⑦	[テーマ] 教育課程の編成と近年の改革動向 [内容] 教育課程の編成についての概要を踏まえた上で近年の改革動向について理解する。 [授業外学習]関連法規を確認する。	⑮	[テーマ] まとめ [内容] 本講義の要点を確認し、全体の総括を行う。 [授業外学習]本講義の要点の確認とその復習を行う。
⑧	[テーマ] 教科書制度 [内容] 教科書の使用、検定、採択について理解する。 [授業外学習]関連法規を確認する。	⑯	[テーマ] 期末試験 [内容] 本講義での理解度、学習到達度を確認する。 [授業外学習]

成績評価方法(方針)

(1) 受講態度(25%)、(2) 授業内レポート(15%)、(3) 期末試験(60%)。
なお、受講態度が著しく不良である者、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。
私語、睡眠を含む不適切な受講態度は減点対象とし、それらの程度が著しい場合は授業放棄として欠席扱いとする。

成績評価方法(詳細)

到達目標 / 成績評価方法	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎			60%
授業内レポート	◎	○		15%
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度		◎		25%
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

5回以上の欠席で期末試験の受験不可とする。教員免許状取得に必須の科目であることから、教職を志す者として、学生相互の学習権を尊重し合う受講態度を求める。遅刻や講義中の私語、携帯いじり、睡眠等、学習環境を損なう行為については厳格に対処する。

関連科目	教職論、教育課程論、道徳教育の研究と理論		
教科書	『必携教職六法』	参考書	授業時に紹介する。
連絡先	研究室 A棟3階 304		

授業科目名	教育課程論 Theory of Curriculum (L.)				担当教員	山谷 幸司
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義(L)	関連資格	教員免許状(全免許)
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

学校での教育活動の全体計画である教育課程について、その意義、法令上のきまり、編成の実際等について概説する。とくに学校での教育課程編成の基準となる「学習指導要領」に関しては、その意義や変遷とともに、平成20年と21年に改訂された新「学習指導要領」の方針や内容を詳述する。

授業の一般目標

(1)教育課程の意義、(2)教育課程に関するきまり、(3)教育課程編成の実際、(4)教育課程の実施と評価について、概要を理解する。そして、このことを通して、学校教師として、教育課程を実際に編成するための基礎的な力量を養う。

授業の到達目標

■	認知的領域	教育課程に関して、その意義、きまり、編成の実際、実施と評価について理解できる。
■	情意的領域	学校での教育課程のあり方について関心をもち、自分の意見を論理的に述べることができる。
■	技能表現的領域	教育課程に関して、その意義、きまり、編成の実際、実施と評価について他者に説明できる。

授業計画(全体)

教育課程について、(1)教育課程の意義、(2)教育課程に関するきまり、(3)教育課程編成の実際、(4)教育課程の実施と評価の4テーマから概説する。講義は、授業時に配布するプリントにもとづいて進めるが、プリントには空欄を多く設けているので講義を聞き、テキストを参照しながら完成させるよう努めてほしい。なお、授業終了時に各回のテーマに関する小テストを行う。どの程度まで講義内容が理解できたかを確認してもらいたい(小テストは評価に反映させない)。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 学校教育の不思議 [内容] 担当教員の紹介、教育課程論で学ぶ内容、授業の進め方、成績評価の方法 [授業外学習]学習]シラバスを読んでおくこと	⑨	[テーマ] 学習指導要領(2)－教育課程に関するきまり⑦ [内容] 現行学習指導要領の特質 [授業外学習]授業の復習
②	[テーマ]教育課程とは何か [内容] 学校教育の性質と教育課程の意義 [授業外学習]授業の復習	⑩	[テーマ] 学習指導要領(3)－教育課程に関するきまり⑧ [内容] 新学習指導要領の特質 [授業外学習]授業の復習
③	[テーマ] 教育の目的・目標(1)－教育課程に関するきまり① [内容] 教育の目的・目標に関するきまりの体系と教育全体の目的・目標 [授業外学習]授業の復習	⑪	[テーマ] 学習指導要領(4)－教育課程に関するきまり⑨ [内容] 総合的な学習の時間の意義の内容 [授業外学習]授業の復習
④	[テーマ] 教育の目的・目標(2)－教育課程に関するきまり② [内容] 義務教育(小学校・中学校)の目的と教育目標 [授業外学習]授業の復習	⑫	[テーマ] 教育課程編成の実際(1) [内容] 教育課程編成の主体、基本方針、留意事項 [授業外学習]授業の復習
⑤	[テーマ] 教育の目的・目標(3)－教育課程に関するきまり③ [内容] 高校の目的と教育目標 [授業外学習]授業の復習	⑬	[テーマ] 教育課程編成の実際(2) [内容] 教育課程編成の手順 [授業外学習]授業の復習
⑥	[テーマ] 教育内容と授業時数等(1)－教育課程に関するきまり④ [内容] 教育内容・授業時数等に関するきまりの体系と義務教育(小学校・中学校)における教育内容・授業時数等 [授業外学習]授業の復習	⑭	[テーマ] 教育課程の実施と評価(1) [内容] 指導計画と学習指導案 [授業外学習]授業の復習
⑦	[テーマ] 教育内容と授業時数等(2)－教育課程に関するきまり⑤ [内容] 高校における教育内容・授業時数 [授業外学習]授業の復習	⑮	[テーマ] 教育課程の実施と評価(2) [内容] 教育課程の点検と評価 [授業外学習]授業の復習
⑧	[テーマ] 学習指導要領(1)－教育課程に関するきまり⑥ [内容] 学習指導要領の意義と変遷 [授業外学習]授業の復習	⑯	[テーマ] 期末試験 [内容] 授業全体を振り返り、理解を深める [授業外学習]試験内容を振り返り、理解が不十分な箇所を復習する

成績評価方法(方針)

期末試験の結果に、受講態度を加味して評価する。なお、教師の発問に積極的に答えるなど意欲的に受講した場合は、期末試験に加点する。授業終了時に実施する小テストは評価に反映させない、また、欠席は評価の欠格条件として扱う。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 \ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎		△	95%
授業内レポート				反映させない
授業外レポート				実施せず
演習・実技				実施せず
授業態度		△		5%
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

教育課程というと、細かなきまりが沢山あって難しいと考えるかもしれない。確かに教育課程にはきまりや約束事が多くあるが、順序良く体系的に学んでいけば、それらを理解することはそれほど難しいことではない。積み木のように、ひとつひとつの事項をていねいに積み上げながら授業を進めていくので、一回たりとも授業をおろそかにせず、各回の内容を着実に学んでほしい。

関連科目	教育の基礎理論(1年)、教育の制度(1年)、道徳教育論(2年)、特別活動論(2年)、保健体育教育論Ⅰ(2年)		
教科書	学校教育小六法、中学校・高等学校学習指導要領	参考書	授業時に紹介する。
連絡先	研究室 A棟3階308		

授業科目名	保健体育科教育論Ⅰ Pedagogy of Physical Education Ⅰ(L.)				担当教員	井上雅勝
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格	教員免許状(中高保健体育)
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

中学校・高等学校の「体育」の学習指導についての基本的な考え方とその実際を具体的に説明する。

授業の一般目標

中学校・高等学校の「体育」の学習指導についての基本的な考え方とその実際を具体的に理解し、その認識を深める。

授業の到達目標

■	認知的領域	中学校・高等学校の「体育」の学習指導についての基本的な考え方とその実際を解釈し、説明することができる。
■	情意的領域	中学校・高等学校の「体育」の学習指導についての基本的な考え方を、積極的に検討することができる。
■	技能表現的領域	中学校・高等学校の「体育」の学習指導についての基本的な考え方を、「指導案」などに表すことができる。

講義形式で授業を進める。必要事項などを書き込めるプリントを毎回配布し、プリントの内容、パワポイントに沿って授業を展開する。講義期間中に、数回レポートを作成し、そのできばえを評価する。

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、講義のねらいと進め方、成績評価の方法と諸注意 [授業外学習]	⑨	[テーマ] 体育科の指導計画(学習指導計画②) [内容] 体育科の指導計画について概説する(その2) [授業外学習]前回までの講義内容を整理しておく
②	[テーマ] 体育の基本的性格と体育科教育に関わる制度的条件 [内容] 体育の基本的性格と体育科教育に関わる制度的条件について概説する [授業外学習]	⑩	[テーマ]体育科の指導計画を作成する① [内容] 体育科の指導計画を作成する(レポート作成 ①指導計画) [授業外学習]レポート作成に必要な資料などを準備しておく
③	[テーマ] 体育科教育の目的(現行学習指導要領の趣旨) [内容] 体育科教育の目的を現行学習指導要領の趣旨から概説する [授業外学習]前回までの講義内容を整理しておく	⑪	[テーマ]体育科の指導計画を作成する② [内容] 体育科の指導計画を作成する(レポート作成 ②指導計画) [授業外学習]レポート作成に必要な資料などを準備しておく
④	[テーマ]体育科教育の目標及び内容(中学校の学習指導要領) [内容] 体育科教育の目標及び内容を中学校の学習指導要領を中心に概説する [授業外学習]前回までの講義内容を整理しておく	⑫	[テーマ] 体育科の学習指導(よい体育授業の条件) [内容] よい体育授業の条件について概説する [授業外学習]前回までの講義内容を整理しておく
⑤	[テーマ] 体育科教育の内容(学習指導要領解説から:体つくり運動) [内容] 体育科教育の内容として、「体つくり運動」を具体的に概説する [授業外学習]前回までの講義内容を整理しておく	⑬	[テーマ] 体育科の学習指導(学習形態の種類) [内容]学習形態の種類 について概説する [授業外学習]前回までの講義内容を整理しておく
⑥	[テーマ] 体育科教育の内容(学習指導要領解説から:球技) [内容] 体育科教育の内容として、「球技」を具体的に概説する [授業外学習]前回までの講義内容を整理しておく	⑭	[テーマ] 体育の教材・教具 [内容] 体育の教材・教具について概説する [授業外学習]前回までの講義内容を整理しておく
⑦	[テーマ] 体育科教育の内容(学習指導要領解説から:武道) [内容] 体育科教育の内容として、「武道」を具体的に概説する [授業外学習]前回までの講義内容を整理しておく	⑮	[テーマ]体育の学習・授業評価 [内容]]体育の学習・授業評価について概説する [授業外学習]前回までの講義内容を整理しておく
⑧	[テーマ] 体育科の指導計画(学習指導計画①) [内容] 体育科の指導計画について概説する(その1) [授業外学習]]前回までの講義内容を整理しておく	⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]

成績評価方法(方針)

講義期間中に作成したレポートの内容を評価する。なお、レポートは期限内にすべて提出することが評価の最低条件である。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 \ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				
授業内レポート	◎			100%
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度		○		欠格条件
出席		○		欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

「体育」の授業づくりを「教師」の立場として考えながら、本講義を受講することを望む。

関連科目	保健体育科教育論Ⅱ・Ⅲ(免許取得に必要な講義) 保健体育科教育論Ⅳ・保健体育科授業研究Ⅰ・Ⅱ(選択履修)		
教科書	中学校学習指導要領解説 保健体育編 高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編	参考書	講義中、必要に応じて提示する
連絡先	井上研究室		

授業科目名	保健体育科教育論Ⅱ Pedagogy of Health Education Ⅱ (L.)				担当教員	入澤裕樹
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義(L)	関連資格	教員免許状(中高保体、参考:養護、栄養)
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

中学校・高等学校における「保健」の学習指導についての基本的な考え方とその実際について学ぶ.

授業の一般目標

「保健」学習指導の基礎・基本について知り、児童生徒の実態を通じて保健の授業を構成・展開できるようになる。特に、保健の授業を模擬的に実施することで、実践的能力の基礎を身につける。

授業の到達目標

■	認知的領域	「保健」学習指導の基礎・基本について説明できる。児童生徒の健康課題を考えることができる。
■	情意的領域	保健の授業を構成しようとする。
■	技能表現的領域	模擬授業を通じて展開・表現できる。

授業計画(全体)

各授業テーマに沿った資料を用いた講義が中心であるが、より理解を深めるための視聴覚教材も用いることもある。各授業毎に、授業の感想と課題を授業内小レポートとして提出させることで、理解度・到達度を確認したり、授業の進み具合によっては、協同作業としてのグループワークによる指導案の作成や模擬授業も行う。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法 [授業外学習]シラバスを熟読しておくこと	⑨	[テーマ]「保健教科書」教材の検討① [内容] 中学校における保健の授業 [授業外学習]授業中に指示する
②	[テーマ] 現代社会における保健科教育の役割 [内容] 生涯を通じ健康な生活を送るためにヘルスプロモーションの発想を生かし, 健康づくりを支援する環境づくりの資質や能力を学習する [授業外学習]授業中に指示する	⑩	[テーマ]「保健教科書」教材の検討② [内容] 高等学校における保健の授業 [授業外学習]授業中に指示する
③	[テーマ] わが国の保健科教育の変遷とその動向 [内容] 明治から大正、昭和(戦前から戦後),そして現在に至る保健科教育の教科内容構成について学習する。 [授業外学習]授業中に指示する	⑪	[テーマ] 保健の授業の実際① [内容] 指導案に沿った模擬授業の実施 [授業外学習]図書館等で疑問点、発展的内容を調べ、指導案を作成しておく
④	[テーマ] 授業が成立するということ [内容] 授業の成立条件と構成要素,および教師の信念について学習する [授業外学習]授業中に指示する	⑫	[テーマ] 保健の授業の実際② [内容] 学習者を考えた模擬授業の実施 [授業外学習]図書館等で疑問点、発展的内容を調べ、指導案を作成しておく
⑤	[テーマ] 保健科の目的と目標 [内容] 学習指導要領を中心に戦後の保健科教育における目的・目標の変遷について学習する [授業外学習]授業中に指示する	⑬	[テーマ] 保健の授業の実際③ [内容] 発問に注目する模擬授業の実施 [授業外学習]図書館等で疑問点、発展的内容を調べ、指導案を作成しておく
⑥	[テーマ] 保健授業の教育内容と教材づくり [内容] 教育内容、教材、教材づくりについて学習する [授業外学習]授業中に指示する	⑭	[テーマ] 保健の授業の実際④ [内容] 保健科のカリキュラムを考えた模擬授業の実施 [授業外学習]図書館等で疑問点、発展的内容を調べ、指導案を作成しておく
⑦	[テーマ] 指導案づくりと授業展開(さまざまな方法) [内容] 多様な保健科教育の指導方法を具体的な展開事例とともに学習する [授業外学習]授業中に指示する	⑮	[テーマ] 保健の授業の実際・まとめ [内容] 授業の成立条件について学習する [授業外学習]場合によっては模擬授業に替える場合もある
⑧	[テーマ] 保健の授業研究と評価 [内容] 授業研究の意義と授業記録、授業評価について学習する [授業外学習]授業中に指示する	⑯	[テーマ] テスト [内容] 授業の理解度・到達度を確かめるために期末テストを行う [授業外学習]レポート(指導案・評価カード等の提出)に替える場合もある

成績評価方法(方針)

試験は、期末試験を1回実施する(評価割合60%)が、場合によっては模擬授業に替える場合もある。また、授業内レポート(評価割合40%)を課す予定。そして、これらの結果を総合して成績評価を行う。出席は、評価割合に加えず、欠格条件となる。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 \ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				
授業内レポート	◎	◎		40%
授業外レポート				
演習・実技	◎	◎	◎	60%
授業態度				欠格条件
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・4/5以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない(欠格条件)。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。授業中は原則携帯電話をかばんの中にしまうこと。
・大学設置基準において、90分の授業に対して、予習・復習を各90分行うことが義務付けられている。このシラバスを参考に、しっかりと予習・復習を行うこと。
授業計画は、授業の進展により、多少前後したり、内容変更がある。

関連科目	保健体育科教育論Ⅰ(2年), 保健体育科教育論Ⅲ(3年),保健体育科教育論Ⅳ(3年),保健体育授業研究Ⅰ(3年),保健体育科授業研究Ⅱ(3年)		
教科書	保健科教育法入門(大修館書店)	参考書	中・高保体教科書,中・高校学習指導要領解説・保健体育編
連絡先	研究室:A棟3階　　オフィスアワー:木曜日　12:40～14:10予定		

授業科目名	保健体育科教育論 Ⅲ Pedagogy of Education Ⅲ(L.)				担当教員	郡山 孝幸 / 山梨 雅枝
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義・演習	関連資格	教員免許状(中・高保体)
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

「保健体育科教育論 Ⅰ」での学びを踏まえ、中学校・高等学校における「体育」の実技指導場面の指導方法および指導方法について学ぶ。

授業の一般目標

中学校・高等学校における「体育」の学習指導について、教育の質を向上させる進め方を探求し、実践することができる。

授業の到達目標

■	認知的領域	中学校・高等学校における「体育」の学習についての具体的な進め方を理解することができる。
□	情意的領域	
■	技能表現的領域	中学校・高等学校における「体育」の学習についての具体的な進め方を理解することができる。

授業計画(全体)

・2～9回目は、受講者を2つの教室に振り分け授業を行う。内容は、郡山が運動領域「陸上競技、水泳、球技、武道」、山梨が運動領域「体つくり運動、器械運動、ダンス」を担当する。
・模擬授業は、小グループを編成し、グループ内で体育の学習指導についての具体的な進め方を検討したり、実際に授業を組み立てて実践する。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] ガイダンス [内 容] 担当教員の紹介、講義のねらいと進め方、成績評価の方法と諸注意 [授業外学習] シラバスに目を通す。「保健体育科教育論Ⅰ」を思い出す	⑨	[テーマ] 「G. ダンス」について [内 容] 各領域の特性について学び、実践場面を想定して具体的な指導方法を学び、考える [授業外学習] 運動領域に関して学習指導要領を確認する
②	[テーマ] 学習指導要領改訂について [内 容] これまで授業で学んできた内容を思い出し、今後の授業計画に活かす [授業外学習] 運動領域に関して学習指導要領を確認する	⑩	[テーマ] 模擬授業に関するガイダンス [内 容] 模擬授業 グループ編成＆指導領域の割り振り 各班で指導内容の検討・指導案作成 [授業外学習] グループ毎に指導案の作成。
③	[テーマ] 「A. 体つくり運動」について [内 容] 各領域の特性について学び、実践場面を想定して具体的な指導方法を学び、考える [授業外学習] 運動領域に関して学習指導要領を確認する	⑪	[テーマ] 模擬授業の実践 1 [内 容] 学生は指導者役、生徒役として全員授業に参加する [授業外学習] 指導の「ねらい」と内容とが合致していることを確認する
④	[テーマ] 「B. 器械運動」について [内 容] 各領域の特性について学び、実践場面を想定して具体的な指導方法を学び、考える [授業外学習] 運動領域に関して学習指導要領を確認する	⑫	[テーマ] 模擬授業の実践 2 [内 容] 学生は指導者役、生徒役として全員授業に参加する [授業外学習] 指導の「ねらい」と内容とが合致していることを確認する
⑤	[テーマ] 「C. 陸上競技」について [内 容] 各領域の特性について学び、実践場面を想定して具体的な指導方法を学び、考える [授業外学習] 運動領域に関して学習指導要領を確認する	⑬	[テーマ] 模擬授業の実践 3 [内 容] 学生は指導者役、生徒役として全員授業に参加する [授業外学習] 指導の「ねらい」と内容とが合致していることを確認する
⑥	[テーマ] 「D. 水泳」について [内 容] 各領域の特性について学び、実践場面を想定して具体的な指導方法を学び、考える [授業外学習] 運動領域に関して学習指導要領を確認する	⑭	[テーマ] 模擬授業の実践 4 [内 容] 学生は指導者役、生徒役として全員授業に参加する [授業外学習] 指導の「ねらい」と内容とが合致していることを確認する
⑦	[テーマ] 「E. 球技」について [内 容] 各領域の特性について学び、実践場面を想定して具体的な指導方法を学び、考える [授業外学習] 運動領域に関して学習指導要領を確認する	⑮	[テーマ] 模擬授業の実践 5 [内 容] 学生は指導者役、生徒役として全員授業に参加する [授業外学習] 指導の「ねらい」と内容とが合致していることを確認する
⑧	[テーマ] 「F. 武道」について [内 容] 各領域の特性について学び、実践場面を想定して具体的な指導方法を学び、考える [授業外学習] 運動領域に関して学習指導要領を確認する	⑯	[テーマ] 模擬授業の実践 6 [内 容] 学生は指導者役、生徒役として全員授業に参加する [授業外学習] 指導の「ねらい」と内容とが合致していることを確認する

成績評価方法(方針)

・2～5回目、6～9回目は、授業担当者による授業態度・レポート内容の評価。10～15回目においては模擬授業の出来栄えと、生徒役のグループによる授業評価を照らし合わせて総合的に評価する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				評価対象外
授業内レポート	◎			50%
授業外レポート				評価対象外
演習・実技			◎	50%
授業態度				欠格条件
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・「体育」の授業を「指導者」の立場で考えながら本講義を受講する。
・講義を一方的に受けるのではなく、積極的に参加する。
・授業をきっかけに、毎度共に過ごす学生以外の学生と交流を持ち、互いの情報交換を積極的に行う。
・数多く指導場面に足を運ぶ様、努める(指導のボランティアなど)。
・各自の専門性を活かし、互いに情報交換を行うことで互いに学びあう姿勢を持って授業に参加することを望む。

関連科目	・保健体育科教育論 Ⅰ ・各領域の実技授業		
教科書	中学校学習指導要領解説保健体育編	参考書	
連絡先	郡山研究室(LC棟204)、山梨研究室(第4体育館1F)		

授業科目名	保健体育科教育論Ⅳ Pedagogy of Health and Physical Education Ⅳ(L.)				担当教員	入澤裕樹・小浜明
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義・演習	関連資格	教員免許状(中高保体)
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

保健体育科教育論Ⅰ～Ⅲの学習を踏まえ，中学校・高等学校における「保健・体育」の学習指導を,教師の立場から実施し，その展開の仕方を学ぶ。

授業の一般目標

保健体育の単元計画，学習指導案づくり,模擬授業を通して，授業の実践的能力の基礎・基本を身につける。

授業の到達目標

■	認知的領域	保健体育の教科内容について理解している。
■	情意的領域	保健体育の教科内容を中学校・高等学校の生徒の実態に合わせて構成しようとする。
■	技能表現的領域	保健体育の教科内容を展開・表現できる。

授業計画(全体)

保健および体育の授業づくりについて知り，小グループ(あるいは個人)で，模擬授業を実施する。場合によっては2月に4回分程度校外学習を行う予定である。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法 [授業外学習]シラバスを熟読しておくこと	⑨	[テーマ] 体育の授業をつくる① [内容] マット運動(前転)の模擬授業を行う [授業外学習]図書館等で疑問点、発展的内容を調べること
②	[テーマ] 保健の授業をつくる(中学校)① [内容] 心身の発達と心の成長の分野で模擬授業を実施する [授業外学習]図書館等で疑問点、発展的内容を調べること	⑩	[テーマ] 体育の授業をつくる② [内容] マット運動(開脚前転)の模擬授業を行う [授業外学習]図書館等で疑問点、発展的内容を調べること
③	[テーマ] 保健の授業をつくる(中学校)② [内容] 環境と健康の分野で模擬授業を実施する [授業外学習]図書館等で疑問点、発展的内容を調べること	⑪	[テーマ] 体育の授業をつくる③ [内容] マット運動(後転)の模擬授業を行う [授業外学習]図書館等で疑問点、発展的内容を調べること
④	[テーマ] 保健の授業をつくる(中学校)③ [内容] 傷害の防止の分野で模擬授業を実施する [授業外学習]図書館等で疑問点、発展的内容を調べること	⑫	[テーマ] 体育の授業をつくる④ [内容] マット運動(伸膝後転)の模擬授業を行う [授業外学習]図書館等で疑問点、発展的内容を調べること
⑤	[テーマ] 保健の授業をつくる(中学校)④ [内容] 健康な生活と病気の予防の分野で模擬授業を実施する [授業外学習]図書館等で疑問点、発展的内容を調べること	⑬	[テーマ] 体育の授業をつくる⑤ [内容] マット運動(倒立)の模擬授業を行う [授業外学習]図書館等で疑問点、発展的内容を調べること
⑥	[テーマ] 保健の授業をつくる(高等学校)① [内容] 現代生活と健康の分野で模擬授業を実施する [授業外学習]図書館等で疑問点、発展的内容を調べること	⑭	[テーマ] 体育の授業をつくる⑥ [内容] マット運動(測方倒立回転飛び)の模擬授業を行う [授業外学習]図書館等で疑問点、発展的内容を調べること
⑦	[テーマ] 保健の授業をつくる(高等学校)② [内容] 生涯を通じる健康の分野で模擬授業を実施する [授業外学習]図書館等で疑問点、発展的内容を調べること	⑮	[テーマ] 体育の授業をつくる⑦ [内容] マット運動(前方倒立回転飛び)の模擬授業を行う [授業外学習]図書館等で疑問点、発展的内容を調べること
⑧	[テーマ] 保健の授業をつくる(中学校・高等学校) [内容] 全体をまとめる [授業外学習]図書館等で疑問点、発展的内容を調べること	⑯	[テーマ] テスト [内容] 授業の理解度・到達度を確かめるために期末テストを行う。 [授業外学習]場合によっては指導案の提出やレポートに替える場合もある。

成績評価方法(方針)

試験は、期末試験を1回実施する(評価割合100%)。場合によっては模擬授業に替える場合もある。出席は、評価割合に加えず、欠格条件となる。詳細はオリエンテーション時に説明するので、欠席しないこと。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技	◎	◎	◎	100
授業態度				欠格条件
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・4/5以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない(欠格条件)。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。授業中は携帯電話をかばんの中にしまうこと。
・大学設置基準において、90分の授業に対して、予習・復習を各90分行うことが義務付けられている。このシラバスを参考に、しっかりと予習・復習を行うこと。
・授業計画は、授業の進展により、多少前後したり、内容変更がある。

関連科目	保健体育科教育論Ⅰ(2年)，保健体育科教育論Ⅱ(3年),保健体育科教育論Ⅳ(3年),保健体育授業研究Ⅰ(3年),保健体育科授業研究Ⅱ(3年)		
教科書	特に指定しない	参考書	中学,高校版・「授業書」方式による保健の授業(大修館書店)
連絡先	A棟3階306　　オフィスアワー:月曜日　16:00～17:00予定		

授業科目名	教育方法論 Educational Methodology(L.)				担当教員	荒井龍弥
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義	関連資格	中学・高校教諭(保健体育・福祉)・栄養教諭・養護教諭
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

教育場面を改善するためには、教える側および学習者側双方のさまざまな要素を考慮に入れなくてはならない。本講では、よりよい教育場面を創造するために必要な知識・技能という観点から、学習が効果的に成立するための諸条件の操作を中心にこれまでの知見を紹介する。

授業の一般目標

学習を支援するという立場から、特定の目標を実現するための計画を案出できる。また計画を実施した際の学習者の反応や支援側の応答など、教育場面の展開を明示的に予想できる。

授業の到達目標

■	認知的領域	授業のよしあしや展開を左右する諸条件を指摘し、その改善策を工夫し実施しようとすることができる。
■	情意的領域	学習を支援する側の論理や考え方を理解するとともに関心を持ち、自らもその視座に立ち考えることができる。
■	技能表現的領域	発問、説明、指示といった指導言を工夫することができる。また、その変化による生徒の反応の違いを予想することができる。

授業計画(全体)

授業を実施する側として検討すべきことに焦点を絞り、説明、演習を行う。また、実践例からどのような情報が得られるのか、さらにそれらが教育研究上どのような問題として取りあげられていくのかについても説明を加える。これらをもとに指導者の立場から指導スタイルの確立や改善向上を目指すべく援助していく。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 教育実習生の実践例～授業を支える技術の側面 [内容] 授業を左右する諸要因について、実習例をもとに解説し、その重要性を知る。 [授業外学習]自分だったら同じ場面でどう動くか考えてみること。	⑨	[テーマ] 教材、学習者の反応の型分け② [内容] 多くの教科でも理解や技能のパターンがあることを紹介し、そのパターンに基づいて教育評価がなされていることを示す。 [授業外学習]身近な教材で、改めて自らの理解を検討すること。
②	[テーマ] 教師としての発言～マイクロティーチングの記録を作成してみる [内容] 教師の一挙一動が生徒の理解や授業全体を左右することについて体験的に検討する。 [授業外学習] より有効な発言について検討すること	⑩	[テーマ] 学習者の反応とアクティブ・ラーニング [内容] 学習者の反応を無視した一方的知識技能伝達による教授法の否定として提唱されているアクティブラーニングの諸事例を紹介する。 [授業外学習]身近な教材でアクティブ・ラーニングを促す発問を考えること
③	[テーマ]指導言① 発問 [内容] 発問の重要性について検討し、その違いにより生じる授業の流れの違いを考える。 [授業外学習] 発問をさらに変化させ、その経過を考えてみること。	⑪	[テーマ] 教授ストラテジー① [内容] 各種教材のもとで計画される発問系列の作成方針を教授ストラテジーと呼ぶ。各種のストラテジーを紹介する。 [授業外学習]気に入ったストラテジーを用いた発問系列を考えてみること。
④	[テーマ] 指導言② 発問作成練習 [内容] 特定の単元をとりあげ、自分だったらどんな発問を行うか考えてみる。また、どんな発問がよいかを受講者間で検討する。 [授業外学習]自分が作成した発問案をさらに修正してみること。	⑫	[テーマ] 教授ストラテジー② ル・バー修正のためのストラテジー [内容] ル・バー修正のための方略(ストラテジー)について説明するとともに、具体例から効果や限界を検討する。 [授業外学習]各種ル・バーで系列を考えてみること。
⑤	[テーマ]指導言③ 説明 [内容] 説明の種類とその学習効果、抽象度操作のためのキーワードなどについて紹介する。また特定の単元で説明を試みる。 [授業外学習]身近な例で抽象度操作をしてみること。	⑬	[テーマ] 指導言④ 指示 ／板書の方法 [内容] 指示の種類とその得失、発声、非言語的部分について説明する。また、板書の際の留意点についても検討する。 [授業外学習]空き教室などを使い、板書の練習をしてみること。
⑥	[テーマ] 教材分析方法とその練習 [内容] 説明や発問検討のための枠組みとして、ルレッグシステムについて説明をする。さらに教科書の記述を分析してみる。 [授業外学習]他の単元、テキスト等でも分析してみること。	⑭	[テーマ] 各種メディア、情報機器の活用① [内容] 教育場面で用いられる各種メディアとその位置づけを紹介し、映像教材作成上の留意点を中心に情報機器の活用について述べる。 [授業外学習]自分なりにメディア利用について検討すること。
⑦	[テーマ] 学習者理解のために ルレッグシステムの拡張 [内容] 学習者の理解もルレッグシステムで解釈することができることを述べるとともに、ル・バーの紹介をする。 [授業外学習]自分自身の理解はどうなっているか振り返ってみること。	⑮	[テーマ] 各種メディア、情報機器の活用② [内容] 教育場面で有用性が期待されるICT関連のメディアを中心にその有効性と留意点を検討する。 [授業外学習] 任意の教材で自分なりに利用可能性について検討すること。
⑧	[テーマ] 教材、学習者の反応の型分け① [内容] 特定の学習を行うにあたっては理解や技能のパターンがあることを紹介し、それに応じた教材対応を考える必要があることを述べる。 [授業外学習]様々な運動場面等での技能パターンを調べてみること。	⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]

成績評価方法(方針)

相互の評価のために、小テスト・授業内レポートを毎回課す。これらの結果と、レポート試験、出席状況、テストの結果を材料として成績評定を行う。なお、出席状況は単位認定のための必要条件とする(欠席が多い場合には評価対象としない)。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎			40%
授業内レポート	◎	○	△	60%
授業外レポート				対象としない
演習・実技				対象としない
授業態度				加減点要素
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

マークシート等も利用するので、シャープペンシルないし鉛筆を用意のこと。教員、指導者など、学習援助者側の視座に立つことを求める。このため、講義で示したことがらについて、自分なりの例を探したり、「自分だったらこうする」など、自分の身に引き寄せて考察する作業をしてほしい。

関連科目	教育の心理		
教科書		参考書	宇野編 授業に学び授業を作る教育心理学第二版 中央法規
連絡先	tt-arai@sendai-u.ac.jp		

授業科目名	教育相談 School Educational Counseling(L.)				担当教員	志賀野 博・青沼 一民
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格	教員免許状(全)
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

教育相談は生徒指導・学習指導と同様に重要な機能概念である。本授業は学校教育相談学をベースに、その理論と内容・方法・指導体制・心理査定・関係心理学等を体系的に講義する。さらに、「学校教育相談」として取り上げられる、いじめや不登校、虐待、発達障害、非行といった教育現場で直面する問題の現状と課題を文部科学省の問題行動調査に基づいて把握し、どのような支援・対応が望ましいのかについて解説する。

授業の一般目標

学校における教育相談活動の意義や原理、目的、方法、内容、技法、背景となる心理学的基礎、指導体制、児童生徒理解や心理アセスメントを理解する。さらに、学校における不登校・いじめ・非行・虐待・発達障害・中途退学等の様々な教育相談上の現状と課題を把握・理解し、教育相談の基礎的技法を知り、教育現場での活用に繋げられるように考察する。

授業の到達目標

■	認知的領域	学校教育相談の歴史、意義、原理、目的、内容、方法、技法、関係心理学、指導体制等について理解し、説明できるようにする。また、学校教育相談上の現状と課題を把握・指摘し、より望ましい教育相談のあり方を説明できる。
■	情意的領域	児童生徒のよりよい人格の発達や有意義で、興味深く、充実した学校生活が送れるような教育相談的支援に寄与し、具体的な課題解決に向けて思考・判断し、他の教員と協働しながら学校教育相談活動に参加する意志・意欲を持つことができる。
■	技能表現的領域	実際の教育活動や具体的な支援の仕方について学び、さらに様々な教育活動を通しながら教員としての学校教育相談の活用力を身に付けることができるようにする。さらに、教育相談上の諸問題について様々な情報網を駆使し、実践力を高めることができる。

授業計画(全体)

各授業のテーマに沿った講義が中心となる。より深い理解と実践力の向上に向け、授業外学習への自主的取組や教育ボランティア等を勧める。さらに、実践的事例の紹介や視聴覚教材の視聴を通しながら実践場面への応用を工夫する。とりわけ教育臨床への参加は授業内容の実践的力量が高められるよい機会となるので積極的な参加が望まれる。さらに、教育相談の周辺領域に係る科目(学校保健学・臨床心理学・精神保健学・心理学概論・教育心理学)等を並行受講することを勧める。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 教員紹介、教員免許取得における位置付け、授業計画、授業の進め方、成績評価の方法、その他留意事項等について説明する [授業外学習]シラバス・教科書を準備してくる	⑨	[テーマ] 教育相談のプロセスと技法、基礎理論と心理療法(2) [内容] 教育相談を支える様々なカウンセリング理論や心理療法等について、視聴覚教材を活用しながらその手法をまとめながら深化をはかる [授業外学習]図書館、Web等で復習し、学習を深める
②	[テーマ]教育相談の歴史と理念(沿革と発展) [内容] わが国の教育相談の歩み、アメリカにおけるスクールカウンセリングの発展、日本とアメリカのカウンセラー制度について概説する [授業外学習]学習プリントで復習する	⑩	[テーマ] 学校教育相談の課題(1)-① [内容]「いじめ」の構造・態様・変容などの理解と支援のあり方並びに現状と対策について説明する [授業外学習]学習プリントで復習する
③	[テーマ] 教育相談の意義・目的・役割・機能など(1) [内容] 教育相談の意義、目的、役割、機能等について説明する [授業外学習]教科書・学習プリントをもとに復習する	⑪	[テーマ] 学校教育相談の課題(1)-② [内容]「いじめ」の理解と支援について、視聴覚教材を活用しながら学級担任としてのいじめ相談の取り組み方をまとめながら深化をはかる [授業外学習]図書館、新聞、Web等でいじめ問題の記事を読み考察する
④	[テーマ] 学校教育相談と生徒指導、教育相談の特質・方法・形態など(2) [内容] 学校教育相談と生徒指導との関係、教育相談の特質、方法、形態、領域等について解説する [授業外学習]教科書・学習プリントをもとに復習する	⑫	[テーマ] 学校教育相談の課題(2)-① [内容]「不登校」の構造・態様・変容などの理解と支援のあり方並びに現状と対策について説明する [授業外学習]学習プリントで復習する
⑤	[テーマ] 校内外の教育相談体制と各教師・学級担任の役割、教育相談の基本 [内容] 学校内外における教育相談の体制づくりと学級担任をはじめとする様々な教師による教育相談のあり方と教育相談の基本を解説する [授業外学習]教科書・学習プリントで復習する	⑬	[テーマ] 学校教育相談の課題(2)-② [内容]「不登校」の理解と支援について、視聴覚教材を活用しながら学級担任としての不登校相談の取り組み方をまとめながら深化をはかる [授業外学習]図書館、新聞、Web等で不登校問題の記事を読み考察する
⑥	[テーマ] 教育相談と児童生徒理解(心理アセスメント含)の方法 [内容] 効果的な学校教育相談を支える児童生徒理解の意義・方法・技術や心理アセスメントの考え方について解説する [授業外学習]児童生徒理解の方法を図書館学習・学習プリント中心にまとめる	⑭	[テーマ] 学校教育相談の課題(3)-① [内容]「発達障害」「虐待」「少年非行」「暴力行為」の理解と支援のあり方並びに現状と対策について説明する [授業外学習]学習プリントで復習する
⑦	[テーマ] 教育相談を支える関係心理学の基礎的知見 [内容] 教育相談を支える児童青年期の心理と発達、欲求と行動や葛藤並びに適応(防衛)機制の特徴等について説明する [授業外学習]図書館・関連授業等での復習で心理学的知見をさらに深める	⑮	[テーマ] 学校教育相談の課題(3)-② [内容]「発達障害」の理解と支援について、視聴覚教材を活用しながら学級担任としての特別支援相談の取組をまとめながら深化をはかる [授業外学習]図書館、新聞、Web等で発達障害関連の記事を読み考察する
⑧	[テーマ] 教育相談のプロセスと技法、基礎理論と心理療法(1) [内容] 教育相談の進め方や教育相談を深めるカウンセリング理論や心理療法等を概説する [授業外学習]図書館、関連授業、Web等で復習し、学習を深める	⑯	[テーマ] テスト [内容] 授業の理解度、到達度を確かめるために期末テスト(ペーパーテスト)を行う [授業外学習]これまでの学習の復習をしっかり行い対策を図る

成績評価方法(方針)

定期の筆記試験の結果(40%)に、出席状況を含む授業内受講態度や授業内レポート・意欲(60%)を加味して評価する。なお、「理由の認められない欠席(自己に責めを帰す理由)」を総授業回数のうち6回以上の者は評価対象外(放棄:定期試験の受験資格が無いものと取り扱う)とする。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 \ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎		△	40%
授業内レポート	○	◎	○	授業態度に含む
授業外レポート				実施せず
演習・実技				評価対象外
授業態度	△	◎	△	減点(欠席)あり
出席		◎		60%欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

①教師になろうという強い意欲のある学生の受講が基本②私語、遅刻、飲食、睡眠、携帯操作等の行為は厳禁であり、授業態度の悪い者とし減点もしくは退出扱いとする。また20分以上の遅刻は欠席とする③資格関連実習や各種公認大会、慶弔等の理由による欠席届は配慮される場合がある。自己都合の欠席や資格関連を伴わない授業演習等は届出を提出しても欠席となる④授業は座席指定制とし、初回授業時決定するので必ず出席のこと。初回授業の無断欠席者それ以降の受講は認めないので欠席する場合は事前相談を必ず行う⑤授業は進み方で内容の前後や変更の可能性もあり得る

関連科目	生徒指導論、教育心理学、臨床心理学、精神保健学、その他教職関係科目		
教科書	生徒指導提要(文部科学省 教育図書出版)	参考書	学習指導要領(含解説)
連絡先	志賀野研究室A311 TEL55-1290(直通) 青沼研究室A313 TEL55-1374(直通)		

授業科目名	学校保健学 School Health(L.)				担当教員	小松正子、小浜明、高橋弘彦、入澤裕樹
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義	関連資格	教員免許状（中高保体）
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

児童生徒の健康の保持増進についての講義を行なう。

授業の一般目標

学校保健の概要と心身両面からの保健管理（対人管理・環境管理）・教育（保健学習・保健指導）を学び，理解することを目標とする。

授業の到達目標

■	認知的領域	学校保健について深く理解している
■	情意的領域	関心・意欲が高い
□	技能表現的領域	

授業計画（全体）

各授業テーマに沿った資料を用いた講義が中心であるが、より理解を深めるための視聴覚教材も用いる。各授業毎に、授業の感想と課題を授業内小レポートとして提出させることで、理解度・到達度を確認したり、授業の進み具合によっては、協同作業としてのグループワークやレポートの発表等も行うこともある。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ]オリエンテーション、「学校保健」とは何か [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法、学校保健の定義 [授業外学習]配布資料あり。オリエンテーションは必ず出席してください。	⑨	[テーマ] 保健室の役割 [内容]保健室の役割について [授業外学習]図書館等で疑問点、発展的内容を調べること
②	[テーマ]学校保健管理の実際 [内容] 学校保健管理が進められる際のツールなど [授業外学習]配布資料等でよく復習を行う	⑩	[テーマ]学校でみられる疾病 [内容] 学校で多く見られる疾病・異常等について [授業外学習]図書館等で疑問点、発展的内容を調べること
③	[テーマ] 身体の発育・発達 [内容] 学童期の身体の発育・発達の特徴について [授業外学習]図書館等で疑問点、発展的内容を調べること	⑪	[テーマ] 性教育・薬物中毒・小児生活習慣病 [内容]避妊、薬物、小児糖尿病等に関する知識を視聴覚教材供覧も行いながら修得する [授業外学習]気になった点を参考書や図書館資料を使い調べる
④	[テーマ]健康状態の評価 [内容]児童生徒の健康状態を把握するための指標について [授業外学習]図書館等で疑問点、発展的内容を調べること	⑫	[テーマ]学校でみられる重要な疾患 [内容] 心臓病、腎臓病など生活管理指導が特に必要な疾患について [授業外学習]難しく感じた点、興味が沸いた点は図書館で調べる
⑤	[テーマ] 健康診断 [内容] 学校で行われる健康診断について [授業外学習]図書館等で疑問点、発展的内容を調べること	⑬	[テーマ] 学校管理下の事故の実態と防止 [内容] 小・中・高校における事故発生状況とその予防法について説明する [授業外学習]学校区分ごとの事故発生状況とその要因について復習すること
⑥	[テーマ] 児童生徒の健康状態 [内容] 児童生徒の健康状態の変遷と現在の課題について [授業外学習]図書館等で疑問点、発展的内容を調べること	⑭	[テーマ] 学校環境衛生 [内容] 点検項目と実施上の留意点について復習しておくこと [授業外学習]点検項目と実施上の留意点について復習しておくこと
⑦	[テーマ]児童生徒の健康と教育 [内容] 保健学習・保健指導について [授業外学習]図書館等で疑問点、発展的内容を調べること	⑮	[テーマ] まとめ [内容]これまでの学習についてまとめる。 [授業外学習]これまで学習したところを復習しておくこと
⑧	[テーマ] 心の発達と諸問題 [内容] 事例を中心にして考える [授業外学習]図書館等で疑問点、発展的内容を調べること	⑯	[テーマ] 試験 [内容]授業の理解度・到達度を確かめるために期末テストを行う [授業外学習]テストに備えて復習をすること

成績評価方法（方針）

期末試験により評価を行う。授業進行状況により、授業内レポート（評価割合10％）を課す場合がある。そして、これらの結果を総合して成績評価を行う。出席は、評価割合に加えず、欠格条件となる。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎			90～100%
授業内レポート	○	○		10%
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度				欠格条件
出席				欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない（欠格条件）。
・授講態度が悪い学生は、単位を習得することが出来ない（欠格条件）。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。授業中は携帯電話をかばんの中にしまうこと。
・大学設置基準において、90分の授業に対して、予習・復習を各90分行うことが義務付けられている。このシラバスを参考に、しっかりと予習・復習を行うこと。授業計画は、授業の進展により、多少前後したり、内容変更がある。

関連科目	健康相談（3年：健康福祉・運動栄養）、衛生・公衆衛生学（2年）、保健体育科教育論Ⅱ（3年）		
教科書	基礎から学ぶ学校保健（建帛社）	参考書	特に指定しない
連絡先	小松正子（F棟2階）、小浜、入澤（A棟3階）、高橋弘（C棟3階）		

授業科目名	学校栄養教育論 Nutrition Education in School (L.S.)				担当教員	藤井　久雄・平良　拓也・千葉　冷子(非)
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義・演習	関連資格	教員免許状(栄養)
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

栄養教諭は、教育と栄養に関する専門性を併せ持つ教員として期待されている。栄養教諭が高い専門性を生かし、児童生徒への個別的な相談指導、教科・特別活動等における教育指導および学校給食時の指導など、学校教育活動全体の中で栄養教育活動を行うための知識や方法を習得するための演習を含めた授業を行なう。

授業の一般目標

栄養教諭が高い専門性を生かし、学校教育活動全体の中で栄養教育活動を行うための知識や方法を習得することができる。

授業の到達目標

■	認知的領域	学校教育活動全体の中で栄養教育活動を行うための知識や方法を習得することができる。
■	情意的領域	栄養教諭として、栄養教育活動に取り組むことができるようになる。
■	技能表現的領域	栄養教諭として活動するための栄養指導を実践することができる。

授業計画(全体)

前半は講義形式で、栄養教諭についての基礎的な事項について解説する。 一方、後半は演習(指導案作成・模擬授業)形式により授業を進め、より実践力を養うよう指導する。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の説明 [授業外学習] シラバスを熟読しておくこと	⑨	[テーマ] 演習1-1.「食に関する指導」の指導案作成 [内容] 年間指導計画を考慮し、小学校および中学校の各教科における食に関する指導案を作成する [授業外学習] 指導案を作成し、内容および対象に応じた教材を準備する
②	[テーマ] 栄養教諭の制度と役割① [内容] 栄養教諭についての基礎的な知識を学ぶ [授業外学習] 「食に関する指導体制の整備について(答申)」を読む	⑩	[テーマ] 演習1-2.「食に関する指導」の指導案作成 [内容] 年間指導計画を考慮し、小学校および中学校の各教科における食に関する指導案を作成する [授業外学習] 指導案を作成し、内容および対象に応じた教材を準備する
③	[テーマ] 栄養教諭の制度と役割② [内容] 栄養教諭についての基礎的な知識を学ぶ [授業外学習] 「食に関する指導体制の整備について(答申)」を読む	⑪	[テーマ] 演習2-1. 模擬授業(小学校) [内容] 小学校各教科における食に関する指導について、グループごとに作成した指導案を基に模擬指導を行う [授業外学習] 授業の組み立て方、指導案の作成の仕方を評価する
④	[テーマ] 学校給食の意義・役割 [内容] 学校給食についての基礎的な知識を学ぶ [授業外学習] 地場産物を活用した給食献立を作成する	⑫	[テーマ] 演習2-2. 模擬授業(小学校) [内容] 小学校各教科における食に関する指導について、グループごとに作成した指導案を基に模擬指導を行う [授業外学習] 授業の組み立て方、指導案の作成の仕方を評価する
⑤	[テーマ] 各教科における食に関する指導(小学校)① [内容] 栄養教諭が行なう各教科の食に関する指導について学ぶ [授業外学習] 「小学校学習指導要領」を熟読しておくこと	⑬	[テーマ] 演習3-1. 模擬授業(中学校) [内容] 中学校各教科における食に関する指導について、グループごとに作成した指導案を基に模擬指導を行う [授業外学習] 授業の組み立て方、指導案の作成の仕方を評価する
⑥	[テーマ] 各教科における食に関する指導(小学校)② [内容] 栄養教諭が行なう各教科の食に関する指導について学ぶ [授業外学習] 「小学校学習指導要領」を熟読しておくこと	⑭	[テーマ] 演習3-2. 模擬授業(中学校) [内容] 中学校各教科における食に関する指導について、グループごとに作成した指導案を基に模擬指導を行う [授業外学習] 授業の組み立て方、指導案の作成の仕方を評価する
⑦	[テーマ] 各教科における食に関する指導(中学校)① [内容] 栄養教諭が行なう各教科の食に関する指導について学ぶ [授業外学習] 「中学校学習指導要領」を熟読しておくこと	⑮	[テーマ] 演習4-1. 模擬授業の検討(総括) [内容] 授業内容を振り返り、指導案と照らし合わせて評価する [授業外学習] 授業の改善点についてグループで検討する
⑧	[テーマ] 各教科における食に関する指導(中学校)② [内容] 栄養教諭が行なう各教科の食に関する指導について学ぶ [授業外学習] 「中学校学習指導要領」を熟読しておくこと	⑯	[テーマ] 演習4-2. 模擬授業の検討(総括) [内容] 授業内容を振り返り、指導案と照らし合わせて評価する [授業外学習] 授業の改善点についてグループで検討する

成績評価方法(方針)

出席を含む、受講態度および課題・レポート内容による総合評価

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				評価対象外
授業内レポート	◎	○	◎	30%
授業外レポート	◎	○	◎	30%
演習・実技	○	○	◎	40%
授業態度		◎	◎	減点あり
出席		○	◎	欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・2/3以上の出席がない学生は単位を修得することが出来ない(欠格条件)。
・授業態度が悪い学生に対しては、成績評価から減点する。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。
・小学校の体験学習の受け入れ態勢により、授業計画は、前後することがある。
・給食計画論、栄養指導論、生徒指導論Bの履修済みを原則とする。

関連科目	給食計画論、栄養指導論および実習Ⅰ・Ⅱ、生徒指導論B、教職総合演習、栄養教育実習Ⅰ・Ⅱ、給食運営実習Ⅰ・Ⅱ、他栄養士および教職科目		
教科書	金田雅代編著 「栄養教諭論ー理論と実際ー」(建帛社) 文部科学省 「小学校学習指導要領」	参考書	文部科学省「食に関する指導の手引き」「食生活教材」
連絡先	藤井(久)研究室D棟1階、渡部研究室D棟2階		

授業科目名	生涯学習概論A Introduction to Lifelong Learning A (L.)				担当教員	坂根 治美
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	講義	関連資格	社会教育主事任用資格
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

本授業では、生涯学習の理念を確認したうえでわが国における社会教育についての基本的事項を概説する。近代の社会教育の特性と対比させながら、現代の社会教育の基本的性格ならびに社会教育活動を支える施設や職員に関する基本的事項について説明し、さらに生涯学習と社会教育をめぐる諸問題についての説明を行なう。

授業の一般目標

生涯学習と社会教育の関係を理解するとともに、わが国の社会教育の歴史をふまえて生涯学習社会における社会教育に関わる施設、職員の役割について理解する。また、その理解をもとに現代社会における社会教育に関心を持ち、その問題点について主体的に考えることができるようになる。

授業の到達目標

■	認知的領域	1. 生涯学習、社会教育とは何か、さらに社会教育の歴史についての説明ができる。 2. 生涯学習社会における社会教育の課題を説明できる。
■	情意的領域	生涯学習社会および社会教育について関心と問題意識を持ち主体的に考えることができる。また自ら生涯をみすえての学習をすることができる。
□	技能表現的領域	

授業計画(全体)

本授業は社会教育主事任用資格取得のための導入的な授業である。下記の関連科目を履修するうえでどうしても理解しておくべき基本的事項を扱うので、その理解という点を重視して授業を行なう(よって、上記の認知的領域に重点を置く)。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 社会教育主事任用資格の概要を説明したのち、本授業の目標と進め方、成績評価の方法などについて説明する。 [授業外学習] シラバスを熟読して内容を理解する(30分)。	⑨	[テーマ] 生涯学習関連行政の仕組み [内容] 生涯学習振興のための行政の仕組みについて説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。
②	[テーマ] 生涯学習とは何か [内容] 生涯学習という概念の意味について説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。	⑩	[テーマ] 社会教育行政の役割と組織 [内容] 社会教育行政の果たすべき役割とその組織について説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。
③	[テーマ] 社会教育とは何か [内容] 生涯学習社会における社会教育という教育領域の位置づけについて説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。	⑪	[テーマ] 社会教育関係団体と社会教育行政 [内容] 社会教育関係団体の法的位置づけと実態および社会教育行政との関係について説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。
④	[テーマ] 近代日本の社会教育(1) [内容] 明治期の社会教育の基本的性格について説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。	⑫	[テーマ] 生涯学習と社会教育施設 [内容] 生涯学習活動を支える社会教育施設についてその概要を説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。
⑤	[テーマ] 近代日本の社会教育(2) [内容] 大正期および昭和戦前・戦中期の社会教育の基本的性格について説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。	⑬	[テーマ] 生涯学習と社会教育職員 [内容] 生涯学習活動を支える社会教育職員についてその概要を説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。
⑥	[テーマ] 戦後日本の社会教育 [内容] 戦後日本の社会教育の基本的性格について説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。	⑭	[テーマ] 社会教育と家庭教育・学校教育 [内容] 社会教育と家庭教育および学校教育という三つの教育領域の関係について説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。
⑦	[テーマ] 生涯学習政策の展開 [内容] 1980年代からのわが国の生涯学習政策の展開について説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。	⑮	[テーマ] 生涯学習と社会教育をめぐる諸問題 [内容] 生涯学習と社会教育についての近年の課題について説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。
⑧	[テーマ] 生涯学習の内容と方法 [内容] わが国で展開される生涯学習活動の内容と方法の具体的な状況について説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。	⑯	[テーマ] テスト [内容] 授業内容の理解度を確かめるために期末テストを行なう。 [授業外学習] テストに備えて授業内容全体の十分な復習をしておく(300分)。

成績評価方法(方針)

上記の授業計画の項で述べたように、本授業は生涯学習、社会教育に関する基本的事項の理解という点に重点を置くので、期末試験により認知的領域を中心として成績評価を行なう。出席は評価割合に加えず欠格条件となる。試験の答案は講評とともに返却する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎	○		100%
授業内レポート				評価対象外
授業外レポート				評価対象外
演習・実技				評価対象外
授業態度				減点あり
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・大学設置基準では授業外の学修を単位認定の条件としている。成績評価はこのことを前提として行なうので、毎週の90分の授業参加だけでは単位の修得は不可能である。
・2/3以上の出席がないと単位を修得することはできない(欠格条件)。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。

関連科目	生涯学習概論B(2年)、教育社会学(2年)、社会教育計画A(3年)、社会教育演習A(3年)、社会教育計画B(4年)、社会教育演習B(4年)		
教科書	教材はプリントして配付する。	参考書	特に指定しない。
連絡先	坂根研究室A棟5階513		

授業科目名	生涯学習概論B Introduction to Lifelong Learning B (L.)				担当教員	坂根 治美
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格	社会教育主事任用資格
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

「生涯学習概論A」の内容をふまえて、大きく変動しつつある現代社会に生きる人間の生涯にわたる発達ということと関連づけながら、わが国の社会教育の各領域の直面する課題および関連する理論について概説する。また、各領域の社会教育活動の事例として、わが国の代表的社会教育施設である公民館における諸実践を紹介していく。

授業の一般目標

人間の発達・社会化に関する基本的事項、現代社会の特徴について理解するとともに、社会教育の各領域が直面する課題およびそれに関連する理論を理解する。また、その理解にもとづいて、社会教育の各領域の問題に関心を持ち主体的に考えることができる。

授業の到達目標

■	認知的領域	人間の発達・社会化と現代社会の特徴の理解をふまえて、社会教育各領域の課題、関連する理論を理解する。
■	情意的領域	社会教育に対する関心の幅を広げ、問題意識を高めるとともに社会教育の各領域の問題について主体的に考えることができる。
□	技能表現的領域	

授業計画(全体)

各授業テーマに沿った資料を用いた講義が中心であるが、前半終了時と学期末にそこまでの授業内容についてのレポートを課し、授業内容の理解度を確認するとともに社会教育の各領域の問題について主体的に考察してもらう。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の目標と進め方、成績評価の方法などについて説明する。 [授業外学習] シラバスを熟読して内容を理解する(30分)。	⑨	[テーマ] ジェンダーと社会教育(1) [内容] ジェンダーの問題に関する基本的事項について説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。
②	[テーマ] 家庭教育と社会教育(1) [内容] 家庭教育に関する基本的事項について説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。	⑩	[テーマ] ジェンダーと社会教育(2) [内容] ジェンダーの問題と教育の関係をめぐる近年の状況について説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。
③	[テーマ] 家庭教育と社会教育(2) [内容] 家庭教育をめぐる近年の問題状況について説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。	⑪	[テーマ] ジェンダーと社会教育(3) [内容] 前々回および前回の授業内容をふまえて、社会教育施設におけるこの分野の近年の実践事例を紹介する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。
④	[テーマ] 家庭教育と社会教育(3) [内容] 前々回および前回の授業内容をふまえて、社会教育施設におけるこの分野の近年の実践事例を紹介する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。	⑫	[テーマ] 高齢化と社会教育(1) [内容] 高齢化の問題に関する基本的事項について説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。
⑤	[テーマ] 青少年問題と社会教育(1) [内容] 青少年の教育に関する基本的事項について説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。	⑬	[テーマ] 高齢化と社会教育(2) [内容] 高齢化の問題と教育の関係をめぐる近年の状況について説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。
⑥	[テーマ] 青少年問題と社会教育(2) [内容] 青少年の教育をめぐる近年の問題状況について説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。	⑭	[テーマ] 高齢化と社会教育(3) [内容] 前々回および前回の授業内容をふまえて、社会教育施設におけるこの分野の近年の実践事例を紹介する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。
⑦	[テーマ] 青少年問題と社会教育(3) [内容] 前々回および前回の授業内容をふまえて、社会教育施設におけるこの分野の近年の実践事例を紹介する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。	⑮	[テーマ] 現代社会における社会教育 [内容] これまでの単元で扱った内容を総合的に検討し、現代社会における社会教育の課題について考察する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。
⑧	[テーマ] レポート作成(1) [内容] ここまでの授業内容に関してレポートを作成する。 [授業外学習] レポート作成に向けて準備をしておく(120分)。	⑯	[テーマ] レポート作成(2) [内容] 授業内容全般に関してレポートを作成する。 [授業外学習] レポート作成に向けて準備をしておく(180分)。

成績評価方法(方針)

前半終了時と学期末にレポートを課す(評価割合100%)。出席は評価割合に加えず欠格条件となる。レポートは講評とともに返却する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				評価対象外
授業内レポート	◎	◎		100%
授業外レポート				評価対象外
演習・実技				評価対象外
授業態度				減点あり
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・大学設置基準では授業外の学修を単位認定の条件としている。成績評価はこのことを前提として行なうので、毎週の90分の授業参加だけでは単位の修得は不可能である。
・2/3以上の出席がないと単位を修得することはできない(欠格条件)。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。

関連科目	生涯学習概論A(1年)、教育社会学(2年)、社会教育計画A(3年)、社会教育演習A(3年)、社会教育計画B(4年)、社会教育演習B(4年)		
教科書	教材はプリントして配付する。	参考書	特に指定しない。
連絡先	坂根研究室A棟5階513		

授業科目名	社会教育計画A Social Education Planning A(L.)				担当教員	針生　弘 / 郡山　孝幸
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義	関連資格	社会教育主事任用資格
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

現代における社会教育計画の基本的なプロセス、並びに各種社会教育施設の基本的性格、運営の実際と課題について概説し、生涯学習体制のもとでの計画のあり方と生涯学習まちづくりの関連について紹介していく。

授業の一般目標

生涯学習のまちづくりとの関連における社会教育計画の作成ができるようになる。また、社会教育主事として各種社会教育施設の特徴を知り、計画作成、事業のあり方について思考する能力を身につける。

授業の到達目標

■	認知的領域	社会教育計画を作成できる。
■	情意的領域	社会教育主事として住民のニーズをとらえた計画作成に取り組めるようになる。
□	技能表現的領域	

授業計画(全体)

各授業のテーマに沿った資料を用いた講義が中心であるが、より理解を深めるために生涯学習施設等の見学や地域住民との交流を行う。また授業の感想と課題を何回か授業内レポートとして提出させることで、理解度、到達度を確認する。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介　授業の目標と進め方　成績評価の方法 [授業外学習] シラバスを熟読し内容を理解する。	⑨	[テーマ] 社会教育施設計画(3) [内容] 博物館の役割について説明する。 [授業外学習] 博物館の役割について説明できるようにしておくこと。
②	[テーマ] 生涯学習社会における社会教育の役割 [内容] 生涯学習の概念および社会教育のあり方について説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして説明できるようにしておくこと。	⑩	[テーマ] 社会教育施設計画(4) [内容] 青少年教育施設の役割について説明する。(特に仙台市の自然の家の役割について学ぶ) [授業外学習] 青少年教育施設の役割について説明できるようにしておくこと。
③	[テーマ] 生涯学習振興と社会教育計画 [内容] 生涯学習振興と社会教育計画の関連について説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして説明できるようにしておくこと。	⑪	[テーマ] 社会教育施設計画(5) [内容] 青少年教育施設の事業と計画について説明する。(特に宮城県内の自然の家の役割について学ぶ) [授業外学習] 授業の復習をして説明できるようにしておくこと。
④	[テーマ] 生涯学習の推進と社会教育計画(1) [内容] 市町村の事例(特に柴田町の事例)をもとに説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして説明できるようにしておくこと。	⑫	[テーマ] 社会教育施設計画(6) [内容] 女性教育施設の役割について説明する。(特に男女共同参画社会のあり方を仙台市のエルソーラ仙台の事業を例に学ぶ) [授業外学習] 女性教育施設について説明できるようにしておくこと。
⑤	[テーマ] 生涯学習の推進と社会教育計画(2) [内容] 宮城県内の生涯学習の事例をもとに説明する。(仙台市及び県内他市町村の事例を紹介) [授業外学習] 授業の復習をし、事例について説明できるようにしておくこと。	⑬	[テーマ] 社会教育施設計画(7) [内容] 社会体育施設の役割について説明する。 [授業外学習] 社会体育施設について説明できるようにしておくこと。
⑥	[テーマ] 生涯学習時代における社会教育計画の作成 [内容] 社会教育計画作成の手順について生涯学習事業の様子を見学することにより学ぶ(移動学習) [授業外学習] 社会教育計画作成の手順について説明できるようにしておくこと。	⑭	[テーマ] 社会教育施設計画(8) [内容] 生涯学習センターの役割について説明する。(仙台市の生涯学習施設を見学しながら学ぶ) [授業外学習] 生涯学習センターについて説明できるようにしておくこと。
⑦	[テーマ] 社会教育施設計画(1) [内容] 公民館の役割について説明する。 [授業外学習] 公民館の役割について説明できるようにしておくこと。	⑮	[テーマ] 生涯学習時代における社会教育施設の役割と計画 [内容] 社会教育施設の現代的役割について説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして説明できるようにしておくこと。
⑧	[テーマ] 社会教育施設計画(2) [内容] 図書館の役割について説明する。 [授業外学習] 図書館の役割について説明できるようにしておくこと。	⑯	[テーマ] テスト [内容] 学習の理解度、到達度を確かめるために期末テストを行う。 [授業外学習] テストに備えて授業内容全体について復習をしておくこと。

成績評価方法(方針)

試験は期末試験を1回実施する(評価割合50%)。また、授業内レポート(評価割合35%)と出席点(15%)を課す。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎			50%
授業内レポート		◎		35%
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度				
出席		◎		15%

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・授業態度が悪い学生に対しては成績評価から減点する。
・授業中は携帯電話をかばんの中にしまうこと。
・授業中の私語は慎み授業に集中すること。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。
・授業計画は授業の進み方により多少前後することがある。

関連科目	「社会教育計画B」		
教科書	特に指定しない	参考書	社会教育法
連絡先	郡山研究室、針生研究室		

授業科目名	社会教育計画B Social Education Planning B(L.)				担当教員	郡山　孝幸/針生　弘
開講内容	学年・学期	4・半期	授業方法	講義	関連資格	社会教育主事任用資格
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

「社会教育計画A」の内容を踏まえ、社会教育事業のあり方や、学校教育との連携をもとにした地域づくりについて具体例をもとに紹介する。

授業の一般目標

社会教育事業の企画と実践の仕方を考えることができるようになる。また、学社連携の実際について具体的に思考できる能力を身につける。

授業の到達目標

■	認知的領域	社会教育事業の企画と実践について考えることができる。
■	情意的領域	社会教育事業の発展として学社連携を捉えることができるようになる。
■	技能表現的領域	社会教育事業の広報活動の意義を理解できるようになる。

授業計画（全体）

各授業のテーマに沿った資料を用いた講義が中心であるが、より理解を深めるために現地見学や地域住民との交流を行う。またこれまで生活をしてきた柴田町の行政や地域の特色を知るために，生涯学習に関する広報紙を作成するなどの活動を通し，主体的な取り組みを促す。理解度，到達度の確認のために授業後の感想と課題を授業内レポートとして提出させることがある。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介　授業の目標と進め方　成績評価の方法 [授業外学習] シラバスを熟読し内容を理解する。	⑨	[テーマ] 社会教育事業の展開(8) [内容] 仙台市の生涯学習の概要について説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして内容について説明できるようにしておくこと。
②	[テーマ] 社会教育事業の展開(1) [内容] 社会教育事業の企画のあり方について説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして内容について説明できるようにしておくこと。	⑩	[テーマ] 社会教育事業の展開(9) [内容] 仙台市の生涯学習の概要について説明する。(特に高齢者教育について学ぶ) [授業外学習] 「高齢者教育」の実際について考えておくこと。
③	[テーマ] 社会教育事業の展開(2) [内容] 柴田町の生涯学習の事業について説明する。(主に行政機関による事業について) [授業外学習] 授業の復習をして内容について説明できるようにしておくこと。	⑪	[テーマ] 社会教育事業の展開(10) [内容]社会教育事業の計画を立てる。(仙台市内の生涯学習センターを見学する) [授業外学習] 「生涯学習センター」の実際について考えておくこと。
④	[テーマ] 社会教育事業の展開(3) [内容] 柴田町の生涯学習の事業について説明する。(主に民間による事業推進について) [授業外学習] 授業の復習をして内容について説明できるようにしておくこと。	⑫	[テーマ] 学校教育と社会教育の連携・融合(1) [内容] 学社連携・融合の事業計画をもとに具体的に説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして内容について説明できるようにしておくこと。
⑤	[テーマ] 社会教育事業の展開(4) [内容] 柴田町の生涯学習事業について現地で学ぶ(柴田町内生涯学習センター等を見学する) [授業外学習] 授業の復習をして内容について説明できるようにしておくこと。	⑬	[テーマ] 学校教育と社会教育の連携・融合(2) [内容] 学校支援地域本部、コミュニティスクールの役割等について具体的に説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして内容について説明できるようにしておくこと。
⑥	[テーマ] 社会教育事業の展開(5) [内容] 柴田町の生涯学習事業について現地で学ぶ(柴田町内各地域における生涯学習の取り組みを見学する) [授業外学習] 柴田町の生涯学習について幅広く知識を得ること。	⑭	[テーマ] 学校教育と社会教育の連携・融合(3) [内容] 宮城県内の学社連携・融合の事業推進について現地で学ぶ(各小学校における学校支援地域本部を見学する) [授業外学習] 「学校支援地域本部」の実際について考えておくこと。
⑦	[テーマ] 社会教育事業の展開(6) [内容] 柴田町の生涯学習や観光資源について調査を行う。(広報紙作成のための計画を立案する) [授業外学習] 柴田町の生涯学習について幅広く知識を得ること。	⑮	[テーマ] 社会教育主事の役割 [内容] 生涯学習時代における社会教育主事の役割について説明する。 [授業外学習] 社会教育主事の役割について説明できるようにしておくこと。
⑧	[テーマ] 社会教育事業の展開(7) [内容] 柴田町の生涯学習や観光資源について調査を行う。(広報紙の編集・印刷を行う) [授業外学習] 柴田町の生涯学習について幅広く知識を得ること。	⑯	[テーマ] テスト [内容] 学習の理解度、到達度を確かめるために期末テストを行う。 [授業外学習] テストに備えて授業内容全体について復習をしておくこと。

成績評価方法（方針）

試験は期末試験を1回実施する(評価割合40%)。また、授業内レポート(評価割合40%)と出席点(20%)を課す。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎			40%
授業内レポート		◎		40%
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度				
出席		◎		20%

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・授業態度が悪い学生に対しては成績評価から減点する。
・授業中は携帯電話をかばんの中にしまうこと。
・授業中の私語は慎み授業に集中すること。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。
・授業計画は授業の進み方により多少前後することがある。

関連科目	「社会教育計画A」		
教科書	特に指定しない	参考書	社会教育法
連絡先	郡山研究室、針生研究室		

授業科目名	社会教育演習A Seminar on Social Education A(S.)				担当教員	坂根 治美
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	演習	関連資格	社会教育主事任用資格
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

本授業では、下記関連科目の授業内容をふまえて次の二つのテーマで演習を行なう。1. わが国の生涯学習、社会教育を考えるうえで比較の対象とすべきいくつかの国をとりあげて、それぞれの国の生涯学習の特質をその社会状況と関連させながら考察する。2. 諸外国との比較の視点を取り入れながら、わが国の生涯学習、社会教育のあり方について考察する。

授業の一般目標

(1)授業でとりあげるいくつかの国の生涯学習の基本的状況について理解する。
(2)上記の国々の生涯学習の基本的状況に関心を持ち、その特質について社会状況と関連させながら主体的に考えることができる。
(3)上記の国々の生涯学習の基本的状況と比較しながら、わが国の生涯学習、社会教育について主体的に考えることができる。

授業の到達目標

■	認知的領域	授業でとりあげるいくつかの国の生涯学習の基本的状況について説明できる。
■	情意的領域	授業でとりあげるいくつかの国およびわが国の生涯学習や社会教育に関心を持ち、その問題について主体的に考えることができる。
■	技能表現的領域	上記の考察の結果を論理的に発表原稿にまとめ発表することができる。

授業計画(全体)

オリエンテーションのあと、演習を進めるにあたって理解しておくべき基本的事項についての情報の提供を数回、講義形式で行なう。その内容の理解をふまえて教材となる論文を読み、受講生が発表、コメントをするかたちで演習形式で授業を展開する。毎回、演習の成果を小レポートにまとめてもらい、さらに学期末には試験の代わりとして授業全体のまとめのレポートを提出してもらう。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の目標と進め方、成績評価の方法などについて説明する。 [授業外学習] シラバスを熟読して内容を理解する(30分)。	⑨	[テーマ] わが国の生涯学習・社会教育を扱った論文講読(1) [内容] 外国人居住者の問題を扱った論文を教材として演習を行なう。 [授業外学習] 教材について考察しておく(60分)。発表者は原稿作成(120分)。
②	[テーマ] 基本的事項の講義(1) [内容] 授業を進めるにあたって必要な基本的事項についての講義(「ユネスコと生涯教育」)を行なう。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。	⑩	[テーマ] わが国の生涯学習・社会教育を扱った論文講読(2) [内容] 非識字問題を扱った論文を教材として演習を行なう。 [授業外学習] 教材について考察しておく(60分)。発表者は原稿作成(120分)。
③	[テーマ] 基本的事項の講義(2) [内容] 授業を進めるにあたって必要な基本的事項についての講義(「OECDのリカレント教育」)を行なう。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。	⑪	[テーマ] わが国の生涯学習・社会教育を扱った論文講読(3) [内容] 青少年問題を扱った論文を教材として演習を行なう。 [授業外学習] 教材について考察しておく(60分)。発表者は原稿作成(120分)。
④	[テーマ] 基本的事項の講義(3) [内容] 授業を進めるにあたって必要な基本的事項についての講義(「ユネスコの学習権宣言」)を行なう。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。	⑫	[テーマ] わが国の生涯学習・社会教育を扱った論文講読(4) [内容] ジェンダーの問題(特に女性の問題)を扱った論文を教材として演習を行なう。 [授業外学習] 教材について考察しておく(60分)。発表者は原稿作成(120分)。
⑤	[テーマ] 諸外国の生涯学習を扱った論文講読(1) [内容] 発展途上国(アフリカ)を対象とする論文を教材として演習を行なう。 [授業外学習] 教材について考察しておく(60分)。発表者は原稿作成(120分)。	⑬	[テーマ] わが国の生涯学習・社会教育を扱った論文講読(5) [内容] ジェンダーの問題(特に男性の問題)を扱った論文を教材として演習を行なう。 [授業外学習] 教材について考察しておく(60分)。発表者は原稿作成(120分)。
⑥	[テーマ] 諸外国の生涯学習を扱った論文講読(2) [内容] 発展途上国(アジア)を対象とする論文を教材として演習を行なう。 [授業外学習] 教材について考察しておく(60分)。発表者は原稿作成(120分)。	⑭	[テーマ] わが国の生涯学習・社会教育を扱った論文講読(6) [内容] 高齢者問題を扱った論文を教材として演習を行なう。 [授業外学習] 教材について考察しておく(60分)。発表者は原稿作成(120分)。
⑦	[テーマ] 諸外国の生涯学習を扱った論文講読(3) [内容] 先進国(ヨーロッパ)を対象とする論文を教材として演習を行なう。 [授業外学習] 教材について考察しておく(60分)。発表者は原稿作成(120分)。	⑮	[テーマ] わが国の生涯学習・社会教育を扱った論文講読(7) [内容] 社会教育施設に関する問題を扱った論文を教材として演習を行なう。 [授業外学習] 教材について考察しておく(60分)。発表者は原稿作成(120分)。
⑧	[テーマ] 諸外国の生涯学習を扱った論文講読(4) [内容] 先進国(アメリカ)を対象とする論文を教材として演習を行なう。 [授業外学習] 教材について考察しておく(60分)。発表者は原稿作成(120分)。	⑯	[テーマ] レポート作成 [内容] 授業全体のまとめとして期末のレポートを書く。 [授業外学習] レポート作成に向けて授業全体の復習をしておく(90分)。

成績評価方法(方針)

演習形式で行なう授業においては毎回発表者とコメンテーターを割り当てるが、その発表の内容、コメントの内容(以上評価割合40%)、毎回全員が書く小レポートの内容(評価割合40%)および期末のまとめのレポートの内容(評価割合20%)により評価する。出席は評価割合に加えず欠格条件となる。発表・コメントについては授業中に講評し、まとめのレポートについては講評とともに返却する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 \ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				評価対象外
授業内レポート	◎	◎	◎	60%
授業外レポート				評価対象外
演習・実技	◎	◎	◎	40%
授業態度				減点あり
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・演習であるので毎回の授業に向けての自主学習がきわめて重要である。毎週の90分の授業参加だけでは単位の修得は不可能である。
・2/3以上の出席がないと単位を修得することはできない(欠格条件)。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。

関連科目	生涯学習概論A(1年)、生涯学習概論B(2年)、教育社会学(2年)、社会教育計画A(3年)、社会教育計画B(4年)、社会教育演習B(4年)		
教科書	教材はプリントして配付する。	参考書	特に指定しない。
連絡先	坂根研究室A棟5階513		

授業科目名	社会教育演習B Seminar on Social Education B(S.)				担当教員	坂根 治美
開講内容	学年・学期	4・半期	授業方法	演習	関連資格	社会教育主事任用資格
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

本授業では、下記関連科目の授業内容をふまえて次の二つのテーマで演習を行なう。
1.「地域社会と教育」をテーマとする論文の講読をとおして、この問題について具体的に考察する。
2.「学社融合」をテーマとする論文の講読をとおして、この問題について具体的に考察する。

授業の一般目標

(1)「地域社会と教育」に関する基本的事項について説明できる。
(2)「学社融合」に関する基本的事項について説明できる。
(3)上記の分野に関連する論文の講読をとおして、こうした問題について主体的に考察できる。

授業の到達目標

■	認知的領域	「地域社会と教育」、「学社融合」に関する基本的事項について説明できる。
■	情意的領域	上記の分野に関連する論文の講読をとおして、こうした問題について主体的に考察できる。
■	技能表現的領域	上記の考察の結果を論理的に発表原稿にまとめ発表することができる。

授業計画(全体)

演習を進めるにあたって理解しておくべき基本的事項についての情報の提供を数回、講義形式で行なう。その内容の理解をふまえて教材となる論文を読み、受講生が発表、コメントをするかたちで演習形式で授業を展開する。毎回、演習の成果を小レポートにまとめてもらい、さらに学期末には試験の代わりとして授業全体のまとめのレポートを提出してもらう。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の目標と進め方、成績評価の方法などについて説明する。 [授業外学習] シラバスを熟読して内容を理解する(30分)。	⑨	[テーマ] 基本的事項の講義(3) [内容] 授業を進めるにあたって必要な基本的事項についての講義(「学社連携と学社融合」)を行なう。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。
②	[テーマ] 基本的事項の講義(1) [内容] 授業を進めるにあたって必要な基本的事項についての講義(「地域社会の社会学」)を行なう。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。	⑩	[テーマ] 基本的事項の講義(4) [内容] 授業を進めるにあたって必要な基本的事項についての講義(「学社融合と社会教育施設」)を行なう。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。
③	[テーマ] 基本的事項の講義(2) [内容] 授業を進めるにあたって必要な基本的事項についての講義(「地域社会と教育」)を行なう。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。	⑪	[テーマ]「学社融合」をテーマとする論文講読(1) [内容] 関係する分野の論文を教材として演習を行なう。 [授業外学習] 教材について考察しておく(60分)。発表者は原稿作成(120分)。
④	[テーマ]「地域社会と教育」をテーマとする論文講読(1) [内容] 関係する分野の論文を教材として演習を行なう。 [授業外学習] 教材について考察しておく(60分)。発表者は原稿作成(120分)。	⑫	[テーマ]「学社融合」をテーマとする論文講読(2) [内容] 関係する分野の論文を教材として演習を行なう。 [授業外学習] 教材について考察しておく(60分)。発表者は原稿作成(120分)。
⑤	[テーマ]「地域社会と教育」をテーマとする論文講読(2) [内容] 関係する分野の論文を教材として演習を行なう。 [授業外学習] 教材について考察しておく(60分)。発表者は原稿作成(120分)。	⑬	[テーマ]「学社融合」をテーマとする論文講読(3) [内容] 関係する分野の論文を教材として演習を行なう。 [授業外学習] 教材について考察しておく(60分)。発表者は原稿作成(120分)。
⑥	[テーマ]「地域社会と教育」をテーマとする論文講読(3) [内容] 関係する分野の論文を教材として演習を行なう。 [授業外学習] 教材について考察しておく(60分)。発表者は原稿作成(120分)。	⑭	[テーマ]「学社融合」をテーマとする論文講読(4) [内容] 関係する分野の論文を教材として演習を行なう。 [授業外学習] 教材について考察しておく(60分)。発表者は原稿作成(120分)。
⑦	[テーマ]「地域社会と教育」をテーマとする論文講読(4) [内容] 関係する分野の論文を教材として演習を行なう。 [授業外学習] 教材について考察しておく(60分)。発表者は原稿作成(120分)。	⑮	[テーマ]「学社融合」をテーマとする論文講読(5) [内容] 関係する分野の論文を教材として演習を行なう。 [授業外学習] 教材について考察しておく(60分)。発表者は原稿作成(120分)。
⑧	[テーマ]「地域社会と教育」をテーマとする論文講読(5) [内容] 関係する分野の論文を教材として演習を行なう。 [授業外学習] 教材について考察しておく(60分)。発表者は原稿作成(120分)。	⑯	[テーマ] レポート作成 [内容] 授業全体のまとめとして期末のレポートを書く。 [授業外学習] レポート作成に向けて授業全体の復習をしておく(90分)。

成績評価方法(方針)

演習形式で行なう授業においては毎回発表者とコメンテーターを割り当てるが、その発表の内容、コメントの内容(以上評価割合40%)、毎回全員が書く小レポートの内容(評価割合40%)および期末のまとめのレポートの内容(評価割合20%)により評価する。出席は評価割合に加えず欠格条件となる。発表・コメントについては授業中に講評し、まとめのレポートについては講評とともに返却する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 \ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				評価委対象外
授業内レポート	◎	◎	◎	60%
授業外レポート				評価対象外
演習・実技	◎	◎	◎	40%
授業態度				減点あり
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・演習であるので毎回の授業に向けての自主学習がきわめて重要である。毎週の90分の授業参加だけでは単位の修得は不可能である。
・2/3以上の出席がないと単位を修得することはできない(欠格条件)。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。

関連科目	生涯学習概論A(1年)、生涯学習概論B(2年)、教育社会学(2年)、社会教育計画A(3年)、社会教育演習A(3年)、社会教育計画B(4年)		
教科書	教材はプリントして配付する。	参考書	特に指定しない。
連絡先	坂根研究室A棟5階513		

授業科目名	教育社会学 Sociology of Education (L.)				担当教員	坂根 治美
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格	社会教育主事任用資格
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

現代社会が直面する各分野の問題および関連する教育の課題について教育社会学の理論の紹介を交えながら概説する。また、各領域の教育活動の事例として特に社会教育施設における諸実践を紹介して、現代社会における社会教育の課題について説明する。

授業の一般目標

(1)現代社会が直面する各分野の問題および関連する教育の課題について理解するとともに、こうした問題についての教育社会学の理論を理解する。
(2)上記の諸問題についての関心を持ち、授業内容をふまえて現代社会における社会教育について主体的に考察することができる。

授業の到達目標

■	認知的領域	現代社会が直面する各分野の問題および関連する教育の課題を理解するとともに、こうした問題についての教育社会学の理論を理解する。
■	情意的領域	上記の諸問題についての関心を持ち、授業内容をふまえて現代社会における社会教育について主体的に考察することができる。
□	技能表現的領域	

授業計画(全体)

各授業テーマに沿った資料を用いた講義が中心である。各単元ごとに基本的事項の解説、近年の具体的状況の説明をし、それをふまえて社会教育施設における実践活動について紹介・検討することで社会教育の各領域の問題についての受講生の主体的考察につなげる。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の目標と進め方、成績評価の方法などについて説明する。 [授業外学習] シラバスを熟読して内容を理解する(30分)。	⑨	[テーマ] 平和・人権問題と教育(4) [内容] (1)～(3)の内容をふまえて、社会教育施設におけるこの分野の近年の実践事例を紹介する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。
②	[テーマ] グローバリゼーションと教育(1) [内容] グローバリゼーションと教育の関係に関する基本的事項について説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。	⑩	[テーマ] 環境・開発問題と教育(1) [内容] 環境・開発問題と教育の関係に関する基本的事項について説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。
③	[テーマ] グローバリゼーションと教育(2) [内容] グローバリゼーションと教育の関係に関する基本的事項について説明する(承前)。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。	⑪	[テーマ] 環境・開発問題と教育(2) [内容] 環境・開発問題と教育の関係に関する基本的事項について説明する(承前。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。
④	[テーマ] グローバリゼーションと教育(3) [内容] グローバリゼーションと教育の関係をめぐる近年の状況について説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。	⑫	[テーマ] 環境・開発問題と教育(3) [内容] 環境・開発問題と教育の関係に関する近年の状況について説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。
⑤	[テーマ] グローバリゼーションと教育(4) [内容] (1)～(3)の内容をふまえて、社会教育施設におけるこの分野の近年の実践事例を紹介する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。	⑬	[テーマ] 環境・開発問題と教育(4) [内容] (1)～(3)の内容をふまえて、社会教育施設におけるこの分野の近年の実践事例を紹介する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。
⑥	[テーマ] 平和・人権問題と教育(1) [内容] 平和・人権問題と教育の関係に関する基本的事項について説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。	⑭	[テーマ] 現代社会における社会教育(1) [内容] ここまで扱った現代社会の諸相と社会教育の関係を総合的に説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。
⑦	[テーマ] 平和・人権問題と教育(2) [内容] 平和・人権問題と教育の関係に関する基本的事項について説明する(承前)。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。	⑮	[テーマ] 現代社会における社会教育(2) [内容] さまざまな問題を抱える現代社会における社会教育の役割について説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。
⑧	[テーマ] 平和・人権問題と教育(3) [内容] 平和・人権問題と教育の関係に関する近年の状況について説明する。 [授業外学習] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく(90分)。	⑯	[テーマ] テスト [内容] 授業内容の理解度を確かめるために期末テストを行なう。 [授業外学習] テストに備え授業内容全体の十分な復習をしておく(300分)。

成績評価方法(方針)

学期末に授業内容全体の理解度を確かめるためのテストを実施し、その結果で成績評価を行なう。出席は評価割合に加えず欠格条件となる。試験の答案は講評とともに返却する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎	◎		100%
授業内レポート				評価対象外
授業外レポート				評価対象外
演習・実技				評価対象外
授業態度				減点あり
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・大学設置基準では授業外の学修を単位認定の条件としている。成績評価はこのことを前提として行なうので、毎週の90分の授業参加だけでは単位の修得は不可能である。
・2/3以上の出席がないと単位を修得することはできない(欠格条件)。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。

関連科目	生涯学習概論A(1年)、生涯学習概論B(2年)、社会教育計画A(3年)、社会教育演習A(3年)、社会教育計画B(4年)、社会教育演習B(4年)		
教科書	教材はプリントして配付する。	参考書	特に指定しない。
連絡先	坂根研究室A棟5階513		

授業科目名	レクリエーション支援論 Instruction Method for Recreation Activities(L.)				担当教員	仲野　隆士
開講内容	学年・学期	4・半期	授業方法	講義	関連資格	レクリエーション・コーディネーター
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

本講義では、レクリエーション運動を推進する上で特に重要な役割を担うであろうレクリエーション・コーディネーターが支援者として理解すべき諸理論並びに支援技術、時代が求めるレクリエーションの新たなビジョンなどを具体的に概説する。

授業の一般目標

レクリエーション運動を推進するレクリエーション支援者として理解すべき諸理論並びに支援技術、時代が求めるレクリエーションの新たなビジョンなどを具体的に理解する。

授業の到達目標

■	認知的領域	支援者として求められる問題解決技法、レジャーカウンセリング、イベント企画などの基礎がわかる
■	情意的領域	支援者として支援する楽しさや喜びがわかる
■	技能表現的領域	グループワークやプレゼンテーション資料の作成などを通して、支援に必要な技術を高める

授業計画(全体)

新世紀を迎えた現在、私達はこれまでにない多くの自由時間を得ようとしている。その余暇社会の中において、レクリエーション支援者の果すべき役割は過去のどの時代よりの重要になっていくであろう。それを前提として、テキストもさることながら、補足資料配布によるデータの補強、パワーポイントのスライドによる説明、ビデオの映像により理解を深めるなど、工夫しながら授業を展開していく。何回かに1度、授業中にショートレポートを作成し提出してもらうことにしたい。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 授業オリエンテーション [内容] 授業の進め方、筆記試験、評価の説明他 [授業外学習] シラバスを読んでおくこと	⑨	[テーマ] レクリエーションサービス論 [内容] 資料を配布し、説明する [授業外学習] 配布資料を復習しておくこと
②	[テーマ] レクリエーション支援者の支援場面に学ぶ [内容] レクリエーションのベテラン支援者の支援場面のビデオを観察し、どのような点で優れているのか、個々の支援者の個性はどうなのか、自分ならどのように支援するか [授業外学習] 授業で気づいたことをまとめておくこと	⑩	[テーマ] レクリエーション・マーケティング1 [内容] 資料を配布し、説明する [授業外学習] 配布資料を復習しておくこと
③	[テーマ] レクリエーション指導・支援の意味と役割 [内容] 上記テーマについて板書しながら解説する [授業外学習] 書き写したノートを復習しておくこと	⑪	[テーマ] レクリエーション・マーケティング2 [内容] 資料を配布し、説明する [授業外学習] 配布資料を復習しておくこと
④	[テーマ] レクリエーション指導・支援の原則 [内容] 上記テーマについて板書しながら解説する [授業外学習] 書き写したノートを復習しておくこと	⑫	[テーマ] ネットワーキング [内容]　資料を配布し、説明する [授業外学習] 配布資料を復習しておくこと
⑤	[テーマ] レクリエーション指導・支援の技術 [内容] 上記テーマについて板書しながら解説する [授業外学習] 書き写したノートを復習しておくこと	⑬	[テーマ] プレゼンテーション [内容] 資料を配布し、説明する [授業外学習] 配布資料を復習しておくこと
⑥	[テーマ] レクリエーション指導・支援の内容と支援者に求められる資質 [内容] 上記テーマについて板書しながら解説する [授業外学習] 書き写したノートを復習しておくこと	⑭	[テーマ]　プロモーション [内容] 資料を配布し、説明する [授業外学習] 配布資料を復習しておくこと
⑦	[テーマ] レクリエーション支援の理論 [内容] 上記テーマについて板書しながら解説する [授業外学習] 書き写したノートを復習しておくこと	⑮	[テーマ] 会議の持ち方、経理・財務管理 [内容] 資料を配布し、説明する [授業外学習] 配布資料を復習しておくこと
⑧	[テーマ] レクリエーション組織の経営論 [内容] 資料を配布し、説明する [授業外学習] 配布資料を復習しておくこと	⑯	[テーマ]　テスト [内容] 持ち込み「可」による筆記試験を実施(レポート形式) [授業外学習]

成績評価方法(方針)

筆記試験(レポート形式)の他、ショートレポート、出席状況、授業態度などを基に、総合的に評価する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎	○		40
授業内レポート	◎	○		40
授業外レポート				評価対象外
演習・実技		○	◎	20
授業態度				減点あり
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

興味関心の強い学生は、教室の前の方で受講してほしい。また、教室後方で受講する学生も、周りに迷惑を及ぼすような言動や行動を慎むことを基本的なルールとする。質問のある学生は、授業中に質問してもかまわないし、研究室に来て質問をしてもかまわない。
黒板に書かれた内容のみをノートに書き写すのではなく、説明などの話で重要と思われる内容はメモするように心がけてほしい。
出席は毎回取るので、試合や実習等で欠席する場合は、事前に欠席届を提出すること。

関連科目	レジャー・レクリエーション論、野外・レクリエーション・マネジメント論(含演習)など		
教科書	『ﾚｸﾘｴｰｼｮﾝ・ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾄのすすめ方』(財)日レク協会編	参考書	『レクリエーションマネジメント』・『レジャーカウンセリング』 (財)日本レクリエーション協会編
連絡先	A棟508仲野研究室		

授業科目名	水上安全法(含実習) Aquatic Life Saving				担当教員	渡邉 泰典
開講内容	学年・学期	3年・半期	授業方法	講義(含実習)	関連資格	日本体育協会公認水泳コーチ
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

本授業では、水難事故を未然に防ぐための具体的な方法と、万一の事故に適切に対処するための自己保全ならびに一次救命処置の方法について講義と実践形式で展開する。日本赤十字社水上安全法および日本ライフセービング協会ウォーターセーフティー双方のメソッドを導入し、水辺で「いのち」を守るための基礎技能を養成する。

授業の一般目標

水難事故の発生リスクと事故を未然に防ぐための要点をよく理解し、自己保全に努めることができる。万一、水難事故に遭遇した場合でも、生きながらえるための浮き身の方法と人命救助のための方法を修得し、状況に応じて適切に使い分けることができるようになる。

授業の到達目標

■	認知的領域	水難事故の現状、発生リスク、事故を未然に防ぐための具体的な方法と、一次救命処置の方法を正しく説明することができる。
■	情意的領域	人命尊重の精神、水泳指導者としての安全確保と事故防止の精神について知る。
■	技能表現的領域	立ち泳ぎ、横泳ぎ、浮き身と人命救助(心肺蘇生を含む)のための基本的な技能を身につける。

授業計画(全体)

前半4回の授業は教室にて水上安全法の理論を講義する。その後プールにて実技に移行する。第1段階は基礎泳力として立泳ぎ、横泳ぎを教示し、第2段階で浮き身と救助法、第3段階で心肺蘇生法について理論と実践を併用して説明する。これと平行して海浜実習を利用し、補助学生という立場で必修参加させ、実地での指導マナー・救助マニュアルを体験させる。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 水上安全法とは何か、救助員資格取得と本授業との関連性、授業の進め方等について教室にて説明し、再度、受講の意思確認する。 [授業外学習] 改めて履修するか確認し、希望者は強い意志をもって臨むこと	⑨	[テーマ] キャリー&一次救命処置方法紹介【実技】 [内容] 溺者上陸後、担ぎ方・おろし方(ファイアマンズキャリー)から心肺蘇生法までの方法を紹介する。 [授業外学習] 実技試験に備え、よく練習しておくこと
②	[テーマ] 水上安全法理論Ⅰ【講義】 [内容] 日本赤十字社と日本ライフセービング協会の人命救助の精神と意義について学ぶ。 [授業外学習] 資格取得のための本講習、筆記試験にむけてよく復習すること	⑩	[テーマ] キャリー&一次救命処置方法訓練【実技】 [内容] 溺者上陸後、担ぎ方・おろし方(ファイアマンズキャリー)から心肺蘇生法までの方法を練習する。 [授業外学習] 実技試験に備え、よく練習しておくこと
③	[テーマ] 水上安全法理論Ⅱ【講義】 [内容] 水難事故の現状と発生リスク、事故を未然に防ぐための具体策について学ぶ。 [授業外学習] 資格取得のための本講習、筆記試験にむけてよく復習すること	⑪	[テーマ] 水上安全法(救助法)に関わる実技試験【実技】 [内容] 「立泳ぎ」「横泳ぎ」「潜水」「フロントクロール」「水難者への接近」「キャリー&一次救命処置」の実技試験を実施する。 [授業外学習] 遠征作業に合わせ、携帯品等を準備しておくこと
④	[テーマ] 水上安全法理論Ⅲ【講義】 [内容] 水難事故における対処法を「救助者」「要救助者」の双方の視点から学ぶ。 [授業外学習] 次回より実技を開始するので、事前にプールで泳いでおくこと	⑫	[テーマ] 海浜実習指導補助・救助体験【実技】 [内容] 海浜実習実施前日より現地出発、事前準備・事前指導救助訓練実施。本隊合流後、指導・救助補助に当たる。 [授業外学習] 報告会にあわせ、体験談をレポートにまとめておくこと
⑤	[テーマ] 水上安全法(救助法)に関わる基礎技能紹介【実技】 [内容] 救助のための基礎泳力となる「立泳ぎ」「横泳ぎ」「潜水」「フロントクロール」等を解説するとともに、受講生の能力を確認する。 [授業外学習] 紹介されたスキルを事前にプールにて練習しておくこと	⑬	[テーマ] 海浜実習補助指導・救助体験報告【講義】 [内容] 海浜実習体験、帰還後、反省を含めた報告会を実施する。 [授業外学習] 次回筆記試験に合わせ、理論について、復習しておくこと
⑥	[テーマ]水上安全法(救助法)に関わる基礎技能訓練【実技】 [内容] 救助のための基礎泳力となる「立泳ぎ」「横泳ぎ」「潜水」「フロントクロール」を練習をする。 [授業外学習] 紹介されたスキルを事前にプールにて練習しておくこと	⑭	[テーマ]水上安全法(救助法)筆記試験【講義】 [内容] 本授業初期に学んだ水上安全法理論を主に、指導補助体験から得た指導法・救助法について筆記試験を実施する。 [授業外学習] 採点結果を踏まえ、よく復習しておくこと
⑦	[テーマ] 水上安全法(救助法)における水難者への接近方法紹介【実技】 [内容] 溺者発見から「順下飛び」→「出足・フロントクロール」→「潜水」→「接近」→「チンプル」→「逆アオリ」→「キャリー」→上陸までの行程(スキル)を紹介する。 [授業外学習] 紹介されたスキルを事前にプールにて練習しておくこと	⑮	[テーマ] 授業総括【講義】 [内容] 本授業の総括とともに、本授業目標に対し、習得状況を確認し、授業点検評価を実施する。 [授業外学習] 資格取得のための本講習、筆記試験にむけてよく復習すること
⑧	[テーマ] 水上安全法(救助法)における水難者への接近方法訓練【実技】 [内容] 溺者発見から「順下飛び」→「出足・フロントクロール」→「潜水」→「接近」→「チンプル」→「逆アオリ」→「キャリー」→上陸までの行程(スキル)を練習する。 [授業外学習] 実技試験に備え、よく練習しておくこと	⑯	[テーマ]水上安全法(救助法)最終実技試験【実技】 [内容] 日本赤十字社救助員資格のための実技ノルマ未修得者を対象に最終実技テストを実施する。 [授業外学習]

成績評価方法(方針)

立泳ぎ、横泳ぎ実技および心肺蘇生法実技修得〔合格〕が絶対条件、海浜実習補助指導・救助体験が必須となる。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 \ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎			10%
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技			◎	70
授業態度		◎	◎	10
出席			◎	10

履修上の注意(受講学生に望むこと)

①1年次開講の水泳実技科目および海浜実習科目を受講済みで単位習得者に限る。
②7月中旬に実施される海浜実習に補助学生として参加しなくてはならない。
③習得スキルが多いので公認欠席以外の欠席は許されない。

関連科目	水泳、海浜実習、種目別コーチング演習Ⅰ(水泳)、種目別コーチング演習Ⅱ(水泳)、スポーツコーチング実習		
教科書	なし	参考書	なし
連絡先	LC棟2階207研究室 渡邉泰典(ysn-watanabe@sendai-u.ac.jp)		

授業科目名	地域スポーツ戦略論 Sport in Community(L)				担当教員	荒牧亜衣
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格	アシスタントマネジャー，社会教育主事任用
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

望ましいスポーツ文化の創造と地域の活性化のため、現在、総合型地域スポーツクラブなどによる地域スポーツが注目を集めている。講義では、わが国の地域の現状および地域の活性化の方法を解説した後、総合型地域スポーツクラブやスポーツイベントの意義や課題について説明する。

授業の一般目標

地域および地域の活性化、また地域スポーツの意義や課題等について理解できるようになる。さらに総合型地域スポーツクラブやスポーツイベントが企画できる能力を身につける。

授業の到達目標

■	認知的領域	地域の現状や地域活性化の方法、および地域スポーツの意義や課題について説明できる。
■	情意的領域	地域と地域スポーツに興味・関心をもち、積極的にスポーツイベント等に参加できるようになる。
■	技能表現的領域	クラブ運営やイベント運営を企画できるようになる。

授業計画(全体)

授業テーマに沿った資料を用いた講義を中心とするが、より理解を深めるために視聴覚機材も用いる。また授業の後半では、グループにより総合型地域スポーツクラブまたはスポーツイベントを企画し、発表を行う。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 地域(コミュニティ)とその現状 [内容] オリエンテーションを兼ね、地域(コミュニティ)とは何か、またその現状について解説する。 [授業外学習] 地元の地域の現状について発表できるようにしておくこと	⑨	[テーマ] 総合型地域スポーツクラブの課題とキーワード [内容] 総合型地域スポーツクラブ導入の諸問題や課題、また導入・育成のためのキーワードについて解説する。 [授業外学習] 講義の復習をしておくこと
②	[テーマ] 地域活性化とまちづくり [内容] 地域活性化やまちづくりの背景、およびその課題について解説する。 [授業外学習] まちづくりの具体例について発表できるようにしておくこと	⑩	[テーマ] 総合型地域スポーツクラブの先進事例(1) [内容] 「ソシオ成岩スポーツクラブ」の事例について解説する。 [授業外学習] 講義の復習をしておくこと
③	[テーマ] 地域活性化の方法 [内容] 地域活性化の方法について具体的に解説する。 [授業外学習] 地元の祭やイベントについて調べておくこと	⑪	[テーマ] 総合型地域スポーツクラブの先進事例(2) [内容] 宮城県内の総合型地域スポーツクラブについて解説する。 [授業外学習] 講義の復習をしておくこと
④	[テーマ] ビデオ鑑賞「パリオ」 [内容] イタリア・シエナ市の「パリオ祭」のビデオを鑑賞し、そこに見られる地域活性化のキーワードを抽出する。 [授業外学習] パリオ祭について調べておくこと	⑫	[テーマ] 総合型地域スポーツクラブの導入・育成手順と設置に向けて [内容] 総合型地域スポーツクラブの導入・育成手順、ならびに「スポーツによる地域活性化」についてまとめの解説をする。 [授業外学習] 講義の復習をしておくこと
⑤	[テーマ] 日本人のスポーツ参与の実態と「スポーツ振興計画・基本計画」 [内容] 資料に基づき日本人のスポーツ参与の実態と課題、さらに「スポーツ基本計画」について解説する。 [授業外学習] 「スポーツ基本計画」について調べておくこと	⑬	[テーマ] 総合型地域スポーツクラブの企画 [内容] グループワークにより、総合型地域スポーツクラブを企画する。 [授業外学習] 授業中にできなかったことをグループで話し合い、企画を立てる
⑥	[テーマ] ビデオ鑑賞「総合型地域スポーツクラブ」 [内容] 総合型地域スポーツクラブ導入のためのビデオを鑑賞し、理解を深める。 [授業外学習] 総合型地域スポーツクラブとは何かを簡単に調べておくこと	⑭	[テーマ] プレゼンテーション(1) [内容] 前半グループによる総合型地域スポーツクラブの発表とディスカッション。 [授業外学習] パワーポイントにより発表資料を作成しておくこと
⑦	[テーマ] 総合型地域スポーツクラブとその理念 [内容] 総合型地域スポーツクラブの政策背景やその理念、課題等について解説する。 [授業外学習] 地元の総合型地域スポーツクラブについて調べておくこと	⑮	[テーマ] プレゼンテーション(2) [内容] 後半グループによる総合型地域スポーツクラブの発表とディスカッション。 [授業外学習] パワーポイントにより発表資料を作成しておくこと
⑧	[テーマ] 総合型地域スポーツクラブの現状 [内容] 文部科学省による調査結果を紹介し、総合型地域スポーツクラブの現状を解説する。 [授業外学習] 講義の復習をしておくこと	⑯	[テーマ] 試験(小論文) [内容] 授業の理解度・到達度を確認するための期末試験(小論文)を行う。 [授業外学習] 期末試験に向け、復習しておくこと

成績評価方法(方針)

期末試験の成績(評価割合50%)、企画内容およびプレゼンテーション(評価割合40%)、および授業内レポート(評価割合10%)により評価するが、積極的な授業態度も加点する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎			50%
授業内レポート	○	◎		10%
授業外レポート				
演習・実技		◎	◎	40%
授業態度		○		加点あり
出席				

履修上の注意(受講学生に望むこと)

自ら地元の地域およびそこでのスポーツ活動について関心を持ち、できれば土日や休暇中に積極的に地域活動やスポーツ活動に参加し、観察や調査を行うなど現状を理解してほしい。

関連科目	スポーツ社会学(1年)，スポーツ経営学(1年)		
教科書		参考書	日本体育協会(平成20年)総合型クラブ創設ガイド
連絡先	荒牧研究室		

授業科目名	スポーツ政策論 Sport Policy(L.)				担当教員	馬場　宏輝
開講内容	学年・学期	4・半期	授業方法	講義	関連資格	レクリエーションコーディネーター
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

本授業は、わが国のスポーツ政策について、スポーツ行政との関わりを踏まえ、国・都道府県・市区町村の三つのレベルについて、具体例をあげて講義を行う。また、スポーツ関連団体におけるスポーツ政策やスポーツ政策の評価についても説明する。

授業の一般目標

国・都道府県・市区町村の三つのレベルにおけるスポーツ政策を知り、身近なスポーツ事業が、どのようにスポーツ政策と関わっているのか説明できるようになる。

授業の到達目標

■	認知的領域	国・都道府県・市区町村の三つのレベルにおけるスポーツ政策について説明できる。身近なスポーツ事業をスポーツ政策との関わりから考えることができる。
■	情意的領域	スポーツ政策が関わる身近なスポーツ事業に興味を持つことができる。
□	技能表現的領域	

授業計画（全体）

各授業テーマに沿った資料を用いた講義が中心であるが、より理解を深めるための視聴覚教材も用いる。各授業毎に、授業の感想と課題を授業内小レポートとして提出させることで、理解度・到達度を確認する。また、授業の進み具合によっては、協同作業としてのグループワークやレポートの発表等も行う。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法について説明する [授業外学習]シラバスを熟読すること	⑨	[テーマ] 都道府県のスポーツ政策について [内容] 都道府県のスポーツ政策について具体例をあげて説明する [授業外学習]身近な都道府県のスポーツ政策について調べておくこと
②	[テーマ] 政策とは [内容] 政策とは何か、行政との関わりから説明する [授業外学習]政策とは何か説明できるようになること	⑩	[テーマ] 市区町村のスポーツ政策について [内容] 市区町村のスポーツ政策について具体的をあげて説明する [授業外学習]身近な市区町村のスポーツ政策について調べておくこと
③	[テーマ] スポーツ政策について [内容] 政策とは何か、行政との関わりから説明する [授業外学習]スポーツ政策とは何か説明できるようになること	⑪	[テーマ] 日本体育協会のスポーツ政策について [内容] 日本体育協会のスポーツ政策について説明する [授業外学習]日本体育協会のスポーツ政策について説明できるようになること
④	[テーマ] スポーツ行政と関連する法律について [内容] スポーツ行政と関連する法律について説明する [授業外学習]]スポーツ行政と関連する法律について説明できること	⑫	[テーマ] 日本オリンピック委員会のスポーツ政策について [内容] 日本オリンピック委員会のスポーツ政策について説明する [授業外学習]オリンピック委員会の政策について説明できること
⑤	[テーマ] スポーツ行政の組織と役割について [内容] スポーツ行政の組織と役割について説明する [授業外学習]スポーツ行政の組織と役割について説明できるようになること	⑬	[テーマ] スポーツ政策の政策評価 [内容] スポーツ政策の政策評価について説明する [授業外学習]政策の評価とはどのようなことか説明できるようなること
⑥	[テーマ] 日本のスポーツ政策の変遷について [内容] 日本のスポーツ政策の変遷について説明する [授業外学習]日本のスポーツ政策の変遷について説明できるようになること	⑭	[テーマ] 諸外国におけるスポーツ政策 [内容] 諸外国におけるスポーツ政策について説明する [授業外学習]諸外国におけるスポーツ政策について説明できるようになること
⑦	[テーマ] スポーツ振興基本計画について [内容] スポーツ振興基本計画について説明する [授業外学習]スポーツ振興基本計画について説明できるようになること	⑮	[テーマ] 全体総括 [内容] 半期の講義内容全体を振り返る [授業外学習]授業の資料をもとに復習すること
⑧	[テーマ] スポーツ政策に関する財源について [内容] スポーツ政策に関する財源について説明する [授業外学習]]スポーツ政策に関する財源について説明できるようになること	⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]

成績評価方法（方針）

授業内レポート（評価割合25%）と、授業外レポート（評価割合75%）を課す。これらの結果を総合して成績評価を行う。出席は、評価割合に加えず、欠格条件となる。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				
授業内レポート		○		25%
授業外レポート	◎			75%
演習・実技				
授業態度				減点あり
出席				欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない（欠格条件）。
・授業態度が悪い学生に対しては、成績評価から減点する。
・授業中は携帯電話をかばんの中にしまうこと。
・大学設置基準において、90分の授業に対して、予習・復習を各90分行うことが義務付けられている。このシラバスを参考に、しっかりと予習・復習を行うこと。毎週の90分の授業参加だけでは、単位を取得できないと肝に銘じておくこと。
・授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。

関連科目	スポーツ経営学（1年）、スポーツ社会学（1年）、スポーツマネジメント概論（2年）、地域スポーツ戦略論（2年）、スポーツクラブマネジメント論（3年）		
教科書	指定しない	参考書	諏訪伸夫他「スポーツ政策の現代的課題」 菊幸一他「スポーツ政策論」
連絡先			

授業科目名	運動学習の心理学 Motor Learning(L.)				担当教員	栗木一博
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

体育やスポーツ競技技術をはじめとする学習が効果的に成立するためにはコーチングを実践する側の計画が必要である。特定の運動技能獲得を目指した指導を行う場合、目標となる運動の性質やその学習様相に関する理論を踏まえて計画を立てるとともに、指導方針もそれに沿った合理的なものでなければならない。本講では、運動およびその学習の理論について概説する。

授業の一般目標

運動およびその学習について説明ができるようになるとともに、どうすればもっとも効果的に運動技能が習得できるかを考えることができる。

授業の到達目標

■	認知的領域	運動に関する理論やその学習理論を説明できる。また、体育授業における諸条件を検討することができる。
□	情意的領域	
■	技能表現的領域	運動やその学習に関する調査実験や教育プランを作成、検討することができる。

授業計画(全体)

運動学習および運動の制御に関する理論をなるべく具体例を交えながら詳説するとともに、実験を実際に行いそのデータの分析や解釈も実践する場面を設ける。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] これからの授業計画に関する紹介を行う。 [授業外学習]シラバスを熟読する。	⑨	[テーマ] 運動学習理論(1) [内容] Adamsの閉回路理論について解説する [授業外学習]運動を学習する場面の具体例を挙げられるようにする
②	[テーマ]運動行動の構造 [内容] 運動能力の構造について解説するとともに、その一般性や特殊性について解説する。 [授業外学習]運動技能の構造について考える	⑩	[テーマ] 運動学習理論(2) [内容] Scmidtのスキーマ理論について解説する [授業外学習]運動が上達向上するメカニズムについて考えておく
③	[テーマ] 学習とパフォーマンス [内容] 運動の学習とパフォーマンスの定義を明確にし、それを規定する要因について解説する。 [授業外学習]「パフォーマンス」の意味について考える	⑪	[テーマ] フィードバックの種類 [内容] フィードバックの効果的な利用方法について解説する [授業外学習]日常の運動制御にフィードバックがどのように関連しているか考える
④	[テーマ] 運動技能と運動体力の測定 [内容] 技能や体力の測定方法について解説を行う [授業外学習]運動技能の測定方法について考える	⑫	[テーマ] フィードバックの効果的な利用(1) [内容]内在的なフィードバックと付加的なフィードバックに関する解説とその指導への有効活用について解説する [授業外学習]フィードバックの種類について考える
⑤	[テーマ] 運動技能学習と動機づけ [内容] 運動技能学習に関連する動機づけ理論について解説を行う [授業外学習]動機づけ理論について調べておく	⑬	[テーマ] フィードバックの効果的な利用(2) [内容] 内的フィードバックと外的フィードバックについて解説する。さらにオープンスキルとクローズドスキルとの関連性についても開設する [授業外学習]フィードバックの指導への応用について考える
⑥	[テーマ] 運動学習の重要性 [内容] 運動学習とはどのようなものであるかそしてそれを体系化することの重要性について解説する [授業外学習]運動学習の事例について考えておく	⑭	[テーマ] 言語による指導 [内容] 効果的な言語による運動学習指導について解説する [授業外学習]運動学習で言語が用いられる場面を考える
⑦	[テーマ] 運動学習の情報処理モデル(1) [内容] 運動学習の制御モデルであるフィードバック制御について解説する [授業外学習]「フィードバック」ということばについて調べておく	⑮	[テーマ] メンタルプラクティス [内容] メンタルプラクティスなど運動学習を助ける手法について解説する [授業外学習]メンタルプラクティスについて調べておく
⑧	[テーマ] 運動学習の情報処理モデル(2) [内容] 運動学習の制御モデルであるフィードフォワード制御について解説する [授業外学習]「フィードバック」と「フィードフォワード」との違いについて調べる	⑯	[テーマ] テスト [内容] 定期試験を実施する [授業外学習]試験の準備をする

成績評価方法(方針)

期末の定期試験および授業内で行う小テストやレポートを評価の対象とする。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎			60%
授業内レポート	○		○	20%
授業外レポート	○		○	20%
演習・実技				
授業態度				
出席				

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・欠席が3分の2以上ある場合は定期試験の受験を認めない(欠格条件)。

関連科目			
教科書	特に指定しません(必要な資料は授業中に配布します)	参考書	特に指定しません(必要な資料は授業中に配布します)
連絡先	栗木研究室E棟2階(内線:336)　E-mail:kz-awaki@sendai-u.ac.jp		

授業科目名	スポーツ施設の経営・管理 Sport Facilities Management (L.)				担当教員	永田秀隆
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義	関連資格	体育施設管理士、社会教育主事任用資格
	履修の方法	選択必修	単位数	2		

授業の概要

公共・商業スポーツ施設が独立した経営体として固有なスポーツ事業を提供している点に着目し、そこでの経営・管理の現状を把握し、さらに効果・効率的なスポーツ施設の経営・管理のあり方について学習する。

授業の一般目標

スポーツ施設の基本的な概念や構造について理解する。また、各領域(公共や商業)毎のスポーツ施設における経営・管理の現状を把握し、今後の望ましい(効果・効率的な)経営・管理のあり方について、実践的な視点で考察する。

授業の到達目標

■	認知的領域	スポーツ施設の基本構造が説明できる。公共・商業スポーツ施設の経営・管理の現状を説明できる。
■	情意的領域	公共スポーツ施設や商業スポーツ施設での経営・管理を職業としても意識することができる。
■	技能表現的領域	スポーツ施設での経営・管理の理解を通して、実際にスポーツ施設を経営・管理できうる技術や技能を身につけられる。

授業計画(全体)

本授業は、スポーツ経営学の領域別応用編と位置づけており、公共・商業という視点でスポーツ施設の経営・管理の現状を中心に紹介することになる。
毎回、授業テーマに沿った資料を原則配布する。また、受講者の理解を深めることに配慮し、パワーポイントやビデオ等のIT機器の活用、さらにスポーツ施設の経営・管理の現場にいる方からも話をいただく。授業内容に沿ったレポートを課すことになるので、授業内容を各自がそれなりに理解しておくことが重要である。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション／スポーツ施設の概念 [内容] 教員紹介、授業概要(目標、進め方、シラバス、成績評価方法等)の説明／スポーツ施設の概念について構造的に理解する [授業外学習]シラバスを熟読すること	⑨	[テーマ] スポーツ施設の有効活用 [内容] ビデオ「アスリートたちのロッカールーム」を視聴することにより、スポーツ施設の効果・効率的な経営・管理の手法を学ぶ [授業外学習]
②	[テーマ] 商業スポーツ施設の経営・管理① [内容] 商業スポーツ施設の経営目標、経営方針と計画を具体的に述べる [授業外学習]特定の商業スポーツ施設の経営目標・方針等を調べておく	⑩	[テーマ] スポーツ施設と指定管理者制度 [内容] 指定管理者制度の考え方を理解するとともに、公の施設(特にスポーツ施設)における指定管理者制度の現状を知り、今後のあり方について考える [授業外学習]指定管理者制度の事例について調べておく
③	[テーマ] 商業スポーツ施設の経営・管理② [内容] 商業スポーツ施設のスポーツ事業、またその運営(組織)の現状を理解し、今後のあり方について考える [授業外学習]特定の商業スポーツ施設のスポーツ事業を調べておく	⑪	[テーマ] スポーツ施設と指定管理者制度の実際 [内容] 公の施設である公共スポーツ施設における指定管理者制度の実例を知り、今後の望まれる運用のあり方について考察を深める [授業外学習]当該のスポーツ施設の指定管理者制度について調べておく
④	[テーマ] 商業スポーツ施設の経営・管理③ [内容] 商業スポーツ施設での評価活動の現状を理解するとともに、経営課題について正確に認識する [授業外学習]特定の商業スポーツ施設の課題について調べておく	⑫	[テーマ] 公共スポーツ施設の整備の現状と課題 [内容] 保健体育審議会答申での公共スポーツ施設の整備指針に基づくスポーツ施設の整備の現状について、事例を取り上げながら、その功罪について考える [授業外学習]保体審答申での公共スポーツ施設の整備指針概要を調べる
⑤	[テーマ] 商業スポーツ施設の経営・管理の実際 [内容] 商業スポーツ施設においてマネジャー的立場の方にお越しいただき、現場での経営・管理の現状や問題点、また今後の方向性について報告いただく [授業外学習]当該商業スポーツ施設のことを調べておく	⑬	[テーマ] 職域としての公共・商業スポーツ施設 [内容] スポーツ施設における雇用の現状や今後の方向について概説する [授業外学習]スポーツ施設のスタッフについて調べておく
⑥	[テーマ] 公共スポーツ施設の経営・管理① [内容] 公共スポーツ施設の経営目標、経営方針と計画につき具体的に述べる [授業外学習]特定の公共スポーツ施設の経営目標・方針等を調べておく	⑭	[テーマ] スポーツ施設経営論(体育施設管理士資格重点テーマ) [内容] スポーツ施設全般の経営論、具体的にはスポーツ経営体としての特質について説明する。 [授業外学習]
⑦	[テーマ] 公共スポーツ施設の経営・管理② [内容] 公共スポーツ施設のスポーツ事業、またその運営(組織)の現状を理解し、今後のあり方について考える [授業外学習]特定の公共スポーツ施設のスポーツ事業を調べておく	⑮	[テーマ] スポーツ施設マーケティング(体育施設管理士資格重点テーマ) [内容] スポーツ施設全般におけるマーケティングの考え方について解説し、基本的な構造について理解を深める。 [授業外学習]
⑧	[テーマ] 公共スポーツ施設の経営・管理③ [内容] 公共スポーツ施設での評価活動の現状を理解するとともに、経営課題について正確に認識する [授業外学習]特定の公共スポーツ施設の課題について調べておく	⑯	[テーマ] レポート [内容] レポートの振り返り [授業外学習]

成績評価方法(方針)

授業外レポート(25%)、授業内レポートとリアクションペーパー(75%)の結果に基づき、総合的に評価する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				評価対象外
授業内レポート	◎			75%
授業外レポート	◎	○	○	25%
演習・実技				評価対象外
授業態度				減点アリ
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・本授業は、体育施設管理士の資格取得に際しての必修科目となっており、また、4/5以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない(欠格条件)。
・授業態度が悪い学生に対しては、成績評価から減点する。
・15分以上の遅刻は欠席とみなす。
・授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。
・外部講師を若干名予定しているが、講習日時は講師の都合により多少前後することがある。

関連科目	スポーツ経営学(1年)、スポーツマネジメント概論(2年)、スポーツマーケティング論(2年)、地域スポーツ戦略論(2年)、スポーツ産業論(3年)、スポーツクラブ・マネジメント論(3年)、スポーツクラブ・マネジメント実習(3年)		
教科書		参考書	山下秋二他『スポーツ経営学』大修館書店 間野義之『公共スポーツ施設のマネジメント』体育施設出版
連絡先	A棟3階312:永田研究室(hd-nagata@sendai-u.ac.jp) オフィスアワー:火曜日 10:20 ～ 11:50		

授業科目名	障害者とスポーツ Adapted Sports (L.)(P. A.)				担当教員	早川公康・関矢貴秋
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義(L)	関連資格	障害者スポーツ中級指導員
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

本授業は、障害者のスポーツ活動に関する歴史・思想、社会的・制度的・経営的観点、指導方法について体系的に講義を行う。また、実際に障害者の競技スポーツを紹介し、その道具やルールの工夫、配慮事項について講義と実技を行う。

授業の一般目標

障害者スポーツ(アダプテッドスポーツ)の基本、特性を知り、アダプテッドスポーツとは何かを理解する。また、実際にいくつかのスポーツを体験し、障害者の競技スポーツにおける道具やルールの工夫や配慮事項について理解し、実際の指導方法について思考する能力を身に付ける。

授業の到達目標

■	認知的領域	障害者スポーツ(アダプテッドスポーツ)の基本、特性について説明できる。障害者の競技スポーツについて配慮事項、安全管理を考えることができる。
■	情意的領域	障害者の身近なスポーツについて指導的立場で考え取組むことが出来るようになる。
■	技能表現的領域	障害者の競技スポーツについて説明できるようになる。

授業計画(全体)

講義は、各授業テーマに沿った資料を用いた講義が中心であるが、より理解を深めるための視聴覚教材も用いる。各授業毎に、授業の感想と課題を授業内小レポートとして提出させることで、理解度・到達度を確認する。また、実技は、実際に体験し、各競技スポーツの安全管理や配慮事項についてレポート提出により確認する。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法 [授業外学習]シラバスを熟読すること	⑨	[テーマ] 障害者スポーツの実際 [内容] 障害者スポーツの競技大会や種類などについて紹介する。 [授業外学習]障害者の競技種目等について調べておくこと
②	[テーマ] 障害の理解 [内容] 障害の理解について障害者の体育・スポーツ活動、アダプテッドスポーツの提唱、スポーツ科学のサポートを通して説明する。 [授業外学習]アダプテッドスポーツとは何かを発表できるようにしておくこと	⑩	[テーマ] これからの障害者スポーツ [内容] 障害者スポーツの新たな取り組みについて学習する。 [授業外学習]実際のスポーツ活動を調べておくこと
③	[テーマ] 障害者スポーツの歴史(世界・日本) [内容] 障害者の競技スポーツの始まりからパラリンピック競技大会への発展について解説する。 [授業外学習]資料を元に復習しておくこと	⑪	[テーマ] 理論のまとめと評価 [内容] 授業の理解度・到達度を確かめるために理論のまとめと評価を行う。 [授業外学習]まとめ・評価に備えて復習すること
④	[テーマ] 障害者の運動能力の特徴とトレーニング [内容] 障害者スポーツを行う意義を通して残存機能の活用とトレーニング方法について説明する。 [授業外学習]資料を元に復習しておくこと	⑫	[テーマ] 実技 車いすの操作と応用 [内容] 医療用車いす、競技用車いす、足こぎ車いすの機能と操作方法の学習 [授業外学習]どのような障害の方に活用されているか調べておくこと
⑤	[テーマ] 障害者の社会参加とリハビリテーション [内容] 障害者のスポーツ活動を通して社会参加とリハビリテーションの効果について説明する。 [授業外学習]資料を元に復習しておくこと	⑬	[テーマ] 実技 車椅子スラローム [内容] 車椅子スラロームとはどのような競技かを紹介し、実際に体験する。 [授業外学習]なぜ競技種目となっているか説明できるようにしておくこと
⑥	[テーマ] 障害者スポーツに関わる指導者のあり方について [内容] 人間の生活構造の把握の視点、人間の持つ基本的欲求(心理的立場)からの視点、障害の受容と克服について解説する。 [授業外学習]具体的事例を用いて説明できるようにしておくこと	⑭	[テーマ] 実技 シッティング・ハンドボール [内容] シッティング・ハンドボール、シッティング・諸ゲームのルールなどを紹介し、実際に体験する。 [授業外学習]ルールや道具の工夫について理解しておくこと
⑦	[テーマ] 障害者スポーツの指導と支援について [内容] 指導上の留意点、競技者と指導者の関係について説明する。 [授業外学習]障害種別にどのような工夫が必要か調べておくこと	⑮	[テーマ] シッティング・バレーボール [内容] シッティング・バレーボール、シッティング・諸ゲームのルールなどを紹介し、実際に体験する。 [授業外学習]ルールや道具の工夫について理解しておくこと
⑧	[テーマ] 障害者スポーツの指導と支援について(その2) [内容] スポーツの持つ役割と可能性について説明する。 [授業外学習]障害種別にどのような工夫、役割と可能性があるかを調べておくこと	⑯	[テーマ] 実技のまとめ [内容] 授業の理解度・到達度を確かめるために実技のまとめを行う。 [授業外学習]課題レポートに備えて復習をすること

成績評価方法(方針)

講義の試験は、期末試験を1回実施する(評価割合40%)。また、授業内レポート(評価割合10%)を課す。実技の評価は、授業における実技(評価割合40%)と学外活動レポート(評価割合10%)を課す。そして、これらの結果を総合して成績評価を行う。出席は、評価割合に加えず、欠格条件となる。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 \ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎			40%
授業内レポート		◎		10%
授業外レポート	◎			10%
演習・実技			◎	40%
授業態度				減点アリ
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない。
・授業態度が悪い学生に対しては、成績評価から減点する。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。
・授業中は携帯電話をかばんの中にしまうこと。
・大学設置基準において、90分の授業に対して、予習・復習を各90分行うことが義務付けられている。
・授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。
・各種イベントを見学したり、参加したりする学外の活動も必要である。学外行事への自発的な参加を期待する。

関連科目			
教科書		参考書	
連絡先	早川 F棟2階、関矢 F棟2階		

授業科目名	児童福祉論 Study on Child Well-being (L.)				担当教員	菅田　賢治
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格	社会福祉士　社会福祉主事
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

日本で「子どもの権利条約」が批准されて19年になる現在、児童を取り巻く状況は深刻さを増し、児童の最善の利益に拠って立つ専門職の役割は大変重要なものとなっている。本授業では、子どもにとって大切な環境である家庭も含めて、児童と家庭の現状と支援について、また児童・家庭福祉制度について学んでいく。

授業の一般目標

児童福祉の意義と歴史を学び、児童の権利についての価値を獲得する。さらに児童と家庭を取り巻く現状や課題（少子化・ひとり親家庭・児童虐待・ドメスティックバイオレンス・性犯罪等）を理解し、それらに対する支援策や福祉制度を学ぶ。また、児童・家庭福祉に関する児童福祉法をはじめとして、その他の法制度についても理解する。

授業の到達目標

■	認知的領域	児童と家庭の現状と課題、またそれらに対しての支援策や法制度を説明することができる。
■	情意的領域	児童の権利を価値として説明することができる。
□	技能表現的領域	

授業計画（全体）

担当教員の作成したレジュメをもとにして、講義を進めるのを基本とする。教科書・参考書の紹介は授業中に行うが、原則教科書がなくても理解できるようにする。また、児童と家庭に関する状況や制度・施策の変化など適時、最新の情報を紹介する。授業の中での効果測定や小レポート、リアクションペーパー等提出物があるので、筆記用具・国語辞書は必携である。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法 [授業外学習]シラバスを熟読すること	⑨	[テーマ]　児童・家庭福祉に関する法制度1 [内容]　児童福祉法の概要について学ぶ [授業外学習]　社会的養護について調べておくこと
②	[テーマ] 児童福祉の意義と歴史1 [内容]　日本における児童福祉の歴史と子ども観の変遷を学ぶ [授業外学習] 授業で挙げた児童福祉の先達の一人について調べておくこと	⑩	[テーマ]　児童・家庭福祉に関する法制度2 [内容]　児童虐待防止法　、DV防止法の概要について学ぶ [授業外学習] オレンジリボン・パープルリボン運動について調べておくこと
③	[テーマ]　児童福祉の意義と歴史2 [内容]　憲法・児童憲章・子どもの権利条約・子どもの権利の形成過程を理解する [授業外学習]　「子ども権利ノート」について調べておくこと	⑪	[テーマ] 児童・家庭福祉に関する法制度3 [内容]　児童手当法、次世代育成支援対策推進法等のその他の法制度の概要を理解する [授業外学習] 子ども子育て関連法（3法）について調べておくこと
④	[テーマ]　子どもと家庭の現状1 [内容]　少子高齢化社会のなかの子どもと家庭の現状を理解する [授業外学習] 「子ども権利ノート」についてレポートの提出	⑫	[テーマ]　児童・家庭福祉関連の行政機関 [内容]　福祉事務所・児童相談所（児童家庭支援センター含む）の役割と現状について理解する [授業外学習] 措置と措置権について調べておくこと
⑤	[テーマ]　子どもと家庭の現状2 [内容]　ひとり親家庭の現状と課題また支援策の概要を学ぶ [授業外学習] 母子生活支援施設について調べておくこと	⑬	[テーマ]　児童・家庭福祉関連の福祉施設1 [内容]　通所型の施設について取り上げ、特に保育所の待機児童の問題を考える [授業外学習] 放課後児童クラブについて調べること
⑥	[テーマ]　子どもと家庭の現状3 [内容]　児童虐待の現状と被虐待児への支援についてを理解する [授業外学習] 専門里親について調べておくこと	⑭	[テーマ]　児童・家庭福祉関連の福祉施設2 [内容]　入所型の施設について取り上げ、社会的養護のあり方について考察する [授業外学習]　自立援助ホームについて調べること
⑦	[テーマ]　子どもと家庭の現状4 [内容] ドメスティック・バイオレンスの現状と被害者支援の実態について理解する [授業外学習] 「壊れた家族を視聴して」をテーマにレポートを作成すること(	⑮	[テーマ]　まとめ [内容]　これまでの授業のふりかえりとまとめを行い、これからの課題と展望を考察する [授業外学習] テストに向けて復習すること
⑧	[テーマ]　子どもと家庭の現状5 [内容]　青少年の健全育成の現状について、性犯罪や性被害も含めて理解する [授業外学習]　家庭裁判所について調べておくこと	⑯	[テーマ]　テスト [内容]　授業の理解度・到達度を確かめるためにテストを行う [授業外学習] テストに向けて復習すること

成績評価方法（方針）

試験は、期末試験を1回実施する（評価割合60%）。また、授業内レポート（評価割合20%）と、授業外レポート（評価割合20%）を課す。そして、これらの結果を総合して成績評価を行う。また、無断欠席や授業妨害（私語・携帯・居眠り）は減点の対象となるので注意すること。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎			60%
授業内レポート		◎		20%
授業外レポート	◎			20%
演習・実技				評価外
授業態度				減点あり
出席				減点あり

履修上の注意（受講学生に望むこと）

公務等（実習・部活動等）で欠席する場合は、必ず所定の様式の欠席届を提出すること。また、病欠についても事後に届け出ること。課題レポートや提出物については、誤字・脱字は減点の対象になるので必ず辞書で確認すること。

関連科目			
教科書	特に指定しない	参考書	授業の中で紹介する
連絡先			

授業科目名	障害者福祉論 Social Welfare for Disabled Person (L.)				担当教員	関矢　貴秋
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格	社会福祉士受験資格
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

障害者の福祉を自らの周辺の課題から考え理解する。ノーマライゼイション理念の展開と、わが国における障害者福祉の理念について理解する。また、時系列に国内外における障害者施策を学習する。

授業の一般目標

授業概要に示した内容を通して障害者の人権尊重、権利擁護について自ら考える力をつける。

授業の到達目標

■	認知的領域	障害者の人権尊重、権利擁護について自ら考えることができる
■	情意的領域	障害者の人権尊重、権利擁護に関する学習に自ら取り組むことができる
□	技能表現的領域	

授業計画(全体)

障害者の福祉について、自らの身近な生活に照らして考える学習を実践する。身近な社会にどのような課題が存在するか、障害者の自立と共生とはどのようなことなのか、施策、法律の定義、概念に照らし合わせながら展開する。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業概要の確認 [授業外学習]	⑨	[テーマ] 障害者福祉の施策の歩み(国際障害者年以後) [内容] 日本及び世界の歴史から障害者福祉の施策の現状と課題を学ぶ [授業外学習]
②	[テーマ]障害の概念 [内容] 施策、法律から障害の概念を学ぶ [授業外学習]	⑩	[テーマ] 障害者福祉の施策の歩み(障害者自立支援制度) [内容] 障害者福祉の施策の現状と課題を学ぶ [授業外学習]
③	[テーマ] 障害者福祉の基本理念 [内容] 施策、法律から障害の概念を学ぶ [授業外学習]	⑪	[テーマ] 障害者福祉の施策の歩み(新たな障害者制度) [内容] 時系列に施策を検討し今後の課題と方向性を見出す取り組み [授業外学習]
④	[テーマ] 障害の概念と法的定義 [内容] 歴史から障害の概念と法的定義を学ぶ(戦前の社会事業) [授業外学習]	⑫	[テーマ] 障害者の人権 [内容] 歴史から障害者の人権を学ぶ [授業外学習]
⑤	[テーマ] 障害の概念と法的定義 [内容] 歴史から障害の概念と法的定義を学ぶ(戦後の社会事業) [授業外学習]	⑬	[テーマ] ノーマライゼイションと人権、権利擁護 [内容] 歴史から障害者の人権を学ぶ [授業外学習]
⑥	[テーマ] 障害者の実態と福祉ニーズ [内容] 障害者に関するデータから 障害者の実態と福祉ニーズを学ぶ [授業外学習]	⑭	[テーマ] 障害者福祉と福祉サービス [内容] 医療・保健・教育・就労・雇用・所得保障の観点から [授業外学習]
⑦	[テーマ] 障害者福祉の施策の歩み(戦前・後) [内容] 日本及び世界の歴史から障害者福祉の施策の現状と課題を学ぶ [授業外学習]	⑮	[テーマ] 諸外国の障害者福祉 [内容] 諸外国の取り組みと実践から学ぶ [授業外学習]
⑧	[テーマ] 障害者福祉の施策の歩み(～'80年) [内容] 日本及び世界の歴史から障害者福祉の施策の現状と課題を学ぶ [授業外学習]	⑯	[テーマ] テスト [内容] 理解度、到達度を確認する [授業外学習]

成績評価方法(方針)

試験(90%)。授業内課題(10%)。出席は評価割合に加えず欠格条件とする。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎			90%
授業内レポート		◎		10%
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度				
出席				

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない(欠格条件)
・授業態度は、成績評価に関係あり
・20分以上の遅刻は欠席とみなす
・授業計画は、授業進度により変更がありうる

関連科目	社会福祉概論		
教科書	障害者に対する支援と障害者自立支援制度　障害者福祉論	参考書	授業に応じて提示する
連絡先	研究室　F棟2階　　オフィスアワー:水曜　11:50～13:00		

授業科目名	地域福祉論 Community　Welfare (L.)				担当教員	関矢　貴秋
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義	関連資格	社会福祉士受験資格
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

社会福祉関係8法改正及び社会福祉法制定後の社会福祉において重要な意義と役割を持つ「地域福祉」について、理論と実践の両側面からとらえ学習する。

授業の一般目標

「地域福祉の理念と概要」「地域福祉の推進方法」「地域福祉計画の意義と内容」について学習し理解する。また、地域福祉の現状に付いて過去の歴史と現在の具体的な実践の中から考えることを狙いとする。

授業の到達目標

■	認知的領域	地域福祉の現状に付いて過去の歴史と現在の具体的な実践の中から考えることができる。「地域福祉の理念と概要」「地域福祉の推進方法」「地域福祉計画の意義と内容」について学習し理解できる
■	情意的領域	福祉の現場でコミュニティーソーシャルワークの実践ができる知識・技術を習得する
■	技能表現的領域	福祉の現場でコミュニティーソーシャルワークの応用実践ができる

授業計画（全体）

現代社会における社会集団、家族・家庭などコミュニティーと地域福祉の基本に付いて考える。また、地域社会の変容と地域福祉の理念と展開として戦前の地域社会、戦後の地域社会など歴史的にどのように変容して現在に至ったかを地域福祉の視点で現代までの変容の課程をとらえ学習する。また、地域社会の変容と地域福祉の理念と展開として諸外国と日本での今日までの背景と理念を学習する。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 現代社会におけるコミュニティーと地域福祉 [内容] 現代社会におけるコミュニティーと地域福祉の概要 [授業外学習]自分の住む地域に目を向けてみよう	⑨	[テーマ] 地域福祉のサービス体系 [内容] 地域福祉の実践例から地域福祉のサービス体系を学ぶ [授業外学習]地域社会におけるサービスに視点をむけてみる
②	[テーマ]地域社会の変容と地域福祉の理念と展開(戦前) [内容] 地域社会の変容と地域福祉の実際から学ぶ [授業外学習]自分の住む地域における課題の抽出	⑩	[テーマ] 地域福祉の実際（社会福祉協議会） [内容] 地域福祉の実践例から地域福祉実践を学ぶ [授業外学習]地域における実践者の開拓
③	[テーマ] 地域社会の変容と地域福祉の理念と展開（戦後～1975年） [内容] 地域社会の変容と地域福祉の実際から学ぶ [授業外学習]自分の住む地域における課題の抽出	⑪	[テーマ] 地域福祉の実際（地域密着型） [内容] 地域福祉の実践例から地域福祉実践を学ぶ [授業外学習]地域における実践者の開拓
④	[テーマ] 地域社会の変容と地域福祉の理念と展開（'75年～2000年） [内容] 地域社会の変容と地域福祉の実際から学ぶ [授業外学習]自分の住む地域における課題の抽出	⑫	[テーマ] 地域福祉の実際（地域福祉計画のあらまし） [内容] 地域福祉の実践例から地域福祉実践を学ぶ [授業外学習]地域における実践者の開拓
⑤	[テーマ] 地域社会の変容と地域福祉の理念と展開（2000年～） [内容] 地域社会の変容と地域福祉の実際から学ぶ [授業外学習]自分の住む地域における課題の抽出	⑬	[テーマ] 地域福祉の実際（各地の地域福祉計画） [内容] 地域福祉の実践例から地域福祉実践を学ぶ [授業外学習]地域における福祉活動の実践
⑥	[テーマ] 地域福祉の役割と意義 [内容] 地域福祉の実践例から地域福祉の役割と意義を学ぶ [授業外学習]生まれ育った地域における現状と課題の抽出	⑭	[テーマ] 地域福祉の実際（地域福祉計画の課題） [内容] 地域福祉の実践例から地域福祉実践を学ぶ [授業外学習]地域における福祉活動の実践
⑦	[テーマ] 地域福祉の推進方法 [内容] 地域福祉の実践例から地域福祉の地域福祉の推進方法を学ぶ [授業外学習]生まれ育った地域における現状と課題の抽出	⑮	[テーマ] 地域福祉の実際（地域福祉計画と諸計画の関連） [内容] 地域福祉の実践例から地域福祉実践を学ぶ [授業外学習]地域における福祉活動の実践
⑧	[テーマ] 地域福祉計画の意義と内容 [内容] 地域福祉の実践例から地域福祉計画の実際を学ぶ [授業外学習]生まれ育った地域における現状と課題の抽出	⑯	[テーマ] テスト [内容] 理解度、到達度の確認 [授業外学習]事前学習のすすめ

成績評価方法（方針）

試験（90%）。授業内課題（10%）。出席は評価割合に加えず欠格条件とする。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎			90%
授業内レポート		◎		10%
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度				
出席				欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない（欠格条件）
・授業態度は、成績評価に関係あり
・20分以上の遅刻は欠席とみなす
・授業計画は、授業進度により変更がありうる

関連科目	社会福祉概論		
教科書	地域福祉の理論	参考書	授業に応じて提示する
連絡先	研究室　F棟2階　　オフィスアワー：水曜　11：50～13：00		

授業科目名	陸上競技 Track and Field				担当教員	門野洋介、柴山一仁、宮崎利勝、名取英二
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実技	関連資格	中高保体教諭、ジュニアスポーツ指導員、 スポーツプログラマー
	履修の方法	選択必修	単位数	1		

授業の概要

陸上競技の走・跳・投各種目の競技特性や基本的技能を、実技を通して学ぶ。

授業の一般目標

陸上競技の走・跳・投各種目の競技特性を理解し、基本的技能を身につける。
自らの記録を向上させたり、相手と競い合うことの楽しさや魅力を味わうことができる。

授業の到達目標

■	認知的領域	陸上競技の走・跳・投各種目の競技特性や基本的技能がわかる。
■	情意的領域	自らの記録を向上させたり、相手と競い合うことの楽しさや魅力を味わうことができる。
■	技能表現的領域	陸上競技の走・跳・投各種目の基本的技能が身につく。

授業計画（全体）

グループに分かれ、競走種目（短距離走、リレー、ハードル走）、跳躍種目（走高跳、走幅跳）、投てき種目（砲丸投）を複数回に分けて実施していく。
最後に実技試験を行ない、技能と記録を評価する。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] ガイダンス [内容] 授業計画について説明する。	⑨	[テーマ] 走高跳② [内容] 走高跳の助走局面～踏切局面～空中局面の技能について学習する。 競技会形式で記録を測る。
②	[テーマ] 短距離走① [内容] 短距離走のスタート～加速局面における疾走技能について学習する。	⑩	[テーマ] 走幅跳① [内容] 走幅跳の踏切局面～空中局面の技能について学習する。
③	[テーマ] 短距離走② [内容] 短距離走の中間疾走局面における疾走技能について学習する。 レースを行ない、記録を計測する。	⑪	[テーマ] 走幅跳② [内容] 走幅跳の助走局面～踏切局面～空中局面の技能について学習する。 競技会形式で記録を測る。
④	[テーマ] リレー① [内容] リレーのルールに基づいた、スムーズなバトンの渡し方について学習する。	⑫	[テーマ] 砲丸投① [内容] 砲丸投の立ち投げの技能について学習する。
⑤	[テーマ] リレー② [内容] スムーズなバトンパスができるように練習する。 レースを行ない、記録を計測する。	⑬	[テーマ] 砲丸投② [内容] 砲丸投のグライド投法の技能について学習する。 競技会形式で記録を測る。
⑥	[テーマ] ハードル走① [内容] ハードリングの技能について学習する。	⑭	[テーマ] 実技試験① [内容] 走（短距離走、ハードル）の記録を測定する。
⑦	[テーマ] ハードル走② [内容] インターバルの走り方について学習する。 レースを行ない、記録を計測する。	⑮	[テーマ] 実技試験② [内容] 跳（走高跳、走幅跳）の記録を測定する。
⑧	[テーマ] 走高跳① [内容] 走高跳の踏切局面～空中局面の技能について学習する。	⑯	[テーマ] 実技試験③ [内容] 投（砲丸投）の記録を測定する。

成績評価方法（方針）

・①出席、②各種目の記録、③実技試験で評価する。
・授業態度も評価に含む。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験			◎	
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技	◎	◎	◎	50%
授業態度		◎		
出席		◎		50%

履修上の注意（受講学生に望むこと）

関連科目			
教科書		参考書	
連絡先	門野洋介（A408, hr-kadono@sendai-u.ac.jp）		

授業科目名	器械運動(男子) Apparatus Gymnastics (Men)				担当教員	鈴木 良太
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	実技	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

本実技は、マット運動、鉄棒、とび箱等を教材として器械運動の技能習得を目的とすると共に指導法・幇助法についても学習し、指導者としても資質を高めるものである。

授業の一般目標

オリエンテーションにおいて本実技での授業概要及び授業での取り組みを理解する。また、授業においては積極的に取り組み、仲間との協調を図る。技の習得を通して器械運動の面白さを学習し、指導者としても資質を高めることを目標とする。

授業の到達目標

■	認知的領域	器械運動の技能を習得する過程を理解し、その説明ができる。
■	情意的領域	授業に積極的に参加し、仲間と協力できる。
■	技能表現的領域	教育実習及び教員採用試験に対応できる技能を身につける。

授業計画(全体)

テーマごとに基本技能から応用技能へと難易度を高めていき「できそうだ」という意識を持たせながら授業展開する。マット運動、鉄棒、とび箱を教材として使用し、それぞれ5コマずつ行う。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション、マット運動の基本技能 [内容] 器械運動に必要な動きと練習方法の理解	⑨	[テーマ] 鉄棒③ [内容] 前振りとびおりの基本知識と基本技能の習得
②	[テーマ] マット運動(接転系・倒立)① [内容] 前転、後転、倒立の基礎知識と基礎技術の習得	⑩	[テーマ] 鉄棒④ [内容] け上がり、前回り、後回り、前振りとびおりを連結させ連続技に発展させる
③	[テーマ] マット運動(接転系・倒立)② [内容] 前転、後転の変形技の習得及び倒立の静止技術・歩行技能習得	⑪	[テーマ] 鉄棒⑤ [内容] 習得した技を組合わせた連続課題によるテスト
④	[テーマ] マット運動(発展技)③ [内容] 倒立前転・後転倒立の技術習得及び伸膝前転・伸膝後転の技能習得	⑫	[テーマ] とび箱① [内容] 開脚跳びの基本知識と基本技能の習得
⑤	[テーマ] マット運動(倒立回転系・倒立回転とび)④ [内容] 側方倒立回転習得のための基礎知識・基礎技能の習得及びハンドスプリング習得のための基礎知識・基礎技能の習得	⑬	[テーマ] とび箱② [内容]閉脚跳びの基本知識と基本技能の習得
⑥	[テーマ] マット運動(連続課題)⑤ [内容] 習得した技を組合わせた連続課題によるテスト	⑭	[テーマ] とび箱③ [内容]台上前転の基本知識と基本技能の習得
⑦	[テーマ] 鉄棒① [内容] 逆上がり、前回り、後回りの基本知識・基本技能の習得	⑮	[テーマ] とび箱④ [内容] 前転跳びの基本知識と基本技能の習得
⑧	[テーマ] 鉄棒② [内容] け上がりの基礎知識と基礎技能の習得	⑯	[テーマ] とび箱⑤ [内容] 習得した技の課題によるテスト

成績評価方法(方針)

実技試験により評価するが、授業への出席状況や態度及び服装(指定ユニホーム着用)も評価の対象とする。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				評価対象外
授業内レポート				評価対象外
授業外レポート				評価対象外
演習・実技			◎	100%
授業態度				減点あり
出席				失格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

○2/3以上出席がない受講生は単位を修得することができない。
○服装は指定のユニホームとシューズ(服装違反は減点の対象とする)とする。また、時計・指輪・ネックレス・ピアス等は怪我の危険性があるためはずす。
○遅刻は原則認めない。

関連科目			
教科書	特に指定しない	参考書	「教師のための器械運動指導法シリーズ:マット運動、鉄棒運動、平均台・とび箱運動」金子明友(大修館書店)
連絡先	鈴木研究室(A棟4階)		

授業科目名	器械運動(女子) Apparatus Gymnastics(Women)				担当教員	鈴木 良太
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	実技	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

本実技は、マット運動、平均台、とび箱等を教材として器械運動の技能習得を目的とすると共に指導法・幇助法についても学習し、指導者としても資質を高めるものである。

授業の一般目標

オリエンテーションにおいて本実技での授業概要及び授業での取り組みを理解する。また、授業においては積極的に取り組み、仲間との協調を図る。技の習得を通して器械運動の面白さを学習し、指導者としても資質を高めることを目標とする。

授業の到達目標

■	認知的領域	器械運動の技能を習得する過程を理解し、その説明ができる。
■	情意的領域	授業に積極的に参加し、仲間と協力できる。
■	技能表現的領域	教育実習及び教員採用試験に対応できる技能を身につける。

授業計画(全体)

テーマごとに基本技術から応用技術へと難易度を高めていき「できそうだ」という意識を持たせながら授業展開する。マット運動、平均台、とび箱を教材として使用し、それぞれ5コマずつ行う。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション、マット運動の基本技能 [内容] 器械運動に必要な動きと練習方法の理解	⑨	[テーマ] 平均台③ [内容] 開始技・終末倭の基本知識と基本技能の習得
②	[テーマ] マット運動(接転系・倒立)① [内容] 前転、後転、倒立の基礎知識と基礎技能の習得	⑩	[テーマ] 平均台④ [内容] 習得した技を連結させ連続技に発展させる
③	[テーマ] マット運動(接転系・倒立)② [内容] 前転、後転の変形技の習得及び倒立の静止技術・歩行技術習得	⑪	[テーマ] 平均台⑤ [内容] 習得した技を組合わせた連続課題によるテスト
④	[テーマ] マット運動(発展技)③ [内容] 倒立前転・後転倒立の技能習得及び伸膝前転・伸膝後転の技能習得	⑫	[テーマ] とび箱① [内容] 開脚跳びの基本知識と基本技能の習得
⑤	[テーマ] マット運動(倒立回転系・倒立回転とび)④ [内容] 側方倒立回転習得のための基礎知識・基礎技能の習得及びハンドスプリング習得のための基礎知識・基礎技能の習得	⑬	[テーマ] とび箱② [内容]閉脚跳びの基本知識と基本技能の習得
⑥	[テーマ] マット運動(連続課題)⑤ [内容] 習得した技を組合わせた連続課題によるテスト	⑭	[テーマ] とび箱③ [内容]台上前転の基本知識と基本技能の習得
⑦	[テーマ] 平均台① [内容] 歩行系・ターン系の基本知識・基本技能の習得	⑮	[テーマ] とび箱④ [内容] 前転跳びの基本知識と基本技能の習得
⑧	[テーマ] 平均台② [内容]平均台上での前転・前後開脚ジャンプの基礎技能の習得	⑯	[テーマ] とび箱⑤ [内容] 習得した技の課題によるテスト

成績評価方法(方針)

実技試験により評価するが、授業への出席状況や態度及び服装(指定ユニホーム着用)も評価の対象とする。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 \ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				評価対象外
授業内レポート				評価対象外
授業外レポート				評価対象外
演習・実技			◎	100%
授業態度				減点あり
出席				失格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

○2/3以上出席がない受講生は単位を修得することができない。
○服装は指定のユニホームとシューズ(服装違反は減点の対象とする)とする。また、時計・指輪・ネックレス・ピアス等は怪我の危険性があるためはずす。
○遅刻は原則認めない。

関連科目			
教科書	特に指定しない	参考書	「教師のための器械運動指導法シリーズ:マット運動、鉄棒運動、平均台・とび箱運動」金子明友(大修館書店)
連絡先	鈴木研究室(A棟4階)		

授業科目名	水　泳 Swimming（P. A. ）				担当教員	渡邉　泰典
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実技	関連資格	日体協公認水泳指導員、健康運動指導士、健康運動実践指導者
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

水泳は老若男女問わず、生涯にわたって親しむことができる代表的運動である。本授業では、水の物理的・生理的特性について講義すると共に、実際に水が身体に及ぼす影響を紹介して、その活用方法を提示する。また、水泳技能習得のための指導に加えて、水泳不得意者を対象とした指導上のコツや留意点（安全管理に関する内容を含む）について説明し、理論と実践を通して水泳の基礎能力を養成する。

授業の一般目標

体温、心拍数、代謝、姿勢などの観点から、水が身体に及ぼす影響を理解する。水中事故防止に関する安全管理の基礎理論を理解する。水中での身体の使い方と呼吸の仕方を理解し、状況に応じて使い分けることができるようになる。水泳動作のメカニズムと、指導法を理解する。

授業の到達目標

■	認知的領域	水泳・水中運動の基本的技能とそのメカニズムを理解し、説明することができる。水中事故を未然に防ぐための方法を理解し、安全に配慮して運動することができる。
■	情意的領域	水中特有の浮遊感の中で、運動することの楽しさを知る。水泳技能の習得と向上、泳タイムの短縮を通して、水泳・水中運動に興味を持てるようになる。
■	技能表現的領域	泳げない者は泳げるようになる。泳げる者は自らの技能の向上と泳タイムの短縮はもとより、水泳不得意者に対する指導体験を通して、泳法指導の基礎を身につける。

授業計画（全体）

最初に教室にて水中事故防止に関する安全管理の基礎理論を講義する。続いてプールにて実技に入り、浮き身及びその応用として立泳ぎを教示した後、クロール・平泳ぎの2種目について、そのメカニズムと指導法を紹介する。ここでいったん泳法検定を実施し、水泳技能を見極める。その後の授業では、高技能者は指導体験を、低技能者と初心者は泳法習得のためのトレーニングを重ねる。本授業では、水泳の基本技能の習得と、泳げるようにするためのプロセスについて学ぶ。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の趣旨・内容・展開方法等について説明する。	⑨	[テーマ] 第1次泳法実技検定【実技】 [内容] 事前能力調査によりA評価を受けた者に対し、100m個人メドレー（50Fr+50Br）の泳法検定を行う。合格者は指導体験に移行される。B評価以下と判定された者はノルマ練習を行う。
②	[テーマ] 水泳指導法【講義】 [内容]「水泳指導者とはどうあるべきか」を主たるテーマに、必要条件、資質、取り組み方、泳法理論等を指導者の立場から理解させる。	⑩	[テーマ] クロール・平泳ぎ習得指導法体験およびトレーニング①【実技】 [内容] これより、第2次泳法検定合格を目指し、トレーニング期間と成る。第1次検定合格者はこれより、不合格者を対象に初心者指導体験を行う。不合格者は指導員に従い練習を行う。クロール系と平泳ぎ系練習を隔週ごとに分けて実施する。
③	[テーマ] 水中安全管理と安全対策【講義】 [内容] 指導上のマナー、事故と責任、環境整備、用具の取り扱いと管理の方法、水泳の衛生管理、事故とその判例等について解説する。	⑪	[テーマ] クロール・平泳ぎ習得指導法体験およびトレーニング②【実技】 [内容] クロール・平泳ぎ泳法を対象に前回同様のシステムで各自、自主的に実施する。
④	[テーマ] 水慣れ、およびクロール・平泳ぎ能力調査【実技】 [内容] プールでの誓約、利用上の規則周知、入水時のマナー、水慣れ。	⑫	[テーマ] クロール・平泳ぎ習得指導法体験およびトレーニング③【実技】 [内容] クロール・平泳ぎ泳法を対象に前回同様のシステムで各自、自主的に実施する。
⑤	[テーマ] 浮き身・立泳ぎ（巻足）泳法の原理紹介、体験【実技】 [内容] 指導員による模範演技を基に、初心者指導にも繋がる浮き身・立泳ぎの原理、習得方法を解説、実技体験をしながら習得する。	⑬	[テーマ] 水泳・水中運動①【実技】 [内容] 水中における運動指導法と実際 ・水中ウォーキング等
⑥	[テーマ]クロール・背泳ぎ泳法の原理紹介【実技】 [内容] 指導員による模範泳法を基に、クロール泳法を主体に両泳法の原理、泳げない原因を解説、さらにその原因を改善するための矯正法、すなわち、指導法を紹介する。	⑭	[テーマ] 水泳・水中運動②【実技】 [内容] 水中における運動指導法と実際 ・アクアビクス等
⑦	[テーマ] 平泳ぎ・ﾊﾞﾀﾌﾗｲ泳法の原理紹介【実技】 [内容] 指導員による模範泳法を基に、平泳ぎ泳法を主体に両泳法の原理、泳げない原因を解説する。	⑮	[テーマ] 水泳・水中運動③【講義】 [内容] 教室にて水中における運動指導にかかわる知識（健康運動指導士、健康運動実践指導者資格取得にも関わる）水の原理、水泳の特性、効果等について講義・紹介する。
⑧	[テーマ] クロール・平泳ぎの初心者指導法紹介【実技】 [内容] クロール・平泳ぎを対象に、泳げない原因を改善するための矯正法、すなわち、初心者指導法を紹介する。	⑯	[テーマ]水泳・水中運動④、第2次泳法実技検定【実技】 [内容] 水中における運動指導法と実際の実技トレーニング、及び、 水泳不合格者を対象に、100m個人メドレー（50Fr+50Br）の泳法検定を行う。

成績評価方法（方針）

実技では、100m（50mクロール+50m平泳ぎ）完泳が最低合格ラインで（可）評価、これに立泳ぎ（1分間）完泳か背泳ぎ・バタフライ25m完泳で（良）評価となる。さらに指導体験を2回以上実施した者が（優）評価となる。（秀）評価は前述の全種目において高得点者に与えられる。なお、講義・理論授業は必ず出席。欠席の場合はその分、レポート提出等の課題が課せられ、怠った場合は（不可）評価となる。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技	◎		◎	80
授業態度				
出席				20

履修上の注意（受講学生に望むこと）

①教職志望者は受講が望ましいが、必修ではない。
②泳げるようになりたいと真剣に希望する者であれば、泳ぎが苦手であっても歓迎する。
③海浜実習の受講希望者が望ましい。
④本学指定の水着でしか受講できない。指定の水泳帽も必要となる。

関連科目	海浜実習、水上安全法（含実習）、種目別コーチング演習Ⅰ（水泳）、種目別コーチング演習Ⅱ（水泳）		
教科書	なし	参考書	なし
連絡先	LC棟2階207研究室　渡邉泰典（ysn-watanabe@sendai-u.ac.jp）		

授業科目名	バレーボール Volleyball (P.A.)				担当教員	石丸出穂・荒牧亜衣
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実技	関連資格	ジュニアスポーツ指導員、教員免許状(中高保体)
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

本授業は、6人制バレーボールの、基本的な運動技能(特にゲーム展開を広げるパス、サーブ、スパイク)の向上に重点を置き、前半は、バレーボールの練習法、指導法を紹介する。後半では、グループでの活動で生み出される、チームプレーの重要性を認識させ、仲間とのつながりを促し、ゲームを通して、バレーボールの戦術紹介、ルール・審判法を説明する。

授業の一般目標

バレーボールの基本的な運動技術、オーバーハンドパス、アンダーハンドパス、および、スパイク(少なくともジャンプなしでの打球の仕方)を身につけ、将来、指導する立場になった場合に、デモンストレーションを行えるようになる事が、本授業の大きな目標である。さらに、それらの技術を駆使して、仲間と協力しながら、戦術を理解し、ゲームを楽しむ方法を修得する。

授業の到達目標

■	認知的領域	基本的な運動技術のポイントや、ルール、戦術を、知識として理解する。
■	情意的領域	仲間との‘‘繋がり’’が、プレーの‘‘繋がり’’になる事を通して、ゲームを楽しめるようになり、バレーボールの戦術にも興味を持てるようになる。
■	技能表現的領域	バレーボールの授業を行うことが出来るようになる、基本的な運動技術を身につける。

授業計画(全体)

前半は、バレーボールの基本的な運動技術(オーバーハンドパス、アンダーハンドパス、スパイク・サーブの打球)の向上に重点を置くため、2〜3人組での個人技術のトレーニング中心の授業を行う。後半は、ゲームを中心とした授業の中で、バレーボールの戦術やルール・審判法の紹介、グループ活動での仲間との‘‘繋がり’’作り、を行っていく。前半終了時と後半終了時に、オーバーハンドパス、アンダーハンドパス、スパイクの打球、のチェックテストを行う。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法	⑨	[テーマ] ゲームへの展開②および、スパイク打球チェック [内容] W型のレセプションフォーメーションを理解したゲームを行い、同時進行で、スパイク打球のチェックを行う
②	[テーマ] オーバーハンドパス、スパイク打球の基本技術 [内容] オーバーハンドパス、スパイク打球のポイント、練習法を紹介し、2人組のトレーニングを行う	⑩	[テーマ] ゲームへの展開③および、ブロックの基本技術 [内容] セッターを固定し、正確なトスから強力なスパイクが打てる可能性が高まるゲームを行い、ブロックの基本技術を紹介する
③	[テーマ] アンダーハンドパス、サーブ打球の基本技術 [内容] アンダーハンドパス、サーブ打球のポイント、練習法を紹介し、2人組のトレーニングを行う	⑪	[テーマ] ゲームへの展開④ [内容] スパイクディフェンスフォーメーションを理解したゲームを行う
④	[テーマ] オーバーハンドパス、アンダーハンドパスの応用技術 [内容] オーバーハンドパス、アンダーハンドパスの、3人組のトレーニングを行う	⑫	[テーマ] ゲームへの展開⑤ [内容] ポジション別の役割を理解したゲームを行う
⑤	[テーマ] スパイクの基本技術 [内容] スパイクの基本、助走→踏切→打球→着地を説明し、トレーニングを行う	⑬	[テーマ] ゲームへの展開⑥ [内容] ポジション別の役割を理解し、ポジションにおける反則(アウトオブ・ポジション)を意識したゲームを行う
⑥	[テーマ] スパイクの応用技術 [内容] ゲームの流れに近いトレーニングを、段階的に行う	⑭	[テーマ] オーバーハンドパスのチェックテスト [内容] ゲームを行いながら、オーバーハンドパスのチェックテストを行う
⑦	[テーマ] バレーボールの歴史とルール [内容] バレーボールの誕生から現在に至るまでの歴史や、ゲームを行うためのルールや審判法などの講義を行う	⑮	[テーマ] アンダーハンドパスのチェックテスト [内容] ゲームを行いながら、アンダーハンドパスのチェックテストを行う
⑧	[テーマ] ゲームへの展開① [内容] スパイクを生かすゲームを目標に行う	⑯	[テーマ] [内容] 期末テストは行わない

成績評価方法(方針)

出席状況(15%)、授業態度【グループでの積極的かつ協力的な行動、授業のルールやマナーを守る】(20%)、チェックテスト【オーバーハンド、アンダーハンドパス、スパイク打球】(50%)、技術向上度(15%)、を総合的に評価する。ただし、欠席は3回までは認めるが、それ以上の場合は、成績評価対象外とする。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 \ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				評価対象外
授業内レポート			◎	50%
授業外レポート				評価対象外
演習・実技	◎		○	15%
授業態度		◎		20%
出席	○	◎		15%

履修上の注意(受講学生に望むこと)

最初のガイダンスには必ず出席する事。欠席者は履修出来ないこともある。服装は、基本的に仙台大学指定のスウェット及びTシャツ。体育館用シューズを用意すること。はだしでシューズをはくのは不可。時計・指輪・ピアス・ネックレスははずす。着替えは2体の更衣室またはクラブハウスで行う。バッグ等の貴重品は各自で管理し、更衣室には絶対に置かないこと。試合で休む等は直接口頭で伝える事。それ以外は認めない。不幸があった際はあとから直接伝えにくること。遅刻は原則的に認めない。授業中は、分別ある行動を心がけること。授業の妨げになる行動を取る学生は、退出してもらう場合もある。

関連科目	種目別コーチング演習Ⅰ・Ⅱ(バレーボール)		
教科書	特に指定しない	参考書	Volleypedia バレーボール百科事典 (日本バレーボール学会・編)
連絡先	荒牧研究室		

授業科目名	バスケットボール Basketball (P.A.)				担当教員	児玉 善廣
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実技	関連資格	
	履修の方法	選択必修	単位数	1		

授業の概要

本授業は競技形態，競技特性などを踏まえ，バスケットボールにおける基本技術の体得に重点を置く．特にオフェンス技術の中でも最も重要なシューティングに力を入れ，パス，ドリブルなどの操作能力を磨く．ゲーム形式を多く取り入れて諸々の技術，戦術を学び，審判法なども経験する．競技の基本戦術を理解し，ボールゲームの楽しさを体感することを目標とする．

授業の一般目標

本授業は競技形態，競技特性などを踏まえ，バスケットボールにおける基本技術の体得に重点を置く．特にオフェンス技術の中でも最も重要なシューティングに力を入れ，パス，ドリブルなどの操作能力を磨く．ゲーム形式を多く取り入れて諸々の技術，戦術を学び，審判法なども経験する．競技の基本戦術を理解し，ボールゲームの楽しさを体感することを目標とする．

授業の到達目標

□	認知的領域	
■	情意的領域	ゲームや諸々の身体運動によって，仲間との連携や協力ができ，楽しさなどを表現できる．
■	技能表現的領域	スキルの向上が見え，基本技術が出来き，楽しさが理解できる．

授業計画(全体)

本授業は競技形態，競技特性などを踏まえ，バスケットボールにおける基本技術の体得に重点を置く．特にオフェンス技術の中でも最も重要なシューティングに力を入れ，パス，ドリブルなどの操作能力を磨く．ゲーム形式を多く取り入れて諸々の技術，戦術を学び，審判法なども経験する．競技の基本戦術を理解し，ボールゲームの楽しさを体感することを目標とする．

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンティーション [内容] 担当教員の紹介，授業の目標と進め方，成績評価の方法	⑨	[テーマ] ゲームへの展開 Ⅰ(スクリメージ) [内容] 5-on-5によるオールコートの攻防の実践 (1) 実践的シュート感覚とリバウンドの体感
②	[テーマ] バスケットボールの競技特性 [内容] バスケットボールの歴史的変遷 と 基本技術 と ルールの説明	⑩	[テーマ] ゲームへの展開 Ⅱ(スクリメージ) [内容] 5-on-5によるオールコートの攻防の実践 (2) 攻防のバランス
③	[テーマ] 基礎技術 Ⅰ [内容] 1)ボールコントロール 2)ボールハンドリング 3)パッシングの紹介	⑪	[テーマ] ゲーム Ⅰ [内容] 5-on-5によるオールコートの攻防の実践 (1) マンツーマン・ディフェンス とゾーン・ディフェンスについて
④	[テーマ] 基礎技術 Ⅱ [内容] シューティング 1)ドリブル とレイアップシュート	⑫	[テーマ] ゲーム Ⅱ [内容] 5-on-5によるオールコートの攻防の実践 (2) 3ポイント・シュートの影響
⑤	[テーマ] 基礎技術 Ⅲ [内容] シューティング 2)ジャンプシュート とリバウンド	⑬	[テーマ] ゲーム Ⅲ [内容] 5-on-5によるオールコートの攻防の実践 (3) シュート率 とリバウンディングの影響
⑥	[テーマ] 基礎技術 Ⅳ [内容] 1)パッシング とドリブル 2)シューティングとの組み合わせ	⑭	[テーマ] ゲーム Ⅳ [内容] 5-on-5によるオールコートの攻防の実践 (4) シュート率 とリバウンディングの影響
⑦	[テーマ] ゲームの試み [内容] ゲームによる競技感覚の体感	⑮	[テーマ] オフェンス技術のまとめ Ⅰ [内容] オフェンスプレイに必要な基本的技術の総合練習 (ドリブルチェンジ，クロスオーバーシュート，ゴールシュートのコンビネーション技術)
⑧	[テーマ]基礎技術の総合練習 [内容] 1)ドリブル 2)ドリブルターン 3)レイアップシュート 4)ジャンプシュートの連続した組み合わせを体得する．	⑯	[テーマ] オフェンス技術のまとめ Ⅱ [内容] ドリブルチェンジ，クロスオーバーシュート，ゴールシュートまでのコンビネーションプレイ

成績評価方法(方針)

1・実技試験は期末に実施する．
2・出欠に関しては授業に対する意欲の1つと捉える．
3・授業態度も学科行動の評価として大切に扱う．以上を総合的に評価を行う．

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				30%
授業内レポート				評価対象外
授業外レポート				評価対象外
演習・実技				30%
授業態度				35%
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・2/3以上の出席のない学生は単位を修得することは出来ない．
・授業態度の悪い者や，著しく授業を妨げる行動と判断した者は，受講資格を失う．
・授業用の専用ジャージを用意しているので，そのジャージを着用し参加すること．
・授業計画は授業の進み方(技術体得状況)で若干変更する場合がある．

関連科目	種目別 コーチング演習 Ⅰ・Ⅱ(3年)，スポーツ・コーチング実習(3年)		
教科書	特になし	参考書	特になし
連絡先	研究室32 ： 第5体育館3階 オフィスアワー ： 前期/後期 木曜日 10:20 ～12:00		

授業科目名	バスケットボール Basketball				担当教員	佐藤久夫・菅野恵子
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実技	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

本授業はバスケットボールの競技特性を瞬時の攻防の切り替え(トランディション)と捉えた上で、攻防のシステムを段階的な実技を通して体得しながら、チームスポーツにおける役割と責任を学び専門分野への応用と人間的成長の礎とする。また、試合を運営する方法についても実践をもって指導する。

授業の一般目標

バスケットボールの基本技術や特性を活かした戦術とは何かを知り、指導者としてのレベルでチームスポーツを考えられるようになる。さらに、正確なルールを知り試合を運営する側の審判法や記録を経験することで、授業や課外活動での指導者としての能力を身に付ける。

授業の到達目標

■	認知的領域	指導者のレベルでチームスポーツを考えられるようになる。
■	情意的領域	役割と責任を果たそうと努力することで、人間的成長の礎となる。
■	技能表現的領域	基本的なスキルを習得することで、教員採用実技試験等に対応できる。

授業計画(全体)

各授業テーマに沿って段階的に実技指導を行うが、動きとシステム攻防の理解度を深めるために視聴覚教材も用いる。受講生の個性を活かせるような役割を与え、各ポジションの連係プレイを確立して試合を戦術を用いて行うようにする。よって、グループ編成し役割をローテーションしながら総合的な理解を深める。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 1、競技の歴史説明 2、競技特性と攻防の概略説明	⑨	[テーマ] トランディション1(攻防一体) [内容] zone defenseからの速攻方法とその役割分担
②	[テーマ] 攻撃の個人スキル [内容] 1、制限区域内のシュート 2、制限区域外のシュート 3、3点シュート 4、ピボットとドライブの方法 5、パスの方法	⑩	[テーマ] トランディション2(攻防一体) [内容] man to man defenseからの速攻方法とその役割分担
③	[テーマ] 防御の個人スキル [内容] 1、制限区域内の防御 2、制限区域外の防御 3、ピボットやドライブに対する防御	⑪	[テーマ] 試合形式による展開1 [内容] 1、zone defenseでのトランディションを中心とした試合 2、man to man defenseでのトランディションを中心とした試合
④	[テーマ] 集団スキルの攻防(1) [内容] 1、1on1の攻防 2、2on1の攻防 3、3on2の攻防 4、3on3の攻防	⑫	[テーマ] 試合形式による展開2 [内容] 1、審判法と記録方法 2、戦術を含む展開方法 3、戦術的総合試合
⑤	[テーマ] 集団スキルの攻防(2) [内容] 1、4on3の攻防 2、4on4の攻防	⑬	[テーマ] 試合形式による展開3 [内容] 1、コーチの立場からの戦術(タイムアウト) 2、残時間と点差による戦術の展開 3、5分試合を題材にした逆転方法と勝ち試合の制し方法
⑥	[テーマ] ポジション毎の攻防 [内容] 1、ガードポジションの攻防 2、フォワードポジションの攻防 3、センターポジションの攻防	⑭	[テーマ] 試合形式による展開4 [内容] 1、10分試合による総合的な展開とベンチワーク 2、模範的な展開の映像による学習
⑦	[テーマ] 集団スキルの攻防(3) [内容] 1、3on3(G,F,Cポジションから)の攻防 2、4on4(2G,F,Cから)の攻防	⑮	[テーマ] 試合形式による展開5 [内容] 10分×2回の試合による総合的な展開と運営
⑧	[テーマ] 集団スキルの攻防(4) [内容] 1、5on4(zone defense) 2、5on5(man to man defense) 3、5on5(zone defense)	⑯	[テーマ] テスト [内容] 1、基本技術(ドリブル、シュート)のスキルテスト 2、競技特性の理解度と習熟度

成績評価方法(方針)

成績は、スキルテストや理解度、習熟度から評価する。同時に授業内での協力的な貢献度や授業態度についても判断の材料とする。そして、これらの結果を総合して成績評価を行う。出席は、評価割合に加えず、欠格条件となる。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 \ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技				80
授業態度				20(減点アリ)
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない(欠格条件)。
・授業態度が悪い学生に対しては、成績評価から減点する。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。
・授業における服装は指定されている運動着とする。
・食事や睡眠等の体調管理につとめ、良好な状態で受講すること。
・授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。

関連科目			
教科書		参考書	
連絡先	研究室:A棟4階410室　　オフィスアワー:木曜日 10:00～12:00		

授業科目名	ハンドボール Handball(P.A.)				担当教員	桑原　康平
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実技	関連資格	教員免許状（中・高 保健体育）
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

本授業では、ハンドボールの基本的な技術・戦術を身に付けることを中心に展開し、その中でハンドボールの特性や歴史、ルールや国際的なトレンドについても触れていく。

授業の一般目標

ハンドボールにおける基本的な技術・戦術を身に付ける。
実際の試合において適切な状況判断ができるようになる。

授業の到達目標

■	認知的領域	ハンドボールの基本的な技術・戦術について理解する。
■	情意的領域	ハンドボールの構造的特性を理解し、仲間と協力してゲームに参加することができる。
■	技能表現的領域	ハンドボールの個人技術（主にシュートとフェイント）と個人戦術（主にシュートとフェイント）を身に付ける。

授業計画（全体）

ハンドボールの個人技術・戦術を習得することから始め、次第にそれらの技術・戦術をグループやチームの中で応用できるよう展開する。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員紹介、授業概要説明、ハンドボールの概要説明、グループ分け	⑨	[テーマ] 数的優位の攻め方① [内容] 数的優位の際の攻撃理論（パラレル・クロス） 【基本内容（ボールハンドリング、コーディネーショントリルを用いたウォーミングアップ、パス・キャッチ、バックコートからのシュート練習）含む】、ゲーム
②	[テーマ] ボールに慣れる [内容] 集団行動（整列の仕方）、ボールハンドリング、各種シュートの説明・実践、パスの説明・実践、基本的なルールの説明	⑩	[テーマ] 数的優位の攻め方② [内容] 数的優位の攻撃理論（パラレル・クロス・スクリーン） 【基本内容（ボールハンドリング、コーディネーショントリルを用いたウォーミングアップ、パス・キャッチ、バックコートからのシュート練習）含む】、ゲーム
③	[テーマ] シュート [内容] ジャンプシュート、ステップシュート、ランニングシュート 【基本内容（ボールハンドリング、コーディネーショントリルを用いたウォーミングアップ、パス・キャッチ、バックコートからのシュート練習）含む】	⑪	[テーマ] 数的優位の攻め方③ [内容] 数的優位の際の攻撃（パラレル・クロス・スクリーン・スライド） 【基本内容（ボールハンドリング、コーディネーショントリルを用いたウォーミングアップ、パス・キャッチ、バックコートからのシュート練習）含む】、ゲーム
④	[テーマ] ハンドボールの映像を視聴する [内容] 各年代別カテゴリーの試合映像を視聴、戦術・技術・その他についての説明	⑫	[テーマ] ゲーム① [内容] リーグ戦を行う
⑤	[テーマ] ポジション別シュート [内容] サイドシュート、ポストシュートの説明、実践 【基本内容（ボールハンドリング、コーディネーショントリルを用いたウォーミングアップ、パス・キャッチ、バックコートからのシュート練習）含む】、ゲーム	⑬	[テーマ] ゲーム② [内容] リーグ戦を行う
⑥	[テーマ] フェイント① [内容] フェイントのステップ（片脚着地） 【基本内容（ボールハンドリング、コーディネーショントリルを用いたウォーミングアップ、パス・キャッチ、バックコートからのシュート練習）含む】、ゲーム	⑭	[テーマ] スキルテスト [内容] 個人技術の実技テストを行う
⑦	[テーマ] フェイント② [内容] フェイントのステップ（両脚着地） 【基本内容（ボールハンドリング、コーディネーショントリルを用いたウォーミングアップ、パス・キャッチ、バックコートからのシュート練習）含む】、ゲーム	⑮	[テーマ] ハンドボール全般に関する筆記テスト [内容] ハンドボールの理論、ルール、歴史について筆記テストを行う
⑧	[テーマ] 1対1の攻め方と守り方 [内容] スペースの攻め方と身体接触の仕方 【基本内容（ボールハンドリング、コーディネーショントリルを用いたウォーミングアップ、パス・キャッチ、バックコートからのシュート練習）含む】、ゲーム	⑯	[テーマ] まとめ [内容] まとめ

成績評価方法（方針）

授業に対する関心・意欲・態度等は平常点とし、評価に加味する（50%）。また、スキルテスト（30%）、筆記テスト（20%）を行い、これらの結果を総合して評価を行う。出席は欠格条件とする。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				
授業内レポート	○			20%
授業外レポート				
演習・実技			◎	30%
授業態度		◎		50%
出席				

履修上の注意（受講学生に望むこと）

欠席が4回以上になると評価の対象から外れます。
公式試合、大会参加（練習試合や合宿は不可）による出席回数不足については、別途課題を提示することがあります。ただし、いかなる理由においても開講回数の2/3以上の出席を満たしていない場合は、評価の対象から外れます。なお、実技技術習得の観点から、授業に長期間参加できない（ケガ、病気等による）ことが予想される者は履修を控えてください。（治療後に履修するようにしてください。）
その他、諸注意は初回のオリエンテーションの中で行います。

関連科目			
教科書		参考書	基本が身につくハンドボール練習メニュー200
連絡先	第5体育館2階　桑原研究室		

授業科目名	サッカー Soccer(P.A.)				担当教員	中屋敷 眞 ・ 黒澤 尚
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	実技	関連資格	ジュニアスポーツ指導員
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

本授業はサッカーの基本技術の獲得を中心に行う。授業テーマに沿い、その基本技術の構造を具体的に解説しながらドリル形式のトレーニングで基本を獲得した後、その基本技術をスキルとして発揮できるように、スモールサイドゲームを多く取り入れた授業とする。

授業の一般目標

サッカーを構成する各種の基本技術の構造を分解し、逆算の発想から、その技術構造を再構築して、その技術獲得につなげる一連の流れが理解出来るようになる。これにより技術獲得に要する時間が短くなり、スキルとして失敗した場合でもその原因と理由が自己分析できる改善能力が身につく。

授業の到達目標

■	認知的領域	基本技術の構造と、その分解・組み立ての説明ができる。
■	情意的領域	より効率的、効果的な指導を知ることで、さらにモチベーションを高めることができる。
■	技能表現的領域	一般体育や初心者レベル指導で示範ができる。

授業計画(全体)

日本サッカー協会のコーチング法をベースに、基本技術の獲得をより効率的、効果的に行う。各授業テーマ毎に、その基本技術の構造を解説し、分解と組み立てをしながら示範を中心に説明、理解させ、ドリル形式で獲得する。その後ゲーム形式でスキルとして発揮出来るようにオーガナイズする。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、成績評価の方法と履修上の諸注意	⑨	[テーマ] ヘディング [内容] ヘディングの技術構造の説明。ドリル練習、パスゲーム、ヘディングシュート、スモールサイドゲームを通じた技能獲得
②	[テーマ] 集団行動と最初の技能評価 [内容] 集団の扱い方の説明。ボールリフティングとスモールサイドゲームで受講者の既存の技能評価	⑩	[テーマ] トラッピング その2(空中にあるボール) [内容] 空中にあるボールのトラッピングの技術構造と使用部位の説明。ドリル練習、トラップ＆パス、スモールサイドゲームを通じた技能獲得
③	[テーマ] インサイドキック [内容] インサイドキックの技術構造の説明。ドリル練習、ボールポゼッションゲーム、スモールサイドゲームを通じた技能獲得	⑪	[テーマ] インステップキック その1(空中にあるボール) [内容] インステップキックの技術構造と使用局面の説明。ボールミートとロングキックのドリル練習、サッカーテニスを通じた技能獲得
④	[テーマ] アウトサイドキック [内容] アウトサイドキックの技術構造の説明。ドリル練習、ボールポゼッションゲーム、スモールサイドゲームを通じた技能獲得	⑫	[テーマ] インステップ その2(プレースキック) [内容] 地面上にあるボールのインステップキックの技術構造の説明。ドリル練習、シュートスキル、そして1/4ピッチでのスモールサイドゲームを通じた技術獲得
⑤	[テーマ] トラッピング その1(グランダーボール) [内容] グランダーボールのトラッピングの技術構造の説明。ドリル練習、ボールポゼッションゲーム、スモールサイドゲームを通じた技能獲得	⑬	[テーマ] ドリブルとシュート・パス [内容] 良いドリブルの解説と練習。ゲームスキルとしてパスやシュートとの組み合わせたパターン練習とスモールサイドゲーム
⑥	[テーマ] トゥキック、ヒールキック、ソールキック [内容] 3種類のキックの技術構造の説明。ドリル練習、ボールポゼッションゲーム、スモールサイドゲームを通じた技能獲得	⑭	[テーマ] ゲーム [内容] ハーフコートでの8:8のゲーム。ほぼ正規のルールを適用
⑦	[テーマ] インサイドでのスワーブキック(インフロントキック) [内容] インサイドでのスワーブキックの技術構造と使用局面の説明。ドリル練習、ボールポゼッションゲーム、スモールサイドゲームを通じた技能獲得	⑮	[テーマ] ゲーム [内容] フルコートでの11:11のゲーム。正規ルールで行う。
⑧	[テーマ] アウトサイドでのスワーブキック(アウトフロントキック) [内容] アウトサイドでのスワーブキックの技術構造と使用局面の説明。ドリル練習、ボールポゼッションゲーム、スモールサイドゲームを通じた技能獲得	⑯	[テーマ] [内容]

成績評価方法(方針)

出席3分の2以上、ボールリフティング20回以上、およびサッカーのルールに関するレポート2つを達成できなかった場合、欠格とする。ボールリフティングについては、毎週授業時の最初の15分間をウォームアップも兼ねてリフティングタイムとして設け、小テスト的に確認するので、出来る限り早い段階での達成努力をすること。評価割合の高い技能については、経験者を有利とするのではなく、向上度を評価基準とする。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				実施せず
授業内レポート				
授業外レポート	◎			15%
演習・実技	◎	○	◎	70%
授業態度	○	○	○	15%
出席	◎	◎	◎	欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・大学指定ウェアー着用
・各自サッカーシューズ(スパイク、トレーニングシューズ)用意
・公的理由もしくは病気、ケガ等で欠席(見学)する場合、根拠文書を添えて欠席届を提出すること。※病気・ケガの場合は診断書。
・悪天候で実技が出来ない場合、教室で座学を行うので掲示板を見ること。
・「学ぶ」高いモチベーションを有した受講者を強く希望する。
・授業態度については減点対象であり、改善しない場合は欠格とする場合もある。

関連科目			
教科書	特に指定なし	参考書	特に指定なし
連絡先	研究室:A棟4F413　オフィスアワー:木曜日12:30～14:00		

授業科目名	サッカー Soccer(P.A.)				担当教員	吉井　秀邦・黒澤　尚
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	実技	関連資格	ジュニアスポーツ指導員
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

本授業はサッカーの基本技術の獲得を中心に行う。授業テーマに沿い、その基本技術の構造を具体的に解説しながらドリル形式のトレーニングで基本を獲得した後、その基本技術をスキルとして発揮できるように、スモールサイドゲームを多く取り入れた授業とする。

授業の一般目標

サッカーを構成する各種の基本技術の構造を分解し、逆算の発想から、その技術構造を再構築して、その技術獲得につなげる一連の流れが理解出来るようになる。これにより技術獲得に要する時間が短くなり、スキルとして失敗した場合でもその原因と理由が自己分析できる改善能力が身につく。

授業の到達目標

■	認知的領域	基本技術の構造と、その分解・組み立ての説明ができる。
■	情意的領域	より効率的、効果的な指導を知ることで、さらにモチベーションを高めることができる。
■	技能表現的領域	一般体育や初心者レベル指導で示範ができる。

授業計画(全体)

日本サッカー協会のコーチング法をベースに、基本技術の獲得をより効率的、効果的に行う。各授業テーマ毎に、その基本技術の構造を解説し、分解と組み立てをしながら示範を中心に説明、理解させ、ドリル形式で獲得する。その後ゲーム形式でスキルとして発揮出来るようにオーガナイズする。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、成績評価の方法と履修上の諸注意	⑨	[テーマ] ペネトレーション(突破)①個人 [内容] ドリブルやラン・ウィズ・ザ・ボールによる突破を学ぶ。スモールサイドゲームを通じた技能獲得
②	[テーマ] サッカー競技の特色と最初の技能評価 [内容] サッカー競技の特色を説明。M-T-Mの原則に従いスモールサイドゲームで受講者の既存の技能評価	⑩	[テーマ] ペネトレーション(突破)②グループ [内容] 3人目の動きやサポート、グループでの突破、オフェンス戦術を学ぶ。スモールサイドゲームを通じた技能獲得
③	[テーマ] ボールフィーリング① [内容] ボールを運ぶ技術の獲得。スモールサイドゲームを通じた技能獲得	⑪	[テーマ] ボールを奪う①個人 [内容] 個人でのボール奪取技術の獲得。スモールサイドゲームを通じた技能獲得
④	[テーマ] ボールフィーリング② [内容] ボールをコントロール(止める)技術の獲得。スモールサイドゲームを通じた技能獲得	⑫	[テーマ] ボールを奪う②グループ [内容] グループでのボール奪取、ディフェンス戦術の獲得。スモールサイドゲームを通じた技能獲得
⑤	[テーマ] パス&コントロール① [内容] 動きながらのパス&コントロールの技術獲得。スモールサイドゲームを通じた技能獲得	⑬	[テーマ] スモールサイドゲーム [内容] コートのサイズを変えながら、ミニゲームを行い、
⑥	[テーマ] パス&コントロール② [内容] サポート・ポジショニングについて学ぶ。スモールサイドゲームを通じた技能獲得	⑭	[テーマ] 審判法 [内容] サッカーの審判法を学ぶ。
⑦	[テーマ] ボールを失わない [内容] ボールキープの為の手や体の使い方を学ぶ。スモールサイドゲームを通じた技能獲得	⑮	[テーマ] ゲーム [内容] 8;8のゲーム。正規ルールで行う。
⑧	[テーマ] シュート・ヘディング [内容] シュート技術・ヘディング技術の獲得。スモールサイドゲームを通じた技能獲得	⑯	[テーマ] ゲーム [内容] フルコートでの11:11のゲーム。正規ルールで行う。

成績評価方法(方針)

出席3分の2以上、およびサッカーのルールに関するレポートを達成できなかった場合、欠格とする。評価割合の高い技能については、経験者を有利とするのではなく、向上度を評価基準とする。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				実施せず
授業内レポート				
授業外レポート	◎			20%
演習・実技	◎	○	◎	60%
授業態度	○	○	○	20%
出席	◎	◎	◎	欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・大学指定ウェアー着用
・各自サッカーシューズ(スパイク、トレーニングシューズ)用意
・公的理由もしくは病気、ケガ等で欠席(見学)する場合、根拠文書を添えて欠席届を提出すること。※病気・ケガの場合は診断書。
・悪天候で実技が出来ない場合、教室で座学を行うので掲示板を見ること。
・「学ぶ」高いモチベーションを有した受講者を強く希望する。
・授業態度については減点対象であり、改善しない場合は欠格とする場合もある。

関連科目			
教科書	特に指定なし	参考書	特に指定なし
連絡先	研究室:A棟4F414　オフィスアワー:木曜日12:40～14:10		

授業科目名	ラグビー Rugby(P.A.)				担当教員	武石 健哉
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	実技	関連資格	ジュニアスポーツ指導員
	履修の方法	選択必修	単位数	1		

授業の概要

ラグビーの基本理念・スキルを身につける為に、毎回テーマが与えられ活動する。受講者相互にコミュニケーションをとり、ラグビー特有のプレーができるよう関係を構築していく。教員は、基本理念・スキル習得のためのポイントと活動を促進するようなアドバイスを行う。

授業の一般目標

ラグビー独自の基本的なスキルを身につけると共に、基本理念とされているノーサイド、ワンフォアオール・オールフォアワンの精神を理解する。また、ラグビー憲章にある自由、責任、フェア、多様性といった特徴をゲームから感じ取る。さらに戦術・戦略面について学ぶことにより、ラグビー競技を深く理解する。

授業の到達目標

■	認知的領域	フットボールからサッカーとラグビーに分かれた歴史的背景を理解する。ボールの形、ラグビーのスローフォワード、ノックオン、オフサイドが成立した理由、レフリーの役目、キャプテンシーとは何かを理解する。
■	情意的領域	ボールを前方へパスしてはいけない、前方へ落してはいけない等のラグビーのルールに留意して、他者と関係を構築しながら授業でのテーマに取り組むことができる。
■	技能表現的領域	ラグビーの競技特性を理解しつつ、個人、チームスキルを発揮できる。

授業計画(全体)

主にグループにより活動を進め、多様なゲーム形式にてラグビーに必要な要素を理解する。基本的なスキルトレーニングにて、ゲームに必要なスキル習得を目指す。ミニゲーム、基本スキル習得ドリルを並行して行い、実戦で活用できるレベルに基本スキルを高めると共に、ゲームを構成しているプレーについて知識を深める。最終的に、15人制のルールでゲームを行い、ルール・ゲーム特性を理解し、チーム力の向上を目指すことでラグビーを学ぶ。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] ガイダンス ラグビーというスポーツ [内容] 担当教員の紹介、授業の目的と進め方、成績評価の方法、ラグビーの歴史、国内外のラグビーについて説明する。	⑨	[テーマ] アタック方法の理解と実践① [内容] アタック方法を提示し実践する。デコイ、クロス、ループといった複数でアタックする方法を練習する。ミニゲームにて達成度を確認する。
②	[テーマ] ラグビーのルーツ、フットボールを体験する [内容] サッカーとラグビーのルーツであるフットボールについての説明を行い、実体験する。ラグビーにおけるレフリー、キャプテンの役割、ローの意味等についての説明を行う。	⑩	[テーマ] アタック方法の理解と実践② [内容] ラン・パス・密集(モール)を駆使し、防御を崩す。攻防の駆け引きを学び、ミニゲームにて達成度を確認する。
③	[テーマ]] 走る・投げる・捕る① [内容] パススキル・キャッチングスキルの習得。ボールを持ってのランニングスキル、ランニングパススキル、ランニングキャッチスキルの習得。	⑪	[テーマ] アタック方法の理解と実践③ [内容] ラン・パス・密集(モール)・キックを駆使し、防御を崩す。攻防の駆け引きを学び、ミニゲームにて達成度を確認する。
④	[テーマ] 走る・投げる・捕る② [内容] 3on3のゲーム形式の中でランニング・パス・キャッチングの各スキルを習得する。	⑫	[テーマ] アタック方法の理解と実践④ [内容] ラン・パス・密集(モール)・キックを駆使し、防御を崩す。グランドの形状、大きさを考え、ゲームを組み立てる。攻防の駆け引きを学び、ミニゲームにて達成度を確認する。
⑤	[テーマ] 走る・投げる・捕る③+ユニットプレー(BK) [内容] ゲームで使うBKサインプレーの動きを習得する。6on6のゲーム形式でランニング・パス・キャッチングの各スキルを習得する。	⑬	[テーマ] アタック方法の理解と実践⑤ [内容] セットプレーからの攻撃、ラン・パス・密集(モール)・キックを駆使し、防御を崩す。攻防の駆け引きを学び、ミニゲームにて達成度を確認する。
⑥	[テーマ] 密集を作る [内容] 5対5の攻防を行う。モールの形成方法、サイド攻撃プレーを習得する。	⑭	[テーマ] ディフェンス方法の理解と実践、攻撃課題を練習する [内容] ディフェンスの基本的な原則を提示し練習する。アタック方法にて抽出された課題に対しての練習を行う。
⑦	[テーマ] ユニットプレー(FW) [内容] スクラム、ラインアウトのユニットプレーを実施する。ユニットプレーの構成を理解する。	⑮	[テーマ] 15人制ラグビーのルールによる試合 [内容] ラグビーのスキル、基本的な考えを理解してゲームが出来るか確認する。ゲーム終了後、チーム内で振り返り、発表し、全員で成果を共有する。
⑧	[テーマ] キックスキル [内容] 様々なキックスキル、キックボールのキャッチングスキルを習得する。キックゲームを行い、実戦に活用できるスキルへ高める。	⑯	[テーマ] スキルテスト [内容] スキルテストを行う。実際のゲーム場面を抜出し、その中でスキルを発揮する、ラグビー精神が反映されたプレーができるか確認する。

成績評価方法(方針)

授業態度(評価割合30%)、実技実施状況(評価割合40%)、定期試験スキル到達度チェック(評価割合30%)。これらの結果を総合して成績評価を行う。ただし出席回数2／3以下の場合は成績評価対象外とする。また、特別な理由がない限り、初回から3回連続の欠席者においては、その後の履修を許可しないこととする。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	○		○	30%
授業内レポート			○	評価対象外
授業外レポート				評価対象外
演習・実技	○		◎	40%
授業態度		○	◎	30%
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

最初のガイダンスには必ず出席すること。参加・体験型の学習を中心とする本授業では、自ら考え行動する意欲が必要とされる。身体接触が伴う競技であるため、授業に出席する際の靴や服装をよく考えることが必要。ピアスや貴金属、実技に適さない靴の着用は認めない。

関連科目	特になし		
教科書	特になし	参考書	特になし
連絡先	研究室:第4体育館 武石研究室 オフィスアワー:火曜10:20～11:50		

授業科目名	柔道 Judo(P.A.)				担当教員	仲田直樹・南條充寿
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実技	関連資格	中高保体,ジュニアスポーツ指導員,講道館柔道初段※有料
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

本授業は、柔道に必要な基本動作(礼法、姿勢、進退動作、組み方、受身)と対人運動の技能(投技、固技)を実技を通じて解説する。

授業の一般目標

基本動作(礼法、姿勢、進退動作、組み方、受身)を習得した後に、投技技能、固技技能の習得に取り組む。
技能の習得を通じて柔道の本質である「精力善用」「自他共栄」の精神を理解する。
手技・腰技・足技の中から1つずつ習得する。

授業の到達目標

■	認知的領域	日本傳講道館柔道の概要(創始の歴史、目的など)について説明できる。国際柔道連盟試合審判規定に基づいて柔道の試合の勝敗が理解できる。
■	情意的領域	伝統的な行動の仕方に留意して、お互いを尊重することができる。
■	技能表現的領域	中学校、高等学校において柔道の授業を行うことができる技能を身につける。

授業計画(全体)

本授業は基本動作の解説のあと、投技の習得においては「五教の技」に基づき、その理合(相手を投げるための要素→崩し・作り・掛け)を解説しながら段階を踏んで展開していく。それぞれの技術は、かかり練習、約束練習をもって正確さを追求し、受身においては試験を行う。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業全体の流れ、評価のめやす、柔道の概要、道場内でのルールなどの説明を行う。	⑨	[テーマ] 投技技能の習得③～乱取練習 [内容] 大腰の紹介。体捌きの中の前回り捌きについて解説していく。かかり練習、約束練習における留意点を通じて技の正確さを追求する。
②	[テーマ] 受身の習得 [内容] 柔道の受身を紹介し、後受身、横受身、前回受身について解説していく。	⑩	[テーマ] 投技技能の習得④～乱取練習 [内容] 体落の紹介。かかり練習、約束練習における留意点通じて技の正確さを追求する。これまでに習得した技能を用いて立技の乱取練習を行う。
③	[テーマ] 柔道衣の着衣～基本動作 [内容] 柔道衣の各部位の名称や実際の着方について説明する。礼法(立礼、座礼)、基本姿勢、進退動作、組み方を解説する。	⑪	[テーマ] 投技技能の習得⑤～乱取練習 [内容] 大外刈と大内刈の紹介。かかり練習、約束練習における留意点通じて技の正確さを追求する。これまでに習得した技能を用いて立技の乱取練習を行う。
④	[テーマ] 固技技能の習得① [内容] 抑込技の基本的な技能を紹介し、乱取練習における攻撃、防御の方法及び留意点について解説していく。	⑫	[テーマ] 投技技能の習得⑥～乱取練習 [内容] 背負投の紹介。かかり練習、約束練習における留意点通じて技の正確さを追求する。これまでに習得した技能を用いて立技の乱取練習を行う。
⑤	[テーマ] 固技技能の習得② [内容] 関節技基本的な技能を紹介し、乱取練習における攻撃、防御の方法及び留意点について解説していく。	⑬	[テーマ] 投技技能の習得⑦～乱取練習 [内容] 巴投の紹介。捨身技の理論を解説していく。約束練習における留意点通じて技の正確さを追求する。
⑥	[テーマ] 固技技能の習得③ [内容] 絞技の基本的な技能を紹介し、乱取練習における攻撃、防御の方法及び留意点について解説していく。	⑭	[テーマ] 乱取練習 [内容] これまでに習得した技能を用いて立技の乱取練習を数多く行う。
⑦	[テーマ] 投技技能の習得① [内容] 投技の理論を解説し、習得の方法について説明する。出足払の紹介。	⑮	[テーマ] 柔道の審判法 [内容] オリンピックや世界選手権大会などで用いられている国際柔道連盟試合審判規定のうち、技の評価や罰則など基本的な部分を解説していく。
⑧	[テーマ] 投技技能の習得② [内容] 膝車の紹介。投技における体捌きの重要性について解説する。	⑯	[テーマ] 実技試験 [内容] 前回受身(左右)のテストを行う。

成績評価方法(方針)

実技試験を用いて評価する。ただし、出席回数が2／3以下の場合は成績評価対象外とする。また、基本動作の未習得による危険性を考慮して、いかなる理由であろうと初回から3回連続の欠席者においてはその後の履修を許可しないこととする。大会等による欠席、怪我による見学も出席とは認めない。事故の多い競技特性から、最低2／3以上、道衣を着て受講したことで単位認定の対象者となることを理解していただきたい。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験			◎	50%
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度				
出席			◎	50%

履修上の注意(受講学生に望むこと)

武道の特性を理解し、授業中は道場内でのルール(礼法、服装、注意事項など)を厳守してください。著しく実践できない学生については受講を遠慮していただく可能性があります。
柔道衣は各自で準備してください。 ※第1回目の授業で申し込みが可能です。
柔道衣を着用する場合に金属類や余計な物は身につけないこと。

関連科目	種目別コーチング演習(柔道) Ⅰ・Ⅱ		
教科書		参考書	柔道パーフェクトマスター(新星出版社)
連絡先	仲田研究室:第5体育館3F34		

授業科目名	剣道 Kendo(P.A.)				担当教員	齋藤浩二
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実技	関連資格	中高保体、ジュニアスポーツ指導員
	履修の方法	選択必修	単位数	1		

授業の概要

剣道の基本動作と一本打ちの技の習得に重点をおいて行う。「技」の習得は、代表的な技のみに留めて、互格稽古および簡易試合ができるまで展開する。

授業の一般目標

剣道の基礎的な動作を身に付け、基本となる打ち方を理解して、面・小手・胴を打突できるようになる。日本の伝統的な行動様式や剣道具の着装・外し方の作法などが理解でき、身に付けることができる。

授業の到達目標

■	認知的領域	剣道の試合の仕方、技の種類、竹刀・剣道具の名称を説明できる。
■	情意的領域	竹刀を持ち、相手と打ち合うことの楽しさを味わうことができる。
■	技能表現的領域	伝統的な行動や礼儀作法が理解でき、基本動作が身に付けることができる。

授業計画(全体)

基本動作と打突の仕方・打たせ方を身に付けてから、徐々に剣道具を着装する。その上で、一本打ちの技を重点的に取り組み、いくつかの技を習得して稽古へと展開していく。互格稽古ができるようになったら、簡易な試合、さらに団体形式の試合を行う。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション、礼法 [内容] 授業の内容の説明と剣道についての概要、礼法(正座・座礼)の指導	⑨	[テーマ]切り返しの完成、払い技の習得、互格稽古 [内容] 復習(素振り、切り返し)、切り返し(完成)、一本打ちの技、払い面、約束練習、互格稽古
②	[テーマ] 基本動作の習得 [内容] 竹刀の名称、組み立て方の説明、基本動作としての礼法(正座、座礼、立礼)、構え方の指導	⑩	[テーマ] 連続技(二段技)の習得、互格稽古 [内容] 復習(素振り、切り返し)、切り返し、一本打ちの技、払い技の復習、小手ー面、小手ー胴、約束練習、互格稽古
③	[テーマ] 基本動作から打突動作への展開 [内容] 足さばき、振り方(上下・正面)、稽古時の礼法の指導	⑪	[テーマ] 引き技の習得、互格稽古 [内容] 復習(素振り、切り返し)切り返し、一本打ちの技、二段技の復習、つばぜり合い、引き面、引き胴、約束練習、互格稽古
④	[テーマ] 剣道具(垂・胴)の着装、打突の仕方・打たせ方の導入 [内容] 前回の復習(足さばき・振り方)、剣道具(垂・胴)の着装、打ってみる	⑫	[テーマ] 技の練習、試合への導入 [内容] 試合規則の説明、復習(素振り)、切り返し、一本打ちの技「攻め→反応する→打突」のパターンによる練習、約束練習(これまで練習した技を組み合わせて行う)、互格稽古(試合のように実施する)
⑤	[テーマ] 打突の仕方、打たせ方の習得 [内容] 復習(素振り)、打ってみる、踏み込む足の練習、打突の仕方(面)の指導	⑬	[テーマ] 試合への導入 [内容] 素振り、切り返し、基本打突、約束練習、試合の体験
⑥	[テーマ] 剣道具(面・小手)の着装、打突の仕方・打たせ方(面)の導入 [内容] 復習(素振り、踏み込み足による面打ち)、剣道具(面・小手)の着装、部位(面・胴・小手)を打ってみる、送り足による面打ち、踏み込みによる面打ち	⑭	[テーマ]簡易試合 [内容] 素振り、切り返し、基本打突、約束練習、団体形式の試合を体験
⑦	[テーマ] 打突の仕方(面・胴・小手)の習得 [内容] 復習(素振り、踏み込む足による面打ち、送り足による(面・胴・小手)、踏み込み足による(面・胴・小手)、約束練習	⑮	[テーマ] 簡易試合 [内容] 素振り、切り返し、基本打突、約束練習、団体形式の試合
⑧	[テーマ] 一本打ちの技の練習、切り返しの導入、稽古への導入 [内容] 復習(素振り、踏み込む足による面打ち)、切り返し一回、一本打ちの技(面・胴・小手)の練習、約束練習、稽古	⑯	[テーマ] 試験 [内容] 素振り、切り返し、面打ち、胴打ち、小手ー面打ち

成績評価方法(方針)

実技試験(70%)、授業時の実技評価(30%)の結果に基づき、総合的に評価する。また、授業への積極的な態度については加点する。ただし、出席回数が2／3以下の場合は、成績評価対象外とする。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験			◎	70%
授業内レポート				評価対象外
授業外レポート				評価対象外
演習・実技		○		30%
授業態度				加点
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

授業ではあるが、剣道は伝統的な行動を重視するため、礼儀作法や行動の仕方については厳しく指導します。必要な用具として、竹刀と手拭いを準備してください。

関連科目			
教科書	特に指定しない。	参考書	全日本剣道連盟編『剣道指導要領』
連絡先	齋藤研究室:第三体育館3階剣道場　オフィスアワー:木曜日　11:00～12:30		

授業科目名	ダンスⅠ Dance Ⅰ (P.A.)				担当教員	山梨　雅枝
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実技	関連資格	教員免許状（中高保体）、ジュニアスポーツ指導員、 スポーツプログラマー
	履修の方法	選択必修	単位数	1		

授業の概要

毎回、バーを使いクラシックバレエの基本的な動きを行う。また、バーの動きでは、柔軟性やバランス能力、細かいステップなどを習得していく。その後、フロアーの動きでは、ジャンプや回転を中心に実施する。これらの動きは、全て音楽に合わせて行い、動きの技だけでなく、音感を育むことも重視する。

授業の一般目標

クラシックバレエのバーを使った動きは、約350年の歴史の中で体系化されたトレーニング方法であり、体幹や柔軟性を育むのに大変有効である。そのため、様々なスポーツの基礎的なトレーニングにも成り得る。クラシックバレエの基本的な動きを繰り返し実践することで、自己の身体と向き合いながら、体幹や柔軟性、調整力を高めることが目標である。

授業の到達目標

■	認知的領域	自己の身体に気づくことができる。
■	情意的領域	合理的な身体の動かし方について理解することができる。
■	技能表現的領域	質の異なる様々な動きに対応することができる。

授業計画（全体）

毎時間、クラシックバレエの基本的な動きを実施し、授業を重ねる毎にレベルを上げていく。その際、4拍子や3拍子の動きにも対応できるよう、音感も鍛えながら実施する。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ]　オリエンテーション [内容]　担当教員の紹介、授業の目標と進め方、成績評価の方法についての説明。ダンス作品DVD鑑賞。	⑨	[テーマ]　ステップ① [内容]　フロアで4種類以上のステップで構成された動きを行う。
②	[テーマ]　足の動きと手の動き [内容]　5つの足のポジションと4つの手の動きを理解する。	⑩	[テーマ]　ステップ② [内容]　フロアで5種類以上のステップで構成された動きを行う。
③	[テーマ]　両手でバーにつかまって行う動き [内容]　バーを両手で握り、床を踏む動きとバランスの動きを行う。	⑪	[テーマ]　バランスとターン① [内容]　フロアでバランスからターンを行う動きを行う。
④	[テーマ]　片手でバーにつかまる動き [内容]　バランスをとりながら、床を踏む動きを行う。	⑫	[テーマ]　ジャンプとターン① [内容]　フロアでジャンプとターンの動きを行う。
⑤	[テーマ]　バーを用いたジャンプの動き [内容]　床を踏んでからジャンプをするステップを行う。	⑬	[テーマ]　ジャンプとターン② [内容]　フロアでジャンプとターンの動きを行う。
⑥	[テーマ]　バーを用いてバランスとジャンプの動き [内容]　バーを用いて、バランスやジャンプを行う。	⑭	[テーマ]　ステップ、ジャンプ、バランス、ターンの動き① [内容]　13回目までに学んできた動きを、音楽に合わせて踊る。
⑦	[テーマ]　バーを用いたターンの動き [内容]　バーを用いて、ジャンプやバランス、ターンを行う。	⑮	[テーマ]　ステップ、ジャンプ、バランス、ターンの動き② [内容]　13回目までに学んできた動きを、音楽に合わせて踊る。
⑧	[テーマ]　ジャンプとバランスとターンを組み合わせた動き [内容]　フロアで、ジャンプとバランスとターンを組み合わせた動きを行う。	⑯	[テーマ]　試験 [内容]　ステップとジャンプ、バランス、ターンの動きが組み込まれた作品を1人ずつ試験する。

成績評価方法（方針）

実技試験で、授業内容の理解度を観る。また、受講態度、出席状況を総合的に評価する。しかし、出席回数が単位取得条件を満たしていても、授業内容が理解できていないと判断した場合、単位取得は認められない。また、他の受講者に悪影響と思われる行動や発言をしたと授業担当者が判断した場合、単位取得は認めない。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験			◎	30%
授業内レポート	○	○		5%
授業外レポート				
演習・実技			◎	30%
授業態度		◎	◎	15%
出席		◎		20%

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・授業を通じて自己の身体に興味を持つこと。
・体調管理を怠らない。（飲み物を各自準備する。但し、蓋のある容器のみ持込可。）
・体育館使用上のルール、授業を受ける最低限のマナーを守る。
　①授業中、周囲に目を配り、互いがより良く学びあえる空間を築く様、努めること。
　②活動の妨げになるものは一切身につけないこと。
　③服装については、授業担当者の指示に従うこと。

関連科目	保健体育科教育論　Ⅲ、ダンス　Ⅱ		
教科書	適宜資料を配布する。	参考書	・片岡康子『舞踊学講義』大修館,1991
連絡先	山梨研究室（第4体育館1F）		

授業科目名	海浜実習 Activity & Swim Camp				担当教員	渡邉 泰典
開講内容	学年・学期	1年・集中	授業方法	実技	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

海浜実習はプール実技の応用として、海浜を利用しての水泳訓練及びマリンスポーツの体験等を主とした学外集中実技授業である。6月と7月にそれぞれ事前オリエンテーションを実施し、学外集中授業として現地にて8月下旬に3泊4日間の日程で開講する。

授業の一般目標

事前オリエンテーション、プール実技及び3泊4日の学外授業全日程に参加すること。実技ノルマである大遠泳（約3km・2時間）完泳を目指すこと。民宿・旅館での集団生活に必要なマナーを厳守すること。

授業の到達目標

■	認知的領域	海浜活動に関わる基本的知識・技能と、活動上の留意点について説明することができる。
■	情意的領域	自然の驚異にふれ、海で活動することの楽しさを知る。人間個人の能力の限界に挑戦し、達成感を得られる。参加実習生同士や上級生との親睦を深めることができる。
■	技能表現的領域	連続2時間以上の泳力を身につけることができる。水泳以外のアクティビティを実践することができる。

授業計画（全体）

事前オリエンテーション、事前実技講習有り。本番の日程は8月の第4週頃に3泊4日の日程で実施予定である。宿泊施設は地元民宿と旅館を貸し切り。交通手段については貸し切りバス利用予定。事前申込み手続き有り。参加費用については約35,000円銀行振り込み（事前に掲示にて告知）。

授業テーマとその内容

1、事前作業
[テーマ] 海浜実習指導内容・知識事前確認
[内 容]
①泳力チェック；同時開講の水泳授業により、事前に泳力を確認する。
②海浜実習オリエンテーション（6月中旬ごろ）；指定会場にて実習に関する説明会を実施する（実施場所については別途掲示する）。
③事前実技講習（7月中旬ごろ）；遠泳に必要な基本的知識と技能に関する説明会を実施する（実施場所については別途掲示する）。

2、現地本番作業
[テーマ] 実地海浜訓練実技体験
[内 容]
＜第1日目＞ 午前；大学出発、現地到着、
午後；開講式、入退水方法、点呼法、集団行動等の実技学習、
海浜での泳能力チェック、遠泳マナー習得

＜第2日目＞ 全日；海浜救助法、およびマリンスポーツ体験（①ｽｷﾝﾀﾞｲﾋﾞﾝｸﾞ、②ｼｰｶﾔｯｸ体験、③スタンドアップパドルボード等）

＜第3日目＞ 全日；遠泳に向けた隊列泳練習（①小遠泳、②中遠泳 等）

＜第4日目＞ 午前；大遠泳、
午後；撤収作業、閉講式、 現地出発、本学到着、全行程終了・解散

成績評価方法（方針）

ノルマ；全日程参加（事前学内講習含）・全種目体験完了・大遠泳完泳

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技	◎	◎	◎	40
授業態度	◎	◎	◎	10
出席	◎	◎	◎	50

履修上の注意（受講学生に望むこと）

①受講可能条件として、水泳実技履修者のうちで、6月末に実施される第1次水泳実技試験を受験していなければならない（合否は問わない）。
②水泳実技授業において、第1次水泳実技試験までの出席率が100％でなければ参加できない。
③海浜という自然環境の中での授業なので、危機的場面に遭遇することもあり、また、体育授業を想定した集団行動訓練も充分行うので、忍耐強く且つ積極的受講が要求される。さらに、民宿での集団生活が有る訳であり、規律正しい態度も要求される。

関連科目	水泳、水上安全法（含実習）		
教科書	なし	参考書	なし
連絡先	LC棟2階207研究室 渡邉泰典（ysn-watanabe@sendai-u.ac.jp）		

授業科目名	スキー Ⅰ Ski Ⅰ (P.A.)				担当教員	高橋 弘彦 他
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実習	関連資格	
	履修の方法	選択必修	単位数	1		

授業の概要

各自のレベルにおけるスキーの基礎的理論、基礎技術及び指導法を修得させる。また、学外集中授業の運営形態を学ばせると共に集団生活を通して共同・協調の精神を養わせる。
実習は2月下旬から3月上旬にかけて、3泊4日の日程で山形県蔵王温泉スキー場にて実施する。

授業の一般目標

修得技能は、初めてスキーを行う者でも全日本スキー連盟バッヂテスト3級を目標とする。スキー経験のある者については、より難易度の高い斜面の滑走が可能になるよう自己技能の向上に努める。

授業の到達目標

■	認知的領域	各自のレベルにおける技術について説明できる。
□	情意的領域	
■	技能表現的領域	実習開始時よりも技能向上が認識できる。

授業計画(全体)

技能レベル毎の班別講習を実施する。技能習得の効率を高めるため、原則として1班10名以内の班編成とする。
ナイタースキーも実施する。
※受講希望者数がホテルの収容人数を超えた場合は、抽選となる場合がある。また受講の優先は4月における履修登録者となる。

授業テーマとその内容

1. オリエンテーション
授業計画、指導内容、指導方法、日程、費用に関する説明を行う(11月中旬を予定)。
各自の技能評価用紙を提出させる。

2. 実習
①全体ミーティング
開講式に先立ち、蔵王温泉スキー場の紹介、ホテルにおける生活、リフト券の取り扱い等に関する留意点を説明する。
②開講式
各班の指導担当教員及び補助学生の紹介を行う。
ゲレンデにおけるマナーと傷害防止に関する説明を行う。
③実技
技能レベルの近い数班が合同にて班分けを行い、正式の講習班を編成する。
講習班の決定後は、各班毎に実技講習を実施する。
1)プルーク:押し開き、リズミカルな連続押し開き
2)プルークボーゲン:交互押し出し、浅まわりと深まわり
3)シュテムターン:山開き、谷開き
4)パラレルターン(大回り):スキッディング、カービング
5)パラレルターン(小回り):スキッディング、カービング
6)総合滑降:雪質、斜度等の条件に適合した滑り
7)制限滑降:ポールセットにより制限されたコース
8)班別デモンストレーション
④閉講式

成績評価方法(方針)

修得技能、授業参加態度および実習における生活全体を総合して評価する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 \ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技			◎	100%
授業態度				欠格条件
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

1. 必ずオリエンテーションに出席すること。オリエンテーションに出席しない場合には、履修登録を行っていても授業への参加は認められない。また、指定期日までに参加費の入金がない場合も参加は認められない。 2. オリエンテーションは11月を予定。 3. 実習期間中は、禁酒、禁煙となる。これに違反した場合は、履修放棄扱いとなる。 4. 実習費は、39000円程度の予定(宿泊、全食事、交通、保険、リフト)。レンタルスキーを借りる場合は、別途5500円程度(現地支払い)が必要となる。レンタルウェアーの取り扱いはない。5. 参加希望者が受入れ可能人数を超過した場合は、抽選になることもある。

関連科目	スキーⅡ(3年)		
教科書	特に指定しない	参考書	特に指定しない
連絡先	研究室:C棟3階 55-3002(研究室直通) hr-takahshi@sendai-u.ac.jp		

授業科目名	スキーⅡ SkiⅡ(P.A.)				担当教員	高橋 弘彦 他
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	実習	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

スキーⅠで修得した技能を踏まえ、スキーの理論や運動特性を学習すると共に応用技術の修得へと発展させていく。
実習は1月上旬の期間において2泊3日の日程で山形県蔵王温泉スキー場にて実施する。

授業の一般目標

修得技能は、スキーⅠで初めてスキーを行った者でも全日本スキー連盟バッヂテスト2級を目標とする。スキー経験の長い者については、より難易度の高い斜面の滑走が可能になるよう自己技能の向上に努める。

授業の到達目標

■	認知的領域	各自のレベルにおける技術について説明できる。
□	情意的領域	
■	技能表現的領域	実習開始時よりも技能向上が認識できる。

授業計画(全体)

技能レベル毎の班別講習を実施する。技能習得の効率を高めるため、原則として1班10名以内の班編成とする。
ナイタースキーも実施する。

授業テーマとその内容

1. オリエンテーション
授業計画、指導内容、指導方法、日程、費用に関する説明を行う(11月中旬を予定)。
各自の技能評価用紙を提出させる。

2. 実習
①開講式
ゲレンデにおけるマナーと傷害防止に関する説明を行う。
③実技
全体で班分けを行い、正式の講習班を編成する。
講習班の決定後は、各班毎に講習を実施する。
1)パラレルターン(大回り):スキッディング、カービング
2)パラレルターン(小回り):スキッディング、カービング
3)総合滑降:雪質、斜度等の条件に適合した滑り
4)制限滑降:ポールセットにより制限されたコース
④閉講式

成績評価方法(方針)

修得技能と授業参加態度を総合して評価する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 \ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技			◎	100%
授業態度				欠格条件
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

1. スキーⅠの単位取得者に限る。
2. 履修希望者は必ずオリエンテーションに出席すること。オリエンテーションに出席しない場合には、履修登録を行っていても授業への参加は認められない。また、指定期日までに参加費の入金がない場合も参加は認められない。
3. オリエンテーションは11月中～下旬を予定。
4. 実習費は、25000円程度の予定(宿泊、全食事、交通、保険、リフト)。
5. 必ずカービングスキーを準備すること。レンタルの取り扱いはない。

関連科目	スキーⅠ(1年)		
教科書	特に指定しない	参考書	特に指定しない
連絡先	研究室:C棟3階 55-3002(研究室直通) hr-takahshi@sendai-u.ac.jp		

授業科目名	マリンスポーツⅠ Marine Sports Ⅰ(P.A.)				担当教員	高橋 弘彦 他
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	実習	関連資格	NAUI SCUBA DIVER
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

マリンスポーツの1つであるスクーバダイビングを実施する。はじめにコンファインドウォーター(プール)において基本的な潜水技術を習得し、それを基にオープンウォーター(海洋)において応用技術を習得する。またスクーバダイビングに必要な物理学、生理学、医学に関する知識も習得する。オープンウォーター実習(海洋実習)は、山形県鶴岡市にて実施する。

授業の一般目標

スクーバダイビングに必要な水中技能を習得し、水中における物理学、生理学、医学等の分野について理解することにより、各自で安全にオープンウォーターでのダイビング活動が行えるようになる。
同時にNAUI SCUBA DIVERの資格認定を受ける。

授業の到達目標

■	認知的領域	水中におけるダイバーの行動と安全性に関連する、物理学、生理学、医学等の分野について説明できる。
□	情意的領域	
■	技能表現的領域	インストラクターの管理なしでオープンウォーターにおけるダイビング活動を行う事が出来るようになる。

授業計画(全体)

①水泳技能、②スキンダイビング技能、③スクーバダイビング技能と、段階的に技能を習得させていく。技能習得が不十分な場合には次の段階には進むことはできない。その場合、各自での個別練習が必要となる。併せてスクーバダイビングに必要な物理学、生理学、医学等に関する理論講義及び筆記試験も実施する。
海洋でのダイビング本数は5～6本を予定。安全性確保の観点から、受講希望者が指導可能人数を超えた場合は、水泳技能上位者から受講を許可していく。

授業テーマとその内容

①水泳技能(本学プール)
　スクーバダイビングに必要な基礎泳力(長時間水泳、生存水泳、水平潜水等)の習得
②スキンダイビング技術(本学プールおよび他プール)
　マスククリア、シュノーケルクリア、フィンキック、シュノーケリング、サーフェスダイブ、エントリー、エギジット、水面・水中機材脱着
③スクーバダイビング技術(本学プールおよび他プール)
　機材のセッティング、装着・脱装、耳抜き、潜行・浮上、マスク・レギュレータクリア、マスク・レギュレータ脱着、オクトパスブリージング、水面・水中移動、マスクなし遊泳

3. 理論
NAUI SCUBA DIVERテキストを用いて実施(物理学、生理学、医学等)
上記内容に関する筆記試験(正答率80%以上)

4. オープンウォーター(海洋)
①コンファインドウォーターにおける習得技術の実施
②ライン潜行・浮上、バディシステム、ジャイアントストライド・バックロールエントリー
③中性浮力、ホバリング、緊急スイミングアセント、オクトパスブリージングアセント、水中機材脱着、ダイブプランの作成
④コンパスナビゲーション、ナチュラルナビゲーション、フリー潜行・浮上、安全停止

3. 費用(概算):①④は物品購入時に支払う。②③はオープンウォーター実習終了時に支払う。
①NAUI SCUBA DIVERテキスト(含申請料)(15000円程度)
②レンタル:タンク(18000円程度)
③宿泊:2泊6食(16000円程度)
④個人購入品:水中でコンタクトレンズは使用できないため、近視の者はマスク用オプチカルレンズ(両眼で18000円程度)が必要となる。

その他
・個人的にNAUI SCUBA DIVERもしくはPADI OPENWATER DIVERの認定証を所持している場合に関しては、所定の水泳能力及びダイビングスキルに問題がなければNAUI ADVANCED SCUBA DIVERの認定を受けることも可能である。
・12月に実施されるマリンスポーツⅡに個人的にオプション参加することで、NAUI ADVANCED SCUBA DIVERの認定を受けることも可能である。
・2年時にNAUI ADVANCED SCUBA DIVERを取得してしまった場合、3年時の履修では格種SPECIALTY DIVERの認定が可能となる。
ステップアップに関しては、オリエンテーション時に詳細に説明する。

成績評価方法(方針)

修得技術と授業参加態度を総合して評価する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 \ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技			◎	100%
授業態度				欠格条件
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

1. 履修希望者は必ずオリエンテーションに出席すること。オリエンテーションに出席しない場合には、履修登録を行っていても授業への参加は認められない。
2. オリエンテーションは5月上～中旬を予定。
3. 学科講義、プール実習は6～7月、オープンウォーター実習は8月中旬から下旬にかけて実施予定であるが、オープンウォーター実習は天候、海況により変更になる場合がある。

関連科目	マリンスポーツⅡ(3年)		
教科書	NAUI SCUBA DIVER テキスト	参考書	特に指定しない
連絡先	研究室:C棟3階 55-3002(研究室直通) hr-takahshi@sendai-u.ac.jp		

授業科目名	マリンスポーツⅡ Marine SportsⅡ(P.A.)				担当教員	高橋 弘彦 他
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	実習	関連資格	NAUI ADVANCED SCUBA DIVER NAUI SPECIALTY DIVER
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

マリンスポーツⅠでNAUI SCUBA DIVERとしての認定を受けた者に対し、各種のダイビング活動を紹介・実施させるとともに、海外リゾートにおけるダイビングスタイルを経験させる。
実習は、11月下旬から12月中旬の間に4泊5日の日程でグアムにて実施する。

授業の一般目標

マリンスポーツⅠで修得した水中技能をさらに高め、様々なダイビングスタイルを経験することにより、さらに安全なダイビング活動が行えるようになる。同時にNAUI ADVANCED SCUBA DIVERの資格認定を受ける。NAUI ADVANCED SCUBA DIVER所持者に関しては、各種SPECIALTY DIVERの認定を受ける。

授業の到達目標

■	認知的領域	複数のダイブプランを作成できるようになる。
□	情意的領域	
■	技能表現的領域	様々な条件下におけるダイビング活動を安全に行う事が出来るようになる。

授業計画(全体)

スクーバダイビングの経験本数を増やすことにより、ダイビングスキルを向上させていく。特にボートダイビング、ナビゲーション、ディープダイビングにおけるスキルを向上させる。
ダイビング本数は8本を予定。

授業テーマとその内容

1. オリエンテーション
 授業計画、指導内容、指導方法、日程、費用、NAUI ADVANCED SCUBA DIVERコース及びNAUI SPECIALTY DIVERコースに関する説明を行う(5月中旬を予定)。

2. スキルチェック(プール・海洋1本目)
 NAUI SCUBA DIVERコースで実施した基本スキルのチェック

3. ボートダイビング
 ①ボート上での機材のセッティング
 ②エントリーとエギジット
 ③ドリフトダイビング

4. ナビゲーション
 ①コンパスナビゲーション
 ②ナチュラルナビゲーション

5. ディープダイビング
 ①ダイビングプランの作成と実施
 ②確実な安全停止

6. 沈潜ダイビング
 ①中性浮力の確実なコントロールとフィンスキル

7. 費用(概算)
 ①NAUI ADVANCED DIVERテキスト(含申請料)(10000円程度)
 ②ダイビング費用(360ドル程度)
 ③旅費(グアム4泊5日食費別:150000円程度):燃油ｻｰﾁｬｰｼﾞにより1～2万円は変動する可能性あり
 ④出入国税:3000円程度
 ⑤旅行保険:6000円程度

その他
・8月に実施されるマリンスポーツⅠに個人的にオプション参加することで、事前にNAUI ADVANCED SCUBA DIVERの認定を受けることも可能である。2年時にNAUI ADVANCED SCUBA DIVERを取得してしまった場合、3年時の履修では格種SPECIALTY DIVERの認定を行う。ステップアップに関しては、オリエンテーション時に詳細に説明する。

成績評価方法(方針)

修得技術と授業参加態度を総合して評価する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 \ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技			◎	100%
授業態度				欠格条件
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

1. 履修は原則としてマリンスポーツⅠの単位取得者とする。但し、個人的にNAUI SCUBA DIVERもしくはPADI OPENWATER DIVERの認定証を所持している場合に関しては、所定の水泳能力及びダイビングスキルに問題がなければ履修を認める。この場合、必ず相談に来ること。
2. 履修希望者は必ずオリエンテーションに出席すること。オリエンテーションに出席しない場合には、履修登録を行っていても授業への参加は認められない。
3. オリエンテーションは5月中旬を予定。

関連科目	マリンスポーツⅠ(1年):要単位取得		
教科書	NAUI ADVANCED DIVER テキスト	参考書	特に指定しない
連絡先	研究室:C棟3階 55-3002(研究室直通) hr-takahshi@sendai-u.ac.jp		

授業科目名	スケート Skating(P.A.)				担当教員	川口鉄二　他
開講内容	学年・学期	2・通年	授業方法	演習	関連資格	ジュニアスポーツ指導員
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

スケートに関する理論（歴史・滑走原理）及び基本技術（直進系・曲進系・転向系・停止系）を学習する。更に選択種目（フィギュアスケート、スピードスケート、アイスホッケー、インラインホッケー等）の基礎技能を身につけ、種目特性に応じた動く楽しさを経験する。

授業の一般目標

体育大学ならではのスケートの基本技術の学習を通して安全への配慮、マナー・エチケット及び用具の管理方法などを理解する。種目特有のできる楽しさを自らの身体知を通して学ぶことにより、体育授業及び競技、生涯スポーツの指導力へと結びつけることを狙いとする。

授業の到達目標

■	認知的領域	スケートの滑走原理、技術特性を理解し、説明できる。
■	情意的領域	グループ学習を通して相互理解を深め、協力する態度を身につける。
■	技能表現的領域	日本スケート連盟公認プレーンテストC級以上の技能を習得する。スピードスケート、アイスホッケーの競技会とその計画・運営、審判ができる。

授業計画（全体）

領域は希望と経験を考慮し、基礎、ﾌｨｷﾞｭｱ、スピード、アイスホッケーの各コースに分かれて実習を行う。実習場所は、盛岡及び仙台のスケート場。基礎技能の確認の後、各コース毎の技能を習得し、最終的にC級、B級の相当の技能テストを行い、ゲームや発表会、競技会などでも楽しめる技能を身につけていく。

授業テーマとその内容

[テーマ] オリエンテーション
[内容] 実習の概要、方法、達成課題及び評価等について

[テーマ] スケートの基礎知識
[内容] 生涯スポーツとしての今日的課題。スケート種目とその基礎技能の構造、競技法、基本ルール、技の体系について。
[内容] 滑走技術の類型と位相構造を知る。
[内容] スケーティングの基礎、自然滑走と惰力滑走、自力滑走の練習。

[テーマ] 曲進系,停止系 転向系滑走技術の習得
[内容] 両脚カーブ、フォアクロス、フォアスネークの練習。
[内容] イの字、ハの字ストップの練習。
[内容] フォアーバック、バックーフォア、モフォークターン、ジャンプターン

[テーマ] コース別上位技術の習得
[内容] フィギュア、スピード、アイスホッケー独自の基本技術及び戦術を習得することにより、競技の基礎技能を身に付ける。ルールに基づく競技を実際に体験することにより、各競技特性の理解を深める。

[テーマ] 技能テストによる達成度の確認・練習。
[内容] 各コースごとのテスト種目についての説明及び達成課題を目標とした練習。
[内容] 各コースごとのテスト種目に基づいた技能テスト。

[テーマ] 学習技能に基づく競技、ゲーム、発表などの応用滑走。
[内容] 実習で身に付けた技能をもとに、ゲームや競技、発表、競技、及びレクリエーションを行い、運営を含めた楽しみ方を学ぶ。

[テーマ] まとめ
[内容] 実習全体の総括と内容の記録（日誌）、動感達成内容の記録・公開。

成績評価方法（方針）

実習時間の30%以上の欠席は不可とする。技能習得と授業態度を総合して評価する。

成績評価方法（詳細）

到達目標 / 成績評価方法	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技		○	◎	70%
授業態度	○			70%
出席				

履修上の注意（受講学生に望むこと）

①履修希望者は必ずｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝに参加し、実習参加登録が必要です。②宿泊を伴う場合は相応の経費がかかります。③防寒具（スキー系ウェア、帽子、手袋）を身に付け、けがの防止に留意すること。④地方（盛岡）と仙台市内、夏期と冬期の選択が可能です（アイスホッケーのみ）。⑤技能習得を優先目標に置くので、当たり外れの無いマイシューズでの参加を勧めます。

関連科目			
教科書		参考書	アイススケーティングの基礎（DSK）
連絡先	A403川口		

授業科目名	キャンプ Camp (P.A.)				担当教員	岡田 成弘
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実習	関連資格	(公社) 日本キャンプ協会「キャンプインストラクター」
	履修の方法	選択必修	単位数	1		

授業の概要

組織キャンプの体験を通して、指導者に必要な資質を育成する。3泊4日間のキャンプを行い、一般的なプログラムや必要とされるマネジメントを学び、指導者からは指導法やキャンプ指導の魅力を学ぶ。また、自然環境における集団生活の中で、自立心、協調性、リーダーシップなどを養い、仲間との交流を深める。

授業の一般目標

・組織キャンプを通じて、プログラム、マネジメント、指導法について理解を深める。
・野外活動に必要な知識、技術を身につける。
・自然に親しみ、学生・教員との交流を深める。

授業の到達目標

■	認知的領域	野外活動に必要な知識・技術を身につける。
■	情意的領域	自然体験活動への興味を持ち、積極的に関わるようになる。自然に興味を持ち、自然環境を配慮する精神を育む。
■	技能表現的領域	集団生活の中でコミュニケーション力を高める。課題に対して自分なりの意見を持ち、他者とディスカッションし、グループとしての意思決定を行えるようになる。

授業計画(全体)

8月下旬～9月初旬に、学外のキャンプ場で宿泊型の実習を行う。
実習前に複数回のオリエンテーション及び準備を行う。
キャンプインストラクターの資格取得希望者は、別途教科書を購入し、キャンプ後に筆記試験を行う(詳細はオリエンテーション等で説明)。

授業テーマとその内容

日程: 第一団 2017年8月29日～9月1日(3泊4日)
第二団 2017年9月3日～6日(3泊4日) ※日程は変更する可能性があります。

対象: 仙台大学1年生及び過年度生 240名 (第一団120名 第二団120名)

指導者: 仙台大学教員(岡田、弓田、仲野、他)、ティーチングアシスタント(大学院生)、補助学生(学部生3～4年生)

実習施設: 南蔵王野営場(国立花山青少年自然の家保有の施設)

費用: 10,000円程度(施設使用料、食費、バス代、保険代、教材費)
※実習に必要な持ち物にかかる費用は自己負担とする(雨具など)

プログラム:
1日目 野外レクリエーション、テントサイト設営、野外炊事
2日目 沢歩きハイク、登山準備、野外炊事
3日目 南蔵王縦走登山、キャンプファイヤー
4日目 撤収、ふりかえり
※天候などの諸事情によって変更となる場合あり

実習までの流れ:
5月中旬 ガイダンス(日時・場所は掲示板で告知します)
キャンプ実習の目的、日程、プログラム、費用、持ち物
キャンプインストラクターの資格について説明
6月中旬 オリエンテーション①
キャンプ実習の持ち物、参加費振込について、個人調査票記入
7月下旬 オリエンテーション②
実施要項作成、最終確認
8月下旬 キャンプ実習本番 (第一団、第二団)
10月中旬 まとめの会
ふりかえり、レポート提出

詳細は、5月のガイダンスで説明するので、必ず参加すること。キャンプ前に2回行われるオリエンテーションとキャンプ後に行われるまとめの会にも必ず参加すること。
これらの集まりに無断で遅刻・欠席した者は、キャンプ実習に参加することはできない。掲示板をよく見ておくこと。

成績評価方法(方針)

実習中の態度及び実習後のレポートによって総合的に評価する。
その他、オリエンテーション時の態度や事前提出物の状況なども考慮する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 \ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				
授業内レポート				
授業外レポート		○	○	50%
演習・実技	○	○	○	50%
授業態度				減点あり
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・学科及び男女混成の6～7人程度の少人数班を作成する。友人同士で同じ班になれない可能性があるが、サークルや学科といった垣根を越えて積極的に交流してもらいたい。
・施設にお風呂はない。シャワーも毎日入れるわけではない。シャワーを毎日浴びなくても、清潔で快適に過ごせる野外スキルを学んでもらいたい。
・実習中は、学年関係なく、禁酒、禁煙とする。携帯電話の使用時間も限定する。
・ガイダンスやオリエンテーションに無断欠席・遅刻した者は実習への参加を認めない。欠席・遅刻する場合は事前に岡田のところに相談にくるように。
・必要最低限の道具は各自で揃えてもらう(詳しくはガイダンスで説明)。

関連科目	レクリエーション実技Ⅰ(1年)、レクリエーション実技Ⅱ(2年前期)、スポーツマネジメント実習(2年)、野外教育活動論(3年前期)、野外・レクリエーション・マネジメント論(3年前期)、野外・レクリエーション・マネジメント実習(3年)		
教科書	特になし	参考書	(公社) 日本キャンプ協会「キャンプ指導者入門」
連絡先	岡田研究室(A棟509)		

授業科目名	テーピング Taping (P.A.)				担当教員	高橋陽介・小田桂吾・山口貴之・村上憲治
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実技	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

テーピングの理論・目的・効果・有効性について正しい知識を学習して、実技を通じてテーピングの実施技術を習得する。

授業の一般目標

スポーツ活動において使用されているテーピングを各身体部位に外傷予防、応急処置、再発予防のそれぞれの目的に応じた技術、技法を実践できる能力を身につける。

授業の到達目標

■	認知的領域	テーピングの目的を的確に説明できる。
■	情意的領域	テーピングの効果を選手に指導できる。
■	技能表現的領域	目的に応じたテーピングが巻ける。

授業計画（全体）

運動器の解剖学を理解し、テーピングの理論と実技を繰り返し行う。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 教員の紹介．テーピングの購入方法．授業の進め方．成績・評価の説明	⑨	[テーマ] 足関節テーピング⑥ [内容] スピードを重視した足関節テーピングの実技
②	[テーマ] テーピング総論 [内容] 身体の解剖学的構造と傷害発生のメカニズムとテーピング理論の解説と、テーピングの種類・目的・効果・有効性について説明	⑩	[テーマ] 足関節テーピング⑦ [内容] スピードを重視した足関節テーピングの実技
③	[テーマ] テーピングとアンダーラップ [内容] テーピングの切り方や貼り方、アンダーラップの巻き方を説明	⑪	[テーマ] アーチテーピング [内容] 足部の構造について解説し、アーチテーピングの実技
④	[テーマ]足関節テーピング① [内容] 足関節テーピングのテクニックであるアンカーとスターアップの実技	⑫	[テーマ] 膝関節テーピング [内容] 膝関節保護のテーピングの実技
⑤	[テーマ] 足関節テーピング② [内容] 足関節テーピングのテクニックであるアンカーとスターアップの実技	⑬	[テーマ] 肘関節テーピング [内容] 肘関節保護のテーピング実技
⑥	[テーマ] 足関節テーピング③ [内容] 足関節テーピングのテクニックであるホースシューとサーキュラーの実技	⑭	[テーマ] 指関節テーピング [内容] 指関節保護のテーピング実技
⑦	[テーマ] 足関節テーピング④ [内容] 足関節テーピングのテクニックであるヒールロックとフィギュアエイトの実技	⑮	[テーマ] 実技試験① [内容] 学んだテーピングの実技評価
⑧	[テーマ] 足関節テーピング⑤ [内容] 足関節テーピング一連の流れの実技	⑯	[テーマ] 実技試験② [内容] 学んだテーピングの実技評価

成績評価方法（方針）

実技テスト90%、出席率10%で評価する。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				評価対象外
授業内レポート				評価対象外
授業外レポート	○			有
演習・実技	◎		◎	90%
授業態度				減点有
出席		◎		10%

履修上の注意（受講学生に望むこと）

実技であるので、技能の習得ができない場合の単位認定は認めない。

関連科目	コンディショニング論、コンディショニング実習		
教科書	なし	参考書	日本体育協会公認アスレティックトレーナーテキスト⑥
連絡先	高橋研究室　4体1階		

授業科目名	ニュー・ゲームズ New Games(P.A.)				担当教員	仲野隆士・弓田恵里香・佐藤周平
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	実技	関連資格	レクリエーション・コーディネーター
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

本授業では、これまでに考案されてきたニュー・ゲームを領域毎に紹介し実践する。さらに、最後の2回は全体授業とし、新しいオリジナルゲームを考案する方法について学習した上で、グループ毎に実際にオリジナルゲームを考案し、他のグループに対して発表する場面を設定することにしたい。最終的には、学校での授業や行事、地域でのレクリエーションなどで指導・支援できる能力を要請する。

授業の一般目標

限られた用具(体育館の倉庫に配置されているボールやネットなど)を用い、創意工夫を凝らして新しいオリジナルゲームを考案し提供する能力(応用力)を習得する。

授業の到達目標

■	認知的領域	ルールや用具などのアレンジの仕方がわかる・できる
■	情意的領域	ルールを変えることで面白さが変化することを知り、ルールを変える遊び心と好奇心の大切さがわかる
■	技能表現的領域	既存のスポーツをアレンジすることで新たに出現するニューゲームの楽しみ方を実践を通して理解できる

授業計画(全体)

＊ 全体を3つに分けたグループ毎に、各教員の授業を4回受ける。4回終了したら、次の教員の授業を4回というようにローテーションしていく。なお、最後の2回は仲野・弓田・川口の3名が合同で担当する。14回目以降は1体に集合し、全体で実施する。最終回は各班が考案したオリジナルニューゲームを発表する(説明書は提出)。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション(仲野・弓田・佐藤) [内容] 授業の全体像の理解と教員の把握、班分けと名簿作成 [授業外学習]	⑨	[テーマ] フライングディスク(弓田4) [内容] フライングディスク その3 これまでの技能を用いてアルティメットを体験し、グループで戦術的課題を考案し、挑戦する [授業外学習]
②	[テーマ] バスケットボール型(仲野1) [内容] バスケットボール型ニューゲームの概要を説明し，体験していく中でオリジナルなバスケットボール型ニューゲームについて思案する [授業外学習]	⑩	[テーマ] ラケット型1・テニスのアレンジ1(佐藤1) [内容] 体育館の室内で実施可能なテニスをベースとしたパドルテニス・ラケットテニス・フリーテニスについて体験的に学習する [授業外学習]
③	[テーマ] バレーボール型1(仲野2) [内容] バレーボール型ニューゲームの概要を説明し，既に紹介されているバレーボール型のニューゲームを体験していく [授業外学習]	⑪	[テーマ] ラケット型2・テニスのアレンジ2(佐藤2) [内容] テニスコートにてプレイステイのボールを用いたテニス形のアレンジを学ぶと共に、テニス型のニューゲームを思案する [授業外学習]
④	[テーマ] バレーボール型2(仲野3) [内容] バレーボールのルールや用具をアレンジしてできる様々なバリエーションを体験するとともに、バレーボール型のニューゲームズを思案する [授業外学習]	⑫	[テーマ] ラケット型3・バドミントンのアレンジ(佐藤3) バドミントンコートを使用し、バドミントンをアレンジしたニューゲーム(含むリングテニス・フリンゴ)を体験的に学ぶと共にニューゲームを思案する [授業外学習]
⑤	[テーマ] サッカー型(仲野4) [内容] サッカー型ニューゲームの概要を説明し，体験していく中でオリジナルなサッカー型ニューゲームについて思案する	⑬	[テーマ] ラケット型4・卓球のアレンジ(佐藤4) [内容] 卓球をアレンジした様々なニューゲームを体験的に学ぶと共に卓球方のニューゲームを思案する [授業外学習]
⑥	[テーマ] フライングディスク(弓田1) [内容] フライングディスク その1 フライングディスクの種目等について概説し、基本的なスローを用いてアキュラシーなどを体験する	⑭	[テーマ] ニューゲーム作成の考え方と方法の理解(仲野・弓田・佐藤) [内容] ニューゲームを考案するには、どのような考え方や作成手順が必要か理解する。その上で、班毎にニューゲーム考案の作業を開始する [授業外学習]
⑦	[テーマ] フライングディスク(弓田2) [内容] フライングディスク その2 子どもから高齢者まで楽しめるドッジビーを用いたゲームを体験する	⑮	[テーマ] オリジナルニューゲームの作成と説明書作成(仲野・弓田・佐藤) [内容] オリジナルニューゲームを完成させ、指定された用紙にまとめる。授業後半に、作成したニューゲームズを他の班に紹介する [授業外学習]
⑧	[テーマ] フライングディスク(弓田3) [内容] フライングディスク その3 基本スロー以外の応用について学習し、アルティメットの基礎についても学習する [授業外学習]	⑯	[テーマ] レポート提出 [内容] 体験したことについて各自が振り返り、それをレポートにまとめ提出する [授業外学習]

成績評価方法(方針)

出席を重視すると共に、グループ毎の授業への取り組みや態度を考慮して、総合的に判断して評価を出す。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				評価対象外
授業内レポート	◎	○		20
授業外レポート				評価対象外
演習・実技		○	◎	40
授業態度				減点あり
出席				40

履修上の注意(受講学生に望むこと)

関連科目	レクリエーション実技Ⅰ、レクリエーション実技Ⅱなど		
教科書	特になし	参考書	『新しい軽スポーツのすすめ』 仲野隆士・原田宗彦 杏林書院
連絡先	仲野(A508)、弓田(A504)、佐藤(LC棟2F)		

授業科目名	テニス Tennis (P.A.)				担当教員	佐藤　周平
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	実技	関連資格	ジュニアスポーツ指導員
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

テニスの基本技術を修得しながら、テニスの面白さや奥の深さを体験し、理解を深めていく。

授業の一般目標

基本技術の修得だけではなく、歴史・ルール・審判方法・試合の運営等についても理解してもらいたい。

授業の到達目標

■	認知的領域	ショットの基本原則・歴史・ルール・審判方法等の理解
■	情意的領域	実習に積極的に参加できる。誰とでも協力し、積極的にコミュニケーションをとることができる。
■	技能表現的領域	基本技術の修得とゲームでの実践

授業計画（全体）

テニスの競技性の理解を深めることで、ボールを打つことに対する理解を高める。テニスの基本技術の修得から、応用技術の修得へと発展していき、ゲームを中心とした授業を展開していく。また、習得状況により、進度も変わってくる場合がある。
悪天候時には教室で、歴史・ルール等を学習する。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、成績評価と履修上の諸注意、テニスの基本技術について解説	⑨	[テーマ] テニスの基礎知識1 [内容] テニスの歴史
②	[テーマ] 基本技術その1　ミニテニス [内容] ・ワンバウンドでボールを打ち合う（グランドストローク） ・ダイレクトでボールを打ち合う（ボレー）	⑩	[テーマ] テニスの基礎知識2 [内容] テニスのルールと運用
③	[テーマ] 基本技術その2　グランドストローク [内容] ミニテニスより距離を長くして、グランドストローク（フォアハンド）	⑪	[テーマ] ダブルス [内容] 基本戦術の理解1
④	[テーマ] 基本技術その3　サービス [内容] 前回を発展して、グランドストロークを向上させるとともに、サービスの基本を学ぶ	⑫	[テーマ] ダブルス [内容] 基本戦術の理解2
⑤	[テーマ] 基本技術その4　ボレー [内容] 前回に加えて、ネットでのボレーの基本を学ぶ	⑬	[テーマ] ダブルス [内容] 基本戦術の理解3
⑥	[テーマ] 基本技術その5　スマッシュ [内容] 前回に加えて、ボレーとスマッシュの基本を学ぶ	⑭	[テーマ] シングルス [内容] 基本戦術の理解4
⑦	[テーマ] 基本技術その6　サービスリターン [内容] サービスリターンの基本を学ぶ	⑮	[テーマ] 実技の確認テスト [内容] 基本技術の修得度をテストする
⑧	[テーマ] 基本技術その7　バックハンド・ストローク [内容] バックハンドストロークを学ぶ	⑯	[テーマ] テニスの基礎知識のテスト [内容] テニスの基礎知識の理解度をテストする

成績評価方法（方針）

授業参加度・実技テスト（70%）、筆記テスト（30%）の結果を総合して評価する。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				
授業内レポート	◎			30%
授業外レポート				
演習・実技			◎	70%
授業態度		◎		加点・減点
出席				加点・減点

履修上の注意（受講学生に望むこと）

1. テニスコートの関係で，受講者の制限をします。（40名以内）
初回授業日に，抽選を行い受講者を決定します。
詳細は，別途掲示します。

2. コートを傷めないシューズ（テニスシューズ）を各自準備すること。

3. ラケット,ボールは貸し出します。

4、積極的に参加する事。

関連科目			
教科書	特になし	参考書	テニスに関する雑誌
連絡先	佐藤研究室		

授業科目名	バドミントン Badminton(P. A.)				担当教員	菊地　直子・林　直樹
開講内容	学年・学期	4・半期	授業方法	実技	関連資格	ジュニアスポーツ指導員
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

生涯スポーツとして最も適した種目の一つであるバドミントンは、学校体育の中でも盛んに取り入れられている。本授業は、中学・高校の体育授業の実践を念頭に置いた初心者指導について解説する。

授業の一般目標

バドミントンについて歴史や道具・安全配慮について理解し、技術の習得をする。最終的には、バドミントンの一連の技術指導や試合の運営の方法を身につける。

授業の到達目標

■	認知的領域	打法とフライト、バドミントン一連の技術指導や試合の運営の方法を身につける。
□	情意的領域	
■	技能表現的領域	基本的な打法について、実際に習得している。

授業計画(全体)

バドミントンについて、基本的な知識を獲得しつつ、前半はスキル獲得に重点を置く。後半は、獲得したスキルを使ってのゲームや、ゲームの運営ができるように実際のゲーム運営を学生同士で行いながらすすめる。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバスの説明、成績評価の方法の確認を行う。	⑨	[テーマ]　競技としてのバドミントンを知る [内容] 視聴覚教材を使って、バドミントン競技についてイメージの喚起を行う。
②	[テーマ] バドミントンを知る [内容] バドミントンについて、歴史や道具などについて解説する。	⑩	[テーマ] ゲームの方法　シングルス① [内容] シングルスの試合運営(ルール)について解説し、受講生同士で試合を行えるよう指導する。
③	[テーマ]　基本的技術の習得1　アンダーハンドストローク [内容] 初心者指導の視点から、道具の扱い方、指導の仕方を中心に基本的な技術について説明した後、訓練を行う。	⑪	[テーマ] ゲームの方法　シングルス② [内容] 正規のルールによる審判法を解説し、受講生間で試合の進行ができるよう指導する。
④	[テーマ] 基本的技術の習得2　オーバーヘッドストローク [内容] 初心者指導の視点から、道具の扱い方、指導の仕方を中心に基本的な技術について説明した後、習得させる。	⑫	[テーマ] ゲームの方法　ダブルス① [内容] ダブルスのフォーメーションについて解説し、訓練を行う。
⑤	[テーマ] 基本的技術の習得3　サーブとその他の返球 [内容] 初心者指導の視点から、道具の扱い方、指導の仕方を中心に基本的な技術について説明した後、習得させる。	⑬	[テーマ] ゲームの方法　ダブルス② [内容] ダブルスの試合運営(ルール)について解説し、受講生同士で試合を行えるよう指導する。
⑥	[テーマ]　基本的技術の習得4　スマッシュ、クリアストローク [内容] 初心者指導の視点から、道具の扱い方、指導の仕方を中心に基本的な技術について説明した後、習得させる。	⑭	[テーマ] ゲームの方法　ダブルス③ [内容] 正規のルールによる審判法を解説し、受講生間で試合の進行ができるよう指導する。
⑦	[テーマ] 基本的技術の習得5　ドロップ、ドライブ等のストローク [内容] 初心者指導の視点から、道具の扱い方、指導の仕方を中心に基本的な技術について説明した後、習得させる。	⑮	[テーマ] 実技の確認テスト [内容] 基本的スキルをマスターしているかについてテストを行う。
⑧	[テーマ] 基本的技術の習得6　プッシュ、レシーブ [内容] 初心者指導の視点から、道具の扱い方、指導の仕方を中心に基本的な技術について説明した後、習得させる。	⑯	[テーマ] テスト [内容] 試合進行などについてプリントによるテストを行う。

成績評価方法(方針)

定期試験は、筆記テストを1回実施する(評価割合50%)。また、実技(評価割合50%)についても評価する。これらの結果を総合して成績評価を行う。出席は、評価割合に加えず、欠格条件となる。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎			50%
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技			◎	50%
授業態度		◎		
出席				

履修上の注意(受講学生に望むこと)

3回以上欠席した学生は、単位を修得することが出来ない(欠格条件)。
・授業態度が悪い学生に対しては、成績評価から減点する。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。
・安全配慮の観点から、靴下の着用を義務付ける。
・毎年受講希望生が多数のため、質の保障・安全上の配慮から、人数を抽選などで調整する(最大60名)。

関連科目			
教科書	特に指定しない	参考書	特に指定しない
連絡先	菊地研究室第4体育館1階　9号室		

授業科目名	ソフトボール Softball (P.A.)				担当教員	入澤 裕樹・森本 吉謙
開講内容	学年・学期	4・半期	授業方法	実技	関連資格	ジュニアスポーツ指導員
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

ソフトボールは，投・打・走・捕など，基本的運動の多くが含まれるスポーツ種目である．本授業では，ソフトボールの基本的な技術や戦術を概説し，また，それらを習得するべく各種の練習方法を紹介する．加えて，ゲームを通じて，実際のゲーム場面で起こる種々のプレイを実践展開する．

授業の一般目標

ソフトボールにおける技術や戦術の基本，およびそれらを習得する練習の具体的な方法論を学習して実践できるようになり，かつ集団競技の中で他所との関わりを積極的に持つことが出来るようになる．特にソフトボール特有の技術であるウインドミル投法に関しては，最終的に自身が出来るようになると同時に，適切な指導法を身に付ける．

授業の到達目標

■	認知的領域	ソフトボールの基本的な技術や戦術およびそれらの練習方法を説明できる．
■	情意的領域	集団競技として積極的に他者との関わりを持てるようになる．
■	技能表現的領域	理解したことを実践でき，加えてウインドミル投法を出来るようになる．

授業計画（全体）

毎時間テーマに沿った各技術を学習した後，それらの技術を発揮しやすいケースで試合形式の実践を行う．先ずキャッチボール，投手のウインドミル投法，野手の守備といった個人の防御技術，および，基本的な打撃，バントやヒットエンドラン等の戦術的な打撃といった個人の攻撃技術を学習する．その後に，併殺プレイや内外野の連携プレイといった集団における防御技術の学習へと発展する．最終的にはチームに分かれてリーグ戦を行い，実際のゲームの中で勝敗を競い合う．

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 講義ガイダンス [内容] 担当教員の紹介，授業の進め方，シラバス説明，成績評価の方法	⑨	[テーマ] 集団の防御技術⑧ （送球および併殺プレイ） [内容] 主に内野における連携プレイを習得するための各種ドリルを実践する
②	[テーマ] 個人の防御技術① （キャッチボールの基本） [内容] キャッチボールの基本を学び各種ドリルを実践する	⑩	[テーマ] 集団の防御技術⑨ （内外野の連携プレイ） [内容] 内外野の連携プレイを習得するための各種ドリルを実践する
③	[テーマ] 個人の防御技術② （ウインドミル投法その1） [内容] ウインドミル投法習得のためのドリルを実践する	⑪	[テーマ] 審判法 [内容] 試合における審判の判定方法およびジェスチャーを学ぶ
④	[テーマ] 個人の防御技術③ （ウインドミル投法その2） [内容] ウインドミル投法習得のためのドリルを実践する	⑫	[テーマ] ゲーム① [内容] 各班に別れリーグ戦を行う（第1節）
⑤	[テーマ] 個人の防御技術④ （野手の基本技術） [内容] ゴロ処理，フライ処理の習得のためのドリルを実践する	⑬	[テーマ] ゲーム② [内容] 各班に別れリーグ戦を行う（第2節）
⑥	[テーマ] 個人の攻撃技術⑤ （打撃の基本技術その1） [内容] 打撃の基本技術を習得するための各種ドリルを実践する	⑭	[テーマ] ゲーム③ [内容] 各班に別れリーグ戦を行う（第3節）
⑦	[テーマ]個人の攻撃技術⑥ （打撃の基本技術その2） [内容] 打撃の基本技術を習得するための各種ドリルを実践する	⑮	[テーマ] ゲーム④ [内容] 各班に別れリーグ戦を行う（最終節）
⑧	[テーマ] 個人の攻撃技術⑦ （戦術的な攻撃と走塁） [内容] バント，エンドラン等の戦術的な打撃を習得するための各種ドリルを実践する	⑯	[テーマ] テスト（実技試験） [内容] 授業の理解度，技術の習熟度をテストする

成績評価方法（方針）

試験は，実技試験を1回実施する（評価割合100%）．授業中における態度は試験結果からの減点対象となる．出席は欠格条件とする．

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎		◎	100%
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度				減点有り
出席				欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

バットやグローブ等の用具の準備，後片付けを全員で協力して行うこと．また，遅刻者については，ウォーミングアップが不十分となるので，障害防止の観点から授業参加を認めない場合もある．20分以上の遅刻は欠席とみなす．2/3以上の出席が無い学生は，試験を受けることが出来ない（欠格条件）．授業計画は授業の進み方により前後する場合がある．

関連科目	無し		
教科書	無し	参考書	無し
連絡先	研究室：A棟3階302 オフィスアワー：木曜 12:40～14:10		

授業科目名	新体操 Rhythmic Gymnastic (P.A.)				担当教員	河野未来
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	実技	関連資格	ジュニアスポーツ指導員
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

新体操における基本動作について学ぶ。また、徒手や手具を用いた演技についても触れ、新体操における動作やリズムの取り方、表現的な動きについて学ぶ。

授業の一般目標

学生のレベルに応じて動作能力を成長させるとともに、新体操に関する知識を習得するとともに意識を高める。

授業の到達目標

■	認知的領域	様々な基本動作の内容が説明できる。
■	情意的領域	体を動かすことによって、仲間と協力し表現することが出来る。
■	技能表現的領域	新体操の演技をフレーズで創ることができる。

授業計画(全体)

新体操の各基本動作を習得してから、演技創作・発表会へと展開していく。
技能習得のレベルに応じて、グループ分けを行う場合もある。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 教員の紹介、授業の目標と進め方	⑨	[テーマ] フープ② [内容] ・徒手の動作について覚える。 ・前回のフープの基本動作の復習と新たな操作方法・連係を覚える。
②	[テーマ] ロープ① [内容] ・徒手の動作について覚える。 ・ロープの基本動作と様々な操作方法を覚える。	⑩	[テーマ] フープ③ [内容] ・徒手の動作について覚える。 ・前回までのフープの操作と連係をもとに演技を創作する。
③	[テーマ] ロープ② [内容] ・徒手の動作について覚える。 ・前回のロープの基本動作の復習と新たな操作方法・連係を覚える。	⑪	[テーマ] リボン① [内容] ・徒手の動作について覚える。 ・リボンの基本動作と様々な操作方法を覚える。
④	[テーマ] ロープ③ [内容] ・徒手の動作について覚える。 ・前回までのロープの操作と連係をもとに演技を創作する。	⑫	[テーマ] リボン② [内容] ・徒手の動作について覚える。 ・前回のリボンの基本動作の復習と新たな操作方法・連係を覚える。
⑤	[テーマ] ボール① [内容] ・徒手の動作について覚える。 ・ボールの基本動作と様々な操作方法を覚える。	⑬	[テーマ] リボン③ [内容] ・徒手の動作について覚える。 ・前回までのリボンの操作と連携をもとに演技を創作する。
⑥	[テーマ] ボール② [内容] ・徒手の動作について覚える。 ・前回のボールの基本動作の復習と新たな操作方法・連係を覚える。	⑭	[テーマ] クラブ① [内容] ・徒手の動作を完璧なものにし、連係を考えてみる。 ・クラブの基本動作と様々な操作方法を覚える。
⑦	[テーマ] ボール③ [内容] ・徒手の動作について覚える。 ・前回までのボールの操作と連係をもとに演技を創作する。	⑮	[テーマ] クラブ② [内容] ・徒手の動作を完璧なものにし、連携を考えてみる。 ・前回のクラブの基本動作の復習と新たな操作方法・連係を覚える
⑧	[テーマ] フープ① [内容] ・徒手の動作について覚える。 ・フープの基本動作と様々な操作方法を覚える。	⑯	[テーマ] 演技発表会(DanDanDance&Sports) [内容] ・創作した演技を発表する。

成績評価方法(方針)

習得技能と授業参加態度を総合して評価する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験			◎	70%
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技			○	20%
授業態度		○		10%
出席				

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない(欠格条件)。
・授業態度が悪い学生に対しては、成績評価から減点する。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。
・授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。

関連科目			
教科書		参考書	
連絡先	研究室:第4体育館1階　オフィスアワー:　水曜日　14:20～15:50		

授業科目名	レクリエーション実技Ⅰ Practical Skill on Recreation Ⅰ (P.A.)				担当教員	南條正人・伊藤枝里奈
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実技	関連資格	レクリエーション・インストラクター、 レクリエーション・コーディネーター、 福祉レクリエーション・ワーカー
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

レクリエーション指導・支援者は、単にレクリエーション種目（レクリエーション財）を伝達するだけではない。そのことによって人間同士のふれあいを促進し、新しい集団づくりをすすめ、価値ある人生と社会への一歩を築く方向性めざす人達に対して支援を行う。ここでは、レクリエーション指導・支援者として必要な基礎実技を体験学習し、その基礎を習得する。学校の授業や事業、地域レクリエーションなどでの支援能力を養成する。

授業の一般目標

実際の体験を通して、様々な領域のレクリエーション種目（レクリエーション財）や活動の楽しさや面白さが分かる。

授業の到達目標

■	認知的領域	レクリエーションについて説明できる。特に、レクリエーション種目（レクリエーション財）について。
■	情意的領域	様々な領域のレクリエーション種目（レクリエーション財）や活動の楽しさや面白さが分かる
■	技能表現的領域	ゲームやニュースポーツ種目などを楽しむ技術を身につける。

授業計画（全体）

基本的に2名の教員が7回の授業（2ラウンド）を担当する。学生全体を各々10名前後にグループ分けし、全体を大きく2つに分ける。前半、教員Aの授業を1体で7回受講したら、後半の授業は教員Bの授業を2体で7回受講する。もう一方のグループは、その逆とする。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法、グループ分け	⑨	[テーマ] 体力づくりゲーム [内容] 学校体育で展開されている体力づくりの内容をゲーム化して紹介する
②	[テーマ] 室内ゲーム1 [内容] 室内で行うレクリエーションゲーム・ソングを紹介する	⑩	[テーマ] 体解しゲーム [内容] 学校体育で展開されている体解しの内容をゲーム化して紹介する
③	[テーマ] 室内ゲーム2 [内容] 室内で行うレクリエーションゲーム・ソングで、前回とは異なる内容を紹介する	⑪	[テーマ] 生涯スポーツ1 [内容] 種目・活動の理論と実際（種目：インディアカ）
④	[テーマ] 福祉レクリエーションを意識した活動 [内容] 高齢者や障害者などの対象に合わせたレクリエーション活動	⑫	[テーマ] 生涯スポーツ2 [内容] 種目・活動の理論と実際（種目：ペタンク）※インドア、アウトドア両方
⑤	[テーマ] コミュニケーション・ワーク [内容] 遊び環境を通して多様なコミュニケーションスキルの体験	⑬	[テーマ] 生涯スポーツ3 [内容] 種目・活動の理論と実際（種目：フライングディスク）※ゴルフ、アキュラシー
⑥	[テーマ] レクリエーションダンス [内容] 子どもの発育・発達を目的としたレクリエーションダンス	⑭	[テーマ] 生涯スポーツ4 [内容] 種目・活動の理論と実際（種目：ユニバーサルホッケー）
⑦	[テーマ] 身近なものを用いたレクリエーション [内容] 新聞紙等を用いたレクリエーション種目（レクリエーション財）の体験	⑮	[テーマ]　生涯スポーツ5 [内容] 種目・活動の理論と実際（種目：チャレンジ・ザ・ゲーム）※4種目
⑧	[テーマ] 室外ゲーム [内容]	⑯	[テーマ] 総括 [内容] 体験学習したレクリエーション種目（レクリエーション財）を各自がレクリエーション実技ノートにまとめて指定された期日までに提出する

成績評価方法（方針）

基本的に2名の教員が7回の授業（2ラウンド）を担当する。学生全体を各々10名前後にグループ分けし、全体を大きく2つに分ける。前半、教員Aの授業を1体で7回受講したら、後半の授業は教員Bの授業を2体で7回受講する。もう一方のグループは、その逆とする。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				評価対象外
授業内レポート	◎	○		40%
授業外レポート				評価対象外
演習・実技	○	○	◎	20%
授業態度				減点あり
出席				40%

履修上の注意（受講学生に望むこと）

関連科目	レクリエーション実技Ⅱ、レジャー・レクリエーション論、野外・レクリエーション・マネジメント論など		
教科書	特になし	参考書	
連絡先	各教員の研究室		

授業科目名	レクリエーション実技Ⅱ Practical Skill on Recreation Ⅱ(P. A.)				担当教員	仲野・小池・高崎・岡田
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	実技	関連資格	レクリエーション指導者資格
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

仲野:コミュニケーションワーク・レクダンス創作 小池:支援実習1(レク種目指導) 高崎:支援実習2(レク活動の創作) 岡田:支援実習3(スタンツ) 学校での授業や事業、地域レクリエーションなどにおける支援能力を養成する

授業の一般目標

様々なレクリエーションのジャンルにおいて、支援者に必要な資質をグループワークを中心に体験的に習得する

授業の到達目標

■	認知的領域	創作や演出の基本や留意点が理解できる
■	情意的領域	人前で個性を発揮する場面(意図的に設定)を通して、支援者に必要な演出・話術・支援力などが身につく
■	技能表現的領域	レクダンス・レクゲーム・スタンツなどを創作し発表することで、創作力や応用力が身につく

授業計画(全体)

<ローテーション> はじめの6回は、全体で仲野担当。7～15の9回は、3回毎にローテーションとする(担当:小池・高崎・岡田)
①クラス (1体 → 4体 → 剣道) ②クラス (4体 → 剣道 → 1体) ③クラス (剣道 → 1体 → 4体)

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション・仲野1 [内容] 授業の全体像を理解する ・ アイスブレイクの技法 :受講学生全員並びに班分けされた班員相互の雰囲気作りをねらいいとしたアイスブレイキングの進め方を実演し、その効果的な進め方を学ぶ	⑨	[テーマ] レクリエーションゲーム指導演習・小池3 [内容] ①指導演習課題(主にアイスブレーキングのゲーム)の練習 ②グループによる指導演習(ロールプレイ) ③指導演習評価 ④レクリエーション指導のまとめ
②	[テーマ] コミュニケーションワーク・ホスピタリティートレーニング 仲野2 [内容] コミュニケーションワーク・ホスピタリティートレーニングその1:1対1(2人)→2対2(4人)→4対4(8人)というように、コミュニケーションワークを進めながらグループへと発展していくプロセスを体験させる	⑩	[テーマ] レク活動の創作1・高崎1 [内容] レクリエーション活動の創作について、1)その学習の必要性、2)基本的な創作の方法について、バリエーションアップシートによる演習により、体験学習する。
③	[テーマ] コミュニケーションワーク・ホスピタリティートレーニング 仲野3 [内容] コミュニケーションワーク・ホスピタリティートレーニングその2 リピートトークやローテーショントークといったコミュニケーションワークを通して、積極的傾聴の留意点やポイントを理解する	⑪	[テーマ] レク活動の創作2・高崎2 [内容] バリエーションシートの完成後、創作したレクリエーション活動をグループ別に発表するためのリハーサルや役割分担の確認を行う。
④	[テーマ] レクリエーションダンス 仲野4 [内容] レクリエーションダンスの技法:ダンスとゲームの接点に位置する様々なレクダンスを紹介し、音楽に合わせて体を動かすことの楽しさや面白さを体感する。後半に、オリジナルレクダンスのテーマ曲を発表し、創作への手順や留意点を説明する。	⑫	[テーマ] レク活動の創作3・高崎3 [内容] 創作したレクリエーション活動の発表会を実施し、その発表を振り返りながら、レクリエーション活動の創作について、ポイントを整理しまとめる。
⑤	[テーマ] レクリエーションダンス 仲野5 [内容] レクリエーションダンスの捜索:設定されたテーマ曲を確認し、曲のイメージやリズムを意識した上で、各班ごとにオリジナルな振り付けをしていき、レクダンスを完成させる。	⑬	[テーマ] スタンツとは [内容] スタンツがどのようなものかを体験的に学ぶ。まずスタンツについて説明を行い、導入ゲームを行った後、お題に基づいてスタンツを作成し、発表する。
⑥	[テーマ] レクリエーションダンス 仲野6 [内容] レクリエーションダンスの発表会:最終リハーサルが終了したら、オリジナルレクダンスの発表会を実施する(ビデオで撮影する)。終了後に、振り付けをした動きを説明した説明用紙を提出する。	⑭	[テーマ] スタンツのバリエーション [内容] 楽しく面白いスタンツを作るための導入ゲームを幾つか紹介する。その後、共通テーマを設けてグループごとにストーリーを考え、スタンツの練習を行う。
⑦	[テーマ] レクリエーションゲーム指導演習・小池1 [内容] ①指導演習の進め方のオリエンテーション ②指導演習課題(主にアイスブレーキングのゲーム)の練習 ③グループによる指導演習(ロールプレイ) ④指導演習評価	⑮	[テーマ] スタンツの発表 [内容] グループごとにスタンツを発表し、受業生同士で評価し合う。レクリエーションとしてスタンツを用いる際の留意点を説明する。
⑧	[テーマ] レクリエーションゲーム指導演習・小池2 [内容] ①指導演習課題(主にアイスブレーキングのゲーム)の練習 ②グループによる指導演習(ロールプレイ) ③指導演習評価	⑯	[テーマ] [内容]

成績評価方法(方針)

出席、学習態度、授業ノートにより総合的に評価する

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 \ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				
授業内レポート				
授業外レポート	◎	○		30%
演習・実技		◎	◎	30%
授業態度				減点あり
出席				40%

履修上の注意(受講学生に望むこと)

関連科目	レクリエーション実技Ⅰ、レジャー・レクリエーション論、レクリエーション支援論など		
教科書	特になし	参考書	『やさしいレクリエーション実践』日本レクリエーション協会編 他
連絡先	仲野・小池・高崎・岡田 各研究室		

授業科目名	エアロビックダンス Aerobic dance				担当教員	渋谷　祐子・坂上　香里
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	実技	関連資格	健康運動実践指導者
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

本授業は健康・体力づくりの運動であるエアロビックダンスを理解し、年齢・体力・健康状態などの個人差を配慮して、安全で効果的なエアロビックダンスの運動プログラムを習得する。また、対象者に応じた運動プログラム・指導法・指導上の留意点などについて学習する。

授業の一般目標

エアロビックダンスの基本、低体力者からフィットネス領域での運動を知り、コミュニケーションスキルの向上、指導法、運動のプログラム作成ができるようになる。その他、ストレッチングや筋コンディショニング、リラクゼーション、ヨガなどのさまざまなフィットネスプログラムの体験を通じて、健康づくりの運動指導者に必要な知識、技術を身につける。

授業の到達目標

■	認知的領域	健康・体力づくり運動の理解、指導法など運動指導者に必要な知識を身につけることができる。
■	情意的領域	身近な運動に興味を持ち主観的、客観的に健康づくりを考えることができる。
■	技能表現的領域	エアロビックダンスの動作習得により、姿勢改善、正しい身体の使い方ができるようになる。指導法を学習することでプレゼンテーション能力が向上する。

授業計画（全体）

各授業はテーマに沿った資料を用いて実技中心だが講義も行う。各授業毎に、前週の内容を復習し理解度・到達度を確認する。また、協同作業としてのグループワークを行い、集団での発表の場を設ける。場合によってはレポート提出を実施する。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法、健康運動実践指導者資格受講について シラバスを熟読すること、水分補給の用意、ウエア、シューズの用意すること	⑨	[テーマ] 指導法1 [内容] 集団の運動指導ついて説明する 配布資料を理解しておくこと
②	[テーマ] エアロビックダンス体験1 [内容] 一般的なエアロビックダンスについて説明する	⑩	[テーマ] 指導法2 [内容] 集団の運動指導ついて説明する
③	[テーマ] エアロビックダンス体験2 [内容] エアロビックダンスの基本動作を体験する、エアロビックダンスのストレッチングについて説明する。 実技が多いので体調管理、ケガの予防を伝える	⑪	[テーマ] プログラム作成1 [内容] メインエクササイズの運動プログラム作成について説明する 配布資料を理解しておくこと
④	[テーマ] エアロビックダンス体験3 [内容] エアロビックダンスの基本動作を体験する、筋力トレーニング（自重負荷運動）について説明する。 実技が多いので体調管理、ケガの予防を伝える	⑫	[テーマ] プログラム作成2 [内容] 作成したプログラムの修正を行う（グループ発表） プログラムを覚え指導練習をすること
⑤	[テーマ] エアロビックダンスの基礎理論 [内容] エアロビックダンスの基本的な考え方、特性・効果・運動プログラムについて説明する。 配布資料を理解しておくこと	⑬	[テーマ] プログラム作成と指導1 [内容] 作成したプログラムを指導する（グループ発表）
⑥	[テーマ] メインエクササイズの運動強度について [内容] 指導者、参加者側双方からみた有酸素運動の運動強度について説明する 配布資料を理解しておくこと	⑭	[テーマ] プログラム作成と指導2 [内容] 作成したプログラムを指導する（グループ発表） テストに備えて復習をすること
⑦	[テーマ] 対象者別の運動プログラム体験 [内容] 対象者に合わせた運動プログラムを理解し、考慮した点や動作上の注意点等を理解する	⑮	[テーマ] テスト1 [内容] 授業の理解度・到達度を確かめるために期末テストを行う
⑧	[テーマ] 筆記テスト [内容] 健康運動実践指導者テキストからエアロビックダンスに係わる問題を出題する	⑯	[テーマ] テスト2 [内容] 授業の理解度・到達度を確かめるために期末テストを行う

成績評価方法（方針）

試験は、実技試験を1回実施する（評価割合60%）。また、授業内筆記テスト（評価割合25%）と、出席（評価割合10%）、学習態度（評価割合5%）を課す。そして、これらの結果を総合して成績評価を行う。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験			◎	60%
授業内レポート	◎		◎	25%
授業外レポート				予定なし
演習・実技		◎		5%
授業態度		◎		減点アリ
出席	◎	◎		10%

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない（放棄とみなす）。
・授業態度が悪い学生に対しては、成績評価から減点する。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。見学者は申告すること。
・授業中は携帯電話をかばんの中にしまい、マナーモードにすること。
・実技中心なのでシューズは必ず持参、ウエア、水分補給の用意すること。

関連科目			
教科書	特に指定しない	参考書	「健康運動実践指導者用テキスト」（健康・体力づくり事業財団） 「エアロビックダンスEX理論」（社）日本フィットネス協会
連絡先	研究室：なし　　教育企画室経由		

授業科目名	ゴルフ Golf (P.A.)				担当教員	内野秀哲
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	実技	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

ゴルフの歴史、ルール、マナー・エチケット等を含めて、スポーツ競技としてのゴルフ関連知識、技術を高めると共に指導方法面についても実践を通して学習する

授業の一般目標

ゴルフの種目特性を理解し、適切に競技進行するための基礎知識・技能を習得する

授業の到達目標

■	認知的領域	用具の役割や特徴が説明できる
■	情意的領域	状況や自身の能力に応じて、適切な道具が選択できる
■	技能表現的領域	状況に応じて適切に道具を使用できる

授業計画(全体)

本実習は実技実習を学外の一般施設で行うため、便宜上2コマ連続の8週分の期間で実施する。基礎理論の学習の後、難易度の低い用具から順に効率的に実習を行う。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 1週目①:オリエンテーションのグループ編成 [内容] 授業の履修方法と実習時のグループ編成などについて説明する [授業外学習] 配布されたオリエンテーション資料をよく読んでおくこと	⑨	[テーマ] 5週目⑨:ロングアイアン1 [内容] ＃4アイアンまでのクラブの実技実習
②	[テーマ] 1週目②:ゴルフの基礎知識 [内容] ゴルフの基礎知識について説明する [授業外学習] 図書館などを活用し、ゴルフの概要程度の知識を得ておくこと	⑩	[テーマ] 5週目⑩:ロングアイアン2 [内容] ＃3アイアンまでのクラブの実技実習
③	[テーマ] 2週目③:ゴルフの競技・コースの解説 [内容] ゴルフの競技方法、競技コースの解説を行う [授業外学習] 図書館などを活用し、ゴルフ競技の実際例を調べておくこと	⑪	[テーマ] 6週目⑪:ウッド1 [内容] バフィーまでのクラブの実技実習
④	[テーマ] 2週目④:ルールと用具の解説 [内容] 競技ルールとマナー・エティケット、用具の解説を行う [授業外学習] 図書館などを活用し、ルールとマナーについて調べておくこと	⑫	[テーマ] 6週目⑫:ウッド2 [内容] スプーンまでのクラブの実技実習
⑤	[テーマ] 3週目⑤:ショートアイアン1 [内容] サンドウェッジ、ピッチングウェッジの実技実習	⑬	[テーマ] 7週目⑬:ウッド3 [内容]ドライバーまでのクラブの実技実習
⑥	[テーマ] 3週目⑥:ショートアイアン2 [内容] ＃9アイアン、＃8アイアンの実技実習	⑭	[テーマ] 7週目⑭:ウッド3 [内容]ドライバーまでのクラブの実技実習
⑦	[テーマ] 4週目⑦:ミドルアイアン1 [内容] ＃7アイアン、＃6アイアンの実技実習	⑮	[テーマ] 8週目⑮:ショートゲーム1 [内容] バンカーからのショット
⑧	[テーマ] 4週目⑧:ミドルアイアン2 [内容] ＃5アイアンまでのクラブの実技実習	⑯	[テーマ] 8週目⑯ショートゲーム2(テスト) [内容] ショートアイアンによる距離と方向のコントロール

成績評価方法(方針)

最終日に課すショートゲームの評価を成績評価とする。出席状況などは単位認定のための必要条件とする(不足がある場合には評価対象としない)。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験		○	◎	100%
授業内レポート				加減点要素
授業外レポート				対象としない
演習・実技	○		○	加減点要素
授業態度	○		○	加減点要素
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・一般に課せられるマナーやエチケットの厳守が前提条件です
・学外施設の利用時には、その施設の規則を遵守し、方針等に従うこと
・2週(実質4コマ)以上の欠席は、原則的に欠格扱いとするので注意すること
・手袋の購入など、各自準備負担があるので事前に了承のこと

関連科目			
教科書		参考書	
連絡先	4体1F 内野研究室 オフィスアワー 火曜14:20-15:50		

授業科目名	日本国憲法 Constitution of Japan				担当教員	加藤英俊
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格	教員免許状（全免許）
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

テキストを用いる。日本国憲法の総論と基本的人権の保障の基本的事項を対象にする。

授業の一般目標

憲法の法的意味を理解し、関連する用語を適切に使用できるようになり、日本国憲法について自己学習ができるとともに、憲法に係わる社会的事件について意見を述べることができるようになる。

授業の到達目標

■	認知的領域	憲法・憲法学上の用語の意味と使用法を理解し、適切に使用できるようになる。
■	情意的領域	特に、基本的人権に係わる問題事項を自ら考え、意見を組み立てて議論できるようになる。
□	技能表現的領域	

授業計画（全体）

シラバスに挙げた事項につきテキストの関係個所を指摘し、その理解を図り、講義を進める。テキストにない事例は別途配布する。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] ガイダンス ・ 導入授業 [内容] 授業の進め方と、単位評価に関する注意事項の説明。 「日本国民」とは誰か [授業外学習] 次回テキスト箇所の指摘	⑨	[テーマ] 生存権の特徴 [内容] 朝日訴訟上告審（最大判昭42・5・24） [授業外学習] 次回テキスト箇所の指摘
②	[テーマ] 「憲法」とはどんな法的ルールなのか(1) [内容] 憲法の諸ルールと、国家権力の構成、国家権力行使の拘束 [授業外学習] 次回テキスト箇所の指摘	⑩	[テーマ] 信教の自由と政教分離(1) [内容] 神戸高専剣道実技履修拒否事件（最判平8・3・8） [授業外学習] 次回テキスト箇所の指摘
③	[テーマ] 「憲法」とはどんな法的ルールなのか(2) [内容] 国法体系における憲法の地位：最高法規性の意味 [授業外学習]	⑪	[テーマ] 信教の自由と政教分離(2) [内容] 神戸高専剣道実技履修拒否事件（最判平8・3・8）、 津地鎮祭事件（最大判昭52・7・13） [授業外学習] 次回テキスト箇所の指摘
④	[テーマ] 法の下の平等保障は何を意味しているか(1) [内容] 平等保障の概説、 国籍法違憲判決（最大判平20・6・4） [授業外学習] 次回テキスト箇所の指摘	⑫	[テーマ] 人権保障と公共の福祉(1) [内容] 「公共の福祉」の概説、 職業選択の自由が問題になった事件からの理解（公衆浴場法合憲件判決と薬事法違憲判決） [授業外学習] 次回テキスト箇所の指摘
⑤	[テーマ] 法の下の平等保障は何を意味しているか(2) [内容] 国籍法違憲判決（最大判平20・6・4） 尊属殺重罰違憲判決（最大判昭48・4・4） [授業外学習] 次回テキスト箇所の指摘	⑬	[テーマ] 人権保障と公共の福祉(2) [内容] 職業選択の自由が問題になった事件からの理解（公衆浴場法合憲件判決と薬事法違憲判決） [授業外学習] 次回テキスト箇所の指摘
⑥	[テーマ] 私人間の法律関係における差別問題(1) [内容] 私的自治の原則の概説、 日産自動車事件（最判昭56・3.24） [授業外学習] 次回テキスト箇所の指摘	⑭	[テーマ] 司法裁判所の裁判 [内容] 「法律上の争訟」の意味、 板まんだら事件（最判昭56・4・7） [授業外学習] 次回テキスト箇所の指摘
⑦	[テーマ] 私人間の法律関係における差別問題(2) [内容] 日産自動車事件（最判昭56・3.24） 三菱樹脂事件（最大判昭48・12・12） [授業外学習] 次回テキスト箇所の指摘	⑮	[テーマ] 日本国憲法の違憲審査制 [内容] 日本国憲法の違憲審査権の性質、 警察予備隊違憲訴訟 [授業外学習]
⑧	[テーマ] 基本的人権の分類 [内容] 基本的人権保障条項の分類項目と、それぞれの特徴 [授業外学習] 次回テキスト箇所の指摘	⑯	[テーマ] 筆記試験 [内容] [授業外学習]

成績評価方法（方針）

成績の評価は、基本的に、筆記試験による。欠席日数は学生便覧「試験細則」による。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎			100%
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度				
出席				

履修上の注意（受講学生に望むこと）

テキストを必ず授業で携行すること

関連科目			
教科書	ワンステップ憲法（嵯峨野書院）	参考書	
連絡先	非常勤講師なので連絡は教育企画室を通して行うこと。		

授業科目名	文章表現論Ⅰ Academic Writing Ⅰ(L)				担当教員	末永精悦・齋藤博・高橋義夫
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

文章は、「文は人なり」と言われるように、書き手の全人格が集約されるものである。自己表現の重要な手段として様々な文章表現に習熟することを目的とする。

授業の一般目標

文章の書き方の基本的な考え方と技能を身に付ける。次に掲げる様々な文章の書き方の理論を理解し、書く力を身に付ける。自由作文、課題作文①、課題作文②、書簡文(手紙、封筒、ハガキ、往復ハガキなど)、自分史、詩歌創作(俳句、短歌、詩)、研究論文(テーマを自分で決めて書く簡易な論文)などを書く。また、語彙力を身に付けるために、言葉シリーズ(プリント)を毎時間学習する。

授業の到達目標

■	認知的領域	様々な様式の文章の書き方の理論を理解する。より多くの言葉の使い方を知る。
■	情意的領域	文章表現に意欲的かつ真剣に取り組む。日本語に対する強い興味・関心を持つ。
■	技能表現的領域	様々な文章の書き方に習熟する。より多くの漢字を読み書きできる。

授業計画(全体)

全体として、様々な文章表現に習熟するように、文章を書くことの意味、書き方の基本などについて説明する。自由作文については、最も書きたいテーマを自分で決め800字詰め原稿用紙に書くこと。課題作文①、②については、読解力、思考力、表現力、判断力を身に付けるために、テーマに基づき、小論文としてまとめること。書簡文では、書き方の基本を理解すること。自分史は自分のアイデンティティの確立を目指すこと。詩歌の創作では鑑賞会を行う。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、言葉シリーズの説明、成績評価の方法、授業の感想(授業評価)を書く。 [授業外学習] シラバスを熟読すること。	⑨	[テーマ] 「自分史」1(他)※「他」は必要に応じて設定するテーマ。 [内容] これまでの自分を振り返り800字詰め原稿用紙2枚にまとめる。書簡文2の返却。言葉シリーズ7の学習。授業の感想。 [授業外学習]言葉シリーズの復習。
②	[テーマ]文章についての考え方 [内容] 様々な文章についての説明。授業の感想。 [授業外学習] 次回の自由作文の題材について考える。	⑩	[テーマ] 「自分史」2(他) [内容] 自分史をまとめる。言葉シリーズ8の学習。授業の感想。 [授業外学習]言葉シリーズの復習。
③	[テーマ] 自由作文1 [内容] 自由作文についての説明。各自で最も書きたいテーマを決め、原稿用紙にまとめる。言葉シリーズ1の学習。授業の感想。 [授業外学習]自由作文2の題材をについて考える。 言葉シリーズの復習。	⑪	[テーマ] 詩歌創作(俳句、他) [内容] 俳句(他)の作り方を説明する。俳句(他)を作る。添削した履歴書を返す。言葉シリーズ9(最終回)の学習。授業の感想。 [授業外学習]言葉シリーズの復習。
④	[テーマ] 自由作文2 [内容] 自由作文2をまとめる。添削した自由作文1を返す。言葉シリーズ2の学習。授業の感想。 [授業外学習]言葉シリーズの復習。	⑫	[テーマ] 詩歌創作(短歌、他) [内容] 短歌(他)の作り方を説明する。短歌(他)を作る。添削した俳句(他)を返す。授業の感想。 [授業外学習]詩歌創作について。
⑤	[テーマ] 課題作文① [内容] 一字の題(習、空、器から選択)に基づき800字で書く。添削した自由作文2を返す。言葉シリーズ3の学習。授業の感想。 [授業外学習]言葉シリーズの復習。	⑬	[テーマ] 詩歌(作品集鑑賞) [内容] 俳句(他)、短歌(他)の作品を作者が読み上げ相互に鑑賞し合う。添削した短歌(他)を返す。授業の感想。 [授業外学習]次回の研究論文のテーマについて考えておく。
⑥	[テーマ] 課題作文② [内容] 資料を読んでテーマに沿って800字にまとめる。添削した課題作文①を返す。言葉シリーズ4の学習。授業の感想。 [授業外学習]手紙を出す相手について考えること。言葉シリーズの復習。	⑭	[テーマ] 研究論文 [内容] 研究論文の書き方を説明する。各自のテーマに基づき、図書館、パソコン室等で情報収集する。授業の感想。 [授業外学習]研究論文についてまとめる。
⑦	[テーマ] 書簡文1 [内容] 書簡文の書き方の説明。手紙や封筒を書く。添削した課題作文②を返す。言葉シリーズ5の学習。授業の感想。 [授業外学習]言葉シリーズの復習。	⑮	[テーマ] 研究論文 [内容] 研究論文を完成させる。授業の感想。学内の授業評価。 [授業外学習]授業全体を各自が振り返る。
⑧	[テーマ] 書簡文2 [内容] ハガキ、往復ハガキを書く。添削した書簡文1を返す。言葉シリーズ6の学習。授業の感想。 [授業外学習]次回の履歴書の書き方を確認すること。言葉シリーズの復習。	⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]

成績評価方法(方針)

提出された作品の内容、授業への取組み状況などを総合的に見て成績評価を行う。その場合、作品が70%、授業への取組み状況を30%とする。なお、出席状況については、原則2/3以上とする。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				
授業内レポート	◎	◎	◎	70%
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度		◎		30%
出席				

履修上の注意(受講学生に望むこと)

石垣は基礎が最も重要。一カ所でも手を抜けばもろくも崩れ去ります。1回でも欠席すれば基礎の部分に手抜きができることになるので注意しましょう。

関連科目			
教科書	特に指定しない。	参考書	
連絡先	末永精悦研究室A棟3F、齋藤博研究室E棟2F、高橋義夫研究室5体3F		

授業科目名	文章表現論Ⅱ Academic Writing Ⅱ(L)				担当教員	末永精悦・齋藤博・高橋義夫
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

原則として、文章表現論Ⅰを履修済みの受講生を対象とする。Ⅰよりも、より内面的・思索的・感性的な文章を目指すことを目的とする。

授業の一般目標

Ⅰで学習し身に付けた文章の書き方の基本的な考え方と技能を踏まえ、更に上の段階を目指し、文章力、語彙力を身に付ける。次に掲げる様々な文章の書き方を習得し、書く力を養う。自由作文、課題作文①、課題作文②、履歴書等の書き方、童話・短編小説の創作、書簡文(手紙、ハガキ、年賀ハガキ)、詩歌創作(俳句、短歌、詩)。一方、語彙などを更に多く身に付けるために、言葉シリーズ(プリント)を毎時間学習する。

授業の到達目標

■	認知的領域	様々な様式の文章をより完成度の高いものにする。より広範な言葉についての活用力を身に付ける。
■	情意的領域	文章表現に積極的かつ意欲的に取り組む。日本語に対する興味・関心をより高める。
■	技能表現的領域	様々な文章の書き方に習熟することを目指す。より多くの漢字や言葉の使い方ができる。

授業計画(全体)

様々な文章の書き方に関してより理解を深めるようにし、書き方の工夫などができるようにする。自由作文については、各自現在最も関心を抱く人生上の事柄に関するテーマで800字の原稿用紙に書くこととする。課題作文①、②については、内面的な思索を深め、感性を磨き、自分の考えとして的確に表現できるようになることを目指す。書簡文では日本の文化としての形式についても考えるよう指示する。どの場合でも、提出作品は添削し、受講生と面談して返す。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバスの説明、言葉シリーズの説明、成績評価の説明、授業の感想(授業評価)を書く。 [授業外学習] シラバスをよく確認すること。	⑨	[テーマ] 童話、短編小説等 [内容] 童話または短編小説を仕上げる。授業の感想。 [授業外学習] 次回の詩歌創作(俳句、短歌、詩、他)について想を練る。
②	[テーマ] 文章についての考え方 [内容] 様々な文章をよりよく書くための心構えについて説明。授業の感想。 [授業外学習] 次回の自由作文について考える。	⑩	[テーマ] 詩歌創作1(俳句、他)※「他」は必要に応じて設定するテーマ。 [内容]俳句(他)のつくり方の説明。俳句(他)を作る。感想を付して、童話、短編小説を返す。言葉シリーズ5の学習。授業の感想。 [授業外学習]短歌(他)について想を練る。言葉シリーズの復習。
③	[テーマ] 自由作文1 [内容] 人生上の課題について内面的な思索を深めた上での自由作文について説明。原稿用紙に書く。言葉シリーズ1の学習。授業の感想。 [授業外学習]自由作文2について想を練る。言葉シリーズの復習。	⑪	[テーマ] 詩歌創作2(短歌、他) [内容] 短歌(他)の作り方を説明する。短歌(他)を作る。添削した俳句(他)を返す。言葉シリーズ6の学習。授業の感想。 [授業外学習]詩について想を練る。言葉シリーズの復習。
④	[テーマ] 自由作文2 [内容] 自由作文2を書く。添削した自由作文1を面談して返す。言葉シリーズ2の学習。授業の感想。 [授業外学習]言葉シリーズの復習。	⑫	[テーマ] 詩歌創作3(詩) [内容] 詩について説明する。詩作する。添削した短歌(他)を返す。言葉シリーズ7を学習する。授業の感想。 [授業外学習]言葉シリーズの復習。
⑤	[テーマ] 課題作文① [内容] 論理的な文章を読み、その内容に基づいて思索を深め、自分の考えとして論理的にまとめる。言葉シリーズ3の学習。授業の感想。 [授業外学習]言葉シリーズの復習。	⑬	[テーマ] 書簡文1 [内容] 手紙、封筒、ハガキ、年賀ハガキの書き方を説明する。手紙、封筒、ハガキ、年賀ハガキを書く。添削した詩を返す。言葉シリーズ8の学習。授業の感想。 [授業外学習]言葉シリーズの復習。
⑥	[テーマ] 課題作文② [内容] 図表から読み取れることをまとめ、そのことについて自分の考えを書く。言葉シリーズ4の学習。授業の感想。 [授業外学習]言葉シリーズの復習。	⑭	[テーマ] 書簡文2 [内容] 手紙、封筒、ハガキ、年賀ハガキを書く。添削した手紙等を返す。言葉シリーズ9(最終回)の学習。授業の感想。 [授業外学習]言葉シリーズの復習。
⑦	[テーマ] 履歴書Ⅰ [内容] 就職活動のために必要な履歴書の書き方について学び実際に書いてみる。〔授業外の指示等〕 次回の自己PRについて予習する。 [授業外学習]言葉シリーズの復習。	⑮	[テーマ] 詩歌の作品鑑賞会 [内容]受講生が創作した俳句、短歌の作品集を鑑賞する。授業の感想。学内の授業評価。 [授業外学習]授業全体を各自が総括する。
⑧	[テーマ] 履歴書Ⅱ [内容] 自己分析をし、更に自己PRとしてまとめる。 [授業外学習]言葉シリーズの復習。	⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]

成績評価方法(方針)

提出作品の状況、授業への取組み状況などを総合的にみて成績評価を行う。その割合は、提出作品70%、授業への取組み状況30%とする。なお、出席状況は原則2/3以上とする。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				
授業内レポート	◎	◎	◎	70%
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度		◎		30%
出席				

履修上の注意(受講学生に望むこと)

ひたすら「書く」ことです。とにかく実際に文章を書き、書き込むことによって書く力が身に付くようにしましょう。自分の実力をつける授業だと思って下さい。

関連科目			
教科書	特に指定しない。	参考書	
連絡先	末永精悦研究室A棟3F、齋藤博研究室E棟2F、高橋義夫研究室5体3F		

授業科目名	ボランティア活動実践A Voluntary Activity Practice A				担当教員	高崎 義輝
開講内容	学年・学期	1・通年	授業方法	実習	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

ボランティア活動を行うにあたり、ボランティアに必要なルールや心構えを講義し、地域の中での社会活動・健康増進・介護支援等や学校現場における部活動支援・学習支援・遊び相手・障害者支援・健康相談等の活動に、教育委員会やその他の各種団体の要請に基づき、ボランティア活動を展開する。

授業の一般目標

社会人に移行する時期において、地域や社会の一構成員としての自覚を、実体験を通して確認するとともに、社会性等の「人間力の育成・向上」を図る。また、ボランティア活動という実体験を通して、座学では得られない学習内容に対する学習意欲の喚起・向上をめざし、就業・就職等の近い将来の人生設計に役立てることができるようにする。

授業の到達目標

■	認知的領域	ボランティア活動に必要な知識や技術、心構えを理解し、ボランティアとは何か説明できる。
■	情意的領域	自発的、積極的にボランティア活動に参加し、他者との関わりに意欲的に取り組むことができる。
■	技能表現的領域	ボランティア活動を通して、支援に必要な技術や態度が習得できる。

授業計画(全体)

ボランティア活動を実践するためのボランティア登録、ボランティア保険への加入、ボランティア講座の受講について説明する。その後、年間を通したボランティア活動を実施する。終了後に、レポートを提出し、ボランティア活動の意義や到達度を確認し、ボランティア活動の内容と併せ、実習単位の1単位分として評価し認定する。

授業計画(各回のテーマ等)

【ボランティア活動の意義と実践】
1, ボランティア活動を実践するための手続きについて
①ボランティア登録(ボランティアセンターに申し込む)
②ボランティア保険への加入
③ボランティア講座の受講
(「ボランティアとは」「ボランティアをする前に」「活動上の留意事項」「活動紹介」「ボランティアセンターとコーディネーター」等について説明する。)

2, ボランティア活動実践
①学内における障害を持つ学生の支援
②地域における高齢者、障害児・者支援
③学校教育現場での部活動支援・学習支援・遊び相手・障害者支援・健康相談等
④海外への物的支援等への参加

3, 活動中、活動後のルールについて

4, 単位認定と報告(活動後のまとめとレポート)

＊＊＊注意事項＊＊＊
このボランティア活動実践Aは、第1学年に在籍する学生のみを対象とする。A～Dの中から複数の受講登録は認めない。対象学年の学生のみとする。

成績評価方法(方針)

この授業科目は、学内外を中心とする障害者・高齢者等の健康支援や福祉支援、小中高での学習支援や諸活動支援、また地域における各種のスポーツ・レクリエーション支援など多岐にわたるボランティア活動を行う。活動に伴うセンター登録、事前研修講義、ボランティア保険の加入、規定回数(時間)の完全実施、活動後のまとめとレポート等の提出を中心に成績評価を行う。一連の実践活動を完遂して評価「認定」を認める。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				
授業内レポート				
授業外レポート	○	○	◎	50%
演習・実技	◎	◎	◎	
授業態度				50%
出席	◎	◎	◎	

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・年度当初から計画的な実践を目指すこと。
・ボランティア登録、保険(￥300/年)の加入、講座の受講は必須事項である。
・対象学年以外の実習登録は認めない。
・一年を通した活動なので、活動のバランスなど計画的に行うこと。
・ボランティア実施上のルールを守ること。

関連科目			
教科書		参考書	
連絡先	高崎研究室		

授業科目名	ボランティア活動実践B Voluntary Activity Practice B				担当教員	高崎 義輝
開講内容	学年・学期	2・通年	授業方法	実習	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

ボランティア活動を行うにあたり、ボランティアに必要なルールや心構えを講義し、地域の中での社会活動・健康増進・介護支援等や学校現場における部活動支援・学習支援・遊び相手・障害者支援・健康相談等の活動に、教育委員会やその他の各種団体の要請に基づき、ボランティア活動を展開する。

授業の一般目標

社会人に移行する時期において、地域や社会の一構成員としての自覚を、実体験を通して確認するとともに、社会性等の「人間力の育成・向上」を図る。また、ボランティア活動という実体験を通して、座学では得られない学習内容に対する学習意欲の喚起・向上をめざし、就業・就職等の近い将来の人生設計に役立てることができるようにする。

授業の到達目標

■	認知的領域	ボランティア活動に必要な知識や技術、心構えを理解し、ボランティアとは何か説明できる。
■	情意的領域	自発的、積極的にボランティア活動に参加し、他者との関わりに意欲的に取り組むことができる。
■	技能表現的領域	ボランティア活動を通して、支援に必要な技術や態度が習得できる。

授業計画(全体)

ボランティア活動を実践するためのボランティア登録、ボランティア保険への加入、ボランティア講座の受講について説明する。その後、年間を通したボランティア活動を実施する。終了後に、レポートを提出し、ボランティア活動の意義や到達度を確認し、ボランティア活動の内容と併せ、実習単位の1単位分として評価し認定する。

授業計画(各回のテーマ等)

【ボランティア活動の意義と実践】
1, ボランティア活動を実践するための手続きについて
①ボランティア登録(ボランティアセンターに申し込む)
②ボランティア保険への加入
③ボランティア講座の受講
(「ボランティアとは」「ボランティアをする前に」「活動上の留意事項」「活動紹介」「ボランティアセンターとコーディネーター」等について説明する。)

2, ボランティア活動実践
①学内における障害を持つ学生の支援
②地域における高齢者、障害児・者支援
③学校教育現場での部活動支援・学習支援・遊び相手・障害者支援・健康相談等
④海外への物的支援等への参加

3, 活動中、活動後のルールについて

4, 単位認定と報告(活動後のまとめとレポート)

＊＊＊注意事項＊＊＊
このボランティア活動実践Bは、第2学年に在籍する学生のみを対象とする。A～Dの中から複数の受講登録は認めない。対象学年の学生のみとする。

成績評価方法(方針)

この授業科目は、学内外を中心とする障害者・高齢者等の健康支援や福祉支援、小中高での学習支援や諸活動支援、また地域における各種のスポーツ・レクリエーション支援など多岐にわたるボランティア活動を行う。活動に伴うセンター登録、事前研修講義、ボランティア保険の加入、規定回数(時間)の完全実施、活動後のまとめとレポート等の提出を中心に成績評価を行う。一連の実践活動を完遂して評価「認定」を認める。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				
授業内レポート				
授業外レポート	○	○	◎	50%
演習・実技	◎	◎	◎	
授業態度				50%
出席	◎	◎	◎	

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・年度当初から計画的な実践を目指すこと。
・ボランティア登録、保険(￥300/年)の加入、講座の受講は必須事項である。
・対象学年以外の実習登録は認めない。
・一年を通した活動なので、活動のバランスなど計画的に行うこと。
・ボランティア実施上のルールを守ること。

関連科目			
教科書		参考書	
連絡先	高崎研究室		

授業科目名	ボランティア活動実践C Voluntary Activity Practice C				担当教員	高崎 義輝
開講内容	学年・学期	3・通年	授業方法	実習	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

ボランティア活動を行うにあたり、ボランティアに必要なルールや心構えを講義し、地域の中での社会活動・健康増進・介護支援等や学校現場における部活動支援・学習支援・遊び相手・障害者支援・健康相談等の活動に、教育委員会やその他の各種団体の要請に基づき、ボランティア活動を展開する。

授業の一般目標

社会人に移行する時期において、地域や社会の一構成員としての自覚を、実体験を通して確認するとともに、社会性等の「人間力の育成・向上」を図る。また、ボランティア活動という実体験を通して、座学では得られない学習内容に対する学習意欲の喚起・向上をめざし、就業・就職等の近い将来の人生設計に役立てることができるようにする。

授業の到達目標

■	認知的領域	ボランティア活動に必要な知識や技術、心構えを理解し、ボランティアとは何か説明できる。
■	情意的領域	自発的、積極的にボランティア活動に参加し、他者との関わりに意欲的に取り組むことができる。
■	技能表現的領域	ボランティア活動を通して、支援に必要な技術や態度が習得できる。

授業計画(全体)

ボランティア活動を実践するためのボランティア登録、ボランティア保険への加入、ボランティア講座の受講について説明する。その後、年間を通したボランティア活動を実施する。終了後に、レポートを提出し、ボランティア活動の意義や到達度を確認し、ボランティア活動の内容と併せ、実習単位の1単位分として評価し認定する。

授業計画(各回のテーマ等)

【ボランティア活動の意義と実践】
1, ボランティア活動を実践するための手続きについて
①ボランティア登録(ボランティアセンターに申し込む)
②ボランティア保険への加入
③ボランティア講座の受講
(「ボランティアとは」「ボランティアをする前に」「活動上の留意事項」「活動紹介」「ボランティアセンターとコーディネーター」等について説明する。)

2, ボランティア活動実践
①学内における障害を持つ学生の支援
②地域における高齢者、障害児・者支援
③学校教育現場での部活動支援・学習支援・遊び相手・障害者支援・健康相談等
④海外への物的支援等への参加

3, 活動中、活動後のルールについて

4, 単位認定と報告(活動後のまとめとレポート)

＊＊＊注意事項＊＊＊
このボランティア活動実践Cは、第3学年に在籍する学生のみを対象とする。A～Dの中から複数の受講登録は認めない。対象学年の学生のみとする。

成績評価方法(方針)

この授業科目は、学内外を中心とする障害者・高齢者等の健康支援や福祉支援、小中高での学習支援や諸活動支援、また地域における各種のスポーツ・レクリエーション支援など多岐にわたるボランティア活動を行う。活動に伴うセンター登録、事前研修講義、ボランティア保険の加入、規定回数(時間)の完全実施、活動後のまとめとレポート等の提出を中心に成績評価を行う。一連の実践活動を完遂して評価「認定」を認める。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				
授業内レポート				
授業外レポート	○	○	◎	50%
演習・実技	◎	◎	◎	
授業態度				50%
出席	◎	◎	◎	

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・年度当初から計画的な実践を目指すこと。
・ボランティア登録、保険(￥300/年)の加入、講座の受講は必須事項である。
・対象学年以外の実習登録は認めない。
・一年を通した活動なので、活動のバランスなど計画的に行うこと。
・ボランティア実施上のルールを守ること。

関連科目			
教科書		参考書	
連絡先	高崎研究室		

授業科目名	ボランティア活動実践D Voluntary Activity Practice D				担当教員	高崎 義輝
開講内容	学年・学期	4・通年	授業方法	実習	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

ボランティア活動を行うにあたり、ボランティアに必要なルールや心構えを講義し、地域の中での社会活動・健康増進・介護支援等や学校現場における部活動支援・学習支援・遊び相手・障害者支援・健康相談等の活動に、教育委員会やその他の各種団体の要請に基づき、ボランティア活動を展開する。

授業の一般目標

社会人に移行する時期において、地域や社会の一構成員としての自覚を、実体験を通して確認するとともに、社会性等の「人間力の育成・向上」を図る。また、ボランティア活動という実体験を通して、座学では得られない学習内容に対する学習意欲の喚起・向上をめざし、就業・就職等の近い将来の人生設計に役立てることができるようにする。

授業の到達目標

■	認知的領域	ボランティア活動に必要な知識や技術、心構えを理解し、ボランティアとは何か説明できる。
■	情意的領域	自発的、積極的にボランティア活動に参加し、他者との関わりに意欲的に取り組むことができる。
■	技能表現的領域	ボランティア活動を通して、支援に必要な技術や態度が習得できる。

授業計画（全体）

ボランティア活動を実践するためのボランティア登録、ボランティア保険への加入、ボランティア講座の受講について説明する。その後、年間を通したボランティア活動を実施する。終了後に、レポートを提出し、ボランティア活動の意義や到達度を確認し、ボランティア活動の内容と併せ、実習単位の1単位分として評価し認定する。

授業計画（各回のテーマ等）

【ボランティア活動の意義と実践】
1，ボランティア活動を実践するための手続きについて
①ボランティア登録（ボランティアセンターに申し込む）
②ボランティア保険への加入
③ボランティア講座の受講
（「ボランティアとは」「ボランティアをする前に」「活動上の留意事項」「活動紹介」「ボランティアセンターとコーディネーター」等について説明する。）

2，ボランティア活動実践
①学内における障害を持つ学生の支援
②地域における高齢者、障害児・者支援
③学校教育現場での部活動支援・学習支援・遊び相手・障害者支援・健康相談等
④海外への物的支援等への参加

3，活動中、活動後のルールについて

4，単位認定と報告（活動後のまとめとレポート）

＊＊＊注意事項＊＊＊
このボランティア活動実践Dは、第4学年に在籍する学生のみを対象とする。A～Dの中から複数の受講登録は認めない。対象学年の学生のみとする。

成績評価方法（方針）

この授業科目は、学内外を中心とする障害者・高齢者等の健康支援や福祉支援、小中高での学習支援や諸活動支援、また地域における各種のスポーツ・レクリエーション支援など多岐にわたるボランティア活動を行う。活動に伴うセンター登録、事前研修講義、ボランティア保険の加入、規定回数（時間）の完全実施、活動後のまとめとレポート等の提出を中心に成績評価を行う。一連の実践活動を完遂して評価「認定」を認める。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				
授業内レポート				
授業外レポート	○	○	◎	50%
演習・実技	◎	◎	◎	
授業態度				50%
出席	◎	◎	◎	

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・年度当初から計画的な実践を目指すこと。
・ボランティア登録、保険（￥300/年）の加入、講座の受講は必須事項である。
・対象学年以外の実習登録は認めない。
・一年を通した活動なので、活動のバランスなど計画的に行うこと。
・ボランティア実施上のルールを守ること。

関連科目			
教科書		参考書	
連絡先	高崎研究室		

授業科目名	北米のプロスポーツ事情 Pro Sports in North America				担当教員	マーティ・キーナート/ Marty Kuehnert
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	講義	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

世界の何処をみわたしても、北米のスポーツカルチャーのような文化は存在しない。スポーツはもはや北米の多くの人々にとっては“病みつき”といっていいほどのものである。スポーツビジネスを勉強する際、北米の事情を知らなければ始まらないのも事実である。さまざまな事が日本のスポーツ産業界にとっても学べる事は多い、と同時に学生はその異常なまでの極端さも考えて欲しい。最新の北米スポーツ事情とスポーツを検証し考える。

授業の一般目標

学生は、北米における主なメジャースポーツの現在の事情を検証し、理解し、そしてその課題点について考える。最大のスポーツビジネス王国である北米においてそのビジネスの仕組み、現状と問題点を学ぶ。期末レポートでは、各自選択したテーマにおいて、自分で調査・研究した内容と共に自分の視点を述べる。

授業の到達目標

■	認知的領域	北米のプロスポーツとそのビジネスの仕組み、現状、問題点を最新の各事例を通して学ぶ。
■	情意的領域	北米のプロスポーツとそのビジネスの仕組み、現状、問題点を最新の各事例を通して学ぶ。
□	技能表現的領域	

授業計画(全体)

各授業テーマに沿った資料、視聴覚教材を基に、北米のプロスポーツ業界の歴史、構造、現状、問題点を解説する。期末には、学生各自が選んだ課題のレポートを提出、各自が研究した内容と共に自分の視点を述べる事により、各スポーツの現状と課題点を考え、まとめる。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の内容、目的と進め方、北米のプロ・スポーツの巨大さとその内容の紹介 [授業外学習] 次回内容のMLBについて、調査してくる事。	⑨	[テーマ] NHL(ナショナルアイスホッケーリーグ)について [内容] 1918年からのプロ・ホッケーリーグとしての歴史、、組織・収益構造等 レポートB:期末レポートアウトライン提出 [授業外学習]
②	[テーマ] MLB(メジャー・リーグ・ベースボール)について Ⅰ [内容] 1869年からのプロ・ベースボールとしての歴史、その変遷と内容 [授業外学習] 次回内容のMLBについて、調査してくる事。	⑩	[テーマ] MLS(メジャーリーグ・サッカー)について [内容] 1967年からのプロ・サッカーリーグとしての歴史、変遷,各国の事情 [授業外学習]次回内容のTV放送について、調査してくる事
③	[テーマ] MLB(メジャー・リーグ・ベースボール)について Ⅱ [内容]現在の強・弱点、その組織・収益構造、問題点等 [授業外学習]期末レポートの題目次週提出の準備	⑪	[テーマ] TV放映と放映権について [内容] プロスポーツの重要な収入源であるTV放映権の仕組みと内容 [授業外学習]次回内容のスタジアムについて、調査してくる事。
④	[テーマ] マイナーリーグ プロベースボールについて [内容] MLBの強みは1901年に始まるマイナーリーグの組織構造、実情と役割等レポートA:期末レポート課題題目提出 [授業外学習]期末レポートの題目次週提出の準備	⑫	[テーマ] スタジアムについて [内容] 成功するスポーツフランチャイズの条件としてスタジアムその実例と条件 [授業外学習]今週のフレーズとセンテンスを習得
⑤	[テーマ] NFL(ナショナルアメリカンフットボールリーグ)について Ⅰ [内容] 1922年からのプロ・フットボールリーグとしての歴史、その変遷と内容 [授業外学習]	⑬	[テーマ]アマチュアスポーツについて [内容] 北米におけるカレッジスポーツはすでにプロ化している。その現状と問題点。 [授業外学習]次回内容のエージェントについて、調査してくる事
⑥	[テーマ] NFL(ナショナルアメリカンフットボールリーグ)について Ⅱ [内容] 現在の強・弱点、その組織・収益構造、問題点等 [授業外学習]次回内容のNBAについて、調査してくる事。	⑭	[テーマ]エージェント [内容]エージェントの役割と仕組み、北米と日本スポーツの現状と事情 [授業外学習] レポートC:期末レポート提出 ／質疑応答とまとめ
⑦	[テーマ] NBA(ナショナルバスケットボールリーグ)について Ⅰ [内容] 1947年からのプロ・フットボールリーグとしての歴史、その変遷と内容 [授業外学習]	⑮	[テーマ]ドラッグ [内容] プロスポーツ界全体、そしてオリンピックにおけるドラッグの現状、問題点。 [授業外学習] 質疑応答の内容を考えてくる事
⑧	[テーマ] NBA(ナショナルバスケットボールリーグ)について Ⅱ [内容] 現在の強・弱点、その組織・収益構造、問題点等 [授業外学習]期末レポートのアウトラインを、次週提出の準備	⑯	[テーマ] 質疑応答／期末アンケート [内容] 質疑応答、レポートおよび授業についてのディズカッション

成績評価方法(方針)

出席率30%、小テスト授業内レポートで20%、期末レポート50%

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				
授業内レポート	◎	◎		50%
授業外レポート	◎	◎		20%
演習・実技				
授業態度	○	○		
出席	○			30%

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・講義受講人数は80人に限定。
それ以上の受講希望者がいた場合は、抽選にて選考。
・16回講義中、正当な理由なしに5回以上欠席は、
単位修得不可。
・20分以上の遅刻は欠席扱い。居眠りお喋り携帯使用厳禁 3回目以上注意者は退室。
・自分でリサーチし自分の視点を述べた期末レポートを重視します。
・期末レポート不提出は、単位修得不可。
・講義の進行具合によって、授業計画は多少変更します。

関連科目			
教科書	教科書は使用しない。その都度プリント配布。	参考書	特になし。授業内で指示
連絡先	mpk@gol.com		

授業科目名	海外短期研修A Brief Seminar Abroad A				担当教員	国際交流センター長
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実習	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

本科目は本学で実施している海外短期研修に参加し、各研修の課題に取り組んだ学生に単位を認定するための科目である。本科目で言う「海外短期研修」とは、90日未満の期間に、海外の大学で実施するプログラムを通して学習することを意味する。
なお、この科目の登録は担当教員が行うので、学生本人が登録する必要はない。

授業の一般目標

本学で実施している海外短期研修について、各研修の課題に取り組み、成果をあげる。
海外での研修を通して国際感覚を養い、外国語で専門科目を学習する重要性を認識する。
報告会での発表等を通じ、プレゼンテーションの方法を磨く。

授業の到達目標

■	認知的領域	本学で実施している海外研修について、各研修の課題に取り組み、成果をあげる。
■	情意的領域	海外での研修を通じ、国際感覚を養い、外国語で専門科目を学習する重要性を認識する。
■	技能表現的領域	報告会での発表等を通じ、プレゼンテーションの方法を磨く。

授業計画（全体）

研修ごとに募集を行い、参加者には事前・事後指導が行われる。事前指導においては、研修内容に応じた準備が求められる。事後指導では報告会を行うなど、研修全体の振り返りを行う。双方ともレポート提出を求める場合がある。

授業テーマとその内容

目的、渡航先、内容は研修ごとに異なる。過去に実施された、あるいは計画されている短期研修は以下のとおりである。
各研修は日程にあわせ適宜学内説明会を実施するので、本科目の履修（参加）希望者は説明会に関する学内掲示を注意のこと。

アメリカ合衆国	ハワイ大学　アスレティックトレーニング研修　ビギナーコース
	ハワイ大学　アスレティックトレーニング研修　アドバンスコース
	ハワイ大学　短期英語研修プログラム
	カリフォルニア州立大学ロングビーチ校　日米スポーツ科学事情比較セミナー
デンマーク	リレベルト大学他　デンマーク国における健康教育プログラム
フィンランド	カヤーニ応用科学大学　スポーツ・健康科学分野における短期留学プログラム
台湾	台東大学　国際交流協定校短期交換留学
タイ	シーナカリンウィロート大学　スポーツ・異文化交流プログラム
ベトナム	ハノイ大学　福祉・リハビリ・異文化交流留学研修
中国	瀋陽師範大学　中国武術・文化研修派遣プログラム
韓国	龍仁大学　韓国伝統武道・警護・文化研修プログラム
ニュージーランド	カンタベリー大学　被災地復興・スポーツ文化交流プログラム

なお、上記研修の内容や名称が変更されたり、新たに追加される場合がある。

単位認定の条件として、参加者への事前・事後指導が行われる。これらの際に課されるレポートや、研修中の学習態度、研修後の報告会での発表等を総合的に判定し、単位を認定する。
単位認定の際、評価は、単位認定を意味する「認」の一種類とする。単位認定者は国際交流センター長とする。
学生が4年間で複数の研修に参加する可能性を考え、「海外短期研修A・B・C・D」の4科目を開設している。単位認定は4研修（4科目4単位）までとする。
この科目の登録は参加学生が行う必要はない。

成績評価方法（方針）

参加者への事前・事後指導が行われる。これらの際に課されるレポートや、研修中の学習態度、研修後の報告会での発表等を総合的に判定し、単位を認定する。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				
授業内レポート	○		○	10%
授業外レポート	○		○	10%
演習・実技		○	○	30%
授業態度		○		50%
出席				欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・研修先の言語、文化、地理等の理解の機会を逃さぬこと
・研修中の日本・仙台大学の紹介をする機会に備えること
・本学が実施するさまざまな海外研修への参加を通じ、国際的視野を身につけ、国際感覚を醸成してほしい。また、外国語で専門科目を学習する重要性を認識してほしい。
・4年間で複数の研修に参加する場合を考慮し、本科目「海外短期研修」はA～Dの4科目が開設されている。単位の認定は4研修（4科目4単位）までとする。
・日程、内容等各研修の詳細は事業戦略室まで問い合わせること。

関連科目	海外短期研修B・C・D		
教科書	各研修の担当者が指示する	参考書	各研修の担当者が指示する
連絡先	事業戦略室　（A棟1F）　または国際交流センター長 tt-arai@sendai-u.ac.jp		

授業科目名	海外短期研修B Brief Seminar Abroad B				担当教員	国際交流センター長
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実習	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

本科目は本学で実施している海外短期研修に参加し、各研修の課題に取り組んだ学生に単位を認定するための科目である。本科目で言う「海外短期研修」とは、90日未満の期間に、海外の大学で実施するプログラムを通して学習することを意味する。
なお、この科目の登録は担当教員が行うので、学生本人が登録する必要はない。

授業の一般目標

本学で実施している海外短期研修について、各研修の課題に取り組み、成果をあげる。
海外での研修を通して国際感覚を養い、外国語で専門科目を学習する重要性を認識する。
報告会での発表等を通じ、プレゼンテーションの方法を磨く。

授業の到達目標

■	認知的領域	本学で実施している海外研修について、各研修の課題に取り組み、成果をあげる。
■	情意的領域	海外での研修を通じ、国際感覚を養い、外国語で専門科目を学習する重要性を認識する。
■	技能表現的領域	報告会での発表等を通じ、プレゼンテーションの方法を磨く。

授業計画（全体）

研修ごとに募集を行い、参加者には事前・事後指導が行われる。事前指導においては、研修内容に応じた準備が求められる。事後指導では報告会を行うなど、研修全体の振り返りを行う。双方ともレポート提出を求める場合がある。

授業テーマとその内容

目的、渡航先、内容は研修ごとに異なる。過去に実施された、あるいは計画されている短期研修は以下のとおりである。
各研修は学内説明会を実施するので、本科目の履修（参加）希望者は説明会に関する学内掲示を注意のこと。

アメリカ合衆国	ハワイ大学　アスレティックトレーニング研修　ビギナーコース
	ハワイ大学　アスレティックトレーニング研修　アドバンスコース
	ハワイ大学　短期英語研修プログラム
	カリフォルニア州立大学ロングビーチ校　日米スポーツ科学事情比較セミナー
デンマーク	リレベルト大学他　デンマーク国における健康教育プログラム
フィンランド	カヤーニ応用科学大学　スポーツ・健康科学分野における短期留学プログラム
台湾	台東大学　国際交流協定校短期交換留学
タイ	シーナカリンウィロート大学　スポーツ・異文化交流プログラム
ベトナム	ハノイ大学　福祉・リハビリ・異文化交流留学研修
中国	瀋陽師範大学　中国武術・文化研修派遣プログラム
韓国	龍仁大学　韓国伝統武道・警護・文化研修プログラム
ニュージーランド	カンタベリー大学　被災地復興・スポーツ文化交流プログラム

なお、上記研修の内容や名称が変更されたり、新たに追加される場合がある。

単位認定の条件として、参加者への事前・事後指導が行われる。これらの際に課されるレポートや、研修中の学習態度、研修後の報告会での発表等を総合的に判定し、単位を認定する。
単位認定の際、評価は、単位認定を意味する「認」の一種類とする。単位認定者は国際交流センター長とする。
学生が4年間で複数の研修に参加する可能性を考え、「海外短期研修A・B・C・D」の4科目を開設している。単位認定は4研修（4科目4単位）までとする。
この科目の登録は参加学生が行う必要はない。

成績評価方法（方針）

参加者への事前・事後指導が行われる。これらの際に課されるレポートや、研修中の学習態度、研修後の報告会での発表等を総合的に判定し、単位を認定する。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				
授業内レポート	○		○	10%
授業外レポート	○		○	10%
演習・実技		○	○	30%
授業態度		○		50%
出席				欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・研修先の言語、文化、地理等の理解の機会を逃さぬこと
・研修中の日本・仙台大学の紹介をする機会に備えること
・本学が実施するさまざまな海外研修への参加を通じ、国際的視野を身につけ、国際感覚を醸成してほしい。また、外国語で専門科目を学習する重要性を認識してほしい。
・4年間で複数の研修に参加する場合を考慮し、本科目「海外短期研修」はA～Dの4科目が開設されている。単位の認定は4研修（4科目4単位）までとする。
・日程、内容等各研修の詳細は事業戦略室まで問い合わせること。

関連科目	海外短期研修A・C・D		
教科書	各研修の担当者が指示する	参考書	各研修の担当者が指示する
連絡先	事業戦略室　（A棟1F）　または国際交流センター長 tt-arai@sendai-u.ac.jp		

授業科目名	海外短期研修C Brief Seminar Abroad C				担当教員	国際交流センター長
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実習	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

本科目は本学で実施している海外短期研修に参加し、各研修の課題に取り組んだ学生に単位を認定するための科目である。本科目で言う「海外短期研修」とは、90日未満の期間に、海外の大学で実施するプログラムを通して学習することを意味する。
なお、この科目の登録は担当教員が行うので、学生本人が登録する必要はない。

授業の一般目標

本学で実施している海外短期研修について、各研修の課題に取り組み、成果をあげる。
海外での研修を通して国際感覚を養い、外国語で専門科目を学習する重要性を認識する。
報告会での発表等を通じ、プレゼンテーションの方法を磨く。

授業の到達目標

■	認知的領域	本学で実施している海外研修について、各研修の課題に取り組み、成果をあげる。
■	情意的領域	海外での研修を通じ、国際感覚を養い、外国語で専門科目を学習する重要性を認識する。
■	技能表現的領域	報告会での発表等を通じ、プレゼンテーションの方法を磨く。

授業計画（全体）

研修ごとに募集を行い、参加者には事前・事後指導が行われる。事前指導においては、研修内容に応じた準備が求められる。事後指導では報告会を行うなど、研修全体の振り返りを行う。双方ともレポート提出を求める場合がある。

授業テーマとその内容

目的、渡航先、内容は研修ごとに異なる。過去に実施された、あるいは計画されている短期研修は以下のとおりである。
各研修は学内説明会を実施するので、本科目の履修（参加）希望者は説明会に関する学内掲示を注意のこと。

アメリカ合衆国	ハワイ大学　アスレティックトレーニング研修　ビギナーコース
	ハワイ大学　アスレティックトレーニング研修　アドバンスコース
	ハワイ大学　短期英語研修プログラム
	カリフォルニア州立大学ロングビーチ校　日米スポーツ科学事情比較セミナー
デンマーク	リレベルト大学他　デンマーク国における健康教育プログラム
フィンランド	カヤーニ応用科学大学　スポーツ・健康科学分野における短期留学プログラム
台湾	台東大学　国際交流協定校短期交換留学
タイ	シーナカリンウィロート大学　スポーツ・異文化交流プログラム
ベトナム	ハノイ大学　福祉・リハビリ・異文化交流留学研修
中国	瀋陽師範大学　中国武術・文化研修派遣プログラム
韓国	龍仁大学　韓国伝統武道・警護・文化研修プログラム
ニュージーランド	カンタベリー大学　被災地復興・スポーツ文化交流プログラム

なお、上記研修の内容や名称が変更されたり、新たに追加される場合がある。

単位認定の条件として、参加者への事前・事後指導が行われる。これらの際に課されるレポートや、研修中の学習態度、研修後の報告会での発表等を総合的に判定し、単位を認定する。
単位認定の際、評価は、単位認定を意味する「認」の一種類とする。単位認定者は国際交流センター長とする。
学生が4年間で複数の研修に参加する可能性を考え、「海外短期研修A・B・C・D」の4科目を開設している。単位認定は4研修（4科目4単位）までとする。
この科目の登録は参加学生が行う必要はない。

成績評価方法（方針）

参加者への事前・事後指導が行われる。これらの際に課されるレポートや、研修中の学習態度、研修後の報告会での発表等を総合的に判定し、単位を認定する。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				
授業内レポート	○		○	10%
授業外レポート	○		○	10%
演習・実技		○	○	30%
授業態度		○		50%
出席				欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・研修先の言語、文化、地理等の理解の機会を逃さぬこと
・研修中の日本・仙台大学の紹介をする機会に備えること
・本学が実施するさまざまな海外研修への参加を通じ、国際的視野を身につけ、国際感覚を醸成してほしい。また、外国語で専門科目を学習する重要性を認識してほしい。
・4年間で複数の研修に参加する場合を考慮し、本科目「海外短期研修」はA～Dの4科目が開設されている。単位の認定は4研修（4科目4単位）までとする。
・日程、内容等各研修の詳細は事業戦略室まで問い合わせること。

関連科目	海外短期研修A・B・D		
教科書	各研修の担当者が指示する	参考書	各研修の担当者が指示する
連絡先	事業戦略室　（A棟1F）　または国際交流センター長 tt-arai@sendai-u.ac.jp		

授業科目名	海外短期研修D Brief Seminar Abroad D				担当教員	国際交流センター長
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実習	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

本科目は本学で実施している海外短期研修に参加し、各研修の課題に取り組んだ学生に単位を認定するための科目である。本科目で言う「海外短期研修」とは、90日未満の期間に、海外の大学で実施するプログラムを通して学習することを意味する。
なお、この科目の登録は担当教員が行うので、学生本人が登録する必要はない。

授業の一般目標

本学で実施している海外短期研修について、各研修の課題に取り組み、成果をあげる。
海外での研修を通して国際感覚を養い、外国語で専門科目を学習する重要性を認識する。
報告会での発表等を通じ、プレゼンテーションの方法を磨く。

授業の到達目標

■	認知的領域	本学で実施している海外研修について、各研修の課題に取り組み、成果をあげる。
■	情意的領域	海外での研修を通じ、国際感覚を養い、外国語で専門科目を学習する重要性を認識する。
■	技能表現的領域	報告会での発表等を通じ、プレゼンテーションの方法を磨く。

授業計画（全体）

研修ごとに募集を行い、参加者には事前・事後指導が行われる。事前指導においては、研修内容に応じた準備が求められる。事後指導では報告会を行うなど、研修全体の振り返りを行う。双方ともレポート提出を求める場合がある。

授業テーマとその内容

目的、渡航先、内容は研修ごとに異なる。過去に実施された、あるいは計画されている短期研修は以下のとおりである。
各研修は学内説明会を実施するので、本科目の履修（参加）希望者は説明会に関する学内掲示を注意のこと。

アメリカ合衆国	ハワイ大学　アスレティックトレーニング研修　ビギナーコース
	ハワイ大学　アスレティックトレーニング研修　アドバンスコース
	ハワイ大学　短期英語研修プログラム
	カリフォルニア州立大学ロングビーチ校　日米スポーツ科学事情比較セミナー
デンマーク	リレベルト大学他　デンマーク国における健康教育プログラム
フィンランド	カヤーニ応用科学大学　スポーツ・健康科学分野における短期留学プログラム
台湾	台東大学　国際交流協定校短期交換留学
タイ	シーナカリンウィロート大学　スポーツ・異文化交流プログラム
ベトナム	ハノイ大学　福祉・リハビリ・異文化交流留学研修
中国	瀋陽師範大学　中国武術・文化研修派遣プログラム
韓国	龍仁大学　韓国伝統武道・警護・文化研修プログラム
ニュージーランド	カンタベリー大学　被災地復興・スポーツ文化交流プログラム

なお、上記研修の内容や名称が変更されたり、新たに追加される場合がある。

単位認定の条件として、参加者への事前・事後指導が行われる。これらの際に課されるレポートや、研修中の学習態度、研修後の報告会での発表等を総合的に判定し、単位を認定する。
単位認定の際、評価は、単位認定を意味する「認」の一種類とする。単位認定者は国際交流センター長とする。
学生が4年間で複数の研修に参加する可能性を考え、「海外短期研修A・B・C・D」の4科目を開設している。単位認定は4研修（4科目4単位）までとする。
この科目の登録は参加学生が行う必要はない。

成績評価方法（方針）

参加者への事前・事後指導が行われる。これらの際に課されるレポートや、研修中の学習態度、研修後の報告会での発表等を総合的に判定し、単位を認定する。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				
授業内レポート	○		○	10%
授業外レポート	○		○	10%
演習・実技		○	○	30%
授業態度		○		50%
出席				欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・研修先の言語、文化、地理等の理解の機会を逃さぬこと
・研修中の日本・仙台大学の紹介をする機会に備えること
・本学が実施するさまざまな海外研修への参加を通じ、国際的視野を身につけ、国際感覚を醸成してほしい。また、外国語で専門科目を学習する重要性を認識してほしい。
・4年間で複数の研修に参加する場合を考慮し、本科目「海外短期研修」はA～Dの4科目が開設されている。単位の認定は4研修（4科目4単位）までとする。
・日程、内容等各研修の詳細は事業戦略室まで問い合わせること。

関連科目	海外短期研修A・B・C		
教科書	各研修の担当者が指示する	参考書	各研修の担当者が指示する
連絡先	事業戦略室　（A棟1F）　または国際交流センター長 tt-arai@sendai-u.ac.jp		

5. 教職に関する科目

授業科目名	教職論A Introduction to Teaching Profession A				担当教員	大内悦夫・青沼一民・井上雅勝・菊地博・末永精悦
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	講義	関連資格	教員免許状(保体、養教、栄養教諭、特別支援、高校福祉)
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

教員の意識、教員の役割、職務内容等に関する理解を深め、教員としての責任を自覚し、教職に対する自らの意欲や適正を考慮し、教職への意欲や一体感を養う。同時に、教職の希望実現に向けた学習計画の立案ができるようにする。

授業の一般目標

次の四つの視点から学ぶ。①教職とはどんなものか、教職に就くための学習など教職に関する基盤になることを理解する。②教員養成、教員免許制度、教員採用、研修制度などについて理解を深める。③教職の服務規程、教育基本法を中心に知識を習得する。④教員としての資質・力量、理想の教師像など実際に教員になった場合に必要な人間のあり方について学習し、自分の教員に関する考え方を豊かにする。

授業の到達目標

■	認知的領域	教職に関する制度、服務規程、関係法規、教員の資質・力量などについて理解する。
■	情意的領域	教職への希望を実現するための様々な学習に意欲的に取り組む。
■	技能表現的領域	自己の理想の教師像を実現するための学習の方法を身につける。

授業計画(全体)

教員免許状取得のための教育課程についての学習、教職に就くために基盤となる教職の全体像や学習計画の立て方などについての学習、教職にかかる様々な制度などの関する学習、関係法規に関する学習、教員としての資質・力量などについて、それぞれの担当者が、教科書と配布資料(プリント)等で講義する。履修ガイダンスは第1回目の授業において行う。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 教員の身分と関係法規 [内容] 教員の身分の法的位置づけ [授業外学習]授業の復習	⑨	[テーマ] 教員の採用と研修 [内容]優れた人材確保と教員研修。 [授業外学習]授業の復習
②	[テーマ]学習指導要領と教員 [内容] 学習指導要領とその変遷。学習指導要領と法的拘束力。 [授業外学習]授業の復習	⑩	[テーマ] 教科指導と教員 [内容] 教科指導の意義、指導計画と学習指導案、教材研究と授業、教科指導の評価。 [授業外学習]授業の復習
③	[テーマ] 特別支援教育 [内容]特別支援教育のあり方。通常の学級における特別支援教育のあり方。 [授業外学習]授業の復習	⑪	[テーマ] 教科外指導と教員 [内容]教科外指導の特質、教科外指導の課題、これからの教科外指導。 [授業外学習]授業の復習
④	[テーマ] 教職と関係法規Ⅰ [内容]日本国憲法と教育基本法、学校教育法。 [授業外学習]授業の復習	⑫	[テーマ] 学級経営、校務分掌と教員 [内容] 望ましい学級経営、校務分掌のあり方と教員。 [授業外学習]授業の復習
⑤	[テーマ]教職と関係法規Ⅱ [内容] 学校教育法。 [授業外学習]授業の復習	⑬	[テーマ] 教員の服務規程Ⅰ [内容] 教員の服務規定について。 [授業外学習]授業の復習
⑥	[テーマ]教職と関係法規Ⅲ [内容] 学校教育法施行規則、学校保健安全法。 [授業外学習]授業の復習	⑭	[テーマ]教員の服務規程Ⅱ [内容] 教員の身分保障と分限・懲戒規定。 [授業外学習]授業の復習
⑦	[テーマ]これからの教員に求められる資質・能力 [内容]望ましい教師像を求めて、いつの時代にも求められる教師像と今後求められる教師像についての概説。 [授業外学習]授業の復習	⑮	[テーマ] 学校における防災教育 [内容] 防災教育のあり方について。 [授業外学習]授業の復習
⑧	[テーマ] 教員養成と教員免許制度 [内容]教員養成制度と教員免許法。本学における履修のあり方。 [授業外学習]授業の復習	⑯	[テーマ]筆記試験 [内容] [授業外学習]

成績評価方法(方針)

筆記試験の結果(100%)に授業態度を勘案して評価する。また、授業時数の2/3以上の出席を必要とする。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 \ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎		◎	95%
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度		○		5%
出席				欠格事項

履修上の注意(受講学生に望むこと)

教師を目指すものとして、常に課題意識を持ち、真摯に受講することを望む。

関連科目	他の教職関連科目		
教科書	「必携教職六法」(協同出版)	参考書	「学習指導要領」
連絡先	・大内研究室 A303 ・青沼研究室 A313 ・井上研究室		

授業科目名	道徳教育論 Theory of Moral Education （L）				担当教員	久能和夫
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義	関連資格	教員免許状（中保体・養護・特別支援・栄養）
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

小・中・高等学校の道徳教育を通じ，人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を培い，自立し，健全な自尊感情を持ち，主体的・自律的に生きる力を育成するために，道徳性を養う。

授業の一般目標

基本的な生活習慣，規範意識，人間関係を築く力，社会参画への意欲や態度，伝統や文化を尊重する態度などを育成するにはどう指導するかを理解する。

授業の到達目標

■	認知的領域	道徳教育に関する歴史的歩みについて学び，現在の学習指導要領について学ぶ。
■	情意的領域	「生きる力」「生命の尊重」について，どう意欲的に取り組むか理解する。
■	技能表現的領域	自己の理想の教師像を実現するための学習方法を身に付ける。

授業計画（全体）

授業は，基本的にはプリントを用意し，それを基に講義中心に行うが，多くの機会にレポートを提出，常に道徳教育についての課題意識を持つようにする。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 道徳教育とは何か [内容] 今，求められている規範意識について学び，規範の根拠としての人間尊重の精神について考える [授業外学習]慣習，法律，倫理と道徳の関係についての書籍を読む	⑨	[テーマ]道徳授業と評価 [内容]特別の教科　道徳科（学習指導要領）に示されている「評価」について考える [授業外学習]「特別の教科　道徳」（仮称）に関連する各種報道を調べる
②	[テーマ]戦後の教育改革と道徳教育 [内容]戦後の教育改革で，一番の課題は道徳教育であったことを学ぶ [授業外学習]道徳教育に関わる学習指導要領の変遷について調べる	⑩	[テーマ]道徳授業と体験学習 [内容]体験活動の教育的意義，「道徳の時間」と体験活動のかかわりについて考える [授業外学習]学習指導要領を読む
③	[テーマ] 学習指導要領と道徳的価値 [内容]教育基本法と道徳教育，学習指導要領と道徳的価値の関連について学ぶ [授業外学習]学習指導要領の内容項目について調べる	⑪	[テーマ]個性の尊重 [内容]「個性」に対する日本と欧米の違い（価値観の相違）を分析し，学校教育における「個性」の伸長について考える [授業外学習]学習指導要領における「個性」の取り上げ方の変遷を調べる
④	[テーマ] 道徳授業の現状とその改善方法 [内容]特別の教科「道徳科」をめぐる現状と課題，そして本質的問いとして「徳」は教えられるのかを考える [授業外学習]道徳の授業で大切にしなければならないことについて考える	⑫	[テーマ]道徳授業のアプローチ① [内容]道徳科における学習指導案の構成について理解する。授業の実際についての映像を観る。中学1年の教材を用いて，学習指導案を作成する [授業外学習]
⑤	[テーマ] 道徳教育と家庭・地域社会の協力 [内容] 家庭・地域社会における道徳教育の現状と課題を分析し，学校と家庭・地域社会の連携・協力につて考える [授業外学習]新聞の関連ニュースを読む	⑬	[テーマ]道徳授業のアプローチ② [内容]道徳科における学習指導案の構成について理解する。授業の実際についての映像を観る。中学2年の教材を用いて，学習指導案を作成する [授業外学習]学習指導案の作成
⑥	[テーマ] 道徳授業の充実と教師の生き方 [内容]「道徳教育における教師の役割」について述べている論文を読み，レポートを書く [授業外学習]「教師論」に関係する書籍を読む	⑭	[テーマ]道徳授業のアプローチ③ [内容]道徳科における学習指導案の構成について理解する。授業の実際についての映像を観る。中学3年の教材を用いて，学習指導案を作成する [授業外学習]学習指導案の作成
⑦	[テーマ] 学生の価値意識と「道徳教育の研究」 [内容]道徳性の発達（コールバーグ理論）と相対主義を踏まえ，若者と規範意識について考える [授業外学習]「道徳性の発達」に関する書籍を読む	⑮	[テーマ]国際化社会における愛国心教育と国旗・国歌 [内容]戦後日本の「愛国心」論の類型を知り，教育基本法・学習指導要領における「愛国心」教育の進め方について理解する [授業外学習]関連する書籍を読む
⑧	[テーマ] 高校における道徳教育の位置づけ [内容]学習指導要領において「道徳教育の全体計画」の作成が義務づけられた高等学校における「道徳教育」の進め方について考える [授業外学習]高等学校学習指導要領を読む	⑯	[テーマ]テスト [内容]道徳教育論を学習してのまとめを行う [授業外学習]

成績評価方法（方針）

筆記試験（レポートを含む）の結果に，受講態度（出席状況含む）等を加味して評価する。なお，欠席は原則として3分の1以上は評価対象外とする。出席及びレポートを中心に評価する。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎			80%
授業内レポート			◎	20%
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度		○		
出席		○		

履修上の注意（受講学生に望むこと）

講義を中心に進めるが，自分が学習した道徳教育を振り返りながら，教師を目指す者として，常に課題意識を持って学んで欲しい。

関連科目			
教科書	中学校学習指導要領解説「道徳編」。毎時，資料プリント配付	参考書	
連絡先	久能研究室 （A棟3F　307） 0224-55-1165(直通)		

授業科目名	生徒指導論A Theory of student guidance A(L.)				担当教員	志賀野 博／大内悦夫
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義	関連資格	教員免許状(小、中高保体、高福祉)
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

生徒指導は学習指導と並び重要な機能概念である。本授業は、生徒指導学をベースに、生徒指導並びに進路指導(含キャリア教育)について、体系的に講義を行う。また、文部科学省が行う全国の問題行動調査から学校現場における生徒指導上の現状と課題を把握し、適切な対応について説明する。さらに、文部科学省等の関係各省から発出された答申・通知・法令等についても理解を深め実践力・即戦力を目指した講義とする。

授業の一般目標

生徒指導の意義・原理・目的・内容・方法等や自らの生き方・在り方である進路指導の理論・内容・実践等を理解する。また、学校内外における生徒指導体制・教育相談・発達障害等を知る。加えて、学校現場における様々な生徒指導上の現状と課題を理解し、すべての児童生徒のそれぞれの人格のよりよい発達と学校生活が有意義で、興味深く、充実したものになる教育活動に繋げられるように考察する。

授業の到達目標

■	認知的領域	生徒指導と進路指導の意義や原理、目的、内容、方法、歴史、理論等について説明できるようにする。また、生徒指導上の現状と課題を把握し、より望ましい生徒指導のあり方を説明できるとともに指摘できる。
■	情意的領域	児童生徒のよりよい人格の発達や有意義で、興味深く、充実した学校生活が送れるような支援に寄与し、具体的な課題解決に向けて思考・判断し、他の教員と協働しながら生徒指導に参加する意志・意欲を持つことができる。
■	技能表現的領域	実際の教育活動や具体的な支援の仕方について学び、さらに様々な活動を通しながら教員としての生徒指導の活用力を身に付けることができるようにする。さらに、日頃から生徒指導上の諸問題について様々な情報網を駆使し、実践力を高めることができる。

授業計画(全体)

各授業のテーマに沿った講義が中心となる。より深い理解と実践力の向上に向け、授業外学習への自主的取組や教育ボランティア等を勧める。とりわけ教育臨床への参加は授業内容の実践的力量が高められるよい機会となるので積極的な参加が望まれる。さらに、様々なマスメディアを駆使し国や地方における生徒指導上の教育行政の動向や生徒指導に係る司法判断を把握することは、当事者意識を基盤とする思考・判断・態度とも繋がり、実践力の向上が望まれるよい起点となる。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 教員紹介、教員免許状における授業の位置づけ、授業の目標と進め方、シラバス・成績評価等について説明する [授業外学習]教科書で生徒指導の意義等について予習する	⑨	[テーマ]進路指導の歴史と理念及び基礎理論 [内容]進路指導のねらい(定義)と意義、歴史、基礎理論について概説し、生徒指導との関連について解説する [授業外学習]配付資料等に基づきながら復習する
②	[テーマ]生徒指導の意義と原理・方法(1) [内容]生徒指導の意義・目標・原理・方法・内容と生徒指導上の留意点等について、生徒指導提要及び学習指導要領に基づき解説する [授業外学習]教科書で意義・目標・自己指導能力等について復習・予習する	⑩	[テーマ]進路指導の実践的展開とキャリア教育 [内容]キャリア教育の意義と内容を解説し、具体的な進路指導(キャリア教育)の計画・展開、実践例を概説する [授業外学習]配付資料に基づき、進路指導とキャリア教育について復習する
③	[テーマ] 生徒指導の意義と原理・方法(2) [内容]生徒指導における自己指導能力、集団指導と個別指導及び課題解決的・予防的・開発的生徒指導等について概説する [授業外学習]教科書等をもとに復習する	⑪	[テーマ]個別の課題を抱える児童生徒への指導(1) [内容] 少年非行等・暴力行為の現状と課題並びに対応、非行少年の処遇について解説する [授業外学習]暴力行為の現状等についてWebを活用し文科省資料等に当たる
④	[テーマ] 児童生徒理解の意義と方法 [内容] 生徒指導と生徒理解の関係、児童生徒理解の方法・対象並びに技術の概要、また、教師の認知評定上の留意事項について解説する [授業外学習]教科書・配布学習プリントをもとに復習する	⑫	[テーマ]個別の課題を抱える児童生徒への指導(2) [内容]いじめの現状と課題並びに対応について、また、いじめに関する関係法令・各種通知等について解説する [授業外学習]いじめの現状等について、Webを活用し文科省資料等に当たる
⑤	[テーマ] 特別支援教育・教育相談と生徒指導との関係 [内容] 特別支援教育における発達障害の概要並びに教育相談の概要・方法・対象・形態・傾聴の技術について解説する [授業外学習]図書館を活用し、特別支援教育の理解をさらに深く理解する	⑬	[テーマ]個別の課題を抱える児童生徒への指導(3) [内容]不登校問題の歴史、及び昨今の不登校の現状と課題並びに対応について、また、各種通知等について解説する [授業外学習]不登校の現状等にについてWebを活用し文科省資料等に当たる
⑥	[テーマ] 学校における生徒指導体制のあり方 [内容] 学校における生徒指導体制(含、組織・生徒指導主事)の効果的なあり方について解説する [授業外学習]教科書をもとに生徒指導体制について復習する	⑭	[テーマ]個別の課題を抱える児童生徒への指導(4) [内容] その他の生徒指導上における課題(虐待・高校中途退学・自殺等)の現状と課題並びに対応と各種通知について解説する [授業外学習]その他の課題についても、Webで文科省資料等に当たる
⑦	[テーマ]学校における生徒指導と危機管理について [内容]学校における生徒指導と危機管理体制の基本的な考え方及びその対応、並びに出席停止について解説する [授業外学習]教科書をもとに危機管理について復習する	⑮	[テーマ]生徒指導に関する法制度等 [内容]懲戒と体罰等について、また、関連法令や各種通知等について解説する [授業外学習]懲戒・体罰・出席停止等もWebを活用し文科省資料等に当たる
⑧	[テーマ]生徒指導と教育課程 [内容]生徒指導と教育課程(教科・道徳教育等)との関連について解説する [授業外学習]教科書をもとに生徒指導と教育課程の関連について予習する	⑯	[テーマ]テスト [内容]授業の理解度、到達度を確かめるために期末テスト(筆答試験)を行う [授業外学習]

成績評価方法(方針)

定期の筆記試験の結果(70%)に、出席状況を含む受講態度や授業レポート(30%)を加味して評価する。なお、「理由の認められない欠席(自己に責めを帰す理由)」をそれぞれの担当教員の授業回数のうち規程回数以上の欠席者(担当:大内2回以上、担当:志賀野4回以上)は、定期試験の受験を認めない(定期試験の受験資格が無いものと取り扱う)。さらに、総欠席数が6回以上のものは評価対象外(放棄)の評定とする。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎		△	70%
授業内レポート	○	◎	○	授業態度に含む
授業外レポート				実施せず
演習・実技				評価対象外
授業態度	△	◎	△	減点(欠席)あり
出席		◎		30%欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

①教師になろうという強い意欲のある学生の受講が基本②私語、遅刻、飲食、睡眠、携帯操作等の行為は厳禁であり、授業態度の悪い者とし減点もしくは退出扱いとする。また20分以上の遅刻は欠席とする③資格関連実習や各種公認大会、慶弔等の理由による欠席届は配慮される場合がある。自己都合の欠席や資格関連を伴わない授業演習等は届出を提出しても欠席となる④授業は座席指定制とし、初回授業時決定するので必ず出席のこと。初回授業の無断欠席者それ以降の受講は認めないので欠席の場合は事前相談を必ず行う⑤授業は進み方で内容の前後や変更の可能性もあり得る

関連科目	教育心理、教育相談、その他教職関連科目等		
教科書	生徒指導提要(文部科学省 教育図書出版)	参考書	学習指導要領(含解説)・教育小六法
連絡先	志賀野研究室(A311)TEL 55-1290 大内研究室(A303)TEL 55-1327		

授業科目名	生徒指導論B Theory of student guidance B(L.)				担当教員	志賀野 博/江口千恵/久能和夫
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義	関連資格	教員免許状(養護教諭・栄養教諭)
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

生徒指導は学習指導と並び重要な機能概念である。本授業は生徒指導学を基本に養護教諭及び栄養教諭の専門性を生かしながら児童生徒とどのように関わるかを講義する。また、様々な生徒指導上の課題に対し、学校全体の組織運営上の協働的な養護教諭・栄養教諭の意味あるあり方、健康相談・食育等における実践的課題解決に向けた望ましい支援のあり方を体系的な講義とともにディスカッションを通しながら明らかにする。

授業の一般目標

生徒指導の意義・原理・目的・内容・方法等や学校における生徒指導体制、教育相談、健康相談、発達障害、食育、危機管理等を理解する。さらに、学校現場における様々な生徒指導上の現状と課題を理解し、養護教諭・栄養教諭の立場から、すべての児童生徒のそれぞれの人格のよりよい発達と学校生活が有意義で、興味深く、充実したものになる教育活動に繋げられるように考察する。

授業の到達目標

■	認知的領域	生徒指導の意義や目的・原理・内容・方法等について説明できる。また、養護教諭・栄養教諭として生徒指導上の現状と課題を把握し、より望ましい生徒指導のあり方を説明できるとともに指摘し、専門性を生かした児童生徒との関わり方について考察できる。
■	情意的領域	養護教諭・栄養教諭として児童生徒や集団にとって有意義で、興味深く、充実した学校生活が送れるような支援に寄与し、具体的な課題解決に向けて思考・判断し、他の教員と協働しながら生徒指導に参加する意志・意欲を持つことができる。
■	技能表現的領域	実際の教育活動や具体的な支援の仕方について学び、さらに様々な専門的な活動や情報を通しながら養護教諭・栄養教諭としての生徒指導の活用力を身に付けることができ、個の理解の上に立った専門場面における指導方法の違いを使い分けることができる。

授業計画(全体)

三人の教員がオムニバス形式で、各授業のテーマに沿った講義が中心となる。内容に応じて実践的課題解決力につながるようなアクティブラーニング的手法を取り入れた授業展開も行う。より深い理解と実践力の向上に向け、授業外学習への自主的な取組や教育ボランティア等の教育活動も勧める。とりわけ教育臨床への参加は授業内容の実践的力量が高められるよい機会となるので積極的な参加が望まれる。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション及び生徒指導の意義と原理・方法(1) [内容] 教員免許取得に係る本授業の位置づけ、授業目標と進め方、成績評価の説明をする。生徒指導の意義と原理・方法を解説する。 [授業外学習]教科書で生徒指導の意義と目的等について予習する。	⑨	[テーマ] 性に関する教育の指導方法と課題① [内容] 学校における性に関する教育の必要性を考えさせ、その方法と課題について理解させる。(性周期とホルモン・妊娠) [授業外学習] 各自指導案を作成させる
②	[テーマ]生徒指導の意義と原理・方法(2) [内容] 自己指導能力を育成する生徒指導の方法と三機能並びに生徒指導の形態(個別指導・集団指導)を解説する。 [授業外学習]既習事項について教科書をもとに復習する。	⑩	[テーマ] 性に関する教育の指導方法と課題② [内容] 学校における性に関する教育の必要性を考えさせ、その方法と課題について理解させる。(性感染症・避妊)講義6～10のまとめ。 [授業外学習] 各自指導案を作成させる
③	[テーマ] 生徒指導の意義と原理・方法(3) [内容] 生徒指導における児童生徒理解の意義・方法・技術等並びに教育相談の目的・基礎・内容・傾聴の技術等について解説する。 [授業外学習]教科書をもとに生徒理解・教育相談について復習する。	⑪	[テーマ] 食育とは何か [内容] 食育基本法や食育推進基本計画について概説し、食育の意義を説明し、理解させるとともに様々な課題への実践的な対応を説明する。 [授業外学習]資料をもとに食育に対する理解を深め、食育の定義をまとめる。
④	[テーマ] 当面する生徒指導上の諸問題Ⅰ [内容] いじめの定義、いじめの様相と構造、いじめの早期発見と対応、また、いじめの現状と課題及び対策について説明する。 [授業外学習]関連項目(問題行動調査)を図書館やWeb等で調べる。	⑫	[テーマ] 生活習慣病の予防について [内容] 低年齢化している生活習慣病の背景にある食生活について概説し、現状と課題をまとめるとともにその対応の在り方を話し合わせる。 [授業外学習]肥満の問題についての具体的対応を考察し、深める。
⑤	[テーマ] 当面する生徒指導上の諸問題Ⅱおよびまとめ [内容] 不登校の定義、様相と構造、また、不登校の現状と課題及び対策について説明する。また、講義1～5のまとめを行う。 [授業外学習]関連項目(問題行動調査)を図書館やWeb等で調べる。	⑬	[テーマ] 食物アレルギーについて [内容] 食物アレルギーの原因と症状を概説し、また、食物アレルギーの現状と課題をまとめ、学校現場における対応を実践的に説明する。 [授業外学習]食物アレルギーに関する教師への支援を具体的にまとめる。
⑥	[テーマ] 学童期の精神保健 [内容] 様々な精神発達理論を踏まえて、学童期の精神保健の特徴について学ばせ、その課題を考えさせる (授業外学習)既習の精神保健や教育心理などを復習しておく	⑭	[テーマ] 児童生徒の栄養教育について [内容] 三色食品群、6つの基礎食品の活用方法を理解させ、年齢別に理解できる教育内容について概説するとともに考察を深めさせる。 [授業外学習]上記内容を活かした栄養教育の方法についてまとめる。
⑦	[テーマ] 思春期の精神保健 [内容] 様々な精神発達理論を踏まえて、思春期の精神保健の特徴について学ばせ、その課題を考えさせる [授業外学習]精神医学との関連について、さらに学習内容深める。	⑮	[テーマ] 児童生徒の安全に関わる問題とまとめ [内容] 児童生徒をとりまく、危険と安全教育並びに危機管理と安全教育の進め方を概説する。また、講義11～15のまとめを行う。 [授業外学習]既習事項の復習から学習内容を深める。
⑧	[テーマ] 特別支援教育と発達障害 [内容] 発達障害について学ばせ、特別支援教育について説明する。 [授業外学習] 発達障害児童の支援について考えさせる	⑯	[テーマ] 試験 [内容] 養護教諭・栄養教諭としての児童生徒への生徒指導のあり方を試験を通してまとめる。 [授業外学習]これまでの学習内容を各自がまとめ、復習する。

成績評価方法(方針)

定期試験結果(70%)に、出席状況を含む受講態度や授業レポート(30%)を加味して評価する。なお、各オムニバス教員の授業を「理由の認められない欠席(自己に責めを帰す理由)」を2回以上の者は担当教員の試験の受験は認めず、かつ総授業回数のうち総欠席数が6回以上の者は評価対象外(放棄)とする。各オムニバス教員の成績を100点満点で採点し、各教員成績の合計を3で割り、四捨五入して評定する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎		△	70%
授業内レポート	○	◎	○	授業態度に含む
授業外レポート				
演習・実技				評価対象外
授業態度	△	◎	△	減点(欠席)あり
出席		◎		30%欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

①教師になろうという強い意欲のある学生の受講が基本②私語、遅刻、飲食、睡眠、携帯操作等の行為は厳禁であり、授業態度の悪い者とし減点もしくは退出扱いとする。また20分以上の遅刻は欠席とする③資格関連実習や各種公認大会、慶弔等の理由による欠席届は配慮される場合がある。自己都合の欠席や資格関連を伴わない授業演習等は届出を提出しても欠席となる④授業は座席指定制とし、初回授業時決定するので必ず出席のこと。初回授業の無断欠席者それ以降の受講は認めないので欠席する場合は事前相談を必ず行う⑤授業は進み方で内容の前後や変更の可能性もあり得る

関連科目	教育相談・教育心理等		
教科書	生徒指導提要(文部科学省)	参考書	小学校・中学校学習指導要領(文部科学省)
連絡先	志賀野研究室(A311)　江口研究室(F209)　久能研究室(A307)		

授業科目名	特別活動論 Theory of Extracurricular Activities (L.)				担当教員	金井・末永・針生
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義・演習	関連資格	教員免許状(全)
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

学校における特別活動の制度的枠組みとその内容を踏まえたうえで、実際に、学級活動をデザインし、実践する。

授業の一般目標

①特別活動の目標と内容について理解する。
②特別活動の指導計画を踏まえて、学級活動を計画する方法を身につける。
③学級活動を実践することにより、特別活動の目標と内容に対する理解を体験的に深めるとともに、学級活動において求められる指導力を知る。

授業の到達目標

■	認知的領域	特別活動の意義や原理、目的、内容、方法、歴史、理論等について理解できるようにする。
■	情意的領域	児童生徒のよりよい人格の発達や有意義で、興味深く、充実した学校生活がおくれるような支援について、具体的に考えられるようにする。
■	技能表現的領域	学級活動をデザインし、実施することにより、実際の教育活動や具体的な支援の仕方について学び、教師として活用できるようにする。

授業計画(全体)

特別活動の意義、原理、目的、内容、方法、歴史、理論等を最初の4コマで扱い、5コマ目以降は、グループワークによる学級活動のデザインと模擬授業を行う。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション、特別活動の内容と目標 [内容] 授業の目標と進め方、シラバスの内容、成績評価の方法を理解する。その後、特別活動の内容と目標を理解する。 [授業外学習] 『中学校学習指導要領解説 特別活動編』を読んでおく。	⑨	[テーマ] 学級活動の実践 進路指導編① [内容] 作成した学習指導案に基づき、学級活動を実施し、その内容を検討する。 [授業外学習]グループワークの進捗状況によって授業外での作業を行う。
②	[テーマ] 特別活動の史的変遷 [内容] 日本における特別活動がいかなる史的変遷のもとで展開し、成立してきたのかを理解する。 [授業外学習]日本史を復習する。	⑩	[テーマ] 学級活動の実践 進路指導編② [内容] 作成した学習指導案に基づき、学級活動を実施し、その内容を検討する。 [授業外学習]グループワークの進捗状況によって授業外での作業を行う。
③	[テーマ] 学級・ホームルーム活動 [内容] 学級・ホームルーム活動の内容と目標、その意義、そしてその指導計画の手順について理解する。 [授業外学習]学習指導要領解説の特別活動編を読む。	⑪	[テーマ] 学級活動の実践 運動会編① [内容] 作成した学習指導案に基づき、学級活動を実施し、その内容を検討する。 [授業外学習]グループワークの進捗状況によって授業外での作業を行う。
④	[テーマ] 学校行事 [内容] 学校行事の内容と目標、その指導計画の手順について理解する。 [授業外学習]学習指導要領解説の特別活動編を読む。	⑫	[テーマ] 学級活動の実践 運動会編② [内容] 作成した学習指導案に基づき、学級活動を実施し、その内容を検討する。 [授業外学習]グループワークの進捗状況によって授業外での作業を行う。
⑤	[テーマ] 学級活動の目標の理解と授業設計 [内容] グループごとに、与えられたテーマにおける学級活動の目標を理解し、それを達成するための授業をデザインする。 [授業外学習]グループワークの進捗状況によって授業外での作業を行う。	⑬	[テーマ] 学級活動の実践 修学旅行編① [内容] 作成した学習指導案に基づき、学級活動を実施し、その内容を検討する。 [授業外学習]グループワークの進捗状況によって授業外での作業を行う。
⑥	[テーマ] 学活の教材および学習指導案の作成 [内容] グループごとに、模擬授業において使用する教材および学習指導案を作成する。 [授業外学習]グループワークの進捗状況によって授業外での作業を行う。	⑭	[テーマ] 学級活動の実践 修学旅行編② [内容] 作成した学習指導案に基づき、学級活動を実施し、その内容を検討する。 [授業外学習]グループワークの進捗状況によって授業外での作業を行う。
⑦	[テーマ] 学級活動の実践 学校生活編① [内容] 作成した学習指導案に基づき、学校生活に関する学級活動を実施し、その内容を検討する。 [授業外学習]グループワークの進捗状況によって授業外での作業を行う。	⑮	[テーマ] まとめ [内容] 本授業の全体を振り返り、総括する。 [授業外学習] 本授業の全体を復習する。
⑧	[テーマ] 学級活動の実践 学校生活編② [内容] 作成した学習指導案に基づき、学校生活に関する学級活動を実施し、その内容を検討する。 [授業外学習]グループワークの進捗状況によって授業外での作業を行う。	⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]

成績評価方法(方針)

(1) 受講態度・グループワーク(40%)、(2) 授業内レポート・小テスト(40%)、(3) 模擬授業(20%)。
なお、受講態度が著しく不良である者、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。
私語、睡眠を含む不適切な受講態度は減点対象とし、場合によっては欠席扱いとする。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 \ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				
授業内レポート	◎	○	○	40%
授業外レポート				
演習・実技	◎	○	◎	20%
授業態度	○	◎	○	40%
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

○講義中の私語、携帯いじり、睡眠等、学習環境を損なう行為については厳格に対処する。
○欠席は最多4回までとし、5回以上の者は評価対象外とする。(欠格条件)
○実習、試合等の正当な理由に基づく欠席のみ、出席代替措置の課題を提出することで出席扱いが可能となる。

関連科目				
教科書	文部科学省『中学校学習指導要領解説 特別活動編』	参考書	授業中に適宜指示する。
連絡先	研究室 A棟3階 304		

授業科目名	教職総合演習 Seminar of Teaching Profession				担当教員	山谷・大内・渡邊・青沼・久能・志賀野・荒井・入澤・金井・井上・針生・郡山・菊地博・末永・江口
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	演習	関連資格	教員免許状(全免許)
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

本演習では、学校教師として身につけることが必要な学習指導と生徒指導(集団行動)に関する基本的知識と技能について実践的に養う。なお、後者においては、東日本大震災での教訓を踏まえ、児童生徒が身体の安全をおびやかされるような緊急事態に遭遇した場合でも安全に行動できるようにするために必要な指導のあり方も教授する。

授業の一般目標

学習指導に関しては、学校教師として授業を構想し、準備し実践するために必要な知識・技能を理解し、実践できる。生徒指導(集団行動)に関しては、児童生徒が集団としての行動を秩序正しく、かつ安全で能率的に行うことができるよう指導するために必要な知識・技能を理解し、かつ実践できる。

授業の到達目標

■	認知的領域	学習指導と生徒指導(集団行動)に関する基本的な知識について理解する。
■	情意的領域	内容を確実に理解するために授業に積極的に参加し、他の受講者と協力して学習を進めることができる。
■	技能表現的領域	学習指導と生徒指導(集団行動)に関する基本的な技能を身につけ、実践できる。

授業計画(全体)

(1)演習は20名程度の班ごとに実施する。(2)学習指導に関しては授業の構想(5回)と授業の実践(5回)に分け、授業の構想では教材研究、授業デザイン、学習指導案作成などの要点と技法を概説し、学習指導案を作成する。授業の実践では、作成した学習指導案にもとづき模擬授業を実施する。(3)生徒指導(集団行動)に関しては、集団行動の基本的な行動様式と指導上の留意点について概説し、学生が相互に指導を実践する。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 全体オリエンテーション [内容] 担当者の紹介、演習の内容・進め方、評価の方法、班編成 [授業外学習]シラバスを熟読しておくこと	⑨	[テーマ]授業の実践(3) [内容] 作成した学習指導案にもとづき、模擬授業を実施する。 [授業外学習]模擬授業につての振り返り
②	[テーマ]授業の構想(1)-授業構想のプロセス- [内容] 授業構想のプロセスと各段階での必要事項を理解する。 [授業外学習]授業の復習	⑩	[テーマ]授業の実践(4) [内容] 作成した学習指導案にもとづき、模擬授業を実施する。 [授業外学習]模擬授業につての振り返り
③	[テーマ]授業の構想(2)-教材研究- [内容] 教育内容と教材の違い、教材理解(解釈)と教材づくりについて理解する。 [授業外学習]授業の復習	⑪	[テーマ]授業の実践(5) [内容] 作成した学習指導案にもとづき、模擬授業を実施する。 [授業外学習]模擬授業につての振り返り
④	[テーマ]授業の構想(3)-授業のデザイン- [内容] 授業のデザインとは何か、授業のデザインの必要事項、手順などについて理解すする。 [授業外学習]授業の復習	⑫	[テーマ] 集団行動の指導(1)-集団行動の基本的な行動様式- [内容] 集団行動の基本的な行動様式について理解する。 [授業外学習]授業の復習
⑤	[テーマ]授業の構想(4)-学習指導案の作成- [内容] 学習指導案とは何か、学習指導案の構成要素、作成手順と留意点について理解する。 [授業外学習]授業の復習	⑬	[テーマ] 集団行動の指導(2)-基本的な行動様式の要領と指導上の留意点1- [内容] 基本的な行動様式(姿勢・方向転換・集合・整頓)の要領と指導上の留意点を実践的に理解する。 [授業外学習]授業の復習
⑥	[テーマ]授業の構想(5)-学習指導案の作成- [内容] 前回の授業を踏まえ、学習指導案を実際に作成する。 [授業外学習]学習指導案の完成	⑭	[テーマ] 集団行動の指導(3)-基本的な行動様式の要領と指導上の留意点2- [内容] 基本的な行動様式(列の作り方)の要領と指導上の留意点を実践的に理解する。 [授業外学習]授業の復習
⑦	[テーマ]授業の実践(1) [内容] 作成した学習指導案にもとづき、模擬授業を実施する。 [授業外学習]模擬授業につての振り返り	⑮	[テーマ] 集団行動の指導(4)-基本的な行動様式の要領と指導上の留意点3- [内容] 基本的な行動様式(開列、行進、足踏み、礼)の要領と指導上の留意点を実践的に理解する。 [授業外学習]授業の復習
⑧	[テーマ]授業の実践(2) [内容] 作成した学習指導案にもとづき、模擬授業を実施する。 [授業外学習]模擬授業につての振り返り	⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]

成績評価方法(方針)

学習指導および生徒指導(集団行動)の担当者が、受講者の課題への取り組み状況、積極性、課題の達成度について協議し、総合的に成績を評価する。欠席に関してはやむを得ない理由がある場合を除き、原則として認めない。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 \ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				実施しない
授業内レポート				実施しない
授業外レポート				実施しない
演習・実技	◎	◎	◎	80%
授業態度	○	○	○	20%
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

本演習で取り上げる内容は、学校教師として必ず身につけておかなければならいものであるので、各時間ともに真剣に受講して欲しい。また、受講者の主体的な授業参加が演習の充実度を左右するので、一人ひとりが演習を運営するという自覚をもって望んでもらいたい。

関連科目	既習の教職関連科目		
教科書	学習指導要領、同解説(保健体育)、中高保健体育教科書	参考書	授業時に紹介する
連絡先	代表担当者 山谷(研究室A308)		

授業科目名	教職総合実技 Exercise of teaching profession(P.A.)				担当教員	入澤裕樹　他
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	実技	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

本授業は，将来教職に就くことを強く希望している学生を対象とし，学校体育の現場における体育授業に関わる基本的な技術・技能の習得を目指すものである．開講されている12の実技種目【体操（含体つくり運動）、陸上、器械運動、水泳、バレーボール、バスケットボール、ハンドボール、サッカー、ラグビー、柔道、剣道、ダンス】の中から，学生自身に各授業回に受講する種目を選択させ授業を展開していく．

授業の一般目標

保健体育の教員として，授業に関わる各実技種目の基本的な技術・技能を修得する．また，各実技種目において，履修計画の中で選択的に不得手なものを受講していき，その克服していく過程において，運動が苦手な生徒に対する実技指導に必要な要点を学習する．

授業の到達目標

■	認知的領域	各実技種目の要点を理解する．
■	情意的領域	「できる」喜びを身を以て知る．
■	技能表現的領域	体育授業に関わる基本的な技術・技能を身につける．

授業計画（全体）

種目は，体操（含体つくり運動）、陸上，器械運動，水泳（以上A群），バレーボール，バスケットボール，サッカー，ハンドボール，ラグビー（以上B群）柔道，剣道，ダンス（以上C群）とし，A，B群からは2つC群からはそれぞれ1つずつ選択する．その際，選択できる種目は1・2年次の実技種目の単位を修得した種目に限定される．5つの種目をそれぞれ3回ずつ受講し，それぞれの担当教員の受講認定印を所定の出席票に記録していく形で進める．

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員等の紹介．履修計画の作成． ＊3年前期までの成績表を必ず持参すること．	⑨	[テーマ] 基本的技術・技能の習得 [内容] 12の実技種目【体操（含体つくり運動）、陸上、器械運動、水泳、バレーボール、バスケットボール、ハンドボール、サッカー、ラグビー、柔道、剣道、ダンス】から選択した種目の基礎的技術・技能を学ぶ
②	[テーマ] 基本的技術・技能の習得 [内容] 12の実技種目【体操（含体つくり運動）、陸上、器械運動、水泳、バレーボール、バスケットボール、ハンドボール、サッカー、ラグビー、柔道、剣道、ダンス】から選択した種目の基礎的技術・技能を学ぶ	⑩	[テーマ] 基本的技術・技能の習得 [内容] 12の実技種目【体操（含体つくり運動）、陸上、器械運動、水泳、バレーボール、バスケットボール、ハンドボール、サッカー、ラグビー、柔道、剣道、ダンス】から選択した種目の基礎的技術・技能を学ぶ
③	[テーマ] 基本的技術・技能の習得 [内容] 12の実技種目【体操（含体つくり運動）、陸上、器械運動、水泳、バレーボール、バスケットボール、ハンドボール、サッカー、ラグビー、柔道、剣道、ダンス】から選択した種目の基礎的技術・技能を学ぶ	⑪	[テーマ] 基本的技術・技能の習得 [内容] 12の実技種目【体操（含体つくり運動）、陸上、器械運動、水泳、バレーボール、バスケットボール、ハンドボール、サッカー、ラグビー、柔道、剣道、ダンス】から選択した種目の基礎的技術・技能を学ぶ
④	[テーマ] 基本的技術・技能の習得 [内容] 12の実技種目【体操（含体つくり運動）、陸上、器械運動、水泳、バレーボール、バスケットボール、ハンドボール、サッカー、ラグビー、柔道、剣道、ダンス】から選択した種目の基礎的技術・技能を学ぶ	⑫	[テーマ] 基本的技術・技能の習得 [内容] 12の実技種目【体操（含体つくり運動）、陸上、器械運動、水泳、バレーボール、バスケットボール、ハンドボール、サッカー、ラグビー、柔道、剣道、ダンス】から選択した種目の基礎的技術・技能を学ぶ
⑤	[テーマ] 基本的技術・技能の習得 [内容] 12の実技種目【体操（含体つくり運動）、陸上、器械運動、水泳、バレーボール、バスケットボール、ハンドボール、サッカー、ラグビー、柔道、剣道、ダンス】から選択した種目の基礎的技術・技能を学ぶ	⑬	[テーマ] 基本的技術・技能の習得 [内容] 12の実技種目【体操（含体つくり運動）、陸上、器械運動、水泳、バレーボール、バスケットボール、ハンドボール、サッカー、ラグビー、柔道、剣道、ダンス】から選択した種目の基礎的技術・技能を学ぶ
⑥	[テーマ] 基本的技術・技能の習得 [内容] 12の実技種目【体操（含体つくり運動）、陸上、器械運動、水泳、バレーボール、バスケットボール、ハンドボール、サッカー、ラグビー、柔道、剣道、ダンス】から選択した種目の基礎的技術・技能を学ぶ	⑭	[テーマ] 基本的技術・技能の習得 [内容] 12の実技種目【体操（含体つくり運動）、陸上、器械運動、水泳、バレーボール、バスケットボール、ハンドボール、サッカー、ラグビー、柔道、剣道、ダンス】から選択した種目の基礎的技術・技能を学ぶ
⑦	[テーマ] 基本的技術・技能の習得 [内容] 12の実技種目【体操（含体つくり運動）、陸上、器械運動、水泳、バレーボール、バスケットボール、ハンドボール、サッカー、ラグビー、柔道、剣道、ダンス】から選択した種目の基礎的技術・技能を学ぶ	⑮	[テーマ] 基本的技術・技能の習得 [内容] 12の実技種目【体操（含体つくり運動）、陸上、器械運動、水泳、バレーボール、バスケットボール、ハンドボール、サッカー、ラグビー、柔道、剣道、ダンス】から選択した種目の基礎的技術・技能を学ぶ
⑧	[テーマ] 基本的技術・技能の習得 [内容] 12の実技種目【体操（含体つくり運動）、陸上、器械運動、水泳、バレーボール、バスケットボール、ハンドボール、サッカー、ラグビー、柔道、剣道、ダンス】から選択した種目の基礎的技術・技能を学ぶ	⑯	[テーマ] まとめ [内容] 授業全体を通じた実技の要点を整理する．

成績評価方法（方針）

成績評価は，履修した各実技種目における到達レベルを総合的に判断する（評価割合80％）と共に，各種目の要点を整理したレポートを提出する（評価割合20％）．授業中における態度は成績評価の減点対象となる．出席は欠格条件とする．

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎			20%
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技	○	◎	◎	80%
授業態度		◎		減点あり
出席				欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

本授業の対象者は，4年次に教員採用試験を必ず受験する強い意志を持っている者で，通常1年次あるいは2年次に開講されている各実技種目の単位を，少なくともA,B群からは2つ以上，C群からはそれぞれ1つ以上は修得しており，且つ，3年次開講の教職キャリア演習を履修している者に限る．
保健体育教員の候補者として優れた人材の育成をねらいとしているので，目標が不明確のままでの受講は，他の学生の迷惑となるので厳に慎むこと．
最初のオリエンテーションに欠席した場合、履修できない場合がある．
なお，各種目において受講生の数が著しく偏るようであれば人数調整を行う場合がある．

関連科目	体操（含体つくり運動），陸上，器械運動，水泳，バレーボール，バスケットボール，ハンドボール，サッカー，ラグビー，柔道，剣道，ダンスⅠ，教職キャリア演習Ⅰ，教職キャリア演習Ⅱ			
教科書		参考書		
連絡先	入澤裕樹:A棟302　オフィスアワー　木曜日12:40～14:10			

授業科目名	教職実践演習(教諭) Seminar for Teaching Profession				担当教員	大内・井上・山谷・針生・郡山・渡邉・青沼・志賀野・入澤・荒井・金井・菊地・末永
開講内容	学年・学期	4・半期	授業方法	演習	関連資格	教員免許状
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

次の4テーマについて演習を行う。①教師としての使命感、責任感、教育的愛情②社会性、対人関係能力③生徒理解、学級経営④教科の指導力。授業は、各テーマに関する簡単な講義ののち、教育実践自己評価シート作成および教育実習の振り返りを行う。その後、高等学校2校を訪問し実際の学校現場の実践を観察する。この参観を元に、自分の教育実習との比較、各学校の対応等を発表する。

授業の一般目標

教職課程の履修を通じてこれまでに学んだ知識技能と教育実習、また、学校現場の実践の観察から得られた教科指導、生徒指導に関する知見を有機的に統合することによって、使命感や教育的愛情に裏打ちされた実践的指導力を有する教員としての資質能力の最終的な形成を図ると共に、あわせてその確認を行う。

授業の到達目標

■	認知的領域	教職の実践的指導力について理解する。
■	情意的領域	教職に実践的指導力についての理解と指導力形成に向けて、各学校の実践を意欲的に観察する。
■	技能表現的領域	教職の実践的指導力について基礎的・基本的技能を習得する。

授業計画(全体)

(1)演習は20名程度の班毎に実施する。(2)教育実習のレポート作成、その発表を行う。(3)各学校に訪問する場合の観察観点や留意事項を作成する。(4)各学校を訪問し、その実践を観察する。(5)(3)で作成した目標と(4)の観察等を比較し、また、自分の教育実習での経験を踏まえ、レポートの作成、その発表を行う。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] ガイダンス [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバスの説明、成績評価の説明 [授業外学習]シラバスを熟読する。	⑨	[テーマ] 各学校での実践を観察する。 [内容] 各学校の実践を観察し、その内容をまとめる。 [授業外学習]各学校の概要の調査、観察後のまとめの作成。
②	[テーマ]本演習の取り組み [内容] 本演習に対する基本的な取り組みの意識について説明する。訪問校の調査をする。 [授業外学習]自身の教育実習の内容をまとめる。	⑩	[テーマ] 各学校での実践を観察する。 [内容] 各学校の実践を観察し、その内容をまとめる。 [授業外学習]各学校の概要の調査、観察後のまとめの作成。
③	[テーマ] 教育実践自己評価シートの作成 [内容] 教育実習の振り返り。教育実践自己評価シートを作成し、訪問校における観察の観点や留意事項を作成する。 [授業外学習]自分、班員の教育実習で気づいたことをまとめておく。	⑪	[テーマ] 学校参観の振り返り。 [内容] 学校参観の振り返りをし、レポートを作成する。 [授業外学習]各学校での観察をまとめる。
④	[テーマ] 訪問校の概要と留意点の説明。 [内容] 訪問校の概要の説明並びに各校毎の留意事項の確認をする。 [授業外学習]訪問する学校の概要を事前に調査しておく。	⑫	[テーマ] グループ討議 [内容] 各個人毎に作成したレポートを基にした発表およびグループ討議。 [授業外学習]発表レポートの作成。
⑤	[テーマ] 各学校での実践を観察する。 [内容] 各学校の実践を観察し、その内容をまとめる。 [授業外学習]各学校の概要の調査、観察後のまとめの作成。	⑬	[テーマ] グループ討議 [内容] 各個人毎に作成したレポートを基にした発表およびグループ討議。 [授業外学習]発表レポートの作成。
⑥	[テーマ] 各学校での実践を観察する。 [内容] 各学校の実践を観察し、その内容をまとめる。 [授業外学習]各学校の概要の調査、観察後のまとめの作成。	⑭	[テーマ] グループ討議 [内容] 各個人毎に作成したレポートを基にした発表およびグループ討議。 [授業外学習]発表レポートの作成。
⑦	[テーマ] 各学校での実践を観察する。 [内容] 各学校の実践を観察し、その内容をまとめる。 [授業外学習]各学校の概要の調査、観察後のまとめの作成。	⑮	[テーマ] 良き教師になるための課題の再確認 [内容] 本授業の目標をテーマにしたグループ討議。良い教師になるための今後の課題等を再確認する。 [授業外学習]発表レポートをまとめる。
⑧	[テーマ] 各学校での実践を観察する。 [内容] 各学校の実践を観察し、その内容をまとめる。 [授業外学習]各学校の概要の調査、観察後のまとめの作成。	⑯	[テーマ] まとめ [内容] [授業外学習]

成績評価方法(方針)

課題への取り組み状況、各学校の実践を観察する姿勢など、総合的に評価する。欠席は原則として認めない。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				実施しない
授業内レポート	◎		◎	30%
授業外レポート		○		10%
演習・実技	◎	◎	◎	30%
授業態度	○	◎	○	30%
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

本演習は、教員を目指す学生が中心となるはずなので、各講義とも真剣に受講すること。特に各高等学校での公開授業の参観をするので、「教師になる」という高い意識を持ち行動すること。

関連科目			
教科書	使用しない	参考書	授業時に紹介する
連絡先	大内研究室 A303		

授業科目名	教職実践演習(栄養教諭) Seminar for Teaching Profession (P.A)				担当教員	久能
開講内容	学年・学期	4・半期	授業方法	講義(L)	関連資格	教員免許状(栄養教諭)
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

次のテーマについて演習を行う。①教師としての使命感、責任感、教育的愛情、②社会性、対人関係能力、③児童生徒理解、④学校給食管理、⑤食に関する指導力。授業は、各テーマに関する簡単な講義ののち、テーマにそくして指導案の作成、模擬授業(場面指導)、グループ討議、事例検討等を適切に組み合わせ、教員の指導のもと、学生が主体となって進める。

授業の一般目標

教職課程の履修を通じてこれまで学んだ知識技能と栄養教育実習等から得られた食に関する指導、学校給食に関する知見を有機的に統合することによって、使命感や教育的愛情に裏打ちされた実践的指導力を有する教員としての資質能力の最終的な形成をはかるとともに、あわせてその確認を行う。

授業の到達目標

■	認知的領域	教職の実践的指導力について理解する。
■	情意的領域	教職の実践的指導力についての理解と指導力形成に向けての各研修会等へ参加する意欲をもつ。
■	技能表現的領域	教職の実践的指導についての基礎的・基本的技能を習得する。

授業計画(全体)

(1)各授業テーマと内容にそくして演習を実施する。(2)授業テーマによって、現場教員による教育研究会や教育委員会が主催する講習会や各学校主催の公開研究会等への参加と課題レポートを実施する。(3)教育実習の報告レポートを発表や振り返りを行う。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] ガイダンス [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法 [授業外学習]シラバスを熟読すること	⑨	[テーマ] 食の指導力向上(1) グループワーク [内容] 栄養教育実習の実施内容や体験から得られた成果をもとに、グループワークによる指導案の検討を行う。 [授業外学習]自身の栄養教育実習の内容をまとめておくこと。
②	[テーマ] 教師としての使命感、責任感、教育的愛情(1) [内容]テーマに関する講義を中心に、教師の求められる資質について確認する。 [授業外学習]自身の栄養教育実習の内容をまとめておくこと。	⑩	[テーマ] 食の指導力向上(2) グループワーク [内容] 栄養教育実習の実施内容や体験から得られた成果をもとに、グループワークによる指導案の検討を行う。 [授業外学習]自身の栄養教育実習の内容をまとめておくこと。
③	[テーマ] 教師としての使命感、責任感、教育的愛情(2) [内容] 教育実習を振り返りながら、テーマに関する内容をグループごとに討議する。 [授業外学習]クラスメートの栄養教育実習から気づいた点をまとめておくこと。	⑪	[テーマ] 食の指導力向上(3) 模擬授業・個別指導のロールプレイング [内容] 栄養教育実習での指導の成果をもとに、個別指導のロールプレイングを行う。 [授業外学習]クラスメートの栄養教育実習から学んだことをまとめておくこと。
④	[テーマ] 教職員、保護者や地域の方々との人間関係の構築(1) [内容] テーマに関する講義を中心に、教育経営における人間関係の在り方について確認する。 [授業外学習]自身の教育実習の内容をまとめておくこと。	⑫	[テーマ] 食の指導力向上(4) 学校現場の見学・調査 [内容] 学校現場(共同調理場を含む)の見学・調査を行う。 [授業外学習]見学・調査内容をまとめておくこと。
⑤	[テーマ] 教職員、保護者や地域の方々との人間関係の構築(2) [内容] 教育実習を振り返りながら、テーマに関する内容をグループごとに討議する。 [授業外学習]クラスメートの栄養教育実習から気づいた点をまとめておくこと。	⑬	[テーマ] 食の指導力向上(5) グループ討議 [内容] 学校給食管理(調理・栄養士の職務を含む)についての講義・グループ討議を行う。 [授業外学習]講義・グループ討議の内容をまとめておくこと。
⑥	[テーマ] 食に関して問題を抱える生徒の理解と教師の対応①(事例研究) [内容] 実際の課題事例を中心に、グループごとに討議し、発表する。 [授業外学習]自身の栄養教育実習の事例をまとめておくこと。	⑭	[テーマ] 食の指導力向上(6) [内容] 次年度栄養教育実習を予定している3年生に対して、これまでの学びで得られた内容をまとめて「指導力とは何か」を伝える。 [授業外学習]栄養教諭としての指導力についてまとめておくこと。
⑦	[テーマ] 食に関して問題を抱える生徒の理解と教師の対応②(事例研究) [内容] 実際の課題事例を中心に、グループごとに討議し、発表する。 [授業外学習]自身の栄養教育実習の事例をまとめておくこと。	⑮	[テーマ] 良き教師になるための課題の再確認 [内容] 本授業を通してテーマに関する内容をグループ討議し、今後に向けての課題を再確認する。 [授業外学習]本授業のまとめをしておくこと。
⑧	[テーマ] 特別活動・課外活動の指導 [内容] 各自、栄養教育実習の実施内容や体験から得られた成果について発表する。 [授業外学習]自身の栄養教育実習の内容をまとめておくこと。	⑯	[テーマ] まとめ [内容] [授業外学習]

成績評価方法(方針)

受講者の課題への取り組み状況、積極性、課題の達成度について協議し、総合的に成績を評価する。欠席に関してはやむを得ない理由がある場合を除き、原則として認めない。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				実施しない
授業内レポート		○		10%
授業外レポート	◎	◎		10%
演習・実技	◎	○	◎	80%
授業態度	○	◎	○	減点アリ
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

本演習で取り上げる内容は、学校教師として必ず身に付けておかなければならないものであるので、各時間ともに真剣に受講すること。栄養教諭になることを希望する学生が中心に受講することになるので、各テーマにおける演習では自らが積極的に運営する気持ちで取り組んで欲しい。また、教育研修センターや学校における公開研究会等への参加の際には自らの課題をしっかり持ち、大学最終学年として恥じない行動で臨むこと。

関連科目	既習の教職関連科目		
教科書	使用しない	参考書	授業時に紹介する
連絡先			

授業科目名	教職キャリア演習 Ⅰ Special Seminar for Teacher Ⅰ				担当教員	山谷幸司、荒井龍弥、金井里弥、菊地博、末永精悦
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	演習	関連資格	教員免許状(中高／保健体育)
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

授業を実践するために必要な力とは何か。本演習では、授業について多角的に考えることができる力と基礎的な授業実践力を養うことをねらいとして、本学と連携関係のある学校を訪問し、先生方の授業実践を参観するとともに、学生自身が授業実践を体験する。この体験をとおして授業、あるいは学校や教師の仕事についての理解の深化を図ってほしい。中高保健体育免許希望者限定。

授業の一般目標

学校教師の職務や授業実践に必要な力とは何かを、上記の体験を通じて理解する。また、授業実践に必要となる基礎的な知識・技能を身につける。

授業の到達目標

■	認知的領域	学校教師の食目や授業実践に必要な力について理解する。また、授業実践に必要な基礎的な知識を理解する。
■	情意的領域	学校教師としてのものの見方、考え方に関心をもつとともに、学校教師になるための各自の課題を主体的に考えることができる。
■	技能表現的領域	授業実践に必要な技能の基礎を身につけ、実践できる。

授業計画(全体)

学校での2回の体験活動を中心に、そのための事前準備、事後のふりかえり等により授業を構成する。とくに第二回目以降の学校訪問時に体験する「生徒への指導実践」の準備については、学生自身が主体的かつクリエイティブに取り組むことになる。なお、演習での様々な活動はグループ単位で行う場合が多いので、相互に協力する姿勢が強く求められる。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業担当者の紹介、演習の内容・スケジュールを理解する。 [授業外学習]シラバスを熟読しておくこと。	⑨	[テーマ] 第一回学校訪問(2時間扱いの2時間目) [内容] 学校を訪問し、授業を参観するとともに、中学校の現状や課題を理解する。 [授業外学習]体験のふりかえり
②	[テーマ]超えなければならない「壁」を知ろう① [内容] 学校教員になるなめに克服しなければならない各自の課題を確認する。 [授業外学習]学習]時間内に完了しなかったデータ整理	⑩	[テーマ] 学校訪問オリエンテーション② [内容] 第二回学校におけるスケジュール、留意事項等を理解する。 [授業外学習]
③	[テーマ]超えなければならない「壁」を知ろう② [内容] 学校教員になるなめに克服しなければならない各自の課題を確認する。 [授業外学習]学習]時間内に完了しなかったデータ整理	⑪	[テーマ] 第二回学校訪問(4時間扱いの1時間目) [内容] 連携先の中学校における指導実践① [授業外学習]体験のふりかえり
④	[テーマ] 学習指導要領・指導法の理解① [内容] 学習指導要領における連携授業単元の規定内容を理解する。 [授業外学習]学習指導要領の該当部分を熟読する。	⑫	[テーマ] 第二回学校訪問(4時間扱いの2時間目) [内容] 連携先の中学校における指導実践② [授業外学習]体験のふりかえり
⑤	[テーマ] 学習指導要領・指導法の理解② [内容] 参考資料にもとづき連携授業単元の指導内容や指導方法を調べる。 [授業外学習]学習内容のふりかえり	⑬	[テーマ] 第二回学校訪問(4時間扱いの3時間目) [内容] 連携先の中学校における指導実践③ [授業外学習]体験のふりかえり
⑥	[テーマ] 学校訪問オリエンテーション① [内容] 連携プログラムの内容・スケジュールを理解する。授業担当チームを作る。 [授業外学習]	⑭	[テーマ] 第二回学校訪問(4時間扱いの4時間目) [内容] 連携先の中学校における指導実践④ [授業外学習]体験のふりかえり
⑦	[テーマ] 授業の見方 [内容] 授業の見方、指導の仕方、授業記録の意義、記録作成の方法を理解する。 [授業外学習]学習内容のふりかえり	⑮	[テーマ] 学校訪問体験のふりかえり [内容] 受講者各自の活動体験をふりかえり、学んだことがらを共有する。 [授業外学習]体験レポートの作成
⑧	[テーマ] 第一回学校訪問(2時間扱いの1時間目) [内容] 連携先の中学校を訪問し、授業を参観するとともに、中学校の現状や課題を理解する。 [授業外学習]体験のふりかえり	⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]

成績評価方法(方針)

演習における諸課題に対する日常的な取り組み方を重視し、それに最終レポートの内容を加味する。欠席に関しては、やむを得ない場合を除き、原則みとめない。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				実施せず
授業内レポート				実施せず
授業外レポート	○			25%
演習・実技	◎	◎	◎	50%
授業態度		○		25%
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

真に教職に就くことを希望する学生のみに受講してほしい。

関連科目	教職論A・B、教育の基礎理論、教育の心理、教育の制度		
教科書	小学校・中学校学習指導要領	参考書	中学校体育実技(学研)
連絡先	山谷(A棟308)、荒井(A棟309)、金井(A棟304)、菊地(A棟515)、末永(A棟310)		

授業科目名	教職キャリア演習Ⅱ Special Seminar for Teacher Ⅱ				担当教員	渡邊康男・江口千恵
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	演習	関連資格	教員免許状(養護教諭、栄養教諭)
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

養護教諭・栄養教諭になるために必要な力とは何か。本演習では、養護教諭・栄養教諭の職務について多角的に考えることができる力とその基礎的な実践力を養うことをねらいとして、本学と連携関係のある小学校を訪問し、先生方の実践を参観するとともに、学生自身が実践を体験する。この体験をとおして教師の仕事についての理解の深化を図ってほしい。養護教諭・栄養教諭免許希望者限定。

授業の一般目標

養護教諭・栄養教諭になるために必要な力とは何かを、上記の体験を通じて理解する。また、養護教諭・栄養教諭として必要となる基礎的な知識・技能を身につける。

授業の到達目標

■	認知的領域	養護教諭・栄養教諭に必要な力について理解する。また、養護教諭・栄養教諭の職務実践に必要な基礎的な知識を理解する。
■	情意的領域	養護教諭・栄養教諭としてのものの見方、考え方に関心をもつとともに、養護教諭・栄養教諭になるための各自の課題を主体的に考えることができる。
■	技能表現的領域	養護教諭・栄養教諭の職務実践に必要な技能の基礎を身につけ、実践できる。

授業計画(全体)

小学校での2回の体験活動を中心に、そのための事前準備、事後のふりかえり等により授業を構成する。とくに第二回目以降の学校訪問時に体験する「職務実践」の準備については、学生自身が主体的かつクリエイティブに取り組むことになる。なお、演習での様々な活動はグループ単位で行う場合が多いので、相互に協力する姿勢が強く求められる。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業担当者の紹介、演習の内容・スケジュールを理解する。 [授業外学習]シラバスを熟読しておくこと。	⑨	[テーマ] 第一回学校訪問(2時間扱いの2時間目) [内容] 連携先の小学校を訪問し、先生方へのインタビュー等を通じて、養護教諭・栄養教諭の職務の現状や課題を理解する。 [授業外学習]体験のふりかえり
②	[テーマ]超えなければならない「壁」を知ろう① [内容] 学校教員になるなめに克服しなければならない各自の課題を確認する。 [授業外学習]学習]時間内に完了しなかったデータ整理	⑩	[テーマ] 年間保健室経営計画・年間給食指導計画等の理解 [内容] 保健室経営計画、給食指導計画等を通して、連携先の小学校における養護教諭・栄養教諭の職務に係わる学校経営計画を理解する。 [授業外学習]学習内容のふりかえり
③	[テーマ]超えなければならない「壁」を知ろう② [内容] 学校教員になるなめに克服しなければならない各自の課題を確認する。 [授業外学習]学習]時間内に完了しなかったデータ整理	⑪	[テーマ] 学校訪問オリエンテーション② [内容] 第二回学校訪問のスケジュール、留意事項等を理解する。 [授業外学習]
④	[テーマ] 養護教諭・栄養教養の職務の理解① [内容] 養護教諭・栄養教諭の職務を、学校現場での実際にそくして理解する。 [授業外学習]学習内容のふりかえり	⑫	[テーマ] 第二回学校訪問(3時間扱いの1時間目) [内容] 連携先の小学校における指導実践① [授業外学習]体験のふりかえり
⑤	[テーマ] 養護教諭・栄養教養の職務の理解② [内容] 養護教諭・栄養教諭の職務を、学校現場での実際にそくして理解する。 [授業外学習]学習内容のふりかえり	⑬	[テーマ] 第二回学校訪問(3時間扱いの2時間目) [内容] 連携先の小学校における指導実践② [授業外学習]体験のふりかえり
⑥	[テーマ] 学校訪問オリエンテーション① [内容] 連携プログラムの内容・スケジュールを理解する。授業担当チームを作る。 [授業外学習]	⑭	[テーマ] 第二回学校訪問(3時間扱いの3時間目) [内容] 連携先の小学校における指導実践③ [授業外学習]体験のふりかえり
⑦	[テーマ] 授業の見方 [内容] 授業の見方、指導の仕方、授業記録の意義、記録作成の方法を理解する(担当:学外講師)。 [授業外学習]学習内容のふりかえり	⑮	[テーマ] 学校訪問体験のふりかえり [内容] 受講者各自の活動体験をふりかえり、学んだことがらを共有する。 [授業外学習]体験レポートの作成
⑧	[テーマ] 第一回学校訪問(2時間扱いの1時間目) [内容] 連携先の小学校を訪問し、先生方へのインタビュー等を通じて、養護教諭・栄養教諭の職務の現状や課題を理解する。 [授業外学習]体験のふりかえり	⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]

成績評価方法(方針)

演習における諸課題に対する日常的な取り組み方を重視し、それに最終レポートの内容を加味する。欠席に関しては、やむを得ない場合を除き、原則みとめない。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 \ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				実施せず
授業内レポート				実施せず
授業外レポート	○			25%
演習・実技	◎	◎	◎	50%
授業態度		○		25%
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

真に教職に就くことを希望する学生のみに受講してほしい。

関連科目	教職論A・B、教育の基礎理論、教育の心理、教育の制度		
教科書	使用しない	参考書	授業時に紹介する
連絡先	渡邊康男(A棟3階)		

授業科目名	保健体育科授業研究Ⅰ Physical Education Ⅰ				担当教員	入澤裕樹・小浜 明
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	演習	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

保健・体育の学習指導をみる、考える、実際に行ってみる

授業の一般目標

保健・体育の学習指導をみる、考える、実際に行ってみる、といった体験を通して実践的指導力を養う

授業の到達目標

■	認知的領域	保健・体育の学習指導についての基本的な考え方と具体的な進め方を理解することができる
□	情意的領域	
■	技能表現的領域	保健・体育の学習指導についての具体的な進め方を実践することができる

授業計画(全体)

保健・体育の授業を実際に見学したり、ビデオを視聴して、授業分析を行う。この分析をベースとして、保健体育の学習指導のポイント、課題等を取り上げ、議論をおこなったり、実際に授業(模擬授業)をおこなう

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、講義のねらいと進め方、成績評価の方法と諸注意 [授業外学習]	⑨	[テーマ] 球技の授業をおこなう(模擬授業) [内容]球技領域の模擬授業をおこない、授業を評価する [授業外学習]前回までの演習内容を整理しておく
②	[テーマ] 体育授業を分析する－球技 [内容] 球技領域の授業を分析する [授業外学習]	⑩	[テーマ] 器械運動の授業をおこなう(模擬授業) [内容]器械運動領域の模擬授業をおこない、授業を評価する [授業外学習]前回までの演習内容を整理しておく
③	[テーマ] 体育授業を分析する－器械運動 [内容] 器械運動領域の授業を分析する [授業外学習]前回までの演習内容を整理しておく	⑪	[テーマ] 陸上競技の授業をおこなう(模擬授業) [内容]陸上競技領域の模擬授業をおこない、授業を評価する [授業外学習]前回までの演習内容を整理しておく
④	[テーマ] 体育授業を分析する－陸上競技 [内容] 陸上競技領域の授業を分析する [授業外学習]前回までの演習内容を整理しておく	⑫	[テーマ] 武道領域の授業をおこなう(模擬授業) [内容]武道領域の模擬授業をおこない、授業を評価する [授業外学習]前回までの演習内容を整理しておく
⑤	[テーマ] 体育授業を分析する－武道 [内容] 武道領域の授業を分析する [授業外学習]	⑬	[テーマ] 心身の機能の発達と心の健康の授業をおこなう(模擬授業) [内容]心身の機能の発達と心の健康領域の模擬授業をおこない、授業を評価する [授業外学習]前回までの演習内容を整理しておく
⑥	[テーマ] 保健授業を分析する－心身の機能の発達と心の健康 [内容] 心身の機能の発達と心の健康領域の授業を分析する [授業外学習]前回までの演習内容を整理しておく	⑭	[テーマ] 健康と環境の授業をおこなう(模擬授業) [内容]健康と環境領域の模擬授業をおこない、授業を評価する [授業外学習]前回までの演習内容を整理しておく
⑦	[テーマ] 保健授業を分析する－健康と環境 [内容] 健康と環境領域の授業を分析する [授業外学習]前回までの演習内容を整理しておく	⑮	[テーマ] 傷害の防止の授業をおこなう(模擬授業) [内容]傷害の防止領域の模擬授業をおこない、授業を評価する [授業外学習]前回までの演習内容を整理しておく
⑧	[テーマ] 保健授業を分析する－傷害の防止 [内容] 傷害の防止領域の授業を分析する [授業外学習]前回までの演習内容を整理しておく	⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]

成績評価方法(方針)

討議・模擬授業等における、認識・技能の変容を総合的に評価する

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				
授業内レポート	○			30%
授業外レポート				
演習・実技	◎		◎	70%
授業態度		○		欠格条件
出席		○		欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

保健体育教師になることを強く希望する学生のみを受講対象とする

関連科目	保健体育科教育論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ(免許取得に必要な講義) 保健体育科教育論Ⅳ・保健体育科授業研究Ⅱ(選択履修)		
教科書	特に指定しない	参考書	講義中、必要に応じて提示する
連絡先	A棟3階 302		

授業科目名	保健体育科授業研究Ⅱ Physical Education Ⅱ				担当教員	入澤 裕樹・小浜 明
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	演習	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

保健・体育の学習指導をみる、考える、実際に行ってみる

授業の一般目標

保健・体育の学習指導をみる、考える、実際に行ってみる、といった体験を通して実践的指導力を養う

授業の到達目標

■	認知的領域	保健・体育の学習指導についての基本的な考え方と具体的な進め方を理解することができる
□	情意的領域	
■	技能表現的領域	保健・体育の学習指導についての具体的な進め方を実践することができる

授業計画(全体)

保健・体育の授業を実際に見学したり、ビデオを視聴して、授業分析を行う。この分析をベースとして、保健体育の学習指導のポイント、課題等を取り上げ、議論をおこなったり、実際に授業(模擬授業)をおこなう

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、講義のねらいと進め方、成績評価の方法と諸注意 [授業外学習]	⑨	[テーマ] 体操(体つくり運動)の授業をおこなう(模擬授業) [内容]体操(体つくり運動)領域の模擬授業をおこない、授業を評価する [授業外学習]前回までの演習内容を整理しておく
②	[テーマ] 体育授業を分析する－体操(体つくり運動) [内容] 体操(体つくり運動)領域の授業を分析する [授業外学習]	⑩	[テーマ] ダンスの授業をおこなう(模擬授業) [内容]ダンス領域の模擬授業をおこない、授業を評価する [授業外学習]前回までの演習内容を整理しておく
③	[テーマ] 体育授業を分析する－ダンス [内容] ダンス領域の授業を分析する [授業外学習]前回までの演習内容を整理しておく	⑪	[テーマ] 水泳の授業をおこなう(模擬授業) [内容]水泳領域の模擬授業をおこない、授業を評価する [授業外学習]前回までの演習内容を整理しておく
④	[テーマ] 体育授業を分析する－水泳 [内容] 水泳領域の授業を分析する [授業外学習]前回までの演習内容を整理しておく	⑫	[テーマ] 健康な生活と疾病の予防の授業をおこなう(模擬授業) [内容]健康な生活と疾病の予防領域の模擬授業をおこない、授業を評価する [授業外学習]前回までの演習内容を整理しておく
⑤	[テーマ] 保健授業を分析する－健康な生活と疾病の予防 [内容] 健康な生活と疾病の予防領域の授業を分析する [授業外学習]前回までの演習内容を整理しておく	⑬	[テーマ] 現代社会と健康の授業をおこなう(模擬授業) [内容]現代社会と健康領域の模擬授業をおこない、授業を評価する [授業外学習]前回までの演習内容を整理しておく
⑥	[テーマ] 保健授業を分析する－現代社会と健康 [内容] 現代社会と健康領域の授業を分析する [授業外学習]前回までの演習内容を整理しておく	⑭	[テーマ] 生涯を通じる健康の授業をおこなう(模擬授業) [内容]生涯を通じる健康領域の模擬授業をおこない、授業を評価する [授業外学習]前回までの演習内容を整理しておく
⑦	[テーマ] 保健授業を分析する－生涯を通じる健康 [内容]生涯を通じる健康領域の授業を分析する [授業外学習]前回までの演習内容を整理しておく	⑮	[テーマ] 社会生活と健康の授業をおこなう(模擬授業) [内容]社会生活と健康領域の模擬授業をおこない、授業を評価する [授業外学習]前回までの演習内容を整理しておく
⑧	[テーマ] 保健授業を分析する－社会生活と健康 [内容] 社会生活と健康領域の授業を分析する [授業外学習]前回までの演習内容を整理しておく	⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]

成績評価方法(方針)

討議・模擬授業等における、認識・技能の変容を総合的に評価する

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				
授業内レポート	○			30%
授業外レポート				
演習・実技	◎		◎	70
授業態度		○		欠格条件
出席		○		欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

保健体育教師になることを強く希望する学生のみを受講対象とする

関連科目	保健体育科教育論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ(免許取得に必要な講義) 保健体育科教育論Ⅳ・保健体育科授業研究Ⅰ(選択履修)		
教科書	特に指定しない	参考書	講義中、必要に応じて提示する
連絡先	A棟3階 302		

授業科目名	教育実習Ⅰ Student－Teacher Training Ⅰ (F. E.)				担当教員	山谷・大内・久能・郡山・末永・渡邊・入澤・金井
開講内容	学年・学期	3-4・半期	授業方法	講義・演習	関連資格	教員免許状(中高保体・高福祉)
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

4年次で実施される教育実習(Ⅲ・Ⅳ)の事前指導(実習現場の理解、授業設計の基礎、教育実習へのこころ構え等)及び事後指導を行う。教育実習に参加する者は、この科目を受講しなければ、実習に参加することはできない。

授業の一般目標

教育実習に参加する基礎的基本的な知識・技能を習得し、併せて教育実習に臨む心構え、態度等を身に付ける。

授業の到達目標

■	認知的領域	教育実習の意義を理解するとともに、教育実習に必要な基礎的基本的な知識を習得する。
■	情意的領域	教育実習に参加する意欲をもつ。
■	技能表現的領域	教育実習の基礎的基本的技能を習得する。

授業計画(全体)

教育実習の意義、教育実習現場の理解(中学校・高校)、教育実習の心構え、教育実習の方法・流れ、学習指導案の作成等

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション(3年) [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス理解、成績評価の方法 [授業外学習] シラバスを読んでおくこと。	⑨	[テーマ] 教育実習の反省と総括 [内容]教育実習の反省と総括を行い、必要書類を期日までに提出する。 [授業外学習]
②	[テーマ]教育実習の意義と内容 [内容] 教育実習の意義と内容を理解する。 [授業外学習]授業内容の復習	⑩	[テーマ] [内容] [授業外学習]
③	[テーマ]実習現場の理解 [内容] 中学校・高校の教育現場の現状を理解する。 [授業外学習]授業内容の復習	⑪	[テーマ] [内容] [授業外学習]
④	[テーマ] 授業設計と指導技術の基礎(保健) [内容] 保健指導のあり方と学習指導案の作成法について理解する。 [授業外学習]授業の復習	⑫	[テーマ] [内容] [授業外学習]
⑤	[テーマ] 授業設計と指導技術の基礎(体育) [内容] 体育指導のあり方と学習指導案の作成法について理解する。 [授業外学習]授業の復習	⑬	[テーマ] [内容] [授業外学習]
⑥	[テーマ] オリエンテーション(4年) [内容] 必要書類・教育実習日誌等のの書き方、教育実習巡回指導などについて理解する。 [授業外学習]	⑭	[テーマ] [内容] [授業外学習]
⑦	[テーマ] 教育実習の心構え(1) [内容] 教育実習の流れ・方法、教育実習をめぐる学校現場の「声」について理解する。 [授業外学習]授業の復習	⑮	[テーマ] [内容] [授業外学習]
⑧	[テーマ] 教育実習の心構え(2) [内容] 教育実習に臨むにあたっての心構え、留意事項について理解する。 [授業外学習]授業の復習	⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]

成績評価方法(方針)

出席及び実習報告書を中心に評価する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				実施しない
授業内レポート				実施しない
授業外レポート		△		15%
演習・実技				実施しない
授業態度	○	○	○	5%
出席	◎	◎	◎	80%

履修上の注意(受講学生に望むこと)

(1)3年次後期から4年次にわたって開講する。
(2)開講は不定期であるため指示に従って受講すること。

関連科目	3年次までに開講する教職関連科目すべて		
教科書	仙台大学編『教育実習の手引き』、『学習指導要領』	参考書	授業時に紹介する。
連絡先	教職支援センター B棟2階		

授業科目名	教育実習Ⅲ Student－Teacher Training Ⅲ (F. E.)				担当教員	山谷・他
開講内容	学年・学期	4・集中	授業方法	実習	関連資格	教員免許状(高福祉)
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

学校の教育活動の場に臨み、子どもと直接ふれ合い、指導教員の指導を受けながら教育者に求められる知識、技能、態度を修得する。そして、実際の教育指導実践を通して、子ども理解や教者としての使命感を養う。

授業の一般目標

・学校教員の職務について理解するとともに、教師として必要な知識・技能・態度を身につける。
・学校教員になるために克服しなければならない自己の課題を明確にする。

授業の到達目標

■	認知的領域	教師として必要な資質や能力を確認する。
■	情意的領域	教師としての適性を確認するとともに、学校教員になるために必要な自己の課題を確認する。
■	技能表現的領域	教師として必要な基礎的技能を身につける。

授業計画(全体)

高校における実習体験

授業テーマとその内容

高校(福祉)の教員免許状取得希望者を対象に2週間の現場実習を実施する。
実習校においては、①教科の授業、②学級担任の業務、の二つを中心に実習するが、保健体育科の実習の場合は、③部活動の指導も重要である。
教育実習は、基本的に、実習校の計画によって実施されるが、一般的には、「観察」 ⇒ 「参加」 ⇒ 「実習」という流れで進み、実習終了前には公開の「研究授業」がある。
実習期間中は、実習生にとっては「実習」であるが、生徒の側から見れば、一人の教師である。生徒一人ひとりの人格を尊重し、万事、責任を持って対処しなければならない。
同時に、実習校は、実習生のために多大の支障を省みず、御好意で受け入れていただいていることを忘れてはならない。

成績評価方法(方針)

実習校における成績評価を基礎に、教育実習日誌等の内容を加味して評価する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				
授業内レポート				
授業外レポート			○	10%
演習・実技	◎	◎	◎	90%
授業態度				
出席				

履修上の注意(受講学生に望むこと)

高校の保健体育・福祉免許取得希望者を対象とする。

関連科目			
教科書	学習指導要領	参考書	特になし
連絡先	教職支援センター(B棟2階)		

授業科目名	教育実習Ⅳ Student－Teacher Training Ⅳ （F. E. ）				担当教員	山谷・他
開講内容	学年・学期	4・集中	授業方法	実習	関連資格	教員免許状（中高保体）
	履修の方法	選択	単位数	4		

授業の概要

学校の教育活動の場に臨み、子どもと直接ふれ合い、指導教員の指導を受けながら教育者に求められる知識、技能、態度を修得する。そして、実際の教育指導実践を通して、子ども理解や教者としての使命感を養う。

授業の一般目標

・学校教員の職務について理解するとともに、教師として必要な知識・技能・態度を身につける。
・学校教員になるために克服しなければならない自己の課題を明確にする。

授業の到達目標

■	認知的領域	教師として必要な資質や能力を確認する。
■	情意的領域	教師としての適性を確認するとともに、学校教員になるために必要な自己の課題を確認する。
■	技能表現的領域	教師として必要な基礎的技能を身につける。

授業計画（全体）

中学・高校における保健体育科の教育実習体験。

授業テーマとその内容

中学、高校において3週間の現場実習を行う。
実習校においては、①教科の授業、②学級担任の業務、の二つを中心に実習するが、保健体育科の実習では、③課外活動（部活動）の指導も重要である。
教育実習は、基本的に、実習校の計画によって実施されるが、一般的には、「観察」 ⇒ 「参加」 ⇒ 「実習」という流れで進み、実習終了前には公開の「研究授業」がある。
実習期間中は、実習生にとっては「実習」だが、生徒の側から見れば、一人の教師である。生徒一人ひとりの人格を尊重し、万事、責任を持って対処しなければならない。同時に、実習校は、実習生のために多大の支障を省みず、御好意で受け入れていただいていることを忘れてはならない。

成績評価方法（方針）

実習校における成績評価を基礎とし、教育実習日誌等の内容を加味して評価する。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				
授業内レポート				
授業外レポート			○	10%
演習・実技	◎	◎	◎	90%
授業態度				
出席				

履修上の注意（受講学生に望むこと）

中学、高校の保健体育免許取得希望者を対象とする。

関連科目			
教科書	学習指導要領	参考書	特になし
連絡先	教職支援センター(B棟2階)		

授業科目名	栄養教育実習Ⅰ Nutrition Student-Teacher Training Ⅰ(L.)				担当教員	久能・山谷
開講内容	学年・学期	3, 4・半期	授業方法	講義	関連資格	教員免許状(栄養)
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

4年次で実施される栄養教育実習(栄養教育実習Ⅱ)の事前指導及び事後指導を内容とする。栄養教育実習に参加を希望する者は、この科目を受講しなければならない。

授業の一般目標

栄養教育実習に参加する基礎的技能、心構え、態度等を身に付ける。

授業の到達目標

■	認知的領域	栄養教育実習の意義を理解する。
■	情意的領域	栄養教育実習に参加する意欲をもつ。
■	技能表現的領域	栄養教育実習の基礎的・基本的技能を習得する。

授業計画(全体)

教育実習の意義、教育実習現場の理解(中学校・高校)、教育実習の心構え、教育実習の方法・流れ、学習指導案の作成等教育実習に必要な知識や技術に関する事項を、各担当教員がオムニバス形式で講義を行う。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス理解、成績評価の方法 [授業外学習] シラバスを読んでおくこと	⑨	[テーマ] 4年生実習報告会 [内容] 4年生の栄養教育実習の反省およびアドバイス [授業外学習] ノートに要点をまとめる
②	[テーマ] 教育実習の心構え [内容] 教育実習を行う上の心構えについて [授業外学習] ノートに要点をまとめる	⑩	[テーマ] 教育実習の実際 [内容] 現職教員の卒業生によるアドバイス [授業外学習] 感想文を作成する
③	[テーマ] 実習現場の理解(1)中学校 [内容] 中学校を中心に [授業外学習] ノートに要点をまとめる	⑪	[テーマ] 指導案の書き方について [内容] 学習指導案の作成 [授業外学習] 指導案を作成すること
④	[テーマ] 教育実習の方法・流れ [内容] 教育実習を行うまでに必要な事項を整理する [授業外学習] ノートに要点をまとめる	⑫	[テーマ] 板書の書き方について [内容] 教育実習(特に小学校)における板書の重要性について具体的に学ぶ [授業外学習] 漢字の書き順を復習すること
⑤	[テーマ] 指導案:保健 [内容] 保健の学習指導案の作成 [授業外学習] ノートに要点をまとめる	⑬	[テーマ] 栄養教育実習の心構え [内容] 現職栄養教諭によるアドバイス [授業外学習] 教育実習の心構えについてレポートを作成する
⑥	[テーマ] 栄養教諭とは [内容] 栄養教育実習の内容や注意事項、必要書類の記入 [授業外学習] 調査票を作成する	⑭	[テーマ] 食に関する指導案の作成 [内容] 実習時期や担当学年に相応しい食に関する指導案を作成する [授業外学習] 年間指導計画を熟読する
⑦	[テーマ] 実習現場の理解(2)高等学校 [内容] 高校を中心に [授業外学習] ノートに要点をまとめる	⑮	[テーマ] 教育実習の反省と総括 [内容] (後期に実施)実習を行って学んだことを発表する [授業外学習] 発表内容をまとめておく
⑧	[テーマ] 食に関する指導について [内容] 4年生の行った授業を見て、食に関する指導の実際について知る [授業外学習] ノートに要点をまとめる	⑯	[テーマ] 実習報告書の作成 [内容] (後期に実施)実習を行って学んだことをレポートに作成する [授業外学習] 指定のフォーマットに従い、レポートを作成する

成績評価方法(方針)

授業態度及び課題提出状況を中心に評価する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 \ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				評価対象外
授業内レポート	◎	◎	○	60%
授業外レポート	◎	○	○	40%
演習・実技				評価対象外
授業態度	◎	◎	○	減点あり
出席	◎	○		欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

3年次後期から4年次にわたって不定期に開講する。教職課程の科目であることを自覚し、将来教員となる自覚をしっかり持って受講のこと。
・2/3以上の出席がない学生は単位を修得することが出来ない(欠格条件)。
・授業態度が悪い学生に対しては、成績評価から減点する。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。
・授業中は携帯電話をかばんの中にしまうこと。
・授業はオムニバスで行われるため、内容が前後することがある。

関連科目	生徒指導論B、学校栄養教育論、栄養教育実習Ⅱ		
教科書	仙台大学「教育実習の手引き」	参考書	小学校・中学校学習指導要領(文部科学省)
連絡先	久能研究室A棟3階(307)		

授業科目名	栄養教育実習Ⅱ Nutrition Student-Teacher Training Ⅱ (F.E.)				担当教員	久能・山谷・他
開講内容	学年・学期	4・通年	授業方法	実習	関連資格	教員免許状(栄養)
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

協力校(仙台または岩沼市)、母校、自主開拓校いずれかの小・中学校における教育実習であり、期間は一週間である。

授業の一般目標

学校教育の現実と実際とに触れることを通して、これまでに学習してきた一般教養、教職専門、食に関する指導について再吟味するとともに、学校教員の職務活動の一端を体験することにより、将来の栄養教諭としての決意と適正を確認し、大学における学習への新たな意欲をもつ機会とする。

授業の到達目標

■	認知的領域	学校教育全般に関する理解と教職としての専門性の認識を深める
■	情意的領域	児童・生徒と直接触れ合うことにより、栄養教諭に求められる役割を理解する
■	技能表現的領域	教材研究や指導技術の具体的方法を理解する

授業計画(全体)

学校経営・学校運営に関する講話、学校給食・学校保健に関する講話、食に関する学習指導案の作成・教材研究・研究授業、委員会や部活動の参観・補助等を5日間の実習期間で各実習校にて行う。

授業テーマとその内容

授業テーマとその内容は、実習校ごとに決定される。

成績評価方法(方針)

実習校における評価報告書と実習日誌により評価する

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				評価対象外
授業内レポート	○	○	○	50%
授業外レポート	○	○	○	50%
演習・実技				評価対象外
授業態度	○	○	◎	減点あり
出席	◎	◎	◎	欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

栄養教育実習Ⅰ履修者および栄養士資格取得見込者を原則とする

関連科目	栄養教育実習Ⅰ、学校栄養教育論、給食運営実習Ⅱ 他栄養士および教職科目		
教科書	仙台大学「教育実習の手引き」	参考書	小学校・中学校学習指導要領(文部科学省)
連絡先	久能研究室 A棟3階(307)		

6. 自由科目

授業科目名	スポーツ障害の予防と評価 Sports Injury Prevention & Evaluation(L)				担当教員	山口貴久・村上憲治・小田桂吾・高橋陽介
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義	関連資格	日本体育協会公認AT、NSCA-CSCS/ CPT
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

アスレティックトレーナーの業務として、応急処置、アスレティックリハビリテーション、コンディショニングなどの場面で必要とされる、適切な評価方法、各種テスト方法について、理論とともに実技を交えて解説していく。

授業の一般目標

応急処置、アスレティックリハビリテーション、コンディショニングにおける評価、検査の意義、基礎知識を理解し、コミュニケーション能力を含めた実技能力を身に付ける。

授業の到達目標

■	認知的領域	評価、検査の基礎的事項を説明できる
■	情意的領域	選手、対象者とコミュニケーションをとり、安全で正確な評価、検査ができる。
■	技能表現的領域	必要な評価、検査法を選択でき、それらを正しく実施できる。

授業計画(全体)

授業テーマに合わせた資料を中心に講義を行う。テーマによっては、実技を実施し理解を深める。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員紹介、授業概要の説明、授業目標の説明、授業計画の説明、成績評価方法の説明、履修上の注意の説明 [授業外学習]	⑨	[テーマ] 障害評価① [内容] 腰部のスポーツ障害評価について解説する [授業外学習] 授業内容を基に復習する
②	[テーマ] 評価、検査の意義、基礎知識についてⅠ [内容] 評価、検査の目的、評価、検査に必要な基本能力について説明する [授業外学習] 授業内容を基に復習する	⑩	[テーマ] 障害評価② [内容] 下腿のスポーツ障害評価について解説する [授業外学習] 授業内容を基に復習する
③	[テーマ] 外傷評価① [内容] 頭頚部のスポーツ外傷評価について解説する [授業外学習] 授業内容を基に復習する	⑪	[テーマ] 障害評価③ [内容] 肩関節のスポーツ障害評価について解説する [授業外学習] 授業内容を基に復習する
④	[テーマ] 外傷評価② [内容] 足関節のスポーツ外傷評価について解説する [授業外学習] 授業内容を基に復習する	⑫	[テーマ] 障害評価④ [内容] 肘関節のスポーツ障害評価について解説する [授業外学習] 授業内容を基に復習する
⑤	[テーマ] 外傷評価③ [内容] 膝関節スポーツ外傷評価について解説する [授業外学習] 授業内容を基に復習する	⑬	[テーマ] フィールドテスト① [内容] フィールドテストについて解説する [授業外学習] 授業内容を基に復習する
⑥	[テーマ] 外傷評価④ [内容] 肩関節のスポーツ外傷評価について解説する [授業外学習] 授業内容を基に復習する	⑭	[テーマ] フィールドテスト② [内容] フィールドテストについて解説する [授業外学習]テストに備える
⑦	[テーマ] 外傷評価⑤ [内容] 肘関節のスポーツ外傷評価について解説する [授業外学習] 授業内容を基に復習する	⑮	[テーマ] 実技テスト① [内容] 実技テストを行う [授業外学習]テストに備える
⑧	[テーマ] 外傷評価⑥ [内容] ハムストリング肉ばなれの評価について解説する [授業外学習] 授業内容を基に復習する	⑯	[テーマ] 実技テスト② [内容] 実技テストを行う [授業外学習]

成績評価方法(方針)

評価は授業への取り組み姿勢、および実技試験の結果に基づき行う。出席は評価割合に加えず欠格条件とする。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎	◎	◎	80%
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度	◎	◎	◎	20%
出席				

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・2/3以上の出席がない学生は評価対象外とする(欠格条件)
・授業態度が悪い学生は成績評価から減点する。指導後も改善が見られない場合は退出させ、それ以降の講義への出席を認めない
・20分以上の遅刻は欠席とみなす
・授業計画は授業の進行状況により前後することがある

関連科目	スポーツトレーナー概論・実習・演習、アスレティックリハビリテーション論・実習・演習、コンディショニング論、アスレティックトレーニング論		
教科書	日本体育協会公認アスレティックトレーナー 専門科目テキスト⑤⑦	参考書	日本体育協会公認アスレティックトレーナー 専門科目テキスト②③⑥⑧
連絡先	山口貴久　第4体育館1階　tk-yamaguchi@sendai-u.ac.jp		

授業科目名	アスレティックリハビリテーション演習 Athletic Rehabilitation Seminar(S.)				担当教員	山口貴久・村上憲治・小田桂吾・高橋陽介
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	演習	関連資格	日本体育協会公認アスレティックトレーナー
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

アスレティックリハビリテーションは、対象者が希望するスポーツへの復帰を目標としたリハビリテーションである。そのため、その指導者となるアスレティックトレーナーには、基本的なリハビリテーション知識とともに、対象者がスポーツという高いレベルでの身体活動が行えるようにするための知識と技術が要求される。本講義では傷害別、部位別にアスレティックリハビリテーションのプログラミングについて演習を行う。

授業の一般目標

代表的なスポーツ傷害を中心に、アスレティックリハビリテーションのプログラミングを理解する。競技特性に合わせたアスレティックリハビリテーションのプログラミングおよび指導が出来るようにする。

授業の到達目標

■	認知的領域	アスレティックリハビリテーションに必要とされるプログラミングの知識を習得する。
■	情意的領域	選手、対象者と十分にコミュニケーションをとり、個々のニーズに合わせた対応が出来るようになる。
■	技能表現的領域	アスレティックリハビリテーションを中心とした各種プログラムを正確に指導できるようになる。

授業計画(全体)

スポーツ傷害へ対するアスレティックリハビリテーションについてグループでディスカッションおよびプレゼンテーションを行う。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ]オリエンテーション [内容]担当教員紹介、授業概要の説明、授業目標の説明、授業計画の説明、成績評価方法の説明、履修上の注意の説明 [授業外学習] 足関節外傷のアスリハについて予習する	⑨	[テーマ] グループワーク⑦ [内容] 足関節のスポーツ障害に対するアスレティックリハビリテーションについてグループでディスカッションを行う [授業外学習]腰部障害のアスリハについて予習する
②	[テーマ]グループワーク① [内容] 足関節のスポーツ外傷に対するアスレティックリハビリテーションについてグループでディスカッションを行う [授業外学習]腰部外傷のアスリハについて予習する	⑩	[テーマ] グループワーク⑧ [内容] 腰部のスポーツ障害に対するアスレティックリハビリテーションについてグループでディスカッションを行う [授業外学習] 肩関節障害のアスリハについて予習する
③	[テーマ]グループワーク② [内容] 腰部のスポーツ外傷に対するアスレティックリハビリテーションについてグループでディスカッションを行う [授業外学習] 肩関節外傷のアスリハについて予習する	⑪	[テーマ] グループワーク⑨ [内容] 肩関節のスポーツ障害に対するアスレティックリハビリテーションについてグループでディスカッションを行う [授業外学習] 膝外傷のアスリハについて予習する
④	[テーマ]グループワーク③ [内容] 肩関節のスポーツ外傷に対するアスレティックリハビリテーションについてグループでディスカッションを行う [授業外学習] 膝外傷のアスリハについて予習する	⑫	[テーマ] グループワーク⑩ [内容] 膝関節のスポーツ障害に対するアスレティックリハビリテーションについてグループでディスカッションを行う [授業外学習] 肘関節障害のアスリハについて予習する
⑤	[テーマ]グループワーク④ [内容] 膝関節のスポーツ外傷に対するアスレティックリハビリテーションについてグループでディスカッションを行う [授業外学習] 肘関節外傷のアスリハについて予習する	⑬	[テーマ] グループワーク⑪ [内容] 肘関節のスポーツ障害に対するアスレティックリハビリテーションについてグループでディスカッションを行う [授業外学習] 脛骨過労性骨傷害のアスリハについて予習する
⑥	[テーマ]グループワーク⑤ [内容] 肘関節のスポーツ外傷に対するアスレティックリハビリテーションについてグループでディスカッションを行う [授業外学習] ハムストリング肉ばなれのアスリハについて予習する	⑭	[テーマ] グループワーク⑫ [内容] 脛骨過労性骨傷害に対するアスレティックリハビリテーションについてグループでディスカッションを行う [授業外学習] テストに備える
⑦	[テーマ]グループワーク⑥ [内容] ハムストリング肉ばなれに対するアスレティックリハビリテーションについてグループでディスカッションを行う [授業外学習] 小テストに備える	⑮	[テーマ] テスト① [内容] 実技試験① [授業外学習] テストに備える
⑧	[テーマ] 小テスト [内容] グループワーク①～⑥の理解度を評価する [授業外学習] 足関節障害のアスリハについて予習する	⑯	[テーマ] テスト② [内容] 実技試験② [授業外学習]

成績評価方法(方針)

評価はグループワークへの取り組み姿勢、および実技試験の結果に基づき行う。出席は評価割合に加えず欠格条件とする。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎	◎	◎	80%
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技	◎	◎	◎	20%
授業態度				減点あり
出席				

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・2/3以上の出席が無い学生は評価対象外とする(欠格条件)。
・授業態度が悪い学生は成績評価から減点する。指導後も改善が見られない場合は退出させ、それ以降の講義への出席を認めない。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。
・授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。

関連科目	スポーツトレーナー概論・実習・演習、アスレティックリハビリテーション論・実習、コンディショニング論、アスレティックトレーニング論、スポーツ傷害の予防と評価		
教科書	日本体育協会公認アスレティックトレーナー 専門科目テキスト⑤⑥⑦	参考書	日本体育協会公認アスレティックトレーナー 専門科目テキスト②③
連絡先	山口貴久　第4体育館1階　tk-yamaguchi@sendai-u.ac.jp		

授業科目名	アスレティックトレーニング論 I Athletic Training I (L)				担当教員	山口貴久/高橋陽介/小田桂吾
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格	日本体育協会公認アスレティックトレーナー
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

スポーツトレーナーに必要不可欠な運動器(筋と骨格)の機能解剖について、身体の部位ごとに深く学んでいく。

授業の一般目標

運動器の機能解剖の基礎を身に付け、アスレティックトレーニングやストレングストレーニングなど様々な分野で応用できるようにする。

授業の到達目標

■	認知的領域	運動器の機能解剖を理解し、様々な分野に応用できる
■	情意的領域	運動器の機能解剖を理解し、様々な分野に応用できる
□	技能表現的領域	

授業計画(全体)

教科書に基づき、身体の部位ごとに、1)骨　2)関節と靭帯　3)筋・健　4)その他の重要な軟部組織について、骨模型やスライドなどのVisual aidを用いて講義を行う。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 教員紹介、授業概要とスケジュール、授業ポリシー、成績評価方法、教科書についての説明を行う [授業外学習] 体幹の骨、関節、靭帯について予習する	⑨	[テーマ] 体幹の機能解剖 I [内容] 頸部の解剖と機能について説明する [授業外学習] 胸部の解剖と機能について予習する
②	[テーマ] 概論 I [内容] 運動器の機能解剖の概論について説明する [授業外学習] 運動器の概論について予習・復習をする	⑩	[テーマ] 体幹の機能解剖 II [内容] 胸部の解剖と機能について説明する [授業外学習] 腰部の解剖と機能について予習する
③	[テーマ] 概論 II [内容] 運動器の機能解剖の概論について説明する [授業外学習] 股関節の解剖と機能について予習する	⑪	[テーマ] 体幹の機能解剖 III [内容] 腰部の解剖と機能について説明する [授業外学習] 肩関節の解剖と機能について予習する
④	[テーマ] 下肢の機能解剖 I [内容] 股関節の解剖と機能について説明する [授業外学習] 膝関節の解剖と機能について予習する	⑫	[テーマ] 上肢の機能解剖 I [内容] 肩関節の解剖と機能について説明する [授業外学習] 肩関節の解剖と機能について復習する
⑤	[テーマ] 下肢の機能解剖 II (膝関節) [内容] 膝関節の解剖と機能について説明する [授業外学習] 膝関節の解剖と機能について復習する	⑬	[テーマ] 上肢の機能解剖 II [内容] 肩関節の解剖と機能について説明する [授業外学習] 肘関節の解剖と機能について予習する
⑥	[テーマ] 下肢の機能解剖III (膝関節) [内容] 膝関節の解剖と機能について説明する [授業外学習] 下腿の解剖と機能について予習する	⑭	[テーマ] 上肢の機能解剖III [内容] 肘関節の解剖と機能について説明する [授業外学習] 手関節と手の解剖と機能について予習する
⑦	[テーマ] 下肢の機能解剖IV (下腿) [内容] 下腿の解剖と機能について説明する [授業外学習] 足関節の解剖と機能について予習する	⑮	[テーマ] 上肢の機能解剖IV [内容] 手関節と手の解剖と機能について説明する [授業外学習] テストに備える
⑧	[テーマ] 下肢の機能解剖V (足関節) [内容] 足関節の解剖と機能について説明する [授業外学習] 頸部の解剖と機能について予習する	⑯	[テーマ] テスト [内容] 筆記テスト [授業外学習]

成績評価方法(方針)

テストの結果に基づき評価する

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 \ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎	◎		100%
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度	○	○		減点あり
出席				

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・本授業は日本体育協会公認アスレティックトレーナー認定試験の受験資格取得に必要な授業であるため、その指導方針に沿って授業をすすめる
・本授業は教科書をもとに進めるので、必ず教科書を購入すること
・授業態度が悪い学生は成績評価から減点する。指導後も改善が見られない場合は退出させ、それ以降の講義への出席を認めない
・授業計画は授業の進行状況により前後することがある

関連科目	スポーツトレーナー概論・実習・演習、アスレティックリハビリテーション論・実習・演習、コンディショニング論、スポーツ傷害の予防と評価		
教科書	日本体育協会公認アスレティックトレーナー 専門科目テキスト②	参考書	
連絡先	山口貴久　第4体育館1階　tk-yamaguchi@sendai-u.ac.jp		

授業科目名	アスレティックトレーニング論Ⅱ Athletic Training Ⅱ (L)				担当教員	山口貴久/村上憲治/高橋陽介
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格	日本体育協会公認アスレティックトレーナー
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

スポーツトレーナーに必要不可欠な運動器(筋と骨格)の機能解剖について、触診、可動域の測定、徒手筋力検査、動作分析などを通して深く学んでいく。

授業の一般目標

運動器の機能解剖の基礎を身に付け、アスレティックトレーニングやストレングストレーニングなど様々な分野で応用できるようにする。

授業の到達目標

■	認知的領域	運動器の機能解剖を理解し、様々な分野に応用できる
■	情意的領域	運動器の機能解剖を理解し、様々な分野に応用できる
□	技能表現的領域	

授業計画(全体)

触診、可動域の測定、徒手筋力検査、動作分析の実技を行いながら、運動器の機能解剖について解説していく。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 教員紹介、授業概要とスケジュール、授業ポリシー、成績評価方法、教科書についての説明を行う [授業外学習] 体幹の骨、関節、靭帯について予習する	⑨	[テーマ] 関節可動域測定Ⅲ [内容] 体幹の可動域測定を通して体幹関節の機能解剖について説明する [授業外学習] 胸部の解剖と機能について予習する
②	[テーマ] 触診Ⅰ [内容] 上肢の触診を通して下肢運動器の機能解剖について説明する [授業外学習] 運動器の概論について予習・復習をする	⑩	[テーマ] 徒手筋力検査Ⅰ [内容] 上肢の徒手筋力測定を通して上肢骨格筋の機能解剖について説明する [授業外学習] 腰部の解剖と機能について予習する
③	[テーマ] 触診Ⅱ [内容] 下肢の触診を通して下肢運動器の機能解剖について説明する [授業外学習] 股関節の解剖と機能について予習する	⑪	[テーマ] 徒手筋力検査Ⅱ [内容] 下肢の徒手筋力測定を通して下肢骨格筋の機能解剖について説明する [授業外学習] 肩関節の解剖と機能について予習する
④	[テーマ] 触診Ⅲ [内容] 体幹の触診を通して下肢運動器の機能解剖について説明する [授業外学習] 膝関節の解剖と機能について予習する	⑫	[テーマ] 徒手筋力検査Ⅲ [内容] 体幹筋の徒手筋力測定を通して体幹骨格筋の機能解剖について説明する [授業外学習] 授業内容を基に復習する
⑤	[テーマ] アライメントⅠ [内容] 上肢のアライメントについて説明する [授業外学習] 膝関節の解剖と機能について復習する	⑬	[テーマ] 動作分析(歩行・走動作) [内容] 歩行と走動作の評価方法について解説する [授業外学習] 授業内容を基に復習する
⑥	[テーマ] アライメントⅡ [内容] 下肢のアライメントについて説明する [授業外学習] 下腿の解剖と機能について予習する	⑭	[テーマ] 動作分析(跳躍、ストップ、方向転換、あたり動作) [内容] 跳躍、ストップ、方向転換、あたり動作の評価方法について解説する [授業外学習] 授業内容を基に復習する
⑦	[テーマ] 関節可動域測定Ⅰ [内容] 上肢関節の可動域測定を通して上肢関節の機能解剖について説明する [授業外学習] 足関節の解剖と機能について予習する	⑮	[テーマ] 動作分析(投動作) [内容] 投動作の評価方法について解説する [授業外学習] 授業内容を基に復習する
⑧	[テーマ] 関節可動域測定Ⅱ [内容] 下肢関節の可動域測定を通して下肢関節の機能解剖について説明する [授業外学習] 頸部の解剖と機能について予習する	⑯	[テーマ] テスト [内容] 筆記テスト [授業外学習]

成績評価方法(方針)

テストの結果に基づき評価する

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 \ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎	◎		100%
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度	○	○		減点あり
出席				

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・本授業は日本体育協会公認アスレティックトレーナー認定試験の受験資格取得に必要な授業であるため、その指導方針に沿って授業をすすめる
・本授業は教科書をもとに進めるので、必ず教科書を購入すること
・授業態度が悪い学生は成績評価から減点する。指導後も改善が見られない場合は退出させ、それ以降の講義への出席を認めない
・授業計画は授業の進行状況により前後することがある

関連科目	スポーツトレーナー概論・実習・演習、アスレティックリハビリテーション論・実習・演習、コンディショニング論、スポーツ傷害の予防と評価		
教科書	日本体育協会公認アスレティックトレーナー 専門科目テキスト②⑤⑥⑦	参考書	
連絡先	山口貴久 第4体育館1階 tk-yamaguchi@sendai-u.ac.jp		

授業科目名	コンディショニング実習				担当教員	小田桂吾・村上憲治・山口貴久・高橋陽介
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	実習	関連資格	日本体育協会公認アスレティックトレーナー
	履修の方法	選択必修	単位数	1		

授業の概要

この実習は日本体育協会公認アスレティックトレーナー養成専門カリキュラムに基づき、競技力向上および傷害予防を目的としたコンディショニング指導に必要な知識と技術の向上を図る。

授業の一般目標

アスレティックトレーナーとして種目別の競技特性を理解し、実際に指導を実践できることを目標とする。

授業の到達目標

■	認知的領域	アスレティックトレーナーに必要なコンディショニング指導が出来る知識を習得する。
■	情意的領域	選手、スタッフ、他領域の専門家とコミニュケーションが取れるようにする。
■	技能表現的領域	アスレティックトレーナーに必要なコンディショニング指導が出来る技術を習得する。

授業計画（全体）

各テーマに合わせた内容の実習を行う。各実習終了後、実技テストを行い理解度、到達度の確認を行う。

授業テーマとその内容

以下の内容を理解し、実践できるよう知識と技術を習得する。
・競技力向上を目的としたトレーニング指導方法
・競技種目特性を理解したコンディショニングおよびリコンディショニングの指導方法
・競技復帰を目標としたアスレティックリハビリテーションおよび再発予防を目的としたトレーニング指導
・傷害の特性を理解したコンディショニング（テーピング含む）の指導

成績評価方法（方針）

評価は実技試験の結果に基づき評価する。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				
授業内レポート				
授業外レポート	○			20%
演習・実技	◎	◎	◎	80%
授業態度	○	○	○	減点あり
出席	○	○	○	欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・2/3以上の出席がない学生は評価対象外とする（欠格条件）。
・授業態度が悪い学生は成績評価から減点する。
・授業計画はオリエンテーション時に連絡する。

関連科目	コンディショニング論、アスレティックトレーニング論Ⅰ		
教科書	日本体育協会公認AT専門科目テキスト⑥	参考書	日本体育協会公認AT専門科目テキスト①～⑤、⑦～⑨
連絡先	小田桂吾　第4体育館1階　kg-oda@sendai-u.ac.jp		

授業科目名	アスレティックリハビリテーション論 Introduction to Sports Rehabilitation(L.)				担当教員	小田桂吾・村上憲治
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格	日本体育協会公認アスレティックトレーナー
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

アスレティックリハビリテーションは、対象者が希望するスポーツへの復帰を目標としたリハビリテーションである。そのため、その指導者となるアスレティックトレーナーには、基本的なリハビリテーション知識とともに、対象者がスポーツという高いレベルでの身体活動を行えるようにするための知識が要求される。本講義では、アスレティックリハビリテーションに必要とされる基礎知識について各テーマ毎に具体例を上げ解説していく。

授業の一般目標

アスレティックリハビリテーションで必要とされる手法、プログラムの進め方を学習する。また、具体的な事例を通して怪我をした競技者が安全に、受傷前と同等あるいはそれ以上のレベルでスポーツ復帰するための過程を理解する。

授業の到達目標

■	認知的領域	アスレティックリハビリテーションの基礎的事項を説明できる。
□	情意的領域	
□	技能表現的領域	

授業計画(全体)

授業テーマに合わせ、教科書とパワーポイントの資料を中心に講義を行う。必要に応じ、資料を配布する。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員紹介、授業概要の説明、授業目標の説明、授業計画の説明、成績評価方法の説明、履修上の注意の説明 [授業外学習]シラバスの熟読	⑨	[テーマ] 関節可動域回復、拡大エクササイズの基礎知識② [内容] アスレティックリハビリテーションにおける関節可動域回復、拡大エクササイズのプログラミングについて説明 [授業外学習]授業内容を基に復習する
②	[テーマ]アスレティックリハビリテーションの定義について [内容] リハビリテーションの概念、アスレティックリハビリテーションの定義について説明 [授業外学習]授業内容を基に復習する	⑩	[テーマ] 関節可動域回復、拡大エクササイズの基礎知識③ [内容] アスレティックリハビリテーションにおける関節可動域回復、拡大エクササイズの実際について説明 [授業外学習]授業内容を基に復習する
③	[テーマ] アスレティックリハビリテーションの概要① [内容] アスレティックリハビリテーションの進め方について説明 [授業外学習]授業内容を基に復習する	⑪	[テーマ] 神経筋協調性回復、向上エクササイズの基礎知識 [内容] アスレティックリハビリテーションにおける神経筋協調性回復、向上エクササイズのプログラミングならびに実施時の留意点について説明 [授業外学習]授業内容を基に復習する
④	[テーマ] アスレティックリハビリテーションの概要② [内容] アスレティックリハビリテーションにおける機能評価について説明 [授業外学習]授業内容を基に復習する	⑫	[テーマ] 物理療法の基礎知識① [内容] アスレティックリハビリテーション実施時に必要とされる物理療法(温熱、寒冷療法)の基礎知識について説明 [授業外学習]授業内容を基に復習する
⑤	[テーマ] アスレティックリハビリテーションの概要③ [内容] アスレティックリハビリテーションにおけるリスク管理について説明 [授業外学習]授業内容を基に復習する	⑬	[テーマ] 物理療法の基礎知識② [内容] アスレティックリハビリテーション実施時に必要とされる物理療法(電気刺激療法)の基礎知識について [授業外学習]授業内容を基に復習する
⑥	[テーマ] 筋力回復、筋力増強エクササイズの基礎知識① [内容] アスレティックリハビリテーションにおける筋力回復、筋力増強エクササイズ実施時の留意点について説明 [授業外学習]授業内容を基に復習する	⑭	[テーマ] 鍼、灸、マッサージの有効利用方法 [内容] スポーツ分野の鍼灸マッサージの有効利用方法と注意事項について説明 [授業外学習]授業内容を基に復習する
⑦	[テーマ] 筋力回復、筋力増強エクササイズの基礎知識② [内容] アスレティックリハビリテーションにおける筋力回復、筋力増強エクササイズのプログラミングについて説明 [授業外学習]授業内容を基に復習する	⑮	[テーマ] 装具、補装具の基礎知識 [内容] アスレティックリハビリテーション実施時に必要とされる装具、補装具の基礎知識について説明 [授業外学習]授業内容を基に復習する
⑧	[テーマ] 関節可動域回復、拡大エクササイズの基礎知識① [内容] アスレティックリハビリテーションにおける関節可動域回復、拡大エクササイズ実施時の留意点について説明 [授業外学習]授業内容を基に復習する	⑯	[テーマ] テスト [内容] 授業理解度の確認のため筆記試験を行なう [授業外学習]テストに備え全範囲を復習する

成績評価方法(方針)

評価は筆記試験(評価割合100%)、授業態度(評価割合減点あり)に基づき行う。出席は評価割合に加えず欠格条件とする。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎			100%
授業内レポート				評価対象外
授業外レポート				評価対象外
演習・実技				評価対象外
授業態度				減点あり
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・日本体育協会公認アスレティックトレーナー受験希望者が望ましい
・2/3以上の出席が無い学生は評価対象外とする(欠格条件)。
・授業態度が悪い学生は成績評価から減点する。指導後も改善が見られない場合は 退出させ、それ以降の講義への出席を認めない。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。
・授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。

関連科目	アスレティックリハビリテーション実習、アスレティックリハビリテーション演習		
教科書	日本体育協会公認AT専門科目テキスト⑦	参考書	
連絡先	小田桂吾 第4体育館研究室6 kg-oda@sendai-u.ac.jp		

授業科目名	NATAアスレティックトレーナーの実際 I Intermediate Athletic Training I				担当教員	高橋陽介
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	遠隔授業	関連資格	特になし
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

米国スポーツを取り巻く環境や体制を学習することで、アスレティックトレーナー職域拡大の背景や教育体制などを知る。また、最新の動向についても知識を深める。
英単語を用いながら学生自ら積極的に参加する授業スタイルを通して、英語学習の重要性を知り、海外留学の意欲を高める。

授業の一般目標

・米国でアスレティックトレーナーの職域が拡大した背景を述べることができる
・米国アスレティックトレーニングの最新の動向を理解し、意見を述べることができる

授業の到達目標

■	認知的領域	アスレティックトレーニング用語を英語を用いて学習できる。アスレティックトレーニングの実際を理解する
■	情意的領域	アスレティックトレーニングにおける国際的な感覚を身に付ける
□	技能表現的領域	

授業計画（全体）

学生からの発言が進行を左右する為、各自の強い積極性が求められる。また、ハワイ大学のオンライン授業支援システム「Laulima（ラウリマ）」を利用し、レポートなどの課題を提出することが要求される。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法の説明 [授業外学習]Emailアカウントの取得	⑨	[テーマ] Hot Topic③ 続き [内容] 米アスレティックトレーニングで最近話題となっている事柄や情報の紹介 *テーマは随時変更 [授業外学習]授業内容の復習
②	[テーマ]Hot Topic① [内容] 米アスレティックトレーニングで最近話題となっている事柄や情報の紹介 *テーマは随時変更 [授業外学習]授業内容の復習	⑩	[テーマ] 受講学生によるレポート発表／プレゼンテーション [内容] Hot Topic③で学習した内容を基にリサーチをおこないレポートを作成し、授業内でプレゼンテーションを実施する [授業外学習]授業内容の復習
③	[テーマ] Hot Topic① 続き [内容] 米アスレティックトレーニングで最近話題となっている事柄や情報の紹介 *テーマは随時変更 [授業外学習]授業内容の復習	⑪	[テーマ] Hot Topic④ [内容] 米アスレティックトレーニングで最近話題となっている事柄や情報の紹介 *テーマは随時変更 [授業外学習]授業内容の復習
④	[テーマ] 受講学生によるレポート発表／プレゼンテーション [内容] Hot Topic①で学習した内容を基にリサーチをおこないレポートを作成し、授業内でプレゼンテーションを実施する [授業外学習]授業内容の復習	⑫	[テーマ] Hot Topic④ 続き [内容] 米アスレティックトレーニングで最近話題となっている事柄や情報の紹介 *テーマは随時変更 [授業外学習]授業内容の復習
⑤	[テーマ] Hot Topic② [内容] 米アスレティックトレーニングで最近話題となっている事柄や情報の紹介 *テーマは随時変更 [授業外学習]授業内容の復習	⑬	[テーマ] 受講学生によるレポート発表／プレゼンテーション [内容] Hot Topic④で学習した内容を基にリサーチをおこないレポートを作成し、授業内でプレゼンテーションを実施する [授業外学習]授業内容の復習
⑥	[テーマ] Hot Topic② 続き [内容] 米アスレティックトレーニングで最近話題となっている事柄や情報の紹介 *テーマは随時変更 [授業外学習]授業内容の復習	⑭	[テーマ] Hot Topic⑤ [内容] 米アスレティックトレーニングで最近話題となっている事柄や情報の紹介 *テーマは随時変更 [授業外学習]授業内容の復習
⑦	[テーマ] 受講学生によるレポート発表／プレゼンテーション [内容] Hot Topic②で学習した内容を基にリサーチをおこないレポートを作成し、授業内でプレゼンテーションを実施する [授業外学習]授業内容の復習	⑮	[テーマ] Hot Topic⑤ 続き [内容] 米アスレティックトレーニングで最近話題となっている事柄や情報の紹介 *テーマは随時変更 [授業外学習]授業内容の復習
⑧	[テーマ] Hot Topic③ [内容] 米アスレティックトレーニングで最近話題となっている事柄や情報の紹介 *テーマは随時変更 [授業外学習]授業内容の復習	⑯	[テーマ] 総括 [内容] 学生のよる過去の授業における復習と質疑応答 [授業外学習]

成績評価方法（方針）

最終成績は出席3分の2以上（欠格条件）。評価は、出席30%、授業態度20%、そしてレポートおよびプレゼンテーションが50%となる。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				評価対象外
授業内レポート				有
授業外レポート	◎			50%
演習・実技				評価対象外
授業態度		◎		20%
出席		◎		30%

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・本授業は双方参加型の通信システムを利用した遠隔授業である為、学生に対し強い積極性が求められる。また、専門用語等に英語が用いられ、内容も比較的高度になることから、事前の予習・復習が重要となる。
・各学生は「Google Forms」利用にあたり、学期開始までにEmailアドレスの取得をしなければならない。
・ハワイ大学スクーリングへの参加が期待される。
・2/3以上の出席がない学生は、単位を取得することができない（欠格条件）。

関連科目	NATAアスレティックトレーナーの実際II		
教科書	特になし	参考書	各種医学英和辞典、英和辞典
連絡先	高橋陽介研究室　第4体育館1階研究室3　Email:ys-takahashi@sendai-u.ac.jp		

授業科目名	NATAアスレティックトレーナーの実際Ⅱ Intermediate Athletic Training II				担当教員	山口貴久
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義	関連資格	特になし
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

本授業はインターネット環境を利用したハワイ大学の遠隔授業「NATAアスレティックトレーナーの実際Ⅰ」の発展クラスであり、インストラクターがハワイから英語を用いて基礎解剖を説明、また代表的なスポーツ症例を紹介することで学習する。また、講義中の実習指導も含む。

授業の一般目標

米国のアスレティックトレーニングに関する題材を軸に基礎解剖学・生理学を英語で学び、アスレティックトレーナーに対する認識を深める。また、米国と日本のアスレティックトレーニングにおける状況を比較そして思考する場を提供する。

授業の到達目標

■	認知的領域	基本的な解剖学用語、アスレティックトレーニング用語を英語で理解・利用できる。アスレティックトレーニングの本質を説明できる
■	情意的領域	アスレティックトレーニングにおける国際的な感覚を身に付ける。
□	技能表現的領域	

授業計画（全体）

学生からの発言が進行を左右する為、各自の強い積極性が求められる。また、ハワイ大学のオンライン授業支援システム「Laulima（ラウリマ）」を利用し、小テスト、定期試験を実施する。尚、学生はラウリマにより、ある定められた期間中であれば各自の都合の良い時間と場所で受験することができる。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法 [授業外学習] Laurima利用方法の復習	⑨	[テーマ] Wrist, Hand & Fingers［手関節、手、手指」 [内容] 手関節、手、手指の基礎解剖、代表的なスポーツ傷害例を紹介。 [授業外学習] 次回復習の質問を持参する。中間試験の準備を開始する。
②	[テーマ] Language of Anatomy 「解剖学用語」 [内容] 解剖学をる理解する上で必要な用語（英語）を紹介する。 [授業外学習] 表面解剖学「Surface of Anatomy」の予習	⑩	[テーマ] Midterm Review 「復習」 [内容] 学生による過去の授業における質問 [授業外学習] ラウリマでの中間試験の受験を開始する。
③	[テーマ] Surface of Anatom 「表面解剖学」 [内容] 人体の表層部の解剖学的名称を紹介する。 [授業外学習] アスレティックトレーニング用語「Language of Athletic Training」	⑪	[テーマ] Midterm Exam「中間試験」 [内容] 中間試験 [授業外学習] 股関節「Hip」の予習
④	[テーマ] Language of Athletic Training 「アスレティックトレーニング用語」 [内容] アスレティックトレーニングで普段使われる用語などを紹介する。 [授業外学習] 体幹部「Axial Division」の予習	⑫	[テーマ] Hip「股関節」 [内容] 股関節の基礎解剖、代表的なスポーツ傷害例を紹介。 [授業外学習] 膝関節「Knee」の予習
⑤	[テーマ] Axial Division 「体幹部」 [内容] 体幹部の基礎解剖、代表的なスポーツ傷害例を紹介。 [授業外学習] 付属骨格/筋「Appendicular Division」の予習	⑬	[テーマ] Knee 「膝関節」 [内容] 膝関節の基礎解剖、代表的なスポーツ傷害例を紹介。 [授業外学習] 足関節/足部 「Ankle & Foot」の予習
⑥	[テーマ] Appendicular Division 「付属骨格/筋」 [内容] 四肢の骨格/筋肉の基礎解剖、代表的なスポーツ傷害例を紹介。 [授業外学習] 肩関節「Shoulder」の予習	⑭	[テーマ] Ankle & Foot「足関節/足部」 [内容] 足関節/足部 の基礎解剖、代表的なスポーツ傷害例を紹介。 [授業外学習] 次回復習の質問を持参する。
⑦	[テーマ] Shoulder 「肩関節」 [内容] 肩関節の基礎解剖、代表的なスポーツ傷害例を紹介。 [授業外学習] 肘関節「Elbow」の予習	⑮	[テーマ] Final Review「復習」（予備日） [内容] 学生のよる過去の授業における質問 [授業外学習] 期末試験の準備をする。
⑧	[テーマ] Elbow 「肘関節」 [内容] 肘関節の基礎解剖、代表的なスポーツ傷害例を紹介。 [授業外学習] 手関節、手、手指「Wrist, Hand, & Fingers」の予習	⑯	[テーマ] Final Exam「期末試験」 [内容] 期末試験 [授業外学習]

成績評価方法（方針）

最終成績は出席3分の2以上。出席は評価割合に加えず、欠格条件となる。中間試験（評価割合50%）、期末試験（50%）、小テスト（試験に加点）の結果で評価する。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	◎			100%
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度				減点あり
出席				欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

本授業は双方参加型の通信システムを利用した遠隔授業である。学生による発表中心とする授業の為、学生に対し強い積極性が求められる。また、専門用語等に英語が用いられ、内容も比較的高度になることから、事前の予習・復習が重要となる。各学生は「Laulima」利用にあたり、学期開始までにEmailアドレスの取得をしなければならない。また、ハワイ大学スクーリングへの参加が期待される。2/3以上の出席がない学生は、単位を取得することができない（欠格条件）。

関連科目	NATAアスレティックトレーナーの実際Ⅰ		
教科書	未定	参考書	各種医学英和辞典、英和辞典
連絡先	山口貴久 第4体育館1階 Email: tk-yamaguch@sendai-u.ac.jp		

授業科目名	アスレティックリハビリテーション実習 Athletic Rehabilitation Practicum(F.E.)				担当教員	小田桂吾・村上憲治・高橋陽介
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	実習	関連資格	日本体育協会公認アスレティックトレーナー
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

アスレティックリハビリテーションは、対象者が希望するスポーツへの復帰を目標としてリハビリテーションである。そのため、その指導者となるアスレティックトレーナーには基本的なリハビリテーションの知識とともに、対象者がスポーツという高いレベルでの身体活動を行えるようにするための知識が要求される。アスレティックリハビリテーションの指導に際し必要とされる全ての知識と技術の基礎を実技を交え解説していく。

授業の一般目標

アスレティックリハビリテーション実施時に必要とされる知識と技術の習得。また、それらを選手や対象者に指導できるようにする。

授業の到達目標

■	認知的領域	アスレティックリハビリテーションに必要とされる知識を習得する
■	情意的領域	アスレティックリハビリテーション指導時に選手、対象者、他領域の専門家とコミュニケーションがとれる
■	技能表現的領域	各手法を状況に応じて使い分けることができる

授業計画(全体)

授業テーマに合わせた資料とデモンストレーションを中心に実習を行う。テーマごとに授業内、授業外レポートを提出させることで理解度、到達度の確認を行う。

授業テーマとその内容

1回目:オリエンテーション
2回目～13回目:以下のテーマについて実習を行う
①関節可動域回復エクササイズ
②筋力回復・向上エクササイズ
③バランストレーニング
④敏捷性トレーニング
⑤スポーツ障害予防のトレーニング(上肢・下肢)
⑥全身持久力回復・向上エクササイズ
⑦多用途筋機能評価運動装置(バイオデックス)
14・15回目:実技テスト

成績評価方法(方針)

評価は実技試験(評価割合50%)、授業内レポート(評価割合50%)、授業態度(評価割合減点あり)に基づき行う。出席は評価割合に加えず欠格条件とする。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 \ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎	◎	◎	50%
授業内レポート				評価対象外
授業外レポート				0%
演習・実技		○	○	50%
授業態度				減点あり
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・2/3以上の出席がない学生は評価対象外とする(欠格条件)
・授業態度が悪い学生は成績評価から減点する。指導後も改善が見られない場合は退出させ、それ以降の講義への出席を認めない
・20分以上の遅刻は欠席とみなす
・授業計画は授業の進行状況により前後することがある
・授業には運動のできる服装で臨むこと

関連科目	スポーツトレーナー概論・実習・演習、アスレティックリハビリテーション論・演習、コンディショニング論、アスレティックトレーニング論、スポーツ傷害の予防と評価		
教科書	日本体育協会公認アスレティックトレーナー 専門科目テキスト⑦	参考書	日本体育協会公認アスレティックトレーナー 専門科目テキスト⑤、⑥
連絡先	小田桂吾　第4体育館1階　kg-oda@sendai-u.ac.jp		

授業科目名	スポーツトレーナー概論 Introduction to Sports Trainer				担当教員	山口貴久/竹村英和
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格	NSCA-CSCS
	履修の方法	必修	単位数	2		

授業の概要

スポーツトレーナーには、子どもから高齢者の健康・体力づくりやトップアスリートの傷害予防と競技力向上をサポートする能力が求められる。本講義では、スポーツトレーナーとして必要な基礎的知識を身につけるために、主要な運動プログラムやスポーツ傷害を例にあげ、最近の研究結果や具体例を基に解説する。

授業の一般目標

スポーツトレーナーに必要な「トレーニング・栄養・休養」を基本とした運動プログラムの立案、分析、評価やスポーツ傷害の予防、受傷後のケアと管理法について研究するための専門的基礎を身につける。

授業の到達目標

■	認知的領域	トレーナー活動を実施するための基礎的事項について説明できる。
■	情意的領域	科学的手法を用いたトレーナー環境の構築に取り組むことができるようになる。
■	技能表現的領域	基本的なサポート活動を選手のニーズに応じて構築することができる。

授業計画(全体)

授業テーマに沿った資料を用いての講義が中心となる。授業では主に基本的な理論と実践を取りあげて行う。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の説明 [授業外学習] シラバスを熟読しておくこと	⑨	[テーマ] アスレティックトレーナー(以下AT)とは [内容] ATの役割と、ATの歴史的背景について解説する [授業外学習] 授業資料を基に復習すること
②	[テーマ] 運動、休養、栄養とコンディショニング [内容] 超回復とコンディショニングの関係について説明する。また、資格とパーソナルトレーナーとの関係も解説する。 [授業外学習] 授業資料を基に復習すること	⑩	[テーマ] ATに必要な知識と技術 [内容] ATの活動と資質、それに必要な専門領域について説明する [授業外学習] 授業資料を基に復習すること
③	[テーマ] 持久力とスポーツパフォーマンス [内容] 持久力がスポーツパフォーマンスに及ぼす影響について、最新の研究成果を基に説明する [授業外学習] 授業資料を基に復習すること	⑪	[テーマ] スタッフとの連携と組織の運営 [内容] 医科学スタッフの構成と役割、ATの組織と運営について解説する [授業外学習] 授業資料を基に復習すること
④	[テーマ] 筋力・パワーとスポーツパフォーマンス [内容] 持久力がスポーツパフォーマンスに及ぼす影響について、最新の研究成果を基に説明する [授業外学習] 授業資料を基に復習すること	⑫	[テーマ] スポーツ傷害の予防 [内容] ATの主要業務のひとつであるスポーツ傷害の予防について解説する [授業外学習] 授業資料を基に復習すること
⑤	[テーマ] 神経系とスポーツパフォーマンス [内容] 神経系がスポーツパフォーマンスに及ぼす影響について、最新の研究成果を基に説明する [授業外学習] 授業資料を基に復習すること	⑬	[テーマ] スポーツ現場における応急処置 [内容] ATの主要業務のひとつであるスポーツ現場での応急処置について解説する [授業外学習] 授業資料を基に復習すること
⑥	[テーマ] コンディショニングとスポーツパフォーマン [内容] コンディショニングがスポーツパフォーマンスに及ぼす影響について、最新の研究成果を基に説明する [授業外学習] 授業資料を基に復習すること	⑭	[テーマ] アスレティックリハビリテーション [内容] ATの主要業務のひとつであるアスレティックリハビリテーションについて解説する [授業外学習] 授業資料を基に復習すること
⑦	[テーマ] 発育・発達とスポーツパフォーマンス [内容] 発育・発達がスポーツパフォーマンスに及ぼす影響について、最新の研究成果を基に説明する [授業外学習] 授業資料を基に復習すること	⑮	[テーマ] 検査・測定と評価 [内容] ATの主要業務のひとつである検査・測定と評価について解説する [授業外学習] 授業資料を基に復習すること
⑧	[テーマ] 老化とスポーツパフォーマンス [内容] 老化がスポーツパフォーマンスに及ぼす影響について、最新の研究成果を基に説明する [授業外学習] 授業資料を基に復習すること	⑯	[テーマ] テスト [内容] 筆記試験 [授業外学習]

成績評価方法(方針)

評価は、出席状況、筆記試験、レポートにより行う。各項目の評価割合は、筆記試験が50%、レポートが50%とする。試験は、期末に1回実施する(筆記試験、持ち込み不可)。また、レポートは授業内に課す。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 \ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎			50%
授業内レポート				
授業外レポート			◎	50%
演習・実技				
授業態度				
出席			◎	減点あり

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・2/3以上の出席がない学生は、評価対象外とする(欠格条件)。
・授業態度が悪い学生は、成績評価から減点する。
・20分以上の遅刻は、欠席とみなす。
・授業計画は、授業の進行状況により、多少前後することがある。
・専門的な内容が含まれるので、関連科目の予習および授業後の復習を行うこと。

関連科目	運動生理学(1年)、スポーツトレーナー実習(2年)、スポーツトレーナー演習(2年)、体力相談と運動処方(3年)、ストレングス&コンディショニング演習(3年)、フィットネストレーナー・インターンシップ実習(4年)		
教科書	特に指定しない。	参考書	特に指定しない。
連絡先	山口貴久　第4体育館1階　tk-yamaguchi@sendai-u.ac.jp		

授業科目名	スポーツトレーナー演習 Seminar of Sports Trainer (S.)				担当教員	竹村・鈴木省・高橋弘・内丸・山口・小田・高橋陽・村上・真野
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	演習	関連資格	日本体育協会アスレティックトレーナー
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

スポーツトレーナーには、子どもから高齢者の健康・体力づくりやトップアスリートの傷害予防と競技力向上をサポートする能力が求められることから、各種データの分析結果に基づいた評価およびプログラムの立案を行うことが必要となる。本演習では、スポーツトレーナーとして必要な基礎的能力を身につけるために、各種データの分析・活用方法や実践法について演習を行う。

授業の一般目標

スポーツトレーナー領域の研究法・研究動向をふまえた基礎資料および実験データの収集と分析、統計処理や図表の作成、論理的思考に基づいたレポートの作成、これらを処理するためのPCの活用など、研究の基礎を身につける。

授業の到達目標

■	認知的領域	各種分析結果に基づいた資料収集ができ、データ処理や活用法について説明できる。
■	情意的領域	スポーツトレーナーとして、対象者のニーズに応じたサポート活動に取り組むことができるようになる。
■	技能表現的領域	スポーツトレーナーとして活動するための各種データ分析や評価、管理を実践することができる。

授業計画(全体)

授業テーマに応じた演習を行う。、授業は、担当教員の専門領域に応じて、全体形式もしくはグループ形式で行う。原則として、スポーツトレーナー実習で得られた個々の測定結果等について、基本的な統計処理や図表の作成を行い、集計結果を基にディスカッションを行う。また、各テーマの内容に応じて授業内もしくは授業外レポートを提出させることで、理解度・到達度の確認を行う。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の説明。 [授業外学習] シラバスを熟読しておくこと	⑨	[テーマ] 触診(体表解剖) [内容] 体表から触診可能な筋肉の位置と作用について学習する。 [授業外学習] 授業内容を基に復習すること
②	[テーマ] 体力テストⅠ [内容] 文部科学省の新体力テスト(20～64歳用)について、評価方法や活用方法を説明する。 [授業外学習] 授業内容を基に復習すること	⑩	[テーマ] ストレッチング [内容] ストレッチングの効果について解説・実践する。 [授業外学習] 授業内容を基に復習すること
③	[テーマ] 体力テストⅡ [内容] 文部科学省の新体力テスト(65～79歳用)について、評価方法や活用方法を説明する。 [授業外学習] 授業内容を基に復習すること	⑪	[テーマ] 脳震盪評価 [内容] 脳震盪について解説し、対応や評価の方法について議論する。 [授業外学習] 授業内容を基に復習すること
④	[テーマ] 体力テストⅢ [内容] 高齢者および介護予防のための体力測定について、評価方法や活用方法を説明する。 [授業外学習] 授業内容を基に復習すること	⑫	[テーマ] アライメント [内容] アスレティックリハビリテーションに必要なアライメントチェック・柔軟性テスト・関節弛緩性テストのチェックを行い評価する。 [授業外学習] 授業内容を基に復習すること
⑤	[テーマ] 心拍数・心電図 [内容] ステップテスト前後の心拍数の変動レポートをもとに、運動強度や心理的ストレス、持久力、コンディション等について討論する。 [授業外学習] 授業内容を基に復習すること	⑬	[テーマ] 筋力測定(BIODEX) [内容] BIODEXによる筋力測定の結果を用いて、それぞれのデータの分析方法を学習する。 [授業外学習] 授業内容を基に復習すること
⑥	[テーマ] 形態計測・体脂肪測定 [内容] 前期の実習で測定した値を基に、体格指数を算出・評価する。また、生物学的法則による比較を行う。 [授業外学習] 授業内容を基に復習すること	⑭	[テーマ] 動作観察 [内容] アスレティックリハビリテーションに必要な走行を中心とした動作観察の方法について学習する。 [授業外学習] 授業内容を基に復習すること
⑦	[テーマ] エネルギー代謝 [内容] 前期の実習で得られたデータを基に、安静時・活動時代謝の測定法や1日の総エネルギー消費量などに関する説明および演習を行う。 [授業外学習] 授業内容を基に復習すること	⑮	[テーマ] スポーツ選手と食事 [内容] スポーツ選手の食事環境と生活リズムを考え、コンディショニング管理を栄養学的観点から学習する。 [授業外学習] 授業内容を基に復習すること
⑧	[テーマ] 無酸素パワー [内容] 前期の実習で得られたデータを基に、無酸素パワーについて評価する。 [授業外学習] 授業内容を基に復習すること	⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]

成績評価方法(方針)

評価は、出席状況、演習・実技の実施状況(授業に対する取り組み)、授業外レポートに基づき行う。各項目の評価割合は、出席状況が15%、演習・実技の実施状況(授業に対する取り組み)が55%、授業外レポートが30%とする。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				評価対象外
授業内レポート				評価対象外
授業外レポート	◎		◎	30%
演習・実技	◎		◎	55%
授業態度				減点あり
出席		◎		15%

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・2/3以上の出席がない学生は、評価対象外とする(欠格条件)。
・無断欠席の場合は減点することがある。
・授業態度の悪い学生は、成績評価から減点する。
・授業進行の妨げとなるので、遅刻は厳禁とする。
・テーマに応じて全体もしくはグループ形式で授業を行う。詳細は、1回目の授業にて連絡するので必ず出席すること。
・準備物等は、テーマによって異なるので、1回目の授業にて連絡する。
・Excel・Word・PowerPointの基本操作ができることが望ましい。

関連科目	スポーツトレーナー実習(2年)、運動生理学(2年)、スポーツ医学概論(1年)、スポーツ栄養学(2年)、 アスレティックトレーナー資格取得に関わる科目		
教科書	特に指定しない。	参考書	特に指定しない。
連絡先	竹村研究室(C棟3階)		

授業科目名	スポーツトレーナー実習 Sports Trainer Practicum (F.E.)				担当教員	竹村・鈴木省・高橋弘・内丸・山口・小田・高橋陽・村上
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	実習	関連資格	日本体育協会アスレティックトレーナー
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

スポーツトレーナーには、子どもから高齢者の健康・体力づくりやトップアスリートの傷害予防と競技力向上をサポートする能力が求められる。本実習では、スポーツトレーナーとして必要な基礎的能力を身につけるために、具体的なプログラムを評価する科学的測定方法や実践方法について実習を行う。

授業の一般目標

スポーツトレーナーに必要な「トレーニング・栄養・休養」を基本とした運動プログラムの立案、分析、評価やスポーツ傷害の予防、受傷後のケアと管理法について研究するための基礎を身につける。

授業の到達目標

■	認知的領域	対象者の状況に応じた分析・評価・管理に関する基礎知識と具体的手法について説明することができる。
■	情意的領域	スポーツトレーナーとして、対象者のニーズに応じたサポート活動に取り組むことができるようになる。
■	技能表現的領域	スポーツトレーナーとして活動するための各種分析や評価、管理を実践することができる。

授業計画(全体)

授業テーマに応じた実習を行う。授業は、担当教員の専門領域に応じて、全体形式もしくはグループ形式で行う。また、各テーマの内容に応じて授業内もしくは授業外レポートを提出させることで、理解度・到達度の確認を行う。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の説明。 [授業外学習] シラバスを熟読しておくこと	⑨	[テーマ] ROM(関節可動域) [内容] 骨のランドマークを触知し、関節の基本軸と移動軸を学んで、関節可動域測定を実践する。 [授業外学習] 授業内容を基に復習すること
②	[テーマ] 体力テストⅠ [内容] 文部科学省の新体力テスト(20～64歳用)について、テスト方法や注意点を説明しながら、実際にテストを行う。 [授業外学習] 授業内容を基に復習すること	⑩	[テーマ] ストレッチング [内容] ストレッチングの効果に関する測定方法と、その実際について解説・実践する。 [授業外学習] 授業内容を基に復習すること
③	[テーマ] 体力テストⅡ [内容] 文部科学省の新体力テスト(65～79歳用)について、テスト方法や注意点を説明しながら、実際にテストを行う。 [授業外学習] 授業内容を基に復習すること	⑪	[テーマ] バランス・全身反応時間測定 [内容] バランス能力と全身反応時間について解説し、実際に測定を行う。 [授業外学習] 授業内容を基に復習すること
④	[テーマ] 体力テストⅢ [内容] 高齢者および介護予防のための体力測定について、テスト方法や注意点を説明しながら、実際にテストを行う。 [授業外学習] 授業内容を基に復習すること	⑫	[テーマ] アライメント [内容] アスレティックリハビリテーションに必要な動作観察の方法とアライメントチェックについて解説・実践する。 [授業外学習] 授業内容を基に復習すること
⑤	[テーマ] 心拍数・心電図 [内容] 心拍計を装着し、ステップテストを実施する。データ分析と評価法、さらに心拍計の操作方法について紹介する。 [授業外学習] 授業内容を基に復習すること	⑬	[テーマ] 筋力測定(BIODEX) [内容] BIODEXを用いて筋力測定を実施することにより、その操作方法も同時に理解する。 [授業外学習] 授業内容を基に復習すること
⑥	[テーマ] 形態計測・体脂肪測定 [内容] マルチン氏型人体測定器を用いて、人体各部(長さ・厚さ・深さ・径)の測定を行う。 [授業外学習] 授業内容を基に復習すること	⑭	[テーマ] 動作観察 [内容] アスレティックリハビリテーションに必要な歩行を中心とした動作観察の方法について学習する。 [授業外学習] 授業内容を基に復習すること
⑦	[テーマ] エネルギー代謝 [内容] 呼吸代謝測定装置を用いて酸素摂取量や二酸化炭素排出量などの呼気ガス分析を行い、安静時代謝を測定する。 [授業外学習] 授業内容を基に復習すること	⑮	[テーマ] 測定データの分析 [内容] 各種測定で得られたデータの分析方法について説明し、実際に分析を行う。 [授業外学習] 授業内容を基に復習すること
⑧	[テーマ] 無酸素パワー [内容] パワーマックスを用いて無酸素パワーテストを実施する。 [授業外学習] 授業内容を基に復習すること	⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]

成績評価方法(方針)

評価は、出席状況、実習・実技の実施状況(授業に対する取り組み)、授業外レポートに基づき行う。各項目の評価割合は、出席状況が15%、実習・実技の実施状況(授業に対する取り組み)が55%、授業外レポートが30%とする。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				評価対象外
授業内レポート				評価対象外
授業外レポート	◎		◎	30%
演習・実技	◎		◎	55%
授業態度				減点あり
出席		◎		15%

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・2/3以上の出席がない学生は、評価対象外とする(欠格条件)。
・無断欠席の場合は減点することがある。
・授業態度の悪い学生は、成績評価から減点する。
・授業進行の妨げとなるので、遅刻は厳禁とする。
・テーマに応じて全体もしくはグループ形式で授業を行う。詳細は、1回目の授業にて連絡するので必ず出席すること。
・準備物等は、テーマによって異なるので、1回目の授業にて連絡する。

関連科目	スポーツトレーナー演習(2年)、運動生理学(2年)、スポーツ医学概論(1年)、スポーツ栄養学(2年)、 アスレティックトレーナー資格取得に関わる科目		
教科書	特に指定しない。	参考書	特に指定しない。
連絡先	竹村研究室(C棟3階)		

授業科目名	レジャー・レクリエーション論 Theory of Leisure and Recreation (L.)				担当教員	仲野　隆士
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義(L)	関連資格	レクリエーション・インストラクター　レクリエーション・コーディネーター
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

本講義は社会変化に伴う私達の生活におけるレジャー・レクリエーションの意義や価値を理解すると共に、レクリエーション支援者として理解すべき諸理論の基礎を講義形式で概説する。

授業の一般目標

社会変化に伴う私達の生活におけるレジャー・レクリエーションの意義や価値を理解する。レクリエーション支援者として理解すべき諸理論の基礎を理解する。

授業の到達目標

■	認知的領域	時代の変遷に伴うレジャー・レクリエーションの意義や価値観の変化、ライフスタイルへ取り入れることの重要性などが具体的にわかる
■	情意的領域	レジャー・レクリエーションが心身の調和に果たす機能や役割を理解し、積極的活用を心がけるような行動変容を習得する
□	技能表現的領域	

授業計画(全体)

レジャーやレクリエーションは、スポーツと同様に高齢社会や自由時間増大に伴う生涯学習社会において重要な役割を担っている。それを前提として、テキストもさることながら、補足資料配布によるデータの補強、パワーポイントのスライドによる説明、ビデオの映像により理解を深めるなど、工夫しながら授業を展開していく。何回かに1度、授業中にショートレポートを作成し提出してもらうことにしたい。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーションとイントロダクション [内容] 授業の進め方、筆記試験、評価の説明他 [授業外学習] シラバスを読んでおくこと	⑨	[テーマ] レジャー・レクリエーション活動の動向に関する国際比較 [内容] パワーポイントのスライドを用い説明する [授業外学習] 配布された資料を復習しておくこと
②	[テーマ] レクリエーション活動と健康の関係 [内容] 教員が作成したビデオを通して健康に果たすレクリエーション活動の機能や役割を理解する [授業外学習] 配布資料で復習しておくこと	⑩	[テーマ] 日本人のレジャー・レクリエーション活動の特徴(性・年齢などの比較を通して) [内容] パワーポイントのスライドを用い説明する [授業外学習] 配布された資料を復習しておくこと
③	[テーマ] 遊び・スポーツ・レジャー・レクリエーションの概念1 [内容] 上記テーマについて板書しながら解説する [授業外学習] 書き写したノートを復習しておくこと	⑪	[テーマ] 日本人のレジャー・レクリエーション活動の特徴(時代の変遷との関連) [内容] パワーポイントのスライドを用い説明する [授業外学習] 配布された資料を復習しておくこと
④	[テーマ] 遊び・スポーツ・レジャー・レクリエーションの概念2 [内容] 上記テーマについて板書しながら解説する [授業外学習] 書き写したノートを復習しておくこと	⑫	[テーマ] レクリエーション支援の展開と方法1　高齢社会の課題とレクリエーション [内容] 上記テーマについて板書しながら解説する [授業外学習] 書き写したノートを復習しておくこと
⑤	[テーマ] レジャー・レクリエーションの歴史的変遷・1 [内容] パワーポイントのスライドを用い説明する [授業外学習] 配布された資料を復習しておくこと	⑬	[テーマ] レクリエーション支援の展開と方法2　少子化の課題とレクリエーション [内容] 上記テーマについて板書しながら解説する [授業外学習] 書き写したノートを復習しておくこと
⑥	[テーマ] レジャー・レクリエーションの歴史的変遷・2 [内容] パワーポイントのスライドを用い説明する [授業外学習] 配布された資料を復習しておくこと	⑭	[テーマ] レクリエーション支援の展開と方法3　地域の課題とレクリエーション [内容] 上記テーマについて板書しながら解説する [授業外学習] 書き写したノートを復習しておくこと
⑦	[テーマ] レクリエーション運動の変遷 [内容] パワーポイントのスライドを用い説明する [授業外学習] 配布された資料を復習しておくこと	⑮	[テーマ] レクリエーション事業の計画と安全 [内容] 上記テーマについて板書しながら解説する [授業外学習] 書き写したノートを復習しておくこと
⑧	[テーマ] レジャー・レクリエーションの機能 [内容] パワーポイントのスライドを用い説明する [授業外学習]	⑯	[テーマ] テスト [内容] 持込可の筆記試験を実施する [授業外学習]

成績評価方法(方針)

筆記試験の他、ショートレポート、出席状況、授業態度などを基に、総合的に評価する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎	○		50
授業内レポート	◎	○		50
授業外レポート				評価対象外
演習・実技				評価対象外
授業態度				減点あり
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

関連科目	レクリエーション支援論、野外・レクリエーション・マネジメント論(含演習)など		
教科書	『レクリエーション支援の基礎』(財)日本レク協会編	参考書	『やさしいレクリエーション実践』 (財)日本レクリエーション協会編
連絡先	A棟508仲野研究室		

授業科目名	スポーツマネジメント実習 Practice at Community Physical-Education Facility(F.E.)				担当教員	岡田成弘・仲野隆士・永田秀隆・弓田恵里香・三谷高史・馬佳濛
開講内容	学年・学期	2・集中	授業方法	実習	関連資格	レクリエーション・コーディネーター、 レクリエーション・インストラクター、ジュニアスポーツ指導員
	履修の方法	コース必修	単位数	1		

授業の概要

本実習は、社会教育施設における6日間の実習を通して、スポーツマネジメント関連の授業で修得した知識・技能を実学の場を通して発揮し、指導者としての資質を高めるものである。

授業の一般目標

オリエンテーションにおいては、実習の概要や実習の心得を理解する。実習中は、社会教育施設に適した態度で積極的に業務に専念し、仲間との協調を図る。また、実習を通して指導者としての資質を高めるとともに、さらに身につけるべき知識や技術を確認する。

授業の到達目標

■	認知的領域	実習先の業務内容を理解し、説明できる。
■	情意的領域	実習先で積極的に取り組む。仲間と協力することができる。
■	技能表現的領域	実習先の日々の成果を日誌にまとめることができる。

授業計画（全体）

本実習のねらいや目標を理解するために、実習前のオリエンテーションを3回行う。受講生は、夏季及び冬季休業中の日程を確認し、実習先を決定する。実習施設の代表者による事前オリエンテーションを受けた上で、実習に参加する。なお、実習は、基本的に一週間であり、実習先職員の指示を中心に、施設利用者への指導・支援を行う。具体的な実習内容は、施設によってことなる。

授業テーマとその内容

■事前指導
6月中旬まで
　第1回オリエンテーション・・・スポーツマネジメント実習について（実施概要、実習の心得、日程　調査）（日時・場所は掲示板で告知します）
6月下旬
　実習の日程、施設（班）が決定
7月上旬
　第2回オリエンテーション・・・班ごとにリーダーを決定しと連絡網を作成する。個人調査票の作成（2枚）、実習意志確認書の作成（1枚）を行う。
7月下旬
　第3回オリエンテーション・・・実習施設毎に、実習受入代表者による実習内容等の説明（正装で参加）
8月以降
　本番までに・・・班ごとに施設までの交通手段を決定し、担当教員の報告する
　　実習直前に、リーダーは担当教員に連絡を取り、実習前の確認を取る。また施設の担当者にも電話で連絡をし、挨拶をする。
　実習本番（冬季の実習もある）

■実習先毎に実習
概ね以下のような指導実習を行う。
・施設利用者（小・中・高・大・一般）を対象として指導実習　　・朝、夕の集いにおける司会、ラジオ体操・ゲーム・ソングなどの指導
・団体毎の炊飯指導・ハイキング・キャンプファイヤー・ゲーム大会などへの指導、助言、補助活動
・施設内外の活動エリアの環境整備・所内での生活指導（指導担当職員の指示の下、補助者として活動する）
・指導担当職員から与えられた課題での自由研究や学習　　・指導を受けた内容について確認記録や資料の整理　　・指導略案の作成や実習日誌の整理

■実習施設
　宮城県蔵王自然の家
　宮城県志津川自然の家
　国立花山青少年自然の家
　　※どの施設で実習するかを選ぶことはできない。

■実習費
　約15,000円程度（実習先、活動内容によって少し変わる場合があります）

大学の代表として実習先に受け入れてもらうので、相応しくない学生は、例え履修をしていても実習に行かせることができません。
特に、無断欠席や提出物未提出などがある場合、実習をキャンセルさせることがあります。

成績評価方法（方針）

実習先の指導担当者による評価及び、事前・事後のオリエンテーション・作業に取り組む態度などを基に、総合的に成績評価を行う。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技				
授業態度	◎	◎	◎	100%
出席				

履修上の注意（受講学生に望むこと）

事前オリエンテーションには、必ず全て出席すること。そのためにも、掲示板による連絡事項を見落とさないようにすること。本人のミスで連絡事項を見逃した場合や無断欠席した場合、実習に行かせることはできない。
基本的に、実習には3～8名を1グループとして複数でいくこととなるが、一人ひとりが実習生としての自覚を持ち、他人任せや馴れ合い的な態度で取り組むことが無いようにしてもらいたい。
本コース教員1名が各施設を担当するので、実習前及び実習中に問題などが発生した場合、速やかに連絡を取り対応を仰ぐこと。自分勝手な判断をしないようにしてほしい。

関連科目	スポーツマネジメント概論（2年）、スポーツマネジメント演習（2年）		
教科書	特になし	参考書	特になし
連絡先	岡田研究室　A棟5階　A509		

授業科目名	野外教育・活動論 Outdoor Education & Outdoor Activity				担当教員	岡田　成弘
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義	関連資格	(公社)日本キャンプ協会「キャンプディレクター2級」
	履修の方法	選択必修	単位数	2		

授業の概要

野外教育及び野外活動に関する基礎的な理論と現場における実践例を紹介する。前半は、野外教育及び野外活動についての考え方や用語を整理し、冒険教育や環境教育の歴史や実践例を学ぶ。後半は、組織キャンプの意義や組織、指導者や参加者、自然環境などについて学ぶ。

授業の一般目標

野外教育及び野外活動についての正しい知識を習得し、その意義や価値を理解する。野外教育のプログラム及び指導法について理解し、指導者としての資質を高める。自然の中で活動することの意味を認識し、適切な危機管理能力と環境配慮技能を身につける。自然体験活動について、自分なりの意見を持ち、他者に伝えられるようになる。

授業の到達目標

■	認知的領域	野外教育及び野外活動についての正しい知識を習得し、その意義や価値を説明できるようになる。
■	情意的領域	自然体験活動に興味を持ち、積極的に取り組むようになる。
■	技能表現的領域	適切な危機管理能力と環境配慮技能を身につける。自分の意見を持ち、他者とコミュニケーションをとりながら意思決定を行えるようになる。

授業計画(全体)

前半は配布資料とパワーポイントの説明によって授業を進める。後半は「キャンプディレクター2級」の資格取得に必要なカリキュラムに沿って授業を進める。講義だけではなく、グループワークやディスカッション、スタンツの作成・発表などを行う。また、毎回授業の終わりにリアクションペーパーに感想や簡単な課題を記入する。最終回には、授業内容の確認のための筆記試験を行う。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、成績評価の方法、キャンプインストラクターの資格についての説明する。 [授業外学習]シラバスを熟読する。	⑨	[テーマ] キャンプと人 [内容] キャンプ参加者の特性や対象に応じた対応について説明する。 [授業外学習]配布資料をもとに復習しておく。
②	[テーマ]野外教育と野外活動 [内容] グループワークのための班分け、自己紹介、野外教育・野外活動についての用語や概念について説明する。 [授業外学習]配布資料をもとに復習しておく。	⑩	[テーマ] キャンプと自然 [内容] キャンプにおける自然との関わり方や、人間と自然の関係の歴史的変遷を説明する。 [授業外学習]配布資料をもとに復習しておく。
③	[テーマ] 冒険教育とは [内容] 冒険教育の考え方やプログラム例を説明する。 [授業外学習]配布資料をもとに復習しておく。	⑪	[テーマ] キャンプのルールとマナー [内容] キャンプにおけるルールやマナーの必要性、自然への配慮の方法を説明する。 [授業外学習]必要に応じてグループで集まり、課題に取り組む。
④	[テーマ] 冒険教育の実際 [内容] 冒険教育団体の理念・歴史・活動内容などを説明する。 [授業外学習]配布資料をもとに復習しておく。	⑫	[テーマ]　Leave No Trace [内容] 自然の中で活動する時の7つの原則(技能や倫理観)を説明する。 [授業外学習]配布資料をもとに復習しておく。
⑤	[テーマ] 環境教育とは [内容] 環境教育の考え方や歴史、プログラム例を説明する。 [授業外学習]配布資料をもとに復習しておく。課題レポートに取り組む。	⑬	[テーマ] キャンプの安全管理1 [内容] キャンプにおけるリスクマネジメントの考え方について説明する。 [授業外学習]配布資料をもとに復習しておく。
⑥	[テーマ] 環境教育の実際 [内容] 環境教育プログラムを体験し、パッケージドプログラムについて理解する。 [授業外学習]配布資料をもとに復習しておく。課題レポートに取り組む。	⑭	[テーマ] キャンプの安全管理2 [内容] キャンプ中に起こりえる事態に対する対処法について説明する。 [授業外学習]配布資料をもとに復習しておく。
⑦	[テーマ] キャンプの特性 [内容] キャンプの意義や目的、組織の種類について説明する。 [授業外学習]配布資料をもとに復習しておく。	⑮	[テーマ] まとめと振り返り [内容] 授業のふりかえりを行い、筆記試験の対策を行う。 [授業外学習]これまでの授業資料を元に復習し、筆記試験に備える。
⑧	[テーマ] キャンプの指導 [内容] キャンプ指導者の役割や資質、スキルについて説明する。 [授業外学習]配布資料をもとに復習しておく。	⑯	[テーマ] 筆記試験 [内容] 筆記試験を実施する。 [授業外学習]

成績評価方法(方針)

出席点(リアクションペーパー含む):20点　→　欠席　－2点　　遅刻・欠席証明　－1点　　5回以上休むと単位を認定しない
課題(小レポートとグループ課題)　:30点
筆記試験(期末試験、持込不可)　:50点

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎			50%
授業内レポート				
授業外レポート	○		○	15%
演習・実技	○	◎	◎	15%
授業態度				
出席		◎		20%

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・第2回以降、班を決めて班ごとに着席します。また、毎回グループワークを行います。グループの中でディスカッションをしたり、発表をしたりします。

関連科目	キャンプ実習(1年集中)、スポーツマネジメント実習(2年)、野外・レクリエーション・マネジメント論(3年前期)、野外・レクリエーション・マネジメント実習(3年)		
教科書	特になし	参考書	杏林書院「野外教育の理論と実践」
連絡先	岡田研究室(A棟509)		

授業科目名	野外・レクリエーション・マネジメント論（含演習） Management of Outdoor and School Recreation Activities（L. S. ）				担当教員	仲野隆士・高崎義輝・岡田成弘
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義・演習	関連資格	レクリエーション・コーディネーター
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

野外・学校レクリエーション ・イベント企画について、レクリエーション支援のマネジメント論などを基に企画、立案、プロモーション、プレゼンテーションまでの過程について事例を用いたり実際にグループワークを通して習得させる。また、生涯スポーツとして近年、多くの国民に親しまれている「ウォークラリー」をテーマに、コマ図作成から企画と運営を模擬的に体験する中で野外・学校レクリエーション・イベントの実際について習得させる。

授業の一般目標

企画、立案、プロモーション、プレゼンテーションまでの過程について実際にグループワークを通して学習し理解する。「ウォークラリー」をテーマに、コマ図作成から企画と運営を模擬的に体験する中で野外・学校レクリエーション・イベントの実際について理解する。

授業の到達目標

■	認知的領域	野外・学校レクリエーションのマネジメントに必要な基礎的な知識や技術を説明できる
■	情意的領域	野外・学校レクリエーション活動の楽しみや面白さなどを体験を交えて伝えることができる
■	技能表現的領域	ウォークラリーや簡単な野外・学校レクリエーションの企画と運営ができる

授業計画（全体）

レクリエーションや野外活動などの指導者が地域や職場、学校などで野外における活動支援（イベントや教室を含む）を実施する場合に要求されるレクリエーション・マネジメントの部分を主眼に学習を進める。ウォークラリーの企画と運営は、実際に作成したコマ図を基にコースを歩き体験する。その他は野外・学校レクリエーション事業のマネジメントの授業を7回展開する。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション（仲野・高崎・岡田） [内容] ・担当教員の紹介、授業目標と進め方、成績評価の方法 ・野外レクリエーションの実際(ウオークラリーの事例) [授業外学習] シラバスを読んでおく。	⑨	[テーマ] プロジェクトワイルド 体験・指導準備 [内容] 環境教育プログラムのパッケージドプログラムであるプロジェクトワイルドを体験する。次回授業で指導できるように準備を行う。 [授業外学習]プロジェクトワイルドを指導できるように準備してくる。
②	[テーマ] ウオークラリー・イベント企画1 [内容] ・ウオークラリー・イベント企画のための基礎知識 ・ウォーキングマップの作成のための現場下見 [授業外学習] 配付資料をもとに復習しておくこと	⑩	[テーマ] プロジェクトワイルド 指導 [内容] アレンジを加えたプロジェクトワイルドを指導する。最後に、野外教育プログラムの指導法について解説する。 [授業外学習]野外教育の指導法について復習する。
③	[テーマ] ウオークラリー・イベント企画2 [内容] ・ウォーキングマップの作成 [授業外学習] 配付資料をもとに復習しておくこと	⑪	[テーマ] 野外・学校レクのマネジメントの実際 仲野1 [内容] 目玉っこコンクールを実施し、表彰までを演出する [授業外学習] 身近なテーマでできる野外レクイベントを理解する
④	[テーマ] ウオークラリー・イベント企画3 [内容] ・ミニウォーラリー大会の実施 [授業外学習] 配付資料をもとに復習しておくこと	⑫	[テーマ] 野外・学校レクイベント企画のための基礎理論の学習 仲野2 [内容] 学校や地域におけるレクリエーション・イベント企画のための基礎理論の学習 [授業外学習]レジャー・レクリエーション関連のイベントについて話ができるように
⑤	[テーマ] ウオークラリー・イベント企画4 [内容] ・ミニウォーラリー大会の振り返りとまとめ [授業外学習] 配付資料をもとに復習しておくこと	⑬	[テーマ] 野外・学校レクイベント企画のための基礎理論の学習 仲野3 [内容] 具体的な事例に基づくレクリエーション・イベントの立案 分けられた班毎に取り組む [授業外学習] 配布されたイベント立案に必要な資料を予め予習しておくこと
⑥	[テーマ] イニシアティブゲーム 体験 [内容] グループに分かれて野外教育プログラムの一つであるイニシアティブゲームを体験し、その理論と実践方法を理解する。 [授業外学習]イニシアティブゲーム開発のアイディアを考えてくる。	⑭	[テーマ] 野外・学校レクイベント企画のための基礎理論の学習 仲野4 [内容] レクリエーション・イベント企画案のプレゼンテーションの準備 [授業外学習] 時間内にまとめきれない場合は、班毎に集まり完成させておくこ
⑦	[テーマ] イニシアティブゲーム 開発・指導準備 [内容] イニシアティブゲームのプログラム開発に取り組む。次回指導ができるように準備を行う。 [授業外学習]イニシアティブゲームを指導できるように準備してくる。	⑮	[テーマ] 野外・学校レクイベント企画のための基礎理論の学習 仲野5 [内容] レクリエーション・イベント企画案プレゼンテーションの実施：各班10分程度のプレゼンテーションとする [授業外学習] プレゼンテーションのためのパワーポイントスライドを完成させておく
⑧	[テーマ] イニシアティブゲーム 指導 [内容] グループごとに開発したイニシアティブゲームを、実際に指導する。参加者からのフィードバックをもとに、ゲームを完成させる。 [授業外学習]フィードバックをもとにゲームを完成させレポートを作成する。	⑯	[テーマ] 総括：全体のまとめ 修了レポート作成 [内容] [授業外学習]

成績評価方法（方針）

イベント企画の企画書の内容、ウォークラリーのコマ図の完成度、ポスターなどの完成度、プレゼンテーションなどを基に、総合的に評価する。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				評価対象外
授業内レポート	○			40
授業外レポート			◎	30
演習・実技			◎	30
授業態度			◎	減点あり
出席				欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

関連科目	レジャー・レクリエーション論、レクリエーション支援論、野外教育・活動論など		
教科書		参考書	『やさしいレクリエーション実践』日本レクリエーション協会編 他
連絡先	仲野・高崎・岡田 各研究室		

授業科目名	野外レクリエーション・マネジメント実習 Outdoor Recreation Management Internship				担当教員	岡田　成弘、仲野　隆士
開講内容	学年・学期	3・通年	授業方法	実習	関連資格	レクリエーション・コーディネーター
	履修の方法	選択必修	単位数	1		

授業の概要

大学での講義・演習の授業で修得した知識・技能をもとに、実社会における現場実習を通し、より実践的な能力を培う。特に、野外活動指導者やレクリエーションの指導者として身につけるべき資質・知識・技術を関連施設における10日程度の実習を通してマネジメントの観点から体験的に学習する。

授業の一般目標

事前指導においては、実習の概要や実習の心得を理解する。実習中は、積極的に業務に取り組み、現場での経験を通して、野外レクリエーションの実態を学ぶ。実習後は、実習先の課題と現状をレポートとしてまとめ、実習での取り組みや成果をプレゼンテーションとして発表する。

授業の到達目標

■	認知的領域	実習先の職務内容を理解し、説明できる. 実習先の現状と課題を把握・分析することができる。
■	情意的領域	実習先で積極的に取り組む。協力することができる
■	技能表現的領域	実習先での日々の成果を日誌にまとめることができる。実習で学んだことをプレゼンテーションすることができる。

授業計画（全体）

本実習のねらいや目標を理解するために、実習前のオリエンテーションを数回行う。5～6月に受講生全員を集めてオリエンテーションを行い、その際に最終的に実習先施設を決定する。6月以降は、施設ごとに事前指導を受けた上で、実習に参加する。なお、実習は、基本的に10日間であり、実習先職員の指示を中心に、施設利用者への指導・支援を行う。具体的な実習内容は、施設によってことなる。

授業テーマとその内容

■オリエンテーション（5～6月の予定）
本実習の履修者全員を集めて、実習の概要、実習先の紹介、実習先を決定する

■事前指導（6～7月の予定）
実習までに延べ1～2回の事前指導を実施する
・ 実習受け入れ団体の内容把握
・ 事前準備の確認
・ 実習先職員による最終オリエンテーション

■実習先毎に実習
期間原則として10日間以上（原則的に，受け入れ団体の要望に応じる）
《基本的な学習内容》
・ 職務の理解
・ 実習先の理解
・ 職場におけるコミュニケーション
〈専門的な学習内容〉（例）
・ イベントの企画・運営・評価
・ 用具，備品の管理
・ 文書の作成
※ 担当教員による巡回指導

■事後指導
実習のふりかえりと評価
・ レポートの作成
・ 受入団体別プレゼンテーション

■実習先
・みちのく杜の湖畔公園 エコキャンプみちのく、 ハイジキッズアカデミー、 モリウミアス、 くりこま高原自然学校、 仙台市体育館（親子でキャンプinおおくら）

その他、各自で実習先を選んでもよい。その場合、必ず野外レクリエーションを実践している施設・団体を選ぶこと。また、事前に必ず岡田・仲野に相談すること。

成績評価方法（方針）

実習先の指導担当者による評価、レポート、プレゼンテーション、事前オリエンテーション参加状況・態度などを基に、総合的に成績評価を行う。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				
授業内レポート	○	○	○	15%
授業外レポート	○	○	○	15%
演習・実技				
授業態度	◎	◎	◎	70%
出席				

履修上の注意（受講学生に望むこと）

各自が、主体的・積極的に取り組むことが何よりも大切な前提条件となる。単なる授業として取り組むのではなく、卒業後の就職につながるように前向きな気持ちで積極的に関わってもらいたい。
事前指導に出席していない学生は、実習に参加することができないので、掲示板を確認のうえ必ず事前指導に参加すること。なお、実習にあたっては、受け入れ団体への交通費・滞在費・食等を自己負担する必要があるので注意すること。

関連科目	スポーツマネジメント概論，スポーツマネジメント演習，スポーツマネジメント実習，スポーツ施設の経営・管理，スポーツクラブ・マネジメント論（含演習），野外・レクリエーション・マネジメント論（含演習），野外教育・活動論，キャンプ		
教科書	特になし	参考書	実習先によって適宜紹介する
連絡先	仲野研究室A棟5階508、岡田研究室A棟5階509		

授業科目名	スポーツクラブ・マネジメント論(含演習) Management of Sport Clubs (L.(S.))				担当教員	永田秀隆・弓田恵里香
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義・演習	関連資格	レクリエーション・コーディネーター
	履修の方法	選択必修	単位数	2		

授業の概要

スポーツを指導・振興する上で、経営的なものの見方や考え方は公共・民間を問わず重要である。スポーツ組織としての各種スポーツクラブに着目し、そこでのマネジメントの現状を踏まえ、今後よりよく実践していくためにはどのような視点、あるいは技術が必要となるのか、認識した上で実践できるようにする。

授業の一般目標

各種のスポーツクラブ等におけるマネジメントに関する知識を理解するとともに、その知識を踏まえ現場で実践できるような技術を身につける。

授業の到達目標

■	認知的領域	スポーツクラブにおけるマネジメントの基本構造が説明できる。
■	情意的領域	総合型地域スポーツクラブや民間スポーツクラブでのマネジメントを職業としても意識することができる。
■	技能表現的領域	スポーツクラブでのマネジメントの理解を通して、実際にクラブを経営できうる技能を身につけることができる。

授業計画(全体)

本授業はスポーツクラブ・マネジメント実習にスムーズに取り組めるための前提科目と考えており、より現場を意識した実践的な授業内容(演習的要素が強い)となる。授業方法はティーム・ティーチング方式を取り入れ、個々の学生やグループにキメの細かい対応ができるように心がける。テーマに沿った資料を必要に応じて配布し、また理解を深めるためDVD等も活用する。数回授業内容に沿ったレポートを課すので、授業内容を各自がそれなりに理解しておくことが重要である。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション／生涯スポーツ論 [内容] 教員紹介、授業概要(目標、進め方、シラバス、成績評価方法等)の説明／生涯スポーツの概念、必要性や方法について概説する [授業外学習]シラバスを熟読すること	⑨	[テーマ] クラブのつくり方 [内容] 事業計画(ビジネスプラン)作成に向け組織・プロセス・法人格といった構成要素の説明も含めDVD等の視聴により総合型クラブの実際の姿をイメージする [授業外学習]
②	[テーマ] スポーツクラブの意義 [内容] 総合型地域スポーツクラブ(以下、総合型クラブ)や民間スポーツクラブがなぜ必要なのか、その意義や役割について解説し、考察する [授業外学習]スポーツクラブとはどのようなものか調べておく	⑩	[テーマ] マーケティング [内容] スポーツクラブのマーケティングにおける意義、プロセス、広告・宣伝・会員募集戦略等について説明し、実際の方法について考える [授業外学習]マーケティングとは何か、復習しておく
③	[テーマ] 地域におけるスポーツ行政 [内容] 総合型クラブの場合、行政との関わりは必要不可欠であることが多い事から、地域社会における総合型クラブと行政との連関について考える [授業外学習]行政がクラブにどのような役割を果たすか考える	⑪	[テーマ] スポーツ施設・設備の管理 [内容] スポーツ施設や設備等といった、特にハード面の経営・管理について概説する。また、近年注目される指定管理者制度との兼ね合いについても述べる [授業外学習]指定管理者となっているスポーツクラブの事例を収集しておく
④	[テーマ] クラブの事業計画と事業内容 [内容] クラブのミッションやビジョンに基づき、スポーツクラブの柱となる事業について、その計画の立て方や内容について説明する [授業外学習]クラブの事業内容に関するイメージを膨らませておく	⑫	[テーマ] 財源の確保と効率的な資金運用(会計事務管理含む) [内容] 上記テーマについて、専門的な立場の方をお招きし、その詳細及び具体例について解説いただき、また試算等を体験する [授業外学習]スポーツクラブにおける支出の項目(費目)を考えてくる
⑤	[テーマ] 事業評価(経営評価)と結果の活用 [内容] 前回授業の事業計画と内容を評価することの必要性とその仕方、また結果をその後へ活用させることの意義等について述べる [授業外学習]経営評価とはどういうことか調べておく	⑬	[テーマ] リスクマネジメント [内容] 指導レベルでのリスクのみならず、クラブ運営にまつわるリスクの存在を列挙し、そのことについて考察を深める [授業外学習]リスクマネジメントの定義を調べておく
⑥	[テーマ] 事業評価(経営評価)の実際 [内容] 事業評価(経営評価)の考え方の中から、特に住民側の評価(経営成績の評価)について、質問紙調査を想定し、実際にアンケートを作成する [授業外学習]質問紙を下書きし、ワープロで打ち、期限までに提出	⑭	[テーマ] 事業計画書(ビジネスプラン)の作成① [内容] これまでの講義・演習の内容を最大限に活かし、より具体的かつ実践可能性の高い計画書を作成する [授業外学習]クラブが対象とする地域的な範囲や特性について調べる
⑦	[テーマ] クラブマネジャーの役割 [内容] スポーツクラブの核となるクラブマネジャーの役割、資質等について解説し、その後チェックシートにて各自のマネジャーとしての能力・資質を確認する [授業外学習]マネジャーの役割についてイメージを膨らませておく	⑮	[テーマ] 事業計画書(ビジネスプラン)の作成② [内容] これまでの講義・演習の内容を最大限に活かし、より具体的かつ実践可能性の高い計画書を作成する、という前回の続きであるが、ワープロで仕上げる [授業外学習]事業計画書(ビジネスプラン)の書式をフォーマットしておく
⑧	[テーマ] ホスピタリティ・マネジメント [内容] 現場で活躍するクラブマネジャーをお招きし、マネジャーとしての取組みやクラブ運営について、ホスピタリティ・マネジメントの考え方も交え、報告いただく [授業外学習]当該スポーツクラブのことを事前に調べておく	⑯	[テーマ] レポート [内容] レポートの振り返り [授業外学習]

成績評価方法(方針)

授業外レポート(50%)、授業内レポートとリアクションペーパー(50%)の結果に基づき、総合的に評価する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				評価対象外
授業内レポート	◎			50%
授業外レポート	◎	◎	◎	50%
演習・実技				評価対象外
授業態度				減点アリ
出席				欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・本授業は、体育学科スポーツマネジメント・コースの選択必修科目となる。また、スポーツクラブ・マネジメント実習の前提科目との位置づけでもあるので、前記実習を希望する学生は、特に皆出席を目指してもらいたい。
・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない(欠格条件)。
・授業態度が悪い学生に対しては、成績評価から減点する。
・15分以上の遅刻は欠席とみなす。
・授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。

関連科目	スポーツ経営学(1年)、スポーツマネジメント概論(2年)、スポーツマーケティング論(2年)、地域スポーツ戦略論(2年)、スポーツ産業論(3年)、スポーツクラブ・マネジメント実習(3年)、スポーツ政策論(4年)		
教科書		参考書	(財)日本体育協会『総合型クラブ創設ガイド』、武藤泰明『プロスポーツクラブのマネジメント』東洋経済新報社他
連絡先	A棟3階312:永田研究室(hd-nagata@sendai-u.ac.jp)　A棟5階504:弓田研究室(er-yumita@sendai-u.ac.jp)		

授業科目名	音楽・器楽演奏 Instrumental music performance				担当教員	荒井　富雄
開講内容	学年・学期	4・半期	授業方法	演習	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

本学は体育系大学として、各専門スポーツで培ったチームワークのよさを、音楽実技を通してコミュニケーション能力を高め、他を思いやる心の育成を計る。

授業の一般目標

音楽のもつ多様なコミュニケーション能力を用いて、人間関係を円滑で豊かにする資質を養う。

授業の到達目標

■	認知的領域	音楽の三要素の一つであるリズムは、体育活動においても重要な要素であることを認識できるようになる。
■	情意的領域	音楽活動を通して音楽の一体化を図れるようになる。
□	技能表現的領域	

授業計画（全体）

1.キーボードを使って各自のレベルに応じた曲を弾く
2.二部合唱練習
3.有名作曲家の物語りを通して作品や時代背景等の学習（ビデオやDVDの鑑賞）

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法	⑨	[テーマ] 合唱練習 [内容] ①合唱練習　②器楽による小アンサンブル練習
②	[テーマ] 音楽の三要素 [内容] ①音楽の三要素　②これからの合唱における各パート決め	⑩	[テーマ] 合唱練習 [内容] ①合唱練習　②器楽による小アンサンブル練習
③	[テーマ] 合唱練習 [内容] ①合唱練習　②器楽による小アンサンブル練習	⑪	[テーマ] 合唱発表 [内容] ①合唱発表　②発表結果を互いに比較検討する
④	[テーマ] 合唱練習 [内容] ①合唱練習　②器楽による小アンサンブル練習	⑫	[テーマ]　器楽演奏発表 [内容]　器楽演奏発表
⑤	[テーマ] 合唱発表 [内容] ①合唱発表　②発表結果を互いに比較検討する	⑬	[テーマ] 鑑　賞 [内容] 鑑　賞
⑥	[テーマ] 鑑　賞 [内容] 鑑　賞	⑭	[テーマ] 鑑　賞 [内容] 鑑　賞　（鑑賞結果のディスカッション）
⑦	[テーマ] 鑑　賞 [内容] 鑑　賞　（鑑賞結果のディスカッション）	⑮	[テーマ] まとめ(レポート) [内容] まとめ(レポート)
⑧	[テーマ] 音楽心理学 [内容] ①音楽心理学　②ボディパーカッション(リズムアンサンブル)	⑯	[テーマ] テスト [内容] 実技テスト

成績評価方法（方針）

試験は期末試験を一回とする。 毎時間の授業態度(興味・関心・意欲・態度)など50点、実技試験30点、レポート20点の配分で総合的に評価する。
出席率が2/3以上充ない者は、原則として評価の対象外とする。(各時間毎に、準備した評価カードに学生の自己評価を記入させる。)

成績評価方法（詳細）

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験				
授業内レポート				
授業外レポート	◎			20%
演習・実技			◎	30%
授業態度	◎			50%
出席				減点あり

履修上の注意（受講学生に望むこと）

・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない(欠格条件)。
・授業態度が悪い学生に対しては、成績評価から減点する。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。
・授業中は携帯電話をかばんの中にしまうこと。
・大学設置基準において、90分の授業に対して、予習・復習を各90分行うことが義務付けられている。このシラバスを参考に、しっかりと予習・復習を行うこと。毎週の90分の授業参加だけでは、単位を取得できないと肝に銘じておくこと。
・授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。

関連科目	なし		
教科書	特に指定しない	参考書	なし
連絡先			

授業科目名	スポーツターフ管理概論　Ⅰ Introduction to Sport Turf Management Ⅰ				担当教員	小島　文雄
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格	芝草管理技術者資格3級，　スポーツターフ管理士
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

受講生は80名以内(実習送迎バスの定員)とし、希望者多数の時はオリエンテーション時に行なう小テスト(一般常識と授業に取り組む抱負)の総合評価で上位者とする。スポーツターフの構造をベースとして、施設管理について体系的に講義を行う。教員を目指す学生に対し校庭芝生化に関して、知識や技術を身につけ授業や部活の運営に役立てる事を指導する。体育施設を運営する企業や一般企業を目指す学生も同様である。

授業の一般目標

(1)スポーツターフ施設の構造を把握し、管理方法に加え、関連法規、経済性および自然環境保全に関することなど幅広い専門知識を習得して顧客満足度を満たす管理の仕方を考える事が出来る様になる。(2)スポーツターフ施設が安全に保たれる管理手法を身に付ける様になる。
(3)以上を踏まえて、授業外課題に取り組み、商業スポーツターフ施設の「経営理念」、「社是」、「社訓」を考察する事が出来る様になる。

授業の到達目標

■	認知的領域	スポーツターフ施設管理の構造と維持管理及び経営管理について説明できる。授業で取り上げた問題について、自分の意見を述べることが出来る。二つの資格の研修会と同等の芝生管理技術者に必要な初歩的な知識や芝生に関する療法的知識を習得できる。
■	情意的領域	スポーツターフ施設の経営管理について感心を深め、自らの力で授業外課題を設定し探求する意欲を持つことが出来るようになる。施設を大切に扱う心がけが身に付ける様になり、興味関心のある内容に意欲的に取り組む様になる。相手に優しく接する気持ちが養われる。
■	技能表現的領域	課題を文章に表現し、口頭で発表出来るようになる。インターネットを駆使して企業の経営理念、社是、社訓や企業業績を探し出すことが出来る様になる。面接などで優位に立てる様になる。体育施設維持管理の道具や機器を操作して、均一な整備を知る。

授業計画(全体)

授業テーマに沿った資料を用いた講義と第二グラウンドラグビー・アメフト天然芝生での実習が中心で、実物見本やプロジェクターを用いて管理作業方法を知る。数回の授業時にアンケートで、感想・興味度・理解度、・到達度を確認する。また課題を考察し発表も行う。理念に基づいた目標設定は就職活動や人生設計への応用が出来る様になる。連絡事項や資料は一斉メールで送信するので、学内の所定の手続きをする。文科省が定める予習・復習の時間として授業時間外実習も行う。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ]　オリエンテーション。二つの資格について 解説する [内容]　担当教員の紹介、授業の概要、目標、計画、成績評価について説明する。芝生維持管理に関する資格について説明する [授業外学習]　シラバスと学生便覧の資格に関する該当項目を熟読する	⑨	[テーマ]　芝生に関する療法的知識、学外講師による講義 [内容]　芝生の生理的、心理的効果をストレス緩和や療法的効果に活かす手法について説明する [授業外学習]　構内芝生の育成を常に興味を持って観察する
②	[テーマ]　構内芝生における実習その1 [内容]　芝刈り機械(手押し方式、乗用方式)の操作方法を実習する。各自のポットに芝草の種をまき成長を観察する [授業外学習]　構内芝生の育成を常に興味を持って観察する	⑩	[テーマ]　芝生管理機械、芝草学会講師による講義 [内容]　1．草刈り機の種類と機能、2．管理機械の種類と機能、3．今後の管理機械について [授業外学習]　構内芝生管理の授業外実習に積極的に参加する
③	[テーマ]　芝草入門　Ⅰ、芝草学会講師による講義 [内容]　芝生概説、芝生概論について説明する。芝生の持つ機能について、芝生の一般的な特性について [授業外学習]　構内芝生の育成を常に興味を持って観察する	⑪	[テーマ]　芝生の雑草管理、芝草学会講師による講義 [内容]1．雑草防除の基礎、2．芝草雑草の特徴、3．除草剤の作用特性、4．芝地における雑草 [授業外学習]　構内芝生の育成を常に興味を持って観察する
④	[テーマ]　構内芝生における実習その2 [内容]　芝生の種類(暖地型洋芝、寒地型洋芝)を観察し、芝刈り機械(手押し方式、乗用方式)の操作方法を実習する [授業外学習]　構内芝生管理の授業外実習に積極的に参加する	⑫	[テーマ]　構内芝生における実習その4、 [内容]　芝生の種類(暖地型洋芝、寒地型洋芝)を観察し、芝刈り機械(手押し方式、乗用方式)の操作方法を実習する。小テストの実施と解説 [授業外学習]　構内芝生管理の授業外実習に積極的に参加する
⑤	[テーマ]　芝草入門　Ⅱ、芝草学会講師による講義 [内容]　暖地型芝草の種類と特性、寒地型芝草の種類と特性について [授業外学習]　構内芝生の育成を常に興味を持って観察する	⑬	[テーマ]　商業スポーツターフ施設の経営理念(課題発表会)、第2回小テスト [内容]　課題を発表し、プレゼンテーション力を養う。P(計画)　D(実施)　C(点検)　A(改善)サイクルで改善する [授業外学習]　授業外課題を見直し改善すべき所がある時は再提出する
⑥	[テーマ]　芝生の一般管理、芝草学会講師による講義 [内容]　1．芝生の管理とは、2．芝生の刈り込み、3．芝生の施肥、4．芝生の灌水について説明する [授業外学習]　構内芝生管理の授業外実習に積極的に参加する	⑭	[テーマ]　定期期末試験 [内容]　授業の理解度・到達度を確かめるために期末試験を実施する [授業外学習]　定期期末試験に備えて復習する
⑦	[テーマ]　構内芝生における実習その3 [内容]　芝生の種類(暖地型洋芝、寒地型洋芝)を観察し、芝刈り機械(手押し方式、乗用方式)の操作方法を実習する [授業外学習]　構内芝生管理の授業外実習に積極的に参加する	⑮	[テーマ]　学外施設見学会および実習＝スポーツターフ施設管理の実際 [内容]　表蔵王国際ゴルフクラブを見学して、芝生の維持管理について説明。各種維持管理機械を見学し作業状況を説明する。 [授業外学習]　芝生管理の機械類にはどの様な物があるか説明出来る様にする。
⑧	[テーマ]　商業スポーツターフ施設の経営理念　その1，第1回小テスト [内容]　経営理念・社是・社訓はどのように考えられ、実施されているかを説明。企業経営の目的や経営方針書について説明する [授業外学習]　自ら経営する商業施設を仮想し、顧客満足度の高揚を考察する	⑯	[テーマ]　学外施設見学会および実習＝スポーツターフ施設管理の実際 [内容]　土曜日2コマ分の所要時間で20人位づつの参加人数に組み分けして⑮と⑯を連続で実施する。3回実施の中から都合の良い時に参加する。 [授業外学習]　上記と同じ

成績評価方法(方針)

期末試験を1回実施，実技テストおよび授業内レポート提出(小テスト)を実施する。授業外レポート(課題)を課す。なるべくメールで提出する(メール操作は評価に加えない)。これらの結果を総合して成績評価を行う。出席は欠格条件となる。大会や実習で欠席するときは欠席届を提出する(0.4ポイント扱い)。更に自習成果表を提出する(0.4から0.6ポイント扱い)。授業外実習(約60分)は0．7ポイントとして加味する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎			50%
授業内レポート	◎	◎		20%
授業外レポート	◎	◎	◎	30%
演習・実技		○	◎	減点あり
授業態度		○		減点あり
出席		◎		欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・同名Ⅱを先に受講する事が出来る
・60%以上の出席が無い学生は、単位を修得することができない
・授業中の私語厳禁(対策として指定席制も実施予定)
・出席や小テストの点数などが不足するときは相談する、救済策は提出物や構内実習の追加などで用意するので簡単に諦めない
・授業計画は、授業の進み方や構内実習の日の天候により、多少変更あり
・資格取得希望者は二つの団体が主催する研修会を受講し認定試験を受験して資格を取得する。認定校申請準備中
・出席率70%以上の学生を認定研修会の受講と認定試験の受験に推薦する

関連科目	スポーツターフ管理概論Ⅱ(3年)、スポーツ施設管理概論Ⅰ(3年)、スポーツ施設管理概論Ⅱ(3年)　スポーツ施設の経営管理(3年)		
教科書	各種協会・団体・各講師編集のテキスト(授業中に配布)	参考書	＊体育・スポーツ系大学生のための論文・レポートの書き方 ＊屋外体育施設の建設指針　＊ほか
連絡先	事務室:A棟1階営繕管理室内　オフィスアワー:火曜日10:20～11:50、Email:fm-ojima@sendai-u.ac.jp TEL:0224-55-1579		

授業科目名	スポーツターフ管理概論 Ⅱ Introduction to Sport Turf Management Ⅱ				担当教員	小島 文雄
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義	関連資格	芝草管理技術者資格3級, スポーツターフ管理士
	履修の方法	選択	単位数	2		

授業の概要

受講生は80名以内(実習送迎バスの定員)とし、希望者多数の時はオリエンテーション時に行なう小テスト(一般常識と授業に取り組む抱負)の総合評価で上位者とする。スポーツターフの構造をベースとして、施設管理について体系的に講義を行う。教員を目指す学生に対し校庭芝生化に関して、知識や技術を身につけ授業や部活の運営に役立てる事を指導する。体育施設を運営する企業や一般企業を目指す学生も同様である。

授業の一般目標

(1)スポーツターフ施設の構造を把握し、管理方法に加え、関連法規、経済性および自然環境保全に関することなど幅広い専門知識を習得して顧客満足度を満たす管理の仕方を考える事が出来る様になる。(2)スポーツターフ施設が安全に保たれる管理手法を身に付ける様になる。
(3)以上を踏まえて、授業外課題に取り組み、スポーツターフ施設の管理の実際を考察する事が出来る様になる。

授業の到達目標

■	認知的領域	スポーツターフ施設管理の構造と維持管理及び経営管理について説明できる。授業で取り上げた問題について、自分の意見を述べることが出来る。二つの資格の研修会と同等の芝生管理技術者に必要な初歩的な知識や芝生に関する療法的知識を習得できる。
■	情意的領域	スポーツターフ施設の経営管理について感心を深め、自らの力で授業外課題を設定し探求する意欲を持つことが出来るようになる。施設を大切に扱う心がけが身に付ける様になり、興味関心のある内容に意欲的に取り組む様になる。相手に優しく接する気持ちが養われる。
■	技能表現的領域	課題を文章に表現し、口頭で発表出来るようになる。インターネットを駆使して企業の経営理念、社是、社訓や企業業績を探し出すことが出来る様になる。面接などで優位に立てる様になる。体育施設維持管理の道具や機器を操作して、均一な整備を知る。

授業計画(全体)

授業テーマに沿った資料を用いた講義と第二グラウンドラグビー・アメフト天然芝生での実習が中心で、実物見本やプロジェクターを用いて管理作業方法を知る。数回の授業時にアンケートで、感想・興味度・理解度、・到達度を確認する。また課題を考察し発表も行う。理念に基づいた目標設定は就職活動や人生設計への応用が出来る様になる。連絡事項や資料は一斉メールで送信するので、学内の所定の手続きをする。文科省が定める予習・復習の時間として授業時間外実習も行う。

授業計画(各回のテーマ等)

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション、二つの資格について 解説する [内容] 担当教員の紹介、授業の概要、目標、計画、成績評価について説明する。芝生維持管理に関する資格について説明する [授業外学習] シラバスと学生便覧の資格に関する該当項目を熟読する	⑨	[テーマ] 構内芝生における実習その4 [内容] 春季、夏季の除草剤、防虫剤、殺菌剤などの散布や散水を観察したり実習する。 [授業外学習] 構内芝生の育成を常に興味を持って観察する
②	[テーマ] 芝生の土壌・肥料、芝草学会講師による講義 [内容] 1. 土壌の種類と組成、2. 物理性、3. 化学性、4. 微生物性、5. 芝生の土壌改良,6. 肥料の有効成分、7. 芝地の施肥法 [授業外学習] 構内芝生管理の授業外実習に積極的に参加する	⑩	[テーマ] 構内芝生における実習その5 [内容] 春季における芝生の成長を観察し、芝刈り機械(手押し方式、乗用方式)の操作方法を実習する 。 [授業外学習] 構内芝生の育成を常に興味を持って観察する
③	[テーマ] 構内芝生における実習その1,課題の取り組み [内容] 芝刈り機械(手押し方式、乗用方式)の操作方法を実習する。各自のポットに芝草の種をまき成長を観察する [授業外学習] 構内芝生の育成を常に興味を持って観察する	⑪	[テーマ] 農業気象学、課題提出期限, 第1回小テスト [内容] 1. 農業気象の基礎、2. 主な農業気象災害、3. 異常気象と地球環境 [授業外学習] 常日頃、身の回りに起きている異常気象に関心を持つ様にする
④	[テーマ] 芝生の病害防除、芝草学会講師による講義 [内容] 1. 植物病理学概論、2. 芝草病害概論、3. 芝草病害防除の基本、4. 今後の問題点 [授業外学習] 構内芝生管理の授業外実習に積極的に参加する	⑫	[テーマ] 農薬概論と関係法令 、学外講師による講義 [内容] 1.農薬の定義、2. 農薬の作用特性、3. 農薬のリスクと安全確保、4. 農薬に関わる法令、5. 農薬取締り法の概説 [授業外学習] 構内芝生管理の授業外実習に積極的に参加する
⑤	[テーマ] 芝生の虫害防除、芝草学会講師による講義 [内容] 1. 害虫とは、2. 芝草害虫の種類、3. 重要害虫の種類、発生消長及び防除法、4.芝草管理と害虫 [授業外学習] 構内芝生管理の授業外実習に積極的に参加する	⑬	[テーマ] 課題(維持管理機械の操作マニュアル)の発表会, 第2回小テスト [内容] 課題を発表し、プレゼンテーション力を養う。P(計画) D(実施) C(点検) A(改善)サイクルで改善する [授業外学習] 授業外課題を見直し改善すべき所がある時は再提出する
⑥	[テーマ] 測量理論の解説, 芝生の造成 [内容] 芝生造成地の高低測量学について説明する。利用水準と管理手法について解説し、現場の状況から考察する。 [授業外学習] 利用者の要求と管理者の維持管理水準を比較する様心掛ける	⑭	[テーマ] 定期期末試験 [内容] 授業の理解度・到達度を確かめるために期末試験を実施する [授業外学習] 試験に備えて復習する
⑦	[テーマ] 構内芝生における実習その2 (芝生に関する工学的知識) [内容] 芝生造成地の高低測量学について説明し、オートレベルを使用して操作方法を学習し、実際に数箇所のポイントの高さを測量する。 [授業外学習] スポーツターフ施設の表面勾配を観察する	⑮	[テーマ] 学外施設見学会および実習＝スポーツターフ施設管理の実際 [内容] ﾕｱﾃｯｸｽﾀｼﾞｱﾑを見学して、芝生の維持管理について説明する。 各種維持管理機械を見学し作業状況を説明する。 [授業外学習] 芝生管理の機械類にはどの様な物があるか説明出来る様にす
⑧	[テーマ] 構内芝生における実習その3、 [内容] 芝刈り機械(手押し方式、乗用方式)の操作方法を実習する。 春季、夏季の土壌改良(エアレーション)などを実践する。 [授業外学習] 構内芝生の育成を常に興味を持って観察する	⑯	[テーマ] 学外施設見学会および実習＝スポーツターフ施設管理の実際 [内容] 土曜日2コマ分の所要時間で20人位づつの参加人数に組み分けして⑮と⑯を連続で実施する。2回実施の中から都合の良い時に参加する。 [授業外学習] 上記と同じ

成績評価方法(方針)

期末試験を1回実施する。実技テストまたは授業内レポート提出(小テスト)を実施する。授業外レポート(課題)を課す。なるべくメールで提出する(メール操作は評価に加えない)。これらの結果を総合して成績評価を行う。出席は欠格条件となる。大会や実習で欠席するときは欠席届を提出する(0.4ポイント扱い)。更に自習成果表を提出する(0.4から0.6ポイント扱い)。授業外実習(約60分)は0．7ポイントとして加味する。

成績評価方法(詳細)

成績評価方法 ＼ 到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎			50%
授業内レポート	◎	◎		20%
授業外レポート	◎	◎	◎	30%
演習・実技		○	◎	減点あり
授業態度		○		減点あり
出席		◎		欠格条件

履修上の注意(受講学生に望むこと)

・同名Ⅰを後で受講する事が出来る
・60%以上の出席が無い学生は、単位を修得することができない
・授業中の私語厳禁(対策として指定席制も実施予定)
・出席や小テストの点数などが不足するときは相談する、救済策は提出物や構内実習の追加などで用意するので簡単に諦めない
・授業計画は、授業の進み方や構内実習の日の天候により、多少変更あり
・資格取得希望者は二つの団体が主催する研修会を受講し認定試験を受験して資格を取得する。認定校申請準備中
・出席率70%以上の学生を認定研修会の受講と認定試験の受験に推薦する

関連科目	スポーツターフ管理概論Ⅰ(2年)、スポーツ施設管理概論Ⅰ(3年)、スポーツ施設管理概論Ⅱ(3年)、スポーツ施設の経営管理(3年)		
教科書	各種協会・団体・各講師編集のテキスト(授業中に配布)	参考書	*ｶﾗｰﾍﾞﾝﾄｸﾞﾗｽ*芝生の校庭*園芸療法とﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ *目で見るゴルフ場の芝草病害*ほか
連絡先	事務室:A棟1階営繕管理室内 オフィスアワー:火曜日10:20～11:50、Email:fm-ojima@sendai-u.ac.jp TEL:0224-55-1579		

授業科目名	卓球 Table Tennis				担当教員	馬　佳濛
開講内容	学年・学期	4・半期	授業方法	実技	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	1		

授業の概要

1．卓球は、誰でも手軽に楽しむことができ、生涯スポーツとして最も適した種目の一つである。卓球を続けることによって、心身ともにバランスよく鍛えることができ、特に動体視力の強化に効果的である。2．基本技術から戦術等に至るまで、実践ゲームでも応用できる技術を習得させる。よりイメージを掴みやすくさせるために、実際に模範演技を見せながら解説する。3．技術レベル、習得状況等の個人差を配慮したうえで指導する。

授業の一般目標

1．卓球のルール、用具を知る。2．ボールの打ち感覚、動きを身に付ける。
3．ラリーを続けるようになる。4．ボールの回転を理解でき、いろいろなサーブを出せることと、相手のレシーブに対応ができる。
5．卓球の一連の基本技術を指導できるようになる。

授業の到達目標

■	認知的領域	卓球競技について理解し、ルール、競技構造を知る。
□	情意的領域	
■	技能表現的領域	基本的技術を習得する。

授業計画（全体）

卓球競技の各基本技術を習得してから、実践で活用できるシングルスとダブルスのゲームに展開していく。技能習得のレベルに応じてクラス分けて行う場合もある。

授業計画（各回のテーマ等）

回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容]授業の目標と進め方，成績評価方法，用具の説明等	⑨	[テーマ] 実践② [内容] フォアハンド強打，シングルスゲーム
②	[テーマ] 基本の技術の習得① [内容] 卓球の歴史，各打法の紹介，ラケットの握り方，ゲーム	⑩	[テーマ] 実践③ [内容] バックハンド強打，ダブルスゲームの手法の紹介
③	[テーマ] 基本の技術の習得② [内容] 打球時の基本姿勢，フォアハンド，ゲーム	⑪	[テーマ] 実践④ [内容] カット打法，ダブルスゲーム
④	[テーマ] 基本の技術の習得③ [内容] バックハンド，バックショート，裏面打法，ゲーム	⑫	[テーマ] 実践⑤ [内容] シングルスとダブルスの基本戦術の紹介，応用練習
⑤	[テーマ] 基本の技術の習得④ [内容] フットワーク、前後左右への動き，ゲーム	⑬	[テーマ] 実践⑥ [内容] リーグ戦
⑥	[テーマ] 基本の技術の習得⑤ [内容] サーブ，レシーブ，ゲーム	⑭	[テーマ] 復習 [内容] 各種技術の復習、上達度合の確認。
⑦	[テーマ] 基本の技術の習得⑥ [内容] ツッツキ，各種サーブとそのレシーブの紹介，ゲーム	⑮	[テーマ] テスト [内容] 実技テスト
⑧	[テーマ] 実践① [内容] ルールの説明，シングルスゲームの手法の紹介，ゲーム	⑯	[テーマ] テスト [内容] 実技テスト

成績評価方法（方針）

実技試験（評価割合70%）、実技実施状況（評価割合15%）、授業態度（評価割合15%）、これらの結果を総合して成績評価を行う。出席は、全体の2/3以下の場合は成績評価対象外とする。

成績評価方法（詳細）

成績評価方法＼到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
定期試験	○		◎	70%
授業内レポート				
授業外レポート				
演習・実技	○	○	○	15%
授業態度		◎		15%
出席				欠格条件

履修上の注意（受講学生に望むこと）

1．授業態度が悪い学生に対して、減点や受講資格を失う場合もある。
2．運動しやすい服装と室内用靴を着用すること。
3．受講者同士で練習相手となるため、お互いの協力度、学びあうように努めること。
4．受講希望者が多い場合、設備関係、質の保障を考慮することから、人数を抽選などで調整する。

関連科目			
教科書	特に指定しない	参考書	特に指定しない
連絡先	第五体育館2F　研究室23　jm-ma@sendai-u.ac.jp		